特定教育・保育施設等における事故情報データベース【令和３年9月30日更新】

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面										環境面				人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育士・放課後児童支援員					死亡	負傷	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
3201	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15				4	9	2			2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左前足部挫傷、左踵骨挫傷、左足関節捻挫	8.その他	1.あり	1.定期に実施	1	1.基準以上配置	職員配置については特に問題なし	いつも遊ぶ丈夫と思わずいるから当日の雪の状況を伝えるなどの必要だった。	1.不定期に実施	1～2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具自体の安全面においては特に問題なし	特になし	1.集団活動中・見守り	いつも小屋で遊んだ製で事故の雪面が固かった。	普段からジャンプしているが、当日の雪の状況を伝えるなどの配慮だった。	1.いつもどおりの様子であった	他の園児とも楽しく遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児を見た	遊びを見ていった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の他の遊具を見ていた。	友達一緒にジャンプしていたので、じょんぴんで、本が思ったよりも危険と判断し、衝突を避けるべきだった。	当日の雪の状態をしっかりと伝えながら、必要に応じて危険かを判断し、声をかけるべきだった。	
3202	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	40									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	3	2.基準配置	事故防止研修について、事故の研修があり、書面での研修を修了し、事故や発生した現場の状況を確認する機会が配慮事項として行き、確認する機会が少なかった。	遊具の安全点検に加え、安全な使い方を指導していく。	1.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	遊具の安全点検に加え、安全な使い方を指導していく。	遊具の安全点検に加え、安全な使い方を指導していく。	1.集団活動中・見守り	木で作ったつみきを、出入り口にいるお年寄りもいたが考えた。	木が安定していない、点在している保育者が細かい確認しの動きを想定し危険個所を取り除く。	1.いつもどおりの様子であった	他の園児と遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児を見た	対象児や一緒に遊んでいた幼児たちから「ねずみのできず家たびに」と誘われ、つみきのたちの話をしていた。対象児が出見るのを送後、泣き声で転倒し発見した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッチボールをしていた子どもや、ホール内の掛け声やブロックを付け伝った。	担任が木のつみき家に入り、幼児合わせ位置を確認をしていたつみき家に囲まれ外見通悪いたのしかったことも考えられる。	幼児たちの動きが常に視野に入るように保育者の立ち位置や環境の構成に注意を配っていく。	
3203	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13				5	5	3			1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	急性硬膜外血腫・頭蓋骨骨折（ひび）（4月1日診断書）急性硬膜下血腫・前頭骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	6	1.基準以上配置	園庭にも出もケガ、園庭に間のあり、面の保育場替わり、新しい環境前に行くに、ものの観察その時の、注意を促す言葉掛けを葉無かった。	園庭に出る子の状況、子を把握をし、もの意のや、見や、位置認しら保育を行う職員徹底する	1.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	施設の遊具の安全確認以外に自然環境の地面の状況もの前伝えまた、山面や斜面を木々ども木の子、子への入り意して遊ぶ、空間認知能力付認知注意を身に大きなケガを力をよけるよかぐ力を防ぐけ働きかつ	乾燥により、地面の砂ぼこりが滑りやすかった。	7.その他	1号認定の一時保育は、天候が雨の日は、ほぼ同じ時間帯に園庭で遊びを行っている。	子どもの教育時間からの生活や保育内容が流れ、当日の環境と子どもの様子が計画されていても、遊び考慮し、時間に必要な時間に節くある。	1.いつもどおりの様子であった	園庭に出もなく、本児と仲良しくとの男児2名で面ライダーごっこ中でこっこ、くりごっこ、くり下るとなどよしと山ときを見とてアスチック木に突した。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた。	アスレチックから、少し離れた場所で、子どもたちの姿をみていた。ケガとしすぐに、向かったが、アスレチックに衝突した瞬間を目撃をみていた。衝撃の強さを把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員は1名。	末度になり、一年間保育子どもたちのものそれぞれの遊びの把握し、監視に視れるかもしれない。	アスレチックや大型遊具遊びの際は、子どもたちの遊び方を常に見守れる位置に守れる位置につき、注意してみていく。保育者教諭の人員配置やその都度、職員の立ち位置は、その都度、職監視に漏れがないように、職員間で連携を図っていく。また、活動の切り替わりでは、子どもの気持ちを落ち着かせ、注意すること事前に伝え	
3204	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	2									1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	子どもがホール保育室からホールに行くまでの間、保育者が気付かなかった。	保育室から出て行った事に気付かなかった為、保育園の動線、保育教諭の確認をしていく。預かり保育担当以外の保育教諭も保育に常に回り行く。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	12	ステージの高さがあり、子どもたちが自由に昇れる状態。	ステージに段差があり、普段は階段を片付けておくようにする。	1.集団活動中・見守り	開放して屋外へ行ったもの子預り保育担当を担当放って落と、開放した部屋を見かけまとかが見した。	預かり保育教諭以外の担当が偶然、本日保育教諭が、開放していた部屋ではなかった為、預かり保育の全状況を全員がしっかり把握していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り昼食を取り、活発に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールに保育教諭は、対象児がステージに昇っていたため、危険なので降よう掛けに、声をかけ。同時に、預かり部屋の部屋へ戻るように促ち落ちて降よう掛けます。着りるように手を掛たり、取って手をあげるべきだった。預かり保育担当も、対象児がホールへ行った状況を把握するべきだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールには保育教諭1名が、預かり保育担当が3部屋に分かれ、それぞれの担当が3部屋に分かれ、それぞれの担当7名の担当が3部屋に分かれ、それぞれの担当7名の担当が3部屋に分かれ、それぞれの担当7名の

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
								異年齢構成の場合の内訳																					ハード面						ソフト面				環境面			人的面						
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故防止研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3205	令和5年31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	53			10	11	12	20		5		5	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折・左肘関節脱臼	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	同じ空間にいた教師達が、子どもの方に危険をあ感じたまりなかった為、危険を知らせ、予たり、行動が出来た。測動がなかった。	普段から、子どもの様子や教師同士で伝え合い、共通認識をしておく事。また、教師の危険に対しての意識を高め、様々なケースで、どう対応していのか、考え、応じくの意思疎通を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	ボルダリング自体は事故が故障は事要因はないと考える。		3.個人活動中・見守り	異年齢混ごっこ合して過ごしている為、教師の目が低くて、年齢の子がちいきがなまう。	好きな遊びの中で、危険やな場所がつい、一緒に遊気がたり、緒に合うえる保育を、今を、で意識行うに	3.いつもより活発でした	友だちがボルダリングから降りる様子を見て、ボルダリングの上飛び降りて遊ぶを自戦したみて、ンをして何とかするにジャンプをしたり、ジャンプして勢いがつくと、マットに出て着地した。	3.対象児が離れて対応していた	遊戯室には2人の教師がおり、ジャンプして遊ぶ本児の姿をみていたが、それぞれ子ども対応をしており、他のいろいろ様子ども見た飛ぶ見る出こ来た。	2.担当対象児を見ていなかった	他の場所にいて動いていた為見ていなかった。	本児は、ボルダリングのようにジャンプして遊ぶことは、今までにほんのかっかが、当日はいつも興味あり、だ友とに、一緒にこれないながに遊びたいくろ教師	日中の本児の様子や心の状態等を、教師同士で伝達し、あう事を、以上今まで意識して行う。	
3206	令和5年31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28								2		2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	3.火傷	5.下肢(足・足指)	右足甲の火傷（II度）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		職員に対してマニュアル周知・徹底を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ウッドデッキは熱は場はある承ていが夏なる間ことが、至かったのある。	靴箱のウッドデッキはあるが、ほかの靴利用しでもでぎできるよう変更した。	3.個人活動中・見守り		担任以外職員のことを踏まえて、今日の職員の子どもの守りとにおいて、見行えるようにした。	1.いつもより子ども	母親が来た、自分で室に入り靴で行く自宅内と脱ぐ様子があった。	2.対象児の近で見た	車いすや、這っ移動する子ども多いなので常に視野にうっと入るよう子ども事故発生時は、母親が来たため本児かに声をかけ、母親と話しながら様子児を見ていた。	2.担当対象児を見ていなかった	担任1人が本児や母親と一緒に、他関しての児をおりていた。		園庭に出る靴箱ための靴箱を変え、靴の脱ぎはきさ屋根のあるテラスで行えるように変更した。	
3207	令和5年31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	68			19	25	24			3		3	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	外傷性右腎臓破損	2.自転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	延長保育の人の配置、外部からの受入の場所、対応も事故の要因につながったかと思われます。	延長保育時間中の保育教諭の配置、来客対応、延長保育中の遊び方を指導する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に砂としてプールを置いている、ランタも邪魔ではないか？	危険物除取り夕方庭回りをく。園児は走らないように指導する。	1.集団活動中・守り	延長保育為、見守中の全体守り伝達等に分れてはいたが、保育教論の手は、少なく事故が起きた。	夕方の延長保育中保育数の配置を考えるが必要がある。	1.いつもより子ども	園庭を走った。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭見守の職員は、死角なって見れていた。いるかった。伝達係の人は、全員に伝達できなかった。	2.担当対象児を見ていなかった	全体の見守りは、いたが、死角なった。	保育教論守は、園児しが、ていた	子どものケガに対する認識、知識が必要と思われるので、看護師や、医療関係による研修会が必要。	
3208	令和5年31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	23			23					3		3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左まぶた裂創	2.自転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員どもひとりとり対する特性の不足	子ども人数では、保育をする人数や子ども特性を考数て人数配置をする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	部屋の環境構成・タオル掛けが足りないタイプであり、不足きあるタイプ、且つフックにバイがなくにバイが全性に欠けていた。	狭い場所ども子が行かないようマットを置くなる。タオル掛けをフックの大きい物・バイプの物・内側の物・足られない物など年齢合わせる。	3.個人活動中・見守り	子どもの動きの確認の不足	目の前の子どもだけでは、お全体を見るこ昼のをうする	1.いつもより子ども	狭い場所が好きで、隙間を見つけ入ると込む姿がある	4.対象児の動きを見ていなかった	近くに遊んでいるこにあり、子ども意識が、本児タオルが掛け付近掛けにいる認識がなかった	2.担当対象児を見ていなかった	他児とかかっていた本児をいなかった		今までの保育体制や園の環境を見直し反省し改善する。またそれらを職員全体で共有すること。	
3209	令和5年31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87			49	38				7		7	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	肝挫傷	2.自転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	衝動的な行動が多い園児の特性への配慮不足	子どもの特性(行動・運動能力)性格（心理状態）を把握し、本児を見守る	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	無し	無し	1.集団活動中・守り	0歳児から入園していた。3歳児に進級し、活動が活発になっていた。	新入児も加わり、情緒面でも落ち着かない時期である、園庭での遊ばせ方に留意が必要だった。	3.いつもより活発で活	天気も良く、園庭で遊びを楽しんでいた。	2.対象児の近で見た	怪我のないように、また滑り台の階段のところで、一人一人を見守っていた。	1.担当対象児を見ていた(至近距離にいた)	まなくん、立つ位置を変え、見守っていた。	3歳児の新しい環境への戸外での自由な遊び（固定遊具の配置等）の配慮不足	新しい環境で不安を覚えている子もいるので、園児の様子を保育教論同士、共通理解をして見守る。	
3210	令和5年31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23		8	4	4	7			3		3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯折歯による抜歯	2.自転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	新年度、進級児の対する事故防止が職員間で共通理解されていなかった	新年度、新体制の注意事項の確認	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	床の保育室で、靴下を履いており、切りかった仕舞かった際、滑つて転倒した	しきりにかかよりないに伝えるしき寄らに	1.集団活動中・見守り	3歳以上児が3歳保育室で遊ぶ際、靴下で過ごしていた。	床の保育室遊ぶ際、上履きまたはすき裸足とする。	2.いつもより元気なかった	進級当初から泣きが続いて、疲れがあった	4.対象児の動きを見ていなかった	3歳未満児でも転び、重なり合い、保育者1人が対応をしていた	2.担当対象児を見ていなかった	保育室にいるこど全て見て本児は落ちたお子ども、見ていた。本児は落ちて、着いてり、転ぶことを予ていなかった		本児は、3月末まで2歳クラスにいた。そのため保育室では裸足で過ごしていた。進級し、同じ保育室で過ごす時の注意事項を共通理解する。	床の保育室遊ぶ際、上履きまたは裸足とする。3歳未満児と一緒の保育室で過ごす時の注意事項を共通理解する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3211	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	18.6歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外側靭帯損傷・左腓骨遠位損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置		会議にて容の確認、共通理解を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎週		マットは、段数に合ったものを用意する。固定したり行い、マットがずれないようにする。	1.集団活動中・守り		例年より上げ高くていた跳び箱の段数をさげ、どの位跳べるかの確認を基礎の見直しを行う。日頃から、柔軟体操に力を入れ怪我をしないような指導の話し合いを行った。なは、運動する前に柔軟に十分ていを行う	3.いつも活発的であった(理由を記載)	勢いよく飛び箱取り組む。	2.対象児の近で見た	対象児が跳び箱をするのを補助していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の跳び箱の補助をする。		跳び箱の補助を行う際は、跳び箱やマットのずれの確認を毎回行い、園児の様子を把握し、その子に応じた対応をする。また、運動前には十分な柔軟体操を一緒に行う。	
3212	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	56									5	5	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	予め、各位置の保付け、安全遊具に確認した。が保育者が保育者位置移動に、掛けを確認していう際を掛けること移動した。こと移動しまって、瞬間ずっと目を離した。	保育者の配置確認す定位置から排泄など移動する場合声合うことにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	公園の遊具（パンダ像）は2年前にペンキが剥がれたいうことで、塗りおしたのあったが、ゆえに、滑りかっては長をいもしてしまったいえる。	固定遊具乗るには、分つを置ないに自分で掛ける。	1.集団活動中・守り	園外保育では、道路状況歩行転倒・ガの確認・横断歩道の渡方は、注意して今後は、静物の置物から落下定した場合は、落下した子たちがけていること。5人の保育者の中で体をするグループを置いるリーダーが、そのリーダーは、全体	1.つお様でもり子であった	活発な子どもである。高いころで滑ったり台やランコなどで話も流暢で様々なことに話すことが好きな子どもが大好きで、ごっこ遊びが上手な子どもが多くいた。	4.対象児の動きをていた	園外保育というとで、職員の位置はまった。道路側いとうに見守る人、遊具につく人、排泄に人、全体を人、写真を撮ることれの役割を決めていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我をしそうだれば、すぐに駆けつけていた。	日常の保育は、人り知りずに、様々なことを話しこれる児のあるため、泣いたり、痛いことなど表直現する力を持っている。だから、本児自落身体下したことを伝えくれなかったこと、保育者の	子どもの言葉だけでなく、保育者側からいところはありませんか」など子どもたちに話しかけて全体を把握することが必要であると思われる。また、置物の場合は、跨いだ時に足が地面に着くかどうかしっかりと見極めて、足がつかない場合は、踏み台などを準備するなど安全に遊べる環境を整える必要がある。今回の事故は町内の公園内で起こった。即日、町（建設	
3213	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									2	2	14.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足指骨折	2.自転車・衝突による倒れ・突きもの	2.なし	2.不定期に実施	3.基準配置	保育担当は別に緊急事態があった場合に駆けつけ付ける職員が園内にいる	今回の事故を全職員に周知し、リハヤットと共に加えると共に注意喚起を促す	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	2.不定期に実施	2	段差があることを認識し段差ありきで立て、（櫛なる）のすると差の部視わかりやすいにする。	1.集団活動中・守り	スピードを出せるため、怪我を空間であった事故につながる事が考えられる。	遊びの空切り区段差の部分をコーナーとしつくり作ることを遊びてとこく。	1.いつもりお様子であった	ままをおとしているそばを往復走んった。	2.対象児の近で対象児を見た	子どもを抱っこしながら座って子どもたちの様子を見た。段差がありスペースを往復走っている姿を見て、危険を感じ、注意を	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室の入口で、保護者お迎えの時や準備をした。		全体が見れるよう立ち位置に配慮しながら遊びの様子を見守り、怪我につながりそうな行動は止められるよう繰り返し教えていく。	
3214	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71			24	24	23				4	3	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6.基準配置	全職員がマニュアルを再度見直す。	各部門の職員で使う方、園の遊具等合い再策庭びし方等防止を確認し合った後、子たちの発生の際よって遊んでいるこのにしだいの伝えるこのにしだいの。まこのつた職員話合ったら、事例で職員全体で話し合った。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	トは台もあるが、滑り高さの3歳児は禁止なるが、3歳未満使用は上で使用ていた。	ケット台の場は固定コロ滑り鉄板ルはクションなるのケット製の素材を敷くなる物を対策を検討。	1.集団活動中・守り		園庭の危険な箇所を把握するマップを作成（作成中）、各部門で検討した。職員が危険な場所を全把握し、園児のがいるところの死角がないように立ち位置（流動的）を取り、自分以外の職員の位置も確認しながら、お互いに声をかけ合う。	1.いつもお様子であった	家庭から特別なお連絡はなく、普段通りの様子だった。	4.対象児の動きをていなかった	5歳児の個別配慮児が集団遊びの中で暴れ担当者がすぐに対応しなかったが対応がなかなか収まらずその対応に追われていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児の個別配慮の子が大暴れし、なかなかなかまらかって他の職員もにらみまった。	何度もで遊んでいる見だが、今回限り階段登ってしまった。なにとを手に離をしてまったのはは、手離しかかったのはわからず、つも同じ調子にて、段ずつ登ることを嫌がる。	安全にもたちることができる職員数を確保して園庭に出ては他の職員の位置も把握の握しなをめに声をかけ合う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面			人的面						
									異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修								施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策				理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3215	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	91	2	12	15	11	20	28			11	11	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	前歯の損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	—	子供同士で抱きつったりもたれかかった場合には、特に生じることを固体に険な全知し、見守りをするように配慮する。	1.定期的に実施	週1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	園庭での異年齢の遊び時間、場所などの配慮をする。	1.集団活動中・見守り	異年齢の一緒に場面で子供が緒に過ごすことは思わぬ発生しやすいことを周知し、十分な配慮をする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友だちと一緒に遊び特にいつもとは何もしていなかった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	本児が転んで泣いていたので、直ぐに駆けつけ体を起して傷を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	家庭では1かる歳1ヶ月になる本ことでくが好きで抱きつく姿が見らのだったの事が、園でではなかったため、職員も予測ができなかった		勢いよく飛びつくことは危ないことを、繰り返し伝えていく。	
3216	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足 親指爪付け根骨折(全治1ヶ月)	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	机2台を両腰にくっつけ引き持ち引きずって移動させた	1人一台両手で持ち上げて運ぶ	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	移動前に安全点検、移動動線上の安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	共に行動していた為、後方にいる児守りにはできなかった	全体を見守る事が位置できる位置にいる動きでは一斉のではなく順位なく動く	1.いつもどおりの様子であった	積極的に室内へ机を運ぶ姿があった。	4.対象児の動きを見ていた	児は、担任の後方にいた	—	担任1人クラス	移動する言葉だけで行動した机の持ち方の言葉か	持ち方を見せる 一人一人の移動も見守る	
3217	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24			6			18			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	—	1.集団活動中・見守り	異年齢児と活動を行っていた。	ローリングで滑いやすいため、走だったりとなる声掛け行う。異年齢の活動を行う場合は、内容を考保の工夫した育内容に配慮する。	3.いつも発も活活動であったを記載)	リズムに合わせて走った。	3.対象児の児童とで対児をていた	ピアノを弾いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2歳児の見守りをしていた。	活動時、本児にとっての配慮が不十分であった。	普段使わない大部屋での活動だったため、クラス園児全員に説明をしたうえで活動前には再度本児に対してよりわかりやすく説明や声掛けをしていく。	
3218	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	86		15	13	18	21	19			19	15	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頸上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2.基以上配置	雲梯遊びしていか離れて園児目をしてまった。危険意識の欠如が思われる。	危険意識を高めるための研行をとともに、特に危険を遊びしていか離れる園児目をないら等、安全策を徹底する。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	毎日	雲梯の下に、万一落下した場合に衝撃を抑えるマットを敷いているが、ショック性の維持・確保について必要と思われる。	1.集団活動中・見守り	雲梯遊びに伸びリ行くにつ子の園児の意識が薄いまだ不足いていると思われる。	安全に雲梯遊び指導をするとともに、子どもたちの安全に雲梯遊びをしないなどのルールを伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	最近雲梯遊びをする姿が見られ、いつものように雲梯遊びを行った。	4.対象児の児童とで対児をていた	雲梯遊びしていた園児を目を離さしてまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	園児が雲梯から落ちると見ていた職員が下ろしていた。	雲梯遊びをしている園児から目を離してしまった。危険意識の欠如が原因と思われる。	危険意識を高めるための研修を励行するとともに、特に危険を伴う遊びをしている園児から目を離さない等、安全対策を徹底する。	
3219	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨幹部骨折	2.自転車の倒れ突かるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	—	園内傷病報告を職員も子の状況や環境について情報共有するとともに、事故防止策にも防つい共しく通理解	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	引き続き全点検を行うとも、こどもたちの危険な保育所で箇所は用し全できるように	3.個人活動中・見守り	園庭の安全や約束を全方など繰伝えるとに、一緒に遊びがその声をかけく。	1.いつもどおりの様子であった	朝から元気で体調も良かった。天気が良かったあり、食べ後、自身の帰りの準備ができた。園庭で遊んだ。	3.対象児の児童とで対児をていた	保育者は見守りしていたものの、該当児とは距離が離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	支援児への対応を行った。	—	学年間やの他の職員との連携をとり、クラスの子どもたちが近くにいるけでは近くにいるたちの様子ども園の場にいる職員が見守っていくよう再確認していく。	
3220	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50		7	6	9	11	14		3	16	14	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	眉間部瘢痕	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	職員が、たこどもたちの遊ぶ風材料(風船)を上ロッとカーに取り行った際の1分の間、結果的に所へ移動した時に起き、危機が約1分で所へ移動した時に起き、危機が不足した	危機予知能力の上、保育者の強化のため、今後も引き続き、事例研修等の重ねていく	1.定期的に実施	随時	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	昨年より室内で子どもたちの一部の家庭をくくりつけて縄を結び、ようなお遊び流行り、教育論や和感なし一緒に守った状態であり、具体的なしたのでは、ものを引っ倒れる危険性があった。	玩具棚(高さ80cm×横90cm×幅40cm)とし、本来も主体に選択して遊び"といてのが"ぶ環境構成にし、集中して遊び環づくめるこめる援に	3.個人活動中・見守り	前述のとおり、棚に以外のものが置いていなかった為に、「引っ張ってみよう」「倒してみよう」という気持ちいかと想像し、併せて、倒れた場合どうかと想像し合ろうできたかと考える	縄遊び、一度に、それぞれの遊び方いても子どもたち話し合を安にいる	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、自分で遊び遊び部屋で保育者と風船遊びをしていた。一旦出る前は、部屋で出て遊び遊びだしていた。	4.対象児の児童とで対児をていた	再び入室し縄遊びを始めた様子は入り界ない場所にい	2.担当者・対象児の動きを見ていた	部屋の扉が外しがあり、パートが保育者外れていたこと	連携が足りないため、見守り離れる際に声掛けをしていた	様々な事故危機意識をもとに、連携して事例に触れ高めるとともに、連携を密にしていく	
3221	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	31									6	6	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首上部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	—	ヒヤリハット事故報告書を、1カ月には、一年単位で学で見直すようにする	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	240	—	今まで以上に、細かい部分落ちまでしかまとしいようにかい気を付けていく	1.集団活動中・見守り	—	学年に関係なく、人手が足りないは声をかけ、フォローしていく	3.いつもより活発で活動的であったを記載)	—	3.対象児の児童とで対児をていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていた	—	給食の準備をするため、保育者が2名、保育室に入っており、園児一緒にいる保育者の数が少なく	戸外に出ている際には、保育室に入る職員数を最小限にし、全ての範囲に目が届くようにする。動きの激しい子からは、特に目を離さない	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成長援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3222	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	おやつ後の保育室の清掃と降園時間の重なりによる散乱な分保育によるもの	保育室の利用方法、降園時間の子どもの待機場所、遊びの共通理解	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	—	特になし	1.集団活動中・見守り	睡眠の内容の見直し、活動内容、ゲームについての注意不足	午睡後の集団遊びの内容の見直しと、活動合った環境の設定を行う。	1.いつもお様で子であった	衝動的で、話をない聞かという側面がある。健康面も、精神面も、特記すべきような変化はない。午睡はしていなかった。	お遊戯室で、子どもたちとゲームをしてお遊戯室の舞台から、給食室前の壁をタッチ帰ってくるゲームで、教諭は、スタート位置で笛を吹いて、走らないと数名と帰ってくるまで待った。その途中に転倒した子どもの転倒は、駆け寄ることが出来なかった。	2.担当者対象児の動きを見ていなかった	おやつ後のお部屋の掃除をしていて、お遊戯室での活動には参加しない。食物アレルギーを持つ園児がいるため、室内に清掃する必要があった。	走る際に、充分な間隔を取っていなかった点・走る際の人数が多かった点	走る人数を少なくする・走る方法を考え直し、個々の発達に配慮して取り組む	
3223	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	42			11	20	11			4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘上骨折	3.子ども同士突によるものにもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	—	事故防止、危機管理、救急法についての研修の充実	1.定期的に実施	使用前	1.定期的に実施	使用前	1.定期的に実施	使用前	—	なし（園児同士による事故のため）	1.集団活動中・見守り	がん子で他児がプップしゃいた傍らでの他ジンした際に、本腕に足が左児のあり転倒。	自分の周囲を見て行動すを、りをよとどもすること常育してもたへていく。	1.いつもお様で子であった	運動会の練習でも、特に変わったなかった。	広い公園の中を自由に遊ぶ子どもたちを見ているため、危険な場所がある場合は行ないが、特に危険な動作がある場合、特定の子を注視していない	4.対象動見ていなかった	公園自ぶもたを見ているため、危険な場所がある場合は行ないが、特定の子を注視していない	児もでジンプ本ら、傍ンプした、子どもの遊びでは中によるあきりあること	職員同士があいかけあ、それぞれの子ども担当場所を決め、これまで以上に注意深く見守るようにする。	
3224	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19								1	1	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	直前まで保育一直任教諭が、給食準備のために先に保育室にたため、転倒にかけ気付かなかった	痛みを訴えることがなかったため、気付かず怪我づか帰宅させてしまう。自分から言えるようではないので、園児に様子に常に注意する必要がある	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	友だちとぶつかって転んだ特に善策は、ものが頃なるべく園庭にお等とな落ておかい、地面の凹み気づはためるかけるもぶつかった周りを走っていた	6.食事中(おやつ)	本児がつまった周りを走っていた	友だちとぶつかって怪我をすることとあると子どもたちとしいにいて友だちも話ることを周りるにも注意をする伝える	1.いつもお様で子であった	遊んでいたものが付けわった片付けが済まったため、縛しい気持ちでいてにたもの思われる	直前まで遊一緒に遊び、片付けをしていたが、園庭の片付けんだの、本児一足保育室に戻り、給食のため片付をしようと。	4.対象動見ていなかった	園庭には出ていたが、一緒に離れた場所のを少した片づしていなかった	—	園庭に子どもだけでいるよう遊ばないに職員の配置をしているが、偏りなく園庭にいる園児を見守るよう注意する	
3225	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62				32	30			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕踝上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	子どもを見守る際には死角がないように職員の立ち位置に常に考える	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	遊具の安全点検は行っており、問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	職員は定クリして数アるる角てして部あ死なっうもた。	注意しなければならない遊具としてもっと意識を守るべきで見てをするべきあった。	1.いつもお様で子であった	—	全体の見守りできるようにしたであったが、一部の遊具の死角が把握できなかった。	4.対象動見ていなかった	他児の世話をしていた	園庭が子ども動きも広いため、本様児の子を把握できていなかった	常に職員が声を掛け合い全体を把握しい。	
3226	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19			7	6	6			5	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	5.他児から危害を加えたもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	滑り台を滑り上がら子と上るから子がいた。	遊具の正しい使い方を全職員で統一、把握し、子どもと一緒に確認していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	死角になりやすい位置にされている。	子どもの様子守り遊ぶを見り、日頃から正しい使い方を伝えていくを。	3.個人活動中・見守り	遊ぶ玩具の種類の多なかっ為、子ども少たちたどもが遊具に集中した。	遊びの種類の増やす。	1.いつもお様で子であった	滑り台をからの下るのぼる。	うんていで遊ぶ子ども子どたちについて、対象児から一瞬目を離してしまった。	4.対象動見ていなかった	他児と園庭中央で遊ぶ。護者へ	2.担当者対象児の動きを見ていなかった	それぞれの遊位置はついていたが、1人以外の職員が遊具から	職員同士声を掛け合い、複合遊具のそれぞれの位置に必ず保育教諭がつく。	
3227	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	尺骨の若木骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	事故発生予測時のに欠いた。	事故防止マニュアルを元に、再度研修を重ねる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具用方法をあやまった使法をまった	遊具の使用方法を徹底すべきであった	1.集団活動中・見守り	遊具の使用方法をあやまった	保育教諭の人数が減ってしまう場合は使用する遊具は徹底や使用する用具の指導かくを行うべきだった	1.いつもお様で子であった	いつも通りにすごしていた	対象児から離れた場所で他児トラブルの対応をしていた	4.対象動見ていなかった	保護者対応に一名、遊びを見てした	2.担当者対象児の動きを見ていなかった	一人の教育教諭がしっかりと全体把握しておくべきだった	保育を行う際は必ず子どもたちから目を離さないようにすべきである	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面						ソフト面						環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷				事故誘因		実施頻度【回/年】			施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3228	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			3	3	5	3		5	5	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	自由遊びあるが、身体をほぐすことに遊びを始めがとされる。	マニュアルに、「希望保育や土曜保育時も身体をほぐしてから活動し、怪我防止予防をすること」「休み明けは自由遊び前も分配慮十分するとえ」、周知を図る。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	平成28年替舎老朽損傷状材館用床体育育用でも使用される木製。当時、当具もしてず、動のスペースも分けていた。	今回の事故では、施設・設備面因とにくい施設面でも改善すべきあれば助言を受け改善を図る。	1.集団活動中・見守り	冬期間はを過ごしていた(体育活動時等は冬期間も裸足)、27日から裸足での生活をしたことがない子どもたちが、裸足の生活に移行した時は、足をじたかまほぼ温ばらするみは、リズムに体操をほぐしてから体をほぐしてから遊ぶ。	1.いつもどおりの子であった	前日に家のコンクリートで転倒して転倒したことがあったが、朝からいつもいつもの様子だった。	3.対象から児から離れたところ対象児を見ていた	遊戯スペースで、子どもたちの動きを全体に目を見守っていた。足を痛めた瞬間は確認していなかった。保育者の所に来て「足をくじいたー」と訴えて、「がくっとなった」と訴えた為、座って様子を見ていたが、躍がいたがった為事務室に報告。	2.当対象児の動きをしていつも見てなかった	ステージで近くの子どもたちがボールを遊びを使っていた。歩いて普通に歩いていたテーブルに目を登ってのテーブルの上に座っても、何事とも思った。	「がくっとなった」と訴えが普通に歩いていた為、分くらいに様子を見てしまった。	徐々に腫れたり痛みがでることもあるので、すぐに事務室に連絡して対応する。	
3229	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	83			29	24	30			8	8	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	—	2.基準配置	子どもへの安全指導は行っている。今の、回起き庭で、場所どこで、子人がで安全確認ないい場で、休的な認識が合わせていかった。	安全確認にす特に必要な箇所を必要な数ある箇所と職員人数間を話しで決め、安全確認を明確にして合めを図る。子ども援助をもする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	毎日	遊具目体は問題はかったが、遊びに注意が、台の口ロが滑り付で止まり上の、その勢は降り近で滑っ途中上がまま滑で滑り台から降り、次の遊び走へ飛り、具って際、ひねったことが原因とが、怪我につながる。足	子どもたちと方の確認際に行う。滑り台は滑っる途中やすいがるがあるや降りり、走っ遊具へ移動と大きけ降りて別の他児との衝突転倒も予測されることを知らる。ま滑り下りから上へ台の上っ子	1.集団活動中・見守り	子どもや保護者の対応のために保育者が監視のため育者視の場所からからするが移動ことがる。目ではないは離れいけない状況であ場合には、他のそ引ってよ職員の場を継いろうか声を必要がし、危険測場所通認識この段階はまだできていなかったこと、そ引継ができなかったこと、てすぐ	1.集団活動中守り	上記のと安全を確認する必要のある箇所と職員数を可能な限り合っ決め、役割を明確にして役割確認ながらそ安全確認しあそびを援助する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から、事故が起きないよう遊びを見るあったとも聞いている。	3.対象から児から離れたところ対象児を見ていた	園庭のそれぞれの場所で3歳児（3クラス）の保育者が子どもそのあとそのの見守り・監視を行う。対象児のそのことに援助では離れた場所ではあるが広い野で園庭を見渡している中で確認していた。	1.担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていたが、本児が異変を示した所他のものとの比べて対応した	上記のように付ってはないが、本児を場で子どもの見守りを行っていた際に気付きを行った。	上記のとおり、子ども保護者への対応のために保育者が監視の場所から移動することが度を離れることが目離してはいけない状況である場合には、他の職員にその引き継いでもらうよう声を必要がある。	上記のとおり、安全確認を特にする必要のある職員人数を職員間で話し合って決め、役割を明確にして安全確認しながらあそびを援助する。	
3230	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47			18	10	19			4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具から転落等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	●危険性の認識不足鬼ごっこ中、複雑に子登ごっこで子どもが遊び状況が混乱されたがうた。上ご保育者に子ども達が判断でき、静かに冷ないと思わ発生を生じ、転落に至っ	●園庭の遊具の危険性の有無を想定され、今回の事故は、子どもの保育者が遊具の連絡をしてそれぞれの保育者に違いがあることを、園の保育士が、子ども達の生活の場面・遊び・動から事故を想定した	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	当該遊具は作成H30年に作成されたもので安全面に対して問題はないとみなす。	危険な遊具の管理ではなくなるために、ずに遊び方を工夫し、ルールを定めるなど、子ども達の安全を確保する。	3.個人活動中・見守り	●遊びの要素が少ない遊具を選択し、一つの遊びを多様に展開できる。	●あそびのあそび場が大きくなる集団を生み、子どもたちが集まると密集し、集団化し、多様な興味を引き起こす。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをするときに、型の鬼ごっこに登場し、職員にけてもらうと、遊具を追いかけると、混乱して拍子に落ちる。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	対象者と数名の鬼ごっこを担当職員が、子どもたちと一緒に遊ぶ。担当職員が鬼ごっこを追いかけると、鬼役になった子どもたちを追いかけると、鬼役になった子どもたちが逃げるために屋根の上に登った。担当職員はそのまま近づいて、鬼役の子どもたちが、鬼ごっこの遊びに夢中になっていたところ、鬼ごっこの遊びに夢中になっていたところ、鬼ごっこの遊びに夢中になっていたところ

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			マニュアルの有無	ソフト面					ハード面						環境面			人的面							
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3231	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11								3	2	14.2歳	1.男児	1.遊具から転落・落下	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨の骨折・肋骨の骨折の疑い	1.あり	1.定期的実施	4	1.基準以上配置	場のリスク対策もの発達を越えたことハザードにいたにかた	ハザードの危険性をいうまな保育者の対応の具体策を明確にして共有別紙参照	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	垂直落下ハザードのため台を山にした。その垂直落下はおかったもの、滑り縁と土台の縁との間に広い段差があった	段差がないように増量し土を流れないように土留めをした。また、危険管理をしておくことだけから守り方を構築するにマニュアルも参照した。	3.個人活動中・戸守り	職員がお見だいるとで安しているう事で心しまった	掛けを合うが、見られない場合は使いようにする	1.いつもどおり様子であった	滑り台の同じ上にクラス子が集り、楽しそうしている子だったこともあり、何を楽しんでのかとうしたり、精神面では、特に不安な様子はなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	子供たちが後から集まってかずに気が付かずの緒にいるに近くの密集にくかった	2.担当者・対象児の動きを見てなかった	それぞれにいる見ていたから、お互い職員に近くの大丈夫だ大丈夫と安しまった(油断が生まれた)	昼食・着替え・室内への移動など重なった	園庭にいる園児の人数把握など職員同士で声掛け合い状況を把握する	
3232	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	1	6	4	6	5			5	4	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨の骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	ソフト面でなる事故がないため、記載なし	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	—	ハード面でなる事故がないため、記載なし	1.集団活動中・戸守り	マットのいて、着地をした際に滑ったことされる。	保育室で過ごし方の過ごし方の検討ンションが高くなる園児の声掛け	1.いつもどおり様子であった	保育室内に敷かれているマットの上を体に回転を加えながら飛び、転倒したものと思われる。	3.対象児の児が離れたところで対象児を見ていた	対象児を見ていたら、他児の対応を行っていた	2.担当者・対象児の動きを見てなかった	他児の対応を行った。	—	園児が危険な行動をしていることを確認した時点で、速やかに注意する。他の職員とも声掛けを行いながら、死角ができないよ	
3233	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	53								5	4	16.4歳	2.女児	3.子同士突衝によるものにもの	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指末節骨骨折	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	保育者ひとりの事故防止に意識やや足していた。	事故予防研修に積極的に参加し、未然に防ぐ。子ども自身も危険を回避する指導する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	普段あそび慣れている場所ではなく、保育室より床やすい	事前にホールの約束事項ど共に危険箇所を把握し、子と共に確認する機会をつくる。	1.集団活動中・戸守り	2クラス合同の人数が多く普段より活発に散漫になり状況であった。その保育者に注意きだった	2クラス合同で行う人数も多くなるため、全体の行動・職員配置にべく行考慮すべく注意すすめたい	3.いつもと活活動を(理由記載)	興奮状態であった	3.対象児の児が離れたところで対象児を見ていた	保育者が参加したが、他児が関わったため、対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていかった	職員も子どもにあそびに参加していたため、全体が把握出来なかった。	4名の職員の中で、子どもと一緒に活動する職員、見守る職員と分けることでより細かく動きを見ることができ、状況によって職員配置を臨機応変に対応できるよう職員間の連携を強める。	
3234	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19								4	4	15.3歳	1.男児	3.子同士突衝によるものにもの	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	1.あり	2.不定期実施	5	1.基準以上配置	怪我や生じたヒヤリハット報告書にはもらいるが、原因などを段階に至っておらず、活用して状態にないにあるが、	・職員にヒヤリハット報告書を必要性伝、報告書のを再度、報構築タイミングを出しやすいにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	当園は今年度開設し、多数の子どもが入園することが予定されている。クラスの編成や保育士の配置、園児の安全確保のため、ヒヤリハット報告書の作成・共有・分析を徹底し、再発防止策を講じる。	ヒヤリハット報告書を参考にし、事故や生じやすい場所を把握していく。・クラス同士合同で行う活動や、園庭・屋上園庭・ホールを順番に使用し、必要に応じて人数を調整し、安全確保のため、ヒヤリハット報告書を共有し、職員間で情報共有を徹底する。	1.集団活動中・戸守り	廊下を歩く際は、保育士が安全な位置で歩くよう、子どもに注意を促す。	教室から移動して戸外に行く時の約束事（歩き方、座り方）を保育士が繰り返し指導する。	3.いつもと活活動を(理由記載)	本児：上履き、靴下を所定の場所に置き、屋上園庭出入口の担任のすぐ前に、本児が沿って床に両手を座ついた状態で座位になっていた。危害を加える他児：同じ様廊下に座位に整列。座位になる際に、立位からの滑り込むように立って座位に膝を立てる。膝立ての際に、本児の右小	2.対象児の児が近で対象児を見ていた	担任1名で3歳児8名を屋上園庭へ誘導している途中、園児2名が尿意を訴えたため、園児2名をトイレに誘導し、その間本児含む6名はトイレの前で整列していた。トイレに行った園児2名は排尿行動自立していたため、担任は廊下からトイレのドアを開け排尿中の児2名を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	担任1名と保育士1名：教室内で登園してへ対応やブロックし泣いている子のの保育を行った。担任1名：昼食チェックなど事務作業を行い保育現場からいったん離れていた。	・普段は保育者2名でトイレ誘導を行っていたが、今回は保育者1名ほどトイレ誘導や整列を見守っていた。保育士が普段も通う1名配置していれば、危害を加える児の行動に注意できた可能性がある。・危害を加え	・トイレ誘導が必要となった際は、保育者同士で声を掛け合い、状況に応じて2名体制に変更する。児がいたずらや危険行為を行った際は注意だけに留めず、なぜそのような行動をとったのか、なぜ危険なのか、被害児の気持ちはどうなのか、ということを振り返る場を設ける。・保育者は日ごろから児の様子や取り巻く環境の把握に努め、いた	
3235	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	100	2	4	8	30	30	26		21	21	15.3歳	1.男児	1.遊具から転落・落下	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	園児が遊ぶ遊ぶなこと園庭のてこれていなかった	新入園児で方教の遊び方を再度教える	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	3	遊具は慣れている場所であり、ケガをする可能性は高い。遊具の安全点検を定期的に実施し、危険箇所の早期発見に努める。	遊具撤去を含めて検討する	1.集団活動中・戸守り	どもが職員がほとんの職員の教室内にすべて登園児のあっている対応にあたっている中での事故であった。	遊具撤去を含めて検討する	1.いつもどおり様子であった	園に慣れた時期であった。登園して、教室にて朝の支度終了後に園庭に遊び出た、健康状態は良好	4.対象児の児が見ていなかった	どもが職員の教室内にすべて登園児の対応にあたっている中での事故であった。	2.担当者・対象児の動きを見てなかった	通園バスの添乗保育士や保育園等乗への準備等で園庭にいる職員はいなかった	—	遊具撤去を含めて検討する	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3236	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	43								5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折、左示指裂創	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	ヤリ・しが場ことた滑報あ合、度、職員間で情報共有を図止策すたあるを守りを徹底する	職員間の共有が情報しっかりされる、研修記録職員押修には全員印をう。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	ハウス内にコンクリートブロックがあり目立ていたが、危険性が大きさで判断した。	危険性の判断基準が甘かった。でも怪我はつながらず恐れとした場合には、でもつながるとした原因とものなるを排除ようにする。	1.集団活動中・見守り	施設内の遊具や使い方、移動しながら思い場所で遊んでいる。	施設内遊具遊具の状況内の確認が十分ではなかったことが、当事故の要因の一つである。設外施設では、特に安全点検を十分行い、危険性があるとしでもられるものは、取り除くようにする	1.いつお様もりの子であった	ハウスに入名ウスり、数ゲで遊びんで楽しいる。	3.対象児から離れたところで対象見児を見ていた	敷地内には、大型遊具も併設されており、高上遊所がこ子ども重点的に見守りたから、対象含ども子児た子達を見ていた。	1.担当者・対象児動きを見た(至近距離にいた)	ハウス内に入ら、ウスは、ウス様見てが、ドドが窓から見て、少し目を離した際角となる場所で事故が発生する。	ウハウスの内の高さや広さ共に大人とって十はなかったため、見守っていた。	ウハウスの内全体が見られる場所で子ども達を見守り、危険なとる行動をと言葉かけを行い、未然に事故を防ぐ。	
3237	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左前腕両骨骨折)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	—	事故予防研修の定期実施して園内研修を定期的にしていく	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施		どの箇所の危険があるか、すべりやすくないか確認かっていかをしなした	子どもと一緒に危険な箇所を確認し、意識するようにする	1.集団活動中・見守り	保育教諭の見守りがあった中でかが、注足で意あった	子どもの予測し、動きを予測し、次の動きなんが保育を行う	1.いつお様もり子であった	園庭を友達一緒に追いかけこ走っていた	4.対象児見ていきなかった	和太鼓のした準備をした他児の事が応をいてがおかにいた本児の動きが遊具でりと見えていなかった	1.担当者・対象児動きを見た(至近距離にいた)	朝の受け入れ支援伝い分のスも守った本児ていかった	子ども全体の状況を把握せず子どもの応にして遊び様子が対集てまった	トラブルのしな全体ながらの様子を把握する	
3238	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	0	0	13	28	15			4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾中足骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	●帰りの足視診により見ることもあり●怪我で痛いに相手にかっていた●裸足での乗り物で歩いて足ものかった	●子どもの様子が違いにつかうようでできなかった受け渡しの面確認の徹底●ベダル乗り物で着用の際の靴をうにする	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施		三輪車は所正なく使なもなく使ていたコースにカーブがあり、急なカーブがあり、曲がらくいづらくなった	コースにカーブを設けて形にしなかを急なかを急なかを急なかを変更する	3.個人活動中・見守り	スピードの出し過ぎには注意していたが、細かい子ども変化にできなかったこと	細かい子どもの観察ができるように保育研修の内容を仕組む	1.いつお様もりの子であった	普段から三輪車遊ぶのが男の子であり、後ろから押してもらうとスピードがだんだんと上がっていくが、当日は男児もきをつけて歩くようにしていたが、スピードを出しすぎて走った思われる	3.対象児から離れたところで対象見児を見ていた	他児も見守りら三輪車のスピードの出し過ぎには注意見ていた。スピードを出しすぎると感じた場合には丁寧に声をかけた。	2.担当者・対象児動きを見ていなかった	室内で保育をした	普段から三輪車を使っていた男の子のスピードだけについて気をつけていたが怪我につながるような転倒は知でなかった	方法を怪我を予防するように職員で「日常の中でいつも気をつけていること」(資料参照)を確認し、環境を整える際には必ずお改善していく	
3239	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	14								14	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節両骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	子どもの組み合わせの足歩くもの配慮だった子どもを急かせるよう声掛けをしていた	子どもの歩調を確認し急いで渡らない(歩かない)配慮をする	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施		歩道や道路によって列に1列に歩かせる工などの工夫がかった	道路によって列に工夫することを職員全体で周知する	1.集団活動中・見守り	「急いで」などと日頃掛声からかけていた	横断歩道を渡ると手を繋ぎにくく、歩く道幅や道路環境を把握して1列になったり2列になったり変臨機応変に歩行さ	1.いつお様もりの子であった	普段と変わるかと友達を散歩に参加した。	2.対象児を見ていた	先頭に1名、最後尾に1名中間に1名配置で歩いた。中間にいた職員は斜め前で転倒を見て起きを後上た	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒直後、先頭は後方の職員は後方を振り返った。最後尾は他児応した。	転倒直後寸後激し痛みを訴えなかったが軽い打撲と判断し見てまった	転倒直後すぐに園に連絡し怪我の連絡状況を相談すべきだった。	転倒直後の職員の対応を確認し、「日常の中で気をつけていること」(資料参照)を確認し、環境を整える際には必ず改善していく	
3240	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49		2	15	18	13			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不期に実施		1.基準以上配置	本児の行動からいとは想定できることはあるが、それぞれ保育者から目を離す時間が長かった。	保育者全体で本児の行動を見失わないように、声を掛け合い、場所を確認するようにする。保育者同士で声を掛け合うことで、居場所の確認を怠らないようにする。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		遊具登りが高くなる。本児とっては、登り高ところ易しくて、自体が登り降りに慣れる。	高さこの改識を認知し、本児以外は登ってもいるが、登りにくいことで、本児の使い方、遊具の使い検証、職員間でのルール周知し対応をしていくのをあいさつ	1.集団活動中・見守り	職員が児童と遊ぶなど、他児に意識を向ける状態であった。	職員が本児以外の児童と遊び、本児が目を離さないように保育する。	1.いつお様もり子であった	午睡で眠れなかった児が、通常ういうも見られる。それ以外は本児に寝わった様子れない。	4.対象児見ていきなかった	園庭で他児に参加児の参加なが保育をしている状況であった。	2.担当者・対象児動きを見ていなかった	園庭にいた職員と本児以外の児童との遊びに向き注意が出ていた。誰も本児ことを見ていなかった。	本児のを動きえる高いころ登ることを行考えとこ好み、常日頃から登っている。高いところを好む衝動性を持って、止めてまったが止まらない	本児のいとこと、本児を好むこと、本児の衝動性を踏まえて登ることを想定して見失うことがないようにする。職員全員で事故の検証をし、改善点を周知していく。	
3241	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25			13	12				1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置	—	職員の事故への認識・危険に対する予防能力の向上を図る。1人1人の発達段階や特徴・クラスの状況を全職員で把握する。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施	未満児：毎日　以上児：週2回	—	日々の点検を強化する。	1.集団活動中・見守り	—	子どもたちと遊ぶ正しい方の使い再確認、遊ぶ前の約束を必ず行う。	1.いつお様もりの子であった	日頃から鉄棒で遊んでいて、当日も前回りを遊んでいた。	2.対象児を見ていた	鉄棒の直ぐそばにはいたが、落下瞬間に手を伸べることができなかった。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の遊びにていても、見ていなかった。	—	職員の配置を確認しあい、事前にる回避できるよう努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3242	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30		9	4	8	4	5			4		4	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折(左足親指)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5～6	2.基準配置	引き続きアマニュアル等に基づき配慮する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	他にも遊ぶコーナーを2ヶ所設け、十分な広さの遊び開るようにした。	今後も複数の遊びコーナーを作り、子どもが選ぶようにする。	1.集団活動中・見守り	土曜日は普段のクラス構成ではなく、出席体園児全員がコーナーに分かれて遊ぶので、子ぶの年上の真似をすると、気持ちがもっとふくらむ可能性はある。	異年齢で遊ぶ時のルール見直し、気持ちが高ぶって気持ち落ち着かせるように、声かけや工夫していく。	1.いつお様でもり子あった	サーキットでは走る時、段差も無いところで転んだ。	2.対象至児の近で対象見た	複数の園児が走っていたので、ぶつかったりしないよう走っる側声をかけつき、何人か転んだ時いたので、怪我が無いか確かめていた。	2.担当者・対象児動きを見なかった	他のコーナーに付いて、ふく筆に面して、子どもも走ると姿はていたが、対象児が転んだ時には見ていなかった。	走りなっている場所で、転んでも直ぐ立ちあがった為、泣いたり痛がりしている子への対応をした。	いつもの場所であっても、突起や物がはみ出していないか点検する。これまでと同様、痛がったり泣いたりしていなくても転んだ時は、怪我等はしていないか確認をする。	
3243	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									1		1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	—	危険なケースの一つとして、今回のケースを職員間での共通理解事項に加える。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	—	園児が転ばないように、小石を拾う等、運動場の整備に行う。	1.集団活動中・見守り	—	入場時は手を繋がないようにする	1.いつお様でもり子あった	意欲的に組もとして取りういた	3.対象からの児が離れたところで対象見た	—	2.担当者・対象児動きを見なかった	—	—	入場時は手を繋がないように事前に子どもたちの様子を確認する	
3244	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									1		1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左橈骨遠位端若木骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	—	遊び場の危険個所の一つとして、今回の場所での共通理解事項に加える。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	—	遊び用のプールとして使用していたが、撤去することにする。	1.集団活動中・見守り	—	本児全体と人と園にプールを歩したりしないよう話をする。	1.いつお様でもり子あった	—	3.対象からの児が離れたところで対象見た	—	2.担当者・対象児動きを見なかった	—	—	怪我につながる遊びや動きを目撃した場合には即座に注意や静止を促す。	
3245	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16			5	8	3				2		2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設安備の全上不備によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	転倒防止について、マニュアルでは家具類の記載はあるが、椅子等の積み重ねは記載はないため、危険認識性の甘さが出た。	児童の動きによる想定危険箇所を職員共通の認識とするため、職員会議等で話し合い周知徹底する。	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	4	椅子を出入りに積ていくすぎること	椅子や机の位置を変えて倒よえないようにする。子どもが遊んでいる様子に目を配り、危険様守っていく。	1.集団活動中・見守り	長時間保育（運番）中は年齢層がであ身体的年齢々の強度のから事故想定も甘かった。	年齢の低い子にあわせて事故防止策を行う。	1.いつお様でもり子あった	いつもとずわらそ室内をしていたため部屋トイレの部屋を出て、しかトイレを使用をトイレから戻り身で室のドアを閉める際に事故が発生した。	3.対象からの児が離れたところで対象見た	保育室内で他児を見守りが対象児についてもいた事故発生時は対象児から少し離れた位置にいた間に合わなかった。	2.担当者・対象児動きを見なかった	乳児・幼児組を合同で保育していた時間帯であり、職員は4名いたが、トイレの付き添い等で2名は室外にいたため、室内は2名であった。室内職員の名のち1名は担当職であり、1名でもうつについては、他の見守っていた対象児の見ていたため、児の見ていたかも	子どもの動きを捉えていたが、子どもの作ふざけ起こりうる事故予測しすことは困難であった。	子どもの動きえ方に十分に注意し、危険のない様に見守ったり、危険が予測される場面では、ずっと離れていても、子どもに届く声で注意をする。	
3246	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17									2		1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右側切中歯根破折の歯折疑い、上下口唇の擦過傷	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	50	1.基準以上配置	・事故発生症前の活動は、4，5歳児の合同形で集会式の行事を実施していた。	・通常と異なる活動から、延長保育に体制になる場合のなには、児を丁寧に観察し、延長担当者へ引き継ぎを行う。・また、園児の様子によっては、ラスをしばらく継続したり、体をを動かす、歌を歌う等の歌発る活具を散でき活動、片付ける等の気持ち切り替えのえをし、クールダウン	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	—	・ウタンタ木積み、それぞれの遊び方等、園児の特性を理解いるがあた保育の合同活動、以外の保育士の間用し、延長保育等に体制では、使用しないことを徹底していく。	1.集団活動中・見守り	・日頃は、それぞれが遊んだ玩具がいた片づけを片づけてから、延長保育担当者へ引き継いでいる。日当該は、特別な活動があり、延長保育時間の長間まで時間活動時間が短かった片付けは促さず、遊びを継続させたため、当該園児が遊んでいたウレタン木積み遊びを引きでしまった。	・延長保育時間における園児の仕方等、設定提供、落ち着いてきる安全な環境を整える。	1.いつお様でもり子あった	日頃より、活発な園児である気持ちが高揚ちもあってとなる。走っまったと考え	3.対象からの児が離れたところで対象見た	全体が見えるにいが、瞬間は他児の方が気になり、その位置にたその遊びに対応した。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児が別の場所に積んであったウレタン木の上に乗ったのに、降りるように声かけした。	・保育者が他の遊びに対応していたため、本児の動きが入らなかった。	・個別対応をする時も、常に全体を目のお入れて	
3247	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	76		12	19	22	23				7		7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	目では追ったが、園児が梯子の横は職員いなかった	震梯子の横に、職員を配置する。今後、事故予防の研修を実施していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	震梯子下にあったクッションは置いてあったが、クッションが弱かったため	もっとクッションのあるクッション性のあるラバーを敷く予定	1.集団活動中・見守り	震梯子をやっていた子がいに、震梯子の隣に職員がいなかった	震梯子をやっていた園児が、職員声掛け合いを、同士で声掛けを配置を考える	1.いつお様でもり子あった	他の園児と同じに、震梯子を楽しんでいた	4.対象児の動きを見ていた	長縄跳びをやっている園児と共にいた。	2.担当者・対象児動きを見なかった	他の泣いている子の対応をしていた。	震梯子をやっている子がいるのに、震梯子の隣に職員がいなかった	震梯子をやっている園児同士が合い配置を考える	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況					事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制																		ソフト面							ハード面							環境面		人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																																								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3248	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	85	7	16	16	17	15	14		17	17	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的実施	6	1.基準以上配置	運動会でる競技と保育練習を行っていたが、年齢毎の種目として中で行ていたが、年齢毎の種目として中で行ていたが、年齢毎の種目として中で行

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面						ハード面									環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3254	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	90			14	23	25	28			14	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右橈骨尺骨遠位部骨折	1.遊具等からの転落・落下	4	1.定期的に実施	本児が上登ようになり、返し最後まで中の事故であった。喜びていた気持ち溢れた受けを めつつ少し着いて組めるように掛けう あっても良かった。	子ども本人の意欲をそれぞれの留意ども、落下時の体勢など。一緒になって考えるどの配慮をしていく。	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	特に年長児が持って憧れる取り組める1つのあるが、別の場所であるこのロープを登る遊び方で上手に上げることや上手にロープこきではとよりにロープを扱がのないかを考える。	ロープの常状態を確認すること、今まで同様に継続していく。	1.集団活動中・見守り あり	本園では、子どもが考えも自分で遊ぶ意志で自ら挑戦できるように、自己力量や決中に挑戦する環境を大事にすることで、子どもが真と信じ育ることを高さ遊具も、簡単に登れ作って登り子どもが自ら経験と	本児は塔を目指し、以前から何度も挑戦した。日初階にて上り登ることができ、大喜びし挑戦続けていた。今後も意欲を削ぐなく引き続き園庭整備をいく。	1.いつもりお様でのあった	身体を動かしてあそぶことを危険行為はなかったと見られる。当日も友達に一緒にんで遊んだ。	3.対象児からの離れたところで対象見児を見ていた	本児が、上階に登れたことを見てほしいという依頼を受け、見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離ではなかったが、本児の動きを見ていた教諭が多い。	本児を見守って保育数名いる。	上に登子様子、複数の教育が教諭見ていると本児は知っていた、意識視感覚過面があったかもしれない。	子ども本人の意欲を大事にして、挑戦を見守りながらも、状況により休憩を挟むなどの配慮を検討していく。また、必要に応じて声掛けや適切なサポート法方やサポを見守りを改めて確認し、共通認識を図った。	
3255	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	34									4	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2	1.基準以上配置	怪我の状況把握だった、未熟ため、医療機関への搬送ができなかった。	怪我をしたときは報告、及び複数での確認、把握、対応を行い、怪我を大きな想定した上での対応、対処を行う。	2	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	12	—	遊具使用は、下にマットを敷く	1.集団活動中・見守り あり	保育教諭側が遊具付き、かけ声をかけ、見守り、場面に応じて援助したが、転倒に対応できなかった	1.いつもりお様でのあった	通元気でいつも過ごしていた	2.象至対児の近象児を見た	保育教諭が遊具の側に付き、声をかけ、見守り、場面に応じて援助したが、転倒に対応できなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	同様に遊具の側に付き、声をかけたり、見守ったり、援助したりしていく	
3256	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	32				10	22				2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左肘骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	24	2.基準配置	—	遊具の使用方法を再度子ども一緒に確認する。また見守っている者の位置にいて、検証改善策を共通認識し、全への高い意識を高める。	2.不定期に実施	300	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	300	レステでおり、スすでいすい。ステップ、雲梯下には薄い布が敷いあった落下我防止ならなかった。	落下防止のショックアブソーバーや、クッションや手を拭く用意をおしてく。	3.個人活動中・見守り あり	やべおっかた食べる園庭に出ての室内で早くを園庭に子どもが終わったと園庭に子どもいた。	室内や園庭ちにも気ちらにも気持ちのる。今後は職員に配置でかけ、落ちて守りできるよう、状況に着いて見守りるしていく。	1.いつもりお様でのあった	子どもよりも早くを食べ早く終わり園庭始めて遊びいた	3.象児からの離れたところで対象見児を見ていた	担任は他の園児の関わっていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園内階段の手摺を使用して、子ども一緒に昇降する。	園庭が広いため、子どもの数に関わらず、一定の保育士を配置する必要があった。	保育士の配置場所について再度確認する。また、事故に対応し、必要に応じて声掛けや適切なサポート法方やサポを見守りを改めて確認し、共通認識を図った。	
3257	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	28									3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔打撲・右上A外傷性歯の脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	2	1.基準以上配置	職員配置は十分であったが、運動には前ゆる事故を予測ゆる故を予測しておく必要がある。	ボール活動で、バランスない時は保育教保子の様子が傍に論付く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木製フローリング特に問題はなかったが、個に応じた動面の発達の細かい把握が不十分であった。	個人の能力・発達を踏まえ、ボール遊びの危険性を想定しておく。	1.集団活動中・見守り あり	発達段階において、ボールに座ることは難しかった。	活動場所の配置ボール動員のについて考えく。	1.いつもりお様でのあった	—	3.象児からの離れたところで対象見児を見ていた	1人1個ずつボールを持って サッカーチームの活動に話して次に聞いてことを聞いて子ども見ながらいろいろを子ども見ながらもり一緒に聞いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	腕が化膿してガーゼを貼った園児ガーゼを取れてしまったので、ガーゼを取り換えていた。	担当(主担当外)職員が接助する届の位置の見りではなかった。	他の園児のする対応を時には、職員同士が声掛け合い、必要に応じて応援を呼ぶような体制作りを徹底する。	
3258	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	79	5	7	16	22	16	13			16	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手首骨骨折（全治6か月）	2.自転倒・衝突によるもの	2	1.基準配置	遊戯室にあるトソフト積木に寄せて壁ソフトに片付けて壁ソフトに片付けた。その壁のままについて積上げ、状態で積上げ、ろうとしたため登ったバランスが崩れ落ちた可能性あり。	壁についたソフト状態で積木をしなまま、あまり高く積み上げないこと、園員と職員認し再児でた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊ぶ場所、遊具など安全確認・点検の	園児に対して、給食後に「静的な活動」をするように伝える。体制や給食後の付け落ちから「動的な活動」すに設定する設る。	7.その他	給食後の片付け時間帯で職員が片づけをしながら、時々園の動きの見が、目を離した時の起きた。	給食後の片付け時間帯は、遊戯室ではなく部屋や廊下などにすうにする。（常に園児の動きが把握できるように掴ようにする）	1.いつもりお様でのあった	園児は、積み木を積む安高くなることで定感がくなるなることを知らないことが考えられる。園児は、ソフト積み木にいつもの積み上げたりのぼったりとこ、ぐらぐらしたバラが崩ろ、ンスれ	4.象児見児の動きをていた	いつも通りに自由に遊びを楽しんでいた。園児がいる場所、何をしているのか、知っていた。ソフト積木の積み場所が5歳クラス児から見えにくい場所にあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他クラスの職員も給食後の片付けをしているため、職員間の声掛けなどの連携がなかった。	遊戯室のため、運動的遊びをしようとする園児が多い。	職員間の声掛けや園児の状況把握が不足もあるので、職員同士声を掛け合ったり、見守ったり、援助したりしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面								ハード面								環境面			人的面												
			施設・事業所種別			発生場所			異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3259	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	20								4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	ソフト面とマニュアルの有無	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	—	ハード面とマニュアルの有無	1.集団活動中・見あい守り	—	行事前は、園児も気持ちが落ち着かないこと、下に本児がつい子測のたり常に遊んでいるが、通常以上に職員間で声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子で、もりあった	他児とともに、まままごとセット上がっては飛び降りしてた遊んでいたが、他児とのトラブルもあったと思われる。（本児の話をもとに推測）	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の本セット上を含め、数人が上がっているのは確認していたが、他対応ため、目を離し、その後、目を向けた時には、本児はうつぶせの状態で泣いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園の行事の準備のため、他児の誘導を行っていた。	—	園児が危険な行動をしていることを確認した時点で、速やかに注意する。死角ができないような配置を取る。	
3260	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	園庭での事故。	園庭利用時のマニュアルの見直しを行い、遊具利用時の注意事項も改めて職員への周知を徹底していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	乗ってる中に、途中遊具を離してしまった。	子どもがどういう方かを遊びする方を定め、々なこ様とし、ニュアルの改訂を行っていく。	1.集団活動中・見あい守り	—	遊具の使いもちろん、方はも危険な乗りないことを園児達に常に発信していく。	1.いつもどおりの様子で、もりあった	普段と変わらない様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	夕方園庭で遊ぶ際、立ち位置を決め、すべての子ども目が届く位置にいるような体制をとっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当するエリアを決め、エリアにいる子どもの安全を確保するための体制をとった。	—	職員の立ち位置等を見直し、より安全に配慮する体制をとる。	
3261	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65			30	35				7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	職場体験中学生が関わっていた点。	遊具で遊ぶ際の配慮事項の中に、実習生、ボランティアを受け入れた場合の具体的な援助や見守りの方法を追加。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具の安全に対する配慮は十分であったか	落てマッ下に備えてを敷くの配慮をする	中学生がかかわっている場合の職員の体制ができていなかった。	7.その他	吊り輪で遊ぶ際のルール再確認。園庭で遊ぶ際の配慮事項の再確認。	1.いつもどおりの様子で、もりあった	普段自分の力で届かない吊り上げ仲良くきもらぶらがった。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもが自分で届かない所れないに乗せてりらせることを、外部習生学生に導いた。また、ような為をいることに気づこと来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ボランティア、実習生などとかわる場合の子どもの予測や事故防止為の配慮事項が十分でなかった。	それぞれ場所で見守りしている中生の見守りをしていると感じていた。	ボランティア、実習生などが保育に携わる際の、事故防止の為の配慮事項の見直しを行う。	
3262	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32			10	12	10			6	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	飛びうんて移ろ棒というお使いなかったはいて	遊具の正しい方は方論、危険だもと自分の気付けるようにえて伝えていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	やや高さがある	手を添えられる近う補助に	1.集団活動中・見あい守り	正しい遊び方、危険な遊び方の指導不足	物を使い始めるには、子どもたちが危険を周知に体験をする	3.いつもどおりの様子で、も活発に活動した(理由を記載)	普段は砂場で遊ぶ際は、棒を使って遊ぶ。	2.対象児の動きを見ていた	うんていの横にある登り棒の補助をしながらの様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	うんていの横にある登り棒の補助をしながらの様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	うんていの横にあるマンツーマンでついてあげなかった	人手の少なくなる時間は帯に遊具は使用しない。	
3263	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52			15	18	19			5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	職員配置は満人数たり、配置規場所も定通りあったが、職員が泣いている2名の子どもの対応、遊び補助のなどを、タイミングで同じ行った。職員経験不足によりもに取ったの手間で、子どもの対応に遊び慮する欠ける配慮識しまうがしたこと。他の子どもの遊びに配慮した時間で、ども	5月8日(水)9:00に園長、副園長、主任、保育副主任そして事故当時園庭にいた職員と緊急会議を行い当時の検証を行い、原因の分析を行った。その後全職員で、事故検証し、職員の立ち位置、特に安全配慮が必要な場所の確認、子どもの遊びの特性の研修を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具は基準を満たしていたが、子遊び予測の不足の方がだった。	基準を満たしていたが、子遊び予測の不足の方がだった。	7.その他	10連休という長い休みを明けて、子どもたちが久しぶりに園庭で遊ぶことに気持ちが高揚があった。	一人ひとりの様子を観察し、子どもの様子を考え、環境を整え、子どもの様子によって、日案や週案を変更したり、の生活の行い方を考える。臨機応変な対応。	3.いつもどおりの様子で、も活発に活動した(理由を記載)	いつも活発に遊んでいる子どもたちが、当日は理由は明らかにして活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は早番のため、テラス近、砂場、鼓橋、太鼓橋に各1名、アスレチックに2名の職員を配置。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任が早番のため、保育を抜けた際に職員に、児がつ増し対応が遅れたこと。	コーナーを押したり、ブランコをほしいと言ってきた。	担任が早番のため、保育を抜けた際に他職員に、児がつ増し対応が遅れたこと。	子どもの一人ひとりの様子を細かく、その職員と共有する意識、体制の強化。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち教育・保育士	保育教諭・保育教諭・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3264	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35		2	2	17	14			6		5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	事前のプランで木製のコで座面をすいたお尻をのけてが対応意識ヒヤハット事例直前度を月程度め、ないるとも制る。た、者できけ告ヒヤリ・ハット事例直前度を月程度めなるとも制る。た、者できけ告表成する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	危機管理についてみたなめに具をるくじ見やり構築いくにたこ類ても者てを見ろ	複数人の見守る状態のため、人中かったこ。しかし、ばらく場に要より様子観察必要あった	全体的な保育の見直し	1.いつお様でもり子あった	事故前の起きた前の週から月はココときは事故起きの時に起こ	高さのある遊具を注意してみた。本児は事故の前ランコに乗ることがいかった。ランコは乗ることができた男児のことにしたことは男だったのそをしなが、他児のみとだった。	2.担当対象児の者・象児動きを見ていなかった	他の職員が乗ってしまったことを確認していたが、止めることなった	声をかけ注意をさいようにしたが、1フレーム声掛し、意識をでいくもでした。	あらゆる方向から怪我のリスクを考えて対処できるよう日常の中で気付いきたい。」（資料参照）を環境が変わる際には必ず改善しく１．２号	
3265	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								1		1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右側上前歯の損傷	3.子ども同士もの衝突にも	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	事故発生時にクラスにおいて、担任クラス見ることができないで、職員に問題は全守がいたの配置ではなかった。	1.定期的に実施	16	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	施設面において特に不備はなかった。	歌の練習はいつも行る活動だった。その際、園児同士の距離が近かったため、衝突事故が生じたと考える。	集団での活動の際には、声かけや一手を等両広げる等で園児同士で間隔をとれるようにする。	1.いつお様でもり子あった	登園時よる通り普段様子りであった。	歌の練習をするために、園児から離れたところから指示を出していた。	2.担当対象児の者・象児動きを見ていなかった	担当職員以外員は場にいなかった。	—	クラス全体を見守る中で、危険な行動や箇所はないか、改めて注意する。	
3266	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	55			12	14	15	14		4		4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	長靴の園児は遊具を使わない遊びに限定していた。棒滑り鉄棒は滑ないこと前に遊ぶ前を確認したが、度が高い日であっても、若干滑りやすかった可能性もある。	湿度の高い日は底・鉄棒の使用を控える。	1.いつお様でもり子あった	雲底で遊んだ。	2.対象児の至近で対象児を見た	転落後すぐに該当園児転落に対応。	1.担当対象児の者・象児動きを見た(至近距離にいた)	別のエリア（反対方向）かを園児を見守っていた。	特になし	特になし	
3267	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	49								4		3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第三中足骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	この屋内遊戯場の遊具は柔らかな素材でできており（打撃等は衝撃は緩和されるため）ケガは起こりにくいと判断していた。今回は、柔らかな素材であることが原因となって、「捻る」「捻り」と力が加わることが骨折事故となる。「捻る」「捻り」という骨折事故は起これる。	「捻る」「捻り」ことが原因となる事故リスクを、内部で学重大の研修で学習し、危険予測の力を高めてゆく。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	ハード面の点検は施設の当該の基準で行われている。	すべての遊具には安全リスクが存在し、そのリスクを最小化するための検討が行われた。最小化されたリスク把握危険し、把握危険し、予測事故をし、事故防止をでとを、内部研修でとを、内部研修でゆく。	1.集団活動中・見守りあり	—	危険予測の力を高め、見守り行う切や見守りを行う適切な位置や視野で見守り行ってゆくようにする。	1.いつお様でもり子あった	水分補給に呼ばれトランポ状のトランポ状の遊具（エアトラック）柔らかい素材で階段を降りて使ってゆくようにした。	4.対象児の見ていなかった	水分補給を休憩所に誘導していた。	2.当対象児の者・象児動きを見ていなかった	水分補給の声掛けで気付かずに遊んでいる子を誘導した。休憩場所のこどもたちを見ていた。	—	危険予測の力を高め、見守り行う際、適切な位置や視野で見守りゆくようにする。	
3268	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2				3	2			2		2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	職員が入れない時間帯は入れないように策を設ける	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	遊具のマットを敷く	1.集団活動中・見守りあり	朝の受け入れの時間帯の子どもの動きに配慮する	子どもたちが支度をしている時間帯は、担任が全員揃わない時間帯は、事務室で子どもたちが自分の部屋で遊べるようにしておく	1.いつお様でもり子あった	とても元気で自分で活動しているので	4.対象児の見ていなかった	他の子とのトラブルを離れてしまった。	2.担当対象児の者・象児動きを見ていなかった	—	遊具の方向の再度確認	朝の受け入れの時間帯の子どもの動きに配慮する。園児にもこのぶつかりが下がりができる遊具は、遊び方の指導を確認する。常に遊びの時間も確認する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
									異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修																											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3269	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									14	13	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	事故発生の可能性を予測する配慮が足りなかった。	職員間の連携を図り、子どもの予測をし、遊び方次第で大きな事故に繋がるということを意識して保育に当たること。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	—	２０㎝四方の木を重ねて、足元が不安定になり崩れやすくなる。そうした状況で上に上ることは、転落による怪我に繋がる確率が高くなる。	普段使いていて慣れる遊具でも、使い方次第で事故に繋がることがあるを意識しながら保育に当たる。	4.個人活動中・子ものみ	積み重ねゲームをしたら、ジャンプしたらバランスを崩してしまいまして転倒してしまった。	正しい遊具の使い方を子どもたちと一緒に再確認する。遊び方によっては、危険が伴う事を知らせる。	1.いつもお様子で	体調に異常は見られなかった。友達と遊びて、朝の準備をてきぱきと行った。	4.対象動児の見ていた	対象児が朝の準備を終え育室で遊び始めた姿は確認したが、遊戯室に移動したことには気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	廊下にいたため、対象児の見え姿がなかった。保護者対応をしていたため、対象児が付かなかった。	対象児の「早く遊びたい」という思いの動きを測なかった。	活動の切り替え時には、担任や同じ場にいた保育者だけではなく、事務室職員とも言葉を掛け合い、見守り、安全面に留意していく。	
3270	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15			9	1	5				2	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	要因・特記事項なし	園庭の遊具使用について再度、具体的に行い、事故を防ぐ事ができるよう職員間で共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	発達状況を考え、安全に留意してきたが不十分であった。	転倒時、衝撃を和らげるマットを遊具周辺に設置する。	3.個人活動中・守り	本児の近守りで見ながら保育をしたが、危険予測が十分でなかった。	本児の身体能力や特徴を危険予測し、保育教諭同士の連携を再確認する。	1.いつもお様子で	園生活にて慣れた時期であり、友達と楽しく過ごしている。	3.対象児の見ていた	遊び慣れている遊具である転倒ことのないようにするを予測していなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具の近場にいたが、他の園児にも遊んでいるため転倒を防ぐ時は目をしていなかった。	日頃の園児の特性を考え、遊具2人がいるなどの安全面を危険ないように配慮することに欠いていた。	日々の保育の中で、園児の特質を考慮した安全対策を行うための保育教諭の動きについて話し合い共通理解を図る。	
3271	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10			10						2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、歯肉裂創	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	慌ててしまう性格だったので、派えた子どもの手を等の配慮をした。	一人一人が確認保側でしなどを減る指導を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	49	はしごの、子どもが長さ体力若干長かった。	日々の危険管理を怠らないようにする。	1.集団活動中・守り	他にも遊具を置いていたのは、遊具の数を減らす方法あったのもった。	1.いつもお様子で	自分の力すためにあった。	3.児童見ていた	場所から見ていた、落下した手伸ばしたことなく瞬間に差しべるができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同体育館内で、他園児の運動遊びに関わっていた。	一人一人の動きに注意しながら見守る。	担当保育者の連携を確実なものとし、見守る場所、立つ位置等に配慮し、注意をより必要とする子どもを確認し	
3272	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	子どもが突発的な行動をすると、子ども突発的な行動をすると、子ども突発的な行動をすると、子ども

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																						ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名								実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
																								死因	負傷状況	受傷部位																													
3275	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	73				22	26	25			8	8	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	3.子どもの衝突による	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	玉入れでごちゃごちゃおり、保育者は見ていたが、個人を見れなかった。	3歳以上児全員での運動会練習はホールでは行わない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	3クラスが紅白にて玉入れを分かれてあったが、一人ひとりの広さのルールに対し玉入れをするあり、園数が多かった。	3歳以上児全員での運動会練習はホールでは行わない。	1.集団活動中・見守り	全員が裸足で玉入れをしていて、ジャンプとかの着地の際、他児の足上にあがり、負荷が強くかかった。	玉入れのいろいろ、こどもたちが接触しやすい場所で活動合はきを	1.いつもお様でもり子あった	—	4.対象児見ていた	玉入れを大勢でお全体を行った。対象児の様子は見れなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	当対児の動きを見ていた。全体を見ていたが、対象児は見ていなかった	玉入れごちゃごちゃおり、保育者は見ていたが、個人を見れなかった。	3歳以上児全員での運動会練習はホールでは行わない。	
3276	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				3	17	12			5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	砂が乾いており、場所で地面が滑りやすくなった	滑りやすい際は散水する。	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもり子あった	園庭で石拾い中、他に移動する者の小走り・滑って転倒。	4.対象児見ていた	近くにはいたが、職員の後方だった為、転倒は見ていなかった。後で監視カメラで確認し、保護者にもら見う。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	当対児の動きを見ていた。全体を見ていた。	離れた所の児を見ていたが、見ていた。	各保育者が分かれていたので全体を把握できなかった	保育者が分かれて配置し、園庭全体を端の方にまで死角のないようにみておく。	
3277	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									4	4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	必要に応じて個々のその都度細かな行動に応じて個々に合わせた指導を行うことを明記する。	事故防止マニュアルに個々に応じた指導を行うことを明記する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	施設・設備の改善策なし	1.集団活動中・見守り	跳び箱の回数を重ねてきたことや、跳び箱の上を重ねたことの緊張感が緩んだかもしれない。	安全な跳び箱を注意喚起していく。	1.いつもり子あった	1.いつお様でもり子あった	普段通り跳び箱を行った。	2.対象児の近で見ていた	器具使用時は、何かトラブルがあった時すぐに対処できるように側に付いている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対児の動きを見ていた。全体を見ていた。	跳び箱の一人見ていた。	跳び箱を前に手を付いて、ずれないように	今後も行う必ず伝えること、一人ひとりの子にその子に応じた個々に掛けていくことを心掛け徹底していく。	
3278	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	57									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕左橈骨骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	子どもの様子から、勢いがあるため、走る速度を緩める必要があることに気づかなければいけなかった。	運動会の練習を行う前に、過去のけが事例の等を振り返り、危険な競技、けがをしやすい条件について検討を行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	—	前転を行う前に、いスピードが落ちる、もしくはなければならないスペースがあれば、走るとドミノ倒しのように障害物を倒れてしまうようにする。	1.集団活動中・見守り	前転を行う時の手の付き方をもっていくよう、勢いがつくように走る姿勢を整えるように、子どもたちに走る手とどうかの当該園児はできていたかを考える。	前転を行う時の手の付き方をもっと丁寧に、一人ひとりに理解するように指導を行うこと。	1.いつもり子あった	1.いつお様でもり子あった	事故前は、普段通り子だった。直後は泣いたが、その後は手を少しかばっていた。	2.対象児の近で見ていた	当該園児グループが走っているところを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員一緒に、園児を見ていた。	担当職員一緒に、該園児を見ていた。	—	前転を行う位置で、もう一人職員が待機する。もしく前に、走ると前転をすると危険であることで他、どのような危険があるかについて話をすること。	
3279	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110		5		25	38	32	35		13	13	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具からの転落・落等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	ヒヤリハット事例が聞されていない。事職員共ていない、研修後の全職員が周知されていない。	研修後の命令書の回覧を徹底する。(名簿をつけるヒヤリハット事例を図式化し危機管理意識を高める。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	雲梯が濡れていた可能性がある。	固定遊具で遊んでいた活動内容は、言葉の約束の確認だけでなく、【あせ】【あせ】プレートに遊具をつける。	1.集団活動中・見守り	保育参加の保護者に、遊ぶルーの時のルールを事前説明する必要があった。子ども達に再度遊びの時は固定遊具で遊ぶことを伝えること。	保育参加者の日どもフとき、遊ぶルーの時に、子ども達水活び時は固定遊具ではいことを伝えること。	1.いつもり子あった	友だち3人と、保育参加の一保護者人で雲梯をした。身体が濡れていて、手もいた。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	各コーナーに職員がついていたが、事故当時は保育参加の保護者1名だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保護者のが見守りあった。少し離れた場所で遊んでいたが、子そばにいた。	園舎側からくわくハウスに隠れて雲梯が見えない。	保育者が必ず雲梯・畑側に1人はつく。	
3280	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	7	9	11	8	7	8			11	9	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨骨部骨折	1.遊具からの転落・落等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	—	遊具時危険なを使用しないか監視する。園児への使い方の指導を徹底する。	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	—	2.不定期に実施	—	—	遊び方が危険であったこった事故の為、ハードでは改善策は考えます。	1.集団活動中・見守り	—	落下の危険のある遊具は、職員がすぐに配置する。担当職員がその場を離れると必ず引き継ぎを行う。	1.いつもり子あった	1.いつお様でもり子あった	特に普段変わり、遊びは活発ではなかった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	対象児が遊ぶ鉄棒で遊ぶことは確認していたが、他児も見ていた為、園児の安全を守った。少し離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対児の動きを見ていた。全体を見ていた。	園庭に3歳未満の児もいるため、いろいろな行動に注意を払う必要があった。また園庭が広範囲で園児が遊んでいるため、一人ひとりの職員の目が広くなってしまった。その範囲が広くなってしまった。その為、対象児が鉄棒で遊んでいるのを注視することができなかった。	—	職員の配置人数の基準を満たすだけでなく、危険個所を全体で把握し、適切な職員配置を図ることとも行うとともに、園内研修を行い、職員に周知徹底を図る。	
3281	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									2	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左第3趾挫傷左第3趾基節骨近位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	立ち上がりの際ふらつき、ふとした拍子に、幼児すでは骨折する	情緒の安定や落ち着いた行動を促す	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもり子あった	常に活発である	2.対象児の近で対象児を見ていた	運動場で全員の遊び見ていた。体を守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	支援対象児への対応をしていた	自らの使いが、発達過程である	本児の発達を配慮した、声かけや援助。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																					ハード面								環境面			人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3282	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	遊び始めすぐの時間だったのこのケガ事故がなどを予測しなかった。また、事故発生の可能性に意識は配慮が不足だった。	園庭の遊び方や場所について職員間で把握しようにする。また、なる場合なるも事ケガなどを想定し環境を整え、保育する。	1.定期的に実施	100	1.定期的に実施	100	1.定期的に実施	50	周囲に危険なものはなかったが、園庭は若干の起伏があったので不安定なことがにきた思われる。	危険物はなかったが、こ足定起ケガ不なた思われ	1.集団活動中・見守り	子どもたちに対しても、段差があることや周囲の状況を確認することを持つ。環境整備等を行い、ケガ等の可能性を考慮して育する。	誘導鬼ごっこ達にわれたしさとあるから、ぶつかったり、勢い余って地面に転倒した。	1.いつもお様で子あった	他児に比べて登園が遅いことで、遊びとぐに始めることに躊躇していた。少しの時間をおいて遊び始めると徐々に誘われ嬉しさで気持ちが高ぶっていた。	2.対象至児の近で対象児見た	保育者1は全体を見守る位置で目視していた。保育者2は鬼ごっこを始めたことを認識していたが保育室テラス付近にいて、ほかの園児と関わっていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	担当者はにい園庭が、転倒の瞬間は他児の様子に目を向けていた。	職員配置は十分であったが、予測できなかった。	職員は遊び中の危険を予測し、言葉かけや園児の遊ぶ様子を見直し危機管理について意識を強く持つようにする。	
3283	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	竹馬をする時の全安に配慮し、周知全体で行なう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	運動にチレンジする時には、いろいろ事故防止のため、安全対策を講じるとともに、園児危険に回避につ組みなりを心がけ。	遊びをさせ危険をし、事業者に園児危険につる取り組み伝える。	1.集団活動中・見守り	—	見守りや指導を丁寧に行なう。	1.いつもお様で子あった	運動会に向けて、竹馬チレンジを頑張って組んでいた。	2.対象至児の近で対象児見た	本児は、普通障害加配の対象児なので、近で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	子ども達が遊ぶ時には、必ず傍で保育者が見守っている。	—	竹馬にうまくなっていても、引き続き見守りや指導を行う。	
3284	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園こ	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	職員配置は必要な時間帯や必時間内容生活活動内容生活の流れの把握を職員連携をとることが十分でできなかった。	再発を防ぐため、今回の事故を通して職員や園児の安全管理について話し合い安全マニュアルの確認を行った。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	5	遊戯室が廊下に給食コーナーがあり、何かになっている段ボールがにきたとき。	兼ねる一角に夢っと差付こそれ気がかあ	1.集団活動中・見守り	遊戯室が廊下を兼ねたフリースペースになる配慮をしていた。	活動内容にあった環境にない場合は、環境の見直しを行う。	1.いつもお様で子あった	園庭で遊んで、片付け後に行う生活習慣の内容も理解してできるが、友達の関わりによって追いかけごっこになったりして遊びになった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	荷物を持って園児とも室に保育室へ移動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任は次の保育の準備のため職員室にいた。	園児玄関から保育室への移動時にフリスペースで遊びが移動していたが要因考えられる。	園児玄関から保育室への移動の際には職員は、移動を始めた最初の園児とともに行動し、指導が行えるような職員配置を行うことを共通理解した。	
3285	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64			15	15	16	18			5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	転倒等の原因になる園児の動きの詳細なマニュアルが整備されてく、予測可能な園児の行動児についてから普段の話しが不十分だった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	97	1.定期的に実施	96	なし	事故防止チェックに転倒リストを追加	1.集団活動中・見守り	異年齢合同で園庭にいて、園児の行動を把握の難だった。	集団遊びの青教論と混ざる全体が難しいの場の位置を慮する	1.いつもお様で子あった	活発な園児で普段から身体をかすことが好きである。担当保育教論がクラスが担任だった児で遊びの団遊び様子だったので途中から、混ざって途中から、当保育のエプロンを担当教論のエプロンを掴んでいる。夢中で掴まれ、保育教論が走った出し途端バランスを崩して転倒してしまった。途中から	2.対象至児の近で対象児見た	午前中からクラスと園児の同じルール集団遊びをしていたので同じ感覚で周囲をみていた。本児しも理解しているとも思っていたが遊びの途中から急に混ざったルールざめ理解度の認知が把握ていなかった。また、担当教論のエプロンを掴んでいたがエプロンだったので担当教論も	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢合同で園児の把握をしていた。集団遊びの様子はなかった。	なし	担当職員が子ども瞬時に行動予測できるスキルを身に付ける	
3286	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	28									19	19	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨関節骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	研修や会議に職員の質向上に努めたい	1.定期的に実施	261	1.定期的に実施	261	1.定期的に実施	261	—	安全チェックは、常に物解ないこれ必要とはいるもいたいとしてでもからっ行い	1.集団活動中・見守り	—	ごとにコーナーのテーブルにブルスてい環境を作る。また、階段など逆にあるなどを登そうなる設置する。	3.いつも発動でも活活発た(理由を記載)	本来活発なるが、友達がやると真似ようとしたあった。	コーナー中の場所にいるほかの子の対応をしたので、怪我にを未然に防ぐことに遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の着替えおうとしているところ、向かったため、向きを逆方向で実際に見ていない。	現場に慣れた職員が新人職員だったので、ルールや約束事対応にるが遅くなった事未防ことなるため故を然ぐに対応	新人職員で動けるような現場でもその現場に合った具体的な対応策などを共に会議などを行う。	
3287	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38			18	20					7	7	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基以上配置	2歳児が飛び降りて高さは高々に高さに慣れるよ必要である	低い場所から地を経験し、高さがあるも挑戦できるように指導する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2歳児が飛び降りて高さは高々に高さに慣れるよ必要である	2歳児が飛び降りると高さは高ため、高れな必考えは高ため、慣れなによりだとられる	1.集団活動中・見守り	本庭園は園児に、飛ばせて今ようた母は担当ようなと見せたの回も保育をしたこと見せたかとられる	気持ちを受けつも、正しい飛伝発わ合指導びをたり合する達せたを	1.いつもお様で子あった	年上児の見て受け、まで刺激を見て、それにできたあって、保育士にもいたられる	母と一緒にことにいて、見てほしいという気持ちも感じたられめて見ていて夫だ判断、落下見ていて丈と、地点で守っ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見ていてほしいという気持ちを優先して、見ていた。	本児のていしい持ちを優先して、発達に合せて段階を踏み援助をしていくことが必要と考えられる。	徐々に高さを経験できるように改善し、徐々にころがらも飛べるように着地の方法など指導する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									発生時の体制																																																				
										異年齢構成の場合の内訳																																																			
			施設・事業所種別	事故発生時						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																												
No	認可・認可外			月	時間帯	発生場所		人数										教育・保育等従事者の内訳	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3288	令和5年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	43				23	20				4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	7	1. 基準以上配置	—	4月当初でもあったことから、いつも以上に安全面で配慮が必要なことをミーティング、職員会議などで徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	2～3	—	遊び慣れた公園の遊具が、それだけに緊張感を持ち事前全点検を怠らないようにする。	1. 集団活動中・守り	屋外で遊ぶ時は事前に注意喚起を行っている。雲梯等遊具を使う場合は保育教諭が必ず子どもだけでは使用しない等のルールを決めた。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	年長組に進級したばかりで気分が高揚し、普段より行動が見られた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもたちの見守りつつ、対象児は離れたところで遊びの見守りを含む対象児含めを見てた.	1. 担当者・対象児の動きをしていた(至近距離にいた)	職員が雲梯誰梯にいて目いない状態で、対象児ともう1名が雲梯でしまった。近くに滑遊ぶ達いたが台でいた子ども子どもについていたが、対象児を見ることができかった。	雲梯を使うときは必ず、職員が付くようにもたちにも周知する。	
3289	令和5年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	26									2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内上顆骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	鉄棒使用の注意事項等の確認不足があった。	事故発生した職員全体へ周知し、現在の園庭で遊び方や遊具を使用する際の注意点について再検討した。特に使用されているマットルの安全を確認、一つの鉄棒を使用人数は、達成度に合わせて1～2名までとし、職員は園児に届く位置（横か前）を見極め	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	・鉄棒付切が簡単に近はなく、単に園児寄っていきがすいになる。・クッションマットを敷き、対策を講じた。	・鉄棒の下のマットクッション性、劣化も、引き続き定期的点検し、鉄棒付近に寄っり、遊ないプランターを置き、制限するようにした。・保育教諭がいない時は鉄棒を使用しない束になっているが、使ってしまい事故が発生する可能性もあるの	1. 集団活動中・守り	・午前中は鉄棒を使用した設定で、鉄棒とした自持つ児に増える論のあり応の範囲まで、ままえの対応をまた、増ときの対応を打ちかせていた。・鉄棒使用する園児に、鉄棒以外の園児への対応発生	1. いつもより子あった	午前中の使用した設定保育で、園児が自信つき、自分で大きくなった。	対象園児の正面に立ち、見守っていた保育教諭が3歳児の近寄ってきて、「どうぞ」と園児の方を向けた。	1. 担当者・対象児の動きをしていた(至近距離にいた)	4歳児クラスは、園を遊びの準備運動でトルし、解決で取組みを見るために棒へ途中で3歳児クラスに移動クラス保育教諭は、ボールをそ	当該園児は中前中に鉄棒使用で3回の成功自信がついたと思い、自信がつこよって意欲になるかもしれないこと、成功しないもしれないこの予測ができなかった。他の担任がトラブルが発生し個別対応をする時には、子どもたちの安全確保のため、いったん活動を中止させ、見守りを代わりに行う職員の依頼をするなどの対応をする。安全確保が難しい場合には、鉄棒は使用しない、園児の鉄棒の補助の変更については、担任間で情報共有検討してから変更する。異年齢クラスと合同で園庭を使用する際には、クラスの活動範囲	
3290	令和5年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	58									7	6	17. 5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	— ・体育館など初め場所での運動会の際は、職員間で安全策の研修を行なう。	3. 未実施	—	3. 未実施	—	3. 未実施	—	・ゴールテープに落下ると・普段練習場所、広さ、因考える。・ゴールがちち滑るの段ともは場、広も要としてられる。	・運動会場を行う場合はルテープを使用せを方法を変える	1. 集団活動中・守り	・普段の練習とは環境が違った。（足場、トラック、会場の広さなど）	1. いつもより子あった	—	2. 対象至で対象児を見ていた	—	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	—	・巻き付けると同時にゴーテープが張られっ引らの倒し・普段練習の時の員では職使員が足り	・練習時と違う職員は持たない、不可能なので使用しない。・予測して危おらず、もし危険だと思った場合には改すぐに改善、実行していく。	
3291	令和5年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園こ	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	25									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	3. 火傷	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	3. 子ども同士衝突るものにもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置	・活動内容、人数、子ども数、動もに即し安全の足も達の面から不足・一日の中面配慮・保育の時間に、午後の対する配慮	・子ども安全達が過ごす為の幼児理解に基づいた幼児の動きの検討、研修・活動時間と活動内容が適切であるか保育計画の見直し	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	保育室の広さ（49．00㎡）、幼児の（22人）環境、活動時間、内容に対し、安全面の配慮が欠けていた点。 危険予測の不足。	環境（保育室）、人数に対する内容を、安全面の観点から再検証し再発防止に努める。	1. 集団活動中・守り	・降園前の時間は本来「一日の振り返り」、「絵本の読み聞かせ」、静的で活動的な過ごす時間帯であるが、子どもに求る受け入れ、突発的に動容を取り入れた点。・本来コーナーゲームは動的であるが、保育者は保育室内の広さを考え、安全に逃げるは歩くを提案し	・一日の保育時間、保育計画は根拠に基づいていること を環境を考慮しながら保育教育を行っている。・職員間での研修、話しの中で、子ども達の成長発達の様子、興味関心、生活する姿から、事故発生の危険性を環境面より排除していく。	1. いつもより子あった	保育者から提案され、ルを守り集団遊びに参加	集団遊び際中、クラスの子ども達と共に動いていた対象児にことのあるできた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	加配保育者無	学期入園生活児も安定ども達ムに動くようになった為、保育者は一つの一活動して定面安で認識が薄いでいた点。	一日の保育育振り返るのをする中で、活動が発達していたか、物理的環境、人的環境を意識し、学年の運営会識の中で保育計画を考え、次の保育に活かしていく。また、その振り返りを全職員が共通理解できるよう話していく。	
3292	令和5年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	55				15	40				10	7	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外果骨端線離開	2. 自転車倒・突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	事故発生可能性対策と意識が足かった。	職員間の図携連携り、ものや予測し、安全面にして意識留意保育たる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	—	・テラスから園庭出る場合、階段（2段）を利用しなければいけない、慣れると・つまずき外し、怪我みみ等、繋がってしまう。	・普段使いれて階段慣いるでも、思わ思ないにつなる意識がある意識とをしながら当保育たる。	1. 集団活動中・守り	・急がせないったかったが、気持ちが焦ってしまったのではないと思ったが、言葉見かけや取り組めたと思う。	・活動に見余裕をもって取り組めるように配慮した保育を行う。また行事前の高揚感や対事故に、落ち着いて行動できるように言葉をかけ	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段運動遊びは積極的に、運動会は楽しみにして意欲的に取り組んでいた。	4. 対象児の見ていた	対象児が補給ため保育室に入って行っていたが、スペスから園庭に出てくるは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	側長が過後、対象児がテラの降段よりの園をまでに、降りとして足をつかけ、縁に引ったため、その瞬間ようなったその瞬間ていかった。	対象児の焦りから、ちりの動きを予測できなかった。	・今まで使い慣れた場所でも、その時の子どもの心理状態や状況によりより危険につながることを職員間で共通理解し、子どへの指導にも留意していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制																				ソフト面																ハード面									環境面				人的面								
			施設・事業所種別			発生場所			異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者の内訳																																												
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3293	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49			13	22	13	1		4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	本児は骨全形成不全という病気を持っているため、転倒による骨折を防いでいくために、行動を把握できるような職員配置をする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	骨形成不全症による骨折	病気により骨がすごく弱いと共に、骨折しやすく職員が遊びを理解すると共に、本児が遊ぶ常っんでいる。際は見守りにくいこと。	1.集団活動中・見守り	—	本児の病気を常に意識し、転倒などにつながらないように、環境を整える。できる限り行動を把握する。	1.いつもお子様であった	いつもの様に喜ぶように戸外へ出る。園庭の砂上でジャンプして遊ぶんで戸外へ出る。園庭の砂上でジャンプして遊ぶ場ジをんでの出来事後、すあった。	3.対象から離れたところ児が見ていた	本児から3メートルほど離れたブランコの前場で、砂場で座っていたところ立ったことを上がろうとしたところ立ったところ、転んろうとしまったと見えたため、すぐに駆が、転んけ付ける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で降園する保護者・園児や、他児とかかわっていた。	—	職員同士声を掛け合いながら、あらゆる危険を想定しながら見守る。	
3294	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102		17	11	24	25	25		11	11	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	—	各年齢で職員の配置や見直し、マニュアルや事故防止検討会で再検証していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	毎月の安全点検で起こる事故が起こる箇所を知り、事故防止に繋げる予防策をしく。	1.集団活動中・見守り	園庭の向いの田ぼを稲刈りをしておりフェンスに子どもたちが集まって、教諭が見ていたため、事故当時は背を向けたり、他児の遊びの見ていた。	全体や個々の遊びの見取りができる職員配置や職員掛け等の綿密な連携をしていく必要がある。子どもの安全や遊具や遊び場の注意点等を遊ぶ前の状況を見ながら伝えていく。	1.いつもお子様であった	１０時かに元気に園庭で遊んでおり、そのうちクラスのクラ友達がようなっている雲梯に興味を持ち、その日もの挑戦していた。	4.対象児の動きをていた	本児の担当砂場は任に、もう１人の４歳児担任が固定遊具に配置していた。担任は、本児が雲梯に挑戦し始め際はいたり、指導したりしていて、慣れてきて２たったっては、着地することが繰り返しなったため、もう１人の４歳児担任が本児の側で見	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児担任が移動したが、変わらず本児は繰り返し雲梯に挑戦していたため、周囲の教諭は離れた所で守っていた。事故が起こった際は、他児の遊びをみていたため目を離してしまっていた。	—	個々の運動能力や興味を把握した上で、危険リスクが高いリスクが高い遊具には対処すぐに対処できるよう必ず保育教諭が付く等の配慮が必要、また保育教諭と保育の情報共有と連携、園庭での見守りの再確認をしていく。	
3295	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25								4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	回数を重ね、本児が跳び方がおかっていてきたため、危機意識が緩んで分あった。	活動前や活動中に活動中に箱の跳び箱の指導の仕方について複数の職員はしたの、故予防について深くできなかったため、意識が足りかったと省。今後の活動でかしっと話していたはり合きたこと反を。	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	子どもの発達や運動能力を考慮し、跳び箱の高さや向きが適切か活動ものか、どうか検討必要と再度の切かどう検討必要。	定期的にしての実施いるので、継続していきたい。	1.集団活動中・見ありり	今のものや運動力に活動の子どもの発達能力や運動あっかが必検討が必要だった。	子どもの発達や運動能力を考慮し、活動内容を見直す。	1.いつもお様であった	運動は得意な方ではないが、段階を追って繰り返習し、跳べるようになるまで、跳び箱の練習をしていくことった。今回は、タイミングが合わなかったため、手前で踏ってしまい、手を位置前になったため、跳び箱の上にのめった	1.対象マンモス児とンマン状態(対象児として)た)	必要に応じて補助ができるよう、跳び箱の箱の高さが、タグに職員が合っていたが、対象児が跳び箱を跳ぶ際に、ミングがいたのをべしたが、間に合わなった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にた)	演習だったため、その位置ぞれ立ちそれの集てい。	予行中ぞれの役てた。	危険を伴う活動であるため、活動を入れる際は必ず職員が付いていた。危機意識あったが、回重う大だ心数をねるちに夫安をと感持ってしまった。	クラスの子ども達の発達や運動能力などを見直し、取り入れることがふさわしい活動かどうかを職員間で話し合い考える。	
3296	令和5年3月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	45								8	8	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩部骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	補充もできたこと職員もあり、何かがかなっていたり、起こるからという感わかいと危機意識を保持って足っていることを姿勢が足りなかった。	常に危機意識管理をもち、事故等への応答実に対応を確認をしていく。また、何かこった場合、職員一人ではなく、看護師や管理職に相談する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	4	定期的にしての点検をしているが、今実に行に確検を常にもの環境が点検、子ども遊ぶ環境をチェックしていく必要がある。	特に施設面では、施設の理由故が理由故こっての起こっていたはいが、期的な点検、確認、修繕を行い、安全への意識をもって安全への点検、なを行うようにする。	1.集団活動中・見ありり	廊下、廊下の広い、トイレ、子どもたちが遊ぶ場所であり、空間は十分にとっていたため、廊下は誰が行きやすいように、交通整理をしたり、環境の清掃をこまめにしたりする。	運動などを動かすことや遊びは体を使ったプレーム（遊戯室）で行う運動会や遊びは、子どもの安全を配慮していくことが必要である。	1.いつもお様であった	運動会の中種目の遊びで、十分に練習を行っていたので、方法（遊び方）は理解し、友達と話して遊んでいた。	2.対象児の近で至対を見た	担当職員は鋼を動かす役をしたり、本児目ていたが、姿は入っていたが、少し早く鋼を動かした方がえたため、もがなっていたが、子どもの状態等をにしまい「い」と声を掛けを出した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、保育室で遊ぶ子どもの様子を見ていた。1対1の子ども一対の1人は1対1で他のクラスへ出かけた。	守りから遊び見ながら共にいたが、一人の状態を認ここ怠った。	・「こうしたらどうなるか」等、常に予測を立てて次に行動に移るように心がけ、安全面や配慮を十分に行っていく。・常に子ども達全体の様子に気を配ると共に、一人一人の様子に気を配るようにかける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷					実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3297	令和5年31月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29								27	24	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	教師は厳密に一人ひとりの現在の身体能力を現在の身体能力を共に体能把握できていなかった	一般的な事故を想定するだけでなく、園児が活動する多様な場や用具まで事故防止予防を考え合えばいマニュアルは議事録として残し教職員に主全員徹底する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	移動遊具と固定遊具をせてる合、安全わ使用場合、安全がとりを精査することが足りなかった。	安全に園生活れるように細やかにさらに安全点検する。	3.個人活動中・見守り	自由活動を行う時間でほぼ竹馬を全員選択し遊んだが特に支援が必要な児に対し個人的に支えるわけではなかった。	竹馬など差個人差のある遊び同士の連携では教諭が別に保育状況しっかり確認しつつ指導しつつ個別のさらに行う配慮を密に行う工夫が良い。	3.いつも活発的であった(理由記載)	前日に鉄棒の逆上がりができるようになった運動で積極的に取り組んでなる気持ちが高まり、苦手意識だった竹馬に取り組んでいた。	3.対象児から離れたところ対象見ていた	少し離れた所から、自ら姿勢を崩さずに頑張っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれに園庭で竹馬を励んでいる園児5～6人を見守り、指導していた。	竹馬遊び始めて目で竹馬バンブーフェスティバル(参観日)を指している期間で、園児それぞれ目標に向けての児に対してこという	個人的能力差のある遊びでは苦手意識のある園児や体力途上の子どもを個人的にしっかり関わり、より安全な場を知らせるなどの配慮を細やかに行う。また、教師同士の連携や連絡を常に共有し事故を未然に防ぐ。	
3298	令和5年31月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32								1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.あり	2.不定期実施	3	2.基準配置	保育担当は別に態度は必ず事故があった場合は付けれる職員が園内にいる	今回の事故を全職員に周知し、リハットに加えて共に注意喚起を促す	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	2.不定期に実施	2	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	円柱の遊具の遊び方のきまりをしっかりさせる	1.いつもお様の子であった	男児と運動会ごえ、男児の真似をしてスをした。	ごっこ考、男児をバラ遊びしていた。	4.対象児の動きを見ていた	他の園児と集団遊びしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他の園児と見ていなかった。	—	全体が見れるよう立ち位置に配慮しながら遊びの様子を見守り、怪我につながりそうな行動は止められるよう繰	
3299	令和5年31月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	70								4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	身体の育ちの側面あるいは、子ども経験安全のもの的に遊具あっては遊具のつことある。	どのような遊具もケガなる可能性があること、子どもが自身の体育ちを考えながら楽しく遊びをすることにする。	—	—	—	—	—	—	—	—	1.集団活動中・見守り	慣れない環境、魅力的な遊具のある子どもたちが意欲的な興味に活動し、そうした時に意欠けることがある。	慣れないでの環境活動であることを考慮し、保育教諭は事故を想定した保育案を考える。	1.いつもお様の子であった	自宅近くで園児の公園の繰り返しに挑戦していたがようなことでおりその担任ても切った。	2.対象至児を対象児を見た	雲梯をする見しい姿を欲しと言われ、本児の取り組む様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていかった	—	園には雲梯がなくてきうったことを披露がかったので、この時は張り切っていた。そうした子どもの意欲を自信を大切にしつつ、ケガの可能性についても伝え、子ども自身の危機管理能力を高めていく。	
3300	令和5年31月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯科脱臼	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	マニュアル確認不足、読み返しがみ不足していた。	職員の配置場所や事前に意識の持ち方を職員で見直す。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	環境に適した職員の立ち位置や子どもの対する配慮がなかった。	遊具や玩具に問題はなく、職員と保育と対する持ち方を再度、検討する。	3.個人活動中・守り	遊び場所や食後の環境整備に対する意識が低かった。	今回の事故を機会に再度、職員への周知徹底を意識し努めていく。	1.いつもお様の子あった	昼食後、同じ普段と床にてクしていた。	3.対象児から離れたところ対象見ていた	保育室内の様子を見ながら、昼食中のものをした。の姿は提たが故が起こった瞬間は見なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記と同様、対象動揺しも事児の把握していたの、故の瞬間は見ていなかった。	子どもや姿や行動に対する配慮意識足りかった。	食事と遊びに分かれて、それぞれが保育を行う。	
3301	令和5年31月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	46								4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.あり	2.不定期実施	7	1.基準以上配置	練習時にコーナーに人ずつ配置し、かけたら良かった	今回の事例をマニュアル化し、改善後のにつなげる	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	落ちるなどはなく、地面コンディションは悪いものもなかった。	特になし	1.集団活動中・守り	コーナーに人員を配置し、掛けたら転倒を防ぐ危険性があるもしれない。	コーナーに必ず保育士を配置する。	3.いつも発活活でを記載)	勝負をしっかり意識し、大変意欲的に取っていた単独で	2.対象至児の近で対象見た	コーナー手前で体の全を見て	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	ゴールテープ意のために移動しながら走る様子を見	がつたかいが動いてが動してが痛が予測ができかった	怪我をした後、痛がる場合やかき場合は様子を見ずに病院へ受診する	
3302	令和5年31月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	78			24	25	29			9	8	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	日常遊びは園庭をいるが、園に行くは少ない。	シーソーの事故を防ぐ、子ども自身の体育ちを考えながら楽しく遊びをすることにする。	—	—	—	—	—	—	—	—	1.集団活動中・守り	本園では、子どもたちが自分で考えも自分で遊ぶ意志で遊びようにし、自己力量や挑戦のら挑戦を中止を決められる環境をめ環境にすることで、子どもが真に育つと信じ保育を進めている。	子どもの意欲を大切にしな、遊び慣れていない使い方や順番待ち時の約束などを、改めて理解できるよう努める。	1.いつもお様の子であった	事故前日は、体調不良(風邪)のため欠席した日は元気になって登園した。	2.対象至児の近で対象見た	シーソーに担任が付いた、本児以外も、同ラスどもがまっていた。シーソーの中央近で	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人が全体として園見た。本児が落下した事故を見ていた。	本児は直後に場少し所ていら	本園では、子どもたちが自分で考えて遊ぶことを楽しめるように、自己力量や挑戦を中止を決められる環境にすることで、子どもが真に育つと信じ保育を進めている。	公園で遊ぶ園時も同様で	全公園を体全体を見た。本児は直後に場少し所ていら	本園では、子どもたちが自分で考えて遊ぶことを楽しめるように、自己力量や挑戦を中止を決められる環境にすることで、子どもが真に育つと信じ保育を進めている。	公園で遊ぶ園時も同様で	久々の公園や園庭には無い要素のある遊具を使用する時は、子どもたちに、	慎重に対応するように、遊び方・待機の仕方を含め、遊び始めに	丁寧に確認するようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3303	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									3		3	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼(上前歯)	5.他児危から害を加えられたもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	突覆ってぶつかった他児は、配慮をすることもわらばそれない児童とがいる。職員の自分の場ばを気持ちをしに見ていた。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	突っこした子育児に保育より空間は、いつもより走っまは、それぞれが開放感がありそれめるがそいてた。と職員はいなかった。	事前にその日の流れや注意点を確認し、普段のホールの活動とは違うことを伝える。状況によっては子どもにそれぞれ等、配置のつくりをその日の職員配置を都度、再考する。	1.いつもどおりの様子であった	発表会の練習中だった。本番は1グループの遊戯を見ようと座った先にいてくれるところに、前を横切ってくれるとくすぐったくて、左横から突進してきた他児が覆いかぶさってしまった。	3.象からた児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたち（対象児も含め）と一緒にルーテで踊ったり、ステージ上でいるもいた対象児とは少し離れた位置に座った。その児が覆いかぶさってしまったが、本児けがをしなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ステージ台や舞台で子どもに遊戯を教えて上袖もいた為、ホール座ってでいるステージ子どもや、ていた子どもの動きは見ていなかった。	各々の職員が、自分のそれぞれ子どもをみるもたり遊戯の準備をしていて、全体を見ていなかった。子どもの様子をにかけながら、状況に合わせた同士で	職員全員が自分の持ち場を見ながらも、全体の子どもたちの様子も気にかけ、声を掛け合う。	
3304	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	76				26	23	27			6		6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨・尺骨単純骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	基準は満たしていたが、2号年長担任が休みの日であった。経験のまま保育浅い職員も一人の職員が複数の見習びを遊び状態守るだった。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	7月の業務の点検は、今故が事故の起きたロープは、ご部分ニーバーはいたビニルカ交換はいた行っかっが、破れなどカバーの劣化は状態。	ロープビニールカバーの修繕を行う	1.集団活動中・見守り	「今は使えません」の表示はあるが、口の裏側にはあったが、登りの裏側にはなかった	固定遊具の開放に関する約束を園児と再確認する・表示を登り口の裏側にも置く	3.いつもも活活発であったを（理由記載）	一緒に遊んでいた妹児が複数人追いかけ、遊びに登っていった。	2.対象児の近で対象児見ていた	発見者は遊具積木登りの見守り中。未開放の遊具に登り始めた使用しない声をかけた。木登りをしている高いところにいた児が、声をかけた直後に登ってしまった。声を後ろから向けては再びそちらを向いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の他場所で、鉄棒ゴムとびなどの遊びについて見守りを行った。	棒飛ほ遊びをしていた。	・大型固定遊びで園児のいたが、開放だった。・他に大人見守りを必要とする遊びが複数あった。・送迎保護者の者のも	・保育者の人数が複数いる場合は、大型固定遊具の開放を心がける。・園児に声をかける時、動作のまず行動を見守り、意識を途中には向けて大人に安全な状態になってから伝えるようにする。	
3305	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2		2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	5.他児危から害を加えたもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	職員配置は問題はなかった	なし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	施設、設備等には問題はなかった	なし	3.個人活動中・守り	保育の状況には問題はなかった	なし	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	給食後、教室内の食後の様子を見ながら、多目的ホールの下の所かと友達とそんで所を走ないの声を見ようかけた直後は走っていた。後転が、そんだとは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれクラス活動中	多目的ホールにいた職員は児に係わっていた、転んだ子どもの様子が解らなかった。教室からかけた教師も事故の様子には気づけなかった。	教室から声をかけた時に、もう少し様子を見守るべきだった。 降園時の視診を丁寧に行う。	
3306	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	68				30	17	21			4		4	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	2.自転車倒転倒によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	危機管理研修不足	危機管理研修の受講	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	施設設備関した見直したが問題はない	特にない	4.個人活動中・子ものみ	バスの子の達し乗車子ども降園もい誰もいない教室になった	誰もいない教室に行かないに伝ええる	1.いつもどおりの様子であった	スキップけんしをそんけてでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	多目的ホールで関わっていた他児に対象児しことにが移動した気づかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	多目的ホールで他児とわった。	課外活動で子どもが待たるものに、バス降園後の園内巡回。	課外活動の体操教室と連携をとる。	
3307	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46				12	11	23			4		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手上腕の骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	全体を指導保育していたため、雲梯保育者がくしていた。	雲梯につける職員がい場合は、雲梯の使用禁止とする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	運動遊具の点検を続け、遊具の下や砂の状態にも配慮してことを必要ける。	運動遊具砂が移動することあり、安全シートの状況に毎日の点検を行う。	1.集団活動中・守り	全体を見ていたが、慣れて遊ん雲梯にすぐ守られて職員がいかったため、子が梯横に揺も揺落下した際に、補助することが出来なかった。	子どもたちが雲梯を使用する際は、職員が必ず補助に入り安全を確保する。また、がきが合の使用は、その時間は禁止とし、指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯が上渡れに手にるなり、楽しくてぶらしくて下がって体を揺らしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体の様子を見ていたため、その本子ていた、瞬間の様子児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当4名以外の職員は、各のクラス環境整備をした。	基準以上の配置をしていたが、各遊具に1名の補助には至らなかった。	子どもたちが雲梯を使用する際は、職員が必ず補助に入り安全を確保する。また、職員が補助できない場合は、その時間は使用禁止とし、指導を徹底する。	
3308	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21									2		1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の肘骨折	3.子ども同士突の衝によるにもの	1.あり	2.不定期実施	6	1.基準以上配置	尻尾取りゲームにが夢中になり、周りがいなかった。	ゲームの楽しさだけで危険性も知ら約束事を守って加するように指導する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	夢中になるは前ゲームを見ないくて見ないかける子、追い子乱れるりの子、逃げ入れる衝突が起こやすい。	21名が夢中にゲーム行うは、園児に区、密も園児に区、密も半分に、密を半分に、密を広げて行うと度で衝突避け易い。	1.集団活動中・守り	—	保育教諭は全体は良くしっかり守る。危険を感じたらを動きを制止する。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者も一緒にゲームに参加していたので、危険を察知するのが遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	園児が夢中になるゲームを行うときは、広いスペースで行う。前をよく見て走るように注意する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面									ハード面								環境面		人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
3309	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔　挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	5	2.基準配置	—	一人ひとりの生活に流れに合わせる全員が一つの事が終わるまで落ち着いて行動がよれるようにしていく。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	—	少ない人数でも机などもの合並べて配置し子ども動きせた方に留意しべく意しく	6.食事(おやつ)中	—	子ども達が落ち着いて動ける室内や言葉かけをしていく	1.いつもどおりの様子であった	常に落合月の様子もないまでみられがみられた、保育者の注意の言葉の言葉もなか入っていかない	2.対象至対児の児の近で象見た	部屋の中では走らない、今は身支度をする時間であることを何度も声掛けした	—	担任が1人で見ていた	—	保育者も言葉かけ注意喚起を常日頃しているがなかなかいかない子どもでもある為、関わり方についてもう一度考え保育者全員で共有	
3310	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	200				70	60	70		35	35	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	3.子ども同士突衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	怪我のあった遊具については保育者に周知を行う。	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	3	—	遊具下マット横にコーンしどを設置し、子どもの変化を詳細に点検する。	1.集団活動中・見守り	—	職員が危険箇所に気配りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり健康であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びを見守る形をとっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びを見守る形をとっていた。	—	他の保育者と共に危険な遊具について早く気づけるようにする。	
3311	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折・両膝挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	—	園外での事故の場合の職員の連絡体制の確認を園児の日常的な健康チェックを行い、安全指導を繰り返す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	—	日常的に使用する出入口で安全確保状況を話し合う。事故を未然に防ぐ手立てを職員で共有する。	1.集団活動中・見守り	—	年長児になり動きことは成長段階として好ましいことが、自身の判断ができず周囲の動きに流されやすい(一人出が走りと、それに走りつすることなどを踏まえ保育する。	3.いつもより活活発でした(理由を記載)	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	とっさの動きに対応することができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ園児を見守っていたのでふ、本児の動きを見ていなかった	—	門をくぐり走り出すことは予想できるので、きちんと玄関まで並んではいることを約束事として決める。転んで手当てをしたときに、患部のみではなく全身状態の変化・異常を確認する。	
3312	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	—	進級時の気持ちが揚がっている子どもの子きての動解のかり、遊びの環境について見直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	—	入園・進級当初の室の環境づく、安全を考慮し、対策を考える	3.個人活動中・守り	—	兄弟で在籍している場合、その姿を求め探し回り、自分の遊びにきとが考えられる。興味や関心を捉え遊び生活の流れを意識して言葉が不足していた。保育者との信頼関係も十分結べる時期やりて、職員間で話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	—	1.対象マンツーマン児の状態(対象児に接していた)	対象児、自ら遊びだした遊びの動きさに対応することができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各保育室で遊ぶ園児を見守っていたので、事故の状況を見ていなかった。	—	３歳児の進級当初は危険が伴うのでビルドバランスの遊具は、使用しない。	
3313	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	36								3	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	—	—	—	—	風邪からくる熱性けいれん	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	急な体調の変化を予測できなかった。	急な体調の変化に対応できるよう、機嫌や体調の変化を見極め、職員間の連携を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	—		1.集団活動中・見守り	対象児もしんでいるが、ステージ上は、テージの上に座った体調がくなくめたったられる。	保育教諭は子に感じた子どもは、その様子に違和感を感じ、対象児の気付きに敏切な対応ができた。	1.いつもどおりの様子であった	登園後、特に体調が悪い様子は見られず、踊りが大好きでステージで楽しんでいた。	2.対象至対児の児の近で象見た	対象児はステージ上にいて、保育教諭はステージ下すぐに手前にいて声掛けを掛けたり一緒に踊ったりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	プレイルームでいろいろな遊んでいた子どもたちの遊びを見守った育者が行き、保育蜜を楽しんでいた。	急な体調の変化を予測できなかった。	職員間で連携を図り、いれんを起こしたことがある子どもは特に様子が急変することも予測しながら、体調の把握に留意して保育に当たる。	
3314	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	23								7	5	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	職員の両手が手を繋いでいるものうまった。たが手繋いたりて子どもの間いて子たちの空いた。一人一人一歩幅の違い。	両手を繋ぎながら全ましょうしし、体をわしながら臨機応変に動く。子どもは沢山動いてでよく。遊び活動きに、遊び夫しを工夫していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	園外での中の活動為、特になし	園外での中の活動為、特になし	1.集団活動中・見守り	園外での中の活動為、特になし	園外での中の活動為、特になし	1.いつもどおりの様子であった	他児と手を繋ぎ、園外保育活動前の集中、児童に迫って、いっこう急ぎしと、走ってた歩幅まり、合わずが合わず転倒した。	2.対象至対児の児の近で象見た	本児の後ろの児童と一緒に最後尾を、走ってあるいた前方に歩いて本児に声を掛ける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	前方を歩き、各周辺の児童を見守り安全に歩行を道るようにサポートしていた。	特になし	子ども達の状況に合わせて、一度に同じ速度で目的地へ向かうのではなく、２つのチームに分かれて速度で進めるように工夫する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3315	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	2	4	5	5	5			26	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	朝礼台が時幼稚園ものを使っていたため3歳未満児が3歳以上児とは同じような遊びを背伸びし行い、飛び降りるというリスク管理ができないと想定かったことが要因。	朝礼台の撤去、臨時保健安全委員会を開催し再発防止策を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	朝礼台は通常園庭に放置してあり、3歳以上児が飛び降りるとしてことを看過しており、そこに3歳未満児が昇ってしまうことを遊ぶ想定いなかった。	朝礼台は通常園庭に放置してあり、3歳以上児が飛び降りるとしてことを看過しており、そこに3歳未満児が昇ってしまうことを遊ぶ想定いなかった。	1.集団活動中・見守り	朝礼台で、2歳児が昇り、3歳児の真似をして飛び降りることを想定していなかったため、3歳以上児と2歳児との異年齢児交流の外遊び活動は運動能力と身体発達上の保育者がしっかりと理解していなかったために不適切な設定したなかで起きた事故で	朝礼台の撤去、臨時保健安全委員会を開催し再発防止策を考える。	3.いつも発で的あった活動でした(理由を記載)	3歳児とともに発しいつも活動に行動していた。	2.対象児の近で見た	2歳児担当職員は、手の届く範囲にいたが飛び降りる瞬間にどの子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の2歳児担当職員は、別のグループと一緒に離れた場所でそのグループを見守ったり降りる瞬間にも気づかなかったし、ずいぶん間に合わなかった。	子どもの見守り体制が無責任となっている。	異年齢児交流の際は、担当者制に切り替えて担当者同士声掛けをあい子どもの見守りを無責任にならないようにする。	
3316	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	34								5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首橈骨	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	—	職員の見守り方の見直し、諸注意の再検討	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	児童の遊び育具の指導者の不足	遊具の使い方や約束の再確認	1.集団活動中・見守り	見守り、声掛けが足りなかった可能性がある。	広い視野で見守りを声をかけたり、工夫を危険知しでき察回避するようにを職員間で合う。	1.いつもどおりの子であった	寝不足、体調不良体調不良なく、くせて機嫌よく過ごいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１０ｍほど離れたところで見守っていたが、遊具にっと確認したが遊ばまづくは防ごろは転落は防げかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の二守ったが遊具つく姿認しものは確認ったの、転落は防げかった。	見守り甘さ、指導、伝達不足	一人一人の動きに目をくばり、危険を事前に察知し防げ声をかける。	
3317	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	1	6	3	4	9	5		5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頚部骨折胸部打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	４，５歳クラス児の保育教諭は名だが、１名パート保育教諭ため９時出勤なので８分まで９時１５分～９時４５分の間は保育教諭１名での対応だった為、見守りが不十分だった	３歳児クラスとも連携ながらの作りを。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に芝生生がとおり、所々盛り上がったり所がありやすい。	芝生と土目を確認し、あ芝生の境凹凸がれば芝生を除去する。	1.集団活動中・見守り	登園時間にばらつきがあり、遅くなって子ども登園したものの受け時にそのもの入れ目を離すことが時間ができてしまうきう。	保護者に登園時も間を守ってもらい、時間保育が始まれる協力を通り育ならうお願いする。	1.いつもどおりの子であった	気の合う友達と園庭で好きな遊びをしんで楽いた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園してきた子ども受入、飼育準備等で対象児から少し離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの子供たちを見ていた。	朝の登園後、子どもたちは保育室で自由に活動しているため、保育教諭は必ずしも応じて対応している。また、朝の活動の準備等で離	職員の連携を再確認する。	
3318	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								5	5	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位端骨折・左橈骨遠位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	事故予防マニュアルの作成	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	着地時の指導強化	1.集団活動中・見守り	—	事故を想定しながら後に手範すぐに届く範囲で見守る。	1.いつもどおりの子であった	跳び箱(4段)の着地を失敗した。	2.対象児の近で対象児を見た	跳び箱の横に職員がついた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	遊戯室と保育室遊びとわかれて活動していた各所に職員配置	—	日頃から足腰を鍛える運動を取り入れ、体力づくりに努める。	
3319	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29								1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左腕）	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	行事中に複合的な遊びを行う場合の遊び方の確認が原因と考える。	行事による子供の気持ちの変化や複合的な遊びの中での役割分担しながら安全確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	遊具間の距離ぶスペースについて確認が原不足因。	遊具などのモノだけではなく、設置ペースにも位置ペースについても確認する。	1.集団活動中・見守り	行事の中の子供持ちの変化を定して保の想教育ができ育かった。	安全に配慮してひとりに目が教育・保育活動をしていく。	3.いつも活発的あった活動でした(理由を記載)	行事の中でのうと普段ないをまっ	4.対象児の見ていた	他の遊びの号令をかけて見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの子供たちを見ていた。	—	子供一人一人の気持ち、特性を理解し、事故を注意をはらう。	
3320	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	盆踊りの移動中走って（単ら独）転んだ	無ちず落ち着いて体系移動をするように毎回伝える	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	気持ちと共にも焦ってしまい、着ったり落ちがないは前ときって話しとしもしいく	すべての中で個人に全体にも焦らずるように伝える	1.集団活動中・見守り	竹太鼓の中振りの距離感でを十分友達とってい踊く	常に落ち着いて行っくよ声掛ってい行くけていく	1.いつもどおりの子であった	明瞭活発	2.対象児の近で対象児を見た	自独）な転倒、保育教諭も育手ことができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自ら（単独）な転倒の、保育教諭も出すことができなかった	急ぎなりやすい部分があるため、前もってずらすことに声掛けをしてからすべきだった	保育教諭が常に声かけをしてからすべきだった	
3321	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22								2	2	17.5歳	2.女児	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	・マニュアル等の活用をしながら今後も職員の意識を高めていく。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施	—	・テラスてマッまれ敷いるがずれたトた。	・マットなにがずれない張り直す。	2.集団活動中・子達のみ	・当該クのみラス室内に残っていた。	・担当保育教諭園内で人になる場合は、他の職員が補助入るなどの対策を取っていく。	1.いつもどおりの子であった	・他の子達の支度ども帰りが終わるまでクラスんで待っていた。	4.対象児の見ていた	・クラスにいた園児の帰り支度の手伝いをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・クラス名の退職いは早番の退職ていた。他の職員は園庭で遊ぶ園児を見守っていた。	・担当保育教諭がいなかった。	・保育教諭園児の様子を把握できるようにしていく。	
3322	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	38			13	13	12			7	4	17.5歳	1.男児	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	本児のけ状況がの確認を全完握していなかった。職員室で手当をした職員にも詳しくれ伝えるなかったの対応が遅れた。	職員で聞き取り・アンケート調査をし今後の午後の保育体制を見直す。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	3	—	保育は合同で行う間食は5歳児、4・3歳児に分かれて行う。 椅子の正しい方の座り方確認をする。	6.食事(おやつ)中	—	2号認定児の増加により、5歳児、4・3歳児に分かれての保育を実施。	1.いつもどおりの子であった	段ボールから普段ものを落ちがどもるが弟にかり、弟に気を取られた。	2.対象児の近で対象児を見た	椅子の座り方を再三注意したが指示に従わず、近くにいた保育者が止めようとしたが聞かず、倒してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育者一人一人が、安全に対する意識の高ども預かる命を持って対応にいて当たることを確認しあう。	—	両親と話し合いけがについての説明・職員の対応についてお伝えした。落ち着きのない本児へのかかわり方を含め今後面談をしていくこととした。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3323	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具から転落・落下等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	「遊びのルール」というマニュアルがあるが、鉄棒のルールとしては、①ていやるっ子以外エはリア(地面が茶色)に入らない。②鉄棒の上に登らない。③職員が1上以上付き安全を見守る。という内容あ	「遊びのルール」の記載内容を見直し安全管理の強化を図る。ただし、ルールでがんじがらめにすることは、子ど主体のもの遊びを束縛する一面ができるので配慮していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒の破損個所はなく、地面もゴムチップ装、ション性があるので問題はない。	定期点検、使用点検をしっかり行い、設備に合場合やに善し、安全を維持する。	1.集団活動中・見守り	自由遊びで時間は放持ちがりましたが、頑張ってまっすぎて	子どもた子の様子を細目し、観察ているようなれば無理をよしくしく。状況にて、遊びの範囲を限定し危険ないよう見ていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとわらず変元気に鉄棒度も挑戦して遊んでいた。	2.対象至対象児の近で見てい見た	主担任が早番勤務で退勤した副担任とフリー保育教諭で保育していた。鉄棒のすぐ近くで対象児を見ていたが、瞬間的に落下してしまいどうすることも出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭で他児の対応をしていたため、見ていなかった。	何度も鉄棒に挑戦していたため、疲労がたまり握力低下落てしまったのではないか。	・子どもたち及び職員に再度、鉄棒の安全な遊び方、危険性等について説明指導していく。・子どもたちに細目に声かけをし、無理をしないよう指導していく。	
3324	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40			20	20					3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から転落・落下等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	事故発生時は、園庭にいた職員3人でそれぞれ配置につき、園庭全体をみていた。	うんていと鉄棒等の遊具は職員の見守りのもとうんていを使うルール化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	—	●/●にうんていと鉄棒下部と鉄棒下部に全マットを設置、うんていと鉄棒安全マットを設置、うんていと鉄棒の踏み台部分にコーナーガードを取りた。	1.集団活動中・見守り	当日は夕方の園庭での遊び時間は3.4歳クラスだけが遊び、他の園児は当番の職員が園庭におらず、3人で園庭全体を見る状態になっていた。	保育教諭にはつけ遊具のは遊ばなどのルール化する。	1.いつもどおりの様子であった	うんていで一人下ぶらがっては初めてだったため、下が瞬間にぶらった怖くなり両手を離した。	4.対象児の動きを見ていた	3,4歳児担任3名は園庭に出ており、うんていとは別の遊具について担当職員3名は目の園児前をみるだけで時折、対象児や他の園児の様子など、全体を見ていた。事故発生の瞬間を目撃した職員はおらず、事故直後に対象児が大泣きしたため、すぐ台付近にいたクラス担任がすぐ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員ぞれは持ち子見ていれの場ももいた。	幼児クラス担当職員は声を掛け合ったり子どもの遊びを確認していく。	園庭遊びの時間には複数職員が園庭に出て園児の活動、見守り体制を強化する。個々の遊具のリスクを再考する	
3325	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	50									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折右足部第一楔状骨骨折	1.遊具から転落・落下等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	今回の現場が死角になりがちな場所である	死角を作らないよう見回りを行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	今回の事故に関しはハード面の問題はない	ハード面なし問題な	7.その他	異年齢の園児が園庭にて自由に遊んでいる時間であるため、起こり要因が多岐にわたる	起こり要因を考え、見回りをする	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	その遊具でことは認知していたが、そのさから高降りることを想定していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていた	活動の際に園児達は遊び伝えているが、高さから降りるとんなこっちの方はそのさ飛びるんな	再度、園児高にはその高降りることを伝えた	
3326	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨折の疑い	1.遊具から転落・落下等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	職員は側にいたが予ごろ知ずに危険を防げなかった。	けがをしにくいしなやかつくり体つくりのように日ごろの遊びを工夫する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	施設、遊具には問題はなかったと思われる。	施設、遊具には問題はなかったと思われる。	1.集団活動中・見守り	中あ意と一緒に遊びんだ中あ意と注意なる注意が十分なった。夢中になっていたが、夢中になっていたが、夢中になっていたが、

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
									異年齢構成の場合の内訳																																												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3330	令和5年3月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	16									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左 骨遠位端骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	まごとーコーナーに居る児が席に戻り待ち絵本を読み始めた。	全員が席に戻り着いて絵本から読み始めたが、立ったり慌ててしてさせない。園児が歩く通路を確保して物を配置する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	まごとーコーナーのでは入り口とテーブルが棚により狭くなっていた。	まごとーコーナーでは入り口を広くする。(室内環境の構成検討を再検討毎日検査する。	1. 集団活動中・見守り	本児を含め、子供の動き(居場所)が確認できていなかった。	本児を含め、室内にいる子供の動き(居場所)を適時確認する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	まごとーコーナーにいた他の子が、本児もまごとーコーナーに行った。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育教諭の前に集まった園児に絵本を読み聞かせをしていたが、倒れることに気付くことが遅れた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は隣の園室で翌日の保育の準備などをしていて、子供の様子は見ていない。	当日は延長保育多かった。他職員に援助を求めたがよかった。	延長保育児の人数によっては、保育者の準備中でも他職員に援助を依頼する。	
3331	令和5年3月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上唇小帯裂傷・左前歯の脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	—	日々のヒヤリハット報告を基に、園のような場所・場面で事故が起こる可能性が高いのか、分析し、職員間で共通理解していく。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	25	1. 定期的に実施	24	—	園庭・グウンドの状態は雨風で変やすいので、ごまめに確認し普段から整えておく。(危険をしよう石を撤去した最中に事故が起きたので)	1. 集団活動中・見守り	逃げている子ども(18名)に対して、捕まえる役の(鬼)の子ども(4名)が多かったのではないか。	遊びの内容・様子に応じて子どもの調整していく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこ中ごろ、気持ちがいつもより高ぶり、もっとも揚った。	4. 対象動きをいつ見ていなかった	遊びを見守っていた職員はいたが、子ども達で近くに落ちていた石を見つけ撤去した。目を離した時に衝突が起こった。子ども達の様子を事前に声をかけることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型遊具で子どもが活動していた。	—	子どもが活動していない時に撤去または、また緊急性がある場合は子どもの遊びを一度静止して行う。	
3332	令和5年3月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	—	・ボール拾いの人数が多かったので、子供達と話し合い、順番を決め、少人数での活動にすることが必要であった。 ・活動を始める前に、落ち着いてルールを話し合う事が大切である	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	—	・安全面では問題はなかった。	1. 集団活動中・見守り	—	・保育教諭の配置人数は充分であり、行った場所も安全で問題はない。	1. いつもおおりの様子であった	・本児自身、友達と活発に遊び、友達合うよく遊んだ。 ・の怪我は、友達とボールを競って取ったことを合って時に、つきそ事なったが原因である。	2. 対象を児の近で対象児見ていた	・子供達が競い合っている時にそばにいたが、止めることはできなかった。子供達の活動状況をみて、危険を予測し、少しずつ拾いに行くようにしたらよかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・他のクラスの子園庭に出て遊んでいたので、園庭内に職員はいた。	—	・その日の気持ちやその日の状況をしっかりとらえ、保育の内容や環境の設定を考える。	
3333	令和5年3月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	78	7	16	14	15	14	11			14	14	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	無理な体勢での移動が転倒に繋がったとみられる。園児への安全指導が行き届いていなかった。	園児には椅子の安全な座り方を指導徹底する。職員は園児の注意深く守り、動きを予測し、注意、声掛け、見守りを徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	—	自由遊び中で机の上遊びであり、本座の椅子と机、園児とのバランスを確認する。	椅子、机止の滑りのメストッパーが効いているかを確認する。	1. 集団活動中・見守り	3、4、5歳児が混在する合同保育中であり、保育者が朝の受け等行ったり、保育者が合同保育のため、付などの配慮に十分に欠けていたと思われる。	合同保育の場合、自分の遊び中の集中にするため注意が散漫になるとおもわれる。 個々の特性の見極め、個別の対応が必要な場合は、他の職員の協力を仰ぐ。	1. いつもおりの様子であった	遊びに集中して取り組んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は本児が足を上げた椅子があり、無理な姿勢をすることを認識しており、本児にも再三注意指導していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他職員も本児の様子を確認しており、深く見守っていたが転倒した際、間に合わなかった	特になし	危険行為には、繰り返し声掛けや注意喚起、行動の静止を行うことが必要。手の届く範囲での見守りが必要であった。	
3334	令和5年3月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	26									2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	—	屋外テーブル・ベンチの設置場所で転倒した庭場走るに子どもに声かけを走り、園児が広い場所でうにとどかかる。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	毎日	—	屋外テーブル・ベンチの設置場所で転倒したテーブル・ベンチの配置を再検討する。	1. 集団活動中・見守り	—	クラスの担任も園庭にいたため、職員同士で掛け合い園児を見合う。	1. いつもおおりの様子であった	特に変わったことはなかった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	倒れた瞬間は見ていなかったものの、すぐ付けに駆け対応することができた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児にいた、適切な位置で見守りをしていた。	—	職員の配置場所について再確認する。	
3335	令和5年3月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15	3	12							4	4	13. 1歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置	—	事故防止に関する研修を実施していく。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	48	—	今後も定期的にしっかりと行っていく。	1. 集団活動中・見守り	—	年齢も低く、転倒しやすく、バランスを崩すことを常に意識すると共に、他児も不意に動くことも考えて子どもの様子を見守る。	1. いつもおおりの様子であった	担当職員に肩車をしてもらってトラック見た後、しっかり支えて落ちてしまった。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接した)	対象児を肩車から下ろそうとしていた時、他児が近づいてきたため、そちらにそれた手をさしのべたため、体勢が崩れ、対象児がしっかり足が地面に着くことを見届けることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた場で、クラス他児同スのと関わっていた。	—	肩車は、とっさの時に対応しにくく、高さもあるのでしない様にする。 体が地面から離れている時は足がしっかりと地面に着くまで目を離さないようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事													ソフト面									ハード面									環境面				人的面							
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死亡	負傷状況	受傷部位	診断名																																
3336	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	97									6	6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	8.その他	1.あり	2.不定期実施	3～4	1.基準以上配置	レスリング前にはいつも当が一緒に十分な準備体操をし、怪我がなどにならる油断いよ掛けている。	再度受け身のなどを職員がお手本となり指導し、怪我につながりうなとこはないろか確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3～4	なし	今回は遊具等の不備による事故ではないが、毎月の点検に加え、日々の使用時には職員が危険なところがないか確認している。	1.集団活動中・見あり守り	いつも床には専用のマットを敷き、安全面には考慮している。	今回は怪我をしない環境は整っていたが、マットなどの安全面についても再度確認をする。	1.いつもおりの様子であった	いつも通り元気に過ごしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもが1対1で受け身の練習をするのをみるのが側でみており、怪我をするような体勢には見えなかったが、当園児が右肩の痛みを訴えてき	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くでみていたが、怪我をするような体勢ではなく、すぐ状況確認を行った。	—	少しでもいつもと違う様子がないか園児見守り、無理をさせない。	
3337	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	運動前後の安全衛生に対する項目の具体化	運動遊びの具体的なルール、決まりをマニュアル化し周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	飛び箱等の点検頻度の適正	月に1回の点検の他に事前事後の点検も実施する。	1.集団活動中・見あり守り	危険に対する予知	危険性がある遊び、複雑な遊びの際は、保育教諭が担当を決め重点的に見れる体制を作る。場合によっては、他の職員を配置する。	1.いつもおりの様子であった	熱心に取り組み、頑張る姿が伺える。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	飛び箱の側近で援助的立場で立っていたが、とっさの対応行動に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児姿ないことで対象児の動きを見ていなかった。	跳び箱の飛躍方法、高さ等の適正	跳び箱の飛躍に対する適応能力の把握と分析安全認識を持たせ、状況に応じて遊びに対する競争意識を抑制する。	
3338	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.あり	1.定期的実施	7	2.基準配置	特記事項なし	マニュアルを見直しし、職員で確認し合う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	特記事項なし	ヒヤリ・ハットを活用し、共全危情報を共有し職員機管理意識の向上を図る。	1.集団活動中・見あり守り	園庭で園児が鉄棒をしていた姿を確認していなかったこと、保育中に園みて痛みを訴えていなかったこともあり、けがの状況に気付けなかった。	保育中は全職員で連携をとりながら、子ども状況を見ることを再確認するとともに、常に子どもの体調に気を配り、変化を見逃さないようにする。	1.いつもおりの様子であった	特記事項なし	3.対象児の離れとで対象児を見ていた	常に全体を把握しながら保育をしているが、園児が鉄棒をしている場面は確認できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児にわって関いて、至対象児を着ていなかった。	危険がうとわれ遊具遊んでいる子どもへの守りは十分ではなかった面がある。	職員間の連携を図り、動員全園児の動きを全職員見ていくようにする。	
3339	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	1.あり	3.未実施	1	2.基準配置	保育教諭は児のにいの、他児付けをするよう声をかけるため、目を離した。	固定遊具で遊ぶ際には、安全状態なるまで子ども目を離さない、固定遊具の使用の仕方について職員間で再検討する。	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	雲梯は高ある安全状態にまで見守る側でが必要な遊具である	点検については継続行う。固定の使用の仕方について職員間で再検討する。	3.個人活動中・見あり守り	クラスは保育室にいたため、園庭にいたのは担任のみだった。	子どもの人数だけでなく、活動によって補助が必要な時は配置する。固定遊具の使用の仕方について職員間で再検討する。	1.いつもおりの様子であった	年長児の姿を見て、雲梯に興味を持ち以前から遊んでいた。当日も友達と一緒に雲梯で遊んでいた。スタートから5～6本目の所でぶら下がっている姿は担任が見ていた	4.対象動きを見ていなかった	雲梯の近くで本児がスタートから5～6本目の所でぶらぶら下がっているのを確認した後、他児に声掛けの呼びかけと自を離したため、どのように着地したかは確認できていな	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスは保育室にいたため、園庭にいたのは担任のみだった。	保育教本論は児のくいもの、他児片をするよう声をかけるため、目を離した。	固定遊具の使用の仕方について、職員間、また、子どもとも再度確認する。固定遊具で遊ぶ際は、安全状態になるまで目を離さない。	
3340	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102				36	31				9	9	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	年長児が、木製遊具の2階の柵を超え地面に飛び降りをしていた。職員はそれ危感なを見てと感じていなかった。	危険な遊びに関して話し合い、子どもと共有する。職員間でも見守り方や対処理解とする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	木製遊具の裏側になることが多い。	必ずゲートボール側に職員がつく。	1.集団活動中・見あり守り	園庭の遊び方のルールについて子ども達にも伝えていなかった。	園庭での遊び方のルールを定期的に確認する必要があった。子ども達に園庭の遊具の遊び方について確認しあった。	1.いつもおりの様子であった	高い所から飛び降りてみたり、友だちに自慢してみたい気持ちになった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から10mほど離れた場所で遊んでいたものの子どそばにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各コーナーに職員がいたが、事故当時はとっさに援助出来ない場所にいた。	園舎から築山隠れ木製遊具見えくい。	木製遊具の保育者がつく	
3341	令和3年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	35									3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の関節にひび	1.遊具等からの転落・落下 2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見あり守り	側転時、マットに手をついた際、手が滑り転倒し左肘をマットに打ち付ける。	体操の練習の仕方が本児に適切であったかどうかを見極めるよくめる。	1.いつもおりの様子であった	体調面も良好であり、元気であった。体操中に私語様をする様子も見られず、真面目に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全員で順番に側転の練習を行っていたため、レインボーマット近くで笛の合図を行い、手足のつく位置をレインボーマットの色で知らせていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	練習を行っているこどもたちの見守り、手足をつく確認し、子どもたちに知らせていた。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由							
3342	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62				21	41			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	ハード面においては、適正であったと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	日常から園児の様子に応じて見守り職員を増減したり、園児のテンションや場の雰囲気に応じてルールを制限するなどしている。	環境面は適正であったと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	活発で元気に遊ぶ。好奇心旺盛で運動神経も良い。普段からよく走り回り、飛び跳ねる姿が見られる。鬼ごっこ、追いかけっこを好み、園庭遊び園庭の際は園庭中を走り回っている。園庭に出て遊び始めた直後で、鬼ごっこを始めてまもなく、転倒。転倒後、痛がっている本児に気付い	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は上記（ソフト面3人目）るが、児に視線を移いるときだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記（ソフト面1人目2人目4人目）は、それぞれの配置で見の適切に見守った。	本児におい保育教諭4人中、1人目は遊具（雲梯）の補助についた。2人目は砂場を中心に見守り、3人目は南側から園庭全体を見守り、4人目は園舎入口付近を見ていた。	子どもの成長や意欲を妨げない現状の見守りは今後も必要だと思うので、職員配置を明確にし、事故防止の徹底を図る。	
3343	令和5年5月31日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	改善は特にないが、想定外のことが起こりうることもありとて、事故に早急に対応するように改善していく	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	朝は元気に登園、クラス活動中、保育者とともに排せつに行く。排せつが終わり、手を洗い、ペーパータオルを取るときに片足に体重がかかり、痛みが走り、倒れこむ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	数名の子に一人の保育士がついて、排せつを促し、見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	数名の子に一人の保育士がついて、排せつを促し、見ていた	—	特になし	
3344	令和5年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10				1	10			1	1	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上前歯の歯根部の損傷疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	—	2.基準配置	3人の園児は事故発生に至るまでは、室内を走りまわっていたため指導員が数回注意を促していた。注意された後、コーナーのまとまりの（マットを敷いているエリア）に3人が移動した。落ちついたことを確認し、その後の観察が不十分なまま離れてしまった。室内の離れた場所で、他児のトマットを敷いているエリアまたは、ごっこや絵本を読むなどの場所として利用しているが、日頃から遊びの延長でそのままごっこ遊びに移行する姿が見られていた。	職員1名での保育体制で、個別の対応の必要ある他の子どもがいる等、不測の事態に備え、立ち位置を考え全体の状況を把握し対応する。個別の対応の内容によっては、他の職員の応援を要請する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	コーナー一方で遊び始めたこのやあそびの提供の仕方、その都度子どもに知らせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	抱きかかえたり、コーナーの一角に移動し、預かり指導員が注意し、コーナーの一角に移動した。	・注意を促した後の子どもの様子を観察する。・園児には、日頃の室内遊びよりもっとの伝え方を走らないように繰り返し指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	預かり利用の子どもも34名の内、23名が午睡の為遊戯室へ移動し、室内には11名になり、他児2名と合じゃれ合う中で、はしゃぎ過ぎた興奮した様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	預かり指導員の視界には入っていたが、離れた場所で他児のトラブルを対応をしており、対象児の様子や児のものは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の預かり指導員は、2名は遊戯室で対応午睡の応をしていた。	注意し後対象児含む3名は、一旦走り回る等をやめ、コーナーの角へ移動した為、行動が落ち着いたと判断してしまった。	注意した後の子どもの行動や、興奮した状態の気持ちの変化も含め、傍で観察し確認する。また、じゃれ合う遊び以外に5歳児が興味を持てるような遊びの提案をする。	
3345	令和5年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	165				55	55	55			17	17	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	—	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	3	—	—	3.個人活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子供達が思い思いの遊びをしているため、特に対象児を気にしていなかった。	普段からよくしている遊びのため、職員がすぐ側に付いて	危険があることを職員間で認識をし、一人一人の動きが把握できる位置に立ち、見守る。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3346	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24								2	2	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上前歯根部の損傷疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	—	2.基準配置	通常は3名の保育体制である名をした。長・フリー教諭2名（3名の内1名は、4・5歳児が世代交流会（地域の福祉委員21名による遊びの提供会）事しした。活動の代わり水遊び前後の目び対は看護補助入っていた。	保育入り、たち取でんいた定に子ちはり組ため、応請とをしの側それ名につ保育士が使用番を守っ交りたこ	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	クラスの設定活動でマットの使用は初めてあるため、順番を守っ交りたこ	グループの交代時、全体には落ちていたが、活動への期待や高揚感で跳ねてるとも子供たちが移動する。子ども子を注意し、個別の注意をこと必要がある。	1.集団活動中・見あり	マットの指示をとき、子どもの動きや流れ等を注視し、子ども同士じゃれ合いに見て。また、人的配慮等の要性の有無を迅速に判断援を要請する等の対応をとる。	3.いつも活発で活動のあった(理由記載)	いつもと変り活動に参加していた。	4.対象児の動きを見ていた	担任教諭は、一方のマットの傍につき、子誘導や指導をしていた。視界入っていたが、本児を含むグループの際の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	教諭もう一方のマットの傍につき、子ども介助指導をしていた。本児を含むグループの際の交代は、全体の子ども様子を見ていた。視界入っていたが、本児の様子や動きは見ていなかった。	グループの交代の仕方を、途中から2グループが同時移動交代としたことで、注視しなければならい範囲広がり（8名から16名と移動人数が増加）配慮が十分なってしまった。交代時回ることな	・同時に多ども子ども子どもくの子どくが動で、注意や配慮も広がる為、移動の仕方を変更する際は、不測の事態に備え、人員配置の増員を含めた対応をする。 ・全体の活動を誘導、職動を指導する職員と、子どもを見守る職員を分担し、子どもから目を離さないようにする。	
3347	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110		5	35	35	35			43	38	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	足関節外果骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	—	2.基準配置	起時間は、看護師は、看護6名配置に安全故場所で事き者は、子ども人数つき全る。	原因が分からなくても、害部の何らかでも害部の処置ていく。場合を想定し、対処法を時に考えていく。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	—	また自由の様子ども遊び留意ていくこと、また、場所にも配慮。	1.集団活動中・見あり	原因がわからなくても、害部分の何らかの処置ていく。色々な場合を想定し、対処法をそのよ時に考えていく。	言葉遣いや子ども心に切なものの理状況に気を配る。	1.いつもおお様子であった	いつも通常通り、仲の良い女児と遊んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	様子を見て為、とっさず遊ぶ多の為、いつも変わらず遊ぶ児の元気な姿に変化を感じる。	園庭で他の子どもたちが遊んでいた為、各自場の持ち担当箇所を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では、他の子どもたちも見ていた為、各自場の持ち担当箇所を見ていた。	子どもたちの心理状態に合せた適切な言葉掛けを心掛ける。	重点ポイント中心に看護職員を配置する中、誰も見ていない状況を作らず、声をかけあっていくこと。	
3348	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	50		4	16	15	15			3	3	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨螺旋骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期実施	3	2.基準配置	—	発達段階に応じた遊具の使用、各ごとでのラスの遊びの遊び方指導	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	—	—	3.個人活動中・見あり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	総合遊具一施設の部に設置してある雲梯に下んでいた	4.対象児の動きを見ていた	園庭で遊んでいる子どもたち全体を見ながら指導していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる子どもたち全体を見ながら指導していた	—	雲梯の遊び方の再始動、自由遊びの中の守り者の一層の相互連携	
3349	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	54		5	14	15	20			4	4	15.3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	3	2.基準配置	保育者が傍らにいたが他児に気を取られる間に落下する。2歳児がランコに乗る場合には常に目をはいる必要さとがあるのためもう1名配置する	子どもの傍らを離れたり、目を離さなければいけない時は他の保育者に必ず声をかける。	2.不定期に実施	5	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2歳児のためのブランコもあるが。今回は大きいブランコの落下だった。	不備があり箇所を出し合い、必要ならば複数の職員が再点検する。	1.集団活動中・見あり	昼食後の外遊びは食べ終わった子どもから出ていくが、順番に出ていくに従って保育者の配置を変えていく。	外遊びを担当して保育者全員で見守りの徹底。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至で対象児を見ていた近象児を見ていた	保育者のいにいたのだが、他児とかかわっていたが、とかかわっていたため落下を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とかかわっていたので落下の瞬間は見ていなかった。	本児の傍らにいたのだが、他児とかかわっていたため泣き声で落下に気づく。全体がみえるように位置をかがえる	傍らにいた他保育者は他の職員に声かけしてみてもらう。	
3350	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	40	1	4	11	3	13	2		6	6	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性脱臼外傷性出血	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	—	2.基準配置	—	児童の日頃の様子を把握し、行動パターンに注意する。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	2.不定期に実施	—	—	—	1.集団活動中・見あり	—	保育室での移動については、走らないように注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走らないよう声かけを行う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼寝の準備をさせるために、他の児童を見ていた。	園児がてて慌てしたため行動の事故となった。	保育室での移動等につ走らないように注意喚起する。	
3351	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34		3	12	10	8	1		2	1	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	—	8.その他	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	—	—	1.集団活動中・見あり	—	子ども同士での竜ごっこで水道の下に隠れたよう、狭いところにならないと入ってられなくらいなるかいけないと注意した。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気な子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	預かり保育の職員を一人増員した。	
3352	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25		2	9	5	8	1		2	1	15.3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	1.頭部	—	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	—	—	1.集団活動中・見あり	本人は手を離したのを上と言いるが何離したか、そのの故手をかたりかくあたよくらない	ジャングルジムの下に網、芝生等をいたられると思われたが良い見方法がつかず、3歳児の子どもが遊ぶ場合は職員がそこにいると使用する。ジャングルジムを使用する場合は職員がそこにいるときのみ用することとする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも元気いっぱいで特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでいることがどうしたのかわかりとトラブルを起こしたその他のトラブルを目の前で落下した瞬間にその見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルをそっと目をそらしたときの出来事だった。	—	—	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3353	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	—								1	1	16.4歳	1.男児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指(ヒビ)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	階段の上り下りの際は、手すりを掴むよう指導する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	—	手すりが整備されていて、手すりを利用するように促す。	1.集団活動中・見守り	—	階段での転倒は骨折等の怪我につながるので、日ごろの保育で注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	当初はひびに気づかなかったので、早めに保護者に連絡し、病院への受診を勧めるようにする。	
3354	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91								12	6	16.4歳	2.女児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	0.5	1.定期的に実施	0.5	2.不定期に実施	12	普段から遊んでいる場所だがつまずいて転倒、だったもいがつい今回の事故につながったと考える。	遊具安全点検に基づいて、予算の範囲内で改善つて昨トネル山の上を図り、年度、ンネルは土を入れ補修もしている。	1.集団活動中・見守り	行事のため、通常の保育ではなく普段とは違や日程や時間設定であった。	行事の際には子どもも逸がなるとも安全にいつも以上に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時から特に変わった様子はなかったと思われる。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	事故当時、対象児と一緒にかかわっており、トンネル山を駆け下りる対象児のトンネル山の上で見ていた。転んだ瞬間は手を差しだれる位置にいなかったので、すぐに駆け下り職員室へ行き対応した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児と園庭の違う場所でかかわっていた。		トンネル山での安全な遊び方について職員間で検討する。	
3355	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21								1	1	15.3歳	2.女児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A左上AB外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	—	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	—	通常はすべることはないが、より注意をはらう必要がある。	通常は滑ることはなさきをといかり滑りくくためにピロをいくに変計画をしている事ので、は滑りくいテープを貼って対応する	1.集団活動中・見守り	クラスで玄関から出る時であった		1.いつもどおりの様子であった	2段の階段下でUターンした時、バランスを崩し、階段でこけて口を打った。	4.対象児の動きを見ていなかった	すぐそばに子ども見ていたが、本児が降りている姿を見た後、再度見た時は反対向きに転倒していた。すぐに他の職員と看護士を呼び応急処置を行った。			2段とはいえ段を走ってる降りる子どもがいた。	外遊びの際、いったん階段手前で並んでから安全に注意しながら段を降りる。	
3356	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14								3	3	17.5歳	2.女児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折・左橈骨遠位端線損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	—	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	—			1.集団活動中・見守り	雲梯が出るかやって言っきとっよ張りてきっよ勢いを雲梯をくした。	遊具の使い方を子どもたちと安もたちと安確認し全に遊ぶ方法を考える。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯をし始めて二本目のバーにかけた時、をうとしたよく滑って落下した。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児は雲梯が得意なので、支えず30ｃｍ程度で補助していたが受けめる事が出来なかった。園すぐに庭務所に連絡、連れて行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任に連絡、氷の用意、保護者に連絡、病院の手配。	本児が「できる」と言って張り切っているので声かけが、は気やる持ち汲み、落ち着かせてから、挑戦	できるという安心感を持って補助に当たらず、補助につく人は常に意識して、長時間補助はせず交代していく等対応する。また、危険が予測される遊び等に挑戦する時は気持ちを落ち着かせて	
3357	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	35			9	9	17			3	3	17.5歳	1.男児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯歯根部の損傷	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	園児35名の内3歳と4歳児の一部16名は、午睡からネン起き類け・午睡保育室からの移動、外遊びの4.5歳児19名は、園庭の片付け・園庭から室内への移動・うがい手洗いと、活動の変わり目で、様々な子どものあるきがり、3名の職員の子どもの動きに合わせて対	午睡と外遊びで子どもの動きが様々時間差があるどのタイミングや場所やタイミングを、把守りとし、対応が出来るよう適切な声あっかけたり、必ずに職員に応じ職員請する問で要他のをたり	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	園庭は芝面生と地面のエリアがあるが、発生箇所は地面のほぼ中央部で、転倒しやすいものや凹凸等はなかった	始業前に園庭整備や環境設定をする際、園庭内でなものはないか、地面の状態等を点検しるき続いて、引行う	・片付けはお後はおの時間であり、子ども達もの見通しがある中でのけでであり、3.4.5歳児が、一斉に動く時間帯であった・当該の２名は特に俊敏で、クラスでも同じくらいよく一緒に活動していた	見通しがある中での片付けや移動であるる為、指示を出すときは、慌てないさせないよう、落ち着いて動くような声かけをし、子どもの動きや流れを見守り、適切な対応をする	3.いつもより活発で活動のあった(理由を記載)	いつもと変わり活動加した	2.対象児の近で対象児を見ていた	園庭遊び担当の保育指導員の内、１名は該当園児に当担片付けの声をかけ、一緒に動いた。もう１名は午睡から移動してくるものの庭内へ入ろうとしていた該園児の近くを通りかかった)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			・当該園児は預かり保育の利用も多く、発で俊敏なタイプの子どもでもあったため、急いかないように声かけが間に合わなかった・午睡後の子どもの対応をしようと名の指導員が移動しようとしていた為、子どもの注	・子どもから目を離さない、また個々の子どもの特徴に合わせ対応する・同時に多くの子ども子が動く、注意や配慮も広がる為、不測の事態に備え、人員配置の増員を含めた対応をする	
3358	令和5年3月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16			5	4	7			5	4	15.3歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	遊び方によって理解ていない時期だろうである	遊具のところに必ず、職員を配置する	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	遊具の遊び悪びかったので、遊び方の確認・徹底が必要である。	マットの見直し(大きさ耐久性)	3.個人活動中・見守り	保育者がいそばしてもてしまったので、子どもたちの遊び方・危険性の確認が必要である	本人も含め子どもたちに、けがの危険性を伝え、遊具の遊び方を再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	助木で遊ぶので、よく遊んでいた	2.対象児の近で対象児を見ていた	ホールに数人の子が遊んでいたので、保育者が近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ホールに数人の子が自由で遊んでいたので、保育者が近くで見守っていた。	本児はいつもの当前のように遊んでいる場所だが、注意が足りなかった。	子どもの活動等、目の届く場所に職員配置する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転倒	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3359	令和5年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	90				30	30	30			16	16	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	—	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	—	—	1.集団活動中・見守り	箱の角がそのまま衝撃を緩和する工夫がなかった。	箱の近くにプランターを置き、子どもたちが近寄れないようにした。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていた	—	子供たちが思い思い野遊びをしていたため、対象児を気にしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員数が遊びながら見守っていた。全体を見ていなかった。	視野を広くし、一人一人遊びが見えるようにしていく。	
3360	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50				15	15	20			6	6	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	マニュアルを作り検討し、研修を充実させ事故防止に努める	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	運動会準備のための観覧席がロープがあった	既存の観覧席ロープ撤去し、安全なものに変更	3.個人活動中・見守り		いつものでも環境でも危険が潜んでいることを考慮し、事故防止に努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	リレーの選手に選ばれたり、運動会を楽しみにしていたので、いつもより活発になっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	来賓の最中、保育士は本児が運動会の準備のため入り禁止ロープしていた箇所に入った場面を見ていなかった。その為注意することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	来賓の最中、保育士は本児が運動会の準備のため入り禁止ロープしていた箇所に入った場面を見ていなかった。その為注意することができなかった。	普段楽しんでいる遊びにも危険が潜いることがある	危険があることを職員が理解し、一人一人に留意する	
3361	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				15	15	10			—	—	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	気分も落着いた中で普段から遊び慣れた環境の中で“気をつけよう”という意識が少なくて遊んでいたので、“気を付ける”と意識しないで遊んでいた。	最低3名の教師は配置されていたが職員でこどもの職員こしも遊びでしまんこうの人を役割で配置することにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	一つの遊具に子どもが混雑しましたことのない空間で安全に遊べるよう声をかけ配慮している。	遊びの中で遊びの気持ちが高ぶり、周りが見えなくなるとあるこどもが同じにならないよう気持ちがふり持ちざけられるよう声をかけている。	3名の職員が配置されていたがそれぞれ対応が重なり足りなくなったりしまったのではないか。	全体を見る役割を守る教師を1人は配置し、異変知し対処できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	怪我直前までもいつもどおりまでもいつもどおりの合う友だちと一緒に戸外遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くの子どもたちと遊んでいるどもと事故に気付かず、事故直後も児童が訴えるも訴えるいつも通り遊んでいたこともあり対応にきつかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園舎近くでもりの戸外遊びを見ていた。	事故当時は本児は落ちもっているが、日頃より遊んでいるこどもと興味なくなりやすく、声かけをすることも多かった。この日も知らず	日頃より落ち着きをもって行動するよう伝えていく。	
3362	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	—									—	—	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第4趾基節骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	主での指導教員1人、補助教員2人がいたが、少なかったのではないか。	補助教員を増やす。職員がもっと広い視野を意識して関わる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	普段使っている場所で、動し激しくなることもある。	日頃から危険な場所はないか、確認する。	1.集団活動中・見守り	日頃からとの関わりを求めやすい本児の傍に、普段から多並び接触の子がいた。	集団活動の際は、普段の友だち関係で、並び順にも配慮して留意して見守りたい。	1.いつもどおりの様子であった	組体操の練習に意欲的に取組んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	組体操中は、全園児を見渡す位置にいたが、事故の瞬間は別の子に目を向けていり様子を捉えられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ対象児の子の様子を見ていた。	活動後の組体操の後、リレーやスポーツクなど体を動かし、痛みが増したのでは	活動後の本の様子を確認し、普段と違う姿を見落さないように配慮する。	
3363	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									3	3	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	年少時に外遊びの機会提供が少なく体を動かす体験が少なかった。	外遊び・運動遊びをカリキュラムにいれる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守り	日常的に体を動かすことが少ない園児であるため。	保育の中で外遊びの機会を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3名で対応して園庭全気を配っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	配置職員・職員の動きの問題はない	特になし。	特になし。	
3364	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	68		2	6	23	13	24			13	12	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	入園式後の新コースになって2日目であり、子供たちが時間後の流れの理解していないため、混乱が生じていた。	混乱を避けるため、一旦一部屋に集め、降園スタイル毎に流れを説明をして園庭に移動するようにした。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	破損はなかったが、梯子のあとがあったとられた雲梯の高さ(180センチ)でこれは考えるのでは？	メーカーに確認をとったところ、設置時の基準には適合しているとの答。後、カバーを下げた	1.集団活動中・見守り	新年度始まって間もないこともあり、発車時刻までの流れの理解もできず、見守りの職員も、混乱している園児の対応等をしていた。	混乱を避けるため、一旦一部屋に集め、降園スタイル毎に流れを説明して園庭に移動するようにした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から「今日はぶらんぶらんだ」とはっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	5人の職員で、園庭遊びを見守っていたが、お迎えに来られた保護者と園児の対応や、混乱した園児の対応等を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られた保護者・園児の対応で混乱している園児の対応、おもらし等の対応を行っていた。		混乱を避けるため、一旦一部屋に集め、降園スタイルに流れを説明し園庭に移動するようにした。	
3365	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20			4	6	4	6			2	2	15.3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児危加れるから害えたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	・担当する職員の確認が不足していた。 ・着座の手をい際に出ると危険であることについて、園児意へへが不足していた。	・職員が担当園児の行動を確認する。 ・園児に対して、安産な座り方を知らせる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守り	他の園児が着座しから寝起きの連れればてと良かった。	時間差で寝起きの園児を連れてくるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昼寝起きでややぐずって座っていた。	2.対象至対象児の近で対象児を見ていた	廊下で着替えて園児を見ていた。本児が座っているのを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに園児いるを見ていた。	昼寝起きの児がすべて支度をし終わらないうちに先に座らせてしまった。	・着座の際は手を膝の上に置いて待つように園児に伝える。 ・担当職員は最後まで責任を持って昼寝起きの園児の対応をする。	
3366	令和3年5月31日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									1	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷(左目目尻付近)	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	24	ゴムチップを足れたが性に取る可能性がある	ウッドデッキの縁をできるだけ滑にかに面するように取り	1.集団活動中・見守り	個々のてき途っている中でいたれない	園庭遊びから部屋に入る際には、クラス毎に並んで、担任が先頭を歩いて移動することを徹底する	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊びからウッドデッキに向かって歩いて、あるいは走っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭遊びから帰ってこない児が戻ってきて行ったので、本児の本を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは、保育室の方かっていたり、まだ遊んでいる園庭なんのでくにいなかった	担任が園庭に残っている子ども気を取られ、先に戻って行った子ども	複数のクラスで遊びに出ている際、保育室への出入りが重場合は、他のクラスのことも気に掛け、複数で見るよう	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面										ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳															死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成長援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因							実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3367	令和3年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	4歳児	28	名	名	名	名	名	20名	名	5名	5名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	友達と追いかけっこをしてゆったりと遊んでいたので、近くに保育士もはいたのの急に乗り越えようとする本児の行動が予想できかった。	全保育士の共通理解として、子どもは思わぬ行動をとる事や、頭もバランスが取れない体重くなど体の構造や心理についての理解を深め、常に見守っていくこと申し合わせた。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具無理や越えると転倒分の左に上に乗り乗りまして自体胸部をかかってしまった。	全園児の状況を見ながら安全に気をつけて遊ぶこと、遊具安全ことに遊びを約束する。	集団活動中・見守りあり		—	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも友達と楽しく遊んでいたそうなので、見ていた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)転んだ瞬間を見ていたので速やかに本児の側に駆け寄り状況を確認した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)5名の職員が他の子どもと一緒に遊んでいた。転倒に気が付いた瞬間、駆け寄って様子を確認した。		子どもは思わぬ急な行動をとる事もあるので、しっかり見守る必要があることの共通理解や遊具の安全な遊び方についても再確認する。	
3368	令和3年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	午後	施設内(室内)	5歳以上児	14	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	6歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	子ども同士の衝突によるもの	あり	未実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	なし	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度(1)回/年		なし	集団活動中・見守りあり	氷鬼して友達を捕まえようとして氷鬼をしていた時に友達とぶつかり、チにひねってしまった	遊びの状況確認をし、周りよく子に注意をするよう再度注意を促していく	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)遊びに夢中になっていた	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)クラスが全員で体を動かして保育していたが、対象児は氷鬼で回っており、事故発生状況は見て	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他のクラスの保育士が、児の近くにいたので事故の状況把握ができた	自由遊びの時間であり、多くの子ども達がホールにいた	遊びの時間、周りを よく見て遊ぶように再度注意を促す	
3369	令和3年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	26	名	名	20名	4名	名	2名	名	6名	6名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	下肢(足・足指)	爪はく離	玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	—	—	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	本児が寄かつて棚にの耐ジェルついてなかった。	転倒や落下の恐れもあるため、耐震ジェル貼り防止に備えていく。	集団活動中・見守りあり		一人でいるのか把握していく共に、棚や机、椅子などの破損がないか確認していく必要がある。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもとかわりがなかったが、他児が寄りかかり、棚にできた隙間に足が入り、自分で抜こうとしてはかれてしまう	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)集団遊びの為、目を離してしまった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれに近くにいた園児はみていたが、当該園児の様子に気づけなかった。	—	近くの園児だけでなく、周りも見守っていけるようにする。	
3370	令和5年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	20	名	9名	11名	名	名	名	名	4名	4名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準配置	事前に職員が遊具のをしっかり確認しておくべきだった。予測あかしてシーソーすっどもの使い方事項を考えミュションべきも遊具の園方をやくべきだった。	従来あったマニュアル・各でのクラスでの作成したマニュアルあり。事故後見直しを図り、検討作成。会にも協議確認してもらい、わかやすくの中やすいマニュアルを作成中。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ングジルで遊ぶ際、落下することも想定されるので、子どもに、ときにお(補助)すべだった。	子ども遊ぶ際、子遊具配置や遊び方の検討。怪我や事故を防ぐ為に職員配置や遊び方の検討。	集団活動中・見守りあり	ジャングルは3歳になった2歳児2名で遊んでおり、他児は居なかった。しかし、とっさに他児が来ることに気を取られて、一瞬の対応の遅れが招まってしまったと思われる。	ジャングルジムの使用対象年齢が3歳からではあるが、3歳になった2歳児には危険であったのではと考えられ、今後は使用しないこととする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)1,2歳児20名に対し4名の職員が付き、遊ばせる職員が遊ぶ者員が配置された状態だった。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児ともう1名がジャングルジムに登っており、2段目まで登ってしまった。担当は下ろ為、職員はそば付きに降りるよう促しこ降りた。その他の園児2～3名が受傷児の下に駆けつけた為危険回避をしようとしたところ、そこから離れるよう促していた時に、対象児が足を滑らせ、落下に気	担当者・対象児の動きを見ていなかった(至距離にいた)	(具体的内容記載欄)異変に気付き他の職員に声を掛け、中砂他児を遊びを集め、ジャングルジムから落ちた。ジャングルジムから落ち、泣いている対象児の元へ行き様子を確かめた。	対象児の年齢が対象年齢にて遊具を使用しないで安易に使用してしまった。	公園遊具の使い方基準を園として再検討する。	
3371	令和3年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	10	名	名	3名	6名	1名	名	名	1名	1名	5歳	女児	身長：123.7㎝ 体重：２６．１kg	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足くるぶし骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	基準上配置	園独自のマニュアルがなく、階段対応危険低く、移動する認識がかった	移動時は複数人で上り下りの階段の手助すること。また、声をかけ列の中について、危険曲がり角につかえたりきやすいよう、最後まで見届ける。	定期的に実施	実施頻度(９０)回/年	定期的に実施	実施頻度(９０)回/年	定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	階段の進行方向転換し、面前方形なる場所のため、三角形になるので、そ形いでリズ歩わ行のムが変わる。	大判カーラールをは、階段歩り、形、幅が変わることを視覚的に認知できるようにした。	集団活動中・見守りあり	降園の為、コップ等が入った手提げバッグにコートをつめ、それを持って下りた。体の自由が利くいきにくい状態だった。	移動中は人数により複数の職員で対応できるようにする。また、個々の子どもの特性や年齢に合わせ、職員が荷物を運ぶ等、安全面に配慮する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)日ごろから本児に不注意が多々見られており、同じ週に、トイレ内と運動遊びの際に、２回足を捻っている。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)先頃にいい児少安が３名全に下りてこれるよう特に注意し見届け、その後、3歳児が階段下で上履きを脱ぐ援助をした。最後後尾にいた本児は年長児であったため、注意を払っていなかっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)1階の未長長満児延長保育にあたっている職員が多数、3階の会議室で事務にいた職員いが数名いた。	担任は万が一、園児が転落したときのために先つ支えられるよう配慮しており、また先頭の３歳児３人に特に注意を払っていた。その為、本児の状況把	幼児にとっ階段移動は難しさがある認識し、年長でも落ち昇り降りを、階段使用には細心の注意を払う。	
3372	令和5年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	114	0名	0名	0名	38名	40名	36名	名	6名	5名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	保育士が、そのいなかった場にいたため	その職員は配置を声を掛けて職員に声を含めていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊具の反側にあ滑り守りにまわり、綱のところよ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)各遊具の所につき、園児のを見ていた	保育士が、場にいなかったため	保育士が、遊具全体を見えるように立ち、見ることする園児に、遊具を上り下りするときは、落ちに声	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面							環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3373	令和5年3月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	19	名	名	名	10名	名	9名	名	4名	4名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右尺骨剥離骨折・右肘靭帯損傷	他児から危害を加えられたもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	—	事故を振り返り分析を行い、職員に対し再防止のため、安全管理にかかる共通認識をもつよう周知徹底する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	施設面については、鉄棒にも人工芝を敷き、安全面でのしを配慮していたので、支障がなかったと考えている。	現在取り組んでいる内容を継続して実施し、施設、設備の安全確保に努める。	集団活動中・見守りあり	—	全体に気を配り、一人一人の様子を見守ることを周知する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に変わった様子はなく、滑り台やなわとび、鉄棒遊びを楽しんでいた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)1名は、鉄棒で他の子どもの手助けをしていた。1名は、なわとびの縄を回していた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭で、クラスの子どもと達ごっこ遊びをしていた。	—	すべてにおいて、園児の行動の予測を立て、保育士の位置配置などの見直しを行い安全に過ごせるようにしていきたい。	
3374	令和5年3月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	14	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸・腹部・腰部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	新人研修、事故発生後の振り返り	2.基準配置	保育人数は充足していた。	お子様の起こされない事故に最っつく対応してるが、起こってしまった。ここまで今後同じ事故が起こらない様に周知徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(1～3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	鉄棒のジョイントマットを敷きエールの赤色の鉄棒を使用していた。鉄棒は2～3人一緒に使用で出来るが、事故発生時は1人で使用していた。	園で行っている環境で適であった。	1.集団活動中・見守りあり	普段も行っている鉄棒のある技で、手を着けずに肩から転落している。タ方の疲れも時間出るの集団遊びであり本人が集中にくい状況になっていた事が考えられた。	園で行っている環境では問題ないと思われた。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)体調は良好であったが、ズボンが鉄棒に絡まって足で下がりを揺らいた。普段は手を着いて降りるが事故発生時は手が出なかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担任がクラス15人の鉄棒の練習をみていた。対象児から3メートル離れた場所に立ち、低い黄色の鉄棒で他児の逆上がり指導を行っていた。対体象児が大きく揺らしていた為、注意する様に声をかけていたが、声掛け直後に肩から転落。落下する瞬間はみていたが、間に合わ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)事故発生時は担任1人で15名の児を見ていた。	タ方疲れが出てくる時間の集団遊びであり対象児周りの児の遊びにとられて着地時に集中出来なかった可能性あり。	マンツーマンでの指導は難しい為、集団遊びの時間はコウモリはしないようにする。また長ズボン着用時は鉄棒に足をひっかけてぶら下がらないように指導する	
3375	令和5年3月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	68	名	名	名	26名	42名	名	名	12名	12名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折(全治2ヶ月と診断された)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	担任に、の丸太で遊びができるようになったことをせして、を滑べ転倒し転倒させて負傷した。	戸外遊び時には、各コーナーに保育士がつく安全管理を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年ほぼ毎日	丸太遊びは、バランスをすおり、滑りやすいがさらに崩それ、滑りやすい。	丸太は、滑りやすく、古くなったこともあり、撤去する。	1.集団活動中・見守りあり	丸太遊びるが5本数できる本と多く、見守りが手薄になってしまった。	丸太は、滑りやすく、古くなったこともあり、撤去し、各コーナーに保育士がつく、安全管理を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段通り元気が良く、好きな遊びを見つけて遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)職員5人のうち4人は、他のコーナーで遊んでいる児童を見守り、残り職員1人は、丸太の向かい側で、丸太遊びが不安な児童がいるため支援を行ったり、向かい側で遊んでいた本児居たを確認していたが、活発な本児が、一人で、できころとなるを、見せようとしていたの	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員は、固定遊具でやブランコで遊ぶ子、追いかけてをしている子守り、気にに子ども、1人の職員が遊びを見ていた。	3歳児は、個人差が大きく、意欲があっても行動伴わないで、一人でやろうとしても、そばに守っていた。	同じ方向から遊びをするルールを設けて、職員がそばについて見守りながら遊ばせる。	
3376	令和5年3月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	—	29	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	2.女児	嘔吐をしていたがウィルス感染症の診断なし	8.その他	1.負傷	—	1.意識不明	—	無熱性痙攣(検査入院後、異常なし)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故発生時に、ベット上で嘔吐した。園児の意識はしていたが、意識レベルが低下し、痙攣をしたため、スムーズに救急隊に移動し、救急隊到着まで仰向けの姿勢で保ってい た。	嘔吐をしていて、起こした場合の対応は、嘔吐物による窒息やそしるリスクを防ぐために口腔内の確認、気道を確保し、回復体位にすることが重要である。救急法のマニュアルでは明記されているが、突発的な事故発生際、動転した気がしり、覚えていないなど・マニュアル	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	—	5.睡眠(午睡)中	—	—	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)睡眠時に口腔内に指を入れる癖がある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	睡眠時に口腔内に指を入れる行為(指しゃぶり)は窒息リスクが高まる。	幼児(3歳以上)の指しゃぶり行為は精神的(日常のストレスや情緒不安定など)な理由が考慮できる。衛生上の問題も含めて、当該園児の気持ちに寄り添いながら対応し、指しゃぶり癖の改善に取り組む必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		事故	実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか		その他要因・分析、特記事項	改善策	
3377	令和5年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	0名	3名	2名	8名	3名	2名	名	4名	4名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	動線が整理できていなかった。	玩具の定位置を見直すことで動線を整理し、安全に片付けが出来るように呼び掛ける。	1.いつもおりの様子であった	玩具の片付けをしており、担当職員から10m程度離れた場所に玩具を持って収納しにいく途中で事故が発生した。	3.対象児から離れたところで対象児をみていた。	対象児から目を離し、他の担当児童をみていた。また、玩具収納場所付近の他職員への声掛けも行わなかった。	2.担当者・対象児の動きをみていなかった	他の職員は自分の担当児をおり、対象児が玩具を収納している事に気付いておらず、事故発生時の物音で対象児に気付いた。	児は玩具を持って歩行中だった為、転倒時に床に手をつく等の自己防御姿勢がとれなかった可能性が考えられる。玩具を収納しにいく間の僅かな時間であり、他の担当児もい	職員が常時装着しているインカムを活用し、僅かな時間であっても、児から目を離す事が無いように、他の職員に呼びかける。物を持って移動中の児がいる時は、転倒リスクが高まる事を認識する。	
3378	令和5年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47	名	名	6名	12名	15名	14名	名	5名	5名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員数や配置、職員間の情報共有の仕方等対策を講じている。また、不定期ではある修も実施している。	改善の余地はなかったと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	地面が濡れていたり、石が落ちたり、転倒を誘発するな要因は無かった。	改善の余地はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	かけっこを行った年長児は8人程度で、かけっこを行うにあたり分な広さが危険な状況ではなかった。また、子ども間でトラブルになっている様子もなかった。	改善の余地はなかったと考える。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)年長児8人程度とかけっこをしていた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)最も近くに保育士は、こかけっこをする様子を見守っていた。特記すべき危険な様子はなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)保育士5人が決められた場所付近で(部付の写真参照)子ども達の遊ぶ様子を見守っていた。危険な様子はなかった。	楽しく様子があり、保育士は遊びを見守っていた。	改善の余地はなかったと考える。	
3379	令和5年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7名	2名	5名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	2名	2歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	舌先裂傷	2.自らの転倒・衝よによるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故後、事故についての原因、保育すべき点があるか？話し合いを持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	特になし	室内の玩具置き場の整備と年齢に合った玩具選び。	1.集団活動中・見守りあり	環境的には、子どもがつよう ろな場所は取り除いている。	年齢にあった遊び方を伝えていく。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	(具体的内容記載欄)風邪をひいており鼻がつまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)異常があった場合、とっさに動けない状態でいたが、一瞬のことでかったが、直ぐにかけ抱き上げて状況判断をし、医務室へ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他の子ども達も遊ぶ。	特になし	大きな遊具を持って移動する際、歩動走らずに歩く又は、職員が一緒に歩くなどの対応を行う。	
3380	令和5年5月31日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	42	名	名	19名	名	名	23名	名	2名	2　名	2歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故発生初からの動体制はマニュアル通りに迅速に行えたが、対象児以子安全が不分で保証が2次的被害の恐れも考えられる。	事故後、事故についての原因、保育すべき点があるか？話し合いを持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	床が滑りやすくなっていると転倒するもある。	保育室の床に転倒防止のマットを敷いたり滑り倒しない工夫を行う。	1.集団活動中・見守りあり	合同保育時間は異年齢の子どもたち年齢の子どもが同じ保育室で遊ぶ為接触転倒することも考える。	異年齢保育の為遊び興味・玩具の種類、コーナーの作方などを改善する。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)対象児の遊びたい玩具への興味が井型ブロックからスナックわせの具に移った為、コーナーを移動しと小走りとなった。ふざけたり、興奮して走けではない。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象時児が保育室の奥から出口側に作ってあった玩具のナーに小移動しようと走り動しようとしていたが、マットの敷いてない床部分で瞬間的に滑ってしまい転倒を防ぐ事ができなかっ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)別のお迎えがあり、遊戯室の前の廊下に出てしばらく対象児が見ていた。	合同保育時間は異年齢の子どもたちが同じ保育室で遊ぶ為接触転倒することも考えられる。保育室全体の安全が把握出来ていたか。	部屋を出る時の職員間の声掛けを今以上に徹底し、見守り人数が少なくならないようにする。遊びのコーナーの工夫。室内を走らないように指導する。	
3381	令和5年5月31日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25			7	8	10			12	11	15.3歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	—	2.自らの転倒・衝よによるもの突	1.あり	3.未実施	—	1.基準以上配置	こどもから離れた場所で保護者と話していた。	保育者の配慮の徹底。保護者のお願いの周知。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	本児が登段には段差が大きくコンクリートであったため。	手すりにつかまって階段を登ると促す表示をする。	1.個人活動中・見守り	母親と保育者で本児について離れた場所で話をしていた。	本児について話をする際児の遊んでいる行って話をに、本児の遊んでいる様子を見守りながらすることができた。	3.いつもより活発で活動のあったを記載)	滑り台が滑ようになって、自信を持ち始めて自分れるようになった。	4.対象動きを見ていなかった児の	他の保護者と話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の母親についてと本人の母親について話をした。	母親と保育者で本児についての話をした場所で話をした。	本児についての話をする際に、本児の遊んでいる近くに話をすることで、遊んでいる様子を見守りながらすることができた。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制												発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3382	令和5年3月31日	1.認可	5.幼稚園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	47									6	3	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	特になし	絵本を借りに行く際は一斉移動にしたのにした、また、常的な生活の移動については、安全降りる昇り指導した。	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	特になし	今回の事故に不足当たのはらなかった。	4.個人活動中・子どもの	子どもの移みでの移動だったので、見守りかくなった。	クラス全体で一緒に絵本を借りるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から登園時間は早く、この日も2番目に登園していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で登園くる幼児を保育していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担任はそれぞれの保育室にいた。	この4歳児は児外保育で室内に職員が通常より少なかった。	2階に教師がいない時は、幼児のみでの1階の移動は2階の移動はしないよう指導した。	
3383	令和5年3月31日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	60									7	4	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	教師の立ち位置、本児の経験少なさ	雲梯をしている際には必ず教師が伸ばせ位置に、声掛けをようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	雲梯の使い方	雲梯をどこからでも使っていたので、始まりと終わりの場所方まりで決めて中のからない遊び方ものを真ん場所始めようにする。また、決まり安全方について考え、事故防止に努める。	3.個人活動中・見守りあり	幼児が様々な場所で遊んでいるので砂場の幼児に声を掛けた	幼児が立ち歩かないために、歌や手遊びの曲を流し気持ちが向くように、椅子に座ったり落ち着いて待つことができる環境を整える。	3.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	花壇の傍らで遊び、手がついている。その手を洗い傍ら、ため雲梯にぶら下がった。	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯の本を見た砂場の幼児に声を掛けて、本を向けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の児をした。	砂場に職員がいたり、他の遊び場職員がいたりしたが、担任もそこで声を掛け、職員の立位置が重なっていた。	全園児が安全に遊べるように死角がないように立ち位置で職員同士連携する。	
3384	令和5年3月31日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									1	1	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折(左手小指の骨折)	5.他児から危害を加えたもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	担任を持ち職員、特別支援教育支援員との連携を強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	今後も細部のとしいように定期的に安全点検を実施し異常を確認していく。	2.集団活動中・子ども達のみ	体育座り落ちて着いて待つ雰囲気がなかった。	幼児が立ち歩かないために、歌や手遊びの曲を流し気持ちが向くように、椅子に座ったり落ち着いて待つことができる環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	A児とB児が保育室を走っていたところを止めようとする落ちる着きがあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	時間のかかっている数名の指導にトイレ前の廊下にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任をもたない職員、特別支援教育支援員は、他のクラスの支援を行っていた。	トイレにいる幼児に声を掛けぐに保育室に戻るようにすべきだった。また、幼児が立ち歩かない環境を整えお	担任が保育室を離れる時には、隣のクラスの担任や特別支援教育支援員に声を掛け、見守りの体制ができるよう連携に努める。	
3385	令和5年3月31日	1.認可	5.幼稚園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8									1	1	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不期に実施	1	2.基準配置	職員の配置状況：園長1、教諭2、臨時補助員1、特務員1、用支1、実習生1	安全計画の見直し及び予想して教職員の安全意識を高めるような研修を行う。そしてもしかしたら「〜かもしれない」という考えで危険を回避できるように遊びや生活や環境作りに努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	梯子の下に敷いて下のマットが狭い幅が狭くて落ちられる。	梯子に限らず、巧技台のマットの枚数を2枚にすることで敷くようにする。	1.集団活動中・見あり		梯子の下に敷くマットの幅を広くすることで床に直たら当たらないようにする。また、一つ渡るようにすることで保育者が確実に動の見ることが幼児の動きを見ることができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	喜び巧技台で巧技台に参加した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の順番を守るように指導していた対象児の動きを見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他に梯子で遊んでいる幼児の援助をしていた対象児の落下児の落下に手を差べ伸ばしが間に合わなかった。		幼児が渡り終えるまで、保育者が見守ることができる一人ずつ巧技台を渡るようにする。	
3386	令和5年3月31日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	52									3	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨端線損傷、左手関節捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	10	2.基準配置	行事のため、普段より少ない園児より職員で園庭少児に出ていた。	職員が、危険個所や怪我をしやすい場所を重点的に見ようにするよう意識し、なるべくが全園児が一緒に堰堤に出て、多くの職員の幼児ことができるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検では、遊具の面での重視した。	検安全確認を行い、職員の配置の動きする意識を高める。	1.集団活動中・見あり	園児が遊れくる忘れの束をに慣てくる方ものがちに約れがちなり、怪我をしやすくなる。	遊び方の振り返る約束を設けるようにし、園全体で安全な遊び方の確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	複数の友達と一緒に総合遊具の登り棒や滑り台を小走りで行き来した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児の遊びを見ていたため。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児を見守っていたため。		一つの遊びを見守りながらも、全体の様子に目を配ったり、危険な場面を見逃さず、気を付けて遊ぶように助言したりする。	
3387	令和5年3月31日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51					21	30			8	6	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	20	2.基準配置	職員の配置状況：園長1名・養護教諭1名（3園兼務・事故発生時本園勤務）・担任2名・担任外教諭2名・加配教諭2名	いろいろな想定を広げ	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	—	空気乾燥時は、土がいやすくなっていることがないとさで、水撒等の対策を行なう。	3.個人活動中・見あり	—	再度、環境安全確認などを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室で遊んでいる他の園児の遊びを見ていたが、園庭で鳴き声が聞こえたので、テラスから対象児の様子を見て駆け寄る。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児が遊んでいたブランコそばに職員がいた。転倒したので、すぐ駆け寄り、保健室まで付き添っていった。	—	再度、職員配置などを確認・徹底する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3388	令和3年5月31日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				19	19			4	4	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転車から転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	—	職員の配置、事故発生時における対応について全職員で見直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	乾燥により園庭の地面が滑りやすくなっていないか。	遊びの場である園庭等の安全が確保されるよう、入念に点検、整備を行う。	3.個人活動中・見守りあり	怪我のあるとの保育において、なるべく安静にしていたが、学年が進み、学年活動などで、皆と同じように座席に座ることが不十分であった。	遊びのスペース、動線などを毎日見直し、安全確保に努める。怪我をした際には、その後の保育において、椅子を用意するなど、状況に合わせて配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊ぶ。踊ったり、鬼ごっこをするなど体を動かして遊ぶ様子があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室にいる幼児にかかわっていたが、本児の様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が園庭の幼児の様子を見守っていたが、別の園児とかかわっているときに事故発生となった。対象児から「足がギックッとなった」との知らせを受け、支えながら保健室に連れていった	遊びの場に職員は配置されていたが、事故発生時に、ほかの園児とかかわっていたため、怪我をした場面を見ておらず、対応が不十分となった	好きな遊びの時の職員配置を明確にする。職員間の連携をとり、安全確保と迅速かつ適切な対応に努める。	
3389	令和3年5月31日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	—								9	9	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転車から転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	年長児が遊具(滑り台・ブランコ・ぶらこしで遊ぶ等)で遊ぶ時に職員がついていなかった。	固定遊具には必ずつくように職員をくるした、幼児のけがの状態を見て異常を感じた時には救急車を手配するようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	滑り台を滑り終えた後、バランスを崩して転倒し、右腕を強打した。	月に1回安全点検を実施し、危険があるかどうかの無いようにする。	3.個人活動中・見守りあり	昼食後に戸外園庭で遊んでいた。	危ない時に咄嗟に手が出せるように固定遊具で遊ぶ時には、職員が必ず近くにつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に滑る台で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の遊んでいた台に滑り台はついていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の滑り台以外の場所で遊んでいた。	台を乗りたバランスを崩して転倒し滑り終後ランスを崩して転倒が予測がつかなかった。	幼児の怪我は予測がつかないため、危険な時にすぐに手が出せるように近くに職員がつくようにする。	
3390	令和3年5月31日	1.認可	5.幼稚園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1								1	1	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転車から転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	階段の一段目でつまずくことは予想していなかったが、子援助なものが出来なかった。	普段、園児が慣れている環境でも危険があるという事よ境で危険があるという事よを留意して対応していきたい。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	—	点検の時でなく日常的に危険箇所に把握に努める。	1.集団活動中・見守りあり	保育者一人では見ることが難しいとされる。集団活動中個人活動いずれも保育者が複数で対応にあたる等の配慮。	1.いつもどおりの様子であった	危険な障害物がないと思われたが、子どもの行動は予測がつかない事も多いため、高一層の注意が必要と思われる。	2.対象児の近で対象児を見ていた	そばで見ていた、回避できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	泣き声に気付き、職員が駆け付け、複数で対応にあたった。	転んでも自ら危険回避できるよう身に付けさせることも必要だと感じた。	危険を回避することができるよう、日頃より体を動かしたり体力をつける等の働きかけが大切だと考える。	
3391	令和3年5月31日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24				12	12			2	2	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不期に実施	2	2.基準配置	—	事故が起きた時間は預かり保育時で、4・5歳児が出園していた。子ども数は少なかったため、保育者の立ち工夫が必要である。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	遊具は危険な状況ではなかったものの、今後も安全点検を継続したい。	1.集団活動中・見あり	—	預かり保育中。4・5歳4名遊び場で戸外遊びを行っていた。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに体を動かすことを楽しみ、チャレンジしている最中だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れた場所から本児が遊具から落下したことを知ったすぐにかけつけたものの、手伸ばしをしたものの、手伸ばしを差し伸べるには至らなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	どのクラスのお子たちとお遊びの様子に気が付かなかった。	若手保育者の経験不足による子どもの遊び見のの守り甘さがあった。	担当保育者同士の立ち位置の改善。意思疎通・声かけを意識して様々な経験年数の職員集団としてどうチームワークを取り、子どもたちを見守っていくか話し合いの場を	
3392	令和3年5月31日	1.認可	5.幼稚園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	—								2	2	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による脱臼、外傷による歯の半脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	要因・特記事項なし	園庭の遊具使用について再度、具体的に指導を行い、事故をぐする。また園児の行動の特性を理解した上で適切な援助ができるよう職員間で共通理解した。	—	12	—	12	—	12	安全管理には配慮していたが、危険が予測が十分ではなかった。	固定遊具箇所の危険を再確認するとともに、幼児の身体能力や行動の特徴から危険を予測し、教職員で理解を図る。また、幼児に雲梯の正しい使い方について周知する。	3.個人活動中・見あり	見守りながら保育をしていたが、十分ではなかった。	教師同士の連携を図りながら保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り慣れ遊びでいる遊具であった危険で、という意識が薄れ始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の様子に気を配りながら、テラスで他児の怪我をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で遊びを展開しており、危険が想定される場所において、園児の遊びの様子を見ていた。本児は離れた場所にいた。	遊具に挑戦した気持ちが大きくなり、いろいろな動きを試そうとする姿が出てきた。	固定遊具の使い方について園児、職員共に再確認し、使い慣れた遊具も危険を伴っている職員ことも常に念頭において、傍について見守るようにする。	
3393	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	午前中	施設内(室内)	3歳児	26	名	名	名	名	名	名	名	3名	1名	4歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	—	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	自由に遊んでいる子ども達の遊びを把握出来ていなかった。	職員間で、自由遊びでの見守りの配置を検討する。	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/毎	特になし	負傷と関与なし	集団活動中・見守りあり	自由遊びをしている中で、ソフト積木から転倒した児にすぐに対応が出来なかった。	思い思いの遊びが出来るように、見守りをする人数などを検討する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)ソフト積木からジャンプしたり、積ジャンプしたら、ソフト積木がグラついてバランスをひし崩してから床に転倒してしまった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)ホールには3人の職員が対応していたが対象児の動きを見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)クラスの保育補助はホールで他の子ども達と一緒に動いたため、児の動きを見ていなかった。	事故の発生につながらなかった。	危険が予測される児は、役割分担をして見守る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者	事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面				人的面												
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転倒	死亡	負傷		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3394	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	24	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	女児	特に無し	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	3歳児が戸外遊び付けの時間中で、落ち着かない状況があった。砂場で総合遊具で遊んでいる5歳児もいたため、気をれてこっとろがあった。	5歳児の1クラスも遊び、担当もうクラスも達がおり、保育士もいたので事前に話し合い、危険ポイントに立って全体を把握していくなど連携をとって事故防止につなげていく。	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年（1）回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年（1）回/年	不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	鉄棒には下クッション材が埋めんでいるため、自ら落ちると通信し部分た。	鉄棒から落ち方によっては大事故に繋がる事が側こと徹底ま際は必ずと員に、保育士につとをする。ども勝手に遊び始めるよう束する。	集団活動中・見守りあり	保育士は「鉄棒をやり」と伝えたが、「ちょっと一緒にかけてかぐ後をいかけが、時ついてしまった。	鉄棒、総合遊具など危険を伴う遊具は、保育士が見ている中で行うことや周辺で子どもたち員にする。遊具下にクッション材が埋め込んであることを職員に意喚起を促す。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特には問題なく、様子は通常と変わらなかった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)砂場で対象児に誘われ後を追いかけていくが、すぐに飽きて遊んでいるもの姿も気になり、鉄棒に向かうのが対象児より一歩出遅れた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)3歳児2クラス玩具の片付けの最中で、クラス中で達を見ていた。5歳児のクラスの担当保育士は中園庭の中央で遊ぶ子ども達を見ており、対象児の姿は目に入っていなかった。	鉄棒のにはかッション材が埋め込んであり、落下下衝撃を和らげられると通信しているところがあった。絶に落させないよう届でうと手く傍見よい意識が薄れていた	鉄棒、総合遊具は落下の危険があり、落ち方によっては大きい怪我につながるということを全職員が強く認識し、必ず保育士が手のみ傍でなことを周知する。	
3395	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	33	名	名	名	11名	10名	12名	名	3名	3名	4歳	女児	なし	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	切り傷	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	あらゆる想定し、理解を深めていく事の不足。	事故対応マニュアル整備を急ぐとともに、園児のは、職員会議のたびに行い、保育士間で周知し合っているが、これからも続けていき、さらに深め強化していく。	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	階段には、滑りもつ止めもつているが、階段が幅自体が作り広いになっているため、真ん中を通りやすい構造になっている。	をすることなく、注見ることなく、注見手使えるよう意守る。	集団活動中・見守りあり	園舎の構造上、園児の移動の際は、死角になる部分がある。	保育士が、なるべく死角をなくすように中間位置を見守りを強めるように、点にし、声掛けをする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)階段には、手すりがついているが、けがをした児童は、階段の中央手すりを手を手すりを頼らずに、急ぐようにして上っていた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園庭から保育室への移動の場面で、支度が遅い子に声掛けをしながら、一人一人を階段へと誘導していた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)階段上の保育士が、対象児が転ぶところを見ていた。足をすると滑ってしまう、あっという間の出来事だったため、防ぐことができなかった。保育士と対象児童との距離は、2メートルくらいで	園児数対保育士の比は十分であると思われるが、状況ならば、見ながら声掛けを丁寧に心がけるべきあった。	常に状況を見て、把握しながら、園児に注意を呼び掛ける。	
3396	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	28	名	名	名	8名	9名	11名	名	3名	2名	4歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右足脛骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年 程度	基準以上配置	—	事故防止について再度確認する。	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	肋木以外の遊具の使いについても危険がないか確認する。	全べる肋木を安よう位置を変えた。より遊よの	集団活動中・見守りあり	子どもたちにケガの事を伝え、肋木方の使いについて話し合う。	子どもが肋木で遊ぶ場合は保育士の立位置を確認する。室内での移動がスムーズにできるよう、対象児の椅子に車の足に乗せられるよう改良した。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 対象児は小男子が肋木から飛び降りるとは予想がつかず、肋木の周りを走っていた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育補助職員は、室内であそんでいた子どもたちを見守っていた。	小学生がいる場合の注意が足りなかった。	事故を想定して保育する職員に注意しあった。	
3397	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	4歳児	10	名	名	名	名	10名	名	名	2名	2名	4歳	女児	既往歴なし	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	歯牙破折		子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	基準以上配置	しばらく戸外遊びで活発になった上、足元が周りを久しぶりに動きよく確認せず転倒。その際に手を口を打つかった事が原因と思われる。	遊び始め前に、遊ぶ約束を皆で確認し、落ち着かせてから遊び始めるようにする。また転倒の際のをつくように、トイレ等で練習するようにした。また防止の為に、ミーティングを行い全職員に周知し注意を促した。	定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	定期的に実施	実施頻度(随時)回/年		—	集団活動中・見守りあり	一人一人の様子を把握しきっておらず、お勢追いかけっこをしていることの気持ちの高ぶりに配慮できていなかった。	子どもたちは、まず遊び始める前に、遊ぶ約束を皆で確認し、落ち着かせてから遊び始めるようにする。また転倒の際は手をつくように、リトミック等で練習するようにした。保育士は、登園してからの様子を振り返り、子どもの気持ちの有様を考え配慮する。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)遊び開始時に、久しぶりの戸外遊びで、若干テンションが高くていなった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)滑り台越しに対象児を見守っていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)配慮の必要な児の対応をしていたため、見ていなかった。	台滑り事故発生率が高いと考え、滑り台の正面側保育士2名がいたため、全体の把握をしていなかった。	今後は連携して保育士が二手に分かれ見守り、その場を離れる際は、必ずもう一名の保育士に声掛けを行ってから離れるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3398	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	24	0名	0名	0名	0名	9名	15名	名		4名	4名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右大腿骨顆上骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	支援が必要な園児に対して、具体的な活動に対応する個別の配慮が十分検討されなかった。	職員全体で必要な検討する場と習得する具体的なマニュアルの作成により、わかりやすい情報の共有を図る	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		特になし	集団活動中・見守りあり	・除雪で雪のため凸凹さきた山のさら、硬いく、段差をそのまま放置していること。	・雪遊びは服装はやすいをしっかりした滑りた滑た安全を踏まえ降り先の確認すること。 ・重機の除雪によって作られたことから、斜面や平地もがあり固められた状態になっているので、本児への配慮に限界	いつもおりどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児マンツーマンの態(対児にして接していた)	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)マンツーマン支援児としていたため、クラスの園児の対応をしていた	・身体に著しい障がいがある本児に対して、常に配慮に具体的に意識すること。 ・繰りでいた油断が生まれた。 ・遊び返し、ブレーキ掛けの際にうまく本児の身体を支えられなかった。おいがノーツ手袋着用の抱かかえ方ができていても滑りやすく、繰りてしまうこと慣れが生じて、丁寧に配慮を怠ってしまったこと。足元で足をきれいにしたりの支援をしたりの配慮が十分検討されなかった。互いにスムーズに手を繋ぎ、繰り返し滑りやすいことを意識して、ひとつひとつ細かに確認しながら、同じ遊びでも安全な遊び方を吟味して判断する必要。	・遊び場は、本児にとっては危険な箇所があるため、ひとつ細かに確認しながら、同じ遊びでも安全な遊び方を吟味して判断する必要。	
3399	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午後	施設内(室内)	異年齢構成	69	0名	10名	12名	16名	16名	15名	名		12名	名	4歳	女児	身長110.2cm 体重21.5kg 好き嫌いが多く偏食が激しい。	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	右肘関節靭帯損傷	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1回/年	基準配置	本児は正明日休みの登所だった。運動不足だったとも予想される。	常の動きの中ではうを足し、怪我しこりを足し、起こること自覚し、自対応の仕方を再確認する。運動遊び後実さくきも充実せていくとともに、保護者にも啓蒙していく。	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(3 0 0)回/年	定期的に実施	実施頻度(5 0)回/年	保育室は変ないが、普段と変わり様子だが、内は雑然としていたかったか、子どもたちも密集した見直しが必要だった。	特になし	集団活動中・見守りあり	昼食後の流れの中で、保育士の行う多くの時間だったも終了ら、それぞれ終えて遊び出す時に危険な行動と判断できかった。	個々の特徴をしっかり捉えて、適切な援助を行っていく。	いつもおりどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)数人の友達がそれぞれブロック遊びを楽しみ、他児のようと作ものを取り込んだ。その時に腕や腹部ももに不自然にはまってしまった。周りに人はいたが、ぶつかったりバランスを崩したりする様子はなかった。	対象児から離れたところ対象を見ていた	(具体的内容記載欄)座りこんだ「痛い」と声をかけすぐに聞こえた。本児の「どうしたの」と声をかけ、右肘の辺りを手で押さえ、痛い部分をそっと手で添えて患部の様子や動きをみる。肘をゆっくり曲げると痛みを訴えたので骨折や脱臼を疑い、所長に報告し、本児に「痛い」と声をかけ、本児の左手すり部分をそっと手で添えて患部の様子や動きをみる。肘をゆっくり曲げると痛みを訴えたので骨折や脱臼を疑い、所長に報告	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児の対応を見ながら、他の子どもたちも片付けを行うように、絵本の読み聞かせを行う。	繰り返し日々の動で発生したもので、保育士は注意しなければならないばならない。日常の生活で、保育士は注意しなければならないばならない。	よっぽどの時でも事故や怪我や事故が起こることを想定する。	
3400	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	11	3名	4名	4名	名	名	名	名		4名	3名	2歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左大腿骨幹部骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	特になし	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(8)回/年	不定期に実施	実施頻度( )回/年		特になし	集団活動中・見守りあり		特になし	いつもおりどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)エイトブロックで車を作成していた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)自由遊びの中で、担当職員が鬼となり、玉入れ用の玉を使って豆まきごっこをしていた。(本児は、車の作成途中で参加する)豆まきごっこ終了後、車作り取り、本児にかかる目を向けて作成途中で参加する)終了後、玉が散らかっていたので、危険のないよう動き回る子ども達に目を向けていた。本児は車作りを再開。担当職員の後ろ側に	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)豆まきごっこ終了後、車作り取りに本児にかかる目を向けて作成途中で参加する)本児がエイトブロックを取り、一つを手に行き、戻してしまった児の危険に気付きそちらに目を向けた。	子どもら傍で未然に防ぐことができていない。	全体に届く目配りをし、子どもの傍で事故の防止を行う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3401	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	21	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	男児	—	屋外活動中	(負傷の場合)負傷状況午後の自由遊びの時間中、保育士達一緒に鬼ごっこをしていて、砂場近の滑り台下の狭い空間に数名潜り込んだ。	—		上肢(腕・手・手指)	右母指基節骨骨端線損傷	子ども同士の衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	鬼ごっこしんでいたが、その際狭い空間に何人かで入ったために起こった。	鬼ごっこの際は狭い所（実際の場所を決める）は禁止にしたなどのルール決め。	不定期に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(13)回/年	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	職員一人ひとりの事故予防に対する意識が低かった。	事故が発生する危険性を共有し、事故予防マニュアルを作成したい。	個人活動中・見守りあり	職員一人見の体制で見ているのに対し、園庭全体にいた子が死角ができてしまった。	一人体制の時は、遊ぶ範囲を決めるなどのマニュアルを作る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)鬼ごっこで、お友達と一緒に楽しんでいたが、いっしょに低年齢児用の滑り台の下に潜りこんだ。狭い空間に多勢で何人かでどっと入りふざけていた。	対象児の動きを見ていなかった	担任も一緒に鬼ごっこを楽しんでいたため、死角になった場所に目が行き届かなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にいた児童をみていた	戸外遊びの時は一人体制であった。	一人体制の時は、一緒に遊ぶより重視	
3402	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	3歳児	14	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹・臀部)	右鎖骨若木骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	基準以上配置	ロープの色が目立見えにくかった。散歩に行った場所での、危険個所を遊び始める前にお話し注意をしてから遊び始めるようにする。保育士も危険個所については、良く目を配る	職員会議で事故について理解し、現場を確認して、改善策を考え、徹底する。	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	—		集団活動中・見守りあり	ロープが見えずらかった。ロープの色が枯れた芝生と同系色だった。	子ども達がハンチ・ハンガーなどを掛けて目立つようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段から転ぶ。いつもと違う場所で、楽しくはしゃいでいた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)見渡しがよい所で遊ぶ子ども達。本児の近くにはいたが、突然のことで、手を差し伸べたが間に合わなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具がいくつかあったのでら居た為、見ていなかった。	中に子ども達なるとは夢はよく見ないこと走ることがある	この場所にはこれがあるからはるつけて細かくなるように着なるようにする。	
3403	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設内(室外・園庭等)	3歳児	34	11	22	29	34	40	38	0	2名	2名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	—	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	遊びの範囲が広かった(ブランコ、雲梯、鉄棒)	ヒヤリハット用紙、マニュアルの見直し	定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	年少児対象の遊具ではなかったか	雲梯の撤庭去と園庭遊具周辺にクッション材を検討中	集団活動中・見守りあり	補助の位置	活動範囲の見直しと補助の仕方の検討	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)補助されながら3，4回繰り返す	対象児とマンツーマンの状況(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)対象児とマンツーマンの状況(右前方より右の手を足の間に、左後方より左手で腰	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)ブランコ中の補助の為、見ていなかった	補助の仕方	活動範囲の見直しと補助の仕方の検討 配置人数に見合った遊びの範囲	
3404	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	35	名	2名	6名	9名	8名	10名	名	3名	3名	6歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準以上配置	今年度、跳び箱をする機会が少なくなるので、数か月ごとに行った。	運動遊具での遊びを計画的に取り入れ、遊具のしっかりした扱い方を確認したり子どもたちに知らせていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	なし	集団活動中・見守りあり	準備運動では、指の曲げ伸ばしや足首を回すなど細かな運動をしていなかった。	準備運動の項目を確認し、いろいろな運動遊びのときには、準備運動をしっかり行なっていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)自分では跳べると思っていたが、実際の動きに差があり、指を曲げて台に付いてしまった。普段通り、ていねい	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)跳び箱に付き、1人ずつ順番に跳ぶ様子をしっかりと見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)長縄跳びネットくぐりでそれぞれ遊びとトンネルのそれぞれ付いて見ていなかった。	始めから勢いよく助走をつけて跳べた。	助走をつけずに跳び箱にまたがることや準備運動で指先運動まで意識して伸ばすなどの練習を行う。	
3405	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午後	施設内(室外・園庭等)	3歳児	23	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	特になし	特になし	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	雲梯を使際ずをする必ずを使用は、マット敷いている。普段に着いて上手から足地して。	これから雲梯際マットを敷き、するところを着地をしっかりと届けるようにする。	集団活動中・見守りあり	当該園児でもう一雲梯がくるくるとなり、雲梯きるに嬉しくて何回も雲梯をいた。	雲梯が好でも、取でで疲れてくるの何回も組んいるる思うれてくとで、時間きでもを決めた、途中入りなどが休憩れるの配慮である。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)当該園児の体調は、いつもと変わらず元気であった。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)当該園児のそばにいたが、職員の後ろにいた園児に呼びかけられ後ろを向いて対応していた時に、園児が落下した。瞬間を見ておらず、園児もその時は泣かずに、まったく、雲梯をしようとと並んでいたため、職員も気が付かなかっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室に時間になったため、他の子どもたちの子どもの片づけにを促した。歳児の職員は、雲梯と反対側で5歳児もにこいた。	職員1人が雲梯に付き、子どもの補助をしていたが、職員の後ろにいた子どもの応をした瞬間に当該児童が落下。ま落したも時に泣くこともなくその点下こと	活動範囲の見直しと補助の仕方の検討 配置人数に見合った遊びの範囲	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の種別	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3406	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	19	名	名	名	11名	8名	名	名	２名	２名	4歳	女児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸・腹部・腰部)	右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	基準配置	特になし	けが発生後の状況の確認、現場の振り返り、職員会議共有を行い再発防止に努める。身のこなし身体作りを学ぶための研修等に参加する。	定期的に実施	実施頻度(/)回/年	不定期に実施	実施頻度(/)回/年	不定期に実施	実施頻度(/)回/年	特になし	公園を利用する前は、公園の安全を確認する。予定が変更した場合は特に意識する。	個人活動中・見守り	普段利用している公園での想定しかけが、急遽状況が変わったことによると子どもたちの気持ちや遊びにも変化があった可能性がある。	公園を利用する前は、公園の安全を確認する。予定に変更があった場合は特に意識する。	いつもどおりの様子であった	普段と変わらず楽しんでいた。	子どもたちと一緒ぐらいに遊びながら、それが遊ぶ様子を見守っていた。	担当職員が子どもたちと一緒ぐらいに遊びながら、それが遊ぶ様子を見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	変更し利用することになった公園の状況を子どもたちにも伝えるなど、保育士はもちろん子どもたちも意識し	場所、遊びの内容に問題はなかったと思われる。保育士の立ち位置に配慮する必要はあるが、より広く開放的な空間を利用する際の言葉賭けも必要。	
3407	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	1歳児	14	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	1歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足部捻挫・左第1趾中足骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(５)回/年	基準以上配置	対象児のすぐ側には保育士がいなかった為	職員が子様どもの手を把握し、いち早く対処できるように共通認識を持つ	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(/)回/年	対象児が振り返り移動しようとした為	職員が子様どもの手を把握し、いち早く対処できるように共通認識を持つ	集団活動中・見守り		職員が子どもと子をし、早く対処できるように共通認識を持つ	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)対象児の側にいることに気付いていなかった	(具体的内容記載欄)対象児がつまずきなどつまずきたった際、対象児の側に近づき、手を差し伸べたが間に合わなかっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)主に別の子どもを保育していた	対象児が、いち早く対処できるように共通認識を持つ	職員が子どもの手を把握し、いち早く対処できるように共通認識を持つ	
3408	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	78	名	名	名	名	38名	40名	名	4名	4名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	予測不能な行動	園児に遊び遊び方の再確認・職員間で情報を共有し、防止策の再検討	定期的に実施	実施頻度(１)回/年	定期的に実施	実施頻度(/)回/年	定期的に実施	実施頻度(/)回/年	予測不能な行動	職員の一必ずアスクは必ず複レチックのそばにいる	集団活動中・見守り	園庭に出ることで浮き足立つ園児もいる	一度落ち着かせ、遊具や使いの方を確認しながらようにする	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)グループ鬼ごっこで遊びをしていたが、逃げることに夢中で降りまった	対象児が離れたところで対象見ていた	内容記載欄)なるべく園児の動きを多くの動きを確認できるよう視野を確保した、見きれていない部分があった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他のグループの園児との係遊びにわった	遊具の方が伝わらない園児もいる	見守る職員の視野の見直し、確認。繰り返し何回も遊具の使い方を園児に伝える	
3409	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	10	4名	6名	名	名	名	名	名	３名	３名	1歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	打撲により前歯(乳歯)がぬけた	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(10)回/年	基準以上配置	保育士が子供の行動を予測していなかった。	部屋の環境設定を見直し危険のないようにする。保育士の動きを見直し、清掃の加配を行う。	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	アレルギー食対応のため、机の数が多く、置き場所、置き方が不適切であった。	家具の置き場所、置き方を職員全体で見直し、危険のないようにする。	集団活動中・見守り	狭い所に入り込んでいる子供がいて、友だちがいることにくて複数の子供がそこへ入ろうとした。	部屋の環境整備を見直し、危険のいようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)友だちと同じところに入ろうとした。	対象児の至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)子供たちの着替えや排泄の補助をしながら、遊ぶ子どもたちを見守った。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)食後の片づけや子供たちの着替えの手伝いをしていた。	子供たちの着替えの手伝いをしながら、他の子どもたちを見守っていたが、一人が排泄助をしていた	清掃の加配職員をつけ、3名の保育士が子供たちの着替えに関わり、遊んでいる子を見届けるようする。	
3410	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	2歳児	10	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	3歳	女児	特になし	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	マニュアルや研修、人員配置に問題なし。	事例検証とし、再発に努める。	定期的に実施	実施頻度(1)回/月	定期的に実施	実施頻度(1)回/月	定期的に実施	実施頻度(乳児：毎日、幼児：月1)	特になし。	今後も定期的な点検に努める。安全全体に	集団活動中・見守り	靴下を履いていた。	靴を脱ぎ、移動するよう徹底する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)戸外あそび園後、靴を靴箱に片付けて際に跳ねながら移動していた為、転倒する。その際、靴下を履いていた	対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)靴を脱ぎ終わった児を玄関集まって近く、全員集まって手遊びをしていた。女児が転んだ位	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)	普段から転びやすい児であった為、子どものを想しく動予てべきあった。	事例を検証を環境面を考慮した動き、共有する。	
3411	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	70	名	名	名	23名	18名	23名	名	６名	５名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸・腹部・腰部)	右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(必要に応じて実施)回/年	基準配置	—	確認事項マニュアルや危機管理アルをより確認し、危機管理意識を高めていく。	定期的に実施	実施頻度(１)回/年	定期的に実施	実施頻度(１)回/年	定期的に実施	実施頻度回/年	バストは靴マットを脱いでいる。靴でおり、バスマットをすることは靴を脱いで当日も靴んでお遊び、バスマットをすることにしてしと滑ったまと推測する。	靴を脱いでは遊びをしてすに可能性を伝える。	集団活動中・見守り	クラスはクラスの子どもを一人全体で当日、クラスの担任は数名の子どもを回っていた。パート職員は本日は欠勤の子どもとしていることを見かった。	クラスのパート職員や他クラスの職員が、クラスの声をかけ、子どもと近くにいることで保育の必要があった。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)激しく動くよしくあそばず、おうこごっとしておらず、ちをんこ遊いた。	対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)担任は4歳クラスの前より、全体を見ていた本児んだ瞬間ずに見ていらず、一緒に遊んでいた子どもからの声掛けで気付い	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)離れたところで子どもと一緒に遊んでいた。対象児の近くには、他の職員はいなかった。	落ち着いている目を見て、子どもの状況や様子、あそびの展開等を把握できると良かった。	
3412	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午前中	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	6	名	名	名	名	名	名	名	2	2	6歳	女児	—	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	—	研修にて日常的に起きる子どもの転倒について改めて職員間で子どもの姿、原因、対応や保育で心掛けることを深め知識を深めていく。	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	門扉が狭く年長児二人がをつなぎはゆとなく、初に肩をぶつけてしまった。	門扉を最大限まで通し、通路を確保する。	集団活動中・見守り	園外に出ていた子供たちが帰ってきて、早くにとめて手をつないだ手を走りそうと気持ちが焦りつないまま出ようとしてしまった。	手をつないだ状態では未だ、園外保育の時には道路に出るに直前に手をつなぐ。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)機嫌よく交流会を楽しみ園に帰ってきた。相手の子と手の後後手をいていたため、バランス崩して転倒する。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)年長児6名が2人1組で手をつないで列になっていた。担任が最前列に、非常勤保育士が最後尾に位置した。最前列で前を向いていたため、転倒直後に振り	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)最後尾の子どもが転倒すると同時に駆け寄り、担当者が声かけする。	体の大きな年長児2名をつなぎ通るには分とりはなかった。	門扉の前でつないでいた手を離してから、入る。担任が脇に立ち、手を子どもたちを迎えるように入れるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3413	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	24	0名	0名	0名	0名	9名	15名	名	名	4名	4名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	その他	下肢(足・足指)	右足関節捻挫	自らの転倒・衝突による	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	—	毎日のように繰り返し遊んでいたことで、油断が生まれ、ボールはドボンと水に落ちた。	日によって園庭の状況が変わることを考慮し、ひとつひとつ細かに確認しながら、同じでも安全な場所を吟味して行う判断がさなかった。積極的に取りたいのなら組みたいひとで、子どもも遊び方を安全に遊べるように、活動ごとに見守り員の配置や見直し、環境の整備を怠らない。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	集団活動中・見守りあり	例年雪山の斜面のそりなどで使ったが、冬は中央にできた方びのり、雪面が多かった。	シーズンからは目が届く範囲で安全に活動ができるように、先ベンチ前に雪山の位置や高さなどを依頼する。直近の事故後、重機で直にならしたが、園庭全面の整備は現実ではないので、遊びの範囲を制限する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)毎日のように園庭でそりすべりやお尻すべりを楽しみ、当日もいつもどおり活発に遊んでいた。普段から特に危険な遊びはせず、当日も普段どおりだった。	対象児の動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄)雪山の上全体を見ながら安全確認をしていたが、どのタイングでを痛めたかの気づかなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担当者以外の2名のうち1名は自分のクラスの園児を担当に、1名は同じクラスの障がい児の支援をしていた。	毎日のように繰り返し遊んでいたことで、油断が生まれた。年長児であること、本児は普段から落ち着いて行動できるので注意の目が向けにくかったこと、異変に気づけなかった原因にも	園児全体に目が行き届く配置や活発の場の検証と状態に遊び方の工夫が必要	
3414	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	1歳児	8	名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	1歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左脛骨骨折	自らの転倒・衝突による	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	職員に、より一層の危機が必要であった。	インシデントアクシデント報告会は都度行っていたが、ヒヤットリハットを中心に定期的に報告検討会を行うようにする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	遊具などの点検は定期的にって行っ特に問題はなかった。	引き続き点検をていく。	集団活動中・見守りあり	おやつの後近くお帯に組とさかった	夕方の運動遊びかるようにする	いつもどおりの様子であった	視覚情報に敏感で落ち着きがない場合もある特性があり、いつもと変わらない状態であった	対象児至近で対象見ていた	他の子どもも気になって、本児の動きに集中しきれていなかった。	担当者・対象児の動きをていなかった	一方ざさ巧技のもの設定された遊びの子どもの動きを見ていた。	自治体の基準通りの保育士配置をしていが、取り組んだ保育の内容の特性上加配が必要	巧技台遊び場合限は可能な限り定数以上の保育士を配置する。	
3415	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午後	施設内(室内)	5歳以上児	16	名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	自らの転倒・衝突による	あり	不定期に実施	実施頻度(80)回/年	基準以上配置	事故防止に対する心に職員に意が差がある。	他園のヒヤットハットや事故事例を基に具体的な対応策を十分に話し合い、全職員に周知する。	定期的に実施	実施頻度(292)回/年	定期的に実施	実施頻度(292)回/年	定期的に実施	実施頻度(292)回/年	生児ごとコーナーで遊ぶ際、脱い靴の場所切だ置きが、適でなかった。	周りにないファーから離れ靴よにいする。	個人活動中・見守りあり	事故発生時、本児は落ち着いて行動していたが、上靴を取ろうとする際、他方向に目がいたのかもしれない。	慎重で行動できるように声掛けしていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)慌てた、急いだり様子はなかった。	対象児離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)特に危ない様子は見受けれなかったので、少し離れたところで見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)いとこ様子近くを見ていたが、特に危ないなかったので、その様子はなかったのまま見守った。	落ち着いて行動も遊び方の意識を高めるために、ルールを伝えるなどしていなった。	あらゆる場面で事故は起こることを予測した危機管理意識を持つ。	
3416	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	36	名	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	6歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕顆部上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	未実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	大事に至る怪我がない通常なら怪我何方にしらあなのりかしとしがある	遊び方や保育士の意識を高めるために研修の時間を定期的に行うようにする。	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎月1)回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	子どもが遊具あまいの等の意識の持ち方が薄い。	業者での点検は固定不備な定して報告ることで安心しまう保育士は保育士は常的に遊具かいとの点をのをおこなうように定期的なする。	集団活動中・見守りあり	保育士が全目を配りすべての子行き届くように、大型遊具を含めての見透かしたもの配ことを動しましょう。	大型遊具担当の保育士を配置し、目を離さず他の保育士や子どもと遊ぶ役割全見守りと役割を分担を決め、保育士を基準以上に配置する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)友だちと遊びの中でふざけんらずいろんいろな遊び具で楽しんでいた。	対象児離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)保育士4名守りをして子ども同士のトラブルで1人で保育士が対応した1人はのお迎えお知らせで子どもを促したので園庭には4人の保育士がいたが2名で	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)室内での子ども達守りを行う。	子ども遊びその方の直し確認子ども遊び方の注意を見届ける。	大型遊具での見守りは必ず行われているが急な出来事が起きると保育士が動くので大型遊具を見守る先生は動かないし目配りする。	
3417	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室内)	異年齢構成	25	名	名	名	名	16名	9名	名	名	1名	1名	5歳	女児	特になし	室内活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突による	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	—	—	定期的に実施	実施頻度(365)回/年	定期的に実施	実施頻度(365)回/年	定期的に実施	実施頻度(365)回/年	施設内、玩具について、チェは徹底していたが、備品に関する安全チェックを毎日実施すべきだった。	定型的な安全チェックをするだけでは、シートにされないつ記載していて項目いて危険所かを確認していく。	集団活動中・見守りあり	片付けをしていて、ミングで、子ども同士が興奮した様子で遊んでいたが、声をかけずにその場を離れてしまった。	担任が部屋を少し離れるタイミングもあるため、子どもの様子をみて的指導を確なを行っていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)おやつの前の片付けは、友達として楽しく過ごしたが、気持ちも上がり盛っていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)おやつのいてゴンをエレベーターに取っていた為、本児が転倒した瞬間は見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)各自、クラス対応した。	わずかな時間だと思い、他クラスの先生を要請することなくその場を離れてしまった。	1人担任のクラスでは、複数担任クラス、又は調整担当がワゴンを運び、不在とならないようにする。	
3418	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	58	名	6名	7名	17名	14名	14名	名	名	11名	11名	4歳	男児	なし	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右上乳歯切歯乳側切歯の嵌入と口唇の裂傷	自らの転倒・衝突による	あり	不定期に実施	実施頻度(隔)回/年	基準配置	この中で夢ってどなった子の前方逃げることにいるもの注意を怠った。	子どもの様子について職員間で共通理解をはかり、一歩先の危険を予測しながら安全な遊びの場を誘導する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	夢中になって逃げる遊びにしまった。本具近行って	逃ごっこ時は遊び等は、十分ベーなスを確保定気なスを、固定気よ遊ようにする。	個人活動中・見守りあり	鬼ごっこの鬼になっていたので、行動をたの本動られなかった。	一緒に遊びながら、本児の周り状況を捉し、近くの保育士にも声をかけるようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育士やと友だちと一緒に、鬼ごっこを楽しんでいた。	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)本児を含む年少5人～鬼ごっこを鬼ごっこした。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)年中担任保育士は年中児と砂場遊び年少児は、プ保育士は総合遊具辺りで、子ども達を見守ってい	一緒に遊んでいた保育士が、遊具近くに本児を止められなかった。	一緒に遊び前方に危険性を知らせたり、広い場所に誘導する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因															理由							
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																							
3419	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	2歳児	23	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	会議・研修等で事故予防の意識強化を徹底する	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	不定期に実施	実施頻度( )回/年		定期的な点検を継続し、改善が必要な場合は速やかに対応する	個人活動中・見守りあり		通常の状況であり問題はないが、可能な限り人員を配置する	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に変わった様子はなかった	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)複数の子どもを見るため、対象児からは離れた場所に	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれ自分の持ち場を見ていた		園庭の様子全体を見渡すことや、より丁寧な見守りを行っていく	
3420	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	117	名	名	名	37名	39名	41名	名		１５名	１３名	4歳	女児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左肘骨折の疑い	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期に実施	実施頻度(隔)回/年	基準配置	園舎と園庭には高低差があるため、降り口を降りる際に遊んでいる子の様子を見ながら、注意を欠いたことも考えられる。	子どもの見守りと適切な声かけを意識させる。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	靴裏に砂が付くと滑りやすくなったり、階段に砂が溜まった部分がある。	階段部分のコンクリートは砂をのめり除くように清掃する。階段を下り時は、手を持ち下りながら下りたり、物をもたまま、階段下り上りするこはあるとを伝えていく。	個人活動中・見守りあり	登園時と重なり、職員間の連携不足から不ものも把握が分でいなかった。	職員間の役割分担。	いつもどおりの様子であった	9時１５分頃に登園し、朝の身支度を整えて園庭から出ようとし階段を下りていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の子どもたちと一緒になってしてで遊んでいた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)ドッジボールをしていた(１名)砂場にいた(１名)ジャングルジムについていた(１名)鉄棒についていた(１名)ブランコについていた(１名)テラスで受けをしていた(１名)三輪車を出していた(１名)３歳児未満組で保育をしていた	戸外遊びで、その場から離れる時、子どもへ声かけのタイミングが遅れてしまった。	職員それぞれが声を掛け合い、立ち位置を離れたり、室内に入る時には必ずかけるようにしていく。	
3421	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	17	名	名	7名	10名	名	名	名		２名	２名	2歳	男児	骨折しやすい。	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	未実施	実施頻度( )回/年	基準配置	特になし	特になし	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	玩具の使い方の導が徹底されていなかった。	玩具の使用方法を守り、安全に使用されるかを見守る。	集団活動中・見守りあり	迎えの保護者対応で、園児から目を離さない。	職員同士声を掛け合い、園児から目を離さない。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)遊具の片づけ中であったが、積み木の上を歩き、遊び続けていた。	対象児を見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一人の職員がすでに保護者対応中であったが、そちらに気を取られ、園児全体に背を向けてしまい、様子を見ていな	担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応の時間長く、担当職員との取れていなかった。	片づけ中、子どもから目を離しまった。子どもたちが走り回るなど危険な行為見られたのに止めることなく	職員同士連携を取り、子どもから目を離さないよう、予測しけがのないように注意する。	
3422	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午後	施設内(室内)	—	13	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	その他	なし	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	子ども人数も少なくなり、安心してしまって、職員が1名で保育していた。	事故予防マニュアルを作成する。	不定期に実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度( )回/年		ハード面では、改善点はあがらなかった。	集団活動中・見守りあり	少人数で安心していた。はだしであることに十分配慮しなかった。	少人数でも、十分安全には配慮する。はだしであることを考えて、入れ換えしることに慣れれば、激しい運動あるそびにならないよう、風船遊びの内容を考慮すべき。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児から離れたところで対象児を見ていた	風船の取り合いになったとき、対応できなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室には、保育士1名で対応していた。	保育士1名になっていた。	人数は十分余裕があるが、担当職員は1名であった。はげしい動きが予想されるようなあそびにならないよう、配慮すべきであった。	
3423	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設内(室内)	—	2	名	名	名	名	名	名	名		２名	２名	6歳	女児	身長122．2㎝。体重30ｋｇ。転んだ際に手を付くと、全体重がかかる事が予想された。体格に応じて、個別に配慮する必要があった。	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期に実施	実施頻度(２)回/年	基準配置	事故防止マニュアル竹馬の安全な使い方や補助方法がない。事故防止に関して、職員が共通理解をしていなかった。	事故防止マニュアルを見直し、竹馬の安全な使い方や補助方法を記載する。事故防止に関する研修内容を見直し、職員が共通理解をする。	定期的に実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/年	子どもの体格や発達に合う竹馬を選ばなかった。	子どもの体格や発達に合う竹馬を個別に準備し、使用する前後に安全点検を行う。	集団活動中・見守りあり	床の上に、滑る可能性があるブルーシートを敷いたこと。近くにぶつかる可能性がある机があり、片付けなかったこと。	滑る可能性がある床やブルーシート上で使用しない、竹馬遊びを実施する前に、障害物を片付ける。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)竹びなで、張って挑戦した。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育士１名は、竹馬に乗っている子の傍らで見守っていたが、障害物のテープを片付け目を離した。前方に置いた保育士は、3m20㎝離れていた為、転倒を防げ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他保育士は、それぞれクラスで保育を行った。	竹馬を使用する場所使用方法が適切でなかったこと、十分な補助を行うことができなかったことに繋がった。	当面は竹馬使用を中止し、竹馬を使用する場所や使用方法を含めた、竹馬の使用に関する取り決めを行い、保育士の周知を徹底する。	
3424	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室内)	—	23		名	名	名	名	名	名		2名	2名		男児	—	その他	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	他児から危害を加えられたもの	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準以上配置	おやつ前のトイレタイム放送は、開放感からダイナミックな行動をとりがちである。保育士がトイレと保育室に分かれており、廊下にいる子どもへの注意、声かけが疎かになった	待ち時間が長くなってしまうと、トラブル等起きやすくなるので、だけ子ども達を待たせない生活の流れを考えていく。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	トイレ、保育室から廊下の様子が見えにくい。	トイレが込み合わないように、時間配分を考える。	その他	お互いが、子どもをみていてくれるだろうという思い込みがある。	ばたばたしがちな時間は廊下にも職員を配置する。	いつもどおりの様子であった	友達と関わり楽しく過ごす。友達とのわっしつかったり、手や足が出ることがある。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	おやつ前の準備も、子ども達へ声かけが十分かはなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの各ため、保育室で保育準備をしていた。	体力がまってきている。力もあるため、細なふざけが怪我につながる。	友達との関わりの約束事をきめ、守れるようにしていくテンション が上がっている時はお茶を飲むなどして、気持ちが落ち着くようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
3425	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	38	名	名	名	13名	13名	12名	名		3名	3名	4歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	—	活動内容や、子どもの状態に応じて対応する	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	鉄棒は、本児の胸の高さ、鉄棒の下はマットあり	遊具の設置状況は、適切ないと考えられる	集団活動中・見守り動中・見守りあり	竹馬や平均台、鉄棒など、自由に楽しむ環境	足抜き回りの着地の仕方を丁寧に教える	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)得意ではないが鉄棒に挑戦する姿があった	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)無理なく行動にないように注意して見ていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれのコーナーを見ていた	得意ではない鉄棒への挑戦	子どもの運動能力に配慮し、援助する	
3426	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	70名	9名	12名	12名	14名	12名	11名	名		10名	名	5歳	男児	—	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	子どもが大型の遊びたらそにすぐに行って見守る。園庭に出始めは、1名が必ず全見守休るよう毎日役割分担をす	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	地面が、硬かった。	下安全をしてなを落ともマット敷く。	その他	本児が雲梯に慣れて、難なくこなしていることから、側についていなかった。	子どもが大型の遊びたらそにすぐにそばに行って見守る。園庭に出始めは、1名が必ず全見守休るよう毎日役割分担をす	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)雲梯で2段飛ばしを練習し、できるようになっていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児が雲梯に慣れ難なくこなしていることから、側についていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)泥遊びの準備をしていた。		子どもが大型の遊具を遊び始めたらすぐにそばに行って見守る。園庭に出始めは、1名が必ず全体を見守るよう毎日役割分担をする。	
3427	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	夕方(16時頃ヘタ食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	8	1名	0名	0名	3名	2名	2名	0名		2名	2名	5歳	男児	—	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左母指末節骨骨折転位 剥離骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	基準配置	保護者もたいしたないと思ってたあるが、帰よって宅した。	玄関(保育所の外)であったが、子どもに保育士にかけうと声をもら声をかけて確認した。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(13)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	玄関先のエントランスの部分は、ほぼ狭くなれるため、ヘルメット(雨天時は帽子)掛けていたが、雨天時はコートをいて、固定ヘルメットとなるが掛けイント置いた定ろ設置してあった。	園外に置いてあるヘルメット掛けや雨天時にレイコート置き方付けコート掛けたりするときに、保護者に一緒にもう周知するメット・レイコートイント掛けぶらつかし、下りたない札をつけるなどして注意喚起を促す。	その他	保護者がいたが、一緒におなわず子どもに任せていた。	子どもの行動や危険なことを予測し、ヘルメットや雨天時レイコート掛けの置き方を考え、花壇のあるとこの間をよけるようにしていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)玄関外にたヘルメットぶら掛けから下がってしまった。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)降所のた時の保護者と外に出た時のことだった、職員は見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)降所のた時の保護者と外に出た時のことだった、職員は見ていなかった。	登所降時や家庭の怪我については、特に大怪はないとってもしまと思ってくれない保護者もいる。	玄関(保育所の外)で発生したことだが、保育士にかけてもら声をかけうよう声かけ、確認した。また、保育所の登所降所時の怪我や、家庭の怪我も把握できるよう保護者にも声掛けし、どのようなことも話せるような関係を作っていく。	
3428	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室内)	4歳児	21	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	男児	身長121cm 体重31Kg 肥満傾向 テンションが上がると回りが見えなくなる時がある 気分により集団行動をとらない事がある 発生時の天候は晴れ	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右腓骨骨折 幹部骨折 右足部捻挫	自らの転倒・衝突によるもの	あり	未実施	実施頻度()回/年	基準配置	特に無し。	特に無し。	不定期に実施	実施頻度(2~3)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特に無し	一人でバランスを崩して転んだ怪我だため、特に無し。	集団活動中・見守りあり	特に無し	柔軟性・筋力を高めるなど身体を十分に動かす遊びを保育に取入れ、怪我をしない体をつくる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)他児はみんなで大きな声を出して言葉を練習していたが、じっとしていられないことがある為、室内をウロウロしはじめ、クルクルしていてバランスを崩して転んだ。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)日頃から、集団行動へは無理に誘う事はしないで見守るようにしても守るようにる子どもなので、声掛けも少なくして見守っていた。対象児を含め、児童全体を見ていたが、危険な行動では無かっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)一人担任保育士での室内だった為、応援を求めてかにすぐに行動した。	特に無し	子どもの動きをさらに想定、把握するよう気を配る。	
3429	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	32	名	名	名	名	名	名	名		7名	3名	6歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	火傷	上肢(腕・手・手指)	火傷	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	特に無し	園外での事故について振り返り、職員へ報告、周知徹底した。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園外施設の設備が用で大人用であった。	施設の設備が用で大人用であったため、子どもに足元置などの配慮があった。	集団活動中・見守りあり	子ども達にいつもと異なる場所で分に十分えるべきであった。	クッキングの経験は、園内重で積ねてきたが、回、もと異なる場所であったため、配慮が必要であった。	いつもより活発・動的であった	(具体的内容記載欄)5歳児のお泊り保育中ともあり、対象児を含めた園児が積極的にクッキングをしていた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)鍋に野菜を投入する際、鍋の周りに4~5人の子ども達が集まり、担当者とともに、野菜を鍋に入れ始め た。担当者が、危険に注意しながら、声を掛けていたが上手に対応しきれなかったこと、対象児が、腕に鍋の縁が当たったことに気づかなかったこと等原因	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他の職員も近くで子ども達と一緒に野菜を切る、グループに分かれて昼食作りをした。	後に、子ども自身が、火傷を負った際に動が出来なくなると思い、職員へ声掛けなかったことも伝えており、活動の前に、けがをした際には報告するように伝えるべきであった。	今回、火を使う活動であった為、活動の前に十分注意を促すと共に、子どもの行動から目を離さず、危険のないようにする。	
3430	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室内)	4歳児	11	名	名	名	名	名	名			1名	1名	5歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左母指中手骨近位端骨端(線)損傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	年13回	基準配置	保育士が本児の動きを予測できなかった。	運動遊びの指導ポイントを捉える研修を行い安全に留意する。	定期的に実施	実施頻度毎日	定期的に実施	実施頻度週に1回	定期的に実施	実施頻度毎日		広さは十分にあり、床のでおうなくにれることがない	集団活動中・見守りあり	跳べない子への配慮が足りなかった	全員が一斉に跳ぶのではなく安全を確認しながら保育を行う	いつもどおりの様子であった	まだ一人で縄跳びが出来ず勢つけて跳んでしまった	対象児至近で対象児を見ていた	至近距離にいた為、出来事で近寄り確認をするのがやっとだった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室には担任一人で見ていた。他の保育士は別の部屋で受け持ちの子を見ていた。	いつも行っている人跳びなので、保育士に安心感があった。	一人ひとりの発達状況を把握して適切な指導を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面									ハード面								環境面				人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転倒	死亡	負傷	診断名			死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
3431	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	86	名	名	19名	24名	21名	22名	名	7名	7名	3歳	男児	治療中の上前歯(乳歯)の差し歯がはずれ、歯の插ら ぎが治まるまで、3週間安静が必要。その間、次の治療までの前歯がないため、肉など噛み切って食べるものは食べやすいように刻むなど食事に配慮する。	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	—	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1回/1年	基準配置	—	・遊ぶ際な危険な為や約束なども子と一緒に事前に確認する。・公園は広範囲で活動になるため、職員同士の立ち位置などに配慮し、危険を予測しながら見守る。	定期的に実施	実施頻度(20)回/年	定期的に実施	実施頻度(20)回/年	不定期に実施	実施頻度(随時)		・公共のであ使加時に定期的に安全点検をする。	個人活動中・見守りあり		・引率する保育士の人数や状況に応じて、活動範囲や使用遊具を制限するなどもに安全に見守ることができるよう配慮する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)・普段と特に変わった様子はなかった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)・対象児2メートルル位離れたところから、対象児やほかの子どもの様子を見ていた。その際に、不意にベンチに上りジャンプしたため、止める事ができなかった	担当者・対象児の動きをていかの動きなかった	(具体的内容記載欄)・各ポイントに分かれ、他の様子、児を見ていた。		・保育士が危険箇所を把握し、不安定な子どもにも知らせることにより子どもの危険に対する意識も高めていく。・危険を予測し、大きな怪我につながるような行為を止められるように関わる。・危険個所に保育士がついて、子どもの動きをしっかり観	
3432	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	24	0名	0名	0名	10名	14名	0名	名	2名	2名	5歳	女児	肘内症の為、以前から肘が抜けた事がある。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	橈骨頚部骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(1回/1年	基準以上配置	—	外部研修に積極的に参加。ヒヤリハットの集計や改善事項を重視していく	定期的に実施	実施頻度(12回/年	定期的に実施	実施頻度(12回/年	不定期に実施	実施頻度(回/年		子ども達段い慣れない遊具の為、1つに大人が付き、怪止防止対策が必ずとって転落を防ぐ。	集団活動中・見守りあり		普段から、遊び慣れていない校庭での活動だった為、より一層大人の見合いの方、子ども達の遊具の使い方に注意していく	いつもどおりの様子であった	校庭あそびでの注意事項・約束事等を話し、大人の「遊んでいい よ」の声があった後、一目散に走って鉄棒に向かう。鉄棒にぶるさがって遊ぶ	対象児から離れたところで対象児を見ていた	すべり台・鉄棒・遊具遊ぶ子達の見守り、全体の状況を見ていた。	担当者・対象児の動きをていかなった	校庭の真ん中で集団遊び(鬼ごっこ)を子どもたちと一緒に行う。		校庭遊びで方の見合い方を改めて確認していく。	
3433	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	76	名	名	名	25名	25名	26名	0名	１０名	９名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯牙亜脱臼	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2回/1年	基準配置	年齢の特性として、転ぶ、つまづくことがあるが(事故防止マニュアルより)その点についての職員間での認識の甘さがあった。	散歩マニュアル内の目的別の目的や留意点、また園外保育のリスクの職員間を再確認する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	公園内の整備される道であり、障害物などもなかったため、ハード面の不備はなかったと考える。	上記の通りであり、ハード面での不備はなかったと考える。	集団活動中・見守りあり	歩き方の特徴として、普段からつまづく先で歩くと姿がれている。保育は内と違った環境であったため、より転ぶことが多かったと考える。	本児の特性を捉え、保育士が行動の予測、それに対応することを心がけ、担当間だけでなく、職員間でも再確認していく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段から転びやすい子であり、道中何度か転んでいた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)道中何度かで転んだので、担当が付きそばにより注意して見守っていくべきだった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)本児が見る位置で、他児と手をつなぎ歩いていた。	本児はふざけて歩いていたわけではなかったが、道中何度か転んでいた。	担当保育士がそばに付き、注意し見守り、転倒できなく起こる得るかもしれないので予測い事多くなっていく。十分気を付けていく。	
3434	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	14名	名	名	名	名	3名	11名	名	1名	1名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(毎日)	基準以上配置	子どもたちにも、ふざけたり手つなぎや鬼ごっこなどを前に固定遊具にのぼったりするなど危険があることを知らせ危険であるという意識を持たせる。	子どもの人数と職員の配置のバランスを考慮ですべきであった。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	固定遊具の周辺は、天候等にも事情よって変化するため遊ぶ前により一層の点検が必要。	遊ぶ前には、遠くからの目だけでなく傍に行き確認する。	集団活動中・見守りあり	登園児が中で園庭遊びいる。行事が始まる直前。	受け入れ時、保育内容を考慮し保育環境に配慮する。行事前の児の気持ちの高まりに予想した遊びを選択する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)ごっこ遊びで鬼ごっこに夢中になり、前方不注意でありぶつかってスピードも出てしまい止まれず鉄棒にぶつかった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)登園児の受け入れ時、保育士が子どもの見守りをしていたことを心がけ、本児をとかどもの行動をとめることができなかった。スピードが出ていたことに気付いていたが、声をかけ	担当者・対象児の動きをていかなった	(具体的内容記載欄)ホール内で児を見守りながら、行事に向けて各クラスの準備を始めていた。	行事の準備を急ぐ気持ちがあり園庭の様子付けがかった。全員配置になっていなかった。園庭にいた職員は受け入れと遊びを同時	園庭にいた職員は不安時に応援を頼みを感じた他職員と連携をとることが必要であった。そこで他職員と状況を安全ごし方周なを検討する。	
3435	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午後	施設内(室内)	5歳以上児	21	名	名	名	名	名	名	名	1	1	6歳	女児	特に無し	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	剥離骨折	子どもの同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	特になし	特になし	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	不定期に実施	実施頻度(約1)回/週	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	玩具はまだ出しておらず、何もない広い環境だったため、児童たちが騒ぎ走り始めた。	走らないよう児童によに伝え、徹底する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)周りに影響されて対象児も歩きまわっていた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)走らず集ようかけたが、あちこちまるに声をかけたが、あちこちで走っていたため対象児には届かなかっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)時間帯は、担任1人のみなので、他の保育士はいなかった。	クラス全体が落ち着かない為、室内でもだ走りだしてしまう。	・落ち着いるよう遊べる声掛けの仕方を工夫する。・普段から落ち付いてよ自由遊ぶ過ごせるように、あそびの仕方を改善する。	
3436	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午前中	施設内(室外・園庭等)	—	7	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	3歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右乳側切歯部歯槽骨骨折同歯際脱臼	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(5)回/年	基準以上配置	前日にも室内で転倒し同じ歯を亜脱していた。当該児の把握については、より個別的なケアが必要であった。	受傷後の児については、より丁寧な行動は把握を行ないながら、保育士が付き添うようにする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭に凹凸砂がって箇所があり、取らリスクがあった園庭の整備(凹凸砂の回収)		個人活動中・見守りあり		園庭の活動範囲をお決めくなど、保育士が子どもの行動を複数の子ども動しやすくする	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)他児のあたっていたため。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)その場には担当保育のほか他の職員はいなかったため。		保育士担当の2名の保育士のうち、1名がその場を離れる場合は、残りの児保育士は全体を把握できるよう立ち位置や子どもとのかかわり	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3437	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	—	16	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	なし	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	担任の常勤保育士が有休をとったため、フリー保育士が入ることになったが、インフルエンザに罹患し担任が欠勤となったため、事前引き継ぎができなかった。	担任保育士が休むお引継ぎ事項の確認と実施保育士の確認を事前にする習慣ができなかったので、日課表に基づく引継ぎを実施する。また、子どもが周囲のものを倒されないように、担任保育士以外が保育をする場合は、目の届く範囲で遊ぶことを子どもに促す。園児の歳別の遊具等の安全点検を定期的に実施し、職員が安全点検を定期的に実施する。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	高さのある台の滑り台や幼児用ジャングルジムで飛び降りたり、高くなる踊り場がついていると、職員の配置が必要な遊具が多い公園であった。	職員の見守り範囲が可能な範囲で遊ぶようにする。	集団活動中・見守りあり	公園内のブランコ遊具で、頭上にいろいろな形の弧を描くようにジャンプした。	子どもの興味や年齢に合わせて、遊具の使い方を知ったり、挑戦するなど安全に伝えること員間で確認した。	いつも活発・動的であった	(具体的内容記載欄)担任保育士がいないことで、普段とは違うことを感じていた。家庭高いところからジャンプすることを楽しむ姿が最も近見ていたこと。友達と気が高ぶらないように、普段の高さのジャンプを	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)いつもの状況では、公園全体を使って遊ぶと、非常勤職員を取り、遊ぶように確認を取り始めたが、ひとりは、高さのあるものに滑り付き、もう一人は状況の登り棒についていたため、対象児がジャンプした場所を1人は目視していたが、5メートルほど離れた位置にいた	当番・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)2人の担当職員のうち、1人は見守ったが、一人は死角になり見えていなかった。公園にはその職員はいなかった。	目視していた職員は、担任保育士ではなかったため、踊り場からのジャンプを躊躇なく自子が飛んだので、いつものことなのと思ったが、すぐに駆けて寄って声かけをしようとした時には、本児が飛び降り、声	普段の様子がわからないクラスに入った場合は、声に出して職員同士確認しあう。	
3438	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	18	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右腓骨遊離端骨折	自転車からの転倒・衝突による	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	マニュアルの自己チェックのみならず、園内での実施や外部研修の参加を促し、職員の事故防止に対する感覚の向上を図る。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回以上/年	定期的に実施	実施頻度(12)回以上/年		園庭や戸外での遊びを実施する前には、これまでに実施している遊具等の点検を行い、子どもの成長状況や発達状況にを鑑みて、点検の箇所、方法見直しを行う。	個人活動中・見守りあり	室内において、包丁等の食育活動器具を扱う経験の食育活動で、当該園児も集まったあとの時間帯であった。	火や刃物等を扱う際の配慮のなら、集中したあとの疲れや注意力低下による影響も想定し、次の活動への促しや音楽がけ等、職員間で振り返り、見交換を行い、想定されるリスクを検証する。	いつもどおりの様子であった	調理活動後、片付けを終えて園児から、順次、園庭に出て、遊び始めていた。当該園児も園庭で遊び始め、ジングルジム周辺を歩行中に転倒した。	対象児の動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄)担任保育士が園庭中央付近で目で全体を配っていた。当該園児が泣みをたことに気が付き、側により身体の状態を確認した。	担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一人担任保育士は北側に設置されたブランコ付ランコ近で、園児遊ぶ園児とから園庭に出て園児を見守っていた。	—	今般の事故をとおして、活動が切り替わる際に想定される危険、活動の流れ、職員の動き、園児への注意喚起等について職員間で検討、意見交換を行い、更に事故防止に対する意識の向上に努める。	
3439	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	2歳児	19						0		4名	名	2歳	男児	身長92.0cm体重13.9kg（12月5日計測）既往歴・持病・アレルギー無し発育・発達良好発生時の天候：曇り	屋外活動中	負傷	その他	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	左上ABC右上Aの埋入／左下ABC・右下A B・右上B亜脱臼下唇挫創／左頬打撲	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(7)回/年	基準以上配置	職員は止要性事故防止の重要を認識していたが、園で作成していたマニュアルや研修が活かされなかった。	再度、職員全員で検証し、園外で遊ぶ際に遵守していく。	定期的に実施	実施頻度毎回	定期的に実施	実施頻度毎回	定期的に実施	実施頻度毎回	ブランコの高さ(41cm)が本児には高かった。	固定遊具で遊ぶ際には、園児の年齢、身体の状況、経験を留意して、遊具の選択、保育士の配置確認体制を確認する。	集団活動中・見守りあり	ブランコは固定遊具であるが、2歳児は遊ぶ場合は、1対1で対応するとしても、2歳児には、1対1で対応するべきであった。	咄嗟のにも行動できるよう、一人ずつ、ぶらんに乗ませる。急な出し飛び出しの防止め、サークルの外に待つ園児の側にも職員を配置する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)体調・機嫌良好で登園する。他児とトラブルもなく、プラ遊びしんでンコを楽しんでいた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)ブランコに乗りたい園児が8名おり、サークルの外に6名を待機させながら、2名ずつブランコに乗せ、1人担任はブランコの中央に立っていた。個々に合わせて掃らにてたりけをしり、ランコを待機している児も気にかけながら見	当番・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他保育士3名は11名児の遊ぶ滑り台やや砂場のエリアに付い子どもたちにそれ行き遊び楽しいた。	二人の園児同時をにブランコにてて乗せた。	それぞれの経験や身体機能に応じて、一人ずつブランコに乗せる等配慮する。	
3440	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	0歳児	10	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	1歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右上A亜脱臼	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	・夕方は、子どもの疲れが見られ帯もがあるこまるとと、個別の配対応が不足していた。	・クラス合同打ち合わせにおいて、担当する子様の当どもも把握できるよう情報共有を強化する。 ・「事故防止チェックリスト」の再確認を行う。他、集団保育における事故発生し易い時間、状況、予想される子どもの疲労等について、意見交換をその見行い、内容を共有する	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	扉の枠にカバーを設置していなかった。	発達を踏まえ、環境くりどもの成長状況に合せた防止策の防止を行う。（扉の枠にカバーを付ける）	個人活動中・見守りあり	・園児の不安定さや歩行の安定落ち着かない様子が見られた際に、抱っこをする等の対応に至らなかった。	・園児が落ち着かない時は、保育士間で情報を共有し、該当児の様子を気に掛ける等、注意が必要だった。	いつもより活発・活動的であった	・興奮しやすいたはしやいでいた。	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	・手を繋ぎ歩いで、いていた。	担当対象児の動きを見ていなかった	・他2名は室内の遊びスペースにて、他児の遊び見ていを守った。1名は、トイレの介助を行っていた。	—	・常に手を繋ぐのでは留意なく、園児の発達やその時の様子により、安全にながらひとなりで歩く経験をさせていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生の体制								教育・保育等従事				発生時状況	事故の転帰						ソフト面							ハード面							環境面			人的面										
			施設・事業所種別					人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検			教育・保育・育成支援の状況			対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き					
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		事故予防研修【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策		その他要因・分析、特記事項	改善策	理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		その他要因・分析、特記事項	改善策	
3441	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	11	0名	0名	0名	0名	0名	11名	0名	1名	1名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	その他	骨折	上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折・左手打撲	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	寒い時期のだったので準備体操がたりなかった。手指キャッチのキャッチで衝撃が強かった	準備体操の励行、ボールのキャッチ仕方を再確認する。(腕と体でうけとめられるように)	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/月	問題ないと考えられる。	特になし	集団活動中・見守りあり	ドッジボールをキャッチできていたのに衝撃に耐えられなかったよ、医さが小さい骨ではいと言われたもの	運動遊びや散歩、体操などに定期的に実施し筋力など体力作りをしていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の安全で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)ドッジボールゲームの指導もしながら見ていた。対象児がボールをキャッチできたことを褒めたところだった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)5歳児以外は午睡であったため他の職員は	小さい気に部であまり離れなかったので、看護師もまはいないと思いほどであった。	念のために家庭の様子を受診にいたり、骨折を発見できたので、必ず翌日も子の様子を保護者に聴くこと、観察していくことを皆で確認した。	
3442	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	36	名	名	9名	8名	8名	11名	名	4名	4名	6歳	女児	特になし。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折(若木骨折)	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	基準配置	転倒により骨折に至ることの認識不足があった。	児童へ転倒時に手をつくことを伝えるとともに、転倒の要因になるや靴のサイズ要性を家庭へも伝えていく。	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	園庭にはゴムチップによるショック吸収材があるが、あまでも敷材であるため、今回のような転倒の際に骨折に至ってしまった。	屋外であるため風による硬直化が想定され、メンテナンスを検討する。	集団活動中・子ども達のみ	異年齢保育のため、活動範囲や能力の差があるなかでの遊びだった。	児童の活動範囲や考慮した遊動範囲能力を踏まえ、びの提案をする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)”どろけい”で警察役と、追いかける最中に転倒した。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園庭内で遊びを見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園庭内で遊び見守っていた。	児童が見と接触してしまう混雑状況の認識が低かった。	遊んでいる児童の混雑・過密状況を把握して、整理縦和をする。	
3443	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	33	名	名	名	13名	名	21名	名	3名	3名	5歳	男児	特記事項について保護者に伝えていないため削除してほしい。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	パネルで遊ぶ時のルールはあるが、クラスで違いも出ていてきたので、対応に迷う状況があった	パネルの高さ、組む時の約束、遊ぶ時の注意など、ルールを再確認する。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型パネルの枚数が多い。	高く積めないように、枚数を減らす。	集団活動中・見守りあり	園庭の遊具が多すぎて、子どもの遊具がぎでとびはしまいない。	使わない遊具を、倉庫にいれるなど、整理する。	いつもどおりの様子であった	5歳児3人で輪いごっこしてトラブルとして、他児が投げたをパネルとして転落する。	対象児の安全で対象児を見ていた	投げたパネルを受け止めたが、転落するのを防げなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ時間に鉄棒が多く、他の鉄棒トラブルがあり、職員はその対応に当たっていた。	パネルで遊ぶ時のルールが守れていなかった。職員の連携不足。危険察知能力の不足。子どもへの対応問題。	ルールを再確認し、徹底する。異年齢で交流するときもリーダーを決め、声を掛け合う。子どもの把握や事故事例の学習などで、危険察知能力を取組みを行う。子どもに対して禁止用語では対応にならない。なぜそうなるのか子どもの気持ちを聞いた	
3444	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	6	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	異年齢構成	27	名	名	名	名	12名	15名	名	2名	2名	4歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足小指骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	職員配置等については適切なため、改善策なし。	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		定期的に点検を実施しているため改善なし。	集団活動中・見守りあり	普段であれば、年齢別に各保育室で午睡準備をするが、当日は、4,5歳児合同で1つの保育室で行っており、落ち着かない状況があった。	落ち着いた状況の中で、午睡準備ができるよう、時間配分、保育室の環境等工夫する。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)午睡準備に保育室を走り回る状況があり、他児とぶつかって、額をぶつけていた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児に対し、保育室内を走り回らないよう再三声をかけていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児の午睡準備の援助をしていた。	—	職員の状況としては適切な配置と見守りをしていたため、改善策なし。	
3445	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	3	午前中	施設内(室内)	3歳児	28	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	左涙管断裂	自らの転倒・衝突によるもの	あり	未実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	特になし	特になし	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	タオル掛けの形状に問題あり	すぐにタオル掛けを撤去し、紙ペーパーにて対応している。ぶつかっても危なくない新しい形状のタオル掛けを購入予定(6月)。	集団活動中・見守りあり	給食の配膳等に追われ、保育士の業務が忙しい時間帯ではあったが、配置基準は満たしており、通常して環境面において問題があったとには考えにくい。	特になし	いつもおり様子あったどので	(具体的内容記載欄)給食の準備のため、手洗いに行ったこまった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園児それぞれが給食の準備に取り掛かっているか、全体の様子をみながら、個別に声を掛けていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)給食の配膳等に追われたが、子どもの届く範囲内には	配置職員は、通常業務を行っており、人的面において問題あったとは考えない。	特になし	
3446	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	2	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	64	名	名	名	20名	21名	23名	0名	5名	5名	6歳	女児	特になし。	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	腓骨剥離骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	特になし	今後も配置基準を守っていきながら、子どもの動きを見守れるようにする。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(4～5)回/年	特になし	園庭整備はほぼ毎日実施。園庭のくぼみや小石なども拾ってかから遊んでいる。これから引き続き園庭整備を重視する。	集団活動中・見守りあり	特になし	準備運動やマラソンをし、入念に身体を動かしてから自由遊びを行った。今後も準備運動を徹底する。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)自分は園庭で遊ぶことが楽しいとあったようである	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)サッカーの前で園児が順番にゴールし、1名がゴールキーパーをする様子を見守ってい	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)3,4,5歳児のあそびを見守った、一緒に参加しながら保育をしていた。	特になし	今後も配置基準を守っていきながら、子どもの動きを見守れるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3447	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	15	名	名	名	名	2名	13名	名		2名	2名	6歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折（右手首骨折）	遊具等の転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	年度途中中復帰や入職者へのマニュアルの確認不足	現マニュアルに、ブランコで遊ぶ際は職員が必ず傍で見るようになっているが、どもがブランコから降りるまで職員が目を離さないようにすることを追加し、全職員への周知を図る。年度途中から復帰・入職者にのマニュアルの確認・周知をリスク管理責任者がおこな	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	ブランコ下に敷いているゴムシートが硬くなってきた。	生芝事業者に、衝撃吸収材を敷く、人工芝を敷く。	集団活動中・見守り	職員の交代時の引き継ぎをしていた	活動から次の活動に移行する時見守りを怠らないよう配慮する	いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）ままごとの片づけをした後、こどもは保育室に入っていったが、ブランコの走った。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）休憩時間が終わり交代するためにテラスに出たが、外にいた職員から本児が片付けを終えてブラン	（具体的内容記載欄）担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄）おやつの時間になるので片付けてから保育室に入ることを伝えた。片付けは終えたが、その後本児が	ブランコに走って行った時に、本人にかけた声をすぐにブランコの所に行かず、ブランコから転落する瞬間に合わなかった。	ブランコで、遊ぶ場合は、保育士がそばで見守る事になっており、子どもが降りたことを確認してから次の移動に移るようにする。	
3448	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	24	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	男児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折、左肘挫傷及び捻挫、左肩挫傷及び捻挫	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	「戸外の雪遊びについて」のマニュアルの中に、雪の築山を歩いて下りる際の子どもの注意点を具体的に記載し合っていた。	職員間で原因・対策を共有する。また、「戸外の雪遊びについて」のマニュアルの見直し・改訂を行う。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度毎日	定期的に実施	実施頻度毎日	築山自体の斜面の傾斜はさほど強くはないが、子どもたちが下りる際、自身で注意する意識が薄かった。	どもたちに雪の築山に登り下りする際ゆっくり下りること、走らないことを再確認する。	集団活動中・見守り	片付けをタイミングを始めるように配慮がいた。不足していた。	子どもたちが集まった時点で片付けに入ることを職員間でしっかりと共有する。	いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）築山で遊んでいたが、保育士より片付けて入室するとの声掛けがあり、戻ろうと山を下りていた。	対象児の動きを見ていなかった。	（具体的内容記載欄）築山に本児がいることは確認していたが、下りきる前に片付けに入り、転倒の様子を正確に見ていなかった。そのため、とっさの適切な援助も難し	—	（具体的内容記載欄）	築山にいる子どもに対して、ゆっくり下りるようかけていなかった。	雪遊びのスタートの時期は、子どもたちが雪遊びに慣れていないことが予想されるため、丁寧に声掛け等を行う。	
3449	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	68名	9名	10名	12名	11名	14名	12名	0名		11名	11名	6歳	女児	無し	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	前日に嘔吐あり。体調がすぐれていなかった。	寝転がる子は、声かけし、体調がすぐれない場合は医務室に連れていき休ませる。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室の絵本コーナの位置は適切であったか	絵本コーナの位置確認再度確認	集団活動中・見守り	絵本コーナで寝転がる	保育室での遊び方、約束事について、子供達に繰り返しる。朝の受け入れや、遊び方に配慮する。	いつもより元気がなかった	（具体的内容記載欄）指診の確認	対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）本児は朝の準備が終わり絵本コーナーにいる	担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）	寝転んで遊んでいる子どもいるへの声かけや指導が不十分であった	保育室での遊び方、約束事について、子供達に繰り返し伝える。保育者の見る位置や配置などの環境をもう一度、園全体で話し合う。朝の受け入	
3450	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	3歳児	17	名	名	名	名	名	名	名		2	2	4歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	右第5指中節骨ひび疑い	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	食事の準備や片づけで、食器（台布巾、残食ボール）を持って上段を階段を事が意欲的で上手になっていたが、子どもが食器や人数が持ってい、が、人数が持ってい物を、も転んで直しまったは、手をちゃんと着態にして面を歩く時では転んだ。平ためお、階段のリスクも	食器は大育室に入が保育室ことにした。	定期的に実施	実施頻度(/12)回/年	定期的に実施	実施頻度(/12)回/年	定期的に実施	実施頻度(/12)回/年	ものをいただいた子どもに運ばせ、子どもに運ばせていて食器をこぼしてばとして検討した。	食器は子ども達には大きくこぼれないように、保育室が食器にもお運ばれるように、大人が食器を運ぶことに変更。他の園児が階段で転倒して手の負傷をしまったことを伝え、友達に気をつけるよう話をして指導した。	集団活動中・見守り	子どもや気持ちが不安定な子どもに対して、年齢的な検討をもしていることを職員で話合った。	いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）お皿を4枚、両手に持ち1段ずつ階段を歩いて登っていた。	対象児の至近で対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）本児が転倒すると近くに「大丈夫？」と声をかけながら、様子を確認した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の担当者・保育室で他の子ども達の子ども達事をしていた。と食事の準備をしていた。	いつも出来ていたことったので、気を付けるように注意を促すの事前になった。	身の自分で気付けられるように、子ども自分で繰り返し話を注意を促す。	
3451	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	106	11名	16名	19名	24名	14名	22名	名		18名	17名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	—	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	—	年齢的なつくり（頭部大きい）体格比率を考慮し、体の使い方を職員及びに周知する。適切な年齢遊びであるかを確認し、子どもにも使い方を丁寧に教え	定期的に実施	実施頻度(/12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度(/)回/年		ジャングルの破損、設置場所等に問題はなかった。	集団活動中・見守り	本児が両手を離し手をその場をまま離れて油断できない。	ジャングルから離れる本児が両足を離れるまで見守る必要がある。	いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）両手をしっかり握り、確実に1歩ずつ降りていた。	対象児の至近で対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）3～4名がジャングルに上がり、その様子を一人の職員で全体の動きをみていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）ジャングルジム以外の場所で遊ぶ子どもをみていた	—	ジャングルジムに職員がつけないときは使用停止をしている。1対1の状況でも防ぎきれないものと思われる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況					事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																ソフト面						ハード面						環境面			人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3452	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	3	名	名	名	1名	2名	名	名		1名	1名	5歳	女児	なし	登園・降園中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左外果骨折	自らの転倒・衝突にもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	会議などの中で、ヒヤリハットなどのケースを分析会議をするが不足している	様々な状況下で発生すること故が発生することを学ぶ機会を増やす	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	その他	玄関が混していわけではないが、降園するまでややや時間を要した	迎え時にどもの気持ちが高揚し、保護者が目を離すなどで、けがにつながりやすいもある。子どもも保護者にも落ち着いて準備し、速やかに降園するよう周知する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)仲の良い友達と降園時間が重なり、嬉しくなって跳びあがった	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)玄関の視診番は、本児のそばに保護者がいたため、見ていた守った	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室で保育中だった	保護者と一緒であることで、保育士も心安しい	保育士は子どもの動きを予測して、危険につながることが予想される時には、保護者が一緒の時でも、早めに声をかけたり、制止したりする	
3453	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	—	20	名	名	名	名	名	名	名		3名	3	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨監幹端骨折	自らの転倒・衝突にもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	進級してぐの散歩だったため気持ちも高揚していると思われる。又滑り台でのスピード感を味わったり友だちとのやりとりスリルを楽しむ後ろくる有等さも倍増していたと思われる。	徐々に高ついぶくが全体的にエスカレートしていったのではないかと思われる。遊びの共同作業等がない状況を見てしつ危険な行為等が職員同士で連携し事故が発生しないよう切な事だった。	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	不定期に実施	実施頻度(数回)回/年 発達に合わせた玩具や遊具などが起きていないかチェックしている。	パイプ状台滑り台の為通常の滑り幅があり少し螺旋状のスピード感が増したと思われる。	安全に遊ぶための約束ごとや、カレートしてきた場合び方の確認	集団活動中・見守りあり	連続していたいも気持ちも受け止めながら、エスカレートしく姿を把握し時には「危険」という事を知らせていく。	職員同士と連携をとりながら把握していく。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)進級して気持ちがしかっ久しりの散歩も高揚したと思われる。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)あそびこんでいる見ていた危険な様子は守ったが状況を察知できなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)それぞれ内容で遊びの様子を観察していた。	スピードしく状況にあった。	一増ていく状況にあった。	遊び方の再確認をする。	
3454	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	—	12	名	名	名	名	名	名	名		名	名	4歳	女児	—	登園・降園中	負傷	—	骨折		骨折(ひび)	自らの転倒・衝突にもの	あり	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準配置	—	「危険予トーニング」利用しの研修をでを実施する。	不定期に実施	実施頻度()回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年		施設、設備等では事故の要因はなかった。	その他	受け入れ時の子供の線付近に置いてあった。	机を後ろに下げて保育士が机の前に立つようにした。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	保育士事故後子を抱えたが、指を机ったことに気付き、打ったこと	子供の小さな異変にも気づけるように「危険予知トレーニング」を利用しての話し合いをする。	
3455	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	53	名	名	名	名	32名	21名	名		4名	4名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	遊具等の転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	①うんていの鉄棒で遊ぶ場合は、手掴った状態で遊ばなければ、怪我をしない思いをするようになるのでルールを守るよう指導が徹底されなかった。	①うんていの鉄棒で遊ぶ場合は手を離さず、ルールを守って遊ぶことの大切さを再度伝えていく。	定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	定期的に実施	実施頻度(2 5)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	なし	なし	集団活動中・見守りあり	①危険遊具を見渡せる保育者の人員配置ができていなかった。	①園庭を見渡せるような人員配置を行う。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)児発達に、うんていを使って来た。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)うんていの場所に居た他児の対応をしていたため、うんていに来て遊ぶ様子を見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の遊具(プラ鉄で観察ンコ、棒)でいなびのをたでいなかった。	①危険遊具を見渡す保育者の人員配置ができていなかった。	①危険遊具等を見渡す保育者の人員配置を行う。	
3456	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室外・園庭等)	4歳児	33	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左前腕尺骨骨折	自らの転倒・衝突にもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1 0)回/年	基準配置	なし	なし	定期的に実施	実施頻度(1 4)回/年	定期的に実施	実施頻度(2 5)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	なし	なし	集団活動中・見守りあり	なし	なし	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)お茶を飲んでトイレに行き慌ててサッにとした。	対象児から離れたところで対象を見ていた	(具体的内容記載欄)お茶を飲みに行き、戻る姿を見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員は(滑り台)で遊ぶ児の様子を見ていた。	①ゲーム途中で抜け場合は慌て戻ろうと走るため、慌てて、来ることな	①ゲーム時の児の心理状態を把握し、事前に慌てずゆっくり戻るよう声かけを行う。	
3457	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	81	0名	11名	18名	16名	16名	20名	名		15名	15名	2歳	女児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	末節骨の骨折、爪の剥がれ	その他	なし	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	—	—	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	不定期に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	園庭に凹凸、傾斜があった。	凹凸、傾斜の改善。難しい場合は位置の改善鉄棒の危険個所を確認。	集団活動中・見守りあり	当日は「卒園式」で通常の保育ではなかった。子供が成長も増えていた。	通常保育でない時(行事等)は細心の注意を払う。子供の成長を再認識していく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育士の押す避難車、右端前方にすりをもって乗っていた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)6人の子供を乗せ、傾斜で避難車が鉄棒の方へ衝突しそうになりで止まりとしたが、合わなかった。傾斜や風もあって真後ろ(ブレーキ部分)がある部分でなく、後ろと右側手すりの2か所をもって押していた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)1歳児は2台の避難車で見送りに出た。保育室に帰る際、1台目に本児の乗った避難車に行き、2台目が3人で固定ぶそうなり、2人で押していた。1台目の避難車が傾斜で鉄棒の方へ衝突しそうになり1人が急いで向かったが間に合わず衝	通常使用する避難車ではなかった。ブレーキがついていたが、その場所をもっていなかった。	通常使用しない物を使うときは細心の注意を払う。ブレーキができにしっかりと持つ。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3458	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	48	名	名	名	12名	14名	22名	名		3名	3名	6歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	骨折	なし	不定期に実施	実施頻度(0)回/年	基準配置	—	今後も保育指針に基づき保育を行うと同時に、職員の観察力の強化、連携に努め、園内の事故発生を未然に防いでいきたい。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	平均台をするときは、まわりでいでも目を向け、職員が声かけするなど危険にも向けて配置するなど危険よのう配慮する。	集団活動中・見守りあり	大ホールには、3歳～5歳児の約1/5名が遊んでいた。その中で仲良しの子達と二人で遊具を使わず夢中で追いかけっこをして遊んでいた。走っていて目の前に入った平均台を飛び越えようとした。	あらゆる予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員に再確認させる。子どもたちにも、安全にあそべるよう遊び使いなどの話をした。	いつもより活発動的であった	大ホールには、3歳～5歳児の約1/5名ほどが遊んでいた。その中で仲良しの友達と二人で遊具を使わず夢中で追いかけっこをして遊んでいた。走っていて目の前に入った平均台を飛び越えようとした。	対象児の至近で対象児を見ていた	内容記載欄)平均台のそばに付いていた担当保育士が、平均台へ走ってきてジャンプし転倒した本児に気づいた。平均台とぶつかったつまた先を視診したところ、赤みはあったものの、外傷、腫れは見られなかったので保冷剤で冷やし様子をみた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)それぞれのコーナーに分かれ、危険なことのないように見守った。	—	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員に再確認させる。子どもたちにも、安全にあそべるよう遊び方などの話をした。	
3459	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室内)	1歳児	12	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	2歳	女児	・発熱時の転倒事故	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右股関節捻挫、右脛骨骨幹部骨折	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	本児は当時37,8℃の熱があったため、スンスンしてバを転倒し右足力がかかったとき脛がラ崩んだに右部にかかった。	体調の悪知察を静かに保てるように配慮すること。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	落ち着いて遊べる絵本や遊具を準備する。	集団活動中・見守りあり	特になし	落ち着いて遊べる遊育保育士と共に過ごす。	具合が悪かった(熱・発・腹痛・鼻風邪気味等)	(具体的内容記載欄)1週間前から風邪気味で微熱、鼻水症などの状が続いつもの元気はなかった。遊びに入らず見ていることもあっ	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)近くで、対象児の動きを見ながら、他の園児とも関わっていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の園児と広告紙で遊んでいた。	特になし	体調が優れない様子を察知して個別に関わるようにする。	
3460	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	3歳児	24	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	3歳	女児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	事故防止について研修を実施(今回の事例を基に)し、再発予防に努める	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	引き続き安全点検を実施	集団活動中・見守りあり		あらゆる危険を想定し、園児を見守る	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)元気に戸外活動を楽しんでいた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園庭全体を見渡せる位置で、園児たちを見ていた。転倒の瞬間は目にしたが、手を差し伸べられる位置にはいな	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児の動きを見ていたため。	友達とつぐなどして走ると転倒する危険性がある。	転倒等の危険が予知される場合は、声を掛け遊びを中断させる。	
3461	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	16	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	6歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準配置	特になし	特になし	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児は元気に友達と活発に遊んでいたが、飛び降りようとした場所に他の子がいて、その子をよけようとして着	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子ども全員が見える場所で、危険な行いをしていないか注意深く見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)その担当職員以外の職員はいなかった。	飛び降りようとした所にいが思いけずが子がいて、そのことをようとして着地に敗したと思われる。	いつどこで事故が起きるかわからないので、普段から全職員が危機管理の意識をより持ち、研修で学んだことを生かしながら保育にあたるよう職員間で話し合った。	
3462	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設外(園外保育先・公園等)	3歳児	11	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	不全骨折	他児から危害を加えられたもの	あり	不定期に実施	実施頻度(10)回/年	基準配置	細かな所まで安全策等に周知できるように定期的に話し合いの場を設けていく。	マニュアルの読み直しを定期的に行っていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(0)回/年	定期的に実施	実施頻度(30)回/年	普段散歩道に変化がある。	散歩先が工事など、イレギュラーと普段と変化があるため少しある職員など周知で周知していく。	集団活動中・見守りあり	子ども士をと同ちんと手を繋いでいない、靴をきちんとはいていないを	子ども士も同きちんと手をきちんと繋いでいるか靴をきちんと履いているかの確認。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)友達同士と手を繋いで歩いていた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)散歩で子ども達同士手を繋がせていたのを、先導したり、歩行や近隣の物にぶつからない様声かけを行って	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)先導しているスタッフにかけながら連声をかけながら携を取り子ども達に声かけを行っていた。	歩行のさが速さスタッフによって変わる。	日々歩行に対して歩く速さなどは調整が必要。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者											ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷						実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3463	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	20	2名	9名	9名	名	名	名	名	6名	6名	2歳	男児	1歳で2回の熱性痙攣を起こしている	屋外活動中	負傷	—	意識不明	顔面(口腔内含む)	単純型熱性痙攣	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	準以上配置	本児には、熱性痙攣をおこしたことがあり、事故発生時に急激に出ていた熱が原因で今回の事故につながったと考えられる。事故発生時は、保育者が十分に配慮していたため、迅速に対応することができた。	以前より体温の計測においては、2～3時間おき、3～5回の頻度にて行っていたが本児が体温計を拒否することが多く、また、計測時間が長かった。課題となっていた。今回の事故を踏まえて、非接触体温計に変更することで、戸外の際の活動にも計測することが可能となり本児の体調の	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	本児の事故発生した際、手をつかず倒れ、地面に鼻をぶつけたため、鼻血が出た。	活動を行う際、どのような事故が起きるかを意識し、転倒防止に大事ならないよう内の場所への配慮や、安全点検を行うようにする。	集団活動中・見守りあり	保育者が本児のすぐ近くにいたものの、直前まで元気に走り回っていたため、体調の変化にすぐに気付けなかったこと原因とされる。また、本児の急な発熱により手をつかずに顔(鼻)面から転倒したことで鼻血がでた。	体温をこまめに計測するようにし、日々の体調の把握・共有を行い、急な体調の変化にも早く気づけるように意識する。	いつもどおりの様子であった	朝のノートには本児の平熱(36.5度)であり、活動いても倒前まで元気に走り回っている姿が見られた。	連絡に本児の直前の様子から、転倒防止のため、本児の近くに保育者が2人おり、転倒する様子に児の勢を起こし、直ぐに声かけをする。	対象児の至近で対象児を見ていた	事故発生時には、本児の近くに保育者が2人おり、転倒する様子から、直ぐに児の勢を起こし、直ぐに声かけをする。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すべての保育者間で状況を共有し、本児で観察する者、救急車に連絡する者、他の児を集等、分担して連携をする。	保育者が本児のすぐ近くにいた児の様子を観察する者、救急車に連絡する者、他の児を集等、分担して連携をする。	保育者が本児のすぐ近くにいたものの、体調の変化にすぐに気付けなかったことが原因と考えられる。	検温する時間（タイミング）について特定していき、日々の体調の把握・共有を行い、急な体調の変化にも早く気づけるように意識する。また、事故発生時には職員間ですぐに状況を共有し、役割を理解して迅速に対応できるよう、事故の共有や対策について職員間で話し合う場を設けていく。	
3464	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	118	名	名	名	4 2名	3 8名	3 8名	名	１０名	１０名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	半年に一または災害共済による怪我が起こるたび等、職員確認する機会を増やす。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度( )回/年		遊びの場所は十分がされていたので、特には改善見られない。	集団活動中・見守りあり		自分のやりたい遊びを楽しんでおり、通常の保育と違った活動をしていたわけではないので、特に改善点は見つからない。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)泥団子を左手に先に持ってしまった友達に声をかけ、合流しと小走り寄る。	対象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)別のもと一緒に本児2．3歩先を歩いていたが、本児が駆けてくるのはわかっていたが動きは見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭のそれぞれの場所で、違う遊び子どもたちをどもを見ていた。	—	様々な遊びをする子どもたちを危険の無いよう手分けして見守っていた。特に改善点は見つからない。	
3465	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	3歳児	11	名	名	名	11名	名	11名	名	3名	3名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	左額部挫傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	基準以上配置	—	見守り体制をマニュアル化し、職員研修などで何度でも確認をする	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の土しゃが乾燥して滑りやすくなっていた	砂場の縁レタ保定期水を撒く	集団活動中・見守りあり	年度初め、週末の戸外活動で対象児が疲れたかもしれない	疲れが予測されるようであれば戸外活動は中止する	いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	対象児動きを見ていなかった	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児ストール弱くらい距離がみていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児をいた、とっとこ動しいたときに追い付かなかった。	—	とっさの時にすぐに付けられるよう守り中の意識を高める	
3466	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	1	名	名	名	名	名	名	名	名	名	5歳	男児	特になし	登園・降園中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左手上腕部を骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定に実施	実施頻度(3)回/年	基準配置	降園後の園庭遊びを制限せず、保護者に任せてあった	園庭遊びの時間をしっかりする周知と共に保護者への意喚起注を実施、危険な場面を見かけた時は、職員声かけることを確認。	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(5 0)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	保育中は、雲梯の下に体マットているが、保育を敷いる降園後は片づけてあった。	マットのいい時敷ない時は、雲梯の使用ができないことを園ここ児者に周知した。	その他	職員が保者のもで遊んでいるのだと思いこんでまった	目を離すことの危険をしっかり周知するとともに、遊具と危険な場所の対象年齢も伝えるを未然に防げるようにした。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)担任と降園後、保護者と一緒に飛行機ジム付近で遊び始めた	対象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)降園後の児の遊ぶ様子まで把握いなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担任同様、降園時間のため、遊具で遊ぶ園児の様子は把握していなかった	降園後の遊びについては、保護者にて任せており、職員間の話し合いは特にしていなかった。	降園後でも、危険な場面(遊び方、保護者の様子)を見かけたら声をかけるように職員間で話し合いをした。	
3467	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	4歳児	24	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	本人は、不登りが好きだったので、何度も繰り返していたようで、より高く登ってみようとしたり、過信するところもあったようである。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨遠位端骨折	その他	あり	不定に実施	実施頻度(6)回/年	基準以上配置	—	広い場所活動についてでの活動については、職員を増やすか行動制限をしていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		定期点検だけではなく、その都度意識にように徹底していく。	集団活動中・見守りあり		職員間の連携を図る	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)	—	危険な行動については、早急に注意をしていく。	
3468	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午後	施設内(室内)	5歳以上児	25	名	名	名	名	名	25名	名	2名	1名	6歳	女児	特になし	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	—	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準配置	子どもの行動に伴う危険を予測することが不十分だった。	事故内容を職員会議において報告し、再発防止に努める。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故は、他児が本児にぶつかり、子どもが自らしたよ転倒ことる事故ため、ハード面においての改善策にはなし。	集団活動中・見守りあり	体を動かすあったにもかかわらず、危険のないように遊びのためのぶつかる働きがなかった。	体を動かす遊びで前に、注意喚起をし、ルールを再確認し、子どもたちに安全に対意識を持たせる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)午後から保育室で過ごし、いつもと同じように片づけをした後、遊戯室でドッジボールに参加した。	対象児離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)全体の様子を見ながらドッジボールの指示を出し、円の外側に対象児も視界に入れていたが、対象児がぶつかって転ぶ瞬間は防ぐことができなかっ	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体の様子を見ながら、円の外側にいて対象児も視界に入れていたが、対象児がぶつかって転ぶ瞬間は防ぐことができなかった。	—	・園児の人数に対して職員の配置人数は適切であるため、改善点はない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面							環境面		人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	保育士・教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	うち保育教	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3469	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	83	3名	9名	12名	20名	18名	21名	名	14名	13名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	上腕骨過剰骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度その都度	基準以上配置	—	今回起きてしまった事故について原因を分析し、再発防止の会議を行う。	定期的に実施	実施頻度保育日毎回	定期的に実施	実施頻度(1)回/年保育日毎回	定期的に実施	実施頻度(12)回/年保育日毎回	人と人が接触しての事故で、今回はハード面に原因はなかったのではないかと考える。	定期的に実施	室内あそびの外あそびの後のだった為、解放になり、走ることもいた。	静と動のあそびの環境をわかりやすくし、別の遊び場所に移る際には急激に走らないよう指導し、見守る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)築山の上であそんでいたが、園庭で行っていたサッカーに加わろうと山を下り、そちらに向かって走り出した。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担当職員2人の内一人は、サッカーのあそびを見守りながら、固定遊具であそぶ子どもに視線を送っていた。もう一人は、固定遊具のいく全体のあそびを見守っていたが、対象児が転ぶことを防ぐことはできない距離に	担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)築山、園舎沿いのままごとのところに築山周辺をあそびのところに、築山周辺を見守っていた。	あそびあそびの間(場所・時間)が角になっているところがあった。	職員の見守り範囲が重なら立ち位置を確認し、声をかけ合うようにする。	
3470	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	38名	名	名	名	14名	13名	11名	名	4名	4名	3歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	特になし	特になし	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	特になし	その他	それぞれ自分で具そんで玩具を片付けておりあまあ多方があった。また、片付け後の(行動)がわからなかった。	落ち着い組取りむことよが出来るう遊びの内容に応じて順番に片付けたり、片付けた後の活動(行動)を事前に知らせる。広いスペースがあると走ってしまうため、走らないように机を置いたり間仕切りをするなど工夫する配置を工夫する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもと変わらない様子で、友達や遊ぶ姿が見られたが、普段より発で、小走りやスキップで移動することが多い。	児童近くで対象見ていた	(具体的内容記載欄)そんだっての声が掛けた合わなかった。	担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれ異なる子ども一緒に片付けていた。	新年度になり環境が変わり、全体的に落ち着かない雰囲気だった。移動にあたって走ったり、寝転んだり、個々にが多様化していた。	新年度は保育室や担任も変わり、子どもたちも落ちとが考えられるので、再度生活の流れ等を丁寧に確認し、普段よりがついて遊ぶ、寝転ばないこと、部屋の中で、走らないことを徹底させる。	
3471	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	31	名	名	名	16名	15名	名		1名	1名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸腹部・臀部)	右鎖骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準配置	危機管理能力の不足	子どもの行動を確認しつつ、行動を事故にならないように、子どもの行動を想定しながら、保育にあたる	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(240)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	起棒の鉄棒には設備上の問題点は無かった。事故の	安全チェックをすべてだけでなく、職員同士の統一できるように、各自がヒヤリハット報告を書き周知できるようにする。	個人活動中・見守りあり	見守ることで安全意識をしまったという	遊ぶ前に子ども遊び方を確認し、正しい遊び方を見守るだけでなく、必ず保護者が側で遊べるようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通り自ら鉄棒の技の練習を積極的に行った。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児が自習をしていたのを近くの場所から声をかけながら見ていた。	担当者・対象児の動きをていなかった	現場に担当の職員しかいなかった。	-	いつも通りの様子でも、遊具で遊ぶ際は必ず職員がついて援助できる体制にする。	
3472	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	—	21	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左側肩下骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	基準以上配置	—	新人研修で、早い時期に事故予防に関する研修を実施する。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/年	園庭は全面芝生だが、鉄棒の下などは使用により芝が剥がれ、地面が見えていた。	鉄棒の下芝を繋き、落下した時の衝撃を緩和させるようにした。	個人活動中・見守りあり		鉄棒で遊ぶ場合、しっかりと鉄棒を握る指導をする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)運動が得意で、一人で前回りができる。	対象児を見ていなかった	(具体的内容記載欄)室内で集団活動後、外遊びのために移動。室内に飛っていた園児とともに移動中。	担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)室内で集団活動後、外遊びのために移動。先に園庭に出た園児を見守っていた。	補佐は子ども達が遊ぶの見守っていたが、鉄棒のように突然事故を起き可能性が大きいものは、とっさに補助ができ	子ども達に、する時は必ず保育者に許可を得ること。保育者は必ず傍にいることを徹底する。	
3473	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	44			10人	8人	9人	17人		6人	6人	5歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左親指末端骨骨折・挫創	その他	なし	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準以上配置	新学期が始まり各クラスがまだ落ち着いていない状況の中での合同保育時間の職員の動きや配置の確認不足。	特例保育のマニュアルを見直し、配置を確認し合い共有する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホールと廊下の境に扉があり、子どもが開閉できる。	扉をはずし、クッションバーを取り付けた。	集団活動中・見守りあり	合同保育の片付けの時間と登園時間が重なり、その日は特に早番から登園する5歳児が多く落ち着かない状況だった。	職員(クラス担任)がホールにてそろってから一緒に片付けを始める。2、3歳児の片付けを簡素化した。	いつもどおりの様子であった	—	対象児を見ていなかった	—	担当者・対象児の動きをていなかった	—	他児のけんか仲裁中で、担当保育者が全体を見ていなかった。	担当保育者担任の仕事分担の見直しを行い、必ず全体を見るようにした。	
3474	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	32	名	名	名	名	名	32名	名	3名	3名	6歳	女児	立ち入り検査、勧告、改善命令履歴なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	母指末接骨骨折	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	特になし	定期的に実施	実施頻度(1)回／週	定期的に実施	実施頻度(1)回／週	定期的に実施	実施頻度(1)回/週		特になし	集団活動中・見守りあり		周りをよく見ないで目の前にあったものを回避できないことがあるので、子どもたちに身につなしたいくように教育をしていき、	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児を見ていなかった	(具体的内容記載欄)片付けの時間だったため、他のたちと片づけを行っていた。	担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)他もと一緒に片づけを行っていた。	—	3人担任のところ、この日は担任が1人休みだったので2人の保育士で担当していた。急な休みに対応できる職員がいない現状もある。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷																													
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】												
3475	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	18	名	名	名	8名	5名	13名	名		4名	1名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	新しい職員間でのマニュアル確認及び周知が未実施であった。	早急に危機管理マニュアル確認・周知を行った。	定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	園庭での危険個所の共通認識が出来ていなかった。	早急に危険個所の周知を行った。	集団活動中・見守りあり	園庭では日本たまり水たまりがいた児がいり回る走り辺スペースが限られていた。	しっかりと安全な環境が確保されない場合は状況を見て広い園庭での保育は控え、遊びの場所や内容を考え行っていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)あちこち目的の遊びに向かっていたり、走ったり動きまわっていた。	対象児動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄)ブランコ遊具で遊んでいた子どもを見ていたが、本児声の泣き声の気づいた他の職員より、本児の対応を要請され本児の元に行った。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・本児は一番近くにいたものの配慮を要する子どもについていた職員1人・砂場のあたりで遊んでいた子どもを見ていた職員1人・倉庫のあたりで遊んでいた子どもをみ	異動してきた職員も延長にあたっていて，子どもの行動を把握してなかった。	職員や子どもの人数や日の状況に合わせて，子どもの様子がよく把握できるように全体を見通せる配置場所や職員間の声かけ状況の共有を行っていく。	
3476	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午後	施設内(室内)	2歳児	10	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	2歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	なし	マニュアルがあることを職員に周知し、いつでも見ようお知らせしてください。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	全点検時だけでは施設設備の安全点検はなく常に施設設備についてが危険かを意識するようにしていく。	集団活動中・見守りあり		子どものよく様子をすぐに対応できるように子どもの様子を見て、すぐに対応できるようにする。また、同じ複数の玩具を出したり、玩具の配置を決めたり、落ちつき遊べるようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)車の玩具で遊ぼうとした。	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)玩具の取り合いになった、他児から本児を離し、抱えていた。腕の中で動き回り、欲しいおもちゃの方へ行こうとしたので手を掴んだ。担任は床に座った状態で本児は立った状態だっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)使った雑巾を片付けにトイレにいた。	—	・子どもが動き回っても危険がないように抱えにし、腕や手は掴まないようにしたり、力加減に気を付ける。・職員間で情報を共有し、再発防止に務める。	
3477	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	3歳児	31	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	3歳	男児	なし	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)		子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準以上配置	保育中の遊んでいる最中での事故予防に対する研修を行っていなかった	保育安全マニュアルの読み合わせを3月、4月に行う	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	—	集団活動中・見守りあり	クラスを2グループに分かれて活動した後、合流して遊び初め後数分後に起きた。全員で遊ぶにも十分なスペースではあった。	遊ぶ人数が増えるに分、個々かっかよりしないに分ぶつからない周囲を確認するよう声がけする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段から注意が散漫で、前を向かず、横を向いていることが多い。	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)広場のほぼ対角線上にそれぞれ立ち、左右に移動して見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)広場のほぼ対角線上にそれぞれ立ち、左右に移動して見ていた。	遊ぶ前、遊んでいる最中も前を見ると声をかけたり、後ろ向きに走っている子前を見て走るように声をかける。	遊ぶ前、遊んでいる最中も前を見て走るよう声をかけた向き、後ろ向きに走って、後ろに注意して走るように前を見て走るように頼む声をかける。繁にける。	
3478	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	90	7名	14名	16名	17名	19名	17名	名		22名	20名	4歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼(上前歯2本) 右下唇裂傷	自らの転倒・突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	基準以上配置	ホールの職員配置人数に問題はなかった。小さいクラス人数が集中しいクラス側に集中すべきだった。	職員配置が、集会時は動きの多い乳幼児クラス側に集中するが、比較的落ち着いている3歳児以上クラスのほうに、もう少し配置を移動させる。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	使用しているは止めしてが、重量があり、倒れたりぶつかった衝撃い。	椅子などの備品は、破損だけ、ぐらつきいか、長年合イズ用しるこ着る。	集団活動中・見守りあり	興味があるものは物出しの集中しているが、自分の見て子多いが、他児の自己紹介は毎回で、集中が切れる子どもいる。	集会の際、集中が切れたり時にすぎ動きをしてきない事故につながりやすいと認識し、子どもの様子に注意する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)最初は会に集中していたが、直前、後ろを振り向いたり始めていた。	対象児離れとろで見児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育士と事故に遭った子間離があった子どもに距離があった、倒れた瞬間手をぐに手をさしのべられなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)各クラスの保育士、パート保育士が一定の間隔に配置されていたが、すぐ側にはいなかった。	誕生会中起き事故に最にた子どもの動き多い動動はなかったこと、保育士の数が多い状況に油断	どんな活動においても様々な方向性で危険予測し、子どもの動きに注意して目を配る。	
3479	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	4歳児	10	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	4歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	その他	あり	不定期に実施	6/19・8/3・11/9	基準以上配置	特になし	鉄棒をやる子ども必ず一人保育士がつく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	鉄棒の下にマットの敷くさを大きさを広げる。	集団活動中・見守りあり	特になし	鉄棒の下マットを広く敷くを。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもと変わりなく遊んでいた。	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)鉄棒の近くで、全体の園児の動きを見守って	—	(具体的内容記載欄)各クラス、保育室で保育をしている。	特になし	鉄棒をやる時には必ず子どもの側につき、安全に配慮する。	
3480	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午前中	施設内(室内)	5歳以上児	10	名	名	名	名	名	名	名		3名	1名	5歳	男児	自閉症スペクトラムと診断されている。身体及び指先の動きが5歳児の平均に比べ不器用さがある。新年度が始まり1か月弱で，やや落ち着きを欠いた様子が見られる。	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕通顆骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	本児は自閉症スペクトラム症で，身体全体の使い方に不器用さが見られる為，重症になりやすいのではないかと考える。本児のクラスの職員間の情報共有と対応策は毎日行っている。園全体での本児の情報共有は2か月に1度だ	園全体での本児のケース会議を月1度に増やす。担任以外の職員の意見も交えながら，安全な保育の検討を行う。	定期的に実施	実施頻度(50)回/年	定期的に実施	実施頻度(300)回/年	定期的に実施	実施頻度(300)回/年	遊戯室がこじんまりした広さで，長年走狭い感じるには広く感じる。転倒した場所はステージのあり、走り前で行き感や、カーブを余儀なくされる。体のコントロールが難しい場と考えられる	狭い遊戯室で遊びを、遊び的に運動を吟味計画運動を行う	集団活動中・見守りあり	ルールを守り忘れ、滑り込んで止めて他本座って座った児、他児は巻きまれてしまった。児は込まれしまった。	興奮しやすく、動きが激しい園児の組み合わせを見直す。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児の特性により身体の動きこち不さが体のにぎさ、器用見られ、他児との差を感じる。	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)一緒にごっこしたり、本児と動きを至近距離で把握していた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全見る職員と，鬼になり他児を追いかけ一緒に走る職員。3名は常に本児を見ていた。	なし滑り込んで止めることを楽しむ園児は走りがりで児るすとしため、事前に「止まらない束」をしたが、「止まること他児がぶつかる」ということは示さなかった。	けがにつながるような危険な行動を子どもたちが理解できるよう具体的に示す。滑り込みなど危険な行動があったら、遊びを一時停止しルールの確認を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面			人的面					
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者数											マニュアルの有無	事故予防研修					施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
		認可・認可外	施設・事業所種別	発生時月	発生時時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因			実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由					
3481	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設内(室内・園庭等)	5歳以上児	13	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	6歳	男児	発育及び発達状況は良好で、既往歴やアレルギー等もない。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨及び尺骨骨折	遊具等から転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(20数)回/年	基準配置	鉄棒遊びさせた後、担任が鉄棒から目を離し、再び鉄棒遊びをさせていることに気がついたこと。	普段から園児へルール(鉄棒遊びは担任が許可し側について指導できる時のみ)を教育するとともに、次の行動に移った際も園庭全体に入れ、子ども達に危険がないかを確認実守る見守りをこと徹底する。	定期的に実施	実施頻度(約55)回/年	定期的に実施	実施頻度(14)回/年	定期的に実施	実施頻度(14)回/年		鉄棒の下で、突起物や周囲の障害物は無く、安全領域は確保されていた。	集団活動中・見守りあり	状況に応じ、鉄棒の下にマットを敷く等の必要な対応があった。	鉄棒の技をする子どもについては、ハード面の準備が、保育士が側に付き、安全を確保する時以外は控えさせる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)当該児童は低重心性格であり、普段は保育士に確認を取ってから行った。直前までは保育士の見守りで鉄棒を行った。当日は体調も良好で痛みを訴えている箇所もなかった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)当日は鉄棒を含めた園庭全体を保育士2人で見守っていた。保育士の1人は直前に鉄棒を見守った後に止めるように伝えた後、鉄棒から離れた場所で園庭全体を見守っていたが、ケガ発生の瞬間は鉄棒から目をはずしていた。もう1人の保育士は、砂場から園庭全体を見守っ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)外活動中保育士2人で対応しており、なお配置していた担当者2名以外は関わっていなかった。	—	適正配置をしていたが、保育士は園児全体を視野に入れながら常に安全確認を徹底する。	
3482	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	21名	2名	0名	0名	0名	13名	6名	名		12名	12名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	上の歯Aが外傷性歯根破裂、歯の亜脱臼	遊具等から転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(２２)回/年	基準以上配置	事故現場周辺でのトラブルが発生していたことも関わらず、危機意識が低かった。	小さな事故(トラブル)を見逃さず、もし○だったらと考えて対応する。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(時間)回/年	年齢や発達に合った遊具の高さになっていない。また、合っていないときうかはどうかの共通認識も必要だった。	小さな事故(トラブル)を見逃さず、もし○だったらと考えて対応する。	個人活動中・見守りあり	運動会を控えていることもあり、園庭でダンスをしようと思い、そのダンスをし、準備やおり危険知識が遅れた。	3歳児は、本人が動くもの身体が動かないので、遊具で遊ぶときは必ず、保育者がそばで見守ることが必要。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)遊具への興味が高まり、戦ごっこをする姿があった。	対象児の動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄)子どもたちが楽しいとダンスを運動会に取り入れるための準備等を行った。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)職員間の連携が機能しておらず、園庭に20名の児童が、保育者1名で対応していた。	3歳児は、新環境、生活リズムに慣れ、4、5歳児との混合保育の挑戦しようと意欲が出てきたところだった。そのもの子ども心理状態を十分に把握していなかったため、保育士が31	3歳児は保育の身体機能の発達とのギャップを理解し、3歳児専属に保育士1名を配置する。また、活動には、固定遊具で遊ぶ児童を見守る職員を配し、安全に遊び込める環境を作る。	
3483	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設内(室内)	3歳児	10	名	名	名	名	名	名	名		2名	２名	4歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折左手関節打撲	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	職員の研修は、正職員が対象であり、臨時職員には、回覧で行っていた。	職員の危機意識を高めるため危険箇所や事例を検討し、臨時職員に回っても園内研修を行っていく。	定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	定期的に実施	実施頻度(２６０)回/年	定期的に実施	実施頻度(４８)回/年		—	個人活動中・見守りあり	—	—	いつもどおりの様子であった	1歳児の忘れ物を見つけ、保育士に言うと、「お部屋に届けてきて」と言われたので、行った。	対象児の動きを見ていなかった	乳児室までは距離があるとは認識していたが、子どもは同士でも行けると思い、送り出した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室では4歳児が遊んでいた。乳児室へは、遊戯室を通る為4歳児の担任は二人が手をつないでを歩いて行くを確認していたが、声はかけず、付いていくこともなかった	3歳児が10人に対し、職員が2人と十分な人員だったにも関わらず、乳児室まで距離があると認識していながら、子どもだけで行かせ	十分な人員の場合は、保育士が付いていく。人員が不十分の場合は、距離のある乳児室へは子どもには行かせない。また、手をつないで子ども乳児室へ行こうとする姿を見た職員は、声をかけたり、一緒について	
3484	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	22	0名	0名	4名	3名	6名	9名	0名		3名	3名	5歳	女児	なし	その他	負傷	—	その他	顔面(口腔内含む)	左眼球打撲傷、左結膜炎、左眼底出血、左眼瞼炎、左目外傷	他児から危害を加えられたもの	あり	不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	基準配置	なし	危機管理マニュアル周知徹底を行う。	定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	なし	施設安全点検の継続実施及び発達段階にあった環境構成を行う。	集団活動中・見守りあり	理由何でもなく物を投げつけるあっても関わらず、傍に保育者が誰もいなかった。特徴を把握し、全職員に周知していたが、忙しい時間帯でバタバタしていた。	忙しい時間帯こそ、声をかけあい、連携を図る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)異年齢合同保育中ではあるが、いつもの慣れた環境で遊んでいた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育者は、他児や対応を対応をしていたため、児の動きを見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育者は、他児の対応や対応をしていたため、児の動きをみていなかった。	児の行動が予測できにもかかわらず、行動観察をしていなかった。長時間保育のクラスへの移動直後であり、声かけできず保育者間連携が図れなかった。2歳児であるが、間いかけ	2歳児の日頃の行動から考えられる危険を予見知し、職員が連携し全体を把握する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面									ハード面									環境面			人的面					
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	負傷	診断名				実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																						死因	負傷状況	受傷部位																											
3485	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	26	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	他児から危害を加えられたもの	あり	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準配置	・保育室に戻る際、保育士名は子ども１８名の保育室に戻ると共に保育室にも入室の準備をしていた。残り１８名の子どもを１名の保育士で保育していた。1名の保育士が保育をしていたので、すぐに受傷児童を起こすことができなかった	・1名で保育が難しいと援助こそは応援を組む体制など保育の再度確認する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(240)回/年	定期的に実施	実施頻度(240)回/年	・所庭の砂が、風に飛ばされ砂が飛び散り、その砂が残る。その砂に、乾いた砂が乾燥していると滑りやすい。	・所庭の砂を補充する。・所庭のすみっこ隅にたまった砂を戻す。・水をまきすぎ、滑りやすくする。	集団活動中・見守り	・所庭の砂が、風に飛ばされ粗い砂だけが残っている。その砂は、乾いた砂が乾燥していると滑りやすい。	・所庭の隅にたまった砂を集めて戻す。・所庭に水をまき、滑りやすくする。・新しい砂を入れる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)・通常の保育を行った。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)・子どもたちと一緒に走った傷を、受傷児童とは離れていた。	担当者・対象児の動きをていった見なかった	(具体的内容記載欄)・早めにした保育士が戻った他の子どもの入室の準備をしていた。	・子どもたちみなもは、みんなで走ることで鬱憤が溜まっていたのではないか。また、部屋で戻りたいという気持ちが競争心を煽り、お走ることに集中してしまい友だちとぶつかってしまったと考える。	・保育室には走らずに戻るように、落ち着いてすごすようにする。	
3486	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	47	名	名	名	名	23名	24名	名		3名	3名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準配置	-	無し。(職員配置上の問題は無かった。)	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具の階段の下にはゴムマットを敷いているが、児童が飛び降りた場所にはマットが無かった。	ゴムマットを敷く広さを範囲を広げることを検討する。	集団活動中・見守り	-	環境面における問題は無かった。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)進級後しばらくおとなしく、久しぶりの登園だった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)全体をリードし、入室掛けの声掛けをしたため本児からは離れていた。	担当者・対象児の動きをていった見なかった	(具体的内容記載欄)児童さんは1歳から園しており、大型固定遊具の使用方法については3歳の頃から経験を積んでいたが、進級後久しぶりの登園であったこともあり、皆について行こうと慌て、遊具から飛び降りるという	休み明けに登園する行動に注意を払い、活動を補助するよう心がける。また、配慮すべき事項については担任以外の保育士とも共有し、意識して声掛けを行っていく。	
3487	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	午後	施設内(室内)	5歳以上児	13	名	名	名	名	名	名	0		1名	1名	6歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	亀裂骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準配置	ヒヤリハットを記入し、報告傷軽と合わせ合っているが、ヒヤリハットの少声と話しをいると記入ないが出た。	再度、職員間で気付いたヒヤリにヒヤリハットを記入していく確認する。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	なし	なし	集団活動中・見守り	特になし	遊びの環境整備としていくと共に、安全な遊び方の働きかけをしていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)膝立ちして、ソフト積み木を積み上げていた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)積み上げている所を見ていたが、踏まれた瞬間は見ていなかった。友だちと作り始めたが、痛みを訴えて来た時は、周りに誰も居なかった。	—	(具体的内容記載欄)	3分所に分かれ自由遊びをしていた。ソフト積み木で遊んでいる子ども以外はテーブルについて遊んでいた。友だち足を踏まれて	目配りや声掛けをしていく。	
3488	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	4歳児	14名	名	名	名	名	名	名	0名	名	2名	2名	4歳	女児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折(顆上骨折)	その他	なし	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	—	—	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	不定期に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	慣れていない公園、遊具で遊ぶときは細心の注意を払う。	暫くぶりの公園で慣れていない遊具だった。	集団活動中・見守り	大型連休後で、「公園」への園外保育。本児のなかで虫がいた。	園外でのリスクについてよく認識し、保育のリスクを入念に行うなど、危険を減らす。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)固定遊具(雲梯)で２～３段（５０㎝)を昇降し遊んでいた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)1人の保育士は固定遊具(雲梯)で遊んでいる本児の左斜め後ろに立ち、見守っていた。	担当者・対象児の動きをていた見(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)もう1人の保育士は公園内の違う場所で遊んでいる子供たちを見守っていた。気づいた時児には本児は落下し	雲梯のに近くに保育士がいた、落下を防げなかった。	落ちるかもしれないという気持ちで遊具の傍にいて崩壊の時に防げるように体制おを整えておく。	
3489	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	午後	施設内(室外・園庭等)	—	40	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	3歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつき	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準以上配置	本児のすぐに前を他児が走っており、共に転倒に危険があった。	転倒の危険を伝え、少し走離れるように言葉かけを行う。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設・設備に問題はないと思われる。	子ども達出しも意識ように来る安全な遊び方を伝える。	集団活動中・見守り	他児が前、本児が後ろを一緒に近でい距離で走っていた。	転倒の危険を伝え、少し離れて走るように言葉かけを行う。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)戸外で自由遊びをしていた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)戸外を本児と他児が縦に並んで走っていた。前にいた他児が転倒し、後ろにいた本児も転倒。口付近を打つ。鼻下からは出血も見られたため、すぐに顔を確	担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)戸外んでいる子ども達の様子を見ていた。	他児が前、本児が後ろを一緒に近距離で走っていた。	転倒の危険を伝え、少し離れて走るように言葉かけを行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3490	令和5年1月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室内)	1歳児	23	名	名	名	名	名	名	名		5名	5名	2歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	頭部	裂傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準以上配置	お布団の掛け布団を収納しておらず、遊んでいた	お布団の収納をすぐに行うようにする。遊んでいる際は声を掛け次の活動に促す	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	棚の位置、角の安全確認を再度行う	引き続き、安全点検を定期的に行い、保育中も危険な場所が無いか見る。	個人活動中・見守りあり	布団を重ねて置いていた事、遊んでいる時に次の活動に促せていなかった事	子ども達の行動を予測し、危険な場所が無いか確認し、未然に防ぐ。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)保育士のさ近くでさがる姿があった。	児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育士が対象児のさ近くでお布団を重ね、片づけていた。対象児はその重なったお布団に飛び乗り遊んでいた。その際奥にあった棚の角に額をぶつけ本児が泣いた為すぐに怪我の箇所を確認した。額を確認した際出血が見られ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄の補助やおやつの準備など各コーナーに分かれ担当の場所を見ていた。	１人１人の行動を予測し、怪我を未然に防ぐ。	布団の重ね置きをしない。繋がる箇所を常に確認する。	
3491	令和5年1月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	11	0名	0名	名	3名	4名	4名	0名		2名	1名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	子ども同士の衝突によるもの	なし	未実施	実施頻度( )回/年	基準配置	保育者の確認不足。見えと場位置とはいえ、場はいえ離れる時の声掛けなどが十分でなかった。	保育者間の声掛けや、保育者の配置を改善。園全体で見ようにする。	定期的に実施	実施頻度( )回/年	不定期に実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/年	保育以外の業務をあるにが、保育者数が十分ではなかった。	保育以外業務のときは必ず応じ保育者の要にして保育者をを配置し、保育中でよう。集中できるようにする。（保育者業務増や業務軽減など）	集団活動中・見守りあり	保育以外の業務が保育者がありが疎かになる場面なるが見られた。	保育以外の業務の負担軽減を図り、保育に集中できるようにする。洗濯や掃除など業務は時間帯を分けることで業務を分散する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)良好	児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)迎えの時間で保護者への応もあり保育者が保育に集中できない状況だった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)同じ保育室に保育補助はい育以外のため行ってた児がをした場面は見ていなかった	保育者の「大丈夫ろう」という意識があり、保育者間の掛け等を疎かにした。	安全に関する研修を実施し、保育者の意識改善や保育配置の見直しを行う。	
3492	令和5年1月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	17名	名	8名	9名	名	名	名	名		4名	4名	1歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	顔面(口腔内含む)	—	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	・ヒヤリを活用してはいるが、ハットの有効性がない。 ・危機管理について園で研修を取り組んでいた。	・危機管理の園内研修を定期的に行う。 ・月一回ヒヤリハットの検証を行い、危険につい防止なげていく。	定期的に実施	実施頻度(2)回/週	未実施	実施頻度( )回/月	定期的に実施	実施頻度(4)回/月	・安全チェック表・事故防止チェック表・チェック項目が合っていない。 ・棚を自由に遊びで出されていない、端がっていないわけでは、ガードが付いていない。 ・棚の元高さ、足しあげもが少しが子足をかけたがる。	・全職員で園全体の環境の中で危険な個所を確認する。 ・安全点検チェック・事故防止チェック・検チェックの見直し・常に新しくする。 ・棚は固定し、動かないようにする。 ・端には端ガードを付ける。 ・玩具棚の側面ボールの段ではふさがけられないようにする。 ・職員が付かない場合は遊び場使用できないに、鉄棒の棒部分にカバーを施し、児童ではだけ使用できないように改善した。	集団活動中・見守りあり	・保育士が本児についていなかった。 ・そこで自分が起こると予測が怪我をしやすい事が出来なかった。	・職員の位置を明確にすることや、リーダーが指示をするなど、やり方を示せるようにする。 ・危険だと感じた時は自分が率先して動き、改善する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育士が持ち帰り荷物を整理しなが、全体も見て整理しようと荷物を本日が本日から離した。	児動きを対象児を見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育士が至近距離にいた、週末帰り持ち荷物を整理しなが、全体も見て整理しようと荷物を本日が本日から離した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)合同保育に入る際に玩具を出した、全体で児の見てをて本児の見ていなかった。	・持ち帰りの布団の整理をやりながらどもとて、十分に配慮が出来なかった。 ・職員同士の動き把握や声掛け確認が不十分だった。	・職員の立ち位置の確認。 ・細かいところまでの声掛け、明確なやり取り ・各担当（リーダー・サブ・ザツ）の役割を徹底する。	
3493	令和5年1月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	21	名	名	名	名	名	21名	名		3名	3名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	基準配置	自由遊びの時、子どもだけで鉄棒をしていた	自由遊びの時、鉄棒をする子は、かり付けの場合は、しっかりと人ようにする。	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	鉄棒はいつでも自由に使える状況だった	職員が付かない場合は遊び場使用できないに、鉄棒の棒部分にカバーを施し、児童ではだけ使用できないように改善した。	個人活動中・子どもの	鉄棒はいつでも自由に使える状況だった	人が付かない場合は自由遊びでの使用しないように周知する	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)朝からいつも通り登園し、活動的であった	児から離れたところで対象児を見ていた	こどもたちが自由に遊んでいるので、全体を見回していた児が、本児棒がたちが鉄棒が落ちたが気付くのき、すぐに駆け寄りおかしい様子がおかしいので安静にしながら事務所にから連れてきた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちが色々な遊びをしているので、全見ていた体として	鉄棒で遊ぶ子がいる場合は、そばにいるべきだった	自由遊びの時間であっても鉄棒や登り棒など、危険が伴う遊びにはきちんと人が付くよう配慮する。また付けない場合はしないように周知する	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3494	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室内)	5歳以上児	13	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	男児	特記事項なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(数)回/年	基準以上配置	特になし	定期的な研修や、討議や事例検討による学習	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設・設備に関しては改善点認められない	集団活動中・見守りあり	4月に入所したばかりの児童が負傷(骨折)する事態となった。子どもたち一人一人の行動や特性を十分把握することが必要であった。	子ども同士の衝突等を防ぐ環境づくりを行うさうびのくりう。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)他児の急な進路変更を避けきれず衝突した	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)ホールにおけるクラス活動であったため、おこさないようにをるこたちの守りを実施。危険なときやルールの確認が必要な場合には一度活動を止め、子どもたちと確認し、事故発生時は子どもの急な動きに対応に合わなかった。	—	(具体的内容記載欄)	事故発生後の対応で、発生状況や当該児童の訴えを聴き回る疑い整骨院受診とした十分ではなかった。	当初から整形外科を受診していれば怪我の発見を早めることができたと考える。今後似たようなケースが起こった場合には、整形外科受診を念頭に置く。	
3495	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	15名	名	名	名	名	4名	11名	名		8	名	6歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上顆状骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	基準以上配置	保育士2名配置だったが、他児の準備で戸外に出るのが遅れ、1名の保育士のまま、園児への約束事項を口頭注意のみで、活動を開始しました。	特に園舎外の活動や大きな活動時は十分な保育士の中で行うよう職員間で共有します。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(12)回/年		点検結果を職員間で共有でし、対応をを決めていきます。	集団活動中・見守りあり	雪遊びの活動前に雪の状態や雪有無や雪のの状態などの十分な確認ができていませんでした。	活動前の安全性の確認を確実に行うことを職員で共有します。	いつもより発・活動的であった	(具体的内容記載欄)いつも活動的で対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児の動きに注意が向いていました。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	—	園児の動きが大きくなる活動の時は必ず複数の保育士で対応し、危険箇所への導線を保育士が防ぐ、園児全体を注視する等、園内研修において対応の問題の共有化を図り、再発防止をします。活動の際は、事前に気温や雪質など環境の安全を確認し、年齢に応じた内容で遊びのルールを園児全体に指導し、活動	
3496	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	145	8	18	29	31	30	29	名		42名	30名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	上顎右乳中切歯外傷性歯牙脱臼、歯槽骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	特になし。	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年		特になし。	集団活動中・見守りあり	—	特になし。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)登園時は忘れ物をしたと泣いて登園する。日中はいつもと変わりなかった。	対象児の至近で対象見ていた	保育室内で話をしていた担任には室内にいた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)近くのテーブルに保育士がついていた	—	常に座り方声について声をかけていく。	
3497	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	4歳児	24	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	4歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右腕の骨折（レントゲンで小さな骨のひびが見られる）	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	基準配置	園庭では自由あそび中であった他の年齢も遊んでいた。	職員は複数園庭にいたが、全体を見て動ける職員の配置や声掛けなどの連携。	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ソフトマットを設置	集団活動中・見守りあり	総合遊具方の使い方の再確認	職員の声かけや見守りの仕方	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に変わったことはないが、不器用さがある。	対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)園庭にでていたが、本児とずっとついていたわけで	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員はクラスの個別対応をしていた	特になし	職員の配置や園庭での見守り方の改善	
3498	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	2歳児	25	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	2歳	女児	特になし。	屋外活動中	負傷	—	骨折		左腕　上腕骨付近骨折【治療に要する期間：概ね1か月】	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(1、2)回/年	基準配置	—	再度職員間で事故防止マニュアルの確認を行う。	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	当園のブランコは背もたれがない。	ブランコの損傷箇所は見当たらなかったが、背もたれがないことを考え、安全に使用指導をを行っていく。	集団活動中・見守りあり	—	さらに注意深く見守る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)固定遊具	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)通常は	—	これからもブランコで遊ぶ際には、絶対に手を放さないよう指導していく。(今までも指導している)	
3499	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	4歳児	12	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右中指ＰＩＰ関節裂離骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	—	子どもの遊び方のチェック。子どもたちと遊び方の確認をした。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度(12)回/年		遊びによる十分なスペースの確保を補償する。	集団活動中・見守りあり	—	メンコの方のやり方を見本を見て、実際に子どもにさせて遊び方の確認を全体にした。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもどおり元気遊びで良くんでいた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)クラス全体の様子を確認しながら、対象児の様子を2ｍぐらい離れた場所から見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)クラス保育中でたたあまめ、各クラスで保育をしていた。	普段から元気な子で、転びこのんでするとも、怪我に対する認識が甘く、園長や担任報告をしていなかった。また、降園後に電話で保護者	怪我の状態や大きさに限らず、園長に報告を必ずの場だけ行い、その場だけで解決しないように全員に紙ベースで怪我の状況を知らせ周知した。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面								ハード面								環境面		人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
							発生時の施設・事業体制		異年齢構成の場合の内訳													死因	負傷状況	受傷部位	診断名																								
3500	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	4歳児	22	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	4歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(5)回/年	基準配置	—	事故予防については、職員の勤務時間帯別に研修をおこなっている。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		施設内の安全点検は定期的におこない、記録をしている。	集団活動中・見守りあり	—	対象児が日頃から過ごしている保育室であり、環境設定は通常通りだったが、テーブル間の距離を広げて、子どもが歩く際のスペースをゆとりを持ってしっかり確保する。	いつもどおりの様子であった	室内での自由遊び中、歩いて遊んでいた。	対象児の至近で対象児を見ていた	想できても子どもの危険な動きがあれば、防止できる位置にいた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	想できても子どもの危険な動きがあれば、対応できる位置にいた。	室内遊びで遊んでいたが、朝の支度に忘れたことを思い出した他児がとっさに椅子から立ちあがったことが要因と考えられる。	職員間で、自由時間の遊び方などの再度話をして共有した。	
3501	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	85	名	名	1 4名	2 7名	2 2名	2 2名	名	6名	3名	3歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折(左)	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	特になし	特になし	不定期に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	異年齢児合同保育の時間帯だったため、5歳児が他クラスの子どもに気づかなかったため注意が向かなかった。	他のクラスとも子どもに注意よが向くようにしていく。	いつもより活発活動であった	(具体的内容記載欄)周りを見ずに走っていた。そこに5歳児の児童が振り向きながら走ったため、ぶつかってしま	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)危険に気づき子が静止のをかけるが、間に合わなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)ほかの子どもの見守りを、他児と一緒に遊びながら当該様子も見守っていた。	2歳児とはいえ動きが速く、注意がけが間に合わなかった。	あそびの最中でも周りを見て気をつけるように知らせる。異年齢児で遊ぶ時には特に、子どもたちの動きに注意して保育にあたる。	
3502	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	20	名	名	10名	7名	3名	名		2名	1名	4歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	特になし	特になし	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	特になし	個人活動中・見守りあり	コーナーで遊んでいたため、保育の目がいきにくい者が届かった。子どもたちが集まっていた際に子ども同士の接触があることを予想し、そばで見守った。	子どもが集まって遊ぶ際には、子ども同士の接触があることを予想し、そばで見守った。遊びに参加しながらトラブルがないよう添う。また、安全に遊べるように子どもたちに声掛けを行う。人気のコーナーは広く場所をとる	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)遊んでいる上がろうとした。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子どもと一緒に遊んでいた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)子どもと一緒に遊んでいた。	対象児から離れたところにおり、怪我を防げなかった。	事故が起こそうなところで注意して見守る。	
3503	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	4歳児	16	名	名	名	名	名	名	名	3名	2名	4歳	男児	事故と因子関係がある、身長、体重、既往歴・持病・アレルギー、発達状況、発生時の天候等はなし。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	保育補助は日によって、職員を配置していた。	担任保育士だけでなく、補助職員の行動予測や、職員の動き把握を見守りができるようにする。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	外活動では、子どもたちを待たせる時間を減らすように、集団を小分けにして関わる。	集団活動中・見守りあり	子どもたちが準備をする時間がかかってしまった。	戸外活動では、子どもたちを待たせる時間を減らすように、集団を小分けにして関わる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育者の言葉と反応の行動をとったが受けられていた。帰園すると伝えるとだいぶ言葉を向けて右肩に手置いた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)1名の職員が、対象児とその他3名の園児に、帰園すると伝えようが名見守れる位置にいた。しかし、対象児からの見だったため、落下の瞬間に助けに入ること	(具体的内容記載欄)対象児以外の園児を並ばせて歩道に飛びそうとり、別の場所に行こうとする園児を見守っていたため、対象児に気づくのが遅くなってしまった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児以外の園児を並ばせて歩道に出た列の場所に行こうとする園児を見守っていた。道路に飛びそうとり、別の場所に行こうとする園児を見守っていたため、対象児に気づくのが遅くなってしまった。	子どもの行動や予測し、保育士の見りが足らなかった。	子どもの体調や安定性が不安定な時は、職員は必ずそばに付く。子どもの体勢が不安定な時は、職員は必ずそばに付く。	
3504	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	14	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	5歳	男児	独歩は可能だが、既往症により足の変形や歩行のたどたどしさはあるものの、普段上手を上り下りは自分でバランスをとり、場合によって手を着いたり、お尻をつけたり安全にできていた。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨遠位端骨折	自転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以下	担任3名の内、1名が休みの為、子育士に応援で担当育士に応援入ってもらう。子どもが自主的に遊んでいる姿や危なげない姿、視界に入る遊ぶ範囲でいることから、負傷1名の付き添いに担任保育士と応援の二人体制で全体を見守る。グラウンドは広いので、子ども自主的に遊んでいる姿や危ない遊んでいる姿、視界に入る範囲でいることから、負傷1名の付き添いに担任保育士と応援の二人体制で全体を見守る。いつも遊	グラウンドは広いので、子ども自主的に遊んでいる姿や危ない遊んでいる姿、視界に入る範囲でいることから、負傷1名の付き添いに担任保育士と応援の二人体制で全体を見守る。いつも遊	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(25)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	長年繰り返しのすり傷や、ぼりぼりしたり手やのし風雨雨影響で土手が削れ、木のやがの根石むきになっていろ。出てこなどが出ているる。	草が伸びておりの草を刈って通しもので刈っく。	集団活動中・見守りあり	現場の斜面(砂が乾いた削がちとていた木のこが出しになっるとが多くなっるとがなった)認当び前がいた。	事前にグラウンドや土手の下見を。支援児を含めたすべての子どもの方者が再度確認していく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもは仲間に入れてもらえないが、この日は仲間に混ざりに追いかけっこのようなじで遊んでいでめ、普段よりもだらけきにもを配っており、身への安全がおろそかになっていた。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)支援児のそれぞれが子どもに遊つ遊ん遊ぶ遊る姿や子ども見ながら遊んでいた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)ケガの子どもの応の保育人にその子ども対応の子ども任間で認え準備した。一人の保育者は担当職員とこの担当職員とこの子ども全護体で見ていた。	怪我をした児の土手の遊び方が、友だち関係がからは定所ではお尻をつけ斜面を降りゆっくりめながら進めるが今回は、友だちにてこいこもより急土手を移動し	子どもの運動能力、遊び方を考慮し、土手での遊び方を提案した。ケガの子対の為、一人は園舎戻り、その後、子ども様子を任間で認え準備した。一人の保育者は担当職員とこの担当職員とこの子ども全護体で見ていた。	遊び方がどうであったか、グラウンドで遊ぶ際、土手の状況を確認し、子どもたちに遊ぶに当たっての注意点を伝える。また、支援児の行動や配慮で必要なことを十分留意遊ぶを	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 不定期に実施	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3505	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午前中	施設内(室内)	3歳児	19	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	3名	4歳	女児	特になし	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつき、出血	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準以上配置	特になし	慌てず、落ち着いて行動するように声をかける。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ロッカーに損傷が無いか常におく に見てお	集団活動中・見守りあり	特になし	体の使い方等も達し安全に行動できるように促す。	いつもどおりの様子であった	周りを見ずに立った。	対象児至近で対象見ていた	お外に行くことを伝え、帽子をかぶって準備する様子を見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒の部屋にいて、見守っていた。	特になし	保育士は常にすぐ対処できるところで見守り安全に配慮する。	
3506	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	午前中	施設内(室内)	2歳児	17	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	3名	3歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足甲骨折の疑い	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準以上配置	特になし	ぐずっている時の対応として、ひざに座らせ安定を図ようにする。又、おんぶで落ち着く子は紐おんぶ使い安全に配慮する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	落ち着いて安全に遊べる環境を常に整える	集団活動中・見守りあり	特になし	新クラスに移行の時期なので、保育士の連携を密にとる	いつもどおりの様子であった	登園時母から離れることが多いのでいつもの姿であった。	対象児至近で対象見ていた	対象児と一緒にいた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と部屋にて遊びながら見守っていた。	特になし	朝ぐずって対応してる場合、他の保育士が後から登園の子を受け取りに入るように連携をとる。	
3507	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	2歳児	24	名	名	名	名	名	名	名	5名	5名	2歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	AA外傷性歯牙打撲	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	保育室で寝ている他児とつかこをしていた。一緒に遊んでいた友達があり走って、に立ちがりとして転倒した。	保育室では、走らないように声かけをすると共に他の遊びに誘導する。	定期的に実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度( )回/年	ハード面での要因はないと思われる。	上記理由により該当なし。	集団活動中・見守りあり	保育室に入ってすぐのスペースが広く、走れる空間があった。	棚を置いて遊び分けたり空間分けで広い空間を仕切る等、保育室内の環境整備をする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)一緒に遊んでいた友達が走り出したのを見て、真似ようとして走った。	対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)アルバイト保育士が部屋の中央で全体を見守った。本児に近くはいなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)パート職員1人がままごとしている4人を見ていた。他のパート職員1人の1人は対象児のそばにいたが登所後泣いている児の対	毎日、朝夕ともに子どもたちが過ごす部屋であり、友だちの行動を真似ることはよくある姿だと思っている為、	毎日の保育の中でもひやり・はっとした事例や危険の予測などを職員同士で話し合う機会を持ち、声を掛け合う。常に事故が起こるかもしれないと意識を持って関わる。	
3508	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	2	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	1名	1名	3歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯脱臼(2本)	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1月)回/年	基準以上配置	靴下をはいていた	靴下を必ず玄関で脱ぐ	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	未実施	実施頻度( )回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	なし	その他	なし	靴下を必ず玄関で脱ぐ	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)朝の準備をするためお部屋に入った。	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)部屋へ一緒に移動中であった。	—	(具体的内容記載欄)	つまずやすく、以前も保護者との買い物中に同じ歯のところをぶつけた	靴下を必ず玄関で脱ぐ	
3509	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	16	名		名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	男児	—	登園・降園中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折（右手首）	遊具等からの転落・落下	なし	定期に実施	実施頻度(5)回/年	基準配置	お迎え後、園庭で遊ばないことを、子ども達、職員間で徹底する	園内研修を増やし、職員間での連携をとる努力をする	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	高さ２０cmの丸太にのぼるという思いには至っていなかった。	丸太の下(地面)に人工芝のマットになっていたが、丸太歩をなどの禁止を検討する。	集団活動中・見守りあり	夕方、園庭を使用しないときは、「いまのはんじかんはつかわないでね」カードを掲げ遊具を使用しているか確認出来ていなかった	保護者・子ども達・職員が、お迎のルールの再確認。保護者に渡し後、園庭で遊ぶ児がいれば、声掛けするように職員間で再確認をする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)祖母が迎えに来て帰り丸太を歩き遊ぶ	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)お迎えに来られたが、引き渡し保育室に戻った	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)室内にて保育中	お迎え来て、降園する際、遊具で遊ばないと約束を徹底できていなかった	「安全だより」などのお手紙で、再度、注意喚起する。また、降園後、園庭で遊んでいる子どもを見かけた時には注意を呼びかける。	
3510	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	5歳以上児	10	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左第５趾基節骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準以上配置	職員が今回のような突発的な追突が骨折につながるという想定ができなかった。	今後、園庭で遊ぶ際の衝撃で骨折しうることを会議の場で職員全員で確認した。研修参加者から事故リスクのリスクについて学ぶ機会を設けた。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	なし	集団活動中・見守りあり	音楽に合わせて体操をしたが指先まではしていなかった。	運動遊びの前には指先、足で動かすような準備体操を行い、子どもも体を動かすことの意識をもたせる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通りゲームに参加したが、後半、何度かアウトになりゲームに対する欲や集中力が途切れ危険回避できない状態	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)ぶつかった様子を見ており本児の足の状況を確認した。赤みは、腫れはなく様子をみた。	—	—	ゲーム後半の疲れ様子が見えたが、他の遊びに誘うような働きかけが足りなかった。	子どもの様子に合わせ、休むように声をかけたり他の遊びに誘導していく。	
3511	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	25	名	名	名	8名	7名	10名	名	4名	3名	3歳	男児	・負傷部位は背中	その他	負傷	—	火傷	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	Ⅱ度熱傷	その他	あり	未実施	実施頻度( )回/年	基準以上配置	・マニュはあるが、周知徹底されていない点がある。・危機管理意識が低かった。	・職種に全マニュアルを配布する。また、内容について毎月会議時等、定期的な園内研修を実施し、職員の危機管理意識を高め、事故を未然に防ぐ処法を全体で常に実践できるようにする。	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	・子ども導線（玄関から保育室）と配膳準備（調理室育から保育室）が重なっている。	・子ども導線（動き）先を優先する。子供を保育室に戻す。	その他	・玄関から保育室への移動で、導線が混雑していた。	・保育担当者は給食配膳準備にこども園前に給食を保育室に入れる・子どもの居場所を常に把握し、子どもが自己おおえず保育室を出入りする場合、給食準備時等に危険が予測される場合に備えて、視確保と、事前掛け声等でこどもと運んでくる調理職員に注意喚起を行う。（相互に注意す	いつも活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)・散歩から帰園し、保育室に戻る途中であった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・散歩から保育室に戻り、園児に足をにこどもを洗わせたにてにてるテラスに向かった。もう一名は、玄関で他児の見ており行動を見守っ、もう一名は他児にかかわっていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・他職員は、他クラスの育に入っていたり、異年齢児クラスの配膳補助に入っていた。	・ひとりひとりの動きや導線に、保育士目ていなかった。・通常は、全ての食器をワゴンで運んでいるが、保育者が準備が完了する前にワゴンを運んでいい、足汁物だけを、調理職員が手	・子どもの動きや行動から目を離さない。・給食で使用する全てのの物はワゴンで運ぶ。・調理職員が保育室にワゴンを動かす際、こども園が導線にいる時は、こどもと保育士に声をかけ、保育室に戻ったのを確認して移動を開始する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3519	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	40	1名	6名	6名	7名	10名	10名	0名	7名	4名	3歳	女児	なし	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性脱臼	自らの転倒・衝突にもよるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	なし	マニュアルがあることを職員に周知し、いつも見ようしているようにしていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	施設点検を行い、危険があれば保育課に報告し、改善してもらう。	集団活動中・見守りあり	—	普段の保育の中で、手をついて遊ぶを取り入れていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)・本児が一回転とバランスを崩し転倒する。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)部屋を移動しようと電気を消すため、対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれ担当する年次の子どもを見ていた。担当者、対象児の動きを見ていなかった。	—	子どもの行動に十分注意し、ふざけたり危険な遊びをしないよう知らせていく。	
3520	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	28	名	名	名	名	14名	14名	名	4名	3名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	—	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	基準配置は守られていたため、ソフト面で問題はなかった。	—	実施頻度(1)回/年	—	実施頻度(1)回/年	—	実施頻度(1)回/年	園外の施設であり面については不明である。	集団活動中・見守りあり	遊び始める前に子どもたちのなどに遊具の安全などを確認しなかった。	散歩先の公園で遊ぶ際は、遊び始める前に子どもたちとと確認を確認し、安全に配慮して遊べるようにしていく。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)遠足という特別な行事で、朝から気持ちが高ぶっているようだった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担当職員がいたところから、と死角になる場所で発生したため、すぐに対象児の動きに気が付けなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれ別の場所で子どもたちも関わっていたが、職員同士の掛け合いができていなかった。	—	常に職員間で声を掛け合い、連携をとっていく。また、死角ができないように保育者の立ち位置を考えながら保育していく。	
3521	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	14	名	名	名	5名	3名	6名	名	1名	1名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	右肘の骨のずれと、ひび	自らの転倒・衝突にもよるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	職員配置あったの設定のしかに、慮が必要だった。	安全確保するに関する勉強会をこと行うことにより職員の共通理解を深める。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具と遊具の間の配慮。	適正な遊具の数を考慮する。	集団活動中・見守りあり	遊戯室で複数の遊びが展開されており、プが歩いていろのスペースが、狭かったため足にフープがかかってしまったと思われる。	安全に遊びができるスペースを確保する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	危険予測が不十分だった。	危険を予測しつつ、更にしっかりと子どもの様子を見守る。	
3522	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	71	名	名	名	名	34名	37名	名	4名	4名	4歳	男児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	右前腕若木骨折	自らの転倒・衝突にもよるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(49)回/年	基準配置	皆が集まっているときにがちして心理ついて合い分であった。	行動が遅れている子どもの焦りなどを予測し、心理面についてを再度確認し合い、職員一人一人が意識し危険回避の意識をもつ。	定期的に実施	実施頻度(290)回/年	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(290)回/年	芝生が水たまりで濡れている場所や芝生が濡れている場所は滑りやすい。	芝生が濡れている場所は、囲った、保育士がその場についなるように走りやすいようにする。	集団活動中・見守りあり	集まる場所へ続く芝園庭の生が濡れていた。	遠回りをしてても、濡れているところを避けるとする。濡れたら、保育士がその中を走らないようにガードをする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)年長児のリーに興味があり、でも早く、応援をしたいと気持ちが焦っていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担当クラどもが、のぼり棒に登ってお降りて降りてリーに向かおうとしてのとたの全に降りられるように見守っていた	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園舎東側のテラスで年中児30名の近くにいた。保育士は、転んだ瞬間は見ていたが、咄嗟の事で防げなかった。	何もないところで子どもは転ぶという予想をしていたこと、濡れているところは走り危ないという予想が足りなかった。	本児は、落ち着きのない行動をしやすいので、走り出したときに「歩こうね」と声を掛けること、芝が濡れているという環境から危険を予測する。	
3523	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	52	0名	7名	8名	15名	10名	12名	0名	14名	9名	5歳	男児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	遊具方ついて遊び方合の保育者えすり合のこのをわせる必要がある。	会議で『固定遊具の約束について』を確認し、遊び方についての保育者をすりあわせた。今後、保育者への事故防止に関する研修をさせ、危険予知トレーニングなどの事故を未然に防ぐ知識を磨く。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	児童の年齢に合わせた遊具についての考え方をすり合わせる必要がある。	会議で『固定遊具の約束について』を確認し、年齢に応じた利用とした。	集団活動中・見守りあり	慣例的に幼児が幼児用椅子にらを用椅子乗り下ずりしていた。	太鼓橋の椅子を置かなことにした。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児は運動神経がよく、何度も太鼓橋の側面にぶら下がりながら遊んでいた。事故の際は椅子に乗り向こうの側面に飛びついて、手を滑らせて落下した。この時、右手で体をかばうとなり体重がのり骨折した。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担当職員は太鼓橋の近くにいたが、他児の面倒を見るため、反対方向を向いていた。落下の瞬間は見ていなかった。本児がうずくまったため異常にきずき、右手の骨折を目視確認した。急いで事務室に連絡して上司に報告した。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)少し離れたところで別の児童を見ながら、事故の経緯を見ていた職員がいたが、他は職員のそれぞれ分担し児童の動きを見ていたため本児を見ていなかった。	遊具遊び場合は危険を前提に保育者がそばに付き添うことも危険行為が予測されたときは必ずやめさせる必要がある。	所内会議で『固定遊具の約束について』を確認し、年齢遊び方と保育者の対応に応じた再確認した。	
3524	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	午前中	施設内(室内)	3歳児	3	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	4歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷		歯根破切脱臼	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	細かや必慮を必要とする突発きの対応しより配な支援子の的にされなかった。	自分の体の距離感と他の子と離れた目づかいった声か動測に気づき、運動をけるけ、あそび取り入れていく。	—	実施頻度()回/年	—	実施頻度()回/年	—	実施頻度()回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	動きが予想しづらい支援の必要な子ども動きがしづらい支援の必要な子を含む集団の人数設定	動きが予想しづらい支援の必要な子を含む集団を形成するする際はより少人数体制にする事や個別理解を確認して行う。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)	職員数は充分であったが、あそびの中での職員の立ち地を再度確認しながらそぶことが必	活動前に職員間で再度あそびのルール、子どもの特性を確認し合い、職員の動き、立ち位置の確認をする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3525	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	4歳児	15名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	4歳	男児	身長100.4cm 体重15.8kg カウプ指数15 (正常範囲内) 既往歴なし 発達問題なし 発生時天候：晴天	食事中(おやつ含む)	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部斜骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	児童が席から離れる際に、保育士の指示が入らず動いてしまう。	児童個人個人の性質を把握し、危なそうな児童から目を離さない。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	通常通りの置き場所、使用方法をとっている器可能性もある。	今回使用しているテーブル、床面についてチェックが不具合はなかった。	食事(おやつ)中	—	危険が予測される活動時に確認が取れる体制を工夫していく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)給食後の片づけが終わり、違う場所で立ったままテーブルに両手をつき、頭をぐるぐる回したりとのことと、目が回ってバランスをくずして転倒したものと思われる。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)給食を食べ終わり、個々に歯を磨いたり、片づけをしたりと行動はバラバラ。しかし歯を磨くところには、担任がしっかりついて危険がないように見守っていた。また、一人は着替えの手伝いでテラスに出ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)食器の片づけをしながら、ほかの子ども達を見守っていく。	転倒した際に、左足を椅子に打撲した可能性もある。	集団の中で、一人ひとり目を離さないようにすることは難しいが、全体を見渡すことを常に行っていく。	
3526	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	55名	0名	5名	6名	15名	14名	15名	名	9名	9名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	基準配置	—	引き続き定期的に内研修を行い、注意喚起を行っていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き定期的に点検を実施し、具合いか確認していく。	集団活動中・見守りあり	—	常に子どものに気を付けケガよけ、のうに掛けていく。	いつもより活動的であった	(具体的内容記載欄)1人でうんていをやりたいという気持ちが強くなり、担任が違う遊びを提供し一緒に遊ぶようにうんていに促したが、手を滑らせて戻ってしまい、右足から落ちた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)他児がうんていから落ちしりもちをついたのを、他保育士から担任保育士が聞き、1人1人にうんていのやり方を教えた。その後、違う遊びを提供しようとシャボン玉を吹いてあげていたとき、うんていから一瞬目が離れてしまい、うんていに戻った本児が落ち	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)所庭にはいたが、グループを見ており、本児は見ていなかった。	—	常に子どもの動きに気を付け、ケガの無いように声掛け合い、連携して全体に目を配っていく。	
3527	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	61	名	名	名	17名	21名	23名	名	4名	4名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	—	左前腕骨折	遊具等からの転落・落下	あり	—	実施頻度(2)回/年	—	—	定期的に事故予防(ヒヤリハットも含め)の研修及び所外研修(外部)で実施する研修への積極的参加と所内での共通理解・対応を深める。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		より安全な遊具の扱い方についてを定期的に行う。	集団活動中・見守りあり	—	安全な遊具の扱い方について指導を定期的に行う。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	—	適切な職員配置を行う。固定遊具で遊ぶ際には十分に気をつけて側につく。	
3528	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	13	0名	3名	3名	1名	2名	4名	0名	5名	5名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	休日保育専門の職への研修(遊び方の内容)が不足している。	休日専門の職員に休日の態に合わせた細かい内容の研修を行っていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	なし	個人活動中・見守りあり	巧技台の設定が高くて子どもの能力を超えてしまったと思われる。	平日様々な園に通っている子どもが集まり遊んでいることや異年齢児だったため巧技台の高さを無理のない低めの設定にするべきだった。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児が養っていた平均台の反対側で落下する瞬間に立っており、両に手を差し伸べたが間に合わなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)砂場遊び場や三輪車で乗っていたを見ていた。	日・祝のみの利用のため子どもたちの運動能力がしっかり確認できていなかった。	休日のみ利用の子どもを保育することを念頭に置いた十分な安全確認、配慮が必要。	
3529	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	22	0名	3名	3名	3名	4名	9名	名	3名	1名	4歳	男児	なし	登園・降園中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	上肢(腕・手・手指)	右手中指末節部挫傷	その他	なし	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	事故防止マニュアルの整備ができていなかった。	自転車に乗る時は周囲に誰もいないか確認をする事を知らせる。事故防止マニュアルを整備する。	定期的に実施	実施頻度(297)回/年	定期的に実施	実施頻度(297)回/年	定期的に実施	実施頻度(297)回/年	なし	危険な行ついを今後なように事故のもたちに周知する。	集団活動中・見守りあり	なし	遅番の職員は重要箇所におり、遊び場や具合区切り保育者の目がしっかり行き届くようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いろいろな事に興味を持つある。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)自転車置き場付近で対象児ともう一人の児童ていたが、2歳児が自転車にがりたがり介助していて対象児を離している間に本児から「血が出た」訴えで対応にあた	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の見守りについたが、担当職員の「血が出ている」の声に驚きすぐ駆け寄り患部を見る。	当日は中前に3歳以上春の遠足で自然観察会を行った。また、2日前から遊具が使えるようになったということで、子どもたちのテンショ	各遊具付近、自転車付近に職員を配置する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
3530	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	25	名	名	名	2名	11名	12名	名		2名	2名	4歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	臨時職員には事故防止マニュアルに沿って研修をしていなかった。	現場検証を行い、再発防止の検討を行う。全職員に事故防止マニュアルに沿った研修を定期的に行う。	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		遊具・玩具安全点検表に合った遊具の点検・設定をするように職員に周知していく。	集団活動中・見守りあり	運動会の練習も少しずつ始まり、子どもたちの動いという気持ちが高まっていた。	子どものもの気持ちも汲みつつ、子どもの動きを見ながら安全に遊べるよう配慮していく。	いつもおりのどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)遊戯室で、ゲームボックス(42cm×42cm)の2段重ねのジャンプ台(高さ84cm)からマットの下に飛び降りる遊びを繰り返していた。	対象児至近で対象児を見ていた	内容記載欄)クラス担任(保育士)がジャンプ台脇で子どもの様子を見守っていたが、奥のコーナーも同時に見ていたため、対象児がジャンプする瞬間を確認したり、手を添えることができなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一人は入口付近で鬼ごっこをしている子を見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。	対象児くにいた職員は、ゲームボックスのジャンプ台脇にいたが、同時に奥の縄跳びコーナーも見ていなければならなかった。(縄跳びコーナーには職員はつい	子どもの人数に応じて職員配置をしていく。また、子どもの人数や発達に応じて遊具の選択や遊びの選択を臨機応変にコーナー作りをしていく。	
3531	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	4	名	名	1名	1名	名	2名	名		2名	2名	5歳	男児	特になし	登園・降園中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右脛骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(8)回/年	基準以上配置	子どもを保護者に受け渡し以降、起こりうる事故のリスクに対し十分な検討していなかった	マニュアルへの追記及び記載分の研修を実施した。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	未実施	実施頻度(毎)回/年	不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	玄関から道路に遮るものがなかった。道路駐車場に来園者が迎えの態いた。保育園の所から道路わかりにくい状況であった。	玄関と道路の間に可動式フェンスを導入。送迎のために一切禁止し、車場にも保護者に依頼。園の分かるような看板等を設置予定。	集団活動中・見守りあり	保護者への声掛けが不十分であった。子ども達への教育が不十分であった。	保護者へのお願いの手紙を配布し、懇談会では出席者には口頭で説明した。子ども達には道路飛び出しの危険性などの教育を行った。	いつもおりのどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に普段と変化はなかった。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保護者に該当園児を受け渡した後、母親の静止を聞かずに子どもが自分で自動扉を開けて外に出て、路駐している車まで走っていった。保護者に渡した時点で口頭で静止したが、少し距離があり、静止させることができなかっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)延長保育で残っている園児を見ていた。	配置人数には特に問題はなかった。	現在の延長保育の時間帯の人数で問題はないと判断する。	
3532	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	1歳児	5	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	2歳	男児	—	その他	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯のぐらつき、歯肉内出血	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回以上/年	基準配置	お茶の引渡しを保育士が、本来やることを行ってなかった	室内は走らないように伝えていくとともに、返却に際はものみンテンス高どお茶のどを子者行に子子様子、テンション時は事故防止マニュアルに沿った研修を定期的に行う。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	保育室の閉ドアが閉められていたので、他の保育士はドアにかられがわかなかった。時期は0・1歳児保育を行う多くが児の混合で育園事0歳児の際はドアを閉めていた。	状況によるお茶片付けの際、短時間で戻るようなお茶は閉じないこと(0歳児を混ぜ合さない検討等)	その他	職員により能力差があるルールに化しくきるもルールしばいる。経験者にわかるルール化が必要	今回の件をふまえ、お茶お手伝いの際のルールを決め共有し、実践して事故予防していく	いつも活発・活動的であった	活動中でよりお活発な状態のまいに、ままに走ってまいき、ままに走ってドアにぶつかった。	対象児離れかるところで対象を見ていた	ダムウェーター付近にいたところ、子どもが出ようかけ追いたが間に合わなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員がドアまったた閉め、様子を見ることができない状況であった	お茶を片付けた後、走って保育室に戻ることが恒常化していたので、今回の件も事前に予測できたはず。また同時にこどもは5人は人数が多く、いつも2～3人で行う事が多い。	お茶片付け順番の検証を行い、リスクマネーメントとして大人数になっての組みなる仕組みを作る	
3533	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	57	3名	5名	10名	13名	10名	16名	0名		11名	１０名	6歳	男児	なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	活動がなっている中、遊具の下に集中して動きが向くなど集中を欠いていた。	遊具所場は特に合は周囲の保育士が声を掛け合って安全を確認していく。	定期的に実施	実施頻度(/)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	マットが砂にまれてのクッションの役割が少なかった。	掘り起こしクッション性をを高めていく。	個人活動中・見守りあり	見守っていた保育士が場を離れた	場を離れる声・保育士に声をかけてその場を離れる	いつもおりのどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)友達と一緒に遊具に乗りりんでいた。	対象児離れかるところで対象を見ていた	(具体的内容記載欄)直前まで対象児にかけなどしていた離れて他児のところ	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)遊具の横にある砂場で他児と遊んでいた。	—	—	
3534	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	81	0名	0名	18名	19名	23名	21名	0名		12名	9名	6歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右橈骨折	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	遊ぶ前の確認など約束確認など配慮不足があった	遊ぶ前にた約束ち子どもと確認を行なう。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	園児7名でおり鬼ごっこするにはスペースが不足していた	人数や子どもたちの動きにに合わせ遊ぶスペースを確保していく	個人活動中・見守りあり	保育士が見全体を守ることができる位置にいなかった	見守りの際は、職員が何処に立つことが一番安全か意識する。今回の件をふまえ、お茶お手伝いの際のルールを決め共有し、実践して事故予防していく	いつもおりのどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児離れかるところで対象を見ていた	(具体的内容記載欄)	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	卒園前子どもに達揚あったことを感じていた取ったが、慮どもを見守りながらも落ち着か	様々な事故事例の検証を行い、リスクマネーメントのスキルアップを行なう。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面																ハード面									環境面			人的面									
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の種別	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3535	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室内)	2歳児	7	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	2歳	男児	—	室内活動中	負傷	—		骨折	右足脛骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	基準以上配置	職員配置は子ども人数に対して十分に配置されていたが、担当同士の役割分担ができていなかった	クラス全体を見る大人、危険予測を変えずに手を差しられる人、ものの中にやりを差し入れる大人と役割を決めて保育をする	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	保育環境の危険のないように確認しているが、子どもの発達関係や興味に合わせて安全な心配りをしてよい安全の確認いけるよう、職員間で情報を共有し合う必要がある	子ども達やクラスの様子に細目に配慮し、会議等で共有していく	集団活動中・見守りあり	おままごとを始めてから４０分ったが子どもが遊びまった。人数が子どもの中に入り遊びを膨らませることができなかった	遊んでいる時の子どもの様子を考え、遊びを切り替え展開していく	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)おままごとで遊んでいたが、おままごとにはとどまっていたが、延べ人数が飽きはじめ他の友だちから離れていった	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児がテーブルに手を掛けていたが、止めることは出来なかった	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)対象児がテーブル付近へ行った姿は確認しているが、その後は他児との遊びを継続した	テーブルに手掛けを姿は確認したが、転倒を止めることができなかった	子どもの動きを見守り、危険予測をして職員間で声を掛けあっていく	
3536	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	19	名	名	名	10名	9名	名	名		3名	3名	4歳	女児	特になし	屋外活動中	負傷	—		骨折	橈骨遠位端骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(5~6)回/年	基準以上配置	特になし	危険箇所(段差)を転倒しやすい場所として、マニュアルの項目を見直す。	—	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	公園等は、子ども達にとっての危険な箇所(子ども達にとっての段差)、工事等を頂けるように、木事に連絡し、旭土務所に給を相談する。	集団活動中・見守りあり	段差の確認を遊び方のルール説明の際に、加えて説明していなかった。	危険個所(段差)を子ども達に見せて、どうすれば怪我をしないか伝えていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)転倒後もお変わらず自由遊びを行い、手をつないでお友達と園に戻った。食事の際に手を使わない様子が見られたが、それ以外は、お迎えまで変わらずに過ごし	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)該当児が転倒をしたので、外傷や痛みがないかすぐに寄り、駆け寄り、確認を行った。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)3人で子ども達の状況が見られるようバランスが良い位置にいたが、転倒は、該当児童の側ではなかったので、見られなかった。	転倒があったことを知っていたのは、見ていた職員のみであった。	外傷等がなくても可能性がある出来事には、対策を共有すべきであった。	
3537	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	午後	施設内(室内)	異年齢構成	32名	0名	0名	0名	15名	12名	5名	0名		4名	4名	5歳	男児	—	その他	負傷	—		骨折	右肘内障、右上腕骨外果骨折疑い、右肘関節内骨折、左肘関節痛	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	事故当時、保育士の配置人数に問題はなかったと思われる。保育士同士の連携の取り方には課題があったと考えている。	毎月作成している『デイリープログラム保育士の動きもとに、保育士の配置や連携の取り方について話し合い改善した。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホールが縦長であるため、壁とホール端に、子どもが自由に動けるスペースができまうこと。	保育士位置を改め、空いスペースにも目くばりし、とを促がすようにする。	その他	２名い保育士よりも動きたこと、自行していて未熟の行動の変化がくれた。	ホールにいる職員の中でも連携を取り、分担し目促しをすることで、集団に対視野持ようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)身体的、情緒的に異常はなく、通常時と同様の姿であった。	対象児離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)部屋とホールとを行きし、年齢目促しをの様子を見ていた際、ホール端に対象児がいることを確認したが、入室の声掛けはしていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)室内で午睡明けの終わった子どもを保育士が1名、午睡目の促しが覚めるとして保育士が名いたが、対象児の動きを追いなかった	まだ覚めない子どもたちの方に、より強く意識が向いていたこと。	午睡明けの準備を終えた子には入室を促しすように、分散して目覚めの促しをするように、視野をよりひろくもつようにする。	
3538	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	25名	0名	0名	0名	8名	9名	8名	0名		6名	6名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—		骨折	骨折	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	○　全体を把握すを保育士がいなかった。	○　職員間で声を掛け合い、職員みんなで状況を把握して対応する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	○　台がしっぱなしになっていた。	○　台は、その都度片付使う、ときに出ようにする。	個人活動中・見守りあり	台を園庭に出していたが、そばに保育士がついていなかった。	台など危険だと思われるものを片付ける。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)元気だった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子どもたちは、それぞれ好きな遊びを楽しんでいたところから見守っ	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)１歳児を見ていた保育士が、すぐそばで砂遊びをしながら見守っていた。	職員の立ち位置や意識が十分であった。	乳児と幼児で園庭の使用時間や職員の立ち位置などを確認し、安全に遊べるようにする。	
3539	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	5歳以上児	13	名	名	名	名	名	13名	名		1名	1名	6歳	男児	—	室内活動中	負傷	—		創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	裂創(顔)挫創(顔)	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	基準配置	眼鏡を着用したもを子どもの足、眼鏡を着用した子どもに対する配慮不足。育てあたの人数保育現場で少人数保育で行った。育準備を行った。	眼鏡着用する子どもの保育士の対応に保育士の配慮を項目を確認する。安全に保育できるよう、保育準備は事前に行う。	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	保育士がもを子どもを待たせた状況で保育準備をどもし、子姿をもの把握しない時間があった。	保育準備には事前に済ませ、どの常に子姿もの姿を確認する。	集団活動中・見守りあり	卒園後のなお加日がまったりまるような時間帯で事。手にもったまま走った事。	子どもの予測必要掛けすぐでもようにすることにしている。子どもは、咄嗟の時にすぐ手をつけるよう、遊びを通して学べる機会を作る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載)コーナーテープの芯を見つけて取りにいき、それをもったまま走り始めた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載)走り出した事に気づき、中止ようとしたが間に合わなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児童を見ていなかった。	日頃は2人保育士体制であり、1人での保育時の判断が不十分であった。	子どもが安全に活動できる環境を整え、保育内容を検討する。	
3540	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午後	施設内(室内)	異年齢構成	64名	3名	8名	14名	12名	12名	15名	名		19名	16名	5歳	女児	特になし	室内活動中	負傷	—		骨折	右中指末節骨骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	マニュアルの内容記載が不十分	マニュアルの見直し	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年		引戸の当面にショッピングリッ材を追加	その他	廊下から中庭へ中保育室へのたため、職員の目が届きにくい状況であった。	屋内を児童が移動する際、出入口に職員を配置	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特段異常は見られず	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育室内で本児、様他児子を見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室内で他児の保育中であった。	担当職員は本児の移動を見ていたもの、保育室内に居たため本	児童が保育室へ出入りする際は、扉がある出入口に職員を配置。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3541	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	1歳児	15	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	4名	5歳	男児	—	登園・降園中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯芽脱臼	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	—	保育室の入口付近に職員に配置するなど見直す。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	パーテンションは児の簡倒よいなっがくるだしは危険認識なかった。	危険箇所を無くすロッカーの配置を変えパーテンションは撤去している。	その他	パーテンションの高さが1歳児では危険ではないが、4歳児になると腰の高さにのつかまりなる勢いがくと危険だと意識していなかった。	対象児に限らず、勢いよくパーテンションに手をかけたり、乗ったり大きく揺我に繋がる事を周知しておく。	いつも活発・活動的であった	保護者が来園迎えにきたこともあり、気持ちが高ぶりもいつもより活発で様子であった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が保育室のドアを開けよく部屋に入りパーテンションに手をかけ前回りするようにまたその一回転し為、事故を未然に防ぐことが出来なかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	1歳児の遊んでいる所について見ており守った為、対勢部児が児がよく入っできたことに気付けなかった。	対象児保護者が来園迎えた後、1歳児保育室にいる妹を呼びに行った。早くお迎えきた事を知らせたい子ども様が見勢よくにてき部屋入った。いつも保護者が迎えにきた時には気付き	対象児に限らず保護者にきて、落着いて帰るようにをかけ、1歳児保育室にあるテンションを上げて手を乗った大たちと遊びたりすると怪我に繋がる事を周知しておく	
3542	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	2歳児	6	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	2歳	女児	無し	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	未実施	実施頻度( )回/年	基準以上配置	職員配置は基準以上であったが、保護者が対応をしていたり、子どもも慣れてきたのあった。	送迎時間帯である事を考えて、活動内容に慮した動内容にする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		跳び箱自不備はなかった、年齢・状況にあった環境設定にする。	集団活動中・見守りあり	幼児向けに体育用具が設置されており、本児にとっては跳び箱が高かった。	年齢にあった環境設定をする。	いつも活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)跳び箱から飛び降りる活動を10程度行っていて、本児の中で余裕が出できたため、興奮気味になっていた。	対象児離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)跳び箱の横の平均台を昇るコーナーを設置しており、平均台の上で他児が行っていた、梯子と跳び箱の間に立ち、対象児を目で見つつ、他の遊具にいる子どもの援助をして	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)もう一つの跳び箱の間立ち、本児を目で見つつ、もう一つの跳び箱にいる子どもの援助をしていた。	—	集中子ども危険が伴うことを知らせる。	
3543	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	13	0名	0名	0名	2名	5名	6名	名	3名	3名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右拇趾中足骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	基準以上配置	子どもへの伝え方(促し方)に問題があった。すっかりはなかったが、声掛けが結果的に子どもを怖がらせることになってしまった。	子どもに伝えると伝えきれない子どもに切なければ、丁寧に子ども一人一人に関わる。	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		—	その他	子どもを移動させる際の声掛けがよくなかったしまい、子どもが怖がってしまい、焦ってしまい、急いで動こうとした子どもが転倒した転倒可能性がある。	いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育士に「ジェイソンキャラ(怖いキャラ)」が来るから早く行こう」と促され、怖くなりてしまった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児の手を引き前を歩きと見て出ところで、対象児の動きが見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)延長保育なども保育園を移動させていたため、対象児見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもを移動させる際掛けのようにしてしまい、子どもを怖がらせてしまった。	子どもに伝えるときには適切な心掛けを。丁寧に子どもに関わる。	
3544	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	42	0名	0名	0名	0名	20名	22名	0名	4名	4名	5歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	顎裂傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	基準以上配置	特になし	視診の際、顔色、朝食の有無も含め診る。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	床に損傷等ないか、定期的に見る。	集団活動中・見守りあり	特になし	気分が悪くなったら、すぐくくらに声をかけるように子ども達にも伝える。	いつもおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	対象児至近で対象児を見ていた	対象児にいた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人は保育士ピアノを弾いていた。他3人は子ども達の周りで一緒に見守りながら、歌っていた。	特になし	保育士は子どもの様子をしっかりと見てお、異変が生じた場合すぐに声をかけ対処する。	
3545	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	不明	不明	不明	—	名	名	名	名	名	名	名	名	名	2歳	女児	—	不明	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右足小指骨折	その他	あり	未実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	遊戯室内での活動の際には保育士の数が十分だったという過信があったのではないか、クラス内では一人一人への観察が不十分だったと思われる。	事故について話し合いを重ね分析を行い、室内の点検の見直しや改善を行い、それについて職員間で共通の認識をもつよう周知徹底する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	室内の安全に対する認識不足があったのではないかと思われる。	子どもの動きなど室内から見直安全努力の配置をし、安全確保に努める。	その他	2名の保育士が、どの子どもに目を向けようかと考えながら共に保育にあたるように位置を考え保育にあたる。	子どもの気持ちに配慮し、子どもの様子を観察し異変に早く気づく努力をする。一斉活動は、保育士が互いに連携を図り、安全管理に努める。	いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)5歳児の運動リズム部屋での運動時に、自分は、自分で動こうとしない瞬間もあったが、保育士に促されたら嫌がらずに動き、最後まで参加した。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児が何を足をつまずいたり、友だちとぶつかったり、転んだり、泣いたりする場面が一度もなかったので、異変づいたのは、足に気付いた母親の迎えの場面であった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊戯室内での活動においては、各クラスごとの活動を中なっているに細かい観察ができていたのではないかと思われる。	登園時の視診・触診が不十分だったのではないかと考えられる。いつも変わないという思いあったのではないかと考えられる。	トラブルなく過ごせていても午睡後など、一人の全ひとり身の様子を確認することで、異変にいち早く気づけるよう保育士同士が声を掛け合うなどしていく。	
3546	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	午前中	施設内(室外・園庭等)	4歳児	2	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	切創及び骨のめくれ	その他	なし	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	子どもの遊具の使い方のルールはあっても、保育士のルールが曖昧。	保育士遊具点検マニュアルの作成。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	畳み折り式鉄棒を戸さしの外(ひのテラス)で管理したため錆が生じて、簡単に開閉しにくくなっていた。	保育士が安全の確認を徹底。鉄棒の買い替え。折り式を畳みを購入する場合は、畳むことはせずに保管する。	集団活動中・見守りあり	備え付けの鉄棒が畳みの付けが必要となる。	付けでないため、折り片畳みの必要となる。	折り畳むことをしない。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)次のびを考えていかなかった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)鉄棒から移動して、他の遊具に行った子どもたちの動きを見ていたため。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他で遊具で遊んでいる子を見ていたため。	鉄棒から他のそびに移動した子どもたちの見守りに意識がいき、身近なところへの意識が薄	遊具の片付時付けをする時りの確認をしてから、子どもの見守りが必要な時には片付けをしない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面								ハード面									環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修																											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3547	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午後	施設内(室内)	5歳以上児	17	名	名	名	名	名	名	名		2	1	5歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	昼食後、食器の片付け、歯磨き、歯ブラシを取りに行くなど、子どもが転々と動いていた	食器の片付け→歯磨き→片付け→歯ブラシを取りに行く→子どもが動いていた	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	一人一人が異なった行動をするので、動線が交錯する可能性があった	食器の片付け→歯磨き→片付け→歯ブラシを取りに行く→子どもが動いていた	その他	主担任は保護者とその子どもを曜日毎に担任は雑巾を洗い、全体を見ていなかった	主担任は廊下で読み聞かせをしながら子どもを集め、副担任は子ども安全に誘導する掃除は全体の開始より、子どもが落ちて着いてから行う保護者の迎えを13：00とする	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)絵本棚に絵本をとりに行こうとしていた	児童の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)降園児の対応をしていて対象児を見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)食事後、洗面台で雑巾を洗っていた	主担任が対応の保護者を出ることを担任に伝えなかった	わずかな時間でも、保育室を出るときには声かけをしてから保護者と子どもの対応は、保育室内で行う	
3548	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	午前中	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	21	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	遊具等からの転落・落下	なし	未実施	実施頻度()回/年	基準配置	—	事故防止マニュアルの作成を検討する。	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		跳び箱は現状の物を使用するが、子どもの発達の状況に応じて、個々の跳べる高さに調整し、事故防止に努める。	集団活動中・見守りあり	—	今回の怪我を持っての運動会で跳び箱を無くすことは考えていない。	いつもどおりであった	(具体的内容記載欄)いつもの運動会の同じクラスの子ども達が跳び箱の練習をしていたが、横でいつも通り跳んだ子の補助に入った。	児童の動きを見ていない	(具体的内容記載欄)跳び箱の横でいつも通り跳んだ子の補助に入った。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)自分の担当の場で教えていた。	—	これからは補助上手く補助が出来るように体育の研修等を取り入れていく。	
3549	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳以上児	25	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	6歳	男児	—	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左けい骨、左尺骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	いつもの流れで活動し、お前士はいつもの子どもがお育ちそれぞれ保育士に遊ぶ声かけたが、ついて並ぶ子ども達が鉄棒に近くで遊ぼうとするものであった。	「いつもしている活動=したい当たり前の活動」と見なし過ぎず、再確認し、次の活動へのかけなども徹底し、子どもに伝えていく。	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	体操教室は別棟のクラブ室で実施する。体操教室へ戻る園児は学童を通るため、その際、鉄棒が近くにあり、遊びたくなる。	関係学年クラブ室で実施する。今一度、体操教室の注意を子どもに話し、広く保護者に周知する。	集団活動中・見守りあり	体操教室後、担任の声かけは放置あり、解放感もあり、並んでいる子どもは、鉄棒に並ばずに鉄棒をよろこぶ子どもも数名いた。	いつもしている活動（並だ）が、わかっていても行かないという意識もと、細心の注意をもとに、子どもと約束しっかり確認していく	いつもより発動活動のあった	(具体的内容記載欄)体操教室後、園庭に並ぼうとしていたが、近くに鉄棒があるから、ぶら下がりしようとしていた。	児童の動きを見ていない	(具体的内容記載欄)そばにいた全体で子どもたちに並ぶようにしていた。対象児含めて何子どもが鉄棒をしようとしていたので、その場から注意を促したが、対象児が落	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)先に保育室に戻り、給食の準備をしていたため、見ていなかった。	年長児で、いつもしている活動（並んで待つ）の流れで、並ぶ当番前という認識があった。	普段から、生活の中で約束ごとをしっかり確認していくことを当たり前として前と前という認識を持たせ、子ども細心の注意を払っていく。	
3550	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	31	名	名	名	12名	名	19名	名		2名	2名	6歳	女児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右肘関節骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	時間帯が、16：00～16：30であったため、職員の移動時のあったことのことから子ども子どもが午睡しおやつを食べを後もすでいつであれば、活動的になるが、時間では当日は明けあるが、休み久しぶりに登園し、気持ちと身体の調子がの取れにくい状態にあったと思われる。	子どもたちの状況や様子に関して、伝達を密にすべきであった。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床面の滑りなどが特にかった。	特になし	個人活動中・見守りあり	一人で判断せず、主任や園長に相談し、指示を仰ぐ。主任や連絡帳で対応した。	事故発生時のマニュアルを再考し、全職員に察知させ徹底する	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	児童から離れたところで対象児を見ていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児担任がたまたま、保育室で片付けをしていて、3歳児担任に頼んでいた。	1月に入ったため、5歳児だけで行動できることも増きたと、担任以外でクラスを他に預けて、活動できる（ていた）ため、縦割り保育ども通常おこなっていない、油断可能性	ドッチボールのような活動が激しい場合は、保育者が複数いて、子どもの安全を確認することが重要であり、再認識すべきである。	
3551	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設内(室内)	5歳以上児	12	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	6歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	ヒヤリハット事故記録基に園内研修を行ってきた。5歳児12名に対し保育士1名の配置は問題はなかったが、担任が、年度末の新年度の事務処理新任に保育士に任せていた。	今回の事故に関しての事故記録簿の作成に、事故概要を職員全体で共有し、事故危機管理を意識していく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ホール（遊戯室）には、巧技台やオーディオセット置ある。直接的な原因は特にない。	今回の事故に関して、設備等に直接的な関係はなかったと考える。今後、今回の事故を繋いだ点を検証していく。	集団活動中・見守りあり	本児がボールを避けようとして転倒で、その転倒の仕方が故に、とっさの身のこなしが出来ずに転倒してしまったことから、常日頃やって運動遊びであったが、子供たちの運動能力を意識した提供が十分ではなく、運動能力の低下も考えられる。とっさの事故で	敏捷性、柔軟性、バランス感覚等を養い、怪我を回避できる体作りを意識した様々な運動遊びバランス良くの運動バランス日々の保育に取り入れていくようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもと変わらず、集団遊びに参加し、楽しんでいた。	児童の動きを見ていない	(具体的内容記載欄)集団遊び（転がしドッチボール）審判として、保育士も遊びに参加して、見ていて、本人守ったが、児のとっさの身のこの手伸なし転倒にばしを差しられなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)各クラスの単位での活動の時間帯で、それぞれ保育室で保育を行っていた。	担任でいない職員、特は保育士であり、まだ経験浅い保育士に保育を任せるにあたっては、保育者の助言が必要であると考える。	担任でない職員、特に新任保育士は、保育者を任せる場合には、遊びの内容を検討していくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3552	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	44名	5名	5名	7名	9名	13名	名			9名	9名	4歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯脱臼(乳歯)	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	バランス平均台の遊びに十分なれていなかったことや、周りの様子にとられていた気をとられていたことが予想される。	バランス平均台の遊び方や注意事項の徹底と、自由遊び時の見守りの強化	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		なし	集団活動中・見守りあり	バランス平均台で転倒事故はほとんど見受けられないが、ほかの気をとられがちであること。	バランス平均台で遊んでいる子供がいるときは事前に十分注意を促し見守る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもどおりく楽しく安全に遊んだ。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児から目をはずしていた。他の保育士が見守っていたため対応できた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体の様子を常に見守っている。	担当保育士が全ての子供たちの安全確保が十分できていない可能性もある。	担当保育士全ての安全を確保できるための遊びの種類を配慮することも必要	
3553	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	—	4	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	5歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	自らの転倒・衝突による	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	マニュアルの読み合わせの回数を増やす。定期的に公園の危険個所について共有をする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	定期的に実施	実施頻度(都度)回/年		公園内の遊具だけでなく、コンショウ(滑る凹凸など)も確認が必要。	集団活動中・見守りあり	—	整備されている公園であるために滑りやすく砂で滑りやすくなっている。子どもたちが遊ぶ前に砂をはらってきれいにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)スプリング遊具へ遊びに行って良いかを尋ねたのち、走って遊具へおうと向かおうとした際に転倒する。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)山型の遊具に子ども2名ともにいた。そこに対象児と他2名にスプリング遊具で遊んでもよいかと尋ねられ許可をする。その直後に走り出した転倒した事故発生を目	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児が遊んでいたローラー滑り台に、クジラ型の台に2名つき遊びを見守っていた。	—	日常的にも比較的転びやすい児である。足元や周りを見て遊ぶように声を掛ける。危険箇所を子どもにも伝え意識を高める。	
3554	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	68	2名	9名	14名	17名	10名	16名	名		8名	3名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯牙亜脱臼	子ども同士の衝突による	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	子どもの人数が特に増える異年齢保育の時間ではあったが、子どもの動きを予測することの甘さがあった。	異年齢保育時間のリスクを改めて職員間で確認する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもの多様な遊(体育マット)を片付けていなかった。	子どもの状況に合った玩具や遊具の設定をする。	個人活動中・見守りあり	本児の普段の特性としては、穏やかだがおとなしくそうだとなっていることは、参加しにくいにはしまう。	担当では職員も本児の行動の予測ができるように、職員間で子どもの様子や気づいたことを情報共有していく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)仲良くなったお友だちがいるマットとびはねているのを見て、一緒にやりたくなった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保護者からの電話をしているときは、怪我をしないように、目を離していた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)一人は、本児のそばにずっと見守っていた。怪我をする前に離れていい、一人はテーブルで遊んでいるもたちについて保育し	担当クラスの子どもではないことあり、本児の行動の特徴を予測できなかった。	受け入れや電話対応をしていても、子どもたちに背を向けず、怪我のないよう、安全に気を付けて見守る。	
3555	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	14名	1名	5名	1名	2名	3名	2名	名		3名	2名	5歳	女児	特になし	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左中手骨打撲傷左第5指基節骨骨折 左手関節捻挫	自らの転倒・衝突による	あり	定期的に実施	実施頻度(15)回/年	基準配置	登園時の保護者と子どもの動向について、危機意識が足りなかったときのものなどいて、危機意識が足りなかった。	けがの状況や対応について、正職、臨時職、職員で周知を行う。ヒヤリハットを活用し、危機管理に対する情報共有を行う。	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	本棚が倒れたり、既存のものに危険なものがあるかもしれないところは注意。	廊下や廊下周辺に危険なものがないか、既存のものの含め確認する。子どもたちが慌てたり、廊下を走ったりしないように話をする。子どもたちが廊下を走ったりしないように話をする。負傷本棚(下部)とところにセーフを手を付ける。	その他	保護者と一緒に行動元に気をつけるようにあせった。	本児はすぐ転びやすいところがあるので、慌てずに行動するように話をする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保護者と登園するが、本児が玄関先でダンゴムシをみつけ、外にいくと言って、保護者がいくもの、2階の1組の部屋に準備に行き、後から迫いかけていくような状況になる。	対象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児を受け入れる前の出来事。早番の職員2人で、1階1歳児のB組の部屋で登園してきている園児の対応をしており、状況を把握できなかった。	—	(具体的内容記載欄)	保護者と一緒ということで安心しているところがあった。	保護者と一緒ではあるが、保育士の目が行き届かない時間帯でもある。十分親子の行動には気をつけながら、声をかけるようにしていきたい。	
3556	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	2歳児	12	名	名	名	名	名	名	名		3名	1名	2歳	女児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	骨折	自らの転倒・衝突による	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	なし	マニュアルがあることを職員に周知し、いつでも見られるようにしておく。臨時職員に定期的に安全な保育や子どもへの関わりについて話をする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年 (3)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	安全点検の時では施設設備についてかを常に意識するように。	集団活動中・見守りあり	—	子どもの様子を見て、活動に合わない動きをしている子に対応するようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)室内でジャンプ遊びをしんでいた。	対象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)少し離れたところで対象児がジャンプをしている姿を見て「座ると」と声をかけていたが、転んだ瞬間は見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)少し離れたところで全体の様子で前で紙芝居を読んでいたが、本児がジャンプをして転んだ姿を見ていた。	—	全体で静かに過ごすときは、跳んだりする子に声を掛けたり側にいたり、落ち着いて過ごせるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3557	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	午睡中	施設内(室内)	異年齢構成	20	名	名	名	7名	7名	6名	名	2名	2名	4歳	男児	・現在も通院、白い粉薬のニコランジルを毎食後服用中。(園では昼食後服用) ・園での注意点…(保護者からの依頼として) 通常の生活で良い。 運動制限なしだが 大きな衝撃などは避けたい。(出血した場合止まり難いこともある。)	睡眠中(うつぶせ寝以外)	負傷	—	意識不明		熱性けいれん	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	園児については、「健康の記録」を管理し、既往症の確認を行う。本児の「健康の記録」には「完全大血管転位症1型 (0歳)」の記載があったが、熱性けいれんについては記載なし。(今回が初発)	・園内での救命救急研修を行う。(全職員対象。実施頻度は検討中) ・熱性けいれんを既往症とする児等については、午睡前に検温の高め場合は脈拍も確認。午睡中は30分おきに検温・呼吸・発汗・顔色・脈拍確認を行い、午睡チェック表の備考欄に記入する。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年		特になし	睡眠(午睡)中	—	持病のある子ども、風邪気味などの体調不良の子どもは保育者のそばで寝る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 朝、母親は早番職員にいつもと変わりなしと伝える。登園時の検温(37.0度) 散歩…トイレ・水分補給後9:50出発→徒歩10分余りの公園に行く。11:00帰園。汗をかいていた。うがい手洗い後水分補給。11:20頃給食開始 (完食)、トイレにて普通便。12:30午	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) PCで資料作成をした。午睡チェック・13時の次のチェック(13:40)により気が付いた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 13:40頃異変に気付く(よだれ、反応なし)一呼びかけ→13:43救急車要請	当日は本児の寝ている場所が職員のそばだった発見が早かった為、直ぐに対応出来た。	保護者からの情報収集の徹底(登園前日の夜、当日朝の様子など些細な事でも知らせて頂く)登園時の体調確認。午睡チェック時間の徹底(検温)。持病のある子ども・風邪気味など体調不良の育子どもは保育士の側に寝かせる。	
3558	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	15	1名	2名	4名	2名	5名	1名	0名	5名	3名	3歳	男児	—	登園・降園中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹・臀部)	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	基準配置	保護者の迎え後におこに、職員と保護者が本児から目をはずしてしまった。	事件・事故等発生状況報告書をもとに園内を研修をおこない、職員の安全への意識を高める。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	総合遊具専用ローブ台の登り用付滑りは、3歳児には適切な遊具ではなかった。	夕刻時は、園庭または園庭遊びは園児の使用を禁止する。	集団活動中・見守りあり	お迎えの保護者に引き渡した後も園庭で遊ぶ子どもがいた場合は、保護者に側に居させて、園を出る門までに安全に過ごすようにお願いをする。	お迎えの保護者に引き渡した子どもを安心して遊ぶ様子を見ていた。	いつもどおりの様子であった	母親が迎えに来たので、安心して園に出て しまった。	対象児の動きを見ていた	保育にあたっての夕刻保育の職員にいったが、母親と話をした担当者は、本児の動きから目を離していた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕刻時(お迎え時)遊具の使用は禁止していたが、きちんと保護者に周知されておらず、徹底されていなかった	夕刻時(お迎え時)は、園庭で遊んだり、園庭遊具を使用しない様に保護者にお願いし、徹底していく。	
3559	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	午後	施設内(室内)	異年齢構成	25	名	名	名	9名	8名	8名	名	3名	3名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折(右手小指付け根)	自らの転倒・衝突よるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	基準以上配置	普段の保育の様子から事故につながる場所ではないと思った。	危険ではないと決めつけず、あら予測を立てゆる予測がつつ職員がくようにする。	未実施	実施頻度(1)回/年	未実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	パーテーションなどなかった。新しく設置された設備は、子どもたち自身で危険を予測することはできなかった。	子どもたちの声配りや配慮など、より細かな注意を行う。	集団活動中・見守りあり	気持ちが先走りし、足がもつれて転倒してしまった。	子どもたちの動線を広くする。 パーテーションの下部角は念のためコーナーショをつける。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 給食後の流れは、普段と変わらなかった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 食事後の片づけ、排泄、本児と同じようにいつもどおりの行動をした。水道・トイレに各名ずつ当職員が1担当、片づけをしながら対象児も含めその児の周りも見てい	(具体的内容記載欄) 担当者以外の職員も同じペースにおり、子どもたちのつながら、対象児の動きを見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故に至るまでの対象児の様子は見ていたが、突然走り出そうとし転倒。予測できなかった。	転倒する姿勢がよく見られるので、職員配置を工夫し児の行動の把握と声掛けなどを意識して行っていく。	
3560	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	3歳児	9	名	名	名	名	名	名	名	1	1	3歳	男児	—	その他	負傷	—	骨折	顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	自らの転倒・衝突よるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準配置	—	遊戯室・園庭開放時も職員を配置する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(13)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今までの点検して、遊びの面で加遊動線点検する。	その他	—	園庭開放時も職員が子ども保護者への声掛けや危険かのの見守りをする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 特に悪い様子や具合の様子や疲れた様子は見られなかった。	対象児を見ていなかった	(具体的内容記載欄) 本児は降所後だったので、担任はクラス子で他の対ども応をしていた。玄関は所長が降所の挨拶や玄関外への飛び出しがないかを見守る	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 各クラス対応していた。 スのものを	—	遊戯室・園庭開放時も配置された職員が注意を払い、必要に応じて声掛けする。	
3561	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	—	22	名	名	名	名	名	名	名	5名	5名	3歳	男児	—	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右中指末節骨開放骨折・右中指示指末節骨骨折・右中指爪脱臼	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(5)回/年	基準以上配置	・危険箇所等の甘さの把握があった。	・職員一人一人が危機管理意識を高め、ヒヤハットを分析、課題把握と改善を行い全職員で共有する。	未実施	実施頻度()回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	・避難車の状況の把握ができていない。	・避難車の状況の把握 ・避難車安全点検簿作成	その他	・園外保育の検討	・園外保育は徒歩で出掛けることを基本とする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) ・児を含む6名を避難車に乗せていたため、近くで見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 名の職員は避難車を押していたため、見ていない。1名は全体を見ていた。	・避難車の安全点検をしていない。 ・避難車は安全であろうという思い込みを	・職員一人一人が危機管理意識を高めもち、根拠のない思い込みはしない。 ・複数の職員でロックを確認をする。	
3562	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	午前中	施設内(室外・園庭等)	3歳児	18	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折		右鎖骨骨折	子どもの同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	マニュアルを再度周知するとともに、今回の事故の検証を職員全員で行い再発防止に努める	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎月の自己点検をしっかりと行い報告する	集団活動中・見守りあり	—	—	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 早く部屋に入ろうと走っていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	—	(具体的内容記載欄) クラス保育中	ボールを片付けようと少し目を離してしまった	こども達から目を離さず、必要であれば無理せずに応援を呼ぶ保育士間の協力体制の確認。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面								環境面				人的面					
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者											事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名				事故予防研修 実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
3563	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	103	8名	19名	20名	20名	20名	16名	0名		25名	24名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	親が作ってくれたお弁当を食べる遊び具等に囲まれラス園も群れも加味し太児は少し興奮気味であったのでは。	一斉に同じ遊具を使用し、危険性の高い箇所に職員を配置をして行く。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	本児にとって少度易度かっと思われる。	ヒヤリハット箇所を再度確認し、保育士同士、共通理解を掛け合い連携していく。	集団活動中・見守りあり	ピクニックということで、本園児を含め園児たちが高揚状態であった中も多動な園児に目を配り杭張りが中した	遊具の使用方法を決め時間を決めて順番の交代	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄) ピクニックという事でお弁当をお持参しみんなで楽しみ出かけた。沢山の固定遊具や大人数も交ってテンションも上がって多動気味	対象児から離れたところで対象児を見ていた	内容記載欄) 保育園から柏の葉公園までの薬公園距離車通多りあり園児の箇所に園児と並列し導して歩行して誘てた。公園にも、元気な園児は、より一層興奮状態になるため、気になる園児人数に気を取られていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 水分補給、トイレと担当動を行動した。	広場にて保育各所で守った本児が遊ぶ様子見ていたが、本児が遊んでいた遊具のそばにはいなかった。	3歳児が使用する遊具を絞ることで、全体的に目がいきとなり、再び事故が起きないよう危機管理を徹底する。	
3564	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	32	名	名	名	11名	13名	8名	名		3名	1名	5歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	手指骨折	その他	なし	未実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	延長保育開始時は当職員担の交代や降園する児童ないでもやや慌ただしい様子がある。	交代時、子どもの状態をしっかり把握、確認しあい遊びに入ようれる対応する。	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	積み木を重ねて遊ぶ際、重ね方等を具体的に視覚で確認よしてできるようにいなかった。	積み木の遊び方、遊び片づけ方ついてテーで高さ、で高さを示し分の胸自まで目ようにに具体的にの危険いてもつどもと子ちと再確認した。	その他	ケガの危険性のものは十分ある他に応じての職員に声をかけるとする。	個々に好きな遊びコーナーで自由に遊んでいた。積み木コーナーは比較的危険もあり、職員が近距離にいたが、隣のコーナーのトラブル対応して目を離し、事前に危険察知ができなかった	いつもおりどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 普段と変わらず、自由に積み木遊んでいた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 遊びはじめは至近距離にいたが、隣のコーナーにて対応していた。目をいめ、目離した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 各コーナーでそれぞれ対応を行った。	場離れる場合、声を掛け対応をしなかった。	その場から離れる場合、声を掛け合いする。危険を回避する対応をする。	場離れる場合、声を掛け対応をする。	
3565	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	33	名	6名	3名	5名	7名	12名	名		6名	4名	5歳	男児	家庭では外で活発に遊ぶのでなく父がしているゲームを見ていることが多い。保育園でもブロック遊びが多く運動は苦手な方。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	遊具取り付け後に遊び方の確認をしただけであった。	遊ぶ前に、職員だけでなく子どもたちに遊具の遊び方を確認をする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の下が固かった。	砂をまきクッションを作る。	集団活動中・見守りあり	12人に担任が1人つき目が届いているが、子どもたちが行き自分たちも自分に行動すること切さを伝えていなかった。	保育士が一方的に話すのではなく子どもたちと一緒に考えていく。	いつもおりどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) いつも通り挨拶をしたり、大好きなゴジラの話をした。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 鉄棒は危険も伴うため担任が傍で声かけをかけをり見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 他の園児を見ていたため	他の園児を取られ児が目を離してまった。	固定遊具で遊んでいる時は目を離さない。	
3566	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	午前中	施設内(室外・園庭等)	4歳児	13	名	名	名	名	13名	名	名		1名	1名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折	自らの転倒・衝突にもよるの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	本児がテラスを走っていることに気づいたがり物つかに足つかり転倒することは予測できなかった。	追いかけをする際、テラス上がらないことをあらかじめ約束する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	早朝夕方保育に使用する荷物が固定されていなかった。	荷物つりを固定し転倒を防止する。	集団活動中・見守りあり	友達とかかわって活動中に鬼ごっこなどむようになってきた。	予想される危険はあらかじめ回避できるように職員配置に配慮する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 友達数人と鬼ごっこをしていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 別の子ども数人と鬼ごっこをしていた姿を確認した。確認が他の職員がすぐ対応して	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) テラスで走ってる危険性声かけをしたり走ってるを感じ声をかけようとき転倒してしまった。	—	友達とかかわって遊びたい気持ちを大切にしながらも危険を予測し配慮する。	
3567	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	73	名	名	名	23名	23名	27名	名		6名	6名	3歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	自らの転倒・衝突にもよるの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	子どもの遊びに対応する予測が十分ではなかった	活動に対する安全確認を職員間で行う	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	年少児が遊戯室で走ってしまい、全員が安全な保育を心がけていて、・走っている以外の子どもたちが順番待ちルールを徹底する（座って応援する）・3歳児クラスの遊技室でのマナーは中止する	遊戯室で安全な保育を心がけて、・走っている以外の子どもたちが順番待ちルールを徹底する（座って応援する）・3歳児クラスの遊技室でのマナーは中止する	集団活動中・見守りあり	年少児は走ってしまうなど安全に対する認識が甘かった	集団活動の安全確認、危険予測を十分に行う	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 体操を動かし、音楽が流れるようにいつもの走り出した	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 歩きがちな子どもを繋ぎ、一緒に走りながら全体を見ていた	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) クラスの子どもが応援できるように声かけを座ようにかけながら、遊戯室全体の様子を見守っていた	遊戯室を走るという活動に対する危険予測が分でなかった	遊戯室で集団で運動あそびをする際は、動きに適した空間を整え、他クラスと合同で遊戯室を使う時の立ち位置、注意点を確認しておく。また、ヒヤリハット報告時には、事故防止マニュアルも全職員に回覧し、職員の安全への意識を高めていくようにする。	
3568	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	4歳児	25	名	名	名	名	名	名	名		2名	1名	4歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左下肢脛骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	特になし	毎年度初日ラスにマニュアルを配布しているが、職員会議などに職員周知で再度し、確実に把握するようにする。	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	特になし（当該遊具は修理希望等お出ておらず、整備不良はない見られない）	個人活動中子どものみ	遊具固定で遊ぶ際の約束事（遊具の上で走ったり、押さない等）が正しく伝わっていなかった。	園庭での活動を開始する前に約束事を再度確認する。また、朝入れの受け入れ時には使用する遊具を固定し、必ず見守る保育士がつくようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 朝の受け入れ時、家庭から園への連絡は特になかった。受け入れ後も普段と変わった様子は見られなかった。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 朝の受け入れで保護者に対応しており、園庭で遊んでいる園児を見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 他の保育士も朝の受け入れで保護者に対応し、園庭に残った職員は見ていなかった。	登園のピークの時間帯であり、子どもも園児ども園庭に出発していた。	職員の配置を話し合い、受け入れる場所の固定変更・遊ぶ場所の固定することで職員が確実に見守る体制を作る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3569	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	3歳児	16	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	3歳	男児	日常生活において、若干多動傾向が見受けられる。	屋外活動中	負傷	—	骨折	頭部	頭蓋骨骨折、脳振とう	遊具等からの転落・落下	あり	未実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	事故防止に関しは、危機管理マニュアルを整備しているが、内容に関し全職員が熟知していないところも見受けられた。	結果的にはマニュアルに即対応を行ったものの、職員会議等の場において、事故発生後の対応に関するマニュアルの記載事項について改めて周知徹底を図る。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	対象年齢が適正ではない遊具を使用していた。	設置遊具推奨年齢を確認し、必要に応じて遊具の使用制限などのルールを行う。早期に遊具の撤去・更新を行う。	集団活動中・見守りあり	事故防止に関しは、危機管理マニュアルを整備しているが、内容に関し全職員が熟知していないところも見受けられた。	保育士が児童の特徴や理解切り個々の多様性を尊重し、安全に過ごせるよう保育士間での情報共有を徹底する。	いつもどおりの様子であった	園庭の遊び道具は通常通り子同士でジャングルジムを使用した。	対象児が離れたところで対象児を見ていた	園庭には十分な数の保育士がいたが、当該児童1人に対して対応する状況に無く、落下を防止や距離を保育士がついていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童の個別の担当職員はいなかったため、園庭全体に対し注意を払っていたが、落下を防止や距離を保育士できる距離にはいなかった。	事故が発生した園庭には、3名の保育士が配置されていたが、当該児童の落下を防止できなかった。	十分な保育士が配置されていたことで、逆に油断が生じる事故やケースを想定し、先回りして事故を防げるような意識改革が必要である。	
3570	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	4	0名	0名	0名	2名	0名	2名	0名		2名	2名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右鎖骨打撲・右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	未実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	AEDや乳幼児の対応の研修を受けたり、事故対応のマニュアルを作成、掲示しているが、今後はヒヤリハットをこまめに職員で情報共有し、事故防止につなげていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今後とも定期的に遊具の点検を行い、日頃から安全面に留意していく。	集団活動中・見守りあり	—	延長保育時間の保育については、子どもの動きに、より注意を払っていく。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) いつも元気で活発な子どもである。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 転ぶ瞬間、手	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 他の子どもの援助をしていた為、見ていな	—	子どもの動きを常に把握するだけでなく、次の動き、危険を予測していく。	
3571	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	70名	2名	8名	14名	13名	17名	16名	名		13名	12名	3歳	女児	—	室内活動中		—	骨折	頭部	頭蓋骨骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	マニュアル記載ルの内容が不十分	マニュアルの見直し	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	本件は親子遊戯中であり、ハード面の原因は考えにくい。	上記理由により、ハード面での予防は困難。	その他	—	—	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 特段異常は認めれず	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 本児、保護者の立場で遊戯に面で遊戯にあたっ	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 他の児童、保護者にあたっていた	—	遊戯指導の際に、児童が不意に動く可能性を伝える。	
3572	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	2歳児	16	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	3歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	「上腕骨顆上骨折」	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	夕刻の自由保育時の人員配置の再確認、保育補助として園長、副園長の園長への見守り体制の再徹底。状況に応じた職員のフォロー体制の充実を行きたい。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	アスレチック遊具の台の側面にある落下防止用の手すりの高さが不十分であった。	遊具業者と協議を行い、落下防止用の手すりの安全対策実施いきたい。又、地面材等に緩衝設置も含め、検討い、出来る限り速やかに対策として実施いきたい。	集団活動中・見守りあり	—	—	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児至近で対象見ていた	職員は1台滑り台の横に居たが、滑り台の下に居たが対応していた為、滑り台の上に居る子どもから目が離れていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 担任以外の保育士は、1名はその日の担当で保育掃除もその日の担当で保育掃除室をしていた。保育掃除室をしていた。現場には、現状について気がついていたが、声が届かず事故に繋	事故現場で保育士の目数が不足が有った。その時の保育士の時に、保育士が何をすべきかの意識に欠けていた。	複数職員で、声を掛け合いながら、自由保育時間の子ども達の見守りを徹底し、保育士一人今やらなければならない事ならへの判断力の向上に、保育士一人ならへの向上に、自由帯保育士の保育時間の増員も検討して参ります。	
3573	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	午前中	施設内(室内)	1歳児	12	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	1歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	眉間切り傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	研修や会情報を活用でいない。	事故防止に対する職員の資質向上を目指す。	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	絨毯がめくれ上がっていた。又、テーブルが通路側にあった。	絨毯を直し、テーブルを奥の方に置くようにした。	集団活動中・見守りあり	子どもの動きを予測で急な行動を予測でき、転倒をしられなかった。	絨毯を直し、テーブルの傍に保育士が付く。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 排泄後、ままごとコーナーに向かって走って	対象児至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄) 対象児の見守り後を追っていたが、間に合わな	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	(具体的内容記載欄) 全体を把握したら、排泄の介助をしてい	子ども行動対子の対子測が足りていた。	全体を見て、子ども子の行動を予測し、危険声を出し合っていく。	
3574	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	午後	施設内(室内)	3歳児	23	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	3歳	男児	完治済み	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	—	複数担任での保育士の立ち位置、子どもに背を向けないように心がけ。早急に事故予防マニュアルを整備する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年		移動しての使用物については使用時の収納の仕方を確認・統一する	集団活動中・見守りあり	—	日々保育の中で危険性を子どもたちに伝える	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 普段から突発的に行動される子どもに目をかける必要の子	対象児の動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄) 着替え、片付け、排泄の介助、援助があった担当保育士2人がいたが、目が届いていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 子どもの動きが全体を把握できるよう環境を整え	子ども行動が予測足りない	事故の要因を分析し、職員の位置確認と職員同士が背中あわせにならないよう業務の見直しを行う	
3575	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	午前中	施設内(室内)	3歳児	21	名	名	名	21名	名	名	名		3名	3名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	保育者の子を付き歩き後ろを歩いて注意をしていよう、当児童にしていなかった。	今後も保育所保育指針に基づき、保育者と子どもの安全に、職員力の観察力、連携の強化、連携に努め、園内事故発生を未然に防ぎたい。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	引き戸の隙間が、子どもの指がちょうどすっぽりと入ってしまう隙間になった。	子どもが入りやすい、戸のそばに職員が子戸閉付きの開けを行わないようにする。	集団活動中・見守りあり	戸に背を向け、両手を広げ状態で戸を自ら開けた。	あらゆる予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるようにする。子どもが出入りする時は、戸が自ら戸の開閉を行わないようにする。	いつもより活発・動的であった	(具体的内容記載欄) 保育室に入ったと同時に戸を閉め、両手を広げ立ち、次に他児童に開けようと言われ、状態を自ら開けた。	対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄) 大ホールから保育室に戻る際、保育者を抜かし、保育者の前を歩いていたが、保育者の後ろを歩く声掛や制止は、見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 子ども達のほど、子どもの後ろを付いて誘導中ほどにいた職員が、担当子どもと先生と、翻職員は前を歩かないと大声で掛けすぎ声掛る。その後、室に入ってから、本児の痛がるところ、挟んだところを冷やす。	子ども保育抜してが者か進いた時、すぐ保の者後ろに注意をしなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配保育にあたるようにする。子どもが出入りする時は、戸付に職員が付き、子ども戸の行わないようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制																			ソフト面							ハード面							環境面			人的面										
			施設・事業所種別			発生場所			異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者																																							
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3576	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	21	名	名	名	8名	5名	8名	名	3名	3名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	あらゆる危険を予測し、事故発生によって心掛けておかなければならない。	今後も保育指針に基づき、保育を行うと同時に、職員の観察力強化、連携に努め、園内事故発生を未然に防ぎたい。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が固いので、転倒や落下を予測し、未然に防げるようにしなければならない。	施設、遊具等の点検、安全を確認し、常に危険を予測し事故を未然に防げるよう配慮すべきであった。	集団活動中・見守り	あり	積み木を重ねている時点で、本児の気をつけるようにと声掛けをすべきだった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら、また本児はシーネをあっていたもあり、職員同士で声掛け等連携した保育が必要であった。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)も元気で、友達と楽しく遊びまわっていた。途中からフォーミ(大型ソフト積み木)遊びに変わった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)抱っこしたりしながら見守ったが、音楽をかけようと時木に近づいたときに、バランスを崩してしまった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の児童のトイレ助けに赴いたため、その場を離れまってた。	骨折によるシーラとしてこで、本児のバランス感覚も低下しているか、故につながらないようにもっと気を	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながらも、事故につながらないよう本児の保育士との連携を強めて保育にあたすように。	
3577	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	20	0名	0名	0名	12名	8名	名	0名	2名	2名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	口唇部(右上の前歯打撲・前歯欠損のそれ・右下の唇裂傷)	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	3回/年	基準以上配置	特になし	特になし	不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	不定期に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	園庭中央に設置してあるエアーマットが雲梯ぎの下にはいるのを認識していたが、予測が出来なかった。	日々の点検を行い、事故につながる状況は無いか気づき、職員間で連携し、対応する。	集団活動中・見守り	雲梯のトにエアマットを置いたジャンプしいう欲求がつよかった。個々の運動性質を握と戦気持ち受け止めつつ意識と重要ろ	危機意識、子ども行動再測の予認識と底すること	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)競争心が強く、常に全速力で走り、他の園児を押しの動作がいつも見られる。その度に注意を行うが、何度でも同じ行為を繰り返した	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)体育館内の段差手前に立ち、危険誘導をしながら、本児の動きを追い、危険方向へ回避の誘導をしながら、本児や、走りをしている園児に声掛けを行った。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)当職員線と対角線の中前館の柱前に立ち、危険回避の誘導いながら、全体を見て、危険がないか確認し、園児に声掛けを行っていた。	園児の危険行為を見つけた時に注意動作のみを行い、他園児とぶつかることを避け、止めることはなかった。	園児の危険行為を見つけた時には園児の一度止まって落ち着かせる。その活動を中止し別の活動をすることも判断していく。	
3578	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設内(室内)	5歳以上児	17	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足指趾第二関節若木骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	特になし	特になし	不定期に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	体育館内で曲がるとして目印として、プラスチック製の三角コーン設置していた。	プラスチック製の三角コーンでもぶつけ方によっては骨折することを認識し、ぶつけるなく為、三角コーンの設置を廃止。目印はテープに変更。職員で統一する	集団活動中・見守り	特になし	特になし	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)競争心が強く、常に全速力で走り、他の園児を押しの動作がいつも見られる。その度に注意を行うが、何度でも同じ行為を繰り返した	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)体育館内の段差手前に立ち、危険誘導をしながら、本児の動きを追い、危険方向へ回避の誘導をしながら、本児や、走りをしている園児に声掛けを行った。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)当職員線と対角線の中前館の柱前に立ち、危険回避の誘導いながら、全体を見て、危険がないか確認し、園児に声掛けを行っていた。	園児の危険行為を見つけた時に注意動作のみを行い、他園児とぶつかることを避け、止めることはなかった。	園児の危険行為を見つけた時には園児の一度止まって落ち着かせる。その活動を中止し別の活動をすることも判断していく。	
3579	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	13	名	名	名	5名	6名	2名	名	2名	2名	3歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	他児から危害加えられたもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	安全マニュアルが浸透しておらず、みんなのものになっていない。	・定期的な事故防止におけるミーティングの実施。 ・事故防止におけるマニュアルの徹底	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	集団で遊使用する事故定いた	集団で遊使用することを念頭に遊具の点検をする	集団活動中・見守り	集団活動中で、細かいきが無かった。	職員が把握できる範囲であそべる環境を考える。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)何時も活発である。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児の処置をしていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児ごっこをしていた。	全体的子どもたちを役割や役割声掛けをしていなかった。	全体を見る役割と子入る区別の中に入る役割の区別をし、出来ない時は自分を他の職員に伝え、声を掛け合ってい	
3580	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	異年齢構成	1 3 8名	9名	2 2名	2 8名	3 0名	22名	2 7名	名	3 3名	2 5名	3歳	男児	特記なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	遊具の事故予防に関する意識が低く見甘かった	事故予防に関する意識を高めるため、研修にも積極的参加していく	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(6)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	一つの鉄棒に複数の子が集まっている事がある	鉄棒に対し、一人か二人の数でようか少人遊ぶにする	個人活動中・見守り	鉄棒での遊ばせ方	子どもたちへの遊び方の指導を行うとも共に、職員への指導、見守り強化とめるにつとも	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)鉄棒で遊んでいた	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の子ども対応おをしてお対象児の動きをみていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具について	年度始めということもあり、新入児への対応が必要で、遊具の守りが	新入児に対応するときは、見守りに抜けたりしないようにきて、もらえるように、応援を要請する	
3581	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午前中	施設内(室内)	3歳児	15	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	3歳	男児	特記事項なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	保育活動の中で保育士の立ち位置に危険予測が留意されていない点があった	事例をもとに危機管理マニュアルを見直し、定期的な研修計画を立て、危険に関する職員の共通認識を深め再発防止に努める	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(使用前)回/年	特記事項なし	施設・設備等には問題は無く、土と壁と空間の狭い事に保育士による位置の改善点と考える配慮をとして	集団活動中・見守り	遊びる事し時り中は周りに集中しているには環境に注意が欠かすものを想定した保育立ち配慮がなされていなかった	危険予測した保育士の立ち位置の再改善・事故の確認・事例に止めた園内発防に向け研修を行い危機管理マニュアル共通認識を深める	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)逃げる事中に集中していた時、保育士と壁と隙間を逃げ道として見つけ上げて勢い通まった	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊戯室の立ち壁側に立ち、クラス全体の活動を見守っていた。対象児は目視とは真逆の方向から保育士の背後へ走り込み	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体を見ていた。対象児の動きに注意していたが、急に保育士の背後に走りを掛けた際に合わず転倒した	逃げる隙間を見つけ子は通ろうとしたが、再認識危険想定を行う	子どもの動きを細かく危険を想定に繋がるような人的環境を作らないようにする	
3582	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	61	5名	8名	11名	10名	14名	13名	名	10名	9名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	—	マニュアルと事故防止の研修は、年度初めの全体職員会議や、採用時の説明で毎年確認し、職員全体に周知するようにしていたが、さらに丁寧に伝え、確認していく	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		遊具の点検等は、引き続き毎日、副所長・所長で行い、安全を確認していく。	集団活動中・見守り	—	3クラス合同であるときは、遊びの種類を分けて遊び方を決し、ごちゃまぜにならないように環境を整える。イスの使いは、縦に使わないように徹底する	いつもどおりの様子であった	4歳児が箱並べて、おうちごっこをしているところに入っていたとして、並べ箱上と入ろうと、並べていたイスがきに、バランスを崩してイスが倒れた転倒した。	対象児至近で対象児を見ていた	担任は、近くで遊んでいた3歳児の側にいた、突然の動きを予測することはできなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	4.5歳児付いていた職員も、全体を見回して保育をしていたが、突然の動きを予測することができなかった。	—	今後も、子ども人数配置以上に、その日の児童の様子に合わせた配置を配慮していく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
						発生時の体制																						ソフト面						ハード面								環境面				人的面						
								異年齢構成の場合の内訳																				マニュアルの有無	事故予防研修					施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成長援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因			実施頻度【回/年】	職員配置	要因・分析、特記事項	改善策		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】	要因・分析、特記事項	改善策											
3583	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	16	名	名	名	5名	名	11名	名	3名	2名	3歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右脛骨骨折	玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備なるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	(基準以上配置	子どもに対して保育士配置は十分対応できる人数だった。足元に気付かなかった。足元の玩具に注意を掛けはしていたが、及ばなかった。	子どもの特動きに注視するとともに、いつでも怪我が起こりうるという意識を対応していく。また、足元で落ちている玩具については子どもも注意を呼びかけ	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度(12)回以上/年	—	—	集団活動中・見守りあり	ブロックや滑り台は滑りやすく、踏んだ場合大な事故になる重大な意識が薄かった。	職員に対して、小さなブロックであっても、転倒やや骨折に繋がることがあることを周知徹底する。	いつもどおり様子であった	(具体的内容記載欄)一生懸命片付けをしていた	対象児の至近対象で見ていた	(具体的内容記載欄)傍につつ、声掛けをしながら子ども達と片付けを一緒に付けていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)離れた場所で子ども達と一緒に片付けをしていた	足元にあったブロックを踏んでそれが横滑りをしてそれ、骨折にまで繋がってしまうとは認識していなかった。	床に落ちている玩具(ブロック)も大きな事故に繋がりかねないという意識をもって保育していく。	
3584	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	午後	施設内(室内)	異年齢構成	182	名	名	名	57名	58名	67名	名	11名	11名	6歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左小趾基節骨骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(24)回/年	基準配置	—	午睡片付け中の職員配置(子ども保・片付け係)体制を決めた。	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	不定期に実施	実施頻度(12)回/年	午睡用具片付け棚の扉が外れやすくなっていた。	午睡の時期は扉を外して使用するようにした。また、業者に外れないように修繕しておくよう依頼していく。	集団活動中・見守りあり	—	扉は外したが、他にも考え危険なことも子どもたちに周知した。	いつもおり様子であった	(具体的内容記載欄)登園時より、休調や機嫌など変わりなく過ごしていた。	対象児の至近対象で見ていた	(具体的内容記載欄)そばに保育士が付いていたが、咀嚼のことで防げなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)午睡用具片付け棚の片付いたものの補助をしていた。	—	子どもから目を離さないよう保育をすることを再度確認し、ヒヤリハット場面があれば、事例を全員で共有できるようにすることを周	
3585	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	16	0名	0名	4名	6名	6名	0名	0名	2名	2名	2歳	男児	特記事項なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右脛骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	なし	様々な状況で怪我が起こりうる事を職員に周知徹底していたが、今回の状況でも、怪我に結び付くことを知らせ、今後の保育に活かしていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	なし	集団活動中・見守りあり	なし	なし	いつもどおり様子であった	(具体的内容記載欄)遊具のスプラットフォームを歩いていて、バランスを崩し転ぶ。	対象児の至近対象で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)転倒した際に、すぐに近くに駆け付けを確認し、本児の様子を保育士に共に保育士にも伝えた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)遊具で遊んでいる様子を他児子どもたちから、危険のないように関わっていた。	保育士が側で見守る中、緩やかな斜面を歩いて降りていた。緩やかな斜面であっても、バランスを崩し転ぶ、怪我	様々な要因から怪我につながる為、本児の遊んでいる様子や発達などしっかり捉え関わっていく。	
3586	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	25	名	名	名	10名	14名	1名	名	4名	名	3歳	女児	虫に刺されると腫れやすい	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	(基準以上配置	くる事回ってしまった。	転倒する前に早めに子どもに声を掛ける。	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	天気が良かったので地面が乾燥して固かった。	マットを使用するようにする。	集団活動中・見守りあり	片付けの時間で退屈してしまった。	みんなで片付けようねと声を掛け片付けに参加してもらう。	いつもおり様子であった	(具体的内容記載欄)しくくる回転して遊んでいたが、ンスしてしまった。	対象児の至近対象で見ていた	全体の様子を見つつ本児見ていたが、転んでいるので駆け寄り抱き起す。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊具を子ども達と一緒に片付けて対象児の動きに気付かなかった。	くるくる回転することで、バランスを崩すのはとの予測が必要	ゴムマットの所でやろうねなどと、マットを活用する。	
3587	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午後	施設内(室外・園庭等)	5歳児	29	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部骨折・左橈骨骨骨幹部骨折	子ども士の衝突によるの同士にも	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	(基準配置	活動前の安全確認と遊具の準備不足。職員が配置に着くまで遊びを始めた。	活動前の安全確認と準備を徹底する。チェックシートの活用やヒヤリトのの事例上を取り、職員が園内研修を適宜して実施していく。事故防止について具体策を講じられる研修を重ねる。	定期的に実施	実施頻度(毎週1)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎週1)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎週1)回/年	玩具の準備としても達中ボールを倉庫に取りにこ行くとは、準備前の不足。また、固定遊具は水で濡れていないかの足も事前の確認である。	普段よく具遊ぶ玩具は、いつでも遊べるよう場所に置き改善する。また、準備前ができるように、事前ができから活動に入ることにする。	集団活動中・見守りあり	降園準備して活動を庭ですることはあるが、子どもの気持ちも開放的になりやすい時間でもある。	この時帯は、適切な職員配置をつける。子どもの活動場面をしっかりと把握していくこと。	いつもおり様子であった	(具体的内容記載欄)滑り台で滑ってこいた、滑り台の中央あた	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)固定遊具子ども達はボールに興味が	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう最子どもが園庭に出る姿を見届け、子どが勝手に出ないように出入り	活動前の遊具の準備不足と職員の配置の不十分さ。	活動前には必ず遊具の準備をし、職員配置ができてから子どもの活動を始めていく。	
3588	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	3歳児	30	名	名	名	名	名	名	名	1名	3名	2歳	男児	早産で生まれる。体が小さく転びやすい。言葉の遅れ、発音がはっきりしない。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	定期的に実施	実施頻度(6から8)回/年	基準以上配置	フリー保育士に周知不足。	フリー保育士に配慮が必要な子どもについて周知を行う。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	水筒を持って歩くことがなかなかまだ出来ない部分があった。	水筒の重さ、ひもの長さ、掛け方を確認したり、子どもにも気を付けて様伝える。	いつもおり様子であった	(具体的内容記載欄)手を繋いで保育士から子の他の靴ろのが終わるまでて待ねれたその待った。	対象児の至近対象で児を見ていた	(具体的内容記載欄)靴が脱げてし履けた児子に本児に待ってねと声かせる。掛けを行う。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)列の中で靴が脱げ、止まって間にいた頭ども安全な場所で待た、後ろの子どもの様子を見て行	本児がやこすいと考慮する。	手を繋ぐ子を配慮する。間が空かないようにゆっくり歩いたり、間ら空いたまり、後ろの子が追いつくまで待つ、子ども達にも間も走らないという約束をする。	
3589	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	96	1名	16名	23名	20名	20名	16名	名	21名	18名	5歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	—	特になし	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	—	特になし	個人活動中・見守りあり	—	特になし	いつもおり様子であった	(具体的内容記載欄)築山からできた降りた時に、近くにいた友達の避けとし、体のバランスを崩し転倒した。	対象児の至近対象で見ていた	(具体的内容記載欄)本児と少ししたところ、違うと遊びでいる子ども達と遊んでいた本児が、転倒ども達と一緒に遊んでいた児の転倒した姿に気づくが遅く	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭が広く、遊ぶ場所が離れていた本児の姿が見えていなかった。	広ぶ際く、遊ぶ場所が離れていた本児の姿が見えていなかった。	園庭で遊ぶ際の保育士の位置について、全体が把握できるようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面							人的面										
		認可・認可外		月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員							死亡 死因		負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3597	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	4歳児	17	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	その他	顔面(口腔内含む)	右耳の鼓膜が破れた	他児から危害を加えられたもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1２)回/年	基準配置	配膳の際の注意について、マニュアルにおとしきれていなかった。	箸の配膳は一番最後にするなど、マニュアルにおとしこんでいく。	定期的に実施	実施頻度(２)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(約50)回/年	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	待っている間、椅子に座っていても、遊んでしまう子がいる。	箸は、食前直前に配り、配膳をしている間は手をひざの上において待つようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもどおり、椅子に座り、配膳を待っていた。隣の加害児は、そのまま待っている間、箸を持って遊んでしまってい	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子ども達の給食をしの給食の準備をしながら子ども達を見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)同じフロアの職員は、自分のクラスの給食準備や給食指導中だった。	配膳の時の子ども達の待ち方が徹底されていなかった。	どう待っていればよいかの指導を行う。	
3598	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	4歳児	21	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左第５指骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(３)回/年	基準配置	特になし	出来る限り園庭に出る時は職員配置を増やしていく。	定期的に実施	実施頻度(３)回/年	定期的に実施	実施頻度(３)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	園庭整備(草木の管理・石拾い等)の徹底を継続する。	集団活動中・見守りあり	特になし	リレーをする際はライカーを使用し走る場所を等定めるの工夫をする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)リレーをおこなった他児からいろいろ走っている時に転倒し、となりを走っていた児に指を踏まれた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)転倒時担当保育士がすぐに駆け付けたが、他児に指を踏まれたところは確認できなかった。強い痛みを訴えなやいこと腫れ、機能障害等がなかったためすぐに通院につなげられなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	特になし	日頃から実施し、繰り返し行い、楽しんでいるクラスリレーだったため『転倒した児の側は走らない・よけて走る』の事前注意を怠ってしまった。事前の注意を徹底する。	
3599	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	3歳児	16	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左手親指の付け根部分の亀裂骨折(ひび)	他児から危害を加えられたもの	あり	定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	基準配置	必ず遊ぶ危険落前に物がないか確認する。	この広場の利用について広場の危険な箇所をミーティングで伝え、共有する。	不定期に実施	実施頻度()回/年	未実施	実施頻度()回/年	未実施	実施頻度()回/年	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)石を積み上げ、石の上に乗せたり隙間に石を入れたりして遊ん	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)傾斜のふもとで母集団全体を見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)1人、排便児がいその対応をしていた。	特になし	斜面の上には登らず、下の広場で遊ぶよう伝え、確実に様子を見ることができるようにしておく。	
3600	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	115	名	名	名	38名	37名	40名	名	１０名	１０名	6歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯肉裂創、上左Ａ上左Ｂ外傷性歯牙脱臼、上左ＡＢ歯槽骨骨折	子どもの突き同士の衝突による	あり	定期に実施	実施頻度(１)回/年	基準配置	年度初めに確認しただけで、その後確認する場がなかった。	半度に一度、また災害共済給付にかかるような怪我をしたが起きた等、職員も確認する機会を増やす。	不定期に実施	実施頻度(２)回/年	定期的に実施	実施頻度(２)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	—	遊びの場所は十分な広さが確保されていたので、特に改善点は見当たらない。	集団活動中・見守りあり	—	異年齢の集団遊びは普段から行われており、通常と違った活動をしているわけではないので、特に改善点は見つからない。	いつもより活発的であった	(具体的内容記載欄)最近、クラスでは友達と追いかけっこが盛り上がり、本児も積極的に仲入りんで楽しんでいた。今回、遊びたいこっこ遊びの鬼ごっこルールも、やおもしろさをよくろく理解しており、みんなと一緒に楽し	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)雲梯に登っていた児によりかけ、高いところから逃げる声をかけ、安全に下りて遊び参加できびしく見ていた直後に起こった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)違うを遊ぶ子様子をどもを見ていた	鬼に捕まって子が死角になり、別の方向から走って友が見えなかった。	保育士もまかさかぶつかったりとは思っていたところがあるので、今後は早めに危険を察知して声掛けをするようにする。	
3601	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午前中	施設内(室外・園庭等)	4歳児	2	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	—	定期的に事故防止に関する研修等を行っていく	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	未実施	実施頻度(0)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	引き続き安全点検を行っていきたい	集団活動中・見守りあり	—	動きが活発になるので、子どもたちの動きを見ながら必要があれば、守りなあ声掛けや静止をおこない、安全に遊ぶように配慮する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)友だちと鬼ごっこをしていた	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の幼児の共にごっこをしていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)準備をするために離れた。	—	幼児の動きが以前よりなっているので、活発になるよう、注意してみていく。	
3602	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午前中	施設内(室外・園庭等)	2歳児	14	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	2歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨ひび	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	子どもに対する職員数は対応できるだったが、片付け後入室する際々の把握、全体への配慮に欠けていた。	事故防止のため、日頃よりマニュアルの再確認と職員同士の連携	定期的に実施	実施頻度(250)回/年	定期的に実施	実施頻度(250)回/年	定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	玩具や遊具の事故はないが、園庭にも砂の傾斜、つまようなな穴いか、毎日、安全点検しているので、引き続き行う。	集団活動中・見守りあり	片付けや入室の時間だったが、全体的に大きくなっており、慌ただしい為、配慮が足りなかった。	具体的な職員の配置や片付け、入室の流れを見直す。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)良いたと遊び仲の達とさん、片付け後に出入り口に戻る時、足がもつれ、転んでしまう。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任保育士3名が、出入り口で戻ってくる子ども対応、入室の声掛け、それぞれの対応を行ってい	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス担任の対象児に気づき、声掛けを起こし、担任へ報告をする。	足腰の弱さは認識していたが、対象児にとってヒヤリハットを常日頃から認識することが薄いとされた。	普段から転びやすいので、保育士が必ず行動を傍で見守りするようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面										ハード面										環境面				人的面									
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																		
3603	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	45	名	名	名	23名	22名	名	名	3名	3名	4歳	男児	—	昼外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右中指基節骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	本児がケガからの初めて外遊びをする日であったので、職員を増やす必要があった。	本児の身体機能の現状を把握し、活動する際に友達同士の間隔が狭くなることや周りが見えなくなるなどの予測をする必要があった。	定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	定期的に実施	実施頻度(１)回/年	定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	左手のケガが治り、初めて戸外活動に出て動き出した際に、バランスがうまく取れなかった。	園内環境の見直し、年齢、子ども人数と保育士の人数に合った遊びの設定環境を考える必要がある。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)鬼ごっこをしていて、鬼から逃げて走っていた。本児は走っていて転んだ時に手をついた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)すぐそばにあった太鼓橋にぶら下がっている他児を見ていて、本児が転ぶ瞬間は見えたが防ぐことはできなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)3歳児も戸出ていたので、3歳児担任は砂場にいる子ども達を見ていた。	担任は、本児は本児の様子を見ていなかった。	本児の行動観察し、活動を細かく観察し、活動の状態を把握する。過度に激しい遊びをしていないか、体のバランスは状態かなどを見極める必要がある。	久しぶりの外遊びで本児は気持ちが高いことが考えられる。そのことを全職員	
3604	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	63	名	名	名	22名	21名	20名	名	7名	7名	6歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左脛骨骨折	その他	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	—	新しい遊具で、不安定な遊具のため、乗り慣れるまで職員が1対1で子どもの補助に付く。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	—	新しい遊具を使用する前に、予測される危険を十分に確認し合い、職員に周知する必要があった。	集団活動中・見守りあり	使用方法事項や注意はもちろんのこと、気持ちも伝えた台使用していた。	バランスを使用したいときには、子ども達に必ず職員が付き添うようにすると、職員が付いていないときは、台数を減らす。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)他児が手を支え、バランスをとるように、他児が手を離したバランスを崩して転倒する。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)バランクを使ってい台の上で、もう1台のバランクを使用している園児の様子に	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の遊びをしている子ども見ていた。	新しい遊具使用に十分な配慮ができていなかった。	新しい遊具を使う子どもたちに使用時の注意事項を伝えるだけではなく、職員間でも使う話し合いを十分に行い共通確認しておくことが必要。	
3605	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	午前中	施設内(室内)	異年齢構成	17	名	名	名	名	8名	9名	0名	3名	2名	5歳	女児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左上腕骨上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	定期的に実施	実施頻度(1)回/２年	基準配置	事故予防マニュアルを作成していなかった	事故予防マニュアルを作成する	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	なし	なし	集団活動中・見守りあり	本人の運動能力に応じた指導が必要なので指導員と相談していく	運動以上に挑戦し、気持ち能力が働いるが上のようすた。	いつもより活発・動的であった	(具体的内容記載欄)4段の箱に跳び箱にチャレンジし、少し跳べそうだったのではりきっていた	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)専門指導員が近くで指導しており、基本的に保育士は少し離れたところで見守っ	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)担任の隣に座り守った	保育士が座っているところ着地部分は跳び箱が死角になり見えていなかった	保育士は一人ずつ別の人位置につきう見守るようにする	
3606	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午後	施設外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	24	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	詳しいマニュアルは無く、その子ども様子で活動をきめていた。	レベルをみるためにも、段階を明記したマニュアルが必要。	—	実施頻度()回/年	—	実施頻度()回/年	—	実施頻度()回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	子どもたち全員りはじめたため、転ぶ子もいた。	グループに分けて、待たせる。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の動きを見ていなかった	転んでいる子供をたりしていたため。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	後ろからたちの様子を見て、転んだ子をこした。	全体を可手人がいなかった。	人数を少しずつにし、全体を見る大人を置く。	
3607	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	61	3名	5名	12名	17名	12名	12名	名	1５名	１１名	3歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	右脛骨骨骨幹部骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	基準以上配置	—	集団から行する離れた子ども対し目配りや確認の徹底	不定期に実施	実施頻度()回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	—	危険が無いよう、安全に常に検を行う	集団活動中・見守りあり	—	集団から行する離れた子ども対し目配りや確認の徹底 危険が無いよう、安全に常に点検を行う	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段から、一人でトイレに行ったり、一人でトイレに行くことを職員に伝えた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)トイレにくることは伝えたわかったが、常に状況はないけるためトイレに行った。外で戻様るのを子をうかがいながら待って	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)外国にいるたちと一緒にプロと遊び会話を楽しんだりしていた。	—	集団から離れた行動をする子に対しての目配りや確認の徹底 危険が無いよう、常に安全点検を行う 保育を担当していない職員や時間でも、状況を見て目配りを行う	
3608	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	午後	施設内(室内)	2歳児	13	名	3名	10名	名	名	名	名	3名	3名	3歳	女児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(８)回/年	基準以上配置	職員（新規・臨時・その他いろいろな形態で働いている保育士）が事故防止の為の研修をに積み重ねていなかった。	事故防止為の研修を計画的に行う。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	・午睡コーナーいっぱいに敷いてある布団の上を移動がいるのが常にいする日なった。	・布団を折り二つにし、安全に歩いて移動できるスペースを作る。早く午睡に子ども向かう子どもの布団を奥のスペースに敷き、導線を確保し、落ち着いて布団に入れる環境を作る。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児より先に布団の所へ行ったと楽しく自分の布団に行っていた。	対象児の見ていなかった	(具体的内容記載欄)布団の敷いてあるコーナーには子どもが少なかった為、布団のコーナーが見所ないで、子どもに対応していた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)トイレについて排泄を見守っていた職員は見なかった。掃除をしていた職員が、フロアーから布団である午睡のコーナーを見て、転んだことに気づき駆け寄っ	・一人でできるようになった事、大きくなった事信子の近で見守りではなかった。	・それぞれの保育士の役割を明確化し、いろいろな角度から子ども守り子ども守の動きを把握してお	
3609	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室外・園庭等)	4歳児	13	名	名	名	名	13名	名	名	3名	3名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右肩鎖骨骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	職員は側にいたが危険を予知できず、けがを防げなかった。	けがをしにくい、しなやかな体つくりを目的とした遊びを工夫する。	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭や施設、遊具には問題はなかったと思われる。	園庭や施設、遊具には問題はなかったと思われる。	集団活動中・見守りあり	友達とかかわって楽しく遊ぶ楽しさをはじめたようだが、その分危険も増えた。	予想される危険はあらかじめ回避できるように職員配置に配慮する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)子ども同士で鬼ごっこをしていると捉全体的に危険がないと見守っていたが、けが知しことを予知を防ぐことはできな	対象児の見ていなかった	(具体的内容記載欄)子ども同士で鬼ごっこをしていると捉全体的に危険がないと見守っていたが、けが知しことを予知を防ぐことはできな	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)５歳児の担任も一緒に園庭で子どもたちがかるこがないように配しながら見守っていた。	本児のバランスの悪さ動きのぎこちなさを考慮する	友達とかかわって遊びたい気持ちを大切にしながら危険を予測し、配慮する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3610	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	午前中	施設内(室内)	0歳児	6	名	名	名	名	名	名		4名	3名	1歳	女児	特になし	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	左手薬指切断	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	毎日の安全点検が行われて、扉のつまみにはあてはめていたにも拘わらず手直しを重ねてはめる判断を使ってこなした。抜本的な改善をしてこなかったこと。	安全点検の方法を見直すとともに、クラスとされる全危険と各々の思い個所を見直し、改善していく。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	定期的に実施	定期的に実施	不定期に実施	定期的に実施	定期的に実施	定期的に実施	・0歳児クラスの扉にストッパーがなかった ・棚でコーナーを仕切っていたため、外側から見えにくい構造だった ・サッシに緩衝材がなかった	サッシ戸の改修	集団活動中・見守りあり	サッシ戸閉まること取られて子どもが離れてしまった。	・子ども目を離さず常に安全を確認してから次の行動を行う。 ・サッシ戸の開閉についてマニュアル化し周知実践する。 ・サッシ戸の改修	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 固い扉を閉めるため、足元にいた対象児の動き気づかなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 1人は、棚で仕切られた向こう側で2名を相手に事のをしていた もう一人は、先に入った子ども3人の靴下を脱がせていた 2人ともが背を向けていた	対象児が、手を伸ばせばサッシ扉く届く可能性があって危険をしという予想をしなかった	・手を伸ばせば届く危険を予測し、子どもを移動させ手を添えるなど対応を確実にするべきだったと痛感しています。	
3611	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	84	6名	12名	13名	24名	18名	11名	0名	26名	19名	2歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左中指指第三指骨折【治療に要する全期間：全治4週間】	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	自由遊びの時間であり気持ちが高ぶったかもしれない。	基準以上の配置ではあったが、活動内容を予測し育する必要があった。	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	玩具を畳に出遊んでいたが、対象児周辺には無かった。冬のため多少、床が滑りやすかった。	保育室内での遊び分けはしたが、床対象児の動きに注意が必要だった。	集団活動中・見守りあり	節分行事の後だったため、机や椅子の配置は出しており、保育室内は広くしていた。	保育室内は広くしていたが対象児の動きに、より注視していく必要があった。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 兄の動き(ダンス)の真似を保育室で行い、両手をつき、座りながらも機嫌がよかった。	対象児室近対象で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 保育室全体を見ながらも、子どもの動きや見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 対象児の動きも見ながら、子どもの遊びに一緒にいながら、その子供たちの様子を見守っていた	機嫌よく遊んでいたが、過度な動きになってくると予測された。	過度な動きになる場合には事前に予測し、静止するようにかけた。	
3612	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	朝(始業～午前10時頃)	施設外(園外保育先・公園等)	4歳児	26	名	名	名	名	名	名	名	3名	2名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	右ひじ付近の靭帯損傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	特になし	別の部屋に移動する直前に行動する声を掛ける	定期的に実施	実施頻度(1０)回/年	定期的に実施	実施頻度(1０)回/年	定期的に実施	実施頻度(1０)回/年	特になし	特になし	個人活動中・見守りあり	転倒した手なをつけないがあるので、身体性の柔軟性を養うことが必要である。	保育の中で手や腕を使う運動や体操を取り入れる、ことを体操教室の指導者を含めて共有する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 指導者の指示を聞き動いていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 全体を見ながら対象児を見ていた	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 対象児を見ていた	保育者配置は十分だった	体操教室の指導者を含めて職員は子どもが走ると時は、人との間隔を十分に取るこまめに声をかける	
3613	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	午後	施設内(室内)	4歳児	20	名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹・臀部)	左鎖骨骨折・左肺打撲傷・(環軸椎亜脱臼の疑い)	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準配置	全配慮して組み安に関して不十分な取り組みであった。	定期的にマニュアルを見直すよう職員に伝え、ひとり人が常に意識を持って関わる。	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具の遊び方について職員間で共有基準が定まっていないところがあった。	遊具の遊び方について基準を定める共に、引き続き定期的に各安全点検を行っていく。	集団活動中・見守りあり	体を十分に動かさずに戸外に出て遊んでいた。	十分に動かす戸外に出て遊ぶようにする。	寒い日は特に、体を十分に動かし、温めてから戸外遊ぶ	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 特に変わっていつもと同じ姿であった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 少し離れたところにいて、別の遊びもに一緒にいていたが、ゴの形状の遊具で遊んでいる時には注意 見るよう、日頃から意識	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 園庭で「ずまきじゃんけとしていたので、そちらの遊びを見つつ、サンゴの形状遊具でいるこのことも見ていた	園庭に出る前子どもの体を十分温めるようにしていなかった。	準備運動をしたり、上着を着て暖かい服装で出るようにする と 共に、その一人ひとりの体調・表情を遊びを見守るようにする。	
3614	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	21	名	名	名	6名	8名	7名	名	2名	2名	6歳	女児	本児は最近までX脚のため整形外科に通院。しばらく安静を求められていたが、先週後半より、運動の再開が許可されていた。整形外科医からは歩き方の癖のために膝に負担がかかっていると診断されている。また、本児は肥満であるため、医師より栄養指導を受けることになっていろ	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足関節外側靭帯損傷、左足関節節外果骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	冬場は気温も低く、子どもたちの身体も硬いので、園庭に出るまでは、声をかけ十分な柔軟体操後走る運動を始めるように職員、子どもにも周知する。	園庭に出る際、保育士を追い越して走らない、準備体操を行う等ルーを作り行い、保育士、子どもたちに周知する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	特になし	特になし	集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	いつもどおりの様子であった	靴を履き、立ちって、上が出した。	対象児近対象で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 園庭遊びで移動し、本人が急にひとりで走りだし、そのとたんバランスを崩したので対	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 園庭遊びで移動し、本人が急にひとりで走りだし、そのとたんバランスを崩した	特になし	特になし	
3615	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	午後	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	113名	名	名	名	34名	44名	35名	名	7名	7名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	職員の立ち位置、全体把握全体をする職員の位置	全体把握をする職員を予め人数を話し合いの1名必ず配置する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	・フェンス側にコンクリート面があり、砂が散乱していると滑りやすく危険である。	・コンクリート面芝生口芝滑いにすに人に敷きくいにうる。 ・	個人活動中・見守りあり	・午後かの時間こもあるとり、疲れていたのではないか。	・その日の活動にもよるが、子どもが疲れているようであれば、室内で遊びなど静的な遊びを過ごすようにする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) ・友だちと一緒に追いかけっこや鬼ごっこをしんでいた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) ・他児と広いの場所でこちらや花いもんめなどして遊んでいた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) ・固定遊具で他の遊ん様子がでいる子を見守っていたため、見ていなかった。	・いつくいい遊びもしるなので、遊んでいる姿は確認していたが見守ることはしていなかったので、す	・本児は普段から転倒しやすい子なので、走っている様子を見かけたら目を離さないように心がけたり、日頃から危険な場所を知らせたりする。	
3616	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	午前中	施設内(室外・園庭等)	3歳児	14	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	4歳	女児	以前に自宅で今回受傷した歯を打撲していた。	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、歯内裂傷	子ども同士の衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準配置	—	園庭のラバーの上のみを同一方向で走るように徹底した。	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	—	登り棒の周りにコーンで境界を設定する	集団活動中・見守りあり	—	保育士同士の連携をより密にし、安全保育を行う	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 通常	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 全児が見える場所で見守っていた	—	(具体的内容記載欄)	—	子どもの動きを予想して事前に遊びの安全対策を図る	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3617	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	2歳児	17	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	2歳	男児	—	食事中(おやつ含む)	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼外傷性歯肉裂傷慢性根尖歯周炎の疑	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	—	・毎月の職員会議で子どもの安全について話し合い、発達による年齢ごとのリスクについて理解を深める。	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(52)回/年	—	—	個人活動中・見守りあり	・歩行中もにつまずいたのはなかったが、足がもつれて転倒した。	—	いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)午前中、いつも通りに食べ過ごしあっ欲もあった。後は簡易ベットに自分で向いていることができ、歩いて行った。	対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)・まだ食べ終わっていない子どもも3名の給食を介助していた。	担当者・対象児をていっても見ていなかった	(具体的内容記載欄)(他の職員 2名)・担当児5名の給食の介助をした。・まだ食べ終わっていない子ども6名が机上玩具で遊んでいる傍に居ながら、簡易ベットへ向かう子どもを離れたところから見守ってい	—	・食後、コットに向かう子どもには、保育士は落ち着いた声で「コットまでゆっくり歩いて行ってね」と声をかけ、必ず最後まで見届けることを今後も継続する。	
3618	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	1歳児	4	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	1歳	女児	事故当日 医療機関ACT検査異常なし 4日後 医療機関BCT検査異常なし	登園・降園中	負傷	—	その他	頭部	頭部打撲	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	17時から19時まで監視する職員を配置できる為、本来は、17時以降遊具使用禁止を貼り紙で保護者に周知していたが、職員が貼り紙を忘れていた。	①17時以降の遊具禁止の貼り紙で従来対応する。②夕方の保護者への遊具使用の際、職員で声かけし、注意を職員間で共有して周知徹底する。③17時以降の監視、見回り、監視カメラで園長、主任、副主任で分担して監視、見回りを行う。貼り紙担当のチェックノートを作り毎日	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	滑り台からの転落場所にスレンレスの溝ふたがあり設置場所に問題があった。滑り台の高さが1mあるが、安全シートを敷いてなかった。	滑り台の広い場所に移動した。安全シートを敷いた。	個人活動中・子どものみ	—	—	いつもおりの様子であった	おなじクラスのお友達が、おかあさんといっしょに滑り台で遊んでいて本児も滑りたいという自然の流れ。	対象児の動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄) 1 7時ごろ保護者のお迎えで、1歳児と兄の本児と2歳の本児を引きたし（降園後）で兄ラスで兄の靴を保護者が保護者にかせている時に児で滑り台に向かう。保護者から滑り台まで15m離れている。	担当者・対象児をていなかった	(具体的内容記載欄)この時間（17時19分）、園庭には、職員の行き来はみられたが園庭の職員配置はなし。園長、主任、事務員、保育士（9名）は全員室内で勤務中であった。	降園後の危機管理について、周知が不十分だった。	事故後のリーダー会議、職員会議で遊具使用のマニュアルを見直します。特にお迎え後の職員の配置、設備の見直しを行う。	
3619	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	87名	名	名	名	29名	30名	28名	名	5名	5名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	—	適切な人員配置を今後もていく。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(53)回/年	定期的に実施	実施頻度(53)回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	咄嗟の出来事に、瞬時に身をかわす等の運動能力がまだ、十分に発達していなかった。	体幹を使うような遊びを取入れ、体幹を鍛えていく。	いつもより活発・活動的であった	(具体的内容記載欄)咄嗟の出来事に対応しようとしたが、間に合わなかった。	対象児至近で対象児見ていた	(具体的内容記載欄)危険な場面になりそうであったため、注意を促したが、間に合わな	担当者・対象児をていなかった	(具体的内容記載欄)3歳児の担任2名は、かけっこを為に、子どもを並ばせい	—	園外に出かける前に、行っい範囲や過ごし方について約束、今後も、子どもたちに話しをしていく。	
3620	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	午後	施設内(室内)	3歳児	25	名	名	名	名	名	名	名	3名	2名	4歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外果骨折	子ども同士の衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準配置	新しい遊びを始める前に年齢、発達にあった話のしかたをしっかり合いをすべきだった。	年齢、発達に合った遊びを提供する。子どもの遊びの様子を よく見て、危険のないように、職員配置に合わせた環境構成をする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	—	施設、設備等備品は見当たらなかったが、玩具全点検の検を前に行い、定期的に行うようにしたい。	集団活動中・見守りあり	遊びの各コーナーに保育士がついて、全体を見ており、保育士がいなかった。	その場にいる保育士のうち、一人が全体を見守るようにする。手不足になりそうなときは、遊び方を直し、危険のないように遊びを再構成する。	いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)ゲームボックスでこっこで遊びをしていた。転がしドッチにボールの途中から加わった。遊びに加わった直後に、他児がボールから逃げようとして本児にぶつかったため、バランスを崩し転倒し	対象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育士は転がしドッチボールの審判をしていて、ボールの行方を追いたため、本児が遊びに加わったことと転倒したことに気付かなかった。	担当者・対象児をていなかった	(具体的内容記載欄)他のコーナーでの遊び守っていたため、対象児の動きを見ていなかった。	職員の位置や向き立ち、子どもの動きを守ることのできる配置になっていなかった。	その場にいる職員のち、必ず一人が全体を見守りをするようにする。子どもの動きを予測、共有できるよう、職員間で声をかけあう。	
3621	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3	名	名	名	名	1名	2名	名	1名	1名	5歳	男児	A病院に通院中。日常生活において、衝動性高くとても高ぎく、多動ぎみ。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折（右）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	衝動的な多動が、ためとまった目を離さないよう必要があった。	13時までは加配の本職員が見守りをし、後は他の職員が引継ぎ、本児が一人で行動する時間をなるべくないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転倒した廊下は、カーブしている所しかった。	ミラーを付ける。右側に中廊下を通行して、線を全面に付け注意視ポ等を貼る。また、個人ロッカーの前に付け注意を促すスを貼る。	4.個人活動中・子どものみ	ホールから出る際に、保育士が注意をしたが、急いでいた。お迎えを待っている園児がホールで座って待った。	お迎えを待つ園児は、部屋で待つようにする。普段からゆっくり歩く練習をする。廊下も危険である教ら走ったりしないように安全教育を行う。	1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)午前中に押されたり他児をプルとトラブルが2回あったが、普段と特に変わった様子は見らなかった。	2.対象児で対象児見ていた	(具体的内容記載欄)担当職員は、ホールから部屋に一緒に戻る途中だった。	2.担当者・対象児をていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員は、子ども達とトランポリンとつけにあっていた。	担当保育士は、部屋掃除をしていたが、本児の姿が見えなくなった為、ホールに探しに行き、一緒に部屋に戻	13時までは加配の職員が本児の見守りをし、その職員が引継ぎ、本児が一人で行動する時間をなるべくないようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面				ハード面								環境面		人的面									
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷					事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3622	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	42名	7名	6名	8名	6名	7名	名		3名	3名	1歳	2.女児	1歳8カ月 身長77.5㎝、体重8.8kg。体格は小柄であり満1才になっても歩き始めない為家庭でも心配し、発達・発育を定期的に医師に相談されていた。（医師からは様子を診るようにとのこと。）事故当時は歩行が確立しておらず不安定な状態で	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足腓骨、脛骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	—	マニュアル見直しを検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	マット・シートの不点検が十分だったためクッションのめくれか	安全点検項目簿に追記する（マットのめくれや破損はないか）。マットを全面敷き全面直す。死角への配慮をする（保育士同士の声がけ）。交換台を撤去する。	1.集団活動中・見守り	ガムテープ芯での遊びが単調で物足りなかった。プレイボードは前年度製作し、引き続き使用していた。現在の子どもの発達に見合ったものではなかった。	ガムテープ芯単体ではなく他の玩具等を組み合わせて、遊びに変化を持たせる。プレイボードを子どもたちの発達に合わせて作り変える。	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄） 棚に取り付けたプレイボードの前で、男児2名と並	4.対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） ベッドの上下に入って遊ぶ子がいたのでベッド前から	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 1名の保育士は手元の子どもの動きに注視し、そう	—	保育士がお互いの動きを意識し声を掛け合う。保育士の立ち(座る)位置をその都度声に出して確認し視野を広く持つようにする。	
3623	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	14	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	鬼ごっこの種類や遊ぶ場所について、職員間で共通理解を図る。転び方次第で大きな怪我に繋がる可能性があることを意識して保育に当たる。	鬼達とこんでいたので、この怪我が想定される可能性に対する意識と配慮が足りなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	園庭のジャングルジムとコンクリブランの柵との距離は、十分だと思われた。	普段遊び慣れる場所や遊具でも、大きな事故に繋がる可能性があることを意識して保育に当たる。	1.集団活動中・見守り	楽しさのあまり、ブランコの柵の位置を忘れたか、または逃げる勢いで柵に近付き過ぎ、足がひっかかり転倒した。	子ども達に対し、鬼ごっこの種類や遊ぶ場所について確認する場をもち、約束を徹底させる。	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄） 体調に異常はなく、友達と一緒に高鬼を楽しんでいた。鬼から逃げて、園庭を走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 鉄棒の近くと砂場につき、全体を見ていた。Ｔ１は、対象児達が鬼ごっこをしていることは目視していたが、側には付かず、砂場についていた。Ｔ２は、対象児達が鬼ごっこをしていることは目視していたが、側には付かず、鉄棒について	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 他クラス担任は、保育室内で保育に当たっていた。	職員配置は、十分だったと思われる。	職員は、遊びの中の危険を予測し、言葉掛けや子ども達が遊びを見直すきっかけになる問い掛け等を行うようにする。	
3624	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	名	10名	10名	13名	7名	0名		9名	9名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	同じような事故が起こらないよう大人の立ち位置を再確認し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	子どもたちと遊具の使い方について、しっかり話し合い確認し合った。	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄） いつも通気して元気で過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄） 年長児でもしっかりなれた梯子であった為、少し離れたところから様子を見てい	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 他の低年齢児の対応をしていたため、はっきりとは見ていなかった。	特になし	特に雲梯の所には、大人が必ずいるように確認し合った。	
3625	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22	名	名	名	名	名	名		2名	1名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ぶつかった園児が、他の園児より遅れてしまい、あわててい前を見ていなかった為ぶつかってしまった。	子ども達を落ち着かせて行動するように指導する。時間に余裕をもって指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(39)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年	湿度が高やや滑りなくなっていたのではないかとおもわれる。	湿度など配慮し、滑らないようにけがをしないよう気をつけていきたい。	1.集団活動中・見守り	運動の後でまだ落ちて着いていなかったと、予想される。	時間に余裕を持ち落ち着かせてから、行動するよう指示する。	1.いつもどおりの様子であった	指導員が話しをするために座り床に座りをしていたとき、あわてた友達にぶつかられ転倒。	2.対象児の近で対象児を見ていた	園児の動きを注意深く見て、転倒した瞬間も駆けすぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一部の園児をトイレにつれていっていたため、同部屋にはいたなかったが、転倒したことを知ってすぐに部屋に駆けつけた。	保育室よりホールの方が行動が活発になり、広く職員の声も聞き取りにくかったと、推測さ	子どもを落ちと着かせるよう行動するように指導する。時間に余裕をもって指導する。	
3626	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22	名	名	名	名	名	名		2名	2名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左橈骨骨折　左尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年1回	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	年3回	1.定期的に実施	年12回	2.不定期に実施	年12回	—	—	1.集団活動中・見守り	活動を行ったホールは、いつも通りエアコンで温度湿度の調整を行ったが、連日の悪天候による湿度で、にもかかわらず湿度が高かったのと思われます	ホールには空気清浄機（除湿機能付き）が設置されており、温度湿度が表示されるが、天候により強除湿を必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで三歳児全員でゴム跳びをしていて、対象児がゴム跳びが終わり列に戻ってくる途中で上履きのつま先が床につっかかり転倒した。	2.対象児の近で対象児を見ていた	職員二人は園児の動きを注意深く見守った。転倒した二人が見ていた。	—	（具体的内容記載欄） 担当職員二名配置。他の職員はなし。	—	—	
3627	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	32	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	定期的に（行事前）再確認し事故防止を心掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	子供の予行動を予想し、施設・遊具の安全確認を行う。	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄） 入室の集合合図後、友達と園庭斜面を駆け下りてき	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄） 集合の合図をしながら、園庭を回った。本児が、斜面にいたことを確	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 集合の合図をしながら園庭を回り、集合場所に移動。	活動が活発になり「走る」ことへの自信が芽生え、斜面を駆け下りた。	入室時には、子供の行動を予測し、個別に声をかけ事故防止を常に意識する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事																																			
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳											発生時状況	事故の転帰																															
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷				事故誘因	ソフト面								ハード面									人的面								
																					死因	負傷状況	受傷部位	診断名	職員配置		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3628	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	31	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹・臀部)	右肩鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	運動器具すべる際の補助の仕方が十分でなかった。	一人一人や体力や運動能力を見極めて補助する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(5 0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3 0 0)回/年	跳び箱が置いてあった位置が、他の遊びの子に配慮し遊技場の端に合った。	跳び箱の置く場所を、十分に体を動かせる場所に設定する。	1. 集団活動中・見守りあり	遊戯室には、跳び箱のほか、ドッジボールをする子もいて、集中り組める状況ではなかった。	危険を伴う運動器具を使用する際は、集中して取り組めるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)登園した子から、荷物の片づけをしてから、遊戯場に設置してあった跳び箱で遊んだ。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担任が、対象児を含めた4～5人で付き、跳び箱の補助を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一人の担任は、登園してきた受入れを行っていた。	登園してくる子、遊んでいる子と様々で、クラスが落ち着かなかった。	保育士が、しっかりと補助できる状況で、運動器具等を使用する。	
3629	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	122	14名	19名	21名	21名	23名	24名	名	16名	16名	5歳	1. 男児	3歳6ヶ月健診で保健師より情緒面と行動面で気になると言われ発達センターに相談してみたらと促され、2回程通所し、すぐに終了するが、5歳児クラスになっても、拘りが強く、切り替えができず、個別対応が必要な児でもある。	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	乳児クラスが園庭に出る時間と幼児クラス入室する時間が重なった時間帯の担当職員のクラスだけでなく、そこにいる全員で全体を見掛けしていく事、特に気になる子に対の配慮は全職員で意識していく。	クラスの子どもの様子など、情報を共有し戸外活動時には、全員で子どもの様子に注意する事を意識づけていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	園庭の地面も考えられ固さは善の難しさはある。	園の安全点検は今まで同様に行う。	1. 集団活動中・見守りあり	園庭で遊んでいる人園児の多数が多かった。	園庭で遊ぶ人数が多かった。遊ぶことあなたはは日々全員を子全体に向ける。	3. いつもと活発活動であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)鉄棒で、逆上がり出来るようになり、連日、繰り返し練習していた。その、疲れもあったのか、最後の方では失敗しいらしている子が何え。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)逆上がりの練習をなかなか止められずにいた、本児に入室のための1回と伝え、本児の他児と一緒に鉄棒から離れたを確認し、遊んだ玩児と一緒に鉄棒をとしている際中に本児が一人で鉄棒に向かい逆上がりを行うが失敗し落下する。そのため本児が落ちた瞬間	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他のクラスも入室クラスのため、全体に向けるスの園児に集中していた。	本児か逆上がりがでよるようになり、鉄棒で練習をし、何度も繰り返しおこなっていた。その疲れが出てきていたかの最後方では、失敗イライラしていた様子も何え、元りも、拘も強く、言い出したらやらないとすまない性格を理解し、本児にあった対応を最後までしっかり行う。	本児がこだわりも強く、言い出したらやらないとすまない性格を理解し、本児にあった対応を最後までしっかり行う。	
3630	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	91	7名	10名	23名	14名	20名	17名	名	19名	16名	5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	狭い場所での遊びとなっており、追いかけあうような集団には遊びていない。見守りの職員はそのことに気づいなかとにけかった。	自由に遊んでいる時間ではあるが、子どもの内遊びの容を見守れるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	園庭の端にあたり行って整備届いないとも考えられる	細やかな園庭の整備おこなう	3. 個人活動中・見守りあり	狭い場所と遊びていないと判断して遊びているもらない	全体を見渡しやすい位置で遊びを把握する位置づけ、危険のないかを判断する場で判断する園庭遊びで会議にて再確認する。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)複数の子ども一緒に追いかけあいのようなあそびをしていて、逃げる際に足をひねる。	4. 対象児のきを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児を含め集団の遊びの把握は出来ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちの追いかけ遊びが、自体が所に1ヶ所とまるので遠くに逃げ回って動いているので集団のあそび事に把握出来ていなかった。	早出から園庭の全体を把握者が交代時や、ミーティング内容の確認時など職員人数には足りても部分的に見守りが手薄	9時までの体制から引き継ぐ時間帯をどう効率よく手薄にならないよう引き継ぐかという点を見直し、朝のミーティング時間の短縮や園庭、室内の職員配置の見直しした。	
3631	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	5	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹・臀部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置	担任保育士1名子ども一緒にいてしが、子ども小走りになったと転倒。平らな場所でのよりも転倒がおこる予測という予測が不十分だった	職員に事告を除し、危険測し保故し、予測全保携わ育をでよう周知を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	危険な場所を再度見直す。	幼児の事故は不意に起こり、また予測もつかない動きをとることに想定する。園児に対する安全教育を重視して徹底いく。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)トマトの収穫が嬉しくて方々持ちあるがあるとしまうえなくなってしまい、小走りしてしまった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)一緒に横歩いた対象児で並びていて対象児は、転倒の時の出来の事の、手を伸べ差し出る等できなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)担当クラス園庭、砂場、プールでの水遊びをしていて対象児の動きは見ていない。転んだあとの動きについては見ていなかった保育士は一人	気持ちが高ぶって、対応しの対しての応分ではなかった。	どのような怪我につながってしまうと恐れがあることを頭に入れて常に子どもの様子を把握する。	
3632	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	23	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	3歳	2. 女児	—	8. その他	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 基準以上配置	子ども達は、自由に遊んで迎えを待つ時間帯ではあるが、職員も連絡を取りて見必合守りが要な場所にいた。	職員の立ち位置に付けるとともに、鉄棒の持ち方や回り方など、転落しないような遊び指導の子どもたちにしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(/年	1. 定期的に実施	実施頻度(/年	1. 定期的に実施	実施頻度(/年	転落事故の予防のため、鉄棒のマットは撤去していた。	マットを対策していが、鉄棒が必ずきはしたが、鉄棒に必要なそしえ考え場使えるようなが必要で、それがいろいろれる合ないとにするどのを策	3. 個人活動中・見守りあり	迎えの時間帯の遊び場所は、広い範囲にならない子ども達しかし、この時間帯鉄棒が自えどうだろう、話している。	鉄棒は見守りが必要な遊具なので、職員がバタタの迎え時間帯は、鉄棒を自由に遊ぶ。	3. いつもより活発で活動であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)自由に遊びながらを待っていたが、祖母が見ていた姿勢の中で、得意えで最近しくしく鉄棒の技をよ見せようとした。	4. 対象児のきを見ていなかった	(具体的内容記載欄)祖母のあり児を見ていたが、外出を担当だったので、その当が、時は離れていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれの担当する場所を見守りがらえやもりのなどをしていた。	鉄棒は見守り必要遊具なので、員がバタする迎の時間帯は、鉄棒を自由えるにしておくのは	鉄棒はしっかり棒を握って放さることより皆に指導し、また、職員も見できなのし合い、できない場合は鉄棒はしっかりわないようにするなどの対策をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面									人的面														
									異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修					施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検			環境面			対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	理由	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか		具体的内容記載欄	改善策		
3633	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	15	名	名	名	名	名	名	名		1 名	1 名	6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	足指の骨折（ひび）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	外部研修の参加者は人数に限りがあり、園内研修では研修等を取り上げたことはあるが、リスク管理等救命活動を取り上げたことはなかった。	園内研修等の手段でも職員の認識を深める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	器具遊具の整備不良や危険の放置の良物といった分かりやすい理由は受けられないが、ごっこの遊びの中で鬼が立ち入れない安全な地帯の目印としてトを利用したり、マットのが厚みがあるために子供には高すぎることが考えられる。	鬼ごっこの鬼が侵入できない安全地帯を、マットではなくテープなど高さのないもので表現すれば事故防止性がある。	1. 集団活動中・見守り	職員の配置状況、子どもの年長児が鬼ごっこを育のする内容といった特に環境面では問題はなかったと考えられる。	改善策として、活発な活動に動く場合は職員数を応じて対応する取り組む。	1. いつもお様子であった	（具体的内容記載欄）グループで活発に遊ぶ状況ではあったが、対象児個人について高揚していることはなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）保育士は園児から2メートル程度の距離にいた。明らかな危険を感じる状況ではなかったため、事故発生直前に駆け寄るといった行動は起こしていない。	—	（具体的内容記載欄）	通常であれば職員は複数配置しているが、この時は1名が他の業務に当っていた。	過去の例を見ても職員数が少ないときに事故が起こりやすい傾向にあるため、アクティブな活動を行う際は必ず複数職員で対応する。職員数が少ない場合はなるべく静的な活動を行う。	
3634	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	21	名	名	6名	5名	5名	5名	名		3 名	3 名	4歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	6. その他	顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	職員が周囲にいるも子ども目の動きや遊び対し、危険で、子が目の前の遊びを掛けなどの配慮をするべきであった。	ヒヤリハットなど検証する中で、ものの子どもの子期せぬ行動があることを理解し、職員間で声の掛け方なども共有しあい、危機意識を高めていけるよう連携を図っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ジャンプする中で、歯をぶつけるなど遊びの予防措置が足りなかったこと。狭い空間で頭ぶつけなどの測がかったことと、空間入り口で遊ぶ出入りでとに危険として見てた。	遊びの中でいつどこで怪我が起こるか予測し、ルールやルールを決めたり、遊んではいい場所などを職員間で共通認識していく。	1. 集団活動中・見守りあり	遊びていて子どもにとって興味を遊びではなかった。また、遊びていて姿に対して誘いや、たいびやの提供などが足りなかった。	遊戯室内での約束や遊びに興味が持てるように、子夫・誘いやもの子求めた応じ、職員間で連携を図りしていく。	1. いつもお様子であった	（具体的内容記載欄）コーナー遊びに参加せず、遊戯室を周り回っていた。制作室でのすが、行来たりすぎる。制作コーナー入り口付近の狭い場所で友だちと人でジャンプ遊んだ時に友だちの頭に前歯をぶつ	4. 対象児から見ていた	（具体的内容記載欄）制作コーナーや遊戯室の本コーナー・ままごとコーナーで保育をいて行ったが、制作コーナー入り口付近で、ジャンプしている姿には気づかなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）遊戯室のコーナー・ブロックコーナーまわっていて作室での遊びに参加している見ていたが、二人でジャンプしている姿は見かった。	制作コーナーへ遊びに促すが、こでも遊び込んでいた。そのジャンプして遊いる姿に気づかず、危険につながると予測できなかった。	子どもの興味に合わせたあそびや様子をみながら、危険等につながらないか予測意識している。また、全体の子どもの活動を把握しながら遊びの等が見られた時は、子どもにしっかり知らせる。	
3635	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13	名	名	名	名	10名	3名	名		12名	12名	5歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	本児にルールを伝えるので、その理解を確認していく。	子どもたちの動き深くいること注意して見ていくことが大切。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	トの走りをいう遊びでは子どもの動きなら体験にしても問題なかった	特に改善策なし	1. 集団活動中・見守りあり	子どものションがテンションがあって原因と考える。	遊び方、ルールの再確認をしていく。	3. いつもお様子であった	（具体的内容記載欄）友達の動き反して、走っている列ていると横から突っ込み、友達と一緒に時に転んだ負傷した。	2. 対象児で対象児の近く見た	（具体的内容記載欄）とっさの動きの本児のときにかけたが、ふざけることなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄）走っていても動を見てたが、本人のとっさの動きとめるができなかった。	—	子どもたちの一人一人の動きに注意深くことを心がけていく。	
3636	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	11	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名		2名	2名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	事故発生には様々な要因考えるのでも、ような状況においても正確な判断が出来るよう、防止には必要まとまりする何か職員皆で共通理解をして必要がある。	マニュアルの読みこなしや、事故予防研修等を定期的に行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	2. 不定期実施	実施頻度(毎日)回/年	2. 不定期実施	実施頻度(毎日)回/年	ボールをとろうと意識して強くすることが力がすまい、勢いがつきすぎてバランスをして崩れまった。	ボールを使っての活動中の事故であったが、誤ってボールの上にしてのまい転倒したり、ボールをとろうとバラ崩れとボールを蹴ってンスしたいうことを思定し、子ど目さないもから離いよう	1. 集団活動中・見守りあり	地面が固かったため、転倒した際に身体を支首撃えたへの衝が大きかった。	遊ぶ場所など、活動内容を考慮し、安全に活動できるようにしていく。	1. いつもお様子であった	公園内でボールを使用した。	2. 対象児で対象児の近く見ていた	対象児がボールを使用している様子をそばでボールを蹴ろうと空振りし、転倒したに手を伸ばしに手を差べた合わなかったが間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）他児の動きの活子を見ていたため、対象児のそばにはいなかった。	子ども全体を目れる場所に立位置を確保し、安全に活動できるよう配慮する。	側についていても補助いない場合を想定し、常に危険がないか、安全に遊んでいるか等言葉かけを行っていく。	
3637	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	20	名	名	名	名	名	名	名		2 名	1 名	3歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	癇癪を予席をなけ想し離さなければいけなかった。	癇癪を想定し持ち言葉が席ちるけを離して周りの物しを退かしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年（1）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年（1）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	を投げ物たり当ったり、足りすりは想定なかった。	癇癪を想定し持ちる着かけの配置席を離して目の前物退などかす。配仕方を常にもの時間を考え子行動に対できるにすることで。	1. 集団活動中・見守りあり	おやつのなに、自分だけ片付けなければいけないと思い「片付け言葉に反して癇癪を起こした。	癇癪を予気受めるかけ言葉をすることで。癇癪を起こした児のは、場動し定するとが必要であった。	1. いつもお様子であった	（具体的内容記載欄）特に異常は無く、通常の様子とりなく癇を起こした子の隣の席座っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）全体を見る位置でおや配膳しつのを見ていたが、手足をばたつかせたった為対象児ている子がるのを	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）保育室隣のトイレ他の手洗で、園児いや補助をして、直ぐにきた。	おやつの時間なのに、自分だけ片付けられたこと人で片付けなければいけないこと、おやつが食べられないかもしれなど	癇癪を起こしやすい子の予想を考えて援助していくと同時に、おやつの配膳時間・方法を考えいく。（全員が席についてから配膳癇癪を起こしやすい子には気持ちが落ち着くまでそばにいて様子を見ると	
3638	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	—	22	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右第5指打撲傷・右第5指末節骨骨折・右第5指中節骨骨折	8. その他	1. あり	3. 未実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	—	年齢に応じたルを確認し管理する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	ボールも含め、毎月遊具環境のチェックをしたが、後はよりも強化していく。	3. 個人活動中・見守りあり	—	担当職員が遊びを遊び方気をよりつけて見る。	1. いつもお様子であった	同じクラスの友達とボールで遊びをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	動き方など細かい部分に気が付けなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具で遊んでいても逆に把握していた。	—	ボールの扱い方を伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事													ハード面								人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3639	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	12	名	名	名	.	名	名	名	1名	1名	6歳	1.男児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭不顕性骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	園児が場所を間わずふざけ合う。	滑り台でではふざけないこと、順番こを守ることを指導した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転落すると直接地面に衝撃する。	滑り台両側にマットを設置	1.集団活動中・見守りあり	高い所はすべて転落が恐れが付きまとう。	高い所にいる子には特に注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に変わった様子が無く、何度か滑り台を滑っていたので、何時もの立ち位置にいた	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)年長児12名がそれぞれの動きをしていたから、特に変わった様子の無い児童に気づかなかっ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)プール活動で他の対応やプールに入れない子の対応と、プール着視を行っていた。	死角側への転落で気づくことができない。	遊具で遊ぶ子の近くで全体を見回す。	
3640	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32	名	名	名	12名	9名	11名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	事故後の対応の大確さの正に関修個人の不理解が十分だった。また、事故の内容や正経緯を正直及び明確に伝えることができず、園児や保護者に対して誠意を持った対応が出来なかった。	怪我や事故の状況を説明する際の保育士の心得（正確な情報・聞き取り報の結果報告・誠意ある謝罪）を再お度指導および徹底し、該当保育士については厳重注意を行うとともに園長ならびに法人が責任を持って指導していくものと	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	—	—	7.その他	園児がていとが座った場所と保育士が歩くスペースに余裕がなかったことらいうも考えれる	園児との怪我に繋がる接触を避ける十分なスペースを確保する為に分必要がある	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)朝礼で整列する前に床にお山座りで座りお茶を飲んでいて休憩いた	4.対象児の動きを見ていなかった	園児が床に座ってお茶を飲んでいる中、園児水たちの水筒が入っている籠に片付ける為に園児が座っているすぐ横を行ってき来いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	園児が手床に着いたことが野に視入ることを注意を本児すぐ近歩てしまった。	園児の近くで行動する際には、子どもの安全を配慮し、何かあった場合に状況をきちんと確認する対応が必要だった。	
3641	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	25	名	名	名	名	名	名	名	2 名	2 名	5歳	1.男児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)テラスを移動中、後ろにいた園児に順番を抜かされたため、走って追いた際に転倒	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)列の先頭にいた前を向いて、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)2階にいる子ども達を見守っていたため、対象児の動きは見ていない。	特になし	特になし	
3642	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	23	名	名	名	名	名	名	名	3 名	2 名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指中軟骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事故当日は保育士2名、体操教室講師1名を配置しており、職員体制としては充であった。	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)跳び箱に乗った際、手を、ついた場所が浅かった為、体の重心が後ろに傾きロイター板に尻もちをつく。	対象児とマンツーの状態(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)跳び箱に乗った際、腰を支えようとしたが跳び箱に乗ったことに安心し、支えが甘くなった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一人の職員は並んでいる子ども達の様子を見守っており、講師はもう一つの箱でしたう一つの跳び箱補助をしていた為、対象児を見ていなかった。	—	・補助をする際は、跳び箱から降りるまでしっかりと支える。 ・子ども達に跳ぶ場所、跳ぶ場所、跳び方、足の広げ方等跳び箱について基本的なことをしっかりと伝える。	
3643	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	14	名	名	名	14名	名	名	名	2名	1名	3歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期定に実施	実施頻度(5～10)回/年	2.基準配置	どものうしろ行かもしれない(ヒヤリハット)の子起こるかれる動(ヒヤリハット)の予測ができなかった。	どものうしろ行かもしれない(ヒヤリハット)の事起こるかれる動(ヒヤリハット)の事例内容についてにさ検討意識をり高める。	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	廊下に設置のカバン掛けの配置が悪かった	園児のカバン掛けの設置の場所、設置方向の確認、変更	7.その他	廊下にカバン掛けを設置しているため、スペースが広くて十分はない	移動の際には、子ども同士で手をつないでいたが、手をつないで転んだ方が危険度が高いので、手をつながずに移動する	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもどおり、自分でカバンを掛け終え、プレイルームに向かおうとしていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)カバン掛けのところクけのとで、ラス全体の子どもの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(距離にいた)	(具体的内容記載欄)	なし	起こりうるかもしれない行動（ヒヤリハット）をより細かく予測し、子ども一人一の特性、発達をしっかりと抑えた上で、しっかりと行動を見守ったり、支援し	
3644	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	12	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(/年)回/年	2.基準配置	各散歩先での想定の事故防止マニュアルの整備が不十分だった	散歩保の事故防止マニュアルを再び、整備し、研修の実施により職員の周知をおこなう	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(/年)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(/年)回/年	今回の事故には直接的に施設・設備等は影響していない	今回の事故には直接的に施設・設備等は影響していない	1.集団活動中・見守りあり	散歩道中での人の確認や携帯が分かった	2つのクラスが合同で園外活動をおこなう時には、配慮点等事前に必要な情報共有をする	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)合同保育の為、はじめは慣はじめは多少の張も見られたが、時間が経ち対象児も普段通りの様子で関わり遊ぶ様子が見られ	2.対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)他児をひとりは位置ひさは仏置ではあったが、至近距離で対象児動き守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)瞬間的には対象児のことはは見てはらず、他のこどもの動向を見守っていた	担当保育士の散歩中の状況判断が十分ではなかった	保育者が散歩道中での危険性を再認識し、状況に応じた働き掛けができるよう配慮する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																						死亡	負傷																															
																						死因																															
3645	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	名	名	名	9名	3名	1名	名	1名	1名	3歳	1.男児	特徴として、他児と言葉でのコミュニケーションが苦手で、興味の示すものに執着しがちである。（今回は、4歳児の特定の園児）	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	新規開設ということも、子どもの様子や特性を把握しきれていなかった。また、職員が1名が保育のために他児の場を離れた時の人手不足ならば連携も考えれる。	子ども達がそれぞれの様子がわかるまでは、安全な遊具を使用し、事故防止に努めること。職員がその場を離れる時に連携をすること。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	特に現在はなし	特になし	1.集団活動中・見あり守り	園外に散歩や園庭が整っていないための保育でも子どもたちも身体を動かしたり、子どもたちも発散かったこともある。粗大運動や発達以上の物ではないが、逆走をしてきた本児が押してしまったことで事故が起こった。保育士な場所についていたが歩行及ばず事故につながった。	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）本児は押してしまった他児と遊びたい思いがあり、近づくことがある。今回も、手まだ上手くコミュニケーションが取れないために、逆走でふさぐ行道をふさぐ行なっとい動きてしまった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）近くにいて、逆走して、止めようとしたが、間に合わなかった。	—	（具体的内容欄）	立ち膝などすぐに動けるように見守り基本的な原因があったのではないかと考えている。	職員の座り方や保育中にもどこに危険があり、いたら事故に防げるかなど、職員と話し合った。	
3646	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	—		名	名	名	名	名	名	名	名	名	1歳	1.男児	—	7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4～6)回/年	1.基準以上配置	親の安全に関する意識。	親の安全に関する改ざん事故について意識の認識の強化	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	週末で気持ちが開放的になったのでは。	我が子から目を、離れる何故か知らせる。大人が手を、ないなる事を予想にはなる様子でさうできる様なのかは安全教育・危機から、我に回避能力で便りお保護者をお保護者会で促す	7.その他	1歳児の保護者に伝えて、特性を理解しる、認識してもらう努力をする。	保護者とのコミュニケーションを密にとりどの点を気をつけると良いかに具体的に理解してもらえるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）		（具体的内容記載）該当児降園後の出来事	—	（具体的内容記載欄）該当児降園後の出来事	自由にきた時期である。保護者にも認識してもらう手段をとるべきだった。	広く周知し（お便り掲示等）再び同じように事故が起きない予防に努める	
3647	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40	0名	0名	0名	13名	14名	13名	名	3名	2名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保育士それぞれは子どもに遊び着いて遊んでいた。	不安を感じた時点で、声を上げ、保育補助をお願いする等の必要があった。職員全体で保育依頼の見直し、不安なく安全に保育を行える様体制を整えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	夕方の保育という事もあり、子ども自身も疲れていた。	ともいう考慮した遊び環境を作っていく。子ども疲れる事した	3.個人活動中・見あり守り	少し大きくなかなか声がかけ、なかなかしていた状態が安心していたが、なかなかまことコーナーに着く事が出来なかった。	・気になった時点で、保育士がそのコーナーに着き、着いて遊ぶ配慮をする良かった。	3.いつもより活発で活動的であったを記載）	（具体的内容記載欄）おままごと遊びで、友達同士で役をよく遊んでいる様子であった。赤ちゃんになりきって、声真似等、普段より興奮したあった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	（具体的内容記載欄）配慮児に着いて遊んでいた。保育士が着くことで配慮児と遊んでおられると興奮して落ちない環境になってしまうので、まごとコーナーは見守っていた。他の子ども数人の配慮児を見ていたので、担当保育士は全体を見守りながら保育士	2.担当者・対象児の動きをていた	（具体的内容欄）別の配慮児数人と積み木コーナーで遊んでいた。じっくり配慮児が遊びにとりかかれるとき	保育士それぞれは子どもに着いて遊んでいた。	不安を感じた時点で、声を上げ、保育補助をお願いする等の必要があった。職員全体で保育体制の見直しを測り、不安なく安全に保育を行える様体制を整えていく。	
3648	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6	名	名	名	4名	1名	1名	名	2名	2名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	若木骨折（左腕肘）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故防止についての職員研修の回数が少ない	本部で事故予防マニュアルの作成を検討する事故防止について研修を定期的（月に1度、職員の中で）行う。	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	園庭に遊ぶ遊具がないので、現状では遊びの幅が狭い	園庭の使い方の再検討をする・三輪車・ルールのある集団遊びなど	1.集団活動中・見あり守り	—	用具をすべて片付けから室内に入室する	1.いつもどおりの様子であった	登園時より平常通りだった	3.対象児から離れたところで対象見ていた	入室準備をしていたが、子どもたちをないも遊ぶ様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きをていた	全ての用具を片付ける前に、子どもたちを順次入室する準備を始めさせたので、1人の保育士は本児をみていなかった	特になし	一人ひとりの動きを把握するよう保育する	
3649	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	13	名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	5歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右肘下骨折（橈骨・尺骨）	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	—	個々の体長・成長及びその体調及び日の把握をする。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	—	改めて跳び箱の補助の研修を行う。	7.その他	—	事故の起こりる遊具・運動遊具について全体周知する。	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）運動が得意な方ではない	3.対象児から離れたところで対象見ていた	（具体的内容記載欄）講師が跳び箱の補助についた。担当児のをした。	1.担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄）2回目の跳び箱であった。足をひっかけている子ども数人いた。本児も何回かあり引っかけることもあり、また勢いもつついなかったこと大丈夫であろうとおもってしまっ	—	転倒した後の子どもの状態を丁寧に確認をしていき、上司に直後に相談をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3650	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	名	名	名	6名	7名	12名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	—	子ども達が入り込みそうな狭い場所、死角はないか確認し、職員間で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	—	安全点検を定期的に行う。	1.集団活動中・見守り	他児を見ていた為、本児の泣き声で気づく	狭い場所で遊んでいる時危険がないか確認。声かけをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4.対象児のきを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室の方保育している	—	立ち位置の検証をしていく。	
3651	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16	名	名	名	7名	5名	4名	名	2名	2名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.基準以上配置	—	事故防止のためにしっかりことが学習をして行くことが必要。	1.定期的に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	鉄棒は随時点検をしており、特段の改善策はなし。	1.集団活動中・見守り	—	朝の登園時には、受け入れもあるので活動を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもと変わらない様子で、鉄棒をしたいって言っていた。	4.対象児のきを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児のやりたかった鉄棒をやることにした。保育士はそばについていた目は少し目を離したときもでしまったすぐに抱きかかえ砂を払っていたら、腕の異変に気付いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)朝の受け入れ時だったので、他の子どもたちの受けしたたちの入れていた見ていなかった。	—	その場の状況等を踏まえた、職員の居場所や子どもへの関わりをする必要がある。	
3652	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	19	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足2趾骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	活動に合わせ、ホールなど空間が必要だった。	子どもがまわよう走れるな広い場所を確保する。活動内容によっては、上靴をる。	1.集団活動中・見守り	事故に対予測するが少なかった。	活動を計画する際に事故につながる事を予測しながら立案し、全体を把握して保める。衝突する事や足を踏んでしまう事が、事故がにつながる事をしっかり伝える	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)　わら遊育べうた保育べびの中。2人組になろうと相手を探していて、互いにけ、勢い走っよくぶつき正面衝突する。	2.対象至児の近で象児見た	(具体的内容記載欄)　ピアノを弾いたを、ウッドブロック図を出したりしたら、数に合わせて人数を組む遊びを進めていたので、衝突する瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)子ども一緒に遊び他ども子と組んで、衝突する直前は止めるのには間に合わなかった。	活動中児の園を全体的に見守る職員の配置に欠いた。	保育を進める中での保育士の役割を明確にし、安全保育に努める。	
3653	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	56	8名	13名	6名	9名	10名	10名	0名	１４名	１０名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	夕方の延長保育時間帯は落ちあそんでいられるように職員体制をとる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	手作りの遊具を細工のやすりのさやかやすりで等をかける	1.集団活動中・見守り	特になし	延長保育帯の職員で確認する	1.いつもどおりの様子であった	保育時間であそんでいる場所で、本児下怪我なく我した。敗ちたた」言ったしっかりぶら下がらないちに、手を放ようろ	2.対象至児の近で象児見た	延長時間帯は当職ごとに担当決め守りている。担当保育士は今時間本児に配置していない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室担当保育士当落下直後の本児に気付き、隣り事務室てきに連れた。	特になし	夕方の延長保育時間帯、母親がもうすぐ迎えに来るころになるとテンションが上がる(日中は加配児対応保育士が就いている)ので、保護者が迎えに来るまで、落ち着いていられるように一緒にいるようにする。	
3654	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	名	名	名	3名	5名	1名	名	3名	3名	5歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	靴下をはいて移動していた。また、両手に荷物をいっぱい持って足元にくく見えかった。	全園児に廊下・階段の歩行、荷物方の持ちについて、再指導をする。また、必要に応じて個別指導をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	階段の設備については、問題なかった。	特になし	1.集団活動中・見守り	移動時ども子ちは室内走りなので、落ちて着いて着動する促す。	きちんとして整列行ることを歩ことに徹底しく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)　迎えにすぐに対応できるように、準備に過ぎた点があった。	2.対象至児の近で象児見た	(具体的内容記載欄)　全園児を把握するという観点で、配慮している。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)　常に全見えるように細かい配慮体がるとを心がけることに努めている。	職員のにて対しよは、守っ活動ていくくてした。	朝の会や掃りの会等で、声かけを続けたい。	
3655	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	名	名	名	1名	名	1名	名	3名	2名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	—	マニュアル等の確認を再度行う。	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	—	今後も定期的実施して、定期的に実施する。	3.個人活動中・見守り	興奮状態止めるの取れた。	兄とともに見ることも気を落ちもり、着かせる。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)　気をと兄を見のう、周りに見引して、小走りに動きをつていた。	2.対象至児の近で象児見た	(具体的内容記載欄)兄の動きが激しくならないように注意して、見危ないときにはそ動きのつきるように見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)兄や対象児の動きを止めたり、口頭注意を繰り返していた。	近くに職員がいたが一瞬の事で、すぐに駆けつけが届でなかった。	対象児と兄にそれぞれ一人ずつ職員がついて、すぐに危ない動きを止められるようにする。	
3656	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	16	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	2歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕モンテジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	事前に細かく考えなく事なる当日、公園に着きすぐ遊具しすぐ遊具を選択してしまった。	固定遊具を利用する際、職員間での打ち合わせを密にする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	—	—	1.集団活動中・見守り	揺れる遊具の乗降には2名の保育士が要すと判断にのをとた内気遊具がたくさんあった。	保育士の離から園児付けの気付と対処を素早くする事が大切であった。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4.対象児のきを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)　雲梯に上がったのに気付い	目撃した際にチェックシートにば事故起きっと思われる。	言葉だけで動ける年齢ではない為、職員が動かなければいけない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者										ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3657	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51	名	名	名	19名	15名	17名	名	4名	4名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	降園するものもあり、職員子対応もあり、職員同士の連携が不十分であった。	それぞれの職員の役割を決めしっかりと連携をとっていく。事故が起こった時の状況の検証は、職員で丁寧に行い、事故再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	園庭隅のいろは見えない場所。死角がちな場所に出入り禁止の目印（ポールなど）がなかった。	日頃より、死角になりの確認を行い、職員で共有しておく。必要性の連理解しておく。職員には、印つけ、子どもにも知らせる。	1.集団活動中・見守り	遊びが複数子ども一人ひとりが行き届いていなかった。	戸外遊び安全にはことのきう、あそびの決め、子どもたちの遊び始める。	1.いつもお様り子であった	（具体的内容記載欄）園庭に出虫をつけるため園庭を探索見たし始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	内容記載欄）園庭に出虫を探しを始めたので、他児の様子も見ていたが、本児から離れ全体の様子を見ていた。直前までは対象児の動きを確認していたが、転倒したは見ていなかった。子どもたちからの報告で対象児のもとに行き、状況の確認をする。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)全体子を見ていた他児は見ていなかった。	複数の職員がいたが、連携で全体を把握するがいかった。	夕方の活動は、体力面なども考慮し、どのような遊びが適しているかを検討しつつ決め、職員間で周知する。それぞれの役割を決め、全体を把握する職員を配置する。	
3658	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	19	名	名	名	名	名	名	0名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	移動中でもあり、着いないも落ていず状況であった	ホールにたら入った座っこ徹底させる	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	ホールの机の端に寄せたため、ぶつけてしまった。	ホールの机の配置場所については利用しやすいように配置するが使用後は端に寄せホールのスペースの確保を行う。	1.集団活動中・見守り	靴下を着用していた為、走った際に滑った。室内では靴ぐ遊びをしている園準備で履いたばかりであった	室内では靴下を脱ぐことを徹底する	1.いつもお様り子であった	（具体的内容記載欄）友達との遊びが盛り上がりホール内を走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）室内で走ったり危ないことをしたりすると全体に聞こえるように声をかけていた。矢先、机にぶつかった	2.担当者・対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)別の降園する子の対応をしていた	—	職員が複数の場合は役割分担を明確にする	
3659	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	24	名	名	名	名	名	名	名	2名	名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第1趾中足骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	—	・事故が起きた時は、狭い通路を移動中であり、友だちにぶつかりと押されて転倒する。今後もは子どもの行動を常に把握に、子どもから離れないよう保育士間で確認しをする。	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	・今回の怪我は保育所内で起きたのではなく、園の行事を施設を利用した行った為、いつもと違う場所・雰囲気・配慮足りなかった。	・園外での行事など、いつもよりやや危険なように配慮し、子どもたちとひとり一人の行動を把握する。	1.集団活動中・見守り	—	・狭い通路を通っている時の事故であり、その通路を控えるよう経路の変更を行う。	1.いつもお様り子であった	（具体的内容記載欄）・当日は、町の施設を使用して生活発表会つもの状態育ではなかった。本人もいつもりの様子であった。	2.対象児から離れた近で対象児見た	（具体的内容記載欄）・クラスの発表が終わり、部屋に帰の待機する途中狭い通路で押を途中で怪我なったことが、急な事で止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)・側には付いていたが、狭い通路を部屋途中で帰る通り道中ども一人ひとりの行動が見えていなかった。	・当日は生活発表会で子どもたちは、つも逢雰囲気・会場で落ちつかない状態だと思います。	・いつもと違う場所だからこそ、一人ひとりの子どもの行動を把握し、保育士で連携し危険のない見守る。	
3660	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	19	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	2歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	1.頭部	軽いの脳震盪・胃腸炎の疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/不定期	3.基準以下	上司への相談材の不十分、職員間の知識認不足職員危確認不足	新しい活動を実施する上相員の際は、司への職員危険、相談配置、危険なを声に出す	1.定期的に実施	実施頻度(5　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(乳児は毎日)回/年	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	活動を2つに分けた。子ども達の状況その環境設定	安全に活動に環境や同携をとる	1.いつもお様り子であった	（具体的内容記載欄）シールをはがし、中歩は部屋の中を終始歩いて回っていた	2.対象児の近で対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）子ども達の様子を全体で見守り、本児以外のもとシールがわった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)１名は、同じ場所にいが、とシールをしていた。他１名は活動別のをし、他１名は、身体測定行って保育室を出ていた。	子ども年齢に合った指先を使う活動で、一度行ったことある動きだったこと、１回目は危険感場なかったので、リスク気付くこと	子どもの成長に合わせた活動を取り入れる際に、使う素材の選択、リスクを考慮した上での活動内容、職員配置。又、頭部をぶつけた際保護者への連絡及び対応の判断見直し	
3661	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	名	名	名	名	14名	2名	名	1名	1名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第一中足骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	子どもは子測でき行動を取ると予測ないがあるので、全体通せ配いるので常に見よが必要。	事故予防事故に関修なと定期的に実施し、事故に対して意識に研修を意識を深める。	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(約12)回/年	1.定期的に実施	毎日	日頃から施設内の危険個所づへのきる意識大切。	今回は子ども同士に接触事故のよるあった、施設の環境内の整えることも必要。	3.個人活動中・守り	子ども予測でき行動を取ると続いるので常に見よう配慮必要。	あそびにできる環境集中でき集る環境を、引きえ為に続き整えいく動によって職員体制を整えた、遊ばの内容を変更した。の変りする。	1.いつもお様り子であった	他児と遊ぶ際、後ろから押され、転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コーナーあそびとして、製作コーナーミとしてハサミを使っている他児で傍し対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は同室にはいなかった。	一人ども見ている時、全見る通し対応必要あった。	今回の事例を挙げながら、何をしたら、どのような危険のかあるのかを、子どもたち考えながら、子と一緒に考えながら伝えていく。	
3662	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	13	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	—	「A公園遊ぶ場合のこと」のマニュアルを作成した。	—	実施頻度(　)回/年	—	実施頻度(　)回/年	—	実施頻度(　)回/年	—	—	1.集団活動中・見守り	—	「A公園遊ぶ場合の約束ごと」のマニュアルを作成し園外安全を図るようにした。	1.いつもお様り子であった	対象児も含め13人の児童に様子の変化はなかった	2.対象児から離れた近で対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）公園で遊ぶ場合は遊ぶ範囲を決めており、付き添う職員も子ども達から離れることはな	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)職員は子ども達から離れることなく、見守り位置にいたし、立ち位置に問題はなかった。	ベンチの上の美の木が事故の原因になるとの判断がかった。	公園で遊ぶ際の安全を確保するための前記のマニュアルを作成した。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3663	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	2名	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	鉄棒で遊ぶ場合、下がることに対する認識の甘さ	いかなる状況下でも事故が起こることを、職員が共通認識し、危険予測ができるよう、定期的な事故防止の研修を実施する。正しい運動遊具（鉄棒含む）の使い方、遊び方、補助の仕方についての研修を実施し、運動遊びの正しい知識を身に付ける。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	怪我防止マットや柔らかいものにする。	1. 集団活動中・見守り	対象児が初めて鉄棒ができたことに興奮していたが、リスク見できなかった。	運動遊びの段階を踏みながら、運動能力を増やし経験を発達を促す。	1. いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄)普段と変わらず元気だった。初めて鉄棒で前回りできたことに喜んでいた。	2. 対象室児の近くで見ていた	(具体的内容記載欄)鉄棒の中央で、順番に左右の園児が前回りをする援助をした。対象児が初めて前回りができたことに喜んでいたため、喜びに共感した後、隣で前回りの練習をしていた別の園児の援助をした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室内で、描画していた子どもの様子を見ていた。	鉄棒の中央で順番に回り前の援助をしていたが、左右の園児を一人で援助するには見守りに限界があり、対象児にして角を作ってしまった。	子どもに対して、死角ないように保育者を作らないようにしながら、子どもを見守る。	
3664	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	25名	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1. 男児	1歳半頃、自宅の2階から転落し、頭蓋骨陥没。右に麻痺が残り、療育を受けていた。今はほとんどわからないが、体の動きがぎこちない。右手での細かな作業が苦手。	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右ひじ外果骨折	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 基準配置	特になし	保育士の立ち位置し見直しをする。	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	お便り帳（シール帳）の配見方を、よい良い方直し方法を考える。	子どもたちの行動の流れがスムーズにできるよう配慮する。	1. いつもどおりの子であった	(具体的内容記載)帰り際、少し高いかふざけていたのかふざけていた様子。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)担任2名のうち一名は帰りを支度をしている子どもの様子を見ていた。もう1名は、室内で子ども同士のトラブルの仲裁を	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)クラスで出来事のだので他の職員は見ていない。	友だち邪魔したり、嫌がることはないが、嫌とあった時は言葉でクラス全体で、個別で	安全面につ子どもに、危険なことが起きないよう注意深く全体意に目を行き届かせる。	
3665	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	27名	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	2. 女児	落ち着きのない子で、激しい行動することがある。	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2. 自転車・衝突による倒・突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 基準配置	ブランコ柵を越えたりしようとしたりする。ブランコに乗ってい日頃から注意おくこと。	年長児になり、自分の力以上の事に挑戦しようと気持ちは出てきているが、日頃の様子から感じ取ったり、過程予測しておくことも必要。	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	特になし。	1. 集団活動中・見守り	危険であることを考えると動き走ることなくまった。	危険なことを判断できるよう指導していく。	1. いつもどおりの子であった	(具体的内容記載)午睡もし、おやつも食べ元気で園庭で仲良く両方で柵を飛び越えて遊んでいた。良いお友だちに見せようとよ所ようだ。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)一人は対象児から少し離れた靴箱の近くでお迎えの保護者の対応をしていう園庭の遊具山他の子を見ていた。対象だ友だちが柵にいた中ていたが、のにいたが、そのような行動をとはわか	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員はそれぞれにクラスについた。	友だちでも危ないことは注意合う指導する。	危険な行動をしていないか見守る。	
3666	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	12名	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	6歳	1. 男児	曇っていたが雨が降り出し、おやつ後はホールでの活動となった。	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹（首・胸部・腹部・腰部）	鎖骨骨折	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 基準配置	雨天、土曜天候保育時、危険がないような遊びを工夫する。	土曜日など合同保育になる時のホールでの遊び方を見直し工夫します。	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	年長児になると、スピードもなかなか走るとき速くぶつかったり衝きのだろう	事故の状況をクラス全体に話し、ホールの遊び方も一緒に確認のをたちと合った。	1. いつもどおりの子であった	(具体的内容記載)朝、普段と同じ頃に間園に遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)友だちとごって遊んでいるのを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員は自分たちの子どもの様子を見ていた。	土曜日は他のクラス担任も見ることもないがこと多くの連携を	安全面についての話をすると、年長児の発達段階から衝撃などの予測しながら注意して遊びの様子を見守る。	
3667	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41名	名	名	名	13名	11名	17名	名		3名	3名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆粒骨折（右肘）	2. 自転車・衝突による倒・突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	なし	園庭におけるあそび子どもたちへの約束事項のマニュアルに中の子ども同士、ボールを蹴りを合いする場合、前後に人いか、確認しながらカーをすよう全体に周知することを追記する。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	—	毎日、遊具や玩具のチェックは行っている。点検とは、園児そのあの見守りを改善して更の方向を強化する。	1. 集団活動中・見守り	—	園児の人数に対し保育士の人数が適切であっても、保育園の人数が足りない時には保護者との連絡事項や伝達事項、子どもたちが離れることがないように注意を、持ち場を離れる際は、職員間で連携を図る。	1. いつもどおりの子であった	(具体的内容記載)いつも通り、自分が好きなサッカーボールで友達と一緒にサッカーをしてあそんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)全体が見れるが、本児との距離が離れていたので、転倒をこと来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員は、他の近の子どもたちを見ていた。	庭あそび育園と、年クラ担任1フ1、年クラ担任1ス名リ、ス名ずつ、ス名それぞれ持ち場（遊具）とにより、見を守り行った	子ども同士、ボールを蹴り合いをする場合、前後にいないか、確認しながらキッカーをするように全体に周知する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3668	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20名	名	名	名	名	名	名	名		22名	14名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	網膜裂孔	5.他児危から害をられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	保育場面おいて、詳細な事故マニュアルが整備できなかった	事故防止マニュアル整備と研修に実施により職員に周知を行う	1.定期的に実施	実施頻度(5０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5０)回/年	練習スペースとは、空間が狭く、子どもの動線が重なっていた	遊戯室でうなど、広いスペースを確保する	1.集団活動中・守り	見あ	収納場所及び位置が充分ではなかった	子ども士がぶつからないよう片付けるルートを決める	同士ぶつかないように、片付けを	1.いつもお様の子あった	(具体的内容記載欄) 練習を終えて、バチを床においてある箱に中腰入れた後ろ向後、後に振りながら上きち立がったところ、後ろにい児回たバチが目に当	4.対象児の見てきた	(具体的内容記載欄)パート別で指導して、練習が終わったグループから片付けさせていて他児の練習を対し向きに後ろにした	—	(具体的内容記載欄)	初めての練習でのバチの投いは十分指導していたが片付けのまでの細かな指導が行き届いていなかった	練習が終わった時やバチを使わない時などのルールを決め安全対策を強化する	
3669	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10名	0名	3名	1名	3名	0名	3名	名		3名	3名	3歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左環指挫創	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上のにもの不よるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/3年	2.基準配置	危機管理に対する意識が不十分だった。	園内外の危険箇所を見回り、危険を改善すると共に、危機意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度( )回/３６/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/３６/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/３６/年	門の門がいで、ベビルが動かないようにしていたが、ベビルは出ていない。修繕の急務依頼が来かった。修繕の急務依頼が不十分であった。	早急にフェンスを直れ、自門を直まで、自転車のワイヤーで閉の門の開鎖が時間が決制で閉が決制で閉が決制で閉

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																					ハード面								環境面			人的面																
			施設・事業所種別	認可・認可外	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3673	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	午睡後の着替え、おやつを食べる子、園庭で遊ぶ子どもが、いる危険の判断が遅くなった。	バタバタする時間帯は職員間で連携を図り、見守りを強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	—	特になし	7.その他	3歳児はていうんの高さから片足地に危険が伴う	3歳児以下はうんでいで遊ぶ場合は担任の見守る中使用し必ず補助の体を使い、遊びまりせ守り、危険を知らせ方、遊びのをたり判断場合や他のをたり誘険するはめと他せびへと。	3.いつも活発で動的であった(理由記載)	年上の子ども達が縄跳び竹馬に挑戦する姿を、最近よくみていて遊んでいた。当日も両手下ぶらり両足揃えて着地すること繰り返し、近見ていた職員気に入り意気でた得見せて	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児はおやべ早くつを食べ終えて、園庭にでた。担任はまだ食べ終えていない園児や午睡から起きた園児の支援等のため、園庭が見えるガーデンテーブル付近にいた。対象児の泣き声に気がつく。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児がいい始めたうんで遊びため、近くで見守る。両手下ぶらりと足で着地し、その後片手を「見て」という。保育士が「危ない」と声かけ落下する瞬間に手を伸ばし伸ばした間に合わなかった。	担任は対象児がいでで遊んいるに気がついていたが、定して下、着地していた事から近くいた員に助を願いなかった。	担任は、常にクラスの子どもの行動、居場所を確認をし、危険が伴う遊びの子どもには声かけしたり、近くにいる職員に声をかけ補助や他の遊びにも誘ってもらう等の連携が必要だった。	
3674	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	0名	1	1名	4名	1名	7名	名		3名	3名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	—	職員配置は適切であった。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/	—	適切に管理された保育室であった。	以上児がなし活動的なし遊びで目配り十分ではなかった。	異年齢時部ごで同じ過で時間がある、全体が昼寝すが見やすい、静かな遊びすごすにする過ごうる。	3.いつも活発で動的であった(理由記載)	(具体的内容記載欄)広告紙でも作ったのと遊びてお動き遊ぶ様子が激しくなった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)未満児がお数名り、至近にそのちもいて子ちみた。活発に動いて遊ぶ児は離れたところで遊ぶ様子を見守っていた。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)別室にいた	見守りが未満児に集中していた。	未満児中心ではなく子ども全体の様子に目配りをし、必要に応じて安全に遊ぶ声掛けをする。	
3675	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61	名	名	名	20名	22名	19名	名		3名	3名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	3.子ども同士衝突るによもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	人工芝をいて敷いるので素足で遊んでいたことが要因として考えられる。	上靴を着遊びように用ふする。	1.いつもおもりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児は元友達気と遊んでいたが、追いかけっこをしていたに子足を踏	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子ども全員が見る場所で、危険な行いをしていないか注意深く見ていた。	1.当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)子ども全員が見る場所で、危険な行いをしていないか注意深く見ていた。	特になし	特になし	
3676	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	30	名	名	名	名	名	名	名		5名	5名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		3.子ども同士突衝るによもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	周囲の保育士への声掛け、共通認識を持って見守る。早目の活動切り上げの判断。	危険予知トレーニングを一メニューとする事故防止研修の実施。	—	実施頻度()回/年	—	実施頻度()回/年	—	実施頻度()回/年	—	—	3.個人活動中・見守りり	・終了した一斉保育の活動として一斉の間に身体を動かす取り組む。何も板場無いのでは広場で子ども追いかけっこたい思いたり走って遊んでいた。子ども同士が接触する場面があり、都度保育士が間に入り、怪我や確認や子どもへの声かけを！注	・小さなヒヤリハット的な接触があった時点で子どもへの注意みあるが、唤起のでなくそのものを判断が出来なかった。ヒヤハットのそのものを考えることがあること防がるこをあらためてさせた。・今後、同じ事故が発生しないように園児の体調、集中力また目のみ	1.いつもおもりの様子であった	・広い場所でのびのび、友だちと走ったり、ごっこ遊びになったり、楽しみたくなったと思われる。スペースはピード出ていなかった。	2.対象児の近で象見た	(具体的内容記載欄)５人の保育士は全員位置にいたが、子どもの位置が広い場へ遊んでいて、安全に子どもの動きを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)５人の保育士全員飛び込んで光景の目に入ったあり、すぐに担任が駆けつけた。	(子ども同士接触も場が する面)早の活動の切上げ出来動 り が なかった。	ヒヤリハットの積み重ねの先にあるであろう事故への予測を考え危険予知力を高める。いつもと異なる場所で場合、いつも以上の目配りと配慮について職員間で共有する。	
3677	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	29	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1 2)回/年	1.基準以上配置	安全面に意対する認識が低かった	どんな状況でも事故が起こることが予測できる意識をもつ	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	着替えるスペースが狭かった	着替えを時のスペースにいて行うスペースが近いて広げ机などを置く飾り	2.集団活動中・子ども達のみ	着替えているもたちが死なまうあ	子どもたちにして所。死角にしても	保育者が位置した見直した角ならにようにいする	1.いつもおもりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4.対象児から目きていた	午後のお昼寝の準備ラスとして行う保育室前に出かけ、子ども達が見えていなかった。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもを午睡から目覚める為に遊戯室に居た為	保育者の危機管理面での保育士の意識が薄かった。	保育の立ち位置なども一度、保育士間で再確認し子どもたちを見守れるようにしていく	
3678	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20	名	名	名	名	名	名	名		2名	2	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折顆	3.子ども同士突衝るによもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	・ぶつかった友だちは荒れ当日、荒れており、保育士がが加配につ保育士がいていたが、かばいきれなかった。	・ぶつかった友だちは荒れ当日、荒れており、保育士がが加配につ保育士がいていたが、かばよう束くだった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	・ぶつかった友だちは当日、荒れており、保育士がが加配につ保育士がいていたが、配慮意識する意識足しが不足ていた。	3.個人活動中・見守りり	—	・ぶらり下がれるように、ぶらり下がれるようにを閉めておよ窓きくべきだった。	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	(具体的内容記載欄)・落ち着きがなく、多動的であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)・他の職員も当だ子様子知し心がおいた日のちの周りを、けてた方がよい。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	—	・保育士同士連携合、子どもたちの行動を把握しておくべきであった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
																												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
3679	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54	0名	7名	12名	4名	13名	9名	9名		11名	10名	5歳	2.女児	発生時の天候…晴れ	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	—	原因となった観察池近くの石のケガまでもなく今までは一度かっかのが、直接の要因である為取除くこととなった。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	観察池付近には必ず見守りの職員を一人配置するようにしたが、池のすぐそばの低年齢の児童にが目を中心に見ちな池ざかいった本しての見守り及び危険予測の言葉は出来なかったと思う。	職員配置が充分足ている場合は、観察池付近への見守りの職員数を増員する。また、危険予測（急に走り出さないなど）の仕方をあそびやそ生活面でに積極的に取り入れ、児童で自分で速度調整や走るタイミングの感覚をよるになる目をした保育を心掛ける。職員は今安全対策を	1.集団活動中・見あり守り	観察池付近にいた人数はあっが、目に見える範囲で別のあそびをしているが見ええ、走りと出し思われる。	職員配置が充分足ている場合は、観察池付近への見守りの職員数を増員する。また、危険予測（急に走り出さない）の仕方をあそびやそ生活面でに積極的に取り入れ、児童で自分で速度調整や走るタイミングの感覚をよるになる目をした保育を心掛ける。職員は今安全対策を	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至児の近で象見た	観察池付近には必ず見守りの職員を一人配置するようにしたが、池のすぐそばの低年齢の児童にを中心に見ちな池ざかいった本しての見守り及び危険予測の言葉は出来なかったと思う。	2.担当対象児者・対象児動きを見ていかった	配置している職員以外に配りをしたが、池のすぐそばの児童にの見ちな池ざかいった児童にの見ちな池ざかいった本対守危険予測の言葉かけは出来ていなかったのでは思う。	—	職員配置が充分足りている場合は、観察池付近への見守りの職員数を増員する。また、危険予測（急に走り出さないなど）の仕方をあそびやそ生活面で積極的に取り入れ、児童で自分で速度調整や走るタイミングの感覚をよるになる目をした保育を心掛ける。職員は今安全対策を	
3680	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72名	0名	0名	0名	25名	27名	20名	名		5名	5名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員の配置が適切でなかった。	職員の配置をしっかりと決め、必ず大型遊具付くようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	破損等は見られなかった。日常用使用的にしており、子も慣れていた。	慣れていても故や遊具が起きやすいという認識をかり持ち、補助につく。	1.集団活動中・見あり守り	園庭に出る際に大型遊具使い方、遊び方を確認してから出ただった。	他クラスの職員も、同等かよにしっよ見ようにに見えるを持つ。職員配置、危険認識を話し合う場をもつ。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児が遊具で遊ぶ際に離れとって対象児をいた	対象児が遊ぶ遊具で遊んでいた場所は、落ちた瞬間は見かった。	1.担当対象児者・対象児動きを見た(至近距離にいた)	至近距離ではない対象遊具では、児が遊んでいる所は見られなかった。	大型遊具に職員が、しっかり付いて見ているがかった。	職員の配置をしっかりと決め、必ず大型遊具に付くようにする。	
3681	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25名	名	名	名	8名	6名	11名	名		2名	2名	3歳	2.女児	0歳児より当園に通所している。マイペースな性格で食事、睡眠をよく取る。時々身が入らず放心状態になることが多く、他児とのトラブルが多い。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆状骨折	3.子ども同士突のもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	集団活動の際に差が児童して出ないに団とある対慮が配置来なかった。	児童全員が動く時間を減らしたり子どもたちがぶつかるスクを下げる（5、6人グループ毎の行動）、活動と活動の間の人員が動く際もグループ毎に片付けや歯みがきをする）集団活動から児童は遅れる先に行動を声をかけるなどリスク下げをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設面には問題はなし	1.集団活動中・見あり守り	児童たちは走りまわることはないが、児童たちは走ったりふざけることはないが、対象動は活動は遅れることるなかった。児にしまう。スタッフにしては声かけ補助前にしまうするとしてふざけて気いたをるをにかかってしまった。年少～年合まで活動には差がまで慮ることがまま年長まで同じて配置する個人あの欠けた。	帰りの会方法は一グループ毎に、5、6人ずつ並び方を変更した。身長の大きい子を前後ろにし、ぶつかりっこをなくする。活動の全員が自分で動くを目指した。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載)DVDを見終わって、帰りの会を寝ぼけて立ちたのの、場合動いない状況であった。	2.対象至児の近で象見た	(具体的内容記載)帰りの会の並ぶ位置が決まり、職員前にて指示を取っている状況であった。	2.担当対象児者・対象児動きを見ていかった	(具体的内容記載)おもちゃとした児童の対応を部屋の中で行った。	1人の職員がおもちゃとした児童の対応にてした児童の対応にてした、実員全員1人で見て、そのため集団から遅れる児童、身体の大きい児童のきしをする、助をするといったことが来なかった。	おもちゃとしなど突発的な対応が必要な対応な際は、手の空いている先生に応援を呼ぶなど対応を取る。また職員が1人で管理しなければならない状況の際には、次の活動に移るのを止め応援の先生が来ては、またはもう一人の対応職員が済むのを待つ。	
3682	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29名	名	名	名	9名	10名	10名	名		4名	3名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨にヒビ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	普段の遊びから意識が低かった	保育士がいればいくら鉄棒の使用をしても常に目を向け注意していく	2.不定期実施	実施頻度(2～3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	なし	年齢や体格の大きさの鉄棒が高さ合っているのに高さの設備で設備には問題なかっと判断的な問題は	1.集団活動中・見あり守り	子どもへの声掛けが徹底されていなかった。	場をこの離れるこれる今は使ってその離れと遊ぶえないしてとかり伝える。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載)友だちが挑戦しているのを見やっていると自分もやってみたいという気持ちがつよかったと思われる	4.対象児動きをいなかった	(具体的内容記載)鉄棒付近他児と離れて児と関わっていた為、本児の遊びに気付けなかった。	2.担当対象児者・対象児動きを見ていかった	(具体的内容記載)園庭を4くらに分かれて保育していたがそれぞれ子と関わっていてそれに子と関わっていたのでは	夫夫う易っ大だろと安思ってしまった。	その場を離れる時はその旨を他の職員にしっかりと伝えかりと伝える。	
3683	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19									2名	2名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第1中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	—	環境の作り方や保育士の専門性の向上に参加	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	コーナーにひとつがあった絵本がいっぱいマットがめくれているところ	マットがなにくめくれしまいしたものは撤去した	7.その他	—	コーナーなどで保育士のなどで保育士がにしまったりとにも全体ができるに見えを	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	2.対象至児の近で象見た	(具体的内容記載)声かけをかくので様子をみていた	1.担当対象児者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載)帰りの支度の保育士が手がられていた	—	1人は保育士がつくようにする	
3684	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	0名	4名	8名	4名	12名	0名	0名		7名	6名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	年に1回以上は園内研修を実施し、危機管理の意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)	登園守り太る際、見ありがしていなかった。太が滑りやすくなった。丸りなった。	木に横かけていた木を外した。	1.集団活動中・見あり守り	—	職員がつくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当日誕生会があり、誕生児で朝から意欲的な姿だった。	4.対象見ていなかった	遅番職員への伝達に気をされていた。	2.担当対象児者・対象児動きを見ていかった	丸太に登ることは気付いていたが、見守りしていなかった。	丸太登り、木登り日常的な遊びになり、危険という認識が薄れ	職員がつくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面							環境面			人的面													
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	学童	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	アルの有無	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																			
3685	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25	名	名	名	13名	12名	名	名	２名	２名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１回/１２年)	2.基準配置	・日ヒヤリハットをしていた保育士らから告ヒヤリハット事例があるかもしれないので、保育者の認識が薄かった。	・事故を全職員に共有し検証し再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(４８回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(４８回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(４８回/年)	・築山の小石やつまずき原因になるものがないか、日々点検をして小まめに継続し、・築山と芝生庭の境目は原因になる。・築山と芝目まめに刈り手入れ短くするよう。	1.集団活動中・見守り	・時間にゆ裕ち、も見てう声をつ・築山ら際ゆ歩いるつ習りをるた、が降よ虫掛けるて意識にれるに伝えて	・時間にたこ育保育から急がれ。	・時間に持ぎがよ通しるよできる声掛けする。・築山りるに習慣をつけ・築山りるに習慣をつけ・築山りるに習慣をつけ

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面									ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷状況	負傷 受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3691	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	6名	名	名	1名	名	名	名	4名	3名	3歳	2.女児	体幹機能障害により歩行が確立していないため、保護者と相談の上、0歳児クラスで保育をしていた。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(　)回/12　年	1.基準以上配置	・座らせる際に足の位置やテーブル椅子の空間等、確認が不十分で職員の配慮が欠けていた。	・本児の様態を職員間で共有する。 ・ＰＴと連携（月1回）を密に行い、本児の介助法や注意点などを定期的に助言してもらい、情報を共有する。 ・本児についての対応マニュアルを作成する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	狭い場所に机と椅子を配置した。	本人用の意机を用意し、十分な空間を確認する。	6.食事(おやつ)中	・子どもの保育スペースに熱湯を持ち込んだ。 ・ミルクが温められた。 ・棚は子どもが手が届く範囲であったが、ミルクやかけ、普段は哺乳瓶は食事スペースにごとの置いていたが、今回は玩具棚に置かれた。 ・飲まなかったミルクをすぐに片付けた	・調乳は必ず調乳室で行い、ミルクは飲ませる前に直ちに作り直す。 ・子ども場所に物を持ち出さない。 ・飲まなかったミルクは処分し、冷めたミルクは温めず作り直さず作り直す。 ・子ども届かない範囲に物を置かない。 ・職員の食事準備中は、子どもが寝ている間に落ち着いてからにする	1.いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄) ・午前中に外に出た際に、10分程ベビーカーで眠っており、食後は眠たい　様子は玩具を手にとり遊び嫌がる。 ・棚の前付近で遊んでいた。 ・棚の上に置かれたバケツにミルクに興味が向かまり立ちをして　棚の　上に手を伸ばし	4.対象動児の動きをていた	(具体的内容記載欄) 熱湯を入れたバケツを玩具上に保棚に出して保育室を。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄) 職員は、他の園児事介助中で、泣き声で気がが付いた。 他の　職員が不定期に　食事　中　で初めて	保育士が担当制をとっている、視界には全体を入れる意識が薄かった。	足の位置を確認し座らせる。無理な姿勢で座らせない。職員間で常に見える配置とする。支援技術の共有を行う。	
3692	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	8	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	0歳	1.男児	身長：68.4cm、伝い歩き、	8.その他	1.負傷	—	3.火傷	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	火傷	8.その他	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・調乳マニュアルには留意点が記されているが、具体的な調乳手順やミルクの　適正温度や冷めたときの対応については記されなかった。 ・ヒヤリハット報告を職員に周知し、あってきた報告は記録し、職員間で共有　しているが、件数は少なく、調乳に関する事例はあがっていない。	・調乳マニュアルを見直し、調乳方法や、ミルクの適正温度、冷めた時の対応に　ついて明記する。 ・日頃の「ヒヤリハット」をさらに意識し、職員間で共有をはかる。 ・担任外の保育士が入る際には、子どもの様子や注意すべき点等について伝　達し合い、連携を意識する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	なし	6.食事(おやつ)中	・子どもの保育スペースに熱湯を持ち込んだ。 ・ミルクが温められた。 ・棚は子どもが手が届く範囲であったが、ミルクやかけ、普段は哺乳瓶は食事スペースにごとの置いていたが、今回は玩具棚に置かれた。 ・飲まなかったミルクをすぐに片付けた	・調乳は必ず調乳室で行い、ミルクは飲ませる前に直ちに作り直す。 ・子ども場所に物を持ち出さない。 ・飲まなかったミルクは処分し、冷めたミルクは温めず作り直す。 ・子ども届かない範囲に物を置かない。 ・職員の食事準備中は、子どもが寝ている間に落ち着いてからにする	1.いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄) ・午前中に外に出た際に、10分程ベビーカーで眠っており、食後は眠たい　様子は玩具を手にとり遊び嫌がる。 ・棚の前付近で遊んでいた。 ・棚の上に置かれたバケツにミルクに興味が向かまり立ちをして　棚の　上に手を伸ばし	4.対象動児の動きをていた	(具体的内容記載欄) 熱湯を入れたバケツを玩具上に保棚に出して保育室を。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄) 職員は、他の園児事介助中で、泣き声で気がが付いた。 他の　職員が不定期に　食事　中　で初めて C保育士が児でいる横の遊んでる棚の近で他児の背中をさすりながらしっかりとしてなかなかよ　した。 A保育士　他児のしていた際に　終計そうち上際が倒間見え、を上げが、湯れがバケツ　ツれるこぼれしまった。	・本児が起きている状態で保育士が場を離れ、A保育士・C保育士に任　せる状態になってしまった。 ・B保育士はバケツに湯を張った玩具棚の置こ言せずその　場を離れた。 ・C保育士は	・危険なものは保育室に持ち込まない。 ・子どもの見守りが不十分になる状況なら、その場を離れない。 ・子どもの心身の発達を把握し、状況に応じた危険予測をする。 ・常に危機感を持ち、子どもの安全を第一に考え、一歩先の予測をして動く。 ・起きている子・寝ている子の見守りの分担を明確にする。 ・子どもの動きを職員同士で声をかける。 ・その場を	
3693	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	38	0名	0名	0名	9名	22名	7名	名	5名	5名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.基準以上配置	跳び箱を跳って跳ばない、走ってはバーにしてなど使い指導十分だったちにくかりやすいに伝えるべきだった。	跳び箱は危険な運動器具であることを認識し、保育士が指導方法をしっかりして学習いく。跳び箱を飛ぶ時は、横で丁寧わるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(３　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	跳び箱は３段で、４歳児に適切なだわ高さと思われる。 サーキット方式でも他にもマットなどしたのでセッティに余裕がなかったこと考えられる。	一つ一つの遊びに余裕をもってセッティし、気持ちがないすの余裕で無焦よる。	1.集団活動中・見守り	５人の保育士の連携をもっと密にするとよかった。	サーキット方式に一つの活動に一つの余裕をもってセッティするこ。	3.いよ活発でいつりあった(理由を記載)	(具体的内容記載欄) サーキットの上にているテンがって上がった。分は跳ぶという気持ちで切り思い、跳走り、跳んだ。	3.対象から児の離れたところで見ていた。	(具体的内容記載欄) 跳び箱を飛ぶのに守にるよう指導することに気が向いて いた。一人一人に対の手をつい て跳ぶかという指導が不十分になった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄) サーキットのそれぞれ場子ども子の見ながらした。	３歳児と一緒だったので、緊張感にはけてたと思われる。	運動器具を使う時は、危険が伴うものであることを考え、とっさの時にも対応できるように活動を予測し一人一人に対応し、けが予防に努める。	
3694	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	—	10	名	名	名	名	名	名	名	10名	10名	4歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具から転落等の転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(　)回/1　週	2.基準配置	—	「危険予知トレーニング」を利用した研修をての研修を再度行った、実際の事故事例を参考に危険予防や対応方法につ話し合いの機会をしたりする。	2.不定期に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２９０　)回/年	—	施設、設備等では事故の要因はないと考えられる	7.その他	鉄棒の下に緩衝材なるものがないなかった。	鉄棒、太鼓橋、雲梯など落下の危険がある下にはマットポン（スポンジ製）を敷くことにした。	1.いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄) （他児とその保護者は近くにいが）母親と妹が離れても本児は一人で鉄棒で遊び続けていた。	4.対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄) 事務室にいて、本児が母親と離れた状態ることに気づいなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄) 本児の母が妹と乳児室にいたことはいた児のが、本親のいないころでいることに思こんいが至らなかった。	鉄棒から落下した時に手を伸べられ大人が傍にいなかった。	保護者に、降園時に園庭で遊ぶ時は子供の近くで見守っていただくよう知らせた。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面							ハード面								環境面		人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3695	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	25	0名	0名	0名	10名	8名	7名	0名		4名	4名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯肉裂傷	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	1.基準以上配置	—	毎月ヒヤリハット、怪我作成。種類や発生場所、時間帯等を分析、数値化し、毎月職員で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園外の安全点検の実施方法が頻度や明確になっていなかった。	散歩先の予測危険箇所の定期的な確認方法、頻度上周知し、職員共の解を実施する。	1.集団活動中守り	子どもの応動に臨機応変な職員配置が取れなかった。	様々な場面で想定どもの様子を様々な動きを予測、職もしもの事故を定し、職員間で声掛けを合う。	1.いつもお子どもの様子であった	(具体的内容記載欄)散歩等では、体を動かすことを好み、先頭ってしまうことが多い、事故発生時、意欲的に、体を動かすことを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担当職員児(対象児の担任)は、後方グループに付いていた為、対象児先頭グループにいることは把握していたが、転倒の瞬間は見ていなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)先頭グループにいる職員は、4、5歳児の担任であった。3歳児担任は、後方グループに付いていた為、対象児先頭グループにいることは把握していたが、15名程の大きな集団になっていたため、対象児の瞬間の見ることなかった。	集団走り移動こでしてでしと子同士の衝突が起きとられる。また、先頭集団が15名程と多かったにもわらず、後に遅れている児が3人一分てた各グループに散いめ、グループに保育者一人にって	自由に散歩しながら上安全策移動する安全での、子ども伝に対するに、保育者で共有ルールを保育すると共に、子ども伝たちにも、たえていく。子どものに応じて人数に、保育者が十分な配置になるよう掛け合う。	
3696	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	31	0名	0名	0名	0名	0名	31名	0名		2名	2名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士衝突するのにもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	—	—	1.集団活動中守り	午前中は運動習か外午前毎日戸外楽会でにし、午後は園庭で始めることで、園児が午前に遊び方を見ていたことで、保育士位置が決まり、危険度が高い所を取れた。	開放的な気分で一斉に出かけ、気分が落ち着いて、一人一人に戸外に出ようにすることで、子どもの安全を確保する。	1.いつもお様であった	(具体的内容記載欄)本児は、いつも活発で、よく動く。園庭に出る際も保育者の合図を待ちかねて喜んで出ていく。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭の砂ひどこりが、ひどかったので、水を固めたり撒いたりしながら、安定遊具の子どもを見ていた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)砂場や遊び場の猫の糞があったので、消毒をしたり、猫の糞を取り、消毒などは出来るだけ早く、子どもが出ないように、清掃をしたり、子どもが近寄らないように、清掃をすることで、子どもの動きに集中することができる。	園庭に遊び始めることで、保育士位置が決まり、危険度が高い所を取れた。	水撒きや猫の糞取り・消毒などは出来る広場野で見ることで、子どもの動きに集中することができる。	
3697	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23	名	名	名	6名	11名	6名	名		3名	1名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘打撲、右尺骨骨折右橈骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	延長保育の事故が多い為、遊び時の内容の工夫、年齢構成などの見直しである。	延長時間帯の過ごし方について、安全に話しをし、明確な目的をもって、遊ぶ合ルーを作成していく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具の使いて、個人の判断して使用していた。	遊具について、職員に使い方を共有して対しても伝えていく。	1.集団活動中守り	遊びが盛り上がり活動も活発になっていた。遊び中は、能力動きをしていて、その中で、以上の動きをしていた。	危険な動きをしていないか、子どもの動きをよくまとめ、危険とした場合、判断し遊びを切り上げるなどの配慮をする。	1.いつもお様であった	(具体的内容記載欄)積み木を遊び、跳んでいた。急に両足飛びで跳ぼうとし、積み木に足をつかみを引っかけ転倒してしまった。跳べると思われる。	2.対象児の近で対象児見ていた	(具体的内容記載欄)近くで見ていて守ったが、対象児の予測できず、できた止め、回避させることができなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれのコーナーの園児を守った。	運動能力も高く、安定して過ごしている年長児であったため、見守っている職員に油断があった。遊びが終き、気持ち盛	子どもの状況を一人一人丁寧に見守って、遊びのなかで無理なく動きがないか、よく確認していく。	
3698	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	名	名	名	23名	23名	21名	名		5名	5名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位骨端線離開	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	1.集団活動中守り	特になし	特になし	1.いつもお様であった	(具体的内容記載欄)普段と変わりなく遊び元気いった。	2.対象児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)対象児が見える場所で、危険な行いをしていか注意深く見	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭のそれぞれの場所で他の子どもの遊びを見守っていた。	怪我をする前にも、危険な行為をしてんでいる。	怪我をする前にも、危険な行為を転でいる。	
3699	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43	名	名	名	21名	18名	14名	名		4名	4名	4歳	1.男児	・運動が苦手な傾向がある。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	・遊具の方をに使い子ども知らせ約束していた事と、職員同士が遊び方の正しい使い方を共有していなかった。・当番の保育者の人数に対して遊びの内容が多く、保護者に対応も保育人数者がとられ、全体のにきて子ども目がいなかった。・園庭で遊ぶ際	・遊具を使って遊ぶ前には、正しい遊具の使い方を伝えし約束して　おくようにする。・園庭で3歳以上児で遊ぶ際、どの遊具の職員がつく　のか、どの遊びにどの職員がつくのかを明確にして、保育をする。　また、子どもの様子に合わせて遊びの内容当を決め遊び方を番同士が	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	—	—	1.集団活動中守り	—	—	3.いつも発的に活動であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)大好きな保育士に肩車をして触れ合うことで気分も高まり少し、興奮気味だった。	2.対象児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)危険な遊び使いの方をいるという事への気付きがなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭で他児の保護者対応や他の遊びについていた。	なし	・園内リスク会議、園内研修などで職員の研修を強化する。・職員同士で危険な遊び方に気付き伝え合う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3700	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	95	5名	12名	17名	23名	19名	19名	名		１６名	１６名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折(左側)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	・運動会競技は親子競技の練習の必要性のあるものか？ ・親子競技の練習は必要だったのか？	・親子競技の練習なしと判断。来年度は実施しないことを検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	今回の事故は、大きい目のパズルに児童と職員が片方ずつ入り走ったところ、職員の体格が大きくていだが、児童の大きさが適切でなかった可能性あり。走り終わり、つまづいて転んで足を捻挫してしまった。	どんな場合でも、起こる可能性を推測し、危険を回避すること。	1.集団活動中・見守り	・デカパンのサイズは適切であったか？ ・児童と職員の運動能力の想定は適切であったか？	・運動会当日はパンツを当日カパンを実施せず子供他の競技に変更した。 ・親子競技の練習の必要性を検討した。（不必要と判断）	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児は運動が得意で張り切っていたが、職員とデカパンに入り、元気にスタートしたが、職員がペースに付いれなかったことが、パンツがずれてしまったことにより先に行かれてしまったことにより、職員が本児に転倒。本児は引っ張られる様に倒れ	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)クラス内児障の他の児（知的害児）が暴れたことに気を取られ、本児の組がより出て面目を見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)練習をしていたトラック外（砂場等）で遊んでいる児童を見ながら練習の見て練習をいた数名が、児童の該当職員のパンツと職員のデカパンを履く様子を見ていたが、パンツそっくりだと思ったが、職員がうっかりと危なじゃないと感じたが、危険と感じたことがあったとがあったから、他の職員に	・準備時に、少しでも危ないと感じた職員は声をかけるべきではないかっ？ ・該当職員も、無理なじこと感じたらあるから、他の職員に	緊急職員会議を開き、事故発生のの事要因をすべて検討し、「あらゆる危険を想定する」「危険と感じたらすぐに伝える」を基本に話し合いを持った。	
3701	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	120	0名	0名	0名	5０名	3０名	4０名	名		9名	9名	4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるものも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	—	なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	なし	1.集団活動中・守り	—	なし	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもんな遊びいつくく遊ぶ友達ついてい行こととした。	3.対象児がたころ離れたとで児ていた	(具体的内容記載欄)担任は他児の手助けをしていたが、本児が泣き出した為、本児が泣き出した子いたが、被災は防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかた	(具体的内容記載欄)年長保育士は、本児がいることに気づいており、様子を見ながらお本児の様子を歩いていたが、ままの児を通り直後、男の子とぶつかったため、被ぐ防がをとなかった。他の保育士は、それぞれ自分の近くにいた子どもと遊んでいた災ため、被災に気づけ	保育士の休暇数が重なったため、園長が乳児主乳児保育にあたっていた。	休暇の希望に配慮しながらも、できる限り保育に支障がないきたような配置をしていく。また、全幼児が戸外で遊んでいる時は園長や主査が園庭に出て、全体の様子を見守るようなる体制をとれるよう努力する。	
3702	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	異年齢構成	40名	名	名	名	名	20名	20名	0名		2名	2名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨頸部骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4～6)回/年	1.基準以上配置	園庭でのもの遊び子どの行動（姿・活動）予想される状況からの、木か転落あり、保育士の配慮と管理の不足の不注意が大きかったと、事故発生状況を省察する。（ブランコ・投げ子どもの対応した瞬間に起きる）	職員の園庭での子ども時の立ち位置確認（声掛け等） 木登りのルール・ていい所のポイントマーク（黄色ペンキ）、予防マット・土嚢袋設置	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	マット・ションの用途兼ね備え、衛生面や管理が行えすいの環境設置。	腐食の進行が強い伐採木の（部分切り落とし）	1.集団活動中・守り	保育者がなくても、4.5歳児が遊び等や遊具等の決まりなどがようかるとの「見える」に「見えない」合（例）木に登っている高さの目印（黄色のペイント）	3.いつもより発活活動であったを記載）	(具体的内容記載欄)保護者かの目の小学校運動会でも小地一学校敷地内にられている登ったとの事	2.対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄) 木を登っていた対象児の至近で対象児を見ていたが、近くでボールで遊び児童がボールを投げてと、保育士にを要求し、ている間に3M近くの高さまで登り、友達に手を振ってといた枝が、バランスを崩し落下したと推測される（#5	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)プランコ子ども見ながら全体状況を見て立っていた木登り姿が見えなかった。	保育士子ども提視もを見る点と子の遊び状況が一のもの「起きるは」と予測のと配慮。	子どもの保育状況の見視点と守る振りと返り、配慮・援助として、※事故当時の共通理解の指導。全職員での現場検証。（現地確認としての省察）	
3703	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	21名									１３名	１１名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折・右前腕橈骨骨折（ひび）	1.遊具から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・複数の子どもが虫捕りに夢中になり外出なりそうになる注意が広がった。	・固定遊具に限ら自然に触れず、物ることで展開なった遊び場ていろいろな遊びをどこ行動範囲が広がってた。職員の関係も連携を図り、子ども達への言葉かけが重要であった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/2年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	・安全点検は必要職員で再確認すべき点検の性を共にすべて安全に配慮する。	1.集団活動中・守り	・事前のから下見職員間の具年固定遊象児等を把握し子ども達も約束する。 また、**他施設にも遊びに行くことを知らせながら情報を確認しておくことが必要だった。**	・数名の子ども達が虫捕りに夢中になり外出なりそうになる子ども達が広がった。	3.いつもより発活活動であったを記載）	(具体的内容記載欄) ・虫捕りに夢中になり築山の裏側に集中した山の上、築山の為、上っていたが、本児の危険を察知し注意しようと間に合わなかった。	3.対象児がたころ離れたとで児ていた	(具体的内容記載欄) ・虫捕りに夢中になり築山の裏側に集中した山の上、築山の為、上っていたが、本児の危険を察知し注意しようと間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) ・滑り台もたちの子がいるその子にちに関わった。	・日頃使い慣れていない固定遊具しての事前の予測が曖昧と子ども達への喚起意が徹底されなかった。また、子ども達の動き	・固定遊具方を遊びながら子ども達に見通しを持たせておくことも必要だった。園外保育の子ども達の動きを予見し、引率する職員	

No	初掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
						発生時の体制																			ソフト面								ハード面							環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3704	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	1名	名	名	名	名	名	名		0名	0名	5歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯外傷脱臼 下唇性歯髄裂創	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.基準以上配置	その日の子どもの状況によりは保護者がお迎えに来ると、その保育者の言葉が入り難い時がある。	保護者へケガが起こりやすいケースを知らせ、手をつなぐ等、転倒しそうになった時に防止できるような点を伝えていく	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	建物に段差があること	将来的に段差を解消できる改造や修繕を検討する	7.その他	なし	送迎時にこの事故が可能なことをわかりやすく伝えたり、掲示に啓発を行い周知を図る。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)日々慎重に安全に遊べ、大人の話も子供も聞けるが、お迎早帰りの時は家にいたいという心理があるこ	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保護者と出の玄関なのこで見ることはまました	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保護者と出の玄関なのこで見ることは出来ませんでしました	なし	お迎え時に、一声注意喚起を行う	
3705	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20名	0名	0名	4名	1名	9名	6名	名	2名	2名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	顔面(口腔内含む)	上前歯4本打撲	3.子ども同士衝突するものにもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	保育園の約束事として保育室内では走らないというルールがあるが、かホールから室内に入る時にも注意が必要であることは職員間で徹底されていなかった。	職員間で再度約束事の確認をし、ホールか入り口室内入り口での事故の危険性を周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	なし	なし	3.個人見守り活動中・見守り	トイレに付いた保育士は、声が行っけたがそのままトイレに付いた保育士は、声がけだけでは行動危険せずに走ってしまった。	声がけだけでは行動危険なく	1.いつもどおりの様子であった	ホールを移ってその勢いで走ってしまい、保育室内に入り、保育室にいた他児に衝突する。	2.対象児を対象児の近で見てた	保育室入り口のブロックコーナーに付い、衝突を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で他児遊ぶを見てた、事故の瞬間は見ていなかった。	日頃から活発子があり、部屋の移動等も走がられていたかわる。本児の動測りていかった。また、保育士間	常に保育士間で子どもの居場所や動き等伝え合い、室内入り口付近ではホールやトイレ側にも目を向け移動する子どもの様子を把握できるようにする。	
3706	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35名	7名	5名	8名	10名	5名	名		5名	5名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故防止チェックは行っているが、職員全体の周知が徹底されていなかった(会議・昼礼等で伝えているが言葉分のみでやすいかり状況ではなかった)	園庭マップを作成して、職員全員に危険個所の周知を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	—	1.集団活動中・見守りあり	2～5歳児の職員が3人での園庭遊び中は、見守り体制が不十分なのではないか(1歳児7名・職員2名も園庭遊びしていた)	職員体制が整わな状況なら、遊具を敷き、園庭遊びをしない	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)いっと変わり活発に遊ぶ	2.対象至対象児の近で見てた	(具体的内容記載欄)何度か飛び降りる姿があり、そのやや度危ないからやめるよう注意を掛けていた再度声を掛けている時に飛び降り、間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)飛び降り側の階段で反対の階段で別の子どもに気を配ったため、飛び降りの瞬間に対応できなかった	普段は利用しない土曜保育で、気持ち少し高ぶっていた	声がけだけではやめられない状態(興奮状態)の時は、遊びを止めて落ち着いてから、本人と向き合って何故危険なのかを話す	
3707	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	81名	5名	10名	10名	16名	20名	20名	名	10名	10名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨尺骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	鉄棒下にはマットを敷いて安全をとっていたが、安全対策のそのの守りを見職員がそ場につけていなかった。	ジャングルジムやすべり台には必ずつ職員がつくしてが、鉄棒も安全に遊べるか見守りができるよう気をつける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	固定の鉄棒であり、バーにも特に問題なし。	今後も鉄棒使用時は必ずマットを敷き、職員を配置する。	3.個人見守り活動中・見守り	こどもたちの中に鉄棒遊びの危険についての意識がこの薄かった。	遊具の遊び方について子どもたちは危険なことなどお知っておく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)鉄棒のバーに座り前に飛び降りとしてバランスを崩し、後ろ側に落ちた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)鉄棒の動児の動きに気づいていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)乳児クラスの児が入室する、乳児担当職員は乳児におり、幼児の様子を把握できていなかった。	幼児担当職員名2名で園庭を見守っている体制で、乳児が乳児入室でしている移動中、全体的な見守りが手薄	全体を見守る職員や遊具につく職員の配置を見直した。	
3708	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	22名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	身長114.7cm 体重16.5Kg	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特に無し	特に無し	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特に無し。	一人でバランスを崩んだ為、特に無し。	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	柔軟性・筋力を高める身体を十分に動かす遊びを取り入れ、怪我をしない体をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)お片付けの時間で、自由に動きが出来た。	2.対象至対象児の近で見てた	(具体的内容記載欄)転ぶ直前に「走ったら転ぶよ」と声をかけた。怪我がるような音ぶ方ぶ転ぶ方では無いと思ったが、転んだ時も「大丈夫」と声掛けしていたが、「大丈夫」と答えた様子。本人が「大丈夫」と答えた様子。本人が「大丈夫」と答えた様子。本人が

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
																											ソフト面						ハード面									人的面								
								異年齢構成の場合の内訳																																										
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3710	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝部の剥離骨折	2.自転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特記事項無し	怪我の状態、観察事項等の事故認を再確修を通じ、行ってゆく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	靴のサイズ、履き方を崩している場合歩行に支障をきたし、転倒しやすくなる恐れがある。	履きでな内においでもサイズの確認、靴の方のし認、履き指導を行ってゆく。	1.集団活動中・見守り	水を汲んだ際、にこぼれ滑りやすくなる危険性がある。	室内を始場で近く拭き上げに行う。また、室内での移動は慌ずに歩くよう伝える。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)水分補給と排泄を済ませたら室内遊びへと行きます。早く遊びたいというはやる気持ちがあったかもしれない。	3.対象児から離れて対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育室へ移動の場面だったため、階段と保育室を繋ぐ位置にいて立った。本足を挫き鳴き声をあげたのすぐにその場にに駆けつけ様子の観察を	2.担当者・象児動きを見なかった	(具体的内容記載欄)各職員はクラ担当スの対応だったため、担当者、対象時は見ていなかった。	ウォーターサーバー他も並んでいる離れた場所から並ばせている気が持ちに転ぶ可能性がある。	ウォーターサーバー近くに保育士は移動して声をを掛け気持ちを落着かせばせてゆく。	
3711	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	10名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	2.女児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士衝突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	—	保育士が声掛け等ちん走ないよ子供にきをとらうたちんと伝えろ	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	今回の事故は施設、設備等に原因為しが特に無いが	1.集団活動中・見守り	—	危険を伴う行動をしないように子供にきと話す	1.いつもどおりの様子であった	整列をその為走って行く時に面した男児とぶつかる。	2.対象至対象児で近く対象児見た	至近距離にはいたが一瞬の出来事でつかんだ出ぶつた本人は見ていなかった。	1.担当者・象児動きを見た(至近距離にいた)	他の子どもを整理するために示をした。	—	保育士が声掛けを行い走らないよう子供たちにきちんと伝える。	
3712	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	8名	名	3名	名	3名	1名	1名	名	3名	3名	1歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(8)回程度/年	1.基準以上配置	—	送迎時の子どもの見守りについて、保護者へ方え保護者の啓発方法を考える	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	—	玄関周辺に子ども躓きやすい箇所がないか点検する	7.その他	—	保護者に園舎内迎ならにまでもらことにしてしている。園内えはいの送迎時に園外を見ることが育者が見守ることは体制上困難であり、引き続き者のもとで見守ってもらう	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じに登園した	保護者に内迎ならにまでもらことにおまでもらうとしても、送迎保護責任とでのもを中者のもの子ども見守ってもらにしているため	4.対象動見児をていた	2.担当者・象児動きを見ていなかった	保護は園舎までことにおまでもらうとしても、送迎保護責任とでのもを中者のもの子ども見守ってもらにしているため	—	送迎時の子どもの見守りについて保護者に啓発する	
3713	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0	9	2	0	0	0	0	3	3	1歳	2.女児	保育室を歩いていた時に、走っていた他児とぶつかり、バランスを崩して転倒した。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士衝突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(その都度)	1.基準以上配置	動きが予想できなかった。	事故トラブル報告書の内容の充実と検討会数を多くする。子ども達の子動きて予想して保育する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/週	なし	なし	1.集団活動中・見守り	つきをするがいるが、子はいってしまった。	オムツ交換は1人で行い、オムツ交換は1人で行う。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育室を歩き回っていた。	4.対象動見児をていた	(具体的内容記載欄)ケガ等は無いように子どもの達りをした。	2.担当者・象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)一人は児のオ交換をしていた。一人は排他児ムツ便処理のトイレに入っていた。	本児はまだ取り弱く、ぶつかったバランスを崩し、転倒した。	保育室では走らない様に、興味を持てるもの等、環境を整え見守る。	
3714	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11	名	名	11	名	名	名	名	一時保育	3名	2名	2歳	1.男児	・事故当日、保護者と共に受診。保護者の意向によりレントゲン撮影は行わず、エコーをとり、右下腿挫傷との診断となる。再診時（翌々日）、歩かない状況が変わらず、保護者同意のもとレントゲンをとり、今回の診断となる	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	螺旋状骨折（右脛骨）	2.自転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	—	夕方という時間帯子どものの状況（疲れや中力の集中低下により、転倒や怪我につながる行動が見られることを予測育ことをした保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	子どもの考動線を上えた、遊び定で、の設定を行う。	3.個人活動中・見守り	—	子どもの見守りつ、遊んでいない玩具は片付ける。状況によ変えるなど遊び中で集中にきる環境をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	2.対象至児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)子どもの全体動き見える位置に座り、他児と関わっていた。	2.担当者・象児動きを見なかった	(具体的内容記載欄)排泄のため、トイレについていた。	—	担任以外の保育士が保育を担当していた。保育にあたる保育士が子どもの状況を把握し、動きが把握できる位置に立つなどと視覚をつくようにすることを改めて確認する。	
3715	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	名	名	名	13名	11名	12名	名		4名	3名	3歳	2.女児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	クラス担当の名ちうち2名休体が産入り、代替の職員の配置はあったものの、一人のクラス担当が児を担当うまく把握できていない状況にあり、見きなかった。	幼児担当の職員は大きな人の動きを確認し保育者にあたることを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	入園したばかりで園の環境になれていなかった。	新しい環境に慣れ近くまで見守りを丁寧にしていく。	1.集団活動中・見守り	対象児の発達体発達や体力面や身体面等を把握しきれない態度、庭での活動をさせてしまった。	対象児の徹底把握。活動に参加させる際の見極めと注意点の確認。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育の経験はあり、不安がっり、遊べ様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児見た	(具体的内容記載欄)他児の対応をしていたが、転んですぐに本児につき、身体の状況を確認し、手洗いうさせ事務室の看護師に見せに連れていく。	1.担当者・象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他児の対応をしていたが、転んでそばにはいなかったが様子を見守っていた。	スコップを持っていたので、足がもつれて転倒と考えられる。	スコップなど大きなもの、長いものなど手に持って走ることの危険性を子どもたちに伝えて、そのことをお約束として守ってもらい安全に遊べるよう指導していく。	
3716	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	名	名	名	名	7名	10名	名		1名	1名	6歳	2.女児	—	1.昼外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折 顆上骨折	2.自転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ソフト面については事故発生要因は考えないと考えられる	ソフト面については改善策はない考えられる	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	転倒した付近に危険物はなく、施設点検もていることから、安全面は確保できていた。	所庭には芝て敷いあり、転んでもしがにくい環境である。今後も点検等で、全面の保に努める。	1.集団活動中・見守り	子どは保育士の目の届所で遊んでいる場所で遊びをしている子はいなかった。	達の服は適ているか、チェックする。	子どもが着用いる衣物や運動しるものか、	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段と変わらず、体を動かして元気に遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)対象児のそ遊びを見ていた。	担当者・象児動きを見なかった	(具体的内容記載欄)所庭に出ていた、４・５歳クラス名児担当１名であったため、他の職員はいなかった。	—	—	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面								環境面			人的面								
									異年齢構成の場合の内訳																																																
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の種類	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3717	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34	0名	0名	0名	14名	9名	11名	名		2名	2名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	ブランコ乗りのルールとして手を離さないことを持ったまま後ろ向きに大きく揺れることは前から乗り物・物・ブランコ方向に大きくブランコを漕ぐことは禁止されていた。	ブランコ方向転換の見直しを行う。（危険と判断した子どもに対し、保育士は、保育留守もルールを周知徹底し、保育士は、意識し見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	—	対象児の想定外の行動による事故で施設・設備備等の点検防ぐ。	1.集団活動中守り	公園は園のすぐにあり、約週3回遊びに行く公園	保育の状況は、普段通りで改善するところはない。	1.いつもお様のでった	(具体的内容記載欄)9月頃からブランコに漕ぎ手を上げるようになり、普段通り上げて漕ぐ。耳元飛ぶと大きく、蚊ができないと払おうと右手をを離し、バランスを崩し両手を**離して落下する。右半身から落下。**	2.対象至対象児の近で見た	(具体的内容記載欄)ブランコ側に付き、全体を見ながらブランコを漕いでいる子を見る。漕ぎ大きくいでいる対象時に「手を絶対に離さないでね」と声掛けをする。落下する瞬間は見ていたが、落下を防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児動きをていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体を見場所で見渡せる大縄ていた。ブランコから少し離れた場所で落下を防ぐことはできなかった。	—	大きくブランコを漕いでいる対象児を一度止めて、漕ぎすぎないように促すべきだった。	
3718	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	名	名	名	名	名	名	0		2名	2名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口含む)	外傷性歯の脱臼・外傷性歯の亜脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	—	いつもいう活動では行っやすいので故がかかるこれるしかしないと意識もって育する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	床が板張りのため、靴下滑りやすいので、シューズを履いた方が安全。保育室内で走ったりしないように、必要に応じ声を掛ける。	3.個人活動中守り	保育室に移動後はシューズこになっていたが、シューズを履かず靴下のままであった。	朝の合同保育から移動後は、すぐにシューズを履くよう掛ける。	1.いつもお様のでった	(具体的内容記載欄)所持品の気末に気持ちが、保育士に促されて始まりながらもずりしした。	1.対象児マンツーの状態(対象児と接していた)	(具体的内容記載欄)所持品のすに始末をすように掛ける声は、出席ノートを確認するための間は離した。	2.担当者・対象児動きていなかった	(具体的内容記載欄)担当以外場にいなかった。	—	園児から目を離さず、保育室内での活動の仕方を指導する。	
3719	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	—	23									4名	4名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	無し	保育士の立ち位置をしっかり、クラスを見ながら、ちゃんと見ていない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	前もってを見てから危険物がないか確認する。	1.集団活動中守り	無し	環境がそれ年齢に合っているかを再度確認する。	1.いつもお様のでった	(具体的内容記載欄)	3.対象児から離れたところ対象児を見た	(具体的内容記載欄)	2.担当者・対象児動きていなかった	(具体的内容記載欄)	転倒し際に人の保育士状況が把握や共有がなく、すに異気こ常に付く	園外保育での保育士の立ち位置と子どもの状況把握の共有の改善。	
3720	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20	名	名	名	8名	名	12名	名		2名	2名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	施設から指示された人員を配置する。	人員配置は人に問題はない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3～6歳使用児が遊具で年齢できる具で無理なく使えた。	安全点検を行って、特に問題はない。	1.集団活動中守り	使用したことのない遊具ので、以上の注意が必要だった。想た	一使つずつ子どもようにする。	3.いつもより活活発で動的あったた(理由を記載)	(具体的内容記載欄)初めて子ども遊び気持ちが高まった。	2.対象至対象児の近で見た	(具体的内容記載欄)使う前に約束事(ゆっくり手をかけ、次は足をかけて登る。降りると、「今から降りま」と声をかけ、前のだちがってから次の友だち終わって友だちと交代する)をしてから子どもに使わせ、側で見守る。	2.担当者・対象児動きていなかった	(具体的内容記載)周辺で遊ぶ子どもたちを見ていた。ブランコから少し離れた場所で守っていた。	子ども3人その場所を使用していた。	子ども一人よつずつ使うようにする。	
3721	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21	0名	0名	0名	7名	8名	6名	名		2名	2名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	環軸関節回旋位固定	8.その他	1.あり	2.不期に実施	2.基準配置	—	縄跳びの正しい跳び方の指導方法の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	縄跳びの長種類やさの調整を行う	7.その他	縄跳びの本が合っていなかった。縄跳びの方でなく回うきかった。	縄跳びの正しい跳び方を指導する	1.いつもお様のでった	(具体的内容記載欄)両手で縄を持ち、腕を大きく前跳びをまわしての練習をした。	3.対象児から離れたところ対象児を見た	(具体的内容記載欄)園庭全体位置で見渡せる子どもたちが縄跳びする様子を守り、迎えに来た保護者対応に行った。未児が首の痛みを訴え、お迎えに来た母親に共に視診をし、保冷、湿布を取り行き、すぐに処置	1.担当者・対象児動きていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他の遊具で遊んでいる見守り、見共に子を守ると、受け持ちクラスの保護者対応を行う。	—	目を離さない、見守り、保護者対応等、役割を明確化する	
3722	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不期に実施	2.基準配置	跳び箱の真横で補助ができていなかった	跳び箱を行う際は、速やかに援助ができるよう、跳び箱の真横に補助につく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	毎日実施	跳び箱だお安正しが跳び方ができていなかった	繰り返し、且つ丁寧に発段階や連段階や順序を考慮した指導を行う	1.集団活動中守り	複数の支援が必要な援なな園児おり、保育士は安全に気配りつ、クラス全体を見ながら補助を行っていた	支援が必要な児に保育士と、つ保育士と遊具に分担役割を明確に行う	1.いつもお様のでった	(具体的内容記載欄)いつもとわらない変わる様子で、運動遊びも意欲的に取り組んでいた	2.対象至対象児の近で見た	(具体的内容記載欄)跳び箱で様子で、突然近くで見ていた。突然バランスを崩した手本児に伸ばしたが間に合わな	2.担当者・対象児動きていなかった	(具体的内容記載)他のもの対応をしていた	—	運動遊びを行う際は、＋αの職員配置を行う	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員										マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・子育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
	認可・認可外			月	時間帯													年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因																											
																							死因	負傷状況	受傷部位		診断名																										
3723	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具から等の転落・落下	左ひじ関節脱臼骨折	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	遊具の破損等はないため、これまで使用していきたい。	1.集団活動中・見守り	特になし	これまでに注よりに意するようにしていきたい。	1.いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)元気で活発な子だが、少し低学年で、身長が低く活動内容に無理があった。	(具体的内容記載欄)運動会に向けて運動会での見立て、鉄棒を飛び越える内容を一人ひとり行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)用具の片づけや鉄棒の取り組みについては確認したが、内容について認識していなかった。	鉄棒の高さは児童が全員無理、前回り、足かけなど全員出来ていた行った活動であったが、担当は新任目の職であり、運動会の練習という活動を行った	各職員同士での活動内容の共有、子どもたちの活動後の状態など新任に向けて研修等、こまめに行っていくことが必要だったと思います。	
3724	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	名			5名	5名	7名	名	1名	1名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	3.子ども同士突かるもの衝によるもの	左母趾中足骨骨折	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	今回の事故には特に問題がなかった	改善点は特になし	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	今回の事故には特に問題がなかった	改善点は特になし	7.その他	今回の事故には特に問題がなかった	改善点は特になし	1.いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)足洗い場へ向かおうとした後、後ろから走った友達のふざけ、足を手で押さえた。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)足洗い場で他の子ども達の足を流ていた為、危険であると知らせようと声をかけたが、衝突することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう1人の担当者は、室内作業にてをした。	子ども足の洗いが、足場で足洗い来ていないもみる子達をいる状況になった。	足洗い場に子ども足洗いは走らずに歩いてくるように促し、子どもが全員揃ってから足洗いを始めるようにする。	
3725	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	2名	7名	11名	13名	16名	18名	名	11名	4名	6歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折、右前距腓靭帯損傷	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	—	マニュアルがあることを職員に周知していく。職員に定期的に安保育全や子どもへの関わりについて話をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	—	安全点検の時だけでなく、危険いか常に意識するようにしていく	7.その他	—	子どものよ様子を、すぐに対応できるすよる。	1.いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)いつものように保護者に引き渡し後、園庭のプランコで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保護者に引き渡した後のため、保育室にて保育児をした。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)保育室にて担当年の保育をした。	—	プランコを降りて園庭側に行く際は、タイヤは飛び越えたり乗ったりするのではなく、ゆっくり歩いてタイヤをまたいだり、タイヤとタイヤの間を通った	
3726	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	17	名	名	名	名	名	名	名	4名	3名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	—	今回の事故の検証、マニュアルの再度の行の周知を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	毎日の遊具等の安全点検と危険箇所の全点検と思われる箇所の報告等の改善や改善	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)片付けや他の子どもに追いてしまって、転等の状況に迫いてしまって、時の状況を把握ができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)給食前で片付け等を各クラスで行ない、それぞれのクラスだったため、その時の状況が把握できなかっ	活動の切り替え時だったため、他の子どもや遊具の片付け等色々な事に注意散漫になってしまっ	特に活動の切替は事務所、フリーの職員も対応し、広い視野で様子を把握できるようにする。	
3727	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	30	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の鎖骨(令和元年11月14日(木)完全治癒)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	—	今回の事故の検証、マニュアルの再度の周知を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	園外保育活動では、周囲や地面や様子も考慮に入れ事前の下見や予見をし、安全面に配慮した計画する。	1.集団活動中・見守り	毎日保育に活用している。毎月の自己点検をしっかり行い報告する。	砂に足取られる場合るので、草取りはもちろんもちろんならと地面を行っていく。	1.いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・準備段階から一人ひとりの表情をみて並ばせたり、呼名前を走るを気持ちを意識させていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)・転んだ様子も把握し、駆寄り寄ったりをつかった、児が立ち上がり走りしたのでながらゴールまで見届	園庭では転ぶことなく走っていたので、大丈夫と本人を信頼してしまった。	本児にとって初めての運動会なので、うれしい気持ちを受け止めながらも、子どもの動きを予測して、環境に慣れるよう少しずつ活動していくようにする。	
3728	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	名	名	名	5名	12名	14名	名	4名	4名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指亀裂骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	見張りの職員の数も十分で、近くにいた職員が、対象児が一転んだ場面を見たが、止めることはできなかった。	職員間での見張り詳細な場所を決めていたので、各場所に行き届き、入っ場面で転ぶことも近くで見ができたため、引き続き見守りをしかり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	何も足もつれも平地でがもたため、ハード面での問題は何もない。	走ることに遊び中に夢っている時は、転ばないように声をかけ、しっかり守ると見る。	1.集団活動中・見守り	全体の他、役割の場所の見守りをした。	いつ、危険なかるため、未然に事故を防ぎ引き続き全体の、ポイント毎の守りを見しっかりと	1.いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)いつも通り元気に	2.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児が怪我した近守をしくりを対象児が転ぶ瞬間、手を	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)別の場所で見守りをしていた。	ポイント毎にかっと見守りを行ったが、瞬時にことできなかった。	子どもの予期せぬ行動に、すぐに対応できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3729	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	20	名	名	名	名	名	名	名		3名	2名	4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	—	担当クラスだけでなく、複クラ同じ人数のクラスが同じ場所で遊でいる時は、連携しながら子どもたちを見守る。	2. 不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	コンクリート部で走ったことで転倒。分でたこの砂ですべってとられる。	状況を見て砂などが必要、掃く配慮	1. 集団活動中・見守り	タイヤやごと道具がホール前のコンクリート部分に置いてあるため、自由に走ることはできる状況だが、砂ですべりやすいと思うが、砂ですべりやすいことが考えられる。	走ってはいけないところ環境設定(走れないように遊具を配置する、遊びの仕分けなど)に配慮する	1. いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)普段から由にあぶることるる虫取り好きだ大ダンきでゴムシを捕まえ、れしくいうはしまった。	3. 対象から離れた児童がとこで見ていた	(具体的内容記載欄)園庭での自由遊び、他のクラスも園庭に出ている。落ち着いて虫しを探しているとき、配慮が必要な児童をみつけ全体を見ている。	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	(具体的内容記載欄)他クラスの児を見ていた。	—	3クラス園庭に出ていたので、横のつながりから遊びを見守る。	
3730	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	4歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手第三指基部骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	トイレの見守り職員は配置されていなかった。	子ども達にトイレの使い方を確認し、触ようにのを伝えた。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	—	トイレの箇所は危ない所かを点検をしている。	1. 集団活動中・見守り	トイレの中かを押えたり、外から押さえたりすることで、ケガが発生した。	子ども達にトイレの使い方を確認し、扉にのは、触らないように伝えた。	1. いつもお様でもり子あった	いつも通り、給食後にトイレに行ったときに事故が起こった。	4. 対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)クラス担任は、クラスでの子どもたちの保育をお行っており、本人数トイレに行ったことは、確認した	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	4歳児は、一人で保育をしていたので、他の職員は不在。	—	子ども達にトイレの使い方を確認し、扉には、触らないように伝えた。	
3731	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	12	名	名	名	名	12名	名	名		2名	2名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	職員間で、児の状況について又、集団の状況について日職員間で話しをいのを設けていく。	公園の規模により数や職員を増やすことも検ご討しく。	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年公園に行った都度	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年公園に行った都度	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	前日の天候などに公園の状況を確認する。	園児の人数やスのクラの割合遊ぶスペースや遊びの内容に配慮する。	1. 集団活動中・見守り	予定していた公園に他園の児が多かったため、広い公園へ移動した。鬼ごっこをするときに他園の児がいない場所を選んでいた。	園児数、保育者数により行の公園のしに選択をしていく。	3. いつもより発で活動的であった(理由を記載)	ルールを守れなかった、他児距離に問題はなかった。	2. 対象至児の近で象見た	自ら他児に声掛けを実施していた。危険じを展開で、性感じを見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの児全員でひとつの遊びをしていたので、一緒に見守っていた。	予測危険個所見守り対応必要であった。	危険な行動をしていなくても、予測し保育にあたっていく必要がある。	
3732	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	11	名	名	名	名	名	名	名		3名	2名	2歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具から転落等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	—	今回の事故の振返りも含めた危機管理マニュアルを策定し、グループワークを含めた園内研修を実施している。	1. 定期的に実施	毎日安全点検	1. 定期的に実施	毎日安全点検	1. 定期的に実施	毎日安全点検	アスチックの1階床面は、ゴムチップエルションとクッションとなっているが、骨折をを防ぐことができたとをなかった大型アスレチックの上に緩衝材を設置し、安全対策を講じた。ゴムチップの更なる衝撃吸収対策を講じた。		1. 集団活動中・守り	発する児童が交錯し事故発生人の交ぎを2歳児童がしたことによる故	動きが活発な子ども多いが、アスレチックの中のループで重なりもしないようにしていく	1. いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)いつも通り同じように活発なしを動きをしていた。	4. 対象児動見のきていた	(具体的内容記載欄)２人の動きが見える位置にはいたが、反対側にいた児の危ない動きを制止する位置にはいなかったため、他児の危ない動きを制止する背を向け事時の事故であり、落下の瞬間には間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	(具体的内容記載欄)大型アスレチックの周りを３人の保育職員で守っており、互いの間隔を保ち、位置関係は保ちながら活動しているが、他の職員からは見えない箇所での落下事故であった。	—	保育者間の配置と子どもたちの安全の確認を常に行い、危険回避の目掛けを徹底する	
3733	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13	名	名	名	名	6名	7名	名		3名	1名	5歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	遊戯室でいた人数が少なかったのまだ少なかったので通常は保育士3人体勢で等で行っているが、当日は保育士3人になにてした。	異年齢での活動時には任同士連携を取りながら、園児の活動状況をよく把握する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	安全を園児が思いやりがけない遊具等の方をするあることの正し方で、使いを園児に確認していく。	1. 集団活動中・守り	—	園児の突発的な行動にも対応できるよう、保育者間で連携を取り、全体を把握がら進をなし保育を進めていく。	1. いつもお様でもり子あった	(具体的内容記載欄)身支度をさせ、友だちを誘って遊び具室に行き、よくいる子ちのうなかけ遊びをしていた。	4. 対象児動見のきていた	(具体的内容記載欄)	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	(具体的内容記載欄)遊戯室にいた他ども室に職員のたちがトをしてラブルとして起こしていたので対応したので対児の動きを見て	—	異年齢での活動時には各担任同士連携を取り合いながら、園児の活動状況をよく把握する。	
3734	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	26	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	1. 遊具から転落等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	危険予知の意識不足	少しでも危険を察知した、安全を確認すを確認する届けるまで見	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	三輪車などの遊具で遊ぶガ予想される止エリア内ケガ禁止エリアに進入でなどに進入できないようドやなガ目印がなかった。	進入禁止エリアの入口に壁になるようなガードを設置	1. 集団活動中・守り	三輪車を放したくない手くめ三輪車に進入し、更に30cmくらいの小さいから乗り立ちで降りて来た。	進入禁止エリア前、立ちなられるように入っている物。壁になるような物。子ども達一人一方で乗り場所を子ども達一人一方で乗り場所を確認した。	3. いつもより発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)いつもテンションで活発であるこの子は、いつも以上にハイテンションで高くこち回っ声あち高くこち回っ動いていた。	4. 対象児動見のきていた	(具体的内容記載欄)他の子の遊び場にいて、児禁エリアに進入エリアに三輪車入った子のを見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見てた(至近距離にいた)	クラスの児全員担任なくで担任を代替は、小山に三輪車で登って行くので、「危ない」と声掛けとしたが、地帯安全に戻るまでとしなかった。	担当職員では三輪車で小山付近に来てはいけないことを知っていたが、代替職員には伝えておらず共通理解していなかった。	日頃から年齢毎の約束事を代替職員にも知らせ、共通理解しておく。その日の確認事項を職員間で意思疎通していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者										ソフト面					ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3735	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	25	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2. 自転倒・衝よる突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	—	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	—	1. 集団活動中・見あ守り	戸外遊び手前に足を動かし操をせず、子どもへ出たいという気持ちまそのまま自由あそびを始めた。	戸外遊び手前に手足を動かし体を準備運動をする。戸外へ出たい気持ちの自由あそびを始め	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)サッカー遊びは本児がいつでも挑戦でいる児も遊んでいる遊ぶ児もいつも通りであった。	3. 児童から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担当保育士は、自由に戸外で遊んでいる子ども全員を全体的に見渡せる位置で観ていた。補助の保育士は、障がい児についていた	2. 担当児の者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)補助の保育士は障がい児についていた。乳児と年少児の保育室にお任せしていた。年中組は戸外へ出よ中で室内運動会、子どもは自信を付け、活動的に動き出す姿や、挑戦しようとする気持ちが現れ、好奇心が旺盛になり意欲的な	活動の前に、気持ちを落ち着かせたり、遊びの約束事を再確認し、事故防止に備えていく。	
3736	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9	名	名	名	3名	5名	1名	名	4名	4名	3歳	1. 男児	—	8. その他	1. 負傷	—	5. 口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼・外傷性歯根破折	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	重要リスクの確認不足	全職員に当該園のリスクについて周知を図り、再度周知徹底を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	テラスにオルシーツ等のテラスを干しており、角になってしまう部分があった。	なよく洗濯物に干し、物の干し方や大きい物は角に干した。子どもの動きが出来ないように、子ども動線に気付き、物の動線を工夫する。	1. 集団活動中・見あ守り	テラスは走らないことを繰り返し伝えるようにする。廊下やテラスとは徹底して伝えるようにする。	部屋に移動の際、歩き方の(忍歩工夫(忍び足)でみている。ウサギになってみる。)跳ねて等、楽しみながら移動する工夫する。	3. いつもと活発的であった	(具体的内容記載欄)サッカー遊びが本児がいつでも挑戦でいる児も遊んでいる遊ぶ児もいつも通りであった。	3. 児童から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保護者がお迎えにお来られてそれぞれ気ちらが向いて子どもがテラスに出ている子ども達とかったが、子どもの動きの確認が足りず、またがテラスに出て、走っている事に対しての声掛けが出来ていなかった。	1. 担当児の者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他児や部屋に移動するお迎えの向かいり、担任に行ったお迎まで向いらず、声掛けなかった。	同声掛けが職員が見ず、自判でのの分断行動してった。ま職員残り部屋子達のにも楽しなる環境が作れていかった。	必ず職員間に声掛けを、行動して。居残りの部屋には、子ども達が楽しめるような環境を設定する。移動する際は、保育士と一緒に余裕のある時間帯で移動する。送迎時、まだお迎えこない子ども付いて出ていかないように見守りをする。	
3737	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	8	名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	3歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	4. 創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	下顎挫創	2. 自転倒・衝よる突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2. 基準配置	・年齢に合った遊びについて学びを深める。	・職員間で再発防止に向け、事故について止に伝え、年齢に合った遊具や遊びの環境構成についてよく危険があったから改善する。	1. 定期的に実施	実施頻度(3 6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	・年齢的には大きい積み木だったもしれない。	・1サイズ小さい積み木やソフト積み木をだ積み木を準備する。	1. 集団活動中・見あ守り	足元への注意がまだまだ散漫であ年齢。	動きにあわせて、掛け声を注意喚起する。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)2歳児だが、今まで歩くことはあっても危険はなかった。	2. 対象児の児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)クラスの16人が、広場での遊びを終え、切り替わる為に片付けつくと、行ってまったにつく職員が分かれた。片付けていた職員は一緒に片付けをおこなっていた	2. 担当児の者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)広場での遊びを終え、先にして子ども行ってまったについた。	片付けが遅くなったと焦っていたかもしれない。	お互いの職員で声を掛けあい、分散してしまっても焦らず行動する。	
3738	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	29	名	名	名	名	名	名	名	2名	2	5歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	6. その他	5. 下肢(足・足指)	左第5趾捻挫	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	—	運動中の子どもの見方の改善検討をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	—	特になし	1. 集団活動中・見あ守り	—	担任が2人いるので、子どもの様子を分担把握(運動している子、待っている子)をする。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	(具体的内容記載欄)	2. 担当児の者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	運動中の子どもにはかり目が行き、待たせて子ども目に配っていな	担任が2人いるので、子どもの様子の分担把握(運動している子、待たせている子)をする。	
3739	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	6名								9名	9名	6歳	1. 男児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足小指骨折(具体的診断名は不明)	2. 自転倒・衝よる突によるもの	1. あり	2. なし	2. 不定期に実施	必用の都度	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 不定期に実施	使用前・後	特になし	特になし	7. その他	園児の受け入れ前の事故であるため、保育者の外での事故であると思慮する。	保護者に見て対して守りかりと行うよう注意喚起促す。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)受入れ時も、普段通りであった。また、保護者にわった子は	4. 対象児のきていなかった	(具体的内容記載欄)受け入れ園児とともに達と合同保育室にて、園児の見守り及び保護者対応を実施	2. 担当児の者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児や部屋に移動するお迎えの向かいり、担任に行ったお迎まで向いらず、声掛けなかった。	職員間で声掛けをし、保護者が足の痛みや違和感を保育士に伝えられなかったことで、発見が遅れた。	朝の受け入れ時の視診を丁寧にし、保護者にも健康状態を確認する。また、子どもの動きに不自然なところがないか細やかに観察し、健康状	
3740	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	28名	名	2名	5名	7名	6名	8名	名	6名	2名	3歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3. 子どもの衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	—	部屋の形がL字なので、遊ぶ時の玩具の種類・配置の再確認をおこなった。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	毎月の点検の継続と思われる項目の必要と点検項目を継続していく。	1. 集団活動中・見あ守り	—	職員間で連携しながら、見死角ないよう出来ない声を掛け合い必ず保育する。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)＊座ぶ遊よりくと好で楽ういた。	2. 対象児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)＊すぐ近くにはいたが、L字になっている部屋で出会いがしにくい為、防ぎことが出来なかった。衝突する瞬間に急ぎ子どもの傍に行ったが、間に合わず、転倒した児を抱き上げ状況を確認し	1. 担当児の者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)＊転倒し児づいたいたので、ざわつきを落ちち着かせた。	—	全体での玩具の片づけの際は、保育士は子ども全体の動きをみる。1～5歳児と年齢に幅があるので未満児は、先に別部屋に移動する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3741	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	—	名	名	名	名	名	名	名			2名	2名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	—	なし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	—	なし	1.集団活動中・見あり守り	捕まえることに夢中になり、転倒してしまった。	自分で加ながこだ減しらと走るまだ難しい。	1.いつもお様でのもり子あった	いつもとと変わらない様子であった	2.対象至児の近で対象児をていた	本児と一緒に鬼ごっこをしていた。本児は職員のすぐ後ろを走っていたので、転倒した時もすぐに対応できた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のもたちとどんぐりしを拾っていた。転倒場面は見ていなかった。	子どもが自身が転倒するもしないという危険を感じていなかった。	子どもが転倒するもしれないという危険を感じていなかった。	ケガにつながるリがあるこを故を中で子ども日ごろから自身で気付けるようにする。	
3742	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10名	名	名	名	名	2名	8名	名		1名	1名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どもがそれぞれの場所で活動していたため、1人を見守る職員がいなかった。	1人ひとりの見守り	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	うんていの下の砂がすべりやすかった。	うんていの下に、鉄棒を吸収するマットを敷く。	1.集団活動中・見あり守り	うんていや鉄棒の握り棒方、飛び方がかっこいい。	棒の正確な握り方、両足で着地することを伝えていく。	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)何度もうまくいこんで挑戦していた	2.対象至児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)近くで本児を応援しながら児とを他児とかかわっていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)近くで担当保育者児と一緒に応援していた	鉄棒、うんていなど危険を伴う遊びの場合は、保育者が側で援助する。	鉄棒、うんいなど危険を伴う遊びの場合は、保育者が側で援助する。	
3743	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	31名	0名	0名	0名	9名	11名	11名	名		4名	3名	3歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	後頭部挫滅創部	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	活動切り時の替え職員配置に改善の余地あり	職員同士で掛け声合いを連携をとる。全職員(臨時職員含め)に危険を目行動を見たらに行撃止める固知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	危険個所を予測せず、環境面で配慮する	頭をぶつけた棚の角を裏側に梱包材を貼る。棚の変更しない動かよう固定する。	1.集団活動中・見あり守り	夕方の合同保育になる引継ぎの時間帯であった。	引継ぎは幼児3クラスをホールに集めて座らせた状態で行う(引継ぎで目が届かない状況をつくる	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)ママコーナーにいた。	4.対象動見ていた児のきなかった	(具体的内容記載欄)引継ぎで受傷の様子をみていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児のみをみていなかった	夕方の合同保育になる引継ぎの時間帯あるとき職員位置が偏りがち	死角を作らないよう全ての子どもを目をみる職員を一人配置。一人一人をきちんと把握しておく。	
3744	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	—	名	名	名	名	名	名	名			名	名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	第三指基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	遊具を開放して遊びには、職員がいなかった。	鉄棒を行う時は、必ず側に職員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	遊具には、特に破損個所などは見当たらなかった。	自体や見られたら	今後も、使用前には遊具だなど周囲の点検を必ず行う。	1.集団活動中・見あり守り	園庭全体使い遊びていたんが、危険箇所に職員が配置されていなかった。	大人の動きと配置にを、遊具周囲には必ず職員が配置する。職員の目が届かない時は、遊具や遊ぶ範囲に規制を行う。	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)午前中、運動面で体力を消耗していた。	3.象児から離れたところで対象児を見ていた	近くの水残付場にて片付けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付は他の職員が2名参加していたが、その後は1名での保育だった職員は不在だった。	時職員が足りない時に、他児の保育士で対応だったため、手が足りなかった。	園庭を開放し状態であったが、1名の保育士で対応だったため、手が足りなかった。	職員が足りない時には、職員の補充を行うまたは遊びを中止する。	
3745	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	17名	名	名	名	名	名	名	名		4名	2名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	—	個人に合った活動を職員間で共有すること	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	—	マットのさら定期認し体育したにすなど定期の確認プレに適ものる	3.個人活動中・見あり守り	—	跳び箱用のマットを厚みのあるにする。	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)何度も跳び箱をし、成功する中で、自信がついていきた。	児マンマ状(対にてとツーの態象児接した)	(具体的内容記載欄)対象児が跳び箱を使いたいという意欲と自信を保育者が過信し、対象児が下する手伸瞬間に差しが間にを合わな	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)同じ室内にいたが、の鉄棒指導をしていたため対象児を見ていなかった	—	園児の自信に過信せず、補助を行う	
3746	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30名	名	名	名	13名	8名	9名	名		3名	2名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保育者が上置さ基準に配置されていたが、分散して為、大鼓橋で遊ぶを中止てしまうに、事故がっかなになった。	保育者の配置と状況を太鼓橋の使用を判断する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	太鼓橋の敷いたマットが下ていて厚さ1.5cmとの薄い落下衝撃にられかった。	太鼓橋で遊ぶは設置済マットのにの、厚さ10cmの別素材の安全マット設置した。	3.個人活動中・見あり守り	太鼓橋で際遊ぶは、保育者が対象児目をない遊ぶから離状態ぶべきだった。	太鼓橋で遊ぶ時の約束を繰り返ども子に確認せ、保育者が側で見守る。安全な靴をいか確認する。	2.いつもお気がっ元なった(理由を記載)	対象児は太鼓最近太鼓橋をるるとかかるが加減がから分の上所にした。	2.対象至児の近で対象児を見た	対象児の対象至近で見ていた、対象転落児として、また時補には、助が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒や砂をし子遊びている児の為、対象遊びをていなかった。	保育者が基準以上配置されていたが、他の遊具に散見守っていた為、咀嚼くことが出来	園庭遊具で遊ぶ時は保育者が見守りできる範囲で遊ばせる遊具を制限する。	
3747	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20名	名	名	名	8名	9名	3名	名		2名	2名	4歳	1.男児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第3指指第4指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度5～10回/年	2.基準配置	子どものうしし行ヤリリリ(ヒヤリハット)の予測ができなかった。	子どものうしし行ヤリリリ(ヒヤリハット)の事例内容についてさ検討に意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度48回/年	1.定期的に実施	実施頻度13回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	ウレタントのが十ない下下マットが厚分でと思いてにくが、を吸収をくい衝撃をるるはは枚なかった。	ウレタンのさら一マットにもを敷枚を。(2枚敷く)	1.集団活動中・見あり守り	10月入園で初めての遊びだったので、安全に跳ぶための約束に事前に確認しなかった。	遊びを始前に安ず遊ぶ約束は必に遊ぶための約束を具体的に確認する。	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)　縄とびボックスからクラスのトンジャンプをした。	2.対象至児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)ゲームボックスの横でジャンプする様子を見ながら安全面に配慮していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の遊びをしている子の様子を見ていた。	入園間もないため、個々の経験や発達、特性や危険行動の予測が十分でなかった。	個々の経験や発達、特性について把握し、職員が共有し、起こりうるかもしれない行動(ヒヤリハット)を細かく予測するとともに、行動を見守	
3748	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60名	名	名	名	25名	15名	20名	名		4名	4名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	お迎えの時間帯だったので、他の対応もし、保護者対応等もした。	保護者対応が目を達するにすように、子へようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	台自あまり斜め高いはたのガ要滑り傾なく物でかっていて、ケをする原因とはは思っていた。	どんな場所でもが原因がかあるなるかもという気持ちっ。	1.集団活動中・見あり守り	お迎えの時間帯だったので、他の対応等もしていた。	保護者対応しながらも目を達るにすように。	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)特別に運動能力がわけでも低いなく、活発**子なので、遊具に対しての危うさは日頃感じていない。**	4.対象動見ていた児のきなかった	(具体的内容記載欄)　けがをする	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)　泣いているを	—	保護者対応しながらも目を子ども達へ向けるようにする。	
3749	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31名	名	名	名	10名	8名	13名	名		3名	3名	4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士衝突による突のにもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見あり守り	特になし	・子どもたち安全ども安び方にもいて話し合う。	1.いつもお様でのもり子あった	(具体的内容記載欄)友だちと一緒に鬼ごっこをしていた。	4.対象動見ていた児のきなかった	(具体的内容記載欄)保育室で子どもの制作活動を見ていた。戸外遊びをする子どもを4、5歳担任が見てい	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)4、5歳児担任が転んで泣いた対象児を部屋まで連れて帰った。	特になし	・子どもの遊ぶ様子や動きをよく見て事故防止に努める。特に戸外遊びの時は3、4、5歳担当職員が混合で見ていることが多いが、連携を	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3750	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26	3名	4名	5名	4名	8名	2名	名		5名	4名	1歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕両骨骨折	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	新採の保育士のい事の中で防止のマニュアルもなく、リスクの意識が低かった。	園庭の大型遊具にかかわる事故やヒヤリハット事例を収集・分析しマニュアルを作いく。具体的にどのような場面を見危なと思わたら危ないとなければならないについて保育士間で共有し、危険予知のレベルを高めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転倒、落下が想定される範囲には、安全マット（衝撃吸収性能を有する素材）をおいくようにする。	1. 集団活動中・見守り	事故防止ルールが保育士間で事前に確認することが徹底されず、それぞれの責任範囲が明確になっていなかった。	その場を離れる際には、近くにいる保育士に声をかけ、危険に予知の必要な情報共有をしていくこと。	1. いつお様などのもり子であった	(具体的内容記載欄)天気よく、園児は全員登園した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児が大型遊具に登っていた。遊んでいる様子を側で見守っていたが、他の児童がトラブルとなり、仲裁をしていたため、対象児が落下する瞬間を見ていなかった。	2. 担当対象児の者・発見動きをついかった	(具体的内容記載欄)園庭で他児と遊んでいるため、バランスを崩すと背中から地面に落ちたところ、すぐ近くにいた保育士がとっさに駆け寄った。	事故防止のルールが保育士間で事前に確認することが徹底されておらず、それぞれの責任範囲が明確になっていなかった。	その場を離れる際には、近くにいる保育士に声をかけ、危険の予知に必要な情報共有をしていく。	
3751	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室庭・校庭等)	7. 異年齢構成	90	0名	0名	0名	29名	26名	35名	名		7名	7名	4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	なし	どんな場面でも事故につながることを話し合い、職員配置についてルールのもと再確認していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	遊具の遊び方いで確認しあった。	1. 集団活動中・見守り	なし	前の子が終わるまでは待つルールの再確認を行った。	1. いつお様などのもり子であった	(具体的内容記載欄)順番に並んで遊んでいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児の隣の動きが見ながら援助していたが、次の子がうろうろ始めてしまったので、待つように声を掛けた瞬間に事故がおきてしまった。	2. 担当対象児の者・発見動きをついかった	(具体的内容記載欄)他のもたんいで、それぞれ位置でもたちと遊んでいた。	なし	子どもの動付きに気を付けてすきに見ていくる。	
3752	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	26	0名	0名	0名	7名	8名	11名	0名		2名	2名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左側鎖骨骨折	3. ど士突るもの子衝によ	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	午前、午後ともいつも決まった時間帯で遊んでいる場所である。危険な遊びをしてはいけないが、予測出来なかった怪我であった。事故予防に関する研修を行い、怪我にならないような遊びはないか、意識的に見ていきたい。	事故防止に関する研修の取り組み	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎週水曜日)	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	隣接している公園なので、ブランコ、鉄棒などの下芝などに人工芝を敷き取り付けているもらいけて鉄棒を使うは、トをくマットに敷くようにしている。施設整備ハード面は特になし。	今回の事故は、施設設備等ハード面に関係かなと思う。	1. 集団活動中・見守り	幼児の環境としては特に問題はない	今回を含め、怪我起きた場所を事故が起きやすい場所の再確認を把握をする。	1. いつお様などのもり子であった	(具体的内容記載欄)特に無し	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)少し離れ場所で見ていた。全体を同じ子どもが子士がぶつかる瞬間は見ていたが、すぐに子どもの様子に気づいて対応した。	2. 担当対象児の者・発見動きをついかった	(具体的内容記載欄)他のもたんいで、それぞれ位置でもたちと遊んでいた。	ども子どたちが慣れていると思心感のではないか。	事故防止に関する人的配慮の研修	
3753	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	14名	名	名	名	名	名	名	名		2名	1名	4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	1. 頭部	左前頭部頭蓋骨陥没骨折及び陥没骨折による脳挫傷	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	・ガイドラインは平成２９年３月に各保育士に配布していたが、その存在はほとんどの職員は認知されていなかった。職員の危機管理意識の欠如、事故対応とその認識の甘さと言える。 ・散歩ルートは担任の計画案を主席職等が事前確認・承認するみになっているものの	・職員の危機管理意識の醸成、意識改革。そのために上記ガイドラインの内容を再確認する。 ・散歩はじめ保育危険中に関する認識や知恵を各職員でよりに積極的にる共有ためのの場やを構築する。 ・1週間分のルート含む保育計画を上席に事前報告し、承認を得て決	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	ハイグキンスコーは町道に指定されている部分もあるが、今回発生した後、今回発の事故場所は指定されていない。町の管理届いない道であった。	全が確できる間歩は、散歩は山道はしなし。安全確認は町管町道部分を行安全確認で山道中心。が確認で山道歩をするにおいても、原則町部道中心に道分を中心に通行する。	1. 集団活動中・見守り	・普段かよく通コースであったが、片道距離が約2,150ｍであり（事故現場までは約1,500ｍ）、３歳児にしやや遠方へのあった。（ただし、急いたわではないけ） ・生活リズムが狂いやすい休日明け保育であった。 ・子どもたち道の方が徹底できていなかっ	・散歩ルートの全点検を安全し、年齢に応じて無理のないコースを実施する。 ・休日明けの散歩は慎重に、近いところで行う。 ・（山道と歩くは）山道の危険を察知しながら歩きは道を避けながらなける細かな指導を行う。	1. いつお様などのもり子であった	(具体的内容記載欄) ・対象児童は、普段に比べて特になる点はなかったが、おとなし聞きの良いであるとの認識が強く、橋を渡る待機場所で「動かずにおく」ことを注意できていなかった。 ・「勇気だ」的な要素を現場を渡っており、渡り終えた	4. 対象児の動きをていた	(具体的内容記載欄) ・橋を渡る目の児童を向い視しており、橋を渡り終えた児童の待機場所に十分に行き目が行いていなかった。 ・当該橋は今年度は敷回通ていたが、これまで列になって通過していた。今回は「勇気だ」的な要素を交入ずつ順に渡る	2. 担当対象児の者・発見動きをついかった	・橋を渡る前の児童を待たせるまして、安全確認を渡っ着いて意識して橋を渡っこうする途中の児童に注意を払い、終え機ることを児童の先導士のもとで、児童は十分に把握していなかった。	・引率保育士は、4月から長とも担任に、担当クラスを受持っており、担任ペアで当該場所を散歩するのがはじめてのことであった。 ・補助者は9月から該当クラスを受持っており、担任ペアで当該場所を散歩するのがはじめてのことであった。（他の保育士は何	・あえて危険な場所で「勇気だめし」のようなことは行わない。 ・引率者の目が行き届かない場所を作らない。 ・現有の人員体制で、工夫して引率者増を図るなど、引率体制を強化する。 ・引率者同士で、より密に声掛けを行う	
3754	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室庭・校庭等)	7. 異年齢構成	80	3名	14名	17名	20名	13名	13名	名		21名	21名	5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	マニュアルの記載内容が不十分	マニュアル見直しし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	本件はハード面は原因はにくい。	上記理由により、ハード面での予防は困難	1. 集団活動中・見守り	—	—	1. いつお様などのもり子であった	(具体的内容記載欄)特段異常は認められず	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園庭でリレーを実施し、ている本児を	1. 担当対象児の者・発見動きを見ていた(至近距離に	(具体的内容記載欄)園庭でいる本児を見ていた	—	振り返った上せず、前を向いて走るようにもたちに伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面								環境面				人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3755	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	—	20	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	—	職務会や園内研修で、安全面についての話し合いをしたり、共通理解をはかる。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	—	遊具や体育道具は、使用前にしっかり点検を行う。	1.集団活動中・見守り	運動会の演技中、	担任が2人いるのでどんな時でも全体と個人で見て、子どもとちょっと変化や、いつもと違う様子の時には、その子の側に行って声かけ応答を話しかけるようにした。	1.いつもと変わらない様子で、元気がなかった(理由を記載)	(具体的内容記載欄) ・跳び箱を前にとぶ、ジャンプ、リズム歩き練習中に壁を床にぶつけて少し、本人の気分が下がってしまい、気持ちの切り替えができず、跳び箱を跳んでしまった。	2.対象児対象児の近くで見た	(具体的内容記載欄) ・跳び箱の前に立つと、子どもと一緒に合図をしてリズムにのって跳ぶ、跳び箱を跳ぶ促しをしていたが、同時に、本人の身体を支えるクリアとすることが出来ず、跳んでしまうと、本人の気持ちが下がってしまうと、ふてくされた表情をしていたり、跳んでいるものの、痛そうな様子で、泣くようなことはなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) ・全体の動きを見て、本児も、いつもと通り、通りの様子で、特に変化はなかった。	運動会練習中、グループ別(ブリッジ歩き)を披露する際、膝を床に打ってしまった際、待機していた他のグループの子どもたちが見ている事で、気持ちが下がり、テンションが低いまま次の動き(と	担任が2人いるので、どんな時でも全体と個人をしっかり見て、子どもとちょっとした変化や、いつもと違う様子の時には、その子の側に行って声かけ応答を話し合った。	
3756	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23	名	名	名	名	名	名	名		２名	２名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	マニュアルがあることを職員に周知し、共通理解をはかる。 ・職員は定期的に安全や子どもへの保育や子どもへのかかわりについて話し合う。 ・機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	—	地面の凸凹など転び・つまずきやすい場所の整備を行う。	1.集団活動中・見守り	—	・子どもが集まっている時や十分なスペースがない時、子どもが集まって動き出すなど、十分なスペースを確保する。 ・遊びが中止になったり、集中しない遊びの種類や遊び方などの工夫をしていく。	1.いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄) ・友達の遊びを見て、真似をしようとしていた。	2.対象児対象児の近くで見た	(具体的内容記載欄) ・つまずいただけで、転んだことを見て、急いだことの急ぎで、転んだあとに、だ声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄) ・少し離れたところで他の子と遊んでいた。	—	子どもが集まっている時や十分なスペースがない時など、子どもが動き出す時には十分なスペースを確保する。	
3757	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	65	名	名	名	名	41名	24名	名		6名	5名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1.遊具から転落・落下等の	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	園外での活動前に、場所・遊具等の確認を行い、事故防止のための研修を行って、職員間の共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園外の施設である管理できない、園内設置のものについては、毎日点検とヒヤリハットの伝達から危険個所を共有する。	1.集団活動中・見守り	事故現場のターザンロープについて、遊びの方法を指示をしたが、跳ね返りの部分に始めの箇所の職員さんが配置されていなかった。	4．５歳児の発達、運動レベルを考慮し、遊びの工夫を講じる	1.いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄) ・友達の遊びに興味をもって、ターザンロープを使って、遊具での待ち順番待ちの列に並んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) ・ターザンロープの遊び始めの箇所につき、ロープの先を掴んで手を伸ばして指示をし、そのまま対象児の様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄) ・他職員は、それぞれ遊具場の他の児童の所で見守っていた	大型固定遊具のみ遊び方を職員が配置していたが、中年齢の子どもが相応であるにもかかわらずそのまま放置されていたため、職員間で配置個所を確認し、職員数が不足している場合は、遊具を使用しない判断をとる	職員間で配置個所を確認し、職員数が不足している場合は、遊具を使用しない判断をとる	
3758	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	名	2名	2名	2名	6名	6名	名		２名	１名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足踵の骨折	4.玩具・遊具等の設備の安全性に不備があるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	・子ども人数に見合った保育者が不足しているため、全体の保育士の配置をかえることが難しかった。遊びの広がりが過ぎて、1～5歳児が混在していた。	・未満児と以上児といった年齢に応じた保育を心掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	・未満児・以上児が混在しているので、職員の目が届きにくい。	・年齢に合った着替えや安全に配慮した環境を考える。	1.集団活動中・見守り	・走って来た時に、衣装の付けが上手くいかず、滑ってしまったり、ステージの左足の踵を殴打してしまった。	・使わない物は片付け、慣れる。居心地の良い保育環境の場所や環境の見直し。	1.いつもどおりの子であった	(具体的内容記載欄) ・本児は、いつもとは変わらず、遊んでいた。	4.対象児から見ていた	(具体的内容記載欄) ・職員は2名いたが、本児の近くに保育士は後ろ向きの状態であり、遊びの広がりもあり状況の把握が十分でなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄) ・職員はステージに設置した製作コーナーにおいて、ろくに向きなっていた時の怪我であったため、殴打した時の泣き声で、状況を知った	・未満児の高月齢児以上児のホールでの一緒に保育ていたため、職員が足りていた。また死角なった部分があった。	・0・1歳児と2～5歳児の保育を確立し、保育者に負担のない環境にするべきであった。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者					事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面				ハード面							環境面			人的面						
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷					事故発生予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
3759	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	8名	名	名	名	1名	1名	6名	名		2名		2名	3歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	3. 子どもと同じものによる衝突	2. なし	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	あそびの展開と場所の設定、子どもの範囲の予測定、子活動の想定ができず、あらゆる想定が足りなかった。	どもの想定外の行動範囲が重なるあそびを同時に展開しようとすると、保育者同様のあそびを展開しようとすると、保育者があそびをわかりやすくするとともに子どもに示すためには、咀嚼の回数や、付け方法の時の避や、手の付け方をしないような運動面での取り組みを行っている。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	—	特になし	1. 集団活動中・見守り	—	クラスどもの活動の場所を作り、さら事故や事故防ぐために、クラスの乳児とあそび場が狭くならないよう時差をつけて園庭を利用する。	1. いつもお子様で	(具体的内容記載欄)	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)至近距離ではないが、見守っていた。(一緒のあそびをしていた)	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一つのあそびを見守っていたため、対象児に注目していなかった。	—	あそびについて事前に、内容、行動の場所、熱量、具体的な動きまで話し合ってあそびを提供する。	
3760	令和5年31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	15	名	名	名	名	名	名	名		1名		1名	5歳	2. 女児	31日に診療所を受診、1日病院を受診し、1日15：30から手術に入り、3日（日）まで入院、5日（火）の登園	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折（診断書なし）	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	今年度（外部研修）ハット、事故修繕、研修期定ていが、身起き危機感で危険施設ごとに換えとなった。また、児童に対する務ヒヤリにうきこと置るこ近くがかっ。	事故報告の情報共有を確実に行い、過去施設でどんなケガをした正確か把握する。（危険箇所の把握）また、他保育施設でのケガのニュースなど情報を共有し、どこで起きるかは起ても不ではないということを意識する。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	昨年度、遊具の塗装や劣化部分の補修を行ったが、引き続きチェックを怠らないようにする。遊具の案もあるが、出たが、環境面でカバーしなければ撤去するという案になった。	引き続き、修繕箇所必要遊具など般の全チェックを怠らない。特記事項記載にも記載をしたが、児童べる用の遊具の撤去をするのではなく、児童が遊ぶ環境を維持できる、人的面でカバーしていくこととした。	1. 集団活動中・見守り	集団行動中に手育ていて保育士の思わず園児性強など、必要に園に園に園

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																		
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3762	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	12	名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	6歳	1. 男児	身長・体重は、標準以上。	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	事故当時クラスは、2グループに分かれて室内と園庭に分かれていた。担任保育士と時間外職員2人が側にいた。外の職員にも土とよう故防止の研修が必要ある。園庭：12名の園児。担任保育士1名。時間外職員1名。時間外遊びの際の事故防止のために乳児会、幼児会で行っている年度初めの確認を回数を増やし事故防止を高める。緊急時の役割分担訓練を職員研修に追加する。外職員への事故防止、緊急時対応研修を行う。幼児クラスの子どもたちに事故防止のため安全に遊ぶこと気を付けることを話す。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 集団活動中・見守り	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備備品危険箇所にきといある。園庭は、かり事に可能性を意喚しかった。	園庭の段差は、保報差なく育告しなかるしてい。整列する場所更す目る変更する。園庭整備を行を砂を盛いる。	1. 集団活動中・見守り	いつも集整整している場所で、転倒リスクも少なく考えていたの位置が少し差や子ものコンディションや友だちとの位置関係等ちと園でも転倒可能性はあるとを常に頭に置くことが必要ある。転倒するとコンクリートで裂傷、骨折と重症打撲、骨折などとなる可能性がある。いつも危険性は	幼児クラスになると事故が起きやすいと整列することが多いため、ラス場所更危険箇所においては、片付けとを間で有す時間外職員にも目印は、片付けなどを再共有する。時間外職員や学生にも伝える。目印は、片付いて片付けまったら担当クラス担任は、子どもたちが遊ぶことに出しが遊びできて注意喚	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)走った直後まで走ったテーブルのテーションを整列しようとしていた。	2. 対象児が近くに見った	(具体的内容記載欄)職員は、近くにいて転倒するとわず、バランス崩れを支えられるにいなかった。	1. 担当者・象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)時間外の職員は、多動の園児1人に添い付き活動していたので対象児を見れなかった。	職員の動きは、いつもと同じであった。	一つ一つの活動で危険(事故)と隣り合わせであることを常に意識することを。各職員間で声をかけ合えるという環境を作っていく。経験年数でも事故防止に対しての意識対応が違ってきてしまうので職員の教育研修も続ける。	
3763	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	9	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	3歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	5. 口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	児童がジャングルの段目に横ジャルジ2段目に登り、移動しようとしてバランスを崩した。その重心が崩すようけが分で可あったが可能性がある。	職員研修・会議修・事故の要因を共有し、固定遊具等際遊ぶ際童には、ふとへ、した油断が落下にるがつな事を繰り返して伝える。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	特になし	ハード面の問題は確認はされなかったので、現行の対応を継続する	1. 集団活動中・見守り	保護者が来園迎えに来れる可能性がある	これまでに児童以上に児活動童に注意し、改善が難しい場合は設定の設定を変更するよう、職員に周知徹底する	3. いつも発活発であった(理由を記載)	週末の夕方、庭で遊ぶ際、いつもよりも着かない様子が見られた。	3. 象からに児の見ていた	ジャングルジムの2段目で遊んでいた際に、横へ移動しようと持ち替えた時に左手を離してしまい、バランスを崩して落下した。その際に口の磐を一段目の棒部分にぶつけた。	2. 担当者・象児動きていなかった	他のクラスに保育。人数と児童の確認と保育のチケットを発行。事務処理を行う。	クラス担任の不在	朝夕の時間帯は、基本クラス担任がいないため、引き継ぎを丁寧に行い対応職員がしっかり確認し、声をかける。	
3764	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	12	3名	0名	4名	1名	1名	3名	名	4名	4名	5歳	1. 男児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	ヒヤリハット・事故の検討会が生かされていない	検討する内容を充実する	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	翌日の遊戯室の環境構成が遊戯室入口付近に設置されていた。保護者がお迎えに来ても、自由に遊戯室の入りができる悪かった	遊戯室の環境設定は、前日で行うので当日行なく当日行う	7. その他	スムーズに帰ることができず遊戯室にしまった	安全面を考第一に考慮し、遊戯室の環境は当室の設定は日に行う	1. いつもどおりの子であった	日中も変わった子も過ごしていた。お迎えいりの子。	2. 象児の見ていた	スムーズに帰ろうとしないので、職員が玄関ホールに行っ出て。遊戯室の付近で見守った。	2. 担当者・象児動きていなかった	(具体的内容記載欄)長時間保育たのでの他職員保育園にいた。	早朝・長時間保育では、職員数も限られてるので、スムーズに降園できるようにするべきだった。また、遊戯室と玄関	安全面に対して、職員全員の意識を高める	
3765	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18	1名	7名	10名	名	名	名	名	5名	2名	3歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)		2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	延長保育時間開始時は担当職員の交代や隣園する児もいて慌ただしい様子がある。	交代時、子ども状態をしっかり把握、確認しあい遊びに入れるよう対応する。	1. 定期的に実施	実施頻度()回/週	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度()回/1週	本児は運動面に年齢よりも幼体格がしっかりしておらず、バランスいためバ悪転びやすい。	本児の行動配慮分に十分な見守がら見る。	7. その他	朝々に好きなオモチャで自由に遊んでいた。回ったり、マットなどの上で走ったり、遊ぶ子もいた。	子どもたちの行動に十分対応するように職員同士で応援しよう声をかけるなどする。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段と変わらず、自由に動いて自き回って遊んでいた。	4. 象児の見ていた児のきなかった	(具体的内容記載欄)一緒に遊んでいたが、片づけをするため一瞬目を離してしまった。	2. 担当者・象児動きていなかった	(具体的内容記載欄)各コーナーそれぞれ対応を行っていた。	声を掛け合う対応をしなかった。	声を掛け合い対応する。できない場合は遊びを中断する、危険を回避するなどの対応をする。	
3766	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	100	9名	16名	18名	20名	18名	19名	名	20名	20名	5歳	1. 男児	—	食事中(おやつ含む)	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)		8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	一度注意したが、机の上に載った再び	危険な行動をしないように指導をすると共に子どもが理解しやすい記等の工夫をする	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	—	—	6. 食事(おやつ)中	机に上に乗ることを都度注意したが、再び上った	危険な行動とる際は、都度注意すると共に、児が理解するように、当該よく工夫する	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4. 象児の見ていた児のきなかった	(具体的内容記載欄)	2. 担当者・象児動きていなかった	(具体的内容記載欄)他のをした	配慮を要する児童で危険な行動をこがよい。	一度の注意で治ることは難しいので、危険な行動を繰り返すことを予測し、目を離さないようにするか、当該児童の近くに	
3767	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15	0名	3名	2名	3名	2名	5名	0名	5名	5名	3歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足の親指付け根亀裂骨折(具体的診断名不明)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	必用の都度	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	使用前・後	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	部屋の広さ、園児員数、職員の配置数等に問題はないと思われるため、特に改善は必要はないと思料する。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通りのようであった	4. 象児の見ていた児のきなかった	(具体的内容記載欄)当該園児見のみを守るのでは、園児全体園児を守っていた為	2. 担当者・象児動きていなかった	(具体的内容記載欄)室内で保護者対応や他園児対応をしていた。	注意事項(壁蹴等ならない等)の指導が不十分であった。	室内での約束事を全園児と確認していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
									異年齢構成の場合の内訳																																									
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3768	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24	名	名	名	名	12名	12名	名		3名	3名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	尺骨開放骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	応急処置を行った。職員の配置は基準を満たしていた。	引き続き、応急処置修正を行った。職員の配置は基準を満たしていた。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	—	—	1.集団活動中・見守り	園舎前の交通量の少ない道路で公園に向かった際に発生。田のあぜ道を歩いていたところ、転ぶ際に手を付いたところ、右手が出たとらえる。	園児同士で手をつなぐ場合合なぐの組み合わせの検討	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)4歳児と手をつないで散歩をしており、通常通り落ち着いていた。友だちのものかりをつかまず右腕ひっかりきからに転んだ。その後、右腕の痛みを訴え、出血も見られた。	2.対象児の近く対象児を見た	(具体的内容記載欄)散歩時、先頭、中間、後部に保育士が付き、怪我の状況を見る。先頭職員は、他児を安全な場所へ避難。怪我の状況から、1名の保育士が園に児を抱っこして帰園し、他職員がクラス携帯から連絡を入れ	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他2名の職員はそのまま4．5歳児を連れて園へと戻る。	子どもの安全確保のなど散歩をしていたが、普通に歩いてバランスを崩して、骨折へと繋がることがあるという認識は薄かった。	安定に過ごしているときにも、事故は起こるということを職員共通理解し、子どもの様子を保育内容を考えていく、散歩時の危険予測し合い、事故防止できるようにする。	
3769	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	名	名	名	名	9名	15名	名		3名	3名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	3.子ども同士衝突によるものにも	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	職員はいた側が危険を予知でき、けがを防げなかった。	けがをしにくい、おやかつくりしなや体ができるよう日ごろの遊びを工夫する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設、遊具には問題はなかったと思われる。	施設、遊具には問題はなかったと思われる。	1.集団活動中・見守り	友達とかわって遊ぶ楽しさを感じたはじめた。その分危険も増えた。	予想される危険はあらかじめ回避するように遊び方を工夫し、職員配置に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)活発に遊ぶ機会が増えてきた。	4.対象児の見ていなかった	(具体的内容記載欄)・全体的に危険がないよう見守っていたが、けがを予知し防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)5歳児4歳児の担任も一緒に子どもたちがぶつかることがないように配慮しながら見守っ	鬼ごっこ感覚で、興奮状態になったので遊んでいた。危険を予測し、配慮すべきであった。	遊戯室であったので広さを考えて、人数調整を行うべきであった。	
3770	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳児	28	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	外傷性鼓膜穿孔	3.子ども同士衝突によるものにも	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の使い方を子たちに供確認させて遊ばせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期実施	実施頻度(6)回/年	特になし	遊具で危ものないか、もう一度確認をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	しばらくは、怪我の原因となったお箸を使わせない。	1.いつもどおりの様子であった	衝動性が顕れた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当している範囲を見渡せる位置にいたので発見が早かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を担当して見守っていた。	特になし	保育士との距離感の問題ではなく、園外での園児の発達のための精神的環境と内面の変化が要因と思われるので、園外で	
3771	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	12	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	3.子ども同士衝突によるものにも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	—	毎月、事故予防の研修を会議を継続して行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	教室床に障害物等はなく、平地であった。	教室内の整備を継続して行う。	3.個人活動中・見守り	掃除の時間、子どもたちの確認も動線を認しておく。	園児が走よ常に留掛ら意しをける。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)つもり動いた。	2.対象児の近く対象児を見た	(具体的内容記載欄)対象児が雑巾がけをしている職員が掃除していると、子どもたちを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	走っている園児にもっと段早い階で気づき声掛けが必要。	園児の動きに留意し、歩いて移動するよう事前に声掛けを行う。	
3772	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	29	名	名	名	名	名	名	名		4名	3名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(毎日)回/年	1.基準以上配置	—	職員の安全管理に意識を高め、事故防止に関する研修を全職員に行なった。体育指導者により、運動遊びのポイントについて、マニュアル化し、全職員に配布し周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	使用する前の点検を徹底する	1.集団活動中・見守り	—	指導に当際、注意事項の注(跳び箱の手のつく位置や方を度見ら確認・指導を徹底する	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)跳び箱の指導中、一度3段の跳び箱が跳べたうのためし、さのあまり、4段への挑戦に注意散漫の再度跳び箱に向かってしまった	2.対象児の近く対象児を見た	(具体的内容記載欄)対象児が事故を起こした跳び箱を担当していたが、対象児の箱が跳び箱からの支えとの間に合わず、事故が起きてしまった。一段高くなったので、手のつき方や跳び方を再度確認してスタートした	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)対象児以外の園児が並んでいた跳び箱の補助を行っていた	—	指導に当たる職員に対しての更なる研修を行い、補助の仕方の見直しを行う。注意散漫の時には、一旦全体指導を止めて、跳び方(手のつき方や手のつく位置など)を実際にやってそれに再確認をする。又は、その子のそばに行ってお話をしたり、跳び方の再確認し、それでも落ち着かない時には、1回お休みして	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3773	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	38	0名	0名	0名	16名	0名	22名	0名	5名	5名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	特になし	マニュアルがあることを職員に周知し、見られるようにしてもらいやすくする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年 実施頻度(24回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48回/年	特になし	施設点検を行い、あれば課に報告し、改善をしましょう。	1.集団活動中・見あ守り	不慣れな遊具を使用した	園外ではものがぶつかったり、落ちて遊ぶ子が多く、高さを調べるよう声をかける。固定遊具時で遊ぶ時は、安全に全て遊んでいるか確認しながら遊ぶようにしていく。また、全ての遊具は見られる位置に立って、子どもが怪我をしないように見ていく。	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)・喜んで遊んでいた。	2.対象児の近くで見ていた	(具体的内容記載欄)雲梯に一人保育士が付き他児の雲梯の補助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)各保育士が他の遊具や所定の場所で見守り園児を見ながら一緒に遊んでいた。	特になし	子どもの行動に十分注意をしっかりと持つように伝えたり、休息をとるよう声をかけていく。	
3774	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	対象児は保育に配慮が必要なことが多い。	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	口腔内の裂傷	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	今回の対象児は普段から必要も注意して関わることも多く、ともかった。	子どもたちの椅子に座っている様子をみて、今回のクラスは椅子方がよい方法を模索しているクラスに部屋の後ろに一列に椅子を並べて、子どもたちが自由に座れるようにしてもらう。危険な座り方をすぐに止めるよう職員にも徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年 毎日	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年 毎日	会議が開は全員が話し合い、子どもが机に並べて話し合いをする。	部屋の中は、ちんとした話し方や座り方をきちんとできるよう、子どもたちが椅子や床に座って話を聞くなどその時の様子を見て、必要な時の変えも必要である。	1.集団活動中・見あ守り	横1列に広がる子たち端の子たちが担任の話に集中中いることも考える。	部屋の中は、集中心に聞き体制をして話すようにする	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)椅子に座り上の袖Tシャツに手と入れ足を入れ足こん勢で話を聞いていたが、バランスを崩し椅子から転倒した。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)壁の前に横1列に並んだ椅子に座った子供たちに帰りの会をしていると、対象児が座っていたので、ロ頭で注意したが対象児は直ずこの事故につながった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一担任と子供たちと反対側にあるの位置のホワイトボードの番表をしておいた。	対象児は普段集中できることが多く手なが勝行動が多かった。	職員も2人で連携を取り、危険が予測されただけでなくすぐに止める対応をとる。	
3775	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	14名	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	注意が必要であることの意識なかった。	山の形状が平らが平面かに広かった。(上管に沿った形状だった)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	山の形状は平らな面かに広かった。(上管に沿った形状だった)	3.個人見あ守り	山の上に複数登って、他児とつかって、山から落ちてしまった。	山の上にときに登るの約束決める。	3.いつもと活活動でた(理由を記載)	(具体的内容記載欄)久しぶりの園庭だったもいつはりよりきったかれない	4.対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)山と反対側のいたため、山にいちの様子を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の各クラスの担任は各保育室等にて活動していた。	園庭で事故防止意識が薄く危険なをできかった。山側に保育士がついていな	子どもの興味関心をとらえ、子どもの動きを予測しながら危険がないか見守っていく。山で遊ぶときは保育士がつき、ルールを守って遊べるよう	
3776	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	30名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下 2.自転倒・衝突によるもの倒突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	走るのが速く、少斜し体を前にして走る癖がある	転倒時の瞬時の身の守り方をマットや遊びなど子供から遊ぶ伝えていく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	—	設備等にない問題はないが、園庭に砂を入れたり、戸外に遊び前に原因よりなる石ないなどがかのなどなど今まで通りに定期的に安全点検を実施していく	1.集団活動中守り	—	引き続き、しっかりを継続いく	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)友達と追いかけっこをしていて、転倒した時重に左腕にのしかかった状態だった。	2.対象児の近くで対象児見た	(具体的内容記載欄)対象児から約5メートル離れた位置から見渡ように見ていて、対象児が転倒する瞬間も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が反対側から見渡すようにしていたが、転倒時は違う園児の方を見ていた。	—	引き続き、職員間で意識を高め、しっかり見守りを継続していく	
3777	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	17名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕（橈骨・尺骨）骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	跳び箱の始指導を始めたばりのあるも関わらず、ホールの半分を跳び箱を指導（保育士１人）し、もう半分を縄跳びの指導（保育士１人）にあててい	取り組み始めの頃は、２つの活動を同時にするのではなく、１つの集中にさせるようにする。（そうすればもうひとりの保育士も補助に付ける）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	—	ハード面では問題なし	1.集団活動中・見あ守り	跳び箱と縄跳び練習はどちらでもいいと言ちらい環境にしていた。	集中できる環境づくりにするしつの活ぼる。	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)対象児では５段が跳べるようになって、５段を跳ぶ勢いで４段を跳んだい為、勢い余って自分の制御できなかった。	2.対象児の近くで対象児見た	(具体的内容記載欄)跳び箱のすぐ横にいて対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたがまにあわなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)ホールのもう半分で、他児跳び縄跳びの指導をした。	担当保育士の補助の仕方等切は適切だったか？運動器具を使う活動について担当保育士（個人的）になっていた。	運動器具等を使う指導の基本を、主任・3歳以上児担当の職員間で共通認識を持てるよう検討する機会を、年度初めに持つようにする。	
3778	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41名	名	名	名	19名	22名	名	名	2名	2名	4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	2.基準以上配置	—	園庭遊び中の職員の位置や遊びの内容をさらに検討していく	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	遊具の点検の強化と職員の育成	1.集団活動中・見あ守り	休み明け月曜日の月で、体が動かない十分かない	遊び時は必ず準備運動をしてから遊び始める	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)	2.対象児の近くで対象児見た	(具体的内容記載欄)他の子ども含、本児にもめ、そばにいて雲梯を始める様子は見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他の職員は、自分クラス子どもの保育していたが何かあるのと職員間はチームがすぐワーク良くにフォローを	休み中の様子の把握が不十分だった。	休み明けの保育内容や子どもの状態の把握など、保育の見通しがさらにできるように資質の向上を図る	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3779	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	35	0	0	0	14	13	8	0	4	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	肘内障	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	１歳の時に肩関節が外れたことがあったことをしておらず、ぶら下がる遊具で遊ぶことの危険について意識が薄かった。	それぞれの子どもの状態や既往歴を再確認し、安全に遊べるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	—	特になし。	1.集団活動中・見守り	公園の遊具の数と保育士の人数が、一人で複数を見ていたのみた。	保育士が対応できる数の遊具で遊ばせるようにする。	1.いつもお様の子であった	(具体的内容記載欄)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)初めは雲梯で遊んでいる子はおらず、雲梯の近くの遊具で遊んでいる子が多いため、保育士はそちらについていて、対象児が雲梯で遊び始めたのが見えた時点で向かったが、向かっている途中で落下し	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊んでいる子様子を見ていた為	公園の遊具の数と保育士の人数が合わず、一人で複数の遊具をみていた。	保育士がすぐに対応できる数の遊具で遊ばせるようにする。	
3780	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	38	9名	14名	15名	名	名	名	名	10名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	3.子ども同士突き衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	職員の数では十分あったが、全体を見るコーナーを見るグループを見る、個人を見る役割あいまいでどの分担いあった。	マニュアルを、事故ケース別の防止対策や事故研修を計画的にしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1歳児クラスの児の中に何でもなくなめて口に入れるなどがいないがつい雰囲気ではなかった。	大まかな遊びの空間の化はあったものの、遊び乱れが入り乱れていたので、立ちやマットなどを活用して工夫すればよかった。	1.集団活動中・見守り	子どもの対応で、提示された種類の遊具が少なく、遊具の供給が遅かった。	遊ぶ場所と明確に化ゾーンじっくり遊ぶ子どもがいすぐ動いてわけていく。人数にあった遊び出し夫をする。	1.いつもお様の子であった	(具体的内容記載欄)積み木遊びをしていると中には入ったが、集中していると感じではなかった。	2.対象至対象児の近で象児見た	(具体的内容記載欄)積み木遊びをする子4、5人時には遊びにが入りながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)全体を見守ると、それぞれの遊びを見ると職員とわかれていた。	一番近くで遊び見守っていた育士が周りの状況もっとも見ていく必要があった。	保育士間の声かけ、役割分担をもっとまめにしていく。	
3781	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第５趾基節骨骨折、右第５趾挫傷及び捻挫	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	危険性の予測ができていたどうか。	事例を挙げながら危険予測を職員間にて研修する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	カルタ遊びのマット使用であったか。	マットを使用するは、マットの厚さ18ミリによる床との連結部や連結状態分の分を把握し、危険予測を行い安全性に十分配慮しながら使用していく。	1.集団活動中・見守り	マット使用の正面に使用の確認ができていたか。	遊びの経過により子ども変化に伴う動きを把握し、危険性を言葉かけをする。	1.いつもお様の子であった	対象児の名と共にカルタ遊びをしていた。	対象児は園児と共にカルタ遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育室の右側中間点にいて、座り他の児とバスルがらを見守っていた。しかし、対象児がケガをした瞬間は認識していなかっ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)３階に保育室のある５歳児は園外保育に出かけり、３歳児は３歳児室内で保育を行っていたため、他の職員は対象児を見ていなかっ	保育士が他の園児とバズルを中で対象児の動きを把握していたかどうか。	遊びの進展による子どもの動きを予測し、遊びの開始時や終了時などが動きがあ際には、子どもの位置や使用している遊具等から危険性がないか十分に配慮していく。	
3782	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33	名	16名	17名	名	名	名	名	6名	6名	3歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	職員の危険予測能力を今まで以上に向上していくがある。	事故予防研修に危険予知に関する内容をよくしるいれるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	遊戯室の太央に柱が円ありあり、柱に円柱に走る際、バラを崩すしることられる。	設計上、柱の柱円を取り除くことは可能である。	1.集団活動中・見守り	遊戯室がオープンになったこと、気持ちが解放されたことで、一緒に走ったり、追いかけっこをしたりすることで楽しんでいた。	遊戯室に出る時には、事前に遊具は設定し回るりけてく、他の体を動かす遊びや、ウレタンブロック、ロックブロック等で遊びあそび、誘い、落ち着いて遊べるようにする。	1.いつもお様の子であった	遊戯室がオープンになり、気持ちも解放されだちと一緒に遊具されない場所で走ったり、追いかけっこをしたりすることを喜んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども数人が遊戯室に出ていたため、走ったり危険がないように遊んでいる様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	保護者と診察のやりとりをしたのあり取りていた対象児の姿は見ていなかった。	遊戯室中柱があったことで保育者のいた位置から死角になっていたため、転ぶ瞬間が見えなかった。	遊戯室の中央に柱があるため、全体的に子どもたちの動きを把握できるように保育者2名で柱を挟み、対角線で子どもたちの様子を見るようにする。なるべく子どもたちの動きを把握できる担任が先に遊戯室に出るようにする。	
3783	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78	名	名	18名	26名	17名	17名	名	9名	1名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性のハセツ、下顎骨骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	—	安全点検の強化、子どもたちへの安全に関する意識向上	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	固定遊具の安全確保	3.個人活動中・見守り	—	安全確認も見ることもの強化	1.いつもお様の子であった	(具体的内容記載欄)通常通り登所・特に変わったことはなかった。	児童マンマーの状態(対象児として)対象児として接していた)	(具体的内容記載欄)ジャングルジムをしていつき全ながら子につき全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)事故が起こった時、本児の近くにいたので状況を確認し、職員室に報	—	保育士の配置場所の確認と保育士間の連携強化	
3784	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	63	0名	0名	0名	0名	30名	33名	名	7名	7名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	雲梯からの落下による「右上腕骨外顆骨折」	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	—	ヒヤリハット等を用いた研修により、職員の安全意識向上を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	—	遊具点検継続的に行い、安全管理に努める。	3.個人活動中・見守り	—	遊具の安全な遊び方、注意などを指導する。	3.いつも より活発で活動的であった(理由記載)	(具体的内容記載欄)総合遊具場の(太鼓で遊ぶ園児の所様)園児の見守りをしており、雲梯の部分にいた対象児は見ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)総合遊具場の別の雲梯部分園児たちの様子を危険ないよう見守った。対象児から手を放し、足から着地し、弾みを両手をついた際に気付きで声掛け	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)雲梯部分で遊ぶ園児たちの様子を危ないよう見守った。対象児から手を放し、足から着地し、弾みを両手をついた際に気付きで声掛け	—	園児の様子を見て声かけを行い、注意を促す。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
							発生時の体制																		ソフト面					ハード面							環境面			人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事者の内訳											マニュアルの有無	事故防止研修		職員配置		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検			教育・保育・育成支援の状況		改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き			
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	学童			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		特記事項	改善策		理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		特記事項	改善策
3785	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(園庭・校庭等)	5歳以上児	29					29名	0名		1名	1名	6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首骨折	3. 子ども同士衝突するものにもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48+12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(96)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)・鬼ごっこの見守りをしていたが、この姿をなら他児とプラン土作りを行った	4. 対象児の動きを見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・他クラスは固定遊具のやりボールで遊んでいた。	後ろからタッチする他勢いが強かったため。	・友達が転倒しない程度の強さでタッチすることを知らせる。	
3786	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11			3名	5名	3名	名		7名	3名	5歳	2. 女児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	—	5. 口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯脱臼、左前歯横亜脱臼	3. 子ども同士衝突するものにもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(96)回/随時	・夕方のお迎え時、遅番職員が、廊下玄関付近で親子を守り、必要じて安応じて援助全出来るようにする。	・夕方のお迎え時、遅番職員が、廊下玄関付近で親子を守り、声掛要じて安応じて援助全出来るようにする。	・直線の廊下下長い為、走りたくなる構造である。	・廊下は横断しないなど、子どもたちと共に安全に教育の実施を心がける。 ・廊下に横断歩道、各部屋の出入口に足形マーク（とまれ）を設置する。	7. その他	・保護者がお迎えとお送りに来るが、気持ちが高揚する。 ・保護者が連れ引きあげにしたと、子どもが離れやすい。	・遅番職員がタ方のお迎え時、廊下、玄関周辺で親子を見守りをする。 ・保護者にもおたより等で送迎時の事故防止協力依頼をする。	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)・お迎えに来た母にきた共に3歳児弟の保育室に荷物を取りに行き、3歳児保育室から保護者に廊下に出て、猛スピードで玄関の方にかかる。その際、玄関方面から自分の荷物を取りに戻った関係児童とぶつかる	4. 対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・遅番対応職員は汚れ物を保護者に渡し、書類が対応等があり廊下や玄関付近に近ることが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・保育室で保育から掃除をし、廊下玄関付近を走っている子ども又は、下を向いている子ども達が付かなかった。	・保育室内で保育や掃除に集中でしまい、廊下への配足りなかった。	・夕方、保護者が迎えにきた時はスムーズに帰宅出来るように声掛けや見守り、一緒に手をつないで動くなどサポートをする。	
3787	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	24	0名	0名	0名	11名	0名	13名	0名	2名	2名	4歳	1. 男児	雨上がりで公園遊具が滑りやすい傾向にあった	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1. 基準以上配置	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	アスレチックは、一定方向で、順番にやルールを守って取り組んでいた。当日は晴天であったが、前雨で丸太スレチックの中には少しは湿るもあった。	日頃からして公園遊具を利用いて、本児も経験をていレで重ねてアスレチックあった。	日頃からして公園遊具を利用いて、事故起こしま十識し保育てを事を認て、を行っていく。	1. 集団活動中・見守りあり	引き続き大きアスレチックに取り組むのでは なく、人数や状態よって遊ぶに環境を適切な設定し、雨上がりは状態の事前確認を丁寧に行う	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)本児は標準体形でこなしい。当日元気で遊んだ	4. 対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児の平均台アスレチックへの取り組みを、①板を渡る、②橋を渡ることまで繋がっていた。③坂を下りるところまで本児が「一人でおりる」と言ったので、側で	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)公園内で遊ぶ全体の様子を見ていた	保育参加で、3クラスの遊び（夫婦）がいたので、遊びに大人数は目届き、保出ていた	監視体制は悪くなかったが、保育者がついていた場所と反対側に落下した時の瞬時の対応がとれなかった。起こりうる最大限の可能性を予測して補助を行うと同時に、子ども自身にも意識を持って言葉かけを多く行っていく	
3788	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	26	名	名	名	名	名	名	名	2歳	2名	4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨、尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	職員一人ひとり が、事故につ防いての意識が薄かった。	事故防止マニュアについて園内の回での研修を増やしたり、職員間で周知度を高め、事故防止事故の意識を強化していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2 0 0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	全に遊具遊び問題でも、ぐ方を違えると危険に繋がることを守ることを意識してべきだった。	安全べるでも、ぐ方を違えると危険に繋がることを守ることを意識してべきだった。	定期的に実施し、毎朝点検をしている。螺旋台安全マットの安下には全マットがある、砂やきれ石をいに掃き、更に安全面に気をつけていく。	3. 個人活動中・見守り	園児が思い思いの場所で遊びを楽しむ時間帯なので、危険を予測し守り、立ち位置を徹底する。	全体を見守りながら、高さのある傾斜や遊具の様子には付いるように。	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)普段から活動発を園児である。	2. 対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)他の園児の対応していたため、螺旋すべり台を背にして向けていまった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)T度近くに職員が助けようとしたが間に合わなかった。	全体を見守りながら、一ひとりの動等を把握し、必要じてすぐに対応できるようにしておく。	園庭に出る前には、あらゆる事故を予測し環境を整える。常に全体に目を配り、特に注意が必要な園児には、個別に声を掛けるようにする。	
3789	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5歳以上児	19	名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手親指付け根骨折	3. 子ども同士衝突するものにもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(15)回/年	2. 基準配置	今回の保育の活動内容で、事故の発生を想定していなかった。	常の保育内容の活動を事前に確認し、事故生やのリスクを見すり予る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	発生場所の遊戯室は十分なあるが、カエルの間隔が十分ではなかった。	発生場所の遊戯室の要因等は考えられない。	発生場所の遊戯室の要因等は考えられないので、特になし。	1. 集団活動中・見守りあり	カエルとびや類似する動きを行う際と、園児の十にと間隔を分ける。	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)特に変わり なく、心ともに通り園し、身いつもであった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園児19名が参加するラポ活動であり、講師の進行に合わせ、園児全体をでお守っており、本児は見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園児19名が参加するラポ活動であり、講師が進行し、園児全体を守り、本児は見ていなかった。	園児が自由にエルびとしておとしり、ぶが園児によって違いがある。	列や円形になるなど、とぶ方向を定めてカエルとびをする。	
3790	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	13	名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	1歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	—	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	—	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)友だちの真似をし、走りなって、たくた。	2. 対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)こちらに向かってくる子どもの動きを普段通り、みていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)3か所に分かれており、自分の近くの子どもの動きを見	手に玩具を持ってたにくて走ることが、遅かった。	バランスを崩しやすい年齢なので、走り回る危険性を再度確認し、複数担任で声をかけ合い、遊びの内容を	
3791	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	104	0名	14名	18名	25名	21名	26名	0名	11	4	4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置	—	子どもたちへの安全に関する意識向上	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	遊具に関わる際の確実な安全確保	1. 団活動中・見守りあり	—	安全確認と子どもたちへの見守りの強化 遊具使用に関す	1. いつもお様でのお子あった	(具体的内容記載欄)通常通り登所・特にに変わったことはなかった	3. 対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)園庭でぶつかったり捉ぶ子どもを捉したりしながら見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)事故が起こった時、本児の近くにいたため状況を確認し、職員室に報	—	安全確認と子どもたちへの見守りの強化 遊具使用に関する子どもへの定期的な	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									人数	異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3792	令和5年31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	4名	4名	9	9名	4名	4名	4名		3名	3名	2歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	5.他児から加害をされたもの	事故発生時の対応についてのマニュアルは、防マニュアル備いなかった。ヒヤリ報告書で事故予防については周知しているが、マニュアルとしてとりまとめられていない。事故予防マニュアルの整備、作成を早急に必要がある。	1.定期的に実施	2.基準配置	子どもの動きにすぐに対応できる位置に職員が配置していなかった。	事故発生時の対応についてのマニュアルはあるが、子ども動きを予防マニュアルは整備されていなかった。ヒヤリハット報告書で事故予防については周知しているが、マニュアルとしてとりまとめられていない。今後事故予防マニュアルの整備、作成を早急に必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	室内の動と静の空間と間が上手くできなかった。職員が離れた場所にいたためすぐに対応できなかった。	絵本を読んでいるのそばで走ったり、子ども暴れたりする子がいれば、活動を工夫したり、離れて保育士に入って環境を整えるように心がける。	1.集団活動中・守り	外遊びの後、室内入りそれぞれを解放感を感じて出した、思いに思いに動きだしてしまった。	一人一人の動きや室内の状況を把握し必要に応じ声掛けしていたが、室内では走らないなどの繰り返しの伝えをしようとした。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)外遊びの分後で水分補給をし、落ち着いた状態で絵本を読んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)全員の水分補給や汗の始末を済ませ、やかんやコップなどの始末をするや離れた場所にいた。	2.担当者・対象児動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれの子どものにかかわっており、児が踏まれた場面は見ていなかった。	水分補給や着替などで一人ずつかかわっていたため、クラス全体の動きが把握しにくいなどの課題があった。	職員同士の子どもを見守る体制や配置の連携が不足していた。子どもの動きを見て危険を感じた時点で止めるか、すぐに対応できる範囲にいること。必ず職員間で声掛けをし、誰がどんな動きをしているかどこにいるかを、また全体的な状況などを把握しておく。危険な行動や場所は気づいたときに対処し、職員間で周知しておく。	
3793	令和5年31日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	0名	0名	0名	0名	18名	18名	名		4名	3名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	子どものよる具体的な危険見直しを早急に予定、個所を直しく	1.あり	2.不期に実施	子どもの動きに予期して、個別に対応する。	—	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2～4)回/年	—	かけっこゴールの位置変更の誘導	1.集団活動中・守り	—	ゴール後はゆっくりクラスの列に戻るようにかけるる	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)かけっこゴールした後に、他のお友だちとの接触によって転んだ	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)かけっこ一ゴーのスタート地点で次のレース準備をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)ゴールまでみるまでいたが、ゴール後のたちと接触するので、手助けはできなかった	ゴール地点付近に十分なスペースが確保できていなかった	子どもたちとの声掛け	
3794	令和5年31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自転倒・衝によるもの突によるもの	補助保育士は、離れても本児から出来る目を離さないように見守ること。	1.あり	1.定期的に実施	本児は、個別支援が必要で補助保育士がついている。補助はいに本児の、常についているわけではなく、2人で20人の子ども保育をしている。	補助保育士は、離れても本児から出来る目を離さないように見守ること。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	—	1.集団活動中・守り	クラスみんなでごっこ遊びをしていたが、本児は進まず、一人室内を歩いていて、精神的内面が不安定でとあったと想像する。	本児も開心を持ってそう境を整えていること。	2.いつも気がかった元なた(理由を記載)	(具体的内容記載欄)クラスみんなでごっこ遊びをしていたが、本児は進まず、室内を歩いた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)クラスのごっこ遊び活動として、ごっこ遊びをしていて最中でったあった児あため、本よりも離れたところにいた。	2.担当者・対象児動きを見ていなかった	ごっこ遊びをしている園児の動きを見ていた。	—	子どもの気持ちに寄り添い、手持ちふささたにならない様子子を丁寧に見て、他の活動ができるように環境を整えていること。	
3795	令和5年31日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	名	名	名	名	12名	10名	名		1名	1名	6歳	1.男児	・身長１１４，３㎝、体重２０，８㎏、体格が良い。 ・天気も良い暖かい日であった。 ・戸外で身体を動かし、友達と鬼ごっこをして遊ぶことを好んでいた。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左橈骨骨折	2.自転倒・衝によるもの突によるもの	・活動に必ずよって保育士の人数調整を行う。 ・事故に関修に研修に参加し、全体職員で周知する。	1.あり	3.未実施	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	園庭の地面のへこみや石が落ちていたなかか等、安全確認が必要であった。	園庭の地面の状態を確認をし、隅々整備をしまする努める。	1.集団活動中・守り	午後の外遊びでは、４，５歳児クラスの園庭でいるため、広く使用でき、思いきり走れる状況にあった。	・午後の遊びは午前中の疲れがでるもあで、範囲をもとめてようる。 ・日頃の中運動機保育の高めを遊び入れる取り入れていく。	1.つお様子であった	(具体的内容記載欄)友達と一緒に元気っ走り、鬼ごっこをして遊ぶ姿が見られた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園庭にある固定遊具で子ども遊ぶ子ども目続いた。児を鬼ごっこをするたちで追いけた、	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)休憩中の職員が事務所から児含む数ごとの子ども鬼ごっこを含むこの所でこいる見た。	固定遊具で子どもは、保育士がいつも目を離すことで、危険な行動や場所は気づいたときに対処し、職員間で周知しておく。	戸外で遊ぶ時には、保育士を2人配置する。	
3796	令和5年31日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10	名	名		名	名	名	名		2名	2名	2歳	2.女児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	転倒したことによる口唇の下の創傷	1.遊具等から転落・落下	担任が注意・観察だけるで日頃児して倒よ全のをうこまで徹底したい。 担任が注意・観察だけなく、から対転しない安全な椅子の座り方を説明し身にせることを以底したい。	1.あり	3.未実施	子どもは付行予測のないとるが子予かが動をとこる。	子どもは付行予測のないとるが子予かが動をとこる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	子どもは付行予測のないとるが子予かが動をとこる。 子どもは付行予測のないとるが子予かが動をとこる人の管理識を高める。	日頃ハードでの点チェシート用行る。日ハードでの点検い、事故がりそなを検し、面した。	1.集団活動中・守り	子どもは付行予測のないとるが子予かが動をとこる人の管理識を高める。	散歩や室内での遊び以外に、昼食時など定外時の防事故予防法についても検討する。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)食事中の椅子から転倒事故	2.対象児で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担任と副担任は、椅子から転倒児が椅子しないよう注意・観察していたが、児の他の食事もた児ったりで指導する事は難しいであった。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)副担任は、担任と一緒に、児が椅子から転倒しないよう注意・観察していた。、担任は、児の他の食事も、児の他の食事もたり、児にきでるるしいであった。	子どもは、予測付いないことがないように、大人の危険管理意識を高める。	散歩や室内での遊び以外に、昼食時など想定外時の事故に予防方法についても検討する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3797	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指中節骨骨折全治4週間	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	・特になし	・特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	・特になし	・特になし	1.集団活動中・見守りあり	保育室内の狭い環境の中で運動遊具を使った遊びをしていた。	運動遊具を用いては遊びは遊戯室や十分にスペースを確保できる場所で行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)普段とは違う新しい遊びに気持ちがうきうきしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)夕方当番であっても中だったこともあり、迎えに来ら保護者の対応や、他の子へ目が向いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)当番が一人体制で他にいなかった。	・運動遊具を使った遊びを一斉にさせてしまった。 ・本児の行動(ワニになってきて床を這っている)にて注意がむけていなかった。 ・保育士は跳び箱等の運動遊具と違い、一つ一	・遊びに対しての人数が多かったため、人数を分けて遊ばせるなど落ち着いて遊べる環境を整える。 ・運動遊具を使う際は、常にリスクが起こる可能性があることを意識して見守る。 ・保育士の人数に合わせた運動あそびを設定する。	
3798	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	94	名	名	名	31名	32名	31名	名		8名	8名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	・1グループ4人の間隔が十分でなかった。 ・職員間で活身の中身を十分に確認できていなかった。 ・芝生のコンディションに滑りやすい場	・並ぶときの間隔を配慮する。 ・5歳児の走力を考えた活動の工夫・事前指導(月案で事前に、並び方や集合の仕方、休息、走るグループ等活動方法を具体的	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく、いつ登園しても通り登園した。並ぶ時や走る間も友だちの間も同士のトラブルはなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	見ていたが、たまたま、同時にかぶってしまったので、カーとこぶつかった。カーとこぶのろで転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3歳児クラスの職員も転倒する見た。カーとこぶのろで自分のバランスを崩した。	特になし	特になし	
3799	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	保育士はすぐそばにいたのだが、少し目が時にそれた目を落下した。	職員全員に周知をし、同じような事故がおこらないように話をした。	2.不定期に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(13)回/年	落下した時に下にマットが敷いてあったら衝撃が緩和されたかもしれない。	滑り台の下にクッション性のあるマットを一枚敷いておく。	3.個人活動中・見守りあり	落下した時に下にマットが敷いてあったら衝撃が緩和されたかもしれない。	滑り台の下にクッション性のあるマットを一枚敷いておく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通り滑り台に上っていた。	2.対象児で対象児の近く象児を見た	(具体的内容記載欄)滑り台の上に2人いたのでそのうちにも注意をはらいながら見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園庭の他場所でいる遊んでいる子を見ていた。	保育士はすぐそばにいたのだが、少し目離れ時に落下した。	なるべく子どもから目を離さないようにする。	
3800	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	41	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	—	安全点検の強化、子どもたちへの安全に関する意識向上	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	本児が興ごろ持った大日味ていた判積木あったの危険予出来守るあっで測た。見りだけなくて触れないように環境を必要がた	3.個人活動中・見あり守り	—	—	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)通常通り登所・特に変わったことはなかった。	対象児とマンマンの状態(対象児にて接していた)	(具体的内容記載欄)近くで見ていた。守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)担任の保育士は劇遊びをすすめたが事故が起ぐに気づいたにて直ぐに職員室に報告した。	—	興味を持っている物で危険予測ができるものには触れないように環境を整え	
3801	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16	名	名	名	名	名	名	名		3名	2名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折(とうこつえんたんこっせつ)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	他の園にも同が事が来から児様の事から測出来ない事から予測る当該遊びを中止した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	当該園児の運動能力は低く、今までも遊び同じ遊びとして出来た内容であるかと考えるとまるとつうした太鼓橋の鉄棒の部分がサイズ太さが合っていなかったかが考える事えられる。(厚さ2cm程度のラバーマットは太鼓橋の下に敷かれ	他の園にも同が事が来から児様の事から測出来ない事から予測る当該遊びを中止した。	1.集団活動中・見守りあり	-	他の園にも同が事が来から児様の事から測出来ない事から予測る当該遊びを中止した。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	2.対象児で対象児の近く象児を見た	(具体的内容記載欄)飛び付きの遊び万が一の場合等(頭から落ちそう等)に対して添にのいい付き意識であった。当該児童はキンとお尻かから落ちており、手方の付きに対して対応出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児童守りを行っていた。	特になし	配置に問題はなかったと考えるが、遊び方等によって改めて意識(年齢やクラス、運動能力は考慮しつつ、補助者がすぐに手を差しのべられる状況で見守るなど)を持つように話し合った。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面							環境面				人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者の内訳												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
No	初掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
3810	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10	名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	6.その他	4.上肢(腕・手・指)	右腕尺骨骨折、右腕橈骨脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)運動会直後の気のゆるみ、いつも以上に開放的な行動が見られた。	2.対象至対象児の近で見た	(具体的内容記載欄)全速力でど掛け走っもに躓きがしたが、事故に至ってしまった	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	(具体的内容記載欄)見守り専属の職員がいなかった。	運動会終了全員に気みあった。運動会の練習や番の本幕張から開放された状況であ	子ども達に運動会後で、はしゃぎすぎないよう、活動前の注意事項を徹底確認すること。職員は活発な子どもの動きを把握し、危険箇所を予知して安全を確保す	
3811	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46	1名	11名	6名	10名	9名	9名	0	9名	9名	4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手前腕部分骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	年に２～３回	2.不定期に実施	年に2～3回	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	自由遊び時は使用する棒をクラス単位での活動の際に使用する。	運動会で鉄棒を経験したことがあるとが一人でできると思い遊んでいた	1.いつもお様子であった	4.対象動児をていた	シフト制で運番に入る前の引継者の時間帯であった	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	鉄棒の近くにいた他児対応していたとのをした	子ども達で順番やルールを守ることができたので、全体の見守りはいが鉄棒だけの補助として	特に遊具を使用して遊ぶ際には、何が起きるかわからないので補助を配置し安全を図る。	
3812	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	上顎右A外傷による歯の脱臼 上顎右A外傷性歯の破折、歯根破折 下顎骨骨折の疑い 上顎骨骨折の疑い	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(隔)回/年	2.基準配置	可動遊具にいて慣れていなかった。	全職員が研修に参加し危機管理の意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年毎日	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	可動遊具使った遊び方をしたりのようなるなっていて「こうしたい」という意欲があった	可動遊具も点検や扱い方を決め、子どもの発達や遊びの情報や姿の共有をし、起こりうるトラブルを想定して理解をしておく	3.個人活動中・見守り	立てかけた板の種類になっているとなっていないもの)にも気付けるよう掛けをするとよかった	一人ひとりどんなびをするか、必要に応じ声掛け行う。	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)可動遊具などで道を作り、遊んだ。	4.対象動児をていなかった	(具体的内容記載欄)早朝パート保育士が遊びの把握していたが、傍にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊びの状況を把握しつつ、保育に当ていたった。	職員の入れ替わる継ぎの時間帯。	子どもの様子を把握しながらメモ等を渡す。	
3813	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	59	6名	8名	9名	12名	12名	12名	名	16名	15名	4歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	口唇打撲 歯打撲による咬傷 歯根破折	4.玩具・遊具等設備の欠陥によるもの 遊施設安全上不備にも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年 事故あった都時えも開催度	2.基準配置	引き継ぎの時間で保育士の代わった直後、個別対応や対応で、全体を見る保育士体制なかった。	切り替え時保育士同士で声を掛け合い、立ち位置や気けてこにもどこにてつけるなどしあうことを徹底する。 体制や切り替え時には士同士で声を掛け合い、立ち位置や気けてこにもどこにてつけるなどしあうことを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	—	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	パーテーションの扱い方が徹底できなかった。 パーテーションの扱い方が徹底できなかった。	保育士間でパーテーションの取り扱い方を再確認する。また、使用子どもたちとルールを決める。常に保育室内の安全な環境や配置を保育士間で確認する。 保育士間でパーテーションの取り扱い方を再確認する。また、使用子どもたちとルールを決める。常に保育室内の安全な環境や配置を保育士間で確認する。	パーテーションの使い出し入れの仕方をどもたちに伝えていなかった。	パーテーションの方や一度使いもう合う話し	1.いつもお様子であった	体を動かすことが好きで、活発である。やりたいことが見つかるとしばらく集中して走り回る。興味を示すことを、一人一人が保育環境をあっ	4.対象動児をていた	保育室内で全体をみていた保育士が児の近くにいたが、反対側にカードゲームをしていた子どもから呼ばれ、対応するために背中を向けた間に事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	探し物をしているもに廊下に出る(1名)・3歳児クラスでいた(1名)引きして出た(1名)・保育室に入り(2名)	パート保育士が1名体になる。引き継ぎ時間で保育制がふだった。子どもを見るスタッフが少ない。	早番からの引き継ぎ・スタッフの出入り時間・子どもたちがひと遊びを終え落ち着かなくなる時間帯は特に注意をする。引き継ぎをする保育士は、落ち着いてから保育室から出る。パート保育士は子どもの様子をみながら、必要な場所に入る。	
3814	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員配置は問題的には問題なかった。	半期ごとに会議で合わせ、更なる危機管理の意識づけを行っく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	水道前がお児ジャンプして滑ってた。 水道前がお児ジャンプして滑ってた。	使用前は必ず水道を確認し、水道が濡れていないか確認すること。また水道が濡れていたときは、子どもに声掛けをし、濡れた手を拭くように指示をする。 使用前は必ず水道を確認し、水道が濡れていないか確認すること。また水道が濡れていたときは、子どもに声掛けをし、濡れた手を拭くように指示をする。	3.個人活動中・見守り	2人保育士が共に死角になるもう一人は補助)を確認し、1人は支援が必要な子ども全体を見守り、部屋の中で一人で遊んでいる子どもの様子を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)朝の健康観察では異常はなかった。その後の体調には問題はなかった。	4.対象動児をていた	4歳児担任保育士は、帰りが済んだ子どもも達のカバンの中身の確認や、確認が済み並んで待つ子どもに目を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)帰り仕度をしている子達のをした。	2人の保育士に、目の前にいた子達のどもの対応に目を向けつつ、本児の様子を把握できていなかった。	担任に関わらず、目の前の対応と全体性を常に持ち合わせて連携を取りながら保育に臨む。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3815	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23			5名	7名	11名	名		名	2名	4歳	2.女児	整形外科受診。骨に空洞がある。3日後、紹介により総合病院受診。診断名は確定されないまま、定期的に総合病院を受診。その後足を検査し、左脛骨線維性骨異形成（良性腫瘍）と診断される。その後も、定期的に受診し、その都度母親から報告を受けて、運動制限の状況確認をしてきた。直近では、左脛骨の病巣部の骨が折れやすい状態にあり、サッカー、学校における	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨病的骨折疑い	2.自転倒・衝突によるもの	2.不定期実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	本児は満2才から持ち足の病がありケ、会議で取り上げていた。左脛骨が折れやすいと報告を受けていたが、母親から体操教室の参加の許可。また、軽くもの走る良い言われていたため、集団活動における運動制限等の欠如に配慮した。	本児は持病があり、骨折しやすい状況にあった。集団遊びでの事故も想定すべきだった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室で事故だったが、床の破損は無く、また、遊具や玩具を使用しなかった。	施設設備等には問題はなかったと考える。	1.集団活動中・見守り	異年齢児での活動での際には、成長発達を踏まえて、発達まえて立て直る。	異年齢児での計画を立てる際に、成長発達を踏まえて、配慮事項にリスク考慮し対応安全入れた策をする。	1.いつもお様子であった	(具体的内容記載欄)とんおりゃしていた際、アーチをくぐりぬけた後に、前にいた足につまづいて転倒。(本児よりの聞き取り)	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担任は、見がしなら、他全体を見ていて全護らもの子にをいた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)職員他の子に気も全体を見ていて、本児の動きを見ていなかった。	本児は、持病により骨折しやすい状況があるにも関らず本児に参加可否を問い、参望は受け入れ、本児の病慮けた。	本児に参加の可否をないうので、骨折しやすい状況を配慮し、参加を制限すべきだった。	
3816	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	1名	5名	6名	名	名	名			3名	3名	2歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	—	保護者かから受け前でも行ったらの渡し前にあった目届く配慮ぐに対応できる位置でいる職員に周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	上靴を履いていい1歳児は靴下は脱ぎ防止は倒れる。	広い床面椅子机等に子どもが動けるに子ども動きを整えるする。	1.集団活動中・見守り	朝の支度中であった子ども意をこと躾なった。ま、保育士も入れいで欠けたと思われる。	保護者の支度がなく朝のが短い時間で済ませられる検討した。	1.いつもりの子お様であった	(具体的内容記載欄)体を動かすことが多いため、発かつな動きをすることが多いため、怪我はよくある。	3.対象児の離れで対象見ていた	(具体的内容記載欄)受け入れ後の子どもたち体を見て、けの動きは注意なかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)0歳児のそばについていた、他の子と受け時の取り入れ対応をしたため対象児の見てきなかった。	保護者一緒という感本人の園には注目していなかった。	異年齢の合は同保育中は担任以外にも見ることもあるため、子どもの動きを保育士が分散して見届けられるよう職員に周知した。	
3817	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（ヒビ）	8.その他	1.あり	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	—	これまで員職員険通間で関危機管理意識に意識を高める。子ども自身の危機管理意識のもつける。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	—	これまで安全を行う通り確認を行う。	1.集団活動中・見守り	—	これまで員職員危険通間で関危機管理を高意識を高める。子ども自身の危機管理意識のもつける。運動すびをしようを前には怪我をしないストレッチを行うなど、周知する。	3.いつも活発であったを	(具体的内容記載欄)ドッジボールに積極的参加し、自ボールを取りに行ったり、投げたり身ってい	3.対象児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)担当職員は審判をしながら、全体を見ていたが、本児が指を痛がったことに気付かなかった。(監視カメラを確認すると、本児は怪我を気にする様子は見られなかったが、そのままドッジボールを続けた。その後気にする様子もなく別の遊びに移った。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児以外の園児を見た。	—	ドッジボール等の運動遊びをする前には、しっかりストレッチを行うなど、怪我をしないよう体作りをすることを子ども達にも意識づけていく。	
3818	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	3名	2名	3名	2名	7名	5名	0名		6名	6名	1歳	1.男児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	誤嚥性肺炎	8.その他	1.あり	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保育中の食事提供に関する危機管理不足に配慮の認識不足	事故防止発生時のガイドラインに保育士再研修園用マニュアルに関する直近の食事とおける危機管理体制の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(1～12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	—	—	6.食事(おやつ)中	提供する大きさや硬さの確認食材の不足	給食メニューはサイクルメニューとし、食材の組みやすいサメをつくり、提供回数回ていおり児数は施設が、食材の合わせるタグ材の理のマミンよっては食材の食べやすさを再なお本は大きさを硬さを確認し提供ていく。	1.いつもお様であったり子	(具体的内容記載欄)朝の受け入れ時、母親から前日戸外にて後頭部をコンクリートに打ち、少し「たんこぶ」ができていたが出来ているかそれ以外の他、普段と変わりないことがあったりすることで何か連絡すること。その午前後、午前おやつ（アーモンドフィッシュと麦茶）を完食し、戸外活動でも近隣の	2.対象児の至近で対象見ていた	(具体的内容記載欄)本児と他児の間にA職員が着席し、他児と本児を交代しながら助けて食事介助を行っていた。本児をロ開けて口にスプーンで食べさせていた。あんかけ飯・ごはんスープ完食、デザートの桃（冷凍桃が半解凍であったため、再度流水にて解凍し４等分に	1.担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園児２人に１保育士が着席する配置になり、本児及び職員の動きを確認後、異物先に除去していた。B職員から同じ室内にいる保育士が交代し、背部を叩いて打法及び指を本児の口の中に入れて異物除去を再度試みつつ、気道確保をする。その後、食べていた「桃」で	普段よりの回数が少なくべるさいた、口の確認。	普段より噛む回数が少なく、食べるは早さはいため、職員の声やけや食材の大きさ等は留意していた。口中の確認不足。	引き続き咀嚼の促し、タイミング等を行いながら、食事提供していく	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事										事故の転帰							ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3819	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	22	名	名	名	名	7名	15名	名		2名	2名	6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左下腿骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 基準以上配置	—	定期的に研修を引き続き行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(2　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	—	定期的に点検を行うこと、早めに対策をとっていく。	1. 集団活動中・見守り	—	マンネリ気の緩み等がないようにする。	3. いつも発で動ても活発活動	(具体的内容記載欄)ボールにぶつからないように逃げる事に夢中になり、周りを見ていなかった。	2. 対象児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄) 対象児の周りの状況を把握していない為、未然に防ぐことができなかった。転倒後は患部の腫れ、歩き方に注意し見	1. 担当者・対象児動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)	爆弾ゲームを行う枠の大きさが小さかったではないか。	ボールだけでなく周りを見るよう声をかけ、動きが大きな枠に気を付けて見ているべきであった。また、ゲームをする人数を少なくしたり、枠を広げることで、一人ひとりのスペースが広	
3820	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	34	0名	0名	0名	10名	10名	14名	名		3名	3名	6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨橈骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	2. 基準配置	年齢別の運動機能の発達について、職員研修をしていった。	年齢別の運動機能について研修し、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎について研修をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(故　)回/年	人工芝がして場所がある。園庭がおしりとつとっている場所が、人工芝でするがない。人工芝か天更平定にならず平らへ変更予同時にな。	1. 集団活動中・見守り	見学のもい3～5歳児全員でラしした。	子がマ児でンを入る。又、一緒に活動することの多い以上児の担任同細目に連絡を取りて意識させ活動する。	1. いつもお子で	(具体的内容記載欄)朝の登園は普段は遅いが、当日は早めだった。朝のマラソンなどほとんど経験が無かった。本児は朝の楽しいマラソンを走っている中で、走った子が転倒し、その子を避けようと右手をついて骨折してう。	2. 対象児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)2人の保育士でマラソンを子どもたちを見守るためトラックの左右ずつに一人ずつ立った。本児の前をっていが転倒したため、ようこしたすを掛けようと近づこうとき、ろてき後ろで走った本児が接触を避けと転倒したと右側思われる。近づいたが間に合わな	2. 担当者・対象児の動きをていなかた	(具体的内容記載欄)3人目の受けを入れをしていた。	本児は、朝のマラソンの経験がほとんどなかったことや動作手とを上児の職員同士で共有がなかった。	1週間に一度の以上児会議の時を利用し、共有事項を話すようにする。	
3821	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	28	名	名	名	名	15名	13名	名		2名	2名	6歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	—	事故内容会議において報告し、再発に努め防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	跳び箱事故損なかった為、ハード面において改善策はなし。	3. 個人活動中・守り	跳び箱を跳べる子と跳べない子を混ぜて練習を行うと合った跳べる子への足あっと考える。(本・・・児・跳べる)	全員が落下の性とし、どんな状況でも対応きに側に援助、守りが要である。	3. いつも発で動ても活発活動	(具体的内容記載欄)跳べない友達に、見本として『上手に跳び箱を跳ぼう』という意欲、意気込みよく走、踏切を行い、勢い余って着地して	対象児マンマ状態ツーンの態(対象児に接した)	(具体的内容記載欄)跳び箱の側面に立ち膝で構え、落下しないように見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児の排泄の援助をした。	いつも着スドンコントロールしながら手んでいる落ちピードをトルしていた為、いつも通りべるうい心せいで、本	どんな状況にもすぐに対応できるよう、常に緊張感をもって援助とおのびのびとくく。	
3822	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	37	名	名	名	名	19名	18名	名		5名	3名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足親指骨折	2. 自ら転倒・衝よによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2. 基準配置	—	今回の事故の検証、マニュアルの再度の周知を行う。再発に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	遊ぶ場所、広い内容に応じて、活動適応考えられる子ども人数の配慮を常に配慮を行なう。	戸外活動周囲の状況や様子を考慮し、子どもの予測をし、安全に十分に配慮した活動を計画する。	1. 集団活動中・見守り	—	子どもの子転倒に繋がるよう大きな石などが落ちていないか日々確認する。	1. いつもお様で子であった	(具体的内容記載欄)	3. 対象児の児離れとこで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)・他児と遊んでいたため、離れた少した場所から本児の動きを見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)・それぞれが各コーナーなどに付き添い、園庭全体を見守るような職員もいた。	—	戸外に出て直ぐに始まった鬼ごっこだったため、体を慣らす体操などを事前に行なうようにしたい。	
3823	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	28	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨遠位端裂離骨折	2. 自ら転倒・衝よによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	2. 基準配置	—	今回の事故の検証、マニュアルを再度周知し、再発防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	毎月の自己点検をしっかりと行う。	戸外で遊ぶ時には、園庭の状態を確認し、職員を携よる。	1. 集団活動中・見守り	—	集団あそびは、衝突などを考えられるので職員に気配をつけるる。	1. いつもお様で子であった	(具体的内容記載欄)	4. 対象児の見ていなかった	(具体的内容記載欄)戸外で、一斉に動いていたため、他の子の動きに気を取られた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)複数クラスが戸外をあそびていたため、本児の動きは見ていなかっ	—	集団あそびの時は、転倒、衝突など考えられるので十分に気をつける。	
3824	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	2歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2. 自ら転倒・衝よによるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	保育室からトイレまでの距離がある保育士が3かついていたが、連携不足で全体の把握が不十分だった。	確実に状況把握できる保育の見直しをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	トイレ時に数人の子が一斉にトイレに行くため、ロッカーの使用方法が混雑し、入り口付近で順番待ちをする。	入り口付近に集中しないよう、待つ場所を作り、場所でマークをつけ示わかりやすくする。	1. 集団活動中・守り	トイレから離れた場所にあるため、他のクラスとトイレを共有しなければならない。一人の職員が数名のトイレを連れて行くが、個別の対応が必要なお子さんが、トイレに行きたがらないことがあるが、対応に目届かない場合がある。	職員同士で掛け合い、体把握ができる制にしていく。	1. いつもお様で子であった	職員の声掛けに嫌がることにトイレに行ったが、多くの場合、常に落ち着かないこともある。	3. 対象児の児離れとこで対象児を見ていた	職員1名、トイレ入り口付近で全体を見ていたが、排せつ中の個別の対応に必要に中に、離れたところからの見守りだった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレかき手見をしていた。トイレから出て洗い手の子を守りていた。	職員同士の声掛けが足りなかった。	その場を離れる時には必ず声掛けも把握して子どもの動きを把握できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																																															
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員																																							
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3825	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25	名	名	名	9名	5名	11名	名		1名	1名	6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	保育士が鉄棒を離し目を離していた為	固定遊具での遊び指導では、見守りを徹底するよう保育士に全に伝達する。	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	鉄棒の下は砂地だが、地面が硬かった	鉄棒の下を安全なポンジマットを敷く	1.集団活動中・見守り	同時刻に園児士の同じ遊びでトラブルに介入しいたため、目を離していた。	子どもの多い時や、その場を離れる時は使用する遊具を制限する。	1.いつもどおり子であった	(具体的内容記載欄)特に体調には変化なく、いつもどおりに活発に行動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭で遊ぶ際の注意・約束は子どもに達と行ったが、他トラブルの対応をしと、目を離してまっ	—	(具体的内容記載欄)	土曜日午後園庭遊びでの事故。異年齢児集団を一人の保育士が保育していた。	複数の保育士を配置するか、見守りができないときは、固定遊具の遊びを制限する。	
3826	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中		3.2歳児クラス	23	0	0	0	0	0	0	名		5名	4名	3歳	1.男児	発達において不安な点があり、保健センターで相談し、民間の医療機関で自閉的な傾向があると診断を受ける。気持ちの切り替えに課題があり、また、言葉での指示のむらがある。そのため、保育士1名が出来るだけ本児につくようにしている。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	公園の固具が、2歳の発達児に合っていない可能性がある。園内にある台の高さは、９０㎝であるとして、園の台は２００㎝であった。	公園の固具の台定遊びは、普段から使い慣れ、安心してみて、台の2の発達に合っているか再考する必要がある。	3.個人活動中・見守り	通常、滑登りの側と側、保育士が付いていることが多いことから、比較的安定して遊びたちが使いたちようなっていると、１名の配置であった。本児が、向きを変えたり、すぐに補助が出来なかった。	公園での子どもの再合わせ、子ども数と、同保人数と再合せ、場合は同行する職員をてまし、遊具配置によって増いく。また、油断せずに２名の配置せで遊ばせる必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)担当保育士で、好きな場所にな移動しが、自由に遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)滑り台の点中央地点で、登ると子どもと子が滑ることもに見てた。安定感の子と、不安定な子の様子を見て、どもらにつて判断らかしながら見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)散策するこたちとあそびながら、時、全体に折も目を配った。	あそび慣れている公園であり、担当保育士が子どもの普段の行動を理解して保育士同士お互いに確認しあってそれぞれの場所についているが、予測できない行動もあるので、遊具等リスクが多いと考えられる場所にはプラス1名でつける必要がある。	
3827	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	普段は2人体制であるが、夕方の時間、一人でした。	一人で見はよく全体へが認識し、注意を払っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	—	実施頻度(　)回/年	—	実施頻度(　)回/年	床のワックスを年2回実施している。また、室内は毎日水拭きを行っている。	保育廊下で清掃を行っている。	7.その他	保育室のピアノや机の位置を変えたばかりで、慣れるまで繰り返し、環境の注意喚起が必要であった。	子どもの様子に気を配り、机等の配置の再度行う。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)登園時から変わった様子はなく、当日の一日も変化が見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)室内に背を向けて為、と音でドンという振り返ると本児が転んでいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)室内に他の職員はいなかった。	・次の動に前ど約行移子にもと事を確認する。・保育士ども子どもの様子から目を離さず、他員を	日々の生活から室内や廊下は落ち着いて歩くよう繰り返し伝えていく。	
3828	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	1歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	狭い保育室でダンスをしていたため激しいダンスは、広遊戯室ではないと協議ではかとした。	動きの激しいダンスは、広遊戯室でするにしたのうが分かったのうでは、講堂よとしたと話と合った。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８　)回/年	1.定期的に実施	保育室のすやすやしているが、物がないかなぐ、おちついないかなど今後も保育士が点検ずに必ずしてこどもを迎えた。	走る、跳ぶなどの激しい動きのた、ダンスは保育室でしないようにする。	1.集団活動中・守り	みんなで踊らず、１０人ずつ交代で踊るなどの方法はあったのではないか。	室内向きの、静的なダンスを、交代ながらしなが行ったい。	2.いつも元気なかった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)転倒後、抱っこをせ、担当職員から、離れようとしなかった。	2.対象至児の近で対象児見た	(具体的内容記載欄)全体を見ながらダンスなして全体を見ながらダンスをいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体を見ながら緒にダンスをしていた。	みんな一斉に踊ったため、保育士の一人ひとりの動きに目をみていくことは難しかった。	もっとしっかり、一人ひとりの動きに目をくばる必要があった。	
3829	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名		1名	1名	4歳	1.男児	身長１０７．８㎝ 体重１５．３kg 既往歴なし 持病（片頭痛） 発育・発達状況 問題なし（活発） 発生時の天候（晴れ）	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置	—	職員会議で怪我や事故の内容と統計を検討し、その対応策を決定で、万一の事故の備えにより確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	—	飛び降りたときにスムーズに着地出来るよう、付近には障害物なくなるのない日点検し、危険につながらないよう保育士が見守る。	3.個人活動中・守り	—	体の仕組みを知り、危険や怪我を回避する方法を考えたりすると、大型遊具で遊んでいる時は、必ず見守る。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも活発通りに遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)運動場全体を見ながら巡りら子供たちの遊ぶ様子を見守っていたが、事故の状況は見逃してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)運動場他のクラスの園児、職員は不在だった。	—	危険の無いような見守りと共に、日頃から危険に対する意識付けの声掛けを大切にしていく。また、運動場に保育士1人の場合は、主任（フリー保育士）に依頼し一緒に子どもの遊びを見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者																																		
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3830	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	15	名	名	名	名	名	名	名	4名	4名	2歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯牙の埋入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	使用する場所が少しの事故への意識を予測して良くするのが欠けていた。想定外のケガをきたすヒヤリ・ハットの事故報告書をこれまでにかかわってかかえていなかった。また日々の子どもの安全を自分たちしっかりおきて良く見て、子どもの安全を確認し、職員同士声を合い子見守る。	散歩時の安全確認や事故予防の認。使用する施設では職員の配置指示や危険個所の口頭・指さし確認を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎回)	3.未実施	実施頻度(1)回/年	子ども使用しているが、ベンチの角が尖っている。	現場検証・職員等で合議等で合議し、遊びとしない場とした。	1.集団活動中・見守り	子ども使用の施設ではない場所での活動となってしまった。職員同士のコミュニケーション不足	子どもが安全に遊べる施設の配置や子ども職員を確認し、職員同士声掛けを合いながら子ども見守る。	1.いつもどおりの様子であった	散歩をしていた。いつもの園庭や保育室での動きと大きな変化はなかったが、乳母車に乗って園外に出たこと（車等が大好き）で、遊び続けているうちに楽しくなり興奮して走り出す。気持ちだけが前にでていく身体が追いていなかった。（前日38℃台の発熱・咳・鼻水があり、元気はあ	2.対象児の近く	対象児以外の子どもも見ていたが対象児の動きは視界に入れていた。対象児が転倒する瞬間に手を伸べたに合わった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	段差があった石が敷き詰められ敷られる所もあるため、他の園児をみていたため、対象児の動きは把握できていなかった	突発的な子どもの動きを予測しながら見守るという意識が欠けていた。本児の身体の硬さを把握していたが、想定外のケガを予測できていなかった。	転びそう・危ないなどヒヤリとした子どもの動きを、大大夫だったで終らせず、子どもを見守る時に、動きを予測し本児に声をかけながら手が出せる位置で見守る	
3831	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	21	0	0	0	21	0	0		2名	2名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右とうこつ骨折（若木骨折）	1.遊具から転落・落下等の	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	マニュアル沿って担任が付そばにいて見ていたが落下してしまった。	個々の運動能力を把握して声をかけ安全に遊べるようにしく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	太鼓橋のマッ敷いが下にあるを防ぐ怪我をかった。	着地地点衝収マッ敷を吸収マッ等を敷あれいて良ではないか。	3.個人活動中・守り	他児様子を自分もできる過信しまってはないか。	遊ようの声かけをしていく。	1.いつもりの子あった	(具体的内容記載欄)並んで順番を待ち番を分の番がまわってきたが嬉しくて得意げに下ぶらがは片手がずれて落ちてしまった。	対象児マンマの状態(知児に接していた)	(具体的内容記載欄)太鼓橋で遊ぶ時は保育士が必ずつくるが、対象児が遊ぶ様子を横についてマンツーマンで見守り、声かけを	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園庭内の場所で他児でもがみたが、太鼓橋で担任が1人ついている状況は把握していた。	安全を意識でよいきるようにしっかり掴る声かけをべきであった。	太鼓橋で遊ぶ時には保育士が必ずそばにつき、こどもたちの運動能力を過信せず安全に遊べるよう見守りながらにする。	
3832	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	24	名	名	名	名	名	名	名	15名	14名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子どもと同士突衝よるもものによるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	転んだ時に、手を出さず落肩から落ちている。	歩く時、走る時の周囲への注意。マット等使用し転ぶ練習（回転）を遊び中に入れる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	—	園外活動際園安と定点検様、全定確期的認を行う。	1.集団活動中・守り	—	歩く時や時は周囲に注意を払うように指導する。また、マット等使用して転ぶ練習（回転）を遊びの中に入れる。	1.いつもりの子あった	逃げる過程で、対象児が足につまづいて転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士は対象児が転んだ瞬間を見ていなかったが、児童が単独で立ち、その場所で泣き始めたため、児童の傍に行き状況を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別グループを見ていたため、対象児の動きは見ていなかった。	—	園外活動の際の職員配置や安全確認について、職員会議等で検討する。	
3833	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	47	0名	0名	0名	14名	12名	16名	名	5名	5名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子どもと同士突衝よるもものにもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	3クラスが合同でしるのが生活ているで落ち着かない。	走る活動は他の場所で行う。室内は歩く。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	仮園舎の為、3・4・5才児がワンフロアーで室の保育室の多の子ども人数が室内で、走ることの危険性	走る活動は他の場所で行う。室内は歩く。	1.集団活動中・守り	仮園舎の為、3・4・5才児がワンフロアーで室の保育室の多の子ども人数が室内で、走ることの危険性	走る活動は他の場所で行う。室内は歩く。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通り登園し、活動的であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子どもたちが自由に遊び、5才児は当番活動（雑巾がけ）をしていて全体を見ていた。本児が座り込んでいたので、声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれ、好きな遊びをしている全体を見ていた。	ワンフロアーの同保育、部屋の使い方やごし工夫する合同過ごし方を話いねる。	日々声掛けはしているが、室内では走らないよう事を徹底する。	
3834	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	2	13	18	14	17	16	名	17名	13名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	—	事故予防に関する研修を行っていたかったので、今後研修を行いたい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	—	今後も点検は今まで通り実施し、事後措置検によって直ちに結果より直ちに行い危険防止する。	1.集団活動中・守り	—	—	3.いつもどおりの様子も活発であった（理由を記載）	(具体的内容記載欄) 卒園式前の練習で、戸外遊びをする為戸外にて近距離にいた。卒園式前でキウキウしていた。また、卒園式練習が戸外終わり早くいちしいう遊びをくとも為、いうおお気が焦っていた。	2.対象児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄) 卒園式前の練習後で、戸外遊びをする為戸外にて近距離にいた。しかし、手はかなかった。転んでから、痛いと訴えきたので患部を診し、患部診した例を張ったり、シップ張冷やす。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	(具体的内容記載欄)以上児職員は練習が終わり戸で子ども保育をしていた。患部に貼れたみられた為、看護師にしてもらい受診したい方がいの判断を受ける。	転ぶ際バランスを崩して手の付き方が悪かった。	戸外遊びは、特に開放的になるが、けがをしないように十分注意をすることを全体でクラスで話し合う。又保育士は、子どもの様子から目を離すことなく常に注意して保育にあたる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									発生時の体制																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
										異年齢構成の場合の内訳																																													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3835	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	22	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(2or3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	保育参観という事で、気持ちが高ぶっている面があった。	事前に、期待感や引き出す意欲を高めるように、気持ちを引き締め、落着くように言葉を掛ける。	3. いつも活発的であったが(理由記載)	(具体的内容記載欄)・保育参観で保護者が来ていた為、気持ちが高ぶいた。・サーキットの最初の方で転んでしまい、挽回しようとする気持ちも可能性があ	2. 対象児の近で象児を見た	(具体的内容記載欄)・いつも取り組んでいるサーキットなので、気持ちに余裕があった。・全体的な動きを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)・死角のようにわかれてポイントに立ち、危険いように活動のように見守っていた。	・一つ一つの活動の中で決まり注意点が指導者と保育士共有できていなかった。	・指導者と連携をとり、決まりや注意点を共有する。・園児と活動の確認をしてから進める。	
3836	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	16	0名	名	名	0名	0名	0名	名		1名	1名	4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	研修等の意識がみんなのものになっていない。	・定期的な事故防止にはミーティングの実施。・事故防止におけるマニュアルの徹底	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	遊具での事故を定ていなかった	遊具での想定した事故したミーティング、園内の安全点検	1. 集団活動中・見守りあり	集団活動中で、細かい気づかいが無かった。	職員が把握できる範囲であるそ環境を。	1. いつお様でもり子であった	(具体的内容記載欄)何時も活発である。	4. 対象児の見ていきた	(具体的内容記載欄)他児と一緒にあそんでいた。	—	(具体的内容記載欄)	保育士が全体を見て子どもの状態が把握できる範囲で遊ばせるようにする。	保育士全体を見て子どもの状態が把握できる範囲で遊ばせるようにする。	
3837	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	28	名	名	名	11名	10名	7名	名		2名	2名	5歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	設定されたコーナーあそび以外の遊びをしていた為、起こった	そび前に、ルールを遊ぶよう約束をする	1. いつお様でもり子であった	(具体的内容記載欄)いつもとなく、過ごしり元気に過ごした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担任が口頭で気をよけるたつうが話しがその直後にバランスを崩し、床に手をついた	1. 当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)担任が保育士も気をよけるたつうが話しがその直後にバランスを崩し、床に頭で気をよけるたつうが話しがその直後にバランスを崩し、床に手をつい	口頭注意で制止に至らなかった。	こども一人ひとりの状況を把握し、危険な動きを想定して早めに声をかけて注意を促し、場合によっては制止するようにする	
3838	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	2歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	5. 口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	上顎前歯打撲・上唇小帯裂傷	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(10)回/年	1. 基準以上配置	特になし	規定の決められ人員はでいて事故ることを再研修をする取り入れる	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	特になし	全員個別分着替えが入っている子どもが自分出着替えがいるでもでしが引きとりとるだ、子どもが自分出着替えがいるでもでしが引きとりとるだ、子どもと遊び空間切った置場所を変えられない	6. 食事(おやつ)中	特になし	保育中はの前のこどもに目を子どけてなにどきをする	1. いつお様でもり子であった	(具体的内容記載欄)いつもとあわりな変いい様子であった	4. 対象児の見ていた	(具体的内容記載欄)子どもに対して保育者の人数は多くたが、員数はいたが、どのも現場をみていた子どもの行動が加害子ども行動や意図が分からない	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	(具体的内容記載欄)室内のコーナーの子どもと一緒に遊びながらしていた、故の瞬間を見ることができなかった。	特になし	生活の切れ目に子どもの動きを把握できていないことを意識し、棚の陰などと見えにくいところに居る子どもの動きは特に職員間で声を掛け合っていく	
3839	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15	名	名	名	6名	4名	5名	名		2名	2名	6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特なし	事故予防についての研修の機会を設け、予防対策に対する意識を高める。	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	玩具、家具などの外点検以空いにも、関の方に安全で再度確認をする。	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	迎えの時間帯が、子どもと動きや子ども目を子ども離れる性ごとに徹底する。	1. いつもお様でもり子であった	(具体的内容記載欄) 特になし	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)他もとにあそびながらごした。ど一緒び過ごしていた。他児のこと付け一度かけ走りこと気が付き、一度かけ走り時を事声をかけ。その後、突発的に始めた動きめる止めるがとぶつかって	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	(具体的内容記載欄)室内の別のコーナーの子どもと一緒びなごいたため、事間問事なかった。	特になし	担任は目の前の子どもと遊びながらも、全体が把握できるように身を置き、何かあれば起こりそうな時はすぐに対応出来るように心がける。	
3840	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11	名	名	名	名	名	名	名		4名	3名	3歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右肩鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置	児童の動きが排泄、手洗事並行おしてお応員しすもていたこに加童的きにの足ないい、準備と行われりする分散してとえ、児衝動のな対応していかった。	職員配置見直し(手洗いからの着席の担当を1名から2名)	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	ハード面策の改善はなし	1. 集団活動中・見守りあり	14名(当日は11名)の児童と職員が散り分かれる間帯は児童のスペースが広くなりたくさんの感情が生まれる。この時保育室のスペースが広くなる。衝動的な行動が生ま	活動に不要な広スペーションを区切り、「入ってはいけない」「走らない」の提示や行動の支援を行う。	1. いつお様でもり子であった	(具体的内容記載欄)食前の手洗いの後もにいつもにテーブル着席のようされテーブ方にへのを促されテーブル方に向かうがいきなり方向を変え方に出す。	2. 対象児の近で象児を見た	(具体的内容記載欄)手洗い指導後に着席を担当しており、もいどう声をかけるが、実際は体の向きを変点での言葉制止は行っが、実際に動きを止める行動には至らなかっ	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	(具体的内容記載欄)4名の保育士のうち、排泄食事準備に2名、食事準備に1名のをしており、保育室には当保育士のみだった。	衝動的な行動を好む傾向年齢や児クラスにはあったが、その特性に、職員配置や活動の開りなかった。	職員配置の見直し(手洗いからの着席の担当を1名から2名)、職員の児童の行動に対する安全対策の徹底と共有	
3841	令和5年3月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	34	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	—	マニュアルの活用、安全研修を行っている。	1. 定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	安全点検を今後も継続していく。	1. 集団活動中・見守りあり	人数に合った十分さの大きなコーナーであった。	地面の状態の検を。	1. いつお様でもり子であった	(具体的内容記載欄)体調などに問題なく元気であった。	2. 対象児の近で象児を見た	(具体的内容記載欄)中央のコートに立ち、子様どもがコートに子様見を声をかけていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)西側の外野付近ども子がらけていた。	全体のこどもたちの動きを目を配り動していたものの、本児の急な動きの	子どもの急な動きは、予想を超えてしまうことがあることを意識しておき、運動能力や体力に合った適切な声掛けをする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況									事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																							ハード面											環境面					人的面																					
									異年齢構成の場合の内訳																																																													
		施設・事業所種別	認可・認可外	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3842	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	0名	0名	1名	3名	名	1名	0名	2名	2名	2歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	緊急時のマニュアル等があり、園長、副園長、主任、主幹保育教諭も、対応ができるような体制ができたが、全職員の周知が必要だと感じる。	子どもの様子を全体に見守りながら、異常を感じた子どもに対応し、状況に応じ適切な対応や対応すべきかどうかを迅速に判断する。	1.定期的に実施	実施頻度(2５０回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	フローリングの床がすべりやすかった可能性がある。	給食後、床を水拭きすることを徹底する。	1.集団活動中・見守り	靴下をはかせていたので、すべりやすかったかもしれない。	2歳児までは、お来ませに来時せ迎えられた時に、靴下をはかせるようにをさせる。	1.いつもお様り子であった	(具体的内容記載欄)子ども、全体で、5人しかおらず、ゆったりと機嫌よく、しして過ごいた。	1.対象者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)2人の園児を、膝に座らせていたが、本児が歩いて倒れてきて泣いることに、すぐに気付く。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)迎えに来られてお1人は保護者対応に、テラスまで出ていた。	子どもが少なかったが、体のどの状態の把握ができていなかった。	外で、一人子どもの保護者と対応していたが、中の職員は、全体を見える場所で、子ども達を見守ることを、再度、周知する。	
3843	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	28	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	口唇・前歯打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	—	身をかわしたりバランスをとった子どもの自分の身をコントロール能力が低下していると考えられる為、普段様々きの遊びの育の中に取り保に取り入れるよう職員に周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	室内で運動遊びする場合は、ほこりで滑りやすくなるので、ほこり面やなっている床の段拭き、床面の状態を確認してから始める。	1.集団活動中・見守り	広い遊戯室で1チーム9～10人の3チームに分け、2チームずつの対戦をして戦いた。活発な動きの児童に広さが適当であったか検討の余地はある。	更に少人数のチームするもっと広い園施設で実施することを検討した。	1.いつもお様り子であった	(具体的内容記載欄)運動が得意で、集団遊びでは積極的に動く為、些細な怪我はよくある。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)全体を見てゲームをリードしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)残り1チームの側について、子供に応援から見ていた。	テンションが上がりやすく動き激しい他児に影響が出ていたが、児の動きに目ていなかった。	人との距離が近くなるゲームは、運動能力の個人差もある為、始める前に落ち着かせ、子ども自身も注意を払えるよう、声掛けの仕方を工夫するよう職員に周知した。	
3844	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	4歳	1.男児	食物アレルギー(小麦・くるみ)	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	6.その他	—	アナフィラキシー	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	給食室マニュアルに提出して粉とコニサラダが、見た目がほぼ一緒なので目がした食べてしまった。	アレルギー児のそばにいる担当保育士は目を離さずにアレルギーそく担当者に落ちたらニュアルに落ちて着いて行動をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	混入しないようにアレルギー児の名札を置き、トレーは分けていた。	給食室から運搬する時に混入しないように名札を確認する。	1.集団活動中・見守り	アレルギー児は食べないで普通食とは混合しないように、決まったテーブルに座るようにしていた。	テーブルを別にし、担当保育士はアレルギー児のみ、離れない。	1.いつもお様り子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象至対象児の近で対象児を見ていた	対象児の隣で一緒に、給食を食べていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	対象児とテーブルで、子ども達と給食を食べていた。	給食室では、除去食前日と調理始前に確認をしている。また混入しないように係の調理師が	保育士と調理師が除去食の確認を声出して行なう時に声を出して確認することを怠らない。	
3845	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18							名	1名	1名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	帰りの活動の自由なの後は遊びとため、行動した。	活動が変わる前に、子ども達が慌ただしくなったり、行動ことを確認し、ていくすることを認し、子ども達の行動の予測ゆっくりする園しくすることを促し、認識確認いく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年 実施頻度(1)回/週	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/都度	一カーロッ移動の前に自由になった。行動ら、遊びるた。慌て動	子どもの行動は外に起こることを改識するよう、ゆるやかに対策を行うようにする。	1.集団活動中・見守り	16時頃から降園なる多くも、子ども様子が、気持ち着いなかった。	子ども様子を把握し、危険を想定し、声掛守りをすけやるる。	1.いつもお様り子であった	慌てて行動した。	3.対象児の児離れとこで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育士は正面から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員なし。	すどいい降園子もいたるもるが、子達多がなも、少落ちがなく、少着きなく、十見となり、なりなり分守りならなかった。	移動の際は、行動すると、十分に行なと、見守りを。	
3846	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25	名	名	名	3名	8名	14名	名	1名	1名	3歳	2.女児	2020/1/8にギプスをとった。数回のリハビリに通った。今後は1か月後にレントゲン撮で骨の状態を観察。その様子で3か月後のレントゲン撮影など期間経過観察をしていく予定。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	ゴールの補修がまっていまること使用申せなかった。	情報共有によって、全職員で決めていくことを、様々な意見を出しあいながら、より良いものにしていきたい。	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	サッカーのゴールのにがネットみたるあった。が、そういう物い使用した者でしたサネたあった。	業者による遊具の点検の折、ゴールのネットのみの依頼をいたが、故障が起きてしまった。事故後に実施した修理施。危険とは思われるものは全て使用しないようにする。	1.集団活動中・見守り	園児数にての職員配置は問題なかったが、異年齢混合で保育という点で職員の厚くべき配置をするだった。	3歳児は眠れない時、午睡から起きた時、4.5歳児と共に外に出ていたが、事故以降は室内で遊ぶようにした。	1.いつもお様り子であった	3歳児は午睡の時間であったが、眠れなかったために出ていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっており、園の様子で対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で園児を見ていた1名の職員だった。	園児数にての職員配置は問題なかったが、異年齢混合で保育という点で職員の厚くべきだった。	3歳児は眠れない時、午睡から起きた時、4.5歳児と共に外に出ていたが、事故以降は室内で遊ぶようにした。	
3847	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	名	8名	名	1名	名	名	名	2名	2名	2歳	2.女児	担当保育士が休暇にて代替え乳児資格保育士が任者が育児をしていた	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	歩いていての転倒。ゴールボール程度の持ってが出なかった	遊具を持って歩く場合は注意深く注意守り、状況によって適宜声掛けなど注意してを促いく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	食事コーナーの外し、空間を広いになった。初日だった	空間が変わる際は、見守り特に、を強化りする	3.個人活動中・見守り	担任は休暇で代替え保育士が保育していたが、2名欠席して保育は落ちついた。	注意深く見守る	1.いつもお様り子であった	普段と変らず落ち着いていた。転倒前に出口向かって歩いて、方向転換した際、転倒と思われる	3.対象児の児離れとこで対象児を見ていた	部屋の隅の方から全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事のワゴンに取り行っていた	昼食前当1名がワゴン取り行き7名を1名の保育士でみていた	保育している大人が動線などを含め、声をかけあい、注意深く見守る	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度(回/年)	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度(回/年)	遊具の安全点検	実施頻度(回/年)	玩具の安全点検	実施頻度(回/年)	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3848	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	32	0名	1名	20名	11名	0名	0名	名		7名	7名	3歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	5. 口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯 亜脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(回/年)	1. 基準以上配置	散歩の時には、走ってはならないルールとしてルールを職員全員が認識していたが、出かける前にはもちろん、出かけた後にはもちろん確認する。	散歩の時は走らないルールを職員全員が認識すると、出かける前にはもちろん、出かけた後にはもちろん確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	散歩道には凸凹があるので、つまづく恐れがある。	バリアフリーの場所だけでなく、普段の遊び幹てるに体験して保育を工夫する。	1. 集団活動中守り	歩くペースなど年齢によって異なるので、前後があいてしまった。	歩くペースなど年齢によって異なる、焦ずゆとり持ってゆっくりとなるように歩くできるようにする。	1. いつもお様子あった	(具体的内容記載欄)仲良しの友だちと手をつなぎ散歩をする。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)散歩の列に沿って、間隔を取って歩く。クラスの職員が傍を歩いていた	1. 担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	散歩の列に沿って、間隔を取って、全体を見ながら歩く。	間隔をあけて歩くことが優先になってしまった。	職員の配置にもよるが、間隔をとって、歩きながら間隔を詰めることができるように全体の歩くペース	
3849	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13	0名	0名	1名	2名	3名	7名	名		3名	3名	6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右前頭部(脛)骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置	—	危機管理マニュアル内容をもとに職員で研修を行う	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	今後も毎日の園庭や園児の遊具点検を行いつく	1. 集団活動中守り	固定遊具場所で鬼ごっこを行ったとけがまった。	園庭の固定遊具の位置を確認し、固定遊具から離れた場所で鬼ごっこを行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)登園時の視診では、普段通りの保護者からの申し送りもあった。鬼ごっこルールは中心となって決めたものだったので、いつも活動的で	4. 対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)全体を見まわせる位置にいて9人の動きを見ていたが、時間すぎるために、子どもたちから目をはなしてしまった。	—	(具体的内容記載欄)	子ども行動が予測できていなかったため、本児が雲梯にしていること気付くのが遅れてしまった。	毎月会議や日々の打合せの場で個々の発達段階や特徴を話し合い共通理解していく。遊びの環境設定を職員間で話し合いながら再構成していく。	
3850	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	96	6名	12名	9名	24名	22名	23名	0名		17名	16名	4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	子どもの特性に活発で不注意があった。	子どもの特性をとらえ、事故防止に関して、個々の意識をもっと高めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回以上/年	普段から危険な場所やルールを伝えておく。	凸凹のところではこないようにすごっこしうことや、ビードをぎうないように出しないように伝える。	1. 集団活動中・見守り	地面に凸あっ凹があっで倒しくなったが、意識が低かった。	普段から危険な場所やルールを伝え、危険よてのないように見守る。	1. いつもおお様子の子あった	(具体的内容記載欄)集団で鬼ごっこをして、走っていた。	2. 対象至対児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)目の前で、転倒し、手をうとが間に会わなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他児がすべり台をつ滑ったため、その場所を見ていた。	特にな し	子どもがど気持ちで行動するのかな予想し、危険箇所と事故防止に努め、職員同士の連携を密にと	
3851	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	145	9名	24名	26名	28名	30名	28名	名		名	名	6歳	2. 女児	身長112.9cm 体重17.7kg ややや痩せ型の体型	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右示指基節骨骨端線損傷、右中指基節骨骨端線損傷	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	遊具の事故予防に関する意識が低く改善されていない。	事故予防に関する意識を高めるため外部の研修のみで、園内で分かる内容を事例に学び合っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	鉄棒下のマットが厚さ切ったか。	衝撃をやわらげるための鉄下に敷くマットの厚さが適切であるか検討する。	3. 個人活動中・守り	鉄棒で遊ぶ際の鉄棒が束ねられない。鉄棒の持ち方が正しくない。	子どもたちへ遊具使いかの指導徹底、職員見守り実に確認をする。大で子ども見守ると遊具のものは遊具を使用する限など工夫する。人きは制なをする。	1. いつもお様子あった	他児と一緒に鉄棒で遊んでいた。鉄棒が得意になり、上が前などさやわりも、何回も繰り返し行っていた。少し、スピードをつけてまこと楽しわるを楽しだり、持ち方をかちえをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)5歳児クラスのみが園庭で遊ぶ時間であり、担当職員は1人で5歳児が各々で園庭をあそびしている園庭をるの回ら見ていた。事故が起きたときは、ブランコで遊ぶ子どもについて	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)他の職員はおらず、1人で見守っていた。	1人でいたため、目行きなが届かった。5歳児クラスとこあるというとも、分遊だとの油断があった。	幼児の鉄棒などの遊具の指導、見守り知識を深める。	
3852	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	23	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中守り	際くが難しいが場合ことがあるんだ転んで手を付くと手をうこと	転地で時のだ、高くが低くもマットを置く着んたさがてもマットを	1. いつもお様子あった	普段と変わりなく、元気に遊んでいた。	4. 対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)トラブルのあった対児の園児応とし、全体をおり、全体を見渡せるではなく、一人の園児に向き合っ	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)他の園児のトイレの付添い	活動前に全員トイレを済ませていなかった	子供に背をを向けて保育をせず、全体の見守りができる体制で保育を する。活動前のトイレも確実に確認する。	
3853	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20	名	名	名	6名	7名	7名	名		名	名	6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	—	職員配置は守られていたが、再度も転ぶかもしれという視点で見直していく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	園庭での検続安全点引き続いていく。	1. 集団活動中守り	—	タイヤをましたせ出しにはず、だあと片づけ、意識く。	1. いつもお様子あった	(具体的内容記載欄)元気に鬼ごっこに参加していた。	2. 対象至児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)担当職員は一緒に鬼ごっこに参加していた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	(具体的内容記載欄)他児の遊びを守った。	一緒に鬼ごっこに加見守りしていたが、タ方で暗くなりまた冷えてい	身体をほぐしてから、走るように走る。空間を確認してから鬼ごっこを始める。	
3854	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中		1. 0歳児クラス	12	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	1歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	枝木骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	ブレイロック(遊具)には危険箇所はなかったが、その遊具で遊ぶ際に自破損ういう起こるの予測の甘と思う。	遊ん子排泄ありとこ自ち遊ようが排泄増が際具遊	1. 集団活動中守り	遊んでいる際にものが、職員が子どもが落ちて着かないように思う。また、職員が子どもが排泄に遊ぶ	子ども状況に遊の応遊具(減員の位置くあっ	1. いつもお様子あった	(具体的内容記載欄)普段と特に変わった子もいつもあそび階段	2. 対象至児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)遊具のすぐ側にいたが、対象児登ろる際体を時にて	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)同じ遊具の反対側の遊具置ていり、排泄の対応したり、同じ空間の様子の見ていた。	保護者間のかけあいは、職員の声かけなどが、慌ただしい雰囲気の中、我	職員間でお子どもたちのあそび方に危険はないか、職員の配置に問題はないか、常に目配せをしながらいくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時				教育・保育等従事																				ソフト面						ハード面									環境面			人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の誘因	死亡	負傷			事故予防研修	マニュアルの有無	事故の誘因	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																
3855	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49	名	名	名	11名	19名	19名	名		20名	19名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外踝部剥離骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2 2)回/年	1.基準以上配置	担任以外の保育士が保育に従事する際のりことニュアルに明確にされていかった。	担任以外の保育士が保育に従事する場合は、子どもの様子をしっかと申送りことニュアルに記載し徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	事故の発生現場となった砂場の高さは、受傷園児が乗りられる高さあり、他事故を誘発ハードでの見られる面備れない。	1.集団活動中・見守り	進級し2月が過ぎ、子どもは発てい。	生活に慣れ活動のなった子どもも遊び注意等に意しく。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)仲の良い友達と砂場で遊ぼうとし	3.対象児の児童のところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)園庭をまんべん確認した。危険な行動につながる恐れがある場合は事前に声掛けをしていた。普段通り砂場で遊ぼうとする姿で	1.担当者・発児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園庭をまんべん確認した。危険につながる恐れがある場合は事前に声掛けをしていた。	夕方の自由遊びが担任外の職員が保育にあたっていた。	日頃問題がなく行動しておいても、段差のある個所を始め、転倒や追突等が生じる恐れがある場合は、子どもに注意喚起をしていく。	
3856	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30	名	名	名	5名	9名	16名	名		3名	2名	6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	—	職員全体で事故対応のマニュアルを再確認をし、ヒヤリハットによる情報共有を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(20)回/年	—	今後とも定期的に遊具の点検を行い、日頃から安全に留意していく。	1.集団活動中・見守り	転んだ際、つかず顔や頭から転んだら、大きなけがの能性があった。	手を多く動き取り入れ、上手な転び方、手のついて体をること、保運動の中でつかまえるなど、育の身につけていく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこを友だちと行い走っている。	2.対象児の近で対象見た	怪我しないように見守っていた。	1.担当者・発児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園庭をまんべん確認した。危険につながる恐れがある場合は事前に声掛けをしていた。	全体を見回りの園児と会話をしていた。	—	鬼ごっこの際は、足元に気をつけたり、前だけでなく全体を見回して走るよう、日常的に声掛けを行う。	
3857	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	37	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士突のの衝よるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	個々の活動、行動を丁寧に把握し、職員で情報共有を行うべきであった。	定期的に事故防止マニュアルについて検討するとともに、園内でのヒヤリハットの事例について、職員間で対策を検討し、情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	—	施設内の安全及び、使用する遊具・おもちゃの日点検を常的に実今後も続いて、備があったら迅速に対応する。	1.集団活動中・見守り	隣との間隔をとったが、お隣もつかみで見えるお歩きがくて前方くなっていた児童の歩きさを意識が高ぶった児童に寄ってしまった。	中、おおきをお歩きを時は、おおきさとをあけ、まっすぐに進めるくい程度の距離を保つ。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	2.対象児の近で対象見た	本児の隣の子どもの進路を急速に変わると、隣分なとれるに間わなかった。	1.担当者・発児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)対象児から離れたところにいたため、止められなかった。	—	隣との間隔を広くとり、ぶつかりそうな時に未然に防げるように職員を配置する。	
3858	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77	0名	0名	0名	16名	21名	18名	22名	名		11名	6名	3歳	1.男児	低出生体重児。現在は、身長85．7cm体重10．1kg。身体面の発達を確認する為、医療機関Aを半年に1度受診いる。今年度育に関する1日検査入院をする。成長はしているものの、標準より下回るため、1月頃より成長ホルモンの投与を開始予定。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	午日段異多少人員当後、普多る人員配置(2クラ歳児の主担任が定援助の行い、場に不在)だこと、その個別を対応をすることあり、児の特性の周知・情報共有はしたが、配慮などの視点対応までは至らなかったと考える。	本児は他児と体格・発達に大きな差があり、個別の援助が必要であると情報共有していたが、必要な援助が足りなかったため、本児の安全を確保できず、保育意識や保育意識の相違があった。直接的な原因ではないが、異年齢が同じ場所で遊ぶ際の園児や子どもを見る視点を確認しあう。日頃	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	ソフト面、同様、安全の検に日頃も落ち見直し、個人の担任とあったのいかえた、くられ大丈夫と通信で考えて生とたる。	細部分見かいまでしよう、丁寧すかまとしても点検とも起こ能性こ定い、少しも不安感は報告、改善策を練る。	1.集団活動中・見守り	平地面あが、に見るい突起いるもの。転倒したから石はがが、もしまずくことは原因でまずくよにはこと身体の大きかった。	地面は際を小石が地面を小石が部分あっ部分凹凸なるよ拾がいる石石がいや出部分然除り、穴面をるにはかなどのす対応する。	1.いつもの様子であった	明確な遊びが見つけび歩いた。	3.対象児の児童のところで対象見ていた	担任1名、延長職員2名で園庭にて出た。本児が歩いるのを見延長職員は、離れこの児ボールいた。ボールの間に倒、「痛い」と泣き延長員が付き、駆けば寄る。すぐに保護者対応	1.担当者・発児の動きを見ていかった	2.担当者・発児の動きを見た	保育士1名は本児れから離れと保護者で対応していたもう1名延長職員は砂場の児の見で遊び守った。	中保育士は個応対対応し、不在だったこと挙げるで、後は個別対応児は時職員行い、主担任はクラス全体の保育を行なうようにする。	個別対応児の援助は臨時職員が行い、主担任全体の保育を行なうようにする。他児と比べ小さい本児から目を離さず、フラフラと歩いている時は一緒に遊びを探す。また、転んだ時の体の負担が大きいことを全職員で周知し、安全点検を入念に行う。	
3859	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	27	6	12	14	7	12	8	0		13	12	5歳	2.女児	—	3,4,5歳児が3.4歳児室に一緒におやつを食べた後、各自おやつの食器や所持品や片付けなどした。	1.負傷	—	1.意識不明	1.頭部打撲	てんかん分単純部発作の疑い	現在においては不明	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守り	室内の物や音も大きかった。	内の声が子の声が大きかった。母親に気づかなかった。	なし	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)帰りの支度をした後、母親の迎えに来た。	4.対象児の児童のきていた	(具体的内容記載欄)保育士はそれぞれ子どもそれ他の様子等を見た。本児に関しては迎えて、見ていた。	2.担当者・発児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)保育室には3名の保育士が、それぞれ子どもいたそれ子どもの動きに対応した対応しを見守りなどを、児は見ていた。	なし	常に全体に気を配り、保護者が迎えに来ても、子どもの動きに注視する。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																																													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3860	令和5年1月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	—	名	名	名	名	名	名	名	名		14名	14名	4歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	若木骨折	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	登降園時に保育士がいない園庭で遊び用具をしないことを保護者に周知させる。	登降園時に保育士がいない園庭で遊び用具を使用しないことを保護者には書面で周知し、園児には朝の全体会でクラスにお約束を話した。また各クラスから担任も再度話し、危険性の認識を図った。園外でのヒヤリハット会議を実施し、保育での危険に対する意識を高める。	—	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	—	実施頻度(　)回/年	雲梯の下には人工芝マットが敷かれて、落下防止の対策は行っている。	安全点検を徹底して行う。	7.その他	保護者と園児に登園降園時は園庭で遊ばず、帰宅することを守ってもらう。	保護者と園児に登園降園時は園庭で遊ばず、帰宅することを書面より周知させた。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)登園時から変わった様子はなく、当日の一日の様子も特に変化が見られなかった。		(具体的内容記載欄)職員はタ方保育を行っていたため、園庭には職員は誰もいなかった。	—	(具体的内容記載欄)タ方保育を行っていた。	雲梯付近に登降園時遊具が使用できないと分かる張り紙等が必要。	雲梯付近にカラーコーン（張り紙）を登降園時に設置し、使用不可を周知させる。	
3861	令和5年1月31日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	66名	名	名	名	18名	28名	20名	名		4名	4名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	上肢(手指)	左示指基節骨骨折、左示指挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	戸外での危険につの意識の低さ。	戸外での危険を予測する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	木にぶつかることもあるが、今後は注意を払う。	普段から活動的であるため、今後は注意を払う。	1.集団活動中・見守り	戸外での活動危険を予測する。	長時間保育中は、担任では保育士が接することも気をつけるようにしている。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)一人で園庭を走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)一人で過ごしていることは把握していた。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児が近くにいた保育士に指を木に指をぶつけたと伝え	前を見て走る。	子どもたちと戸外で過ごすときは安全面を確認する。	
3862	令和5年1月31日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46名	名	名	名	14名	16名	16名	名		4名	3名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折、左橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	本児には無理のないジャンプだが、何回目かのジャンプの時、手の付きのがねじれたようになってしまった。	身体の使い方を身に着けるよう遊び取っていくように子どもを入れ	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	飛び降りている砂が少なくなった	業者に砂を入れてもらい安全遊びようした	1.集団活動中・見守り	砂場の梅の枝取り足元の確認をおこなかったことがある	近くの梅の枝を危ないように切る	1.いつもどおりの様子であった	特にしたもなく、いつも通りに集まってい	2.対象児の近で見ていた	何人かの児も近くで、一緒に声をかけて見守っていた	2.担当者・対象児のを見ていなかった	園庭の離れたところで、他児を見守っていたため、砂場の方は見ていなかった	現状維持	人の配置としては必要で、保育士たちはきちんと要所にいた	
3863	令和5年1月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	67名	名	名	名	23名	21名	23名	名		6名	6名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準上配置	室内の危険個所の把握はあったが、職員の意識と対策が不十分であった。	施設内の危険個所を再確認整備をし、をくく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年	小窓に登ることのないように棚を置いていたがそれに登ってしまった。	棚を撤去、小窓に装飾を場ではなく登る場所ていることを意識づけていく。	1.集団活動中・見守り	朝の歌に向かう子も数人いも。	活動が始まる意識が持てるようにかけて声をいく必要があり、動きが安全かが見守りが必要	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に興奮する様子はなかったが、他児と一緒に気持ちが大きくなりふざけてしまう姿が	4.対象児のを見ていなかった	(具体的内容記載欄)朝の受け入れ、他対応、ピアノ伴奏などで危険行為をしている子供への把握が不十分であった。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	(具体的内容記載欄)同上	3.4.5歳児の合同活動が終了し、次の活動に向かう時間で落ち着かなかったもり、職員間の	活動を進めていく職員と補助職員を明確に、子供の動きを把握していく。	
3864	令和5年1月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22名	9名	0名	0名	14名	0名	8名	0名		2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	5.下肢(足・足指)	末節骨基部骨端線損傷、挫創、爪脱臼	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	年長だからという見方や、子どもの時間のでの（日もりて等子の極めてしまった。子どもの信力を過ぎずに、物を運ぶ際は大きすぐ応えようなを守っている。	今回足にしてた机でを落ちたけく、重たいもの際に運ぶ運大人に掛け運に達しいお子に話をして確認した。（定期的してしてく）た、際に運ぶ大人にすぐ応できる場所にくする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	運ぶ際に滑り落ちて手が落ちた為、付けた机の部分に板もちろん、運ぶ際にかけるについて（特に事油分り）ろ片手天は手を部分も汚れ食の水残が無いかを確認しく。	—	1.集団活動中・見守り	四ヶ所に分かれて遊び展開した場所の遊びにいた。の為、体把握の部分が薄れてしまった。共に、本きの際すぐ対応できることができなかった。	たくさんの遊びを点在し全体を把握しくなるため、その場にいた職員がすぐできる展開の展開を。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)夕方の合同保育の時間帯にて描画を行った。着子ていたその後描き終えたところで片付けと主体的に動いていた。	2.対象児の近で見ていた	(具体的内容記載欄)少し離れたところで折り紙をしていた為、本児が落ちがいて描いていた為、その場から様子を見守った。	1.担当者・対象児のを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)同室内で他児をまとめた。担当職員が描いていた為、場から見守っていた。	運動と常活に生中にあり人の意識と、長児が運ぶことに対しての配慮が薄れていた為、子どもの力を過信せずに見ていく。	机だけでなく、重たいものを運ぶ際には大人が掛けてから運ぶように子どもに達に定期的に確認していく。また、運ぶ際に大人がすぐに対応できる場所に落下等努めることとする。	
3865	令和5年1月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17名	名	8名	9名	名	名	名	名		8名	7名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口含む)	外傷性歯牙動揺（左上歯A）	3.子ども同士突よるものの衝にもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	朝保育終了後、クラス別保育で室内で玩具を片付けていたが、この行動は場所が変わることから、遊び場所がとられる内容にあっては限界があったと考える。	切り替えから時だけ、各クラス職員が全体の動きを把握した子どもの安全を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	切り替えでの子どもの確認ができていなかった。	活動に切り替え状況ども子ども誘導のすべきだった。	1.集団活動中・見守り	特記無し	安全に周囲を見渡せる状況や子どもの誘導を配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)担当職員含め職員は片付けをとっていたが、本児のみ動き（四つ這い）で移動して遊んでいた。	2.対象児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)本児も含め、保育内にいる子どもたちに声をかけ、一緒に片付けを行っていた。	1.担当者・対象児のを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)担当職員一緒にいた子どもたちに声をかけ、全体のみなさを片付けをした。	特記無し	クラス別保育に切り替わることで職員体制もさらに整ども動きや誘導の連携を図る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面			人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】					理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3866	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	33	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	左上BC外傷性歯の脱臼、歯槽骨骨折歯肉裂傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	園内保育の事故防止につい ての周知により、人数配置には問題がない。	マニュアルを再度見直しをし、事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	今回の怪我に関して、施設、設備は影響していない。	再発防止対は必要がない。	1.集団活動中・見守りあり	17名でのゲームでも5歳児も、脚を出るとともスピードも付き、逃げる中になることも中に夢中周りを見えなくなってかっしまった。	ゲーム説明は十分お行ったり、何度もゲームを経験しているゲームであった。参加人数あった。参加人数に於いても影響はない。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)特に変わった様子はなかったし、楽しんでゲームに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担任は全体の流れ、子どもたちの動きを見ていた。子ども同士でつかっている本児の様子に違和感を感じ、様子を確認する為ゲーム中断。他職員が来たため、本児の様子を確認後、搬送準備に関わり、他職員は残りの園児を保育室へと移動させ、室内での活	—	(具体的内容記載欄)	2グループに分け、そのうち1グループの人数が17名での活動に於いては問題はない。	しっぽ取りゲームという走る活動では、逃げることに夢中になる為、体の大きくなってきている5歳児では、さらに1～2名人数を減らしてもよいかもしれない。	
3867	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯の破折	3.子ども同士突よるもの衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	子どもの急な動きが怪我につながることを周知徹し、子どもの動きを予測し怪我を未然に防ぐようろ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 (48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	—	・特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)降園の準備をしようとしていた。	4.対象児の様子を見ていなかった	(具体的内容記載欄)他の子の降園の準備を手伝っていた。	—	(具体的内容記載欄)	—	・子どもの動きを予測し、未然に事故を防ぐ。	
3868	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	18	名	名	名	名	名	名	名		3名	3名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯牙破折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(隔)回/年	2.基準配置	人数が多くい遊び保育者が関わっていた。	子どもの歩いたところに配置するのではなく、遊びの様子を危険のみで伴う遊びはつくにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	凸凹があるはバランスを崩しやすい。	コンクリートに穴が開いていたり、石がちらばっていたり、落ないか確認するにする。	1.集団活動中・見守りあり	スピードに慣れてくるにつれて、勢走よくなっていくいらうていた。	子どもの様子を把握すだけなく、伴場合は遊びの様子を確認し、早め声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)緩やかなコンクリートの斜面を遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)ブランコについた(1名)他の子どもと取りしていた(1名)他の子ども砂場で遊んでいた	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊びの様子を把握保育しながら当たっていた。	戸外遊び時の職員同士の連携	職員同士声を掛け合い、保育士の動きや子どもの遊びの様子を把握していく。	
3869	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	名	名	名	名	名	名	名		9名	8名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	室内外の環境整備を始めて4年目になり、今の環境に「慣れ」が生じて危険を予知測、察知する能力が低下していた。	怪我の可能性に対する認識がずれがあった全職員が確認よめ、員でうニュアルをてし、作成徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	今回の事故現場で「ステージ」は後ろへのが未発達である乳児（おおよそ０～２才）でも遊（行く）ことは、ごきれは斜面に設置されたテージため、１センチがある園庭側と、３０センチがある高さ区庁舎あるだ。ステージに上がった本人も３０ｃｍの	今回から高さのある遊具に関しては、その遊びにこなす能力を持たないのないに変こと。今回の事故現場である「ステージ」は３６０度、を向いも景色見えるこてもこてくことき。かし、遊びながら意識させたかったは１１０センチ	3.個人活動中・見守り	今回の事故において、保育士もが「ちざわした。落ちざわした。落ちざわした。状態児一緒になることが「不安があった。」と感じたとの声があった。	異年齢園庭で遊ぶ主活動・夕方の時間には、園庭にクラスリーダーを2名以上配置する。役割とし一名は庭を動き回り広い視野で全体を把握、一名は遊びに入る。今までは1名のリーダーとその他職員でこっとも園庭で見守るもあっての職員の体制を、子ども安全子ども職員の	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)児はったりつったり、こつ遊びが好きで、年長児が歌によって踊り、台の上立ったり、姿をて目にして憧れた。テージで入をおりの気に歌ってう、たっう表現して楽しんでいた。	2.対象児の近で対象児見てい	(具体的内容記載欄)楽しんで様子を担当職員は近くで見ていたが、落下する危険性は察知できず、同じクラスどもおんぶしながら側にいたためすぐに手を差し伸べられなかった。	1.担当対象児の様子を見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)1人は事故のステージ橋のクラスの砂場にの子どもたちが遊んでいたもう1人砂場、ステージ以外の子どもたちの側にいたためステージそれぞれの子どもたちの様子は目にいなかった	高い所で踊る2歳児の見て歳姿でさいるがいかった。日に常的見るりが、当たっていたと意識もかった。	注意して見ていきたい環境や子どもの動きを、具体的に箇条書きハで示したマップを作成し職員間で共有する。	
3870	令和5年31月31日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	6歳	1.男児	身長１３０．４ｃｍ体重３３ｋｇ	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	3.子ども同士突よるもの衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルではしたは、複数の職員で視診・触診とあるが、それが担任が考えっを軽くて窓た。	マニュアル直し徹底。研修の機会を増やす。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	無し	運動場はあぶ平面り、転ぶ要素いが、運動場を使用する場合は、危険物（石など）がいか、点検を行う。	3.個人活動中・見守り	無し	無し。衝突した相手も故意突に手も故意く、ただボールをいただけである。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通り外遊びが大好きで、子ども同士ボールを追いかけ、衝突	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)サッカー４固定をする人や、固定遊具ほかで遊ぶ人も、全体を少し離れたところ見守っていた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)園長・主任は、発表会の準備、３歳児未満児担任２人、乳児園児保育室３人の育。	避けられない事故であったが、対応に不備があった。	念入りにケガの状態を調べるとともに、他の職員にも相談するべきであった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況									事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事													ソフト面									ハード面									人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員													マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				環境面												
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他															実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】				教育・保育・育成支援の状況												
3871	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28名	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	4歳児クラスでの跳び箱について数回行ったが、保育者の想定を超えて強く跳び箱の先が当たった者を指摘するに	体育あそびを前に準備徹底、使用するについて事前にわかりやすく子ども達に伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	考えられる要因は特になし	考えられる要因は特になし	1.集団活動中・見守り	クラスでそびえ広いのあそびのホールで活動なり、子ども達の集中力が欠如する。	次のあそび移る保育者の配慮に慎重に行う。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)跳び箱の跳び方、注意事項については知っていたが、勢いが余った。	2.対象至対象児の近で象見た	(具体的内容記載欄)保育者が1名跳び箱の脇に立ち補助をしていたが、転倒し傾注し過ぎ、手のつき方にも注意をすべきであっ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	考えられる要因は特になし	跳び箱の跳び方、手のつき方、着地の仕方等、子ども達に分かりやすく伝え、又、他の職員にも周知徹底させ、再発防止に努めます。	
3872	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	57名	名	名	名	20名	20名	17名	名		3名	3名	4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		3.子ども同士衝突よるものにもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊具の設置がいつと違うと、朝の等者し定もたと、視診保育目た。	職員の配置に問題はなく、職員数にて合わせて出した遊具を、遊び方を保育者ども一緒に確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ゲームボックス組み立て中、4人上2段ボックスの部がフットたことによる数名があったこと接触転倒事故につながった。	ゲームボックスジャンプ遊び中、今通りずつあるのでは、通り名ずつ順番に1名上にあがりでジャンプ遊びすることにする。	1.集団活動中・見守り	慣れていない場所で安心感などもあってはないかなと	子どもの人数に合わせて保育者の配置、遊びを設定をよるとすうる。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友だち数名とゲームボックスを家にて遊ぶ、立ってごっこ遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	1名は朝の視診をしながらゲームボックスの側に1名、ステージ側1名いたが、見とかわいた為けがをした時の状態を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の時間帯で職員体制3名体制のなか、1名は保育室のコーナーあそびに入っていた。	園児の数かも見ても、保育士の配置基準は充足されていたが、子どもの遊び様子からケガにつながることが予	子どもの様子から行動を予測し、安全面に留意する必要があった。	
3873	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	12名	0名	0名	0名	0名	0名	12名	名		1名	1名	6歳	1.男児	身長114.0cm、体重18.2kg、当日の天候は晴れ。既往歴、持病、アレルギーなし。発育・発達状況問題なし。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転車転倒によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	遊戯室という比較的狭い場所での保育では、ぶつかることが必ず追いかけっこしないよう配慮だった	遊戯室等において、追い走り回り方をよく遊びしないようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	保育室や遊戯室等、整理より一層施する。	整理整頓を徹底し安全を。	1.集団活動中・見守り	普段とった環境(保育室以外)で過ごしていたもあり、いつも以上に、遊んでおり、その保育者が配慮点足だった。	より一層整理整頓。その子子の整理をさせた状態と状況と状態へのしていく。	3.いつも発で的あった活動を(理由記載)	保育室で遊ばなくいつも戯室と遊べると環境で遊べると言う事で、より活発で、より活発であった。	3.対象からの児から離れたところで対象見ていた	職員が本児の側にいたが、間に合わず転倒を防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、クラスは、職員2人でしていた。1人の保育者は、対象児の近くに居たが、1人の保育者は、同じ空間には居たが、対象児から離れた場所で保育室していた	対象児は比較的近くで保育していたが、転倒を防げなかった。	整理整頓の更なる徹底、特に、走り回るような遊びについては、環境等考慮する。	
3874	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22名	5名	17名	0名	0名	0名	0名	0名		6名	6名	1歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故防止のマニュアルのマル通りできた。	再度、職員間でマニュアル確認や研修など細かにに行やう。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	—	室内での遊び方、子ども等、子ども達に伝える。	1.集団活動中・見守り	通常通りごしていたが、何かがあるから通常過いて、しっかりも達とていわっく。	防げる事故、防げない事故もあるとをしっかり受け止め、次に繋がさう、職員同士共有していく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも通りだった。	3.対象からの児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)クラスの達子ども自由に遊んでいたので、全体で見渡せる場所で見守っていた。	—	(具体的内容記載欄)見ていたが、ことなった。	—	常に声かけ等しながら、子ども達を見守る。	
3875	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	11	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	27名	名	名	名	8名	10名	9名	名		3名	3名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第五趾基節骨骨折	2.自転車転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.基準以上配置	食事と排泄うが、職員に配置しており、もし傷所には場ていなかった。	職員配置の見直しを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	裸足で過ごす時間があった時間であったので怪我なのにつながりやすかった。	裸足ですごす時間は、子どもの動きまりあるようないに環境構成を配慮する。	1.集団活動中・見守り	絵本のやり取りの気持ち持ち中で折りがつかれずの合いけり受傷ってしまい受傷してしまった。	本児の気持ちが納得できるまで仲立ちをし、気持ちの合いと折りやりの仕方を理解できるようなかけ働きをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)給食後、排泄を終えて、午睡前の上でごしていた。その際、他児と絵本の貸し借りで言い合いし、すぐに対応した担任の話で落ち着いた。しかし、その後再取り中でやり気持ちが高ぶった。	3.対象からの児から離れたところで対象見ていた	(具体的内容記載欄)子ども同士の会話でトラブルになりそう子だったので離様子を見ていた。その後トラブルになるようなったので、に対応。落ち着き納得した様子だったので、担任が離れた後、再取り中で本児の気持ちが高まり職員受	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)大きな動きが担任大きやくなく名応したことあり、ないた。	一度目対応で、解決法を話し互いが納得していたので、その後、繰ってしまうという行動予測がなかった。	納得しても、その後のやり取りの様子は気にかけ確認してでおくべきであった。	
3876	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18名	名	名	名	名	名	名	名		4名	4名	3歳	1.男児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折【治療に要する期間：2～3ヶ月	2.自転車転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	両手がふさがれていたこと。手にさいと。持っていたものを打ちたこと。	両手に物を持たない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	引き続き定期的に点検を実施していく。	6.食事(おやつ)中	机と机の近距離がかった	来るだを空間を使えなく出け広くよる机の配置にする。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)給食後、歩き出そうとした時に椅子につまず転倒し	(具体的内容記載欄)周りをよく見て気をつけるようにかけた。	2.対象至対象児の近で象見た	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)給食時、各テーブルへの他児の対応をした。	—	子どもたちの動きに目を向ける。子どもたちへ、月付けの際は十分気をつけるよう声掛けをしてい	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3877	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳児	1	5名	6名	9名	8名	13名	8名	0名		1名	1名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	普段から体制がしっかりしており、声が必要ではない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	床材の硬度を考える。	1.集団活動中・見あり守り	—	歩行中突然足をひねってしまったので、今後の対策「歩き直し」「転ばない体づくり」を心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	普段から時、歩く足ならがった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普通に歩いているだけだったので、特に危険は感じれず見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故当時、他の職員はいなかった。	—	両足をしっかり床につけて歩く事を指導する。	
3878	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	66	0名	0名	0名	19名	24名	23名	名		6名	6名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指基節骨峯部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	保育士の見守り体制には無く、遊具も日常使用する動前に検。	慣れた活動の場合は活動前には、危険箇所や注意事項を再度、児童に促確していかなければ認ることも必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	日常使用している遊具であり、活動前に点検している。	遊具の頻回使用によるや消耗に気を付ける。	1.集団活動中・見あり守り	保育士の見守り体制には無かったが、活動前の危険箇所や注意事項に関する声掛けが充分だった。	慣れた活動の場合は活動前には、危険箇所や注意事項を再度、児童に促確していかなければ認ることも必要である。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	2.対象児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄) 跳び箱の側に付き、当該児童と周りで待機していても児童に充分に気を配っていた。皆、落ち着いて活動に臨んだ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 担当者の至近距離に担当の職員も配置され数保育士で活動を見守っていた。	保育士の見守りや体制には無かったが、動前の危険箇所や注意事項に関する声掛けが不充分だった。	慣れた活動の場合も活動前には、危険箇所や注意事項を再度、児童に促したり確認していると共に、職員同志の連携を密にする。	
3879	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	10	名	名	名	10名	名	名	名		1名	1名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	3.子ども同士突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・雪山で遊び方の注意事項の確認をしていなかった。(初回) ・雪山の状況(雪質、傾斜)を見ての遊び方の項が出なかった。	・雪山での遊び方を全職員で確認し、戸外活動をする時は職員体制・子どもの人数・場所を報告する。 ・雪山の状況(雪質、傾斜)を見ての遊び方の注意事項を明確にし、年齢による遊び方の違いを明確にし、遊び方を通知する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	・子どもに対する人数分の対リの作成を多かった。 ・天候・雪質等を確認が出来なかった。	・雪山の状況の確認を把握して遊び方を検討する。	1.集団活動中・見あり守り	・公園の斜面山の状態は、前日からの寒さで滑りやすく、ソリが出来るが状態ではなかった。 ・初めてソリ滑りとして分の操作が出来ない状態の時等は、安全に遊べるように内容を考えたり変更をする。	1.いつもどおりの様子であった	自分のソリを持ち上へ向かう途中	2.対象児の近で対象児を見ていた	山の上から滑り始める子どもを主に見ていた。	—	なし	・雪山下の状況を把握していなかった。 ・担任情報交換・連携ができていなかった。	・滑る場所・登る場所・滑りタイミングを目視して、子どもが危険だと思われる場合は、声をかけていく。 ・園外活動の時は、遊び方や人数等を担任間で連携しあう。 ・園外活動の時は、指	
3880	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	19	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	毎日の活動の中で静や動の時間があり、床がいて濡れたり、遊んでおもちゃが床のなることがある。今回故は、替えた床り、の際上の服の付きべっ能性は。	絶対に危険がたりまってかもしれず危険ともものたりまってかもしれず落ちそのになかないと子どもに子ども自分で自分も気付くかも様声をする。 活動中の事着中服がにあ側転手を上で可高た。	1.集団活動中・見あり守り	保育の流れ毎日の活動で、子どもも慣れていた。	日の慣活動あっても、注意喚起の声をかけたり、危険要因になるものかす無いが確認する。 毎日の活動をしたり、危険要因になるものかす無いが確認する。	3.いつもより活活でした(理由記載)	(具体的内容記載欄) 事故前は、友だちとのの関中込わりの中込で落ち機嫌が悪かったが、機嫌ってからは嬉なくなってしくはしゃいだのか、いつも「危ないから床ないに」はしように」と言った側転を急にはじめた。	4.対象児の見ていた	(具体的内容記載欄) 対象児と少し離れた所で給食の準備中、本児が友だちと着替えをしている所は確認しいが、着近の近くには配る膳前のテーブルもあり、狭いスペースで側転をすると予想できず、側転は一瞬で、その一瞬は見逃して	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) クラスにはその時間、職員は1名のみ室内出来だったので、対象児の動きは見ていなかった。	対象児は、落ち着きがないも性格があり、機嫌は良いが突発的には対しやすくがある。体操教室に通いて時々部屋で側転をしていた。	行動を事前に予測し、感情が浮きしみ沈みしている時は、声をかけたり、側に付くように掛ける。	
3881	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	—	名	名	名	名	名	名	名	名		名	名	4歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折・挫滅	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.基準以上配置	登降園中の保護者の状況や実態の把握の足りなさや危険予知能力の意識が弱く、話題にできていなかった。	送迎時の様子や状況の把握、保護者への働きかけの大切さを職員間で話題にし、予知能力を高めた。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	保護者が、使用している転車の椅足を上後ろ子の乗せるところが壊れていた。	すぐに新のに替えに買いをした。	7.その他	登降園中の保護者の状況や実態の把握の足りなさや自の実態なな転車の危識が弱かった。また、椅子が壊れていたことに関して気がつけず、保護者にもかけ来なかった。	送迎時の様子や状況の把握の大切さをしな道路を通ること自転車や危険知らせ、保護者への高く働きかけを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 自転車の後ろの、子どもの椅子の足を乗せるところが壊れていたため、足が後ろ車輪に入挟まりんでしまった。		(具体的内容記載欄)	—	(具体的内容記載欄)	なし	なし	
3882	令和5年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	22	名	名	名	名	名	名	名		1名	1名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10回以上)回/年	2.基準配置	主任から指示を受けていても関わらず、気にも心だった園児という安心感から目を離し、防がを発生をことなくできなかった。	マニュアルの再確認、外部研修への参加 園内研修化の定期化(毎職員会議時に研修)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもの位置上れる位置・歩幅る配置ロックをした。	ブロック位置・設置幅の変更	3.個人活動中・見あり守り	法定数内ではあるが複数配置でなかった。	1人配置の際の業務制限と複数配置の強化。優先順位の再確認。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4.対象児の見ていなかった	1名が離単席にもず、席独にわら、他の業務取に気を取られ、当該園児から目を離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対合応のため、断って離席していた。	特定さた主任の指示を保育士が遵守しなかった。	保育士の意識向上 危機意識の共有	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3883	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13	名	名	名	名	名	名	名	3名	2歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	大腿骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(毎日)回/年	2.基準配置	遊んでいる子どもの動きがしっかりできなかった。	保育士が移動する際は、周囲の子どん遊ん状況の確認と子どもの動きの予測をし、十分注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	保育室がL字型になり、ごとコーナーは部屋は体がにくい。	常に保育士は子どもの動き状況を把握するようにする。	1.集団活動中・見守り	保育士は遊び車で子ども傍にい、ん玩具を片付けから子どもが傍に移動したの本児が保育士で行いたもある。	子どもの離れる時は、わずかな時間でも子傍を離れる時間や声をかけたり、子どもに背なように向けるようにする。遊びコーナーの見直しをする。	1.いつもおお様りの子であった	(具体的内容記載欄)畳の上で四つんばいになって手に持った電車を走らせ遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児を含め数人と一緒に電車で遊びながら、他の場所で遊ぶ子様ども子もいた。トイレ付近に玩具があるのを危険に思い、立って行って片付けて	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)L字型の奥部屋の奥側で、5人の子ともまましていた。(1名)でトイレに立ってを見ながらオムツ交換をしていた。(1名)	子どもと遊んでいる時の職員同士の連携。	一人ひとりの職員が視野を広く持ち、お互いに注意しあって危険を回避できるようにする。	
3884	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	31	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕(橈骨)骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.基準配置	子どもたちが遊んでいる時の走り方などに遊びのルールを子どもたちに伝えたではなかった。園長報告を怠った	子どもたち走っ遊んの方、ぶっかりないように遊びのなどを子ちい分はなかった。園長報告を怠った	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	園駐車場というコーンクリートでの倒。	—	1.集団活動中・見守り	気持ちが盛り上がり長じとピードもいた。周りを見ていなかったまったっ。	子どもの危険性に対する遊びの危険の徹底への報告への義務の徹底。	1.いつもおお様りの子であった	(具体的内容記載欄)全体を把握する	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)全体を把握する	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)女児のそばに行き	転倒しあと主任、担任の児する対応がでなかった。	外傷がないから自己判断をせず、上司に報告対応を相談するという指導を徹底する。	
3885	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	4	1名	名	3名	名	名	名	名	2名	2名	2歳	2.女児	月齢標準より小柄。普段から転倒したときに手が出ないことが多い。	1.屋外活動中	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯(乳歯)破損	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	園外での保育活動についてはマニュアルがあるが、必ずしも突発的な動きについては記載がなかった。	職員配置は十分だったと思われる。常に声連携、掛けがで体制きるとき	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園外の公園なので、危険箇所の確認が不十分だった。	いつも行に公園ない危険箇所の確認を。	1.集団活動中・見守り	園外の公園なので、危険箇所の確認が不十分だった。	いつも行に公園にないく危険箇所の確認をし、全員に周知する。また情報を共有する。	1.いつもおお様りの子であった	(具体的内容記載欄)遊びたい(椅子に座りたい)という気持ちが強かった	2.対象至児の近で象児見た	(具体的内容記載欄)目の前の遊ぶ2名の子が方に目が行き、突然走りしつまいた本児を止めることができなかっ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)バザーに乗っている0歳児の対応をしていた。	段差もなく何もない所だったので転ぶことはないだろうと油断してしまった。	職員全員でいろいろな場面を想定し、安全確認・周知を徹底する。	
3886	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47	名	名	名	15名	15名	17名	名	3名	3名	6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	一方通行のルールを守れなかったこと。	遊びに入る前に必ずルールを守るよう徹底する。遊んでいる時は見つつ危険な行為があった場合はすぐ止める。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	一方通行が分かりにくかった。	一方通行方向を白線や看板で示かりすする。	3.個人活動中・守り	一歩通行のルールが徹底できていなかった。	一方通行のルールを守ることを徹底する。	1.いつもおお様りの子であった	(具体的内容記載欄)一方通行であることを忘れていた本児は言ったのルールが徹底できていなかった。	2.対象至児の近で象児見た	(具体的内容記載欄)本児が急に方向を変え間、大で注意をしたが、聞に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)それぞれ立ち位置で園児を見ていた。	カートを出しときにルールを徹底していなかった。	園庭に出る前に遊ぶ物についての職員たちに伝える。	
3887	令和5年3月31日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕部骨折	1.遊具等から転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員の見守り足・予期せぬ態勢になったことる顔	職員配置の再検討・職員、園児共に遊びの正しい方法の使用方法をる	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	—	—	3.個人活動中・守り	鉄棒での方、遊び持ち方等、細かくチェックしてきくくだった	園庭にお職員による配置の見直し職員の配置、各職員の動線の確認	1.いつもどお様りの子であった	(具体的内容記載欄)	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	(具体的内容記載欄)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)	子どもの遊び要求たが満しなかの見守りを	職員間の連携の見直し	
3888	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75	0名	0名	0名	28名	22名	25名	0名	11名	11名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折、左上腕骨通顆骨折、右肘関節部打撲傷	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	3歳児にとっては、遊びであるのは中でてしまい、注意力が足りなかったり、時間には思い切って動いたりとった止めないとがある。総合遊具の死角になる場所なので見守りが難しかったことが考えられる。	職員で事故防止についてするこれまでの扱いや遊びルールについて再確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(月)回/月	総合遊具に併設されているクリーンに併設されている棒の利用片側のみにする。	総合遊具さる棒り移り遊ぶ合遊ているだが、移こり滑ちて渡ちて落ちるこりと原因となられる。	1.集団活動中・守り	今回、本児は友達との遊びの中で、追いかけてしまい、落ちてあし滑りしまったとき自動ドアに挟まれたとき分理解できかったとも考える。	本児や友だちから注意が足りなかったり、遊びの方で注意が足りなかったこと行動をとったことや危険性を付け良くかることは何かを確認していた。クラス内で、方や遊び約束事について再確認していった。	1.いつもおお様りの子であった	(具体的内容記載欄)母親との登園後からクラス保育にて過ごす。戸外で室外で好きな遊びを友達と一緒に過ごしいつもで通りあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)総合遊具で遊ぶ子ども全体の見守りなっていて、のぼり棒近くの子ども棒近くでのものでの見守りに	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)自由遊びであり、3歳以上児が同じ園で過ごしている時間帯で、職員全体で、見ることになり、遊具で子どもたちの意深く見ていた。	—	自由遊び中に、3歳以上児が同じ園庭で過ごしている時間帯は、担任以外の職員たちも一緒に見ることとなっている。今回、総合遊具で遊ぶ子どもたちの把握が十分できていなかったため、保育士がなどを見直し再度確認し、注意深くしくくする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3889	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	37	4名	4名	4名	20名	16名	1名	4名		3名	3名	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左上腕骨外顆骨折	2. 自転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	体調確認はしたが前日欠席していたあまなどへの配慮であった	職員会議や園内研修で保育安全マニュアルの活用や安全への配慮、事故予防について学びの場をさらに充実させる	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の中ケーター等の物遊び使用ながら子遊ぶ子追いかけ遊びを遊び交遊んでいた転倒遊ぶことも要因と考えられるもある	乗り物遊具を使う追いかけっこ等で遊ぶスペースをなるべく分けるよう工夫する	3. 飼育活動中守り	午後の時間は集中力も落ちる周囲への注意散漫になり、ぶつかったりする危険もある	午後の戸外遊び時間は落ち着いてゆったりと遊べるよう設定遊具の数やスペースの見直し、調節し、注意力が散漫になることを防げるよう保育士がかけ確認をするなど、遊戯室を遊戯室を含む上の遊具にクラス保育室あるので、他の保育士が声掛けしてなどの複数で見守りがようミュニケーションを	1. いつもお子様の	(具体的内容記載欄)仲の良い友達4名でヒーローごっこを遊んでいた	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)男児4名ごっこを遊んでいたが、対象児ら少し場所ら離れたで名ごっこ全体にいた。	2. 担当対児の者・象児動きをいつも見ていた	(具体的内容記載欄)他の遊具子対して遊ぶ応ないで転倒の状況は見ていなかった	保育士の立位置、遊具の見守に意識はしたが、職員間の掛け合い、連携不十分さもあった	保育士の立ち位置の再確認と戸外中の職員間の自主活動中の声の掛け合い、連携をさらに徹底していく	
3890	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18	4名	4名	4名	5名	8名	5名	4名		2名	2名	6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左肘骨折	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	児と年長児もあり、長い理を行いたは段ていたが対応の重を離れた。	遊ぶ際に危険や危険な個所を子ども、保育士が側にたつき、他のにもけがら離れさいよう保育を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(原則毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(原則毎日)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	ソフト木の状(△□)みをはつ	積形(△の組合わせ)合考えかった。	1. 集団活動中守り	クラス、遊戯室各クラス室ごとに所で子どもたちの活動おり、保育士も各分に保育士の個別に支援が行われている。	1. いつもお様子の	(具体的内容記載欄)他児に声かけら普段乗れら形ト積のをした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)複数の子保育士ものどもを手伝っていた時、目線を対象児倒した。	2. 担当対児の者・象児動きをいつも見ていた	(具体的内容記載欄)各クラスにて行った。	複数の子どもたちが動かす活遊びを離れないよう対策する。	主に保育を行う保育士だけではなく他のクラスの保育士にも順番に見て遊戯室も見ていただくことを掛けよう。	
3891	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2. 1歳児クラス	3	4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名		3名	3名	1歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左股関節捻挫・左脛骨骨折	2. 自転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	—	・遊んでボールいたが1歳児の本児ルにいたかえるであった。・本児が年齢的にバランスを崩しやすくなるあるあるをでた守があっ	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	・年齢に合った玩具（小さめのボールを使うようにする本児に合ったものを考える）、職員間で提案し、遊びを再度確認したこと。・1歳児としての一人ひとりの発達や発達を理解し、再度ことを共有し、学ぶ	1. 集団活動中守り	ボールを使ったボール年齢に合った職員間で検討し、小さめのボールを使うように年齢に合った提供し、遊び方の再度ボールを使ったことを考えるこ	3. いつも活発的であった	(具体的内容記載欄)常に動きがあるが、バランスを崩すある。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児の近くで遊びたが、ボールを使ったバランスを崩ししてボールを蹴ンスに突然転倒した。助けることができなかった。	2. 担当対児の者・象児動きをいつも見ていた	(具体的内容記載欄)他児の世話をしていた。	—	年齢に合った玩具、遊具を使用することを職員間で再確認し、遊びの提供をすることした。1歳児としての発達とりや性格を理解するよう、再度学ぶことした。小さめのボールを使用した、本児に合った遊びの配慮をする。	
3892	令和5年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	27	4名	4名	4名	3名	9名	15名	4名		2名	2名	6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2. 自転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	11月の3歳児の骨折を受け、4.5歳児のみの活動に移行したばかりだった。	マニュアルを確認し、職員全安全の識に向上に努める。	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	園庭に多凹凸のあった石が落ちて少のがあり、小石がが落ちていた。	なくくにようなるたんなる整備する又、美化で環境をこまめに行う。園内一拾いをこまめに行う。	1. 集団活動中守り	午後の4.5歳児のみの活動だった。活動内容にあわせ制限ていかっめ、その全力で走った。急激な方向転ないため、方向を回ったり、方向に換りをした。	活動へのなしこれはくよったいるか、活動しやすいか身なるなどあるなど気をつけるようにしたい。	1. いつもお様子の	鬼ごっこを走る足をねっまった原因で転んだ、それで原因でう、なくてなど況はった。	4. 対象児見ていた児の様子きていた	鬼ごっこを承知いたが、けた瞬間把握ていた。本人痛い訴え、足の様子たり、聴いた情たりしたが、後走りに遊んだ大事なかった。	2. 担当対児の者・象児動きをいつも見ていた	入室後、外見遊び育士と保育所長名で複数見の様子を観察した。特に足からは異常は見られず、肌荒れの症状があったため、その部分の痛みはしまった。	職員の思い込みと思い、我に気付くことができなかった。	複数回にわたって痛みを訴える場合は、外見上の症状の有無に関わらず、速やかに受診したい。	
3893	令和5年5月31日	1. 認可	7. 小規模保育事業	11	午前中	施設内(室内)	2歳児	5	4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名		7名	1名	3歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・指)左肘　ひび	遊具等から転落・転落下	あり	不定期に実施	実施頻度(　)回/年	基準以上配置	事故防止マニュアルを普段から読み細かくヒヤリハットを意識していく。職員間の情報共有もしっかり行っていく。	事故防止マニュアルの細かな見直し	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	クラスコーナーを各所で遊ぶ、ライの横の別の少しをした。内つ場ミ離れ子と会話して時の瞬目を時こ起た。	—	集団活動中守り見あり	保育士は跳び危ないなど生じ台や箱場所が高さに1人つき落下を防ぐ場所にきを想定マットを敷いて対策する。	いつもどおり様子であった	(具体的内容記載欄)	児童対象見ていた	担当者・対象児の動きを見ていた	クラス担任は保育士は園内掃除の手伝いをしていた。	保育士は子どもの様子や気持ち面をすぐに受け止めることを立ておく必要がある、絶対に箱台や跳び危険ある場所などに危険は人つきすぐ横に落下防止対策として落下を想定できる場所にマットを敷く。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他											マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き			
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3894	令和5年3月31日	1.認可	7.小規模保育事業	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	5名	名	名	名	名	名	名	名		8名	8名	2歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	—	—	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	沐浴中の園児と沐園浴後のいる児童ため、保育士は見守りながら対応は危険しを予測ができて回避できる場所にはいなかった。	沐浴は、全員に一緒に浴槽から出て、着替えが終わって保育士と一緒に移動するようにした。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	児童は心臓中隔欠損症術をおり、呼吸症状も起きやすい。	今後ＡＥＤを設置すると共に消防士から心肺蘇生の研修を実施する。	1.集団活動中・見守り	沐浴を終えた子の待つ時間の過ごし方が足りなかった。	全員にイスを配置ら、絵本の読みが長いのかなと事を待つように終えた。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	身体がまだ安定していない沐浴を一番初めに終えると、待つ時間が長いことから、イスを前後に揺らしてしまった。	4.対象動児のきをていかった	沐浴中でたちあった児童ため、本守りを見ながら他の園児の着替えをしていた。	2.担当者・対象児動きていかった	沐浴中のみている見ていかった。	咳がひどかったが、年前中には元気に過ごしたため、普段通り沐浴を行った。	咳が落ち着きても、活動等にも十分に配慮し園児の様子を見ることが必要である。	
3895	令和5年3月31日	1.認可	7.小規模保育事業	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0名	6名	5名	0名	0名	0名	0名		3名	3名	2歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	運動遊びの台（６０ｃｍ）に保育士1名が補助に来ていた。	運動中や補助中に児の変化や体調を見ていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当児は運動遊びジャンプ台に最近出ようとなり、体重が発達し本児の年齢や発達バランスを崩しだ事故もあった。	遊具・台の下にマットの衝撃を吸収するものを置き、怪我の可能性を防ぐ。	1.集団活動中・見守り	運動遊びに子ども5名・保育士1名。玩具で遊び子ども6名・保育士2名つていた。	ものの置場・つている数や職員位置等のを確認をつつ、複数名で子様子・つ複数名で事がも来ると見る出来ると声をに声を掛け合ったり互いに確認をに常時していく。	1.いつもお様子で	(具体的内容記載欄)対象児の身長以下の高さからジャンプ台に降りたり出ようとして、本児も運動意欲を見せていた。楽しさから気持ちが先行したり、受け身部分の動作の確立していなかった可能性	対象児とマンマの態(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)対象児がジャンプ台に登ってしまい次にろとして子をいた止めていた時。対象児がジャンプ台に登ってしまい次にろとして子を止めていた時。対象児がジャンプし、保育士の補助は無く着地。数分後に痛を訴えていた。	2.担当者・対象児動きていかった	(具体的内容記載欄)玩具遊び児童6名を保育士2名で見ていて、コーナー全に全れていた。	全体的子どもは運動遊びの楽しさから活動的に動いたので、転びそうになったりする姿も少々みられていた。	子どもの動線を配慮し、遊具を使う際は補助を担当者・全体を見たりカバーする者など複数人で危険が無いように配置する事。	
3896	令和5年3月31日	1.認可	7.小規模保育事業	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	7名	名	名	名	名	名	名	名		2名	2名	2歳	2.女児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯の脱臼、唇の裂傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	—	—	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約45)回/年	滑りやすい椅子だった高く(80%)更に滑りが悪かった	椅子に、子どもが動程度かせる滑りやすい素材をつけ座ったり、もしくは床の素材を見直す。	6.食事(おやつ)中	職員が手洗い場に1名、テーブルに1名付いて、テーブルに付いていた職員はいたが、子どもが横に位置していた	椅子はあらかじめ必ずスでしているが、ども子がいたかって子座ら椅子をさな声を動いようかける。	1.いつもお様子で	手洗い後で、自分で椅子をテーブル方面に着席していた。	隣りに座り、自分椅子一引いて自分を動かさせようとした。椅子と体を引いたが、ランス崩し対側に倒れてしまった。	対象児とマンマの態(対象児に接していた)	2.担当者・対象児動きていかった	水道での手洗いを見ていた。	子どもの席移動の位置を接場合、一度立ち上がってから椅子を動かすように、後ろからしっかり抱えるようにしてして動かす。	
3897	令和5年3月31日	1.認可	7.小規模保育事業	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	名	2名	3名	名	名	名	名		3名	3名	1歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	危険の予測ができなかった。	事故予防を故の研修を見直し再発防止につなげたい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	・支えていた、箱を高くす面でいが中かっめたバラを崩し重心の安定する低い使用する。 ・つなぎ目に、ものを入れる布などを貼る。 ・つなぎ目に、ものを入れる布などを貼る。 ・つなぎ子指がちょ入る（角度）だ指う広さ	・支えの箱子は、バラ使ンスよく重心の安定する低い方すでる。 ・つなぎ目に、指を入れる布などを貼る。	1.集団活動中・見守り	初めて行った為、子ども達が喜び勢いよく何度も繰り返しに遊ぶうちにバラが崩れ倒れた。	喜び興奮する気持ちが沈めるようちるゆっくり、登り滑る声掛けしく。	1.いつもお様子で	(具体的内容記載欄)登っている、板ぐらのの面つで、とっさに、つなぎ目に指をかけた。	2.対象児とマンマの態(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)ぐらつい時、そばにいて支えようとしたが、とっさに間なかった。	1.担当者・対象児動きていかった(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)すぐにかり、持ちが見えず板上げより手を解放する。	箱椅子が倒れることを想定していなかった為、すぐに応じれなかった。	箱椅子の高さを安定している低い面でのみ使用し、見守りは必ず天板面まで手をかけておき、すぐに対応できるようにする。	
3898	令和5年3月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19						19			3	3	22.10歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	個々の児童の運動能力に配慮した活動を行う。	2.不定期に実施	2	3.未実施	—	1.定期的に実施	毎日	—	遊具(ボール)に不備無し。備善善策なし。	1.集団活動中・見守り	—	—	3.いつもより発的あっても活活でた(理由を記載)	—	1.対象児とマンマの状態(対象児に接していた)	ボール投げをして、遊んでいた。	2.担当者・対象児動きていかった	—	—	児童に合わせて、ボールの投げ方を調整する。	
3899	令和5年3月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	47						47			5	4	19.7歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手音骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故発生しまうので、今後は一層の注意喚起や見守りに努めてく	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	3.未実施	—	今回の事故については、遊具のそのかも原因もなく、測の重なったものと思われる。	遊具の点検等は学校で行っていた為、使用しているあれ保護者が学校に気が学園職員から学校・報告・へ相談する連携を取っていく。	3.個人活動中・見守り	特になし	児童の様子を見て、注意喚起や見守り等を適切に行っていく。	1.いつもお様子で	同じ建物にある新第一学童保育所の児童も同時に外遊びを始め、大勢で各々遊んでいた。当該の児童も、周囲の児童も、学童保育所のルールの範囲でおり、事故発生前に注意すべき言動はなかった	3.対象児から離れたところで対象児とで見ていた	職員は当該児童を集団の見守り含めを、適切に育成を行っていた。	2.担当者・対象児動きていかった	他の職員校は同じ庭にいて児童の様子を見ていたが、事故をとなかった。	児童は大トラブルこなったり、職員から注意受けることなく、他の児童しんでいたが、周囲に注意を払う危機意識が少なかったもしかもわれ	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故が発生してしまうので、今後はより一層の注意喚起や見守りに努めていく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3900	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	37						37		6	2	19. 7歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外果骨折	2. 自ら転倒・衝よろ突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	—	事故の振り返りを必ずい、情報共有をする	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	12	特記事項なし	本件は玩具の破損等ではなく、玩具使用に起因する事故の為	1. 集団活動中・見守りあり	目的外使用をしていた	使用していない遊具の片付け徹底、目的外使用の禁止	1. いつもお様りの子であった	いつものメンバーで外で鬼ごっこで遊んでいた。	3. 対象児の児童から離れたところ対象見を見ていた	校庭の中央で行われていたごっこ遊びに、他集団の遊びを見守りながら全体把握していた	1. 担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	ごっこ遊びをしていた子どもたちに声掛けをしてほしいとの距離を見守っていた	鬼ごっこを見て守っていた臨時職員の危険予知が未熟であった	全体把握の常勤職員が細やかな危険予知に対する指示を行う	
3901	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	40						40		4	1	19. 7歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	本人も指導員も大きなことはたいと思ったので、怪しがってしまった	低学年の入るボール遊びの際は柔らかいボールに変更する人たちの希望により硬いボールの時は気を付けるよう一言声をかける	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12	—	柔らかいボールを用意する	1. 集団活動中・見守りあり	—	今後も集団活動をしっかり見守ると	1. いつもお様りもの子であった	ドッチボールの際に自分たちとでいなった申告	2. 対象児の児童で対象児の近で見た	そばで遊んでいた職員がもう一度手を当てて、手を当てていた	2. 担当者・対象児動きを見なかった		—	今後も全体がみえるよう指導員の配置を考える	
3902	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	40						40		2	2	21. 9歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	—	2. 基準配置	—	利用児童が40名を超える場合は3名体制とし、職員協力して見守らないようにする。	1. 定期的に実施	1	3. 未実施	—	2. 不定期に実施	1	敷地は全面アスファルト舗装となっている。	アスファルト舗装ため、児童・支援員に注意喚起がありる。	1. 集団活動中・見守りあり	—	集団遊びをする際に十分に気をつけて気を注意喚起をする。	1. いつもお様りもの子であった	通常通りを外遊びでいた。	3. 対象児の児童で対象児の近で見ていた	外遊び児童の見守りを1名で実施していたが、その際に児童が転倒。すぐに駆け寄り状態を確認したところ、左腕のみを訴え、動かせない状態であった。	2. 担当者・対象児動きを見なかった	2名体制のうち1名は、屋内遊びの児童の見守りをしていた。	通常，敷地内で遊ぶ子どもに対して1名，室内に1名ずつの職員で対応している。	利用児童が40名を超える状態もあり，室内・室外ともに1名ずつの体制では，限界を感じたため，6月から3名体制とした。(当初から増配の予定があった)	
3903	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	22						22		2	2	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足くるぶし骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	—	2. 基準配置	他の児童の迎えに重なったお守りが手薄なった。	日常生活・遊びの中での危険性・対応について研修を受講する。また、安全に遊ぶために、児童とルールを決める。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	1	—	今後も定点的に、不定期的に点検や設備等がないように、点検する。	3. 個人活動中・見守りあり	—	応対中は特に見守りの手が薄くなるため、目をとよくないようにする。	1. いつもお様りもの子であった	通常通りを外遊びした。	4. 対象児の児童で対象児の迎えに来た保護者の対応をしていた。	昼外で支援員1名が見守りしていたが、他の児童の迎えに来た保護者の対応をしていた。	2. 担当者・対象児動きを見なかった	2人体制のうち1名は、室内の児童の見守りをしていたため。	外遊びの際，支援員の見守りが十分かった。	支援員が外遊びの際の危険性を再確認し，見守りを怠らないよう配慮する。お迎えの際の親対応時には特に気を付ける。	
3904	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	66						66		9	4	18. 6歳	2. 女児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯のずれ	2. 自ら転倒・衝よろ突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	—	登館下館時の確認の危険個所の洗い出し。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	—	特に遊具の異常は見られなかった。引き続き安全点検を行う。	7. その他	危険個所の確認やルールについて、子どもたちに確認がなされたが、年度の途中には、時数回、時取っ確認することが必要である。	再度、登館時の全ての話を年度の途中子どもちする。	1. いつもお様りもの子であった	特に変わったことはなかった。	4. 対象児の児童で対象児の見ていたかった	登館時の担当職員な。	2. 担当者・対象児動きを見なかった	登館時の、対象児の動きは見られなかった。	登館時の歩行場所を決定し、ルールとしていたが、子どもたちが守れているかの検証がなかった。	再度、登館時の安全について話を子どもに確認する。	
3905	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	140						##		21	15	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	靭帯断裂	2. 自ら転倒・衝よろ突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	特になし。	全体を見ると見て細かく見ると職員でる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	見守っていた職員の危険予測が甘かった。	次の行動を予測し、注意し深くするよう。	1. 集団活動中・見守りあり	怪我をする前にも行事に参加し、出たのでいはないか。	疲れていないように見えるが、しっかも休憩をとるようにを声掛けをする。	1. いつもお様りもの子であった	いつも通りに活発に遊んでいる様子だった。	2. 対象児の児童で対象児の近で見た	審判として野球遊びをして子達全体を見ていた。	2. 担当者・対象児動きを見ていたかった	他の職員は野球遊びのことではなく、遊びの様子を見ていた。	—	一人の職員だけでなく、複数の職員で見守るようにする。	
3906	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	87						87		12	3	19. 7歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2. 自ら転倒・衝よろ突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	—	2. 基準配置	事故が起きたときのため、事故防止マニュアルの整備ができた。	策定している危機管理のもとに，事故防止に努める。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	—	—	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもお様りもの子であった	—	2. 対象児の児童で対象児の近で見た	児童の側で見守りしていた。	1. 担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の側守りで見ていた。	支援員見守りを行い、注意を配っていた事故が起こっ	見守りが必要な場面では，引続き支援を行っていく。	
3907	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	62						62		8	1	18. 6歳	1. 男児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩　鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	遊具の安全な遊びかたを共ができていなかった。	ミーティングにて支援員間で安全な遊びかたについても共有する。	1. 定期的に実施	随時	1. 定期的に実施	随時	1. 定期的に実施	随時	支援員が具体的に安全と思ってはある遊具を選んでいた。	施設や遊具について、学校だけでなく、放課後児童クラブでも月1回、使用前に点検するようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	支援員は離れる少し全体を見ていた。危険を察知できなかった。	見守り見守りは、危険な遊びがないかを常に意識する。また、遊具で遊んでいるときは特に注意して見守る。	1. いつもお様りもの子であった	対象児童はいつもと同じであった。	3. 対象児の児童で対象児の見ていた	全体を見るように少し離れていた。全体を見ていた当番は、該当児童のようすを よく見れていなかった。	2. 担当者・対象児動きを見なかった	基本的に児童約1名の児童に対し、1人支援員がついているが、他の児童は支援員は担当のグループを見ていた。	対象児含むグループの遊びかたが安全なかった。	離れていたところから、見ていても1人1人の様子をよく確認し、危険な遊びかたを している場合、すぐに駆け寄り注意をする。	
3908	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	30						30		3	3	18. 6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	—	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	—	学校と連携しながら細部までチェックを行う。使い方の再確認を行う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	平均台から雲梯に移る遊びの認識不足があった。	平均台を雲梯に移動させた。	1. 集団活動中・見守りあり	児童の発達状況や興味のあることを把握し、判断することが不十分であった	支援員の情報共有を行い，1人も行動等を把握するように努める。	2. いつもより元気がなかったを記載)	—	3. 対象児の児童で対象児の見ていた	集団での外遊びの時間帯であった。支援員は全体を広く見渡していた。	2. 担当者・対象児動きを見なかった	団での外遊びの時間帯であったため，支援員は全体を広く見渡していたが，落下したタイミング児童を見ていなかった。	—	危険だと思われる行動に声掛けを行い，遊びの際の危険性について認識する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員																																			
3909	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51						51		8	6	20.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	左肘骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	日当日3出外出の事故支援人が外したため、外してしまっ故て準備のしまった本焦まいおきて。	戸外活動時の職員の立ち位置、先頭・真ん中・最後尾配置を徹底する。事故が発生しないように、児童の動きを事前に察知できるように職員が心がける。	1.定期的に実施	12					1.定期的に実施	12回以上	—	—	3.個人活動中・見守り	外遊びにかける児童の気持ちの高ぶりを調整できなかった。	外遊びへかける際は、職員が誘導して児童がばらばらにならない様にする。	1.いつもお様のもり子であった	普段から多動い児童だが、外遊びに行くというあ前事もり、気持ちが高ぶって落ちも着きなかった。	4.対象児の見ていなかった	外遊びへ出かけ際、前、後ろ、真ん中と職員を配置していたが、事故当時はそれが徹底していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童内は時食休み時間だった児童の対応を学童の対応をした。	—	事故後、職員への立ち位置の確認。職員会でも職員の動きや危険回避についてレクチャーを行った。	
3910	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	5.おやつ時（学童）	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25						25		4	1	20.8歳	1.男児	特記事項なし	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢（足・足指）	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	なし	事故の可能性を予想し、児童にも注意喚起等を促す							発生場所での事故であり、施設には特に改善はなし	特記事項等なし	1.集団活動中・見守り	リンク上で停止した際、滑りそうとっこ勢とで体を崩し転倒。	事故の可能性を予想し、児童にも注意喚起等を促す	1.いつもお様のもり子であった	本人も予想しなかった当児童は4年生ということあり、スキルの注意点も十分理解していたと予測される。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	一クラブ分かれたグループに中でのしてこと活動をいたもあ、他のグループに関わった中、周囲し見回り中こっでを起こ事故した。すぐに駆け寄り、痛がる部位を確認し、本人なとを話しがら様子をみていたが、患部が腫れてきたため、受診を判断した。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	当児童グループ内では無いところ当時は対応していた。事故は当該児童以外の子を見守っていた。	特記事項なし	健康状態や特性などを関連付けて勘案しても問題は無かった。	
3911	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31						31		4	4	24.12歳	1.男児	当日は霧雨が降った後で、芝は湿っていた。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢（足・足指）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	事故丘をかけることは他の丘をかけることも下と児童もいて行ったが、故に、大故や我に繋がるという意識が欠けていた。	事故へ繋がる可能性のある対性の活動に対し、各支援員が意識を高めることにより、児童へのとも声掛け、事前一回避を一層心がける。											一	今後もクラブ出掛ける際の下見、危険箇所の確認等に努める。	1.集団活動中・見守り	一	遊び始める前の注意事項の確認や声掛け、職員配置等で子ども個性に配慮して行う。	1.いつもお様のもり子であった	同学年の仲間とっかけとなり、特別危険なし動きをしている子はなかった。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	丘の上に立ち、対象時に限らず全体を見守りお故を、事故発生時はすぐに駆け付けて他の支援員へ伝達をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内の様子や場所に配置、子ども遊び見守りをしていた。	—	特に広い公園などでの活動に関して、死角の無いよう職員配置に注意するとともに、子どもの様子に応じて対応できるよう努める。	
3912	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35						35		3	1	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指） 左手　人差し指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	特になし	職員は適正な人数を置いて、応急手当や事故後のお急事故に対応については適切に処置（処理）される。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12回以上	特になし	発生場所については、事故防止の観点から動時に用いても実施した。	1.集団活動中・見守り	国際交流を目的として来館した多くの外国人児童が集まり、室内は非常に混雑にあった。	混雑の緩和を図るために、学年別に体育室を区分利用する動的時間切り替えを安全に進めていく。	1.いつもお様のもり子であった	健康状態はいつもとは変わらず好で、行動にも特異点は見られず転倒の要因もなく発生と考えられる。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	交流活動を統括（進行）する立場にあり、全体の見位置を含めるから対象者ともの活動を見守っていた。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の1名：放課後児童クラブの入れ受け作業で事務室で対応。トラブル発生時の対応要員として配置した。1名：上靴を忘れた児童・高校生はレイ高校生にボードゲームなどを交流しており、そ対応の要員として配置した。	対象児については1年生と低年齢であり、重心の安定（パニック）から考えて転倒しやすい特性があると考えられる。	健康状態と特性を関連付けて勘案しても、対象児の活動への参加状態については問題はなかった。	
3913	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	90						90		7	6	21.9歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	特になし	準備運動を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	ドッジボールの範コート囲の見直しをする。使用するボール空気の圧については問題なかったが、引き続き継続していく。	特になし	引き続き体育館の見守りとともに、危険を防止に対掛け声を行う。ボールの受け方についても指導する。	1.いつもお様のもり子であった	体育館活動が大好きで、常にボールに参加している状況。事故はドッジボールで行った。	2.対象児の近で対象児を見ていた	体育館遊びを実施している時は常に児童の動き、ボールの流れを確認していた。本児童より痛みの訴えがあり、右手小指が腫れていたため、活動室にいた職員に動き処置してもらうように、ミニ児へ戻す。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館・・・職員名が担当職員1名、他のおり児童の対応をしていた。活動室A・・・（うち受け1名、1名ラブ付、1名の本児童の処置）。複数の児童対応。活動室B・・・1名。複数の児童対応	特になし	児童の様子を観察をよく し、危険がないよう配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数									教育・保育従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】														
3914	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	45							45		5		4	18. 6歳	2. 女児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置	—	定期的にマニュアルの確認と見直し	3. 未実施	—	3. 未実施	—	3. 未実施	—	学校の空き教室を利用して学童保育所のため、施設管理等は学童保育所とは担当が違う。	特になし	7. その他	学童保育所のみならず、一般児童も辺り花壇周を歩いたりする姿が見られ、注意してもなかなか改善が見られない。	小学校教諭と連携して、学校での事決まりを同じく学童保育所のため、施設管理等は学童保育所とは担当が違う。	1. いつもお様の子であった	降所後での行動。	4. 対象児のを見ていなかった	—	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	降所後ことので、指導員が見ていることはできない。	学童児童全員に安全に登所・降所するように周知し、定期的に指導していく。	
3915	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	43							43		5		1	19. 7歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転・落下	2. なし	2. 不定期実施	3	1. 基準以上配置	—	木登りをしている児童や遊んでいる場合は、近くから見守り指導員を1人つける	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	—	安全点検を充分に行う。	1. 集団活動中・見守り	—	木登りをしている児童や遊んでいる場合には、近くから見守り指導員を1人つける	1. いつもお様の子であった	—	3. 対象児からたところを離れたところで対象児を見ていた	2名の指導員それぞれが支援を要する児童に意識を向いていた。靴を履かせた指導員も声がけしている時の表情が落ちていたを時が着いたことから、無茶はしないはと判断し視線を移していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1F, 2Fの担当職員は、それぞれの場所で遊んだりをして子どもの見守りをし、事故後の様子しかみしかわからなかった。	—	木登りをしている児童がいる場合には、近くから見守る指導員を1人つける	
3916	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	56							56		7		2	22. 10歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期実施	3	1. 基準以上配置	—	進行は進行係にて、各者の班担当は班員の確認に重点を置く	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	課外活動中で、公共施設を利用していた。和室の畳で転倒した。	公共施設でのマナーや決まりについて、事前に先な指導を行う。	1. 集団活動中・見守り	—	進行は進行係にて、各者の班担当は班員の見守りに重点を置く	3. いつもより発的活動であった(理由を記載)	課外活動ということもあり、普段も活動より動子だった。	4. 対象児のを見ていなかった	隣の班の子どもの動きに目をとられていて、背を向けた状態であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ステージ上を走り回っる様子を咎めていた。	—	進行は進行係に任せて、各班担当者は班員の確認に重点を置く	
3917	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	24							24		4		3	23. 11歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	—	1. 基準以上配置	・事故直後、外傷や腫れなどのチェックを行い、必要に応じ、患部を冷やす。本児に事故状況を聞き、痛みなどの程度を把握シップ行い見るひどくは腫もなのでえ保護伝えを見てらい、必要ば、の受診を	・当日は土曜日ということもあるので、あれば、早めに受診に促し、の日ごとに連絡を行う。次の日ごとに連絡を行う。	1. 定期的に実施																					
3918	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	38							38		5		3	18. 6歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頸上骨折	1. 遊具等からの転・落下	1. あり	2. 不定期実施	1	2. 基準配置	児童はたちが入学し1か月たち、環境にも慣れてきて、気のもとみもゆるあった。	支援員も守は危険とを防ぐことはやめこめたくなこて時は注意してい時してさせるとを。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	児童は体かしこ意見ないぶったが遊びが遊ぶ骨下みたこは自分できるとてとは自分できるとてとなる過信あうた。	館庭のどの場所を取確認り、児童は場所でいた、危険なし行動をしていはさせるる。	1. 集団活動中・見守り	児童は砂場ヤでいるを、の下ら棒にはたの支援は砂タイ遊ぶ骨ぶがが、一度支援員意さ[支援員]と言ったこは、ようす話をに。	職員間で危険確認し、児童支援員にも[支援員]がやめなさい[支援員]と言ったこは、ようす話をに。	1. いつもお様で子であった	体を動かすことが自ならるとの過信ある。	2. 対象至対児の近で対象児見た	一度は危険だかもしれないと注意し、児童で遊び、やめて安心とも違うこの心ろう。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	4月の入園当時より、児童たちの広がり、他の員が児童の遊びにかかわったため、見たくなかったはいたれる。	児童が以前遊具もの遊びっていた時、させることを、職員が認めるようにしていなかった。	職員間で館庭のどの場所か、確認を取り、児童が危険な行動をしていた時はやめさせる。	
3919	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	25							25		4		3	19. 7歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	1. 遊具等から転・落下	2. なし	3. 未実施	—	1. 基準以上配置	—	故予防含む管理マニュアル作成事策を危機の	2. 不定期に実施	—	1. 定期的に実施	—	2. 不定期に実施	—	—	小学校と連携して、引き安全点検を実施	3. 個人活動中・見守り	—	複数の指員によ見守りを導入をしているが、生徒に指示をする。	1. いつもお様で子であった	—	2. 当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところ指示に導いが、当に向け児童守りをした。	—	可能な限り、全体が見られるように保育を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面						環境面			人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名									実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
3920	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	30							30	7	3	20. 8歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	マニュアルあっソッドやトジ球をのトレッチボールまでは記載がなかった。	今回の事例を検討し、適切なキャッチボール距離や指のストレッチの必要性などをミーティングで確認し、継続していく。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	十分な距離をとれる部屋の状況だったが、5メートル程度の距離でキャッチボールを行った。	キャッチボールの十分な距離をとる。	3. 個人活動中・見守り	特になし	支援員が事前の準備運動・ストレッチや適切な距離の声かけ・指導を行う。	1. いつもどおりの様子であった	友達を誘い、室内とキャッチボールの練習を行った。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	室内に数名がいた児童の支援を全体で対応していたが、対象児から少し離れたところにいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	出入り口廊下にいて、他の動きを見ていた。	特になし	まず児童に声かけをし、ウォーミングアップや十分な距離をとっていることを確認したところで見ていくようにする。	
3921	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	40							40	6	6	20. 8歳	1. 男児	3ヶ所の病院を受診し、最終的に処置を担当したのが上記の病院である。	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	昼上での遊びについては、活動内容や状況により職員の人数を増やすことにする。	1. 定期的に実施	毎日	3. 未実施	0	2. 不定期に実施	24	特になし	今回は、ハード面に問題はなかったが、普段から、フェンスの前のネットが切れたり、破損箇所が無いかどうか確認をしてお直前に昼上が濡れていないか、確認する必要がある。	1. 集団活動中・見守り	特になし	昼上利用のを作り、カーをサッ等の遊びはひろば利用や児童館などの所で実施するに昼上では、限られたスペースで実施する遊びを行う。	1. いつもどおりの様子であった	サッカーで相手チームの児童と競りあいに合い、ボールを追いかけていたところ、フェンスに近くに気づかず、転倒してフェンスに鼻をぶつけてしまった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	昼上の入口付近で対象児全員を見ていたが、ボールを対象児が追いかけていて、フェンスにぶつかった瞬間も目撃している。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館で、クラブ活動に入った学童職員1名に入っても、対象児への止血をしても行ったらった。	昼上遊びでの危険性への認識不足が一因考えられる。	昼上で遊びに入る前に、準備運動をすることを継続すること及び、危険な場所と遊び方に児童とついて確認をしてから、遊びに入るようにする。	
3922	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	9							9	3	2	19. 7歳	2. 女児	晴れており、日は暮れかけていたがまだ明るかった。	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節(腓骨)剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	マニュアルの徹底	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	整備されていた広場であり、事故等はないだろうと思い込んでいた。	常に事故等の危険性を認識する支援員は心掛けるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	のんびり性格のしたものであるが、外遊しみにしていた。	2. 対象至近で対象児を見ていた	昼外活動では、なるべく見ようにくるる心掛けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同左	整備された広場であり、事故等はないだろうと思い込	常に事故等の危険性を認識するよう支援員は心掛けるようにする。	
3923	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	27							27	5	1	18. 6歳	1. 男児	以前から後頭部打撲の際に焦点が合わなくなったり、呼びかけに答えず、チアノーゼの症状が出ることがあった。病院に通院歴がある。救急搬送の経験あり。	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	1. 意識不明	1. 頭部	頭部打撲	5. 他児危から加害をられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	児童には、以前にも意識を失った経験があったが、クラで情報を得られていなかった。	児童の既往歴や健康状態について、日常的に保護者から情報を伝えるよう働きかける。	1. 定期的に実施	開所の都度			1. 定期的に実施	毎日	—	子どもたちへ施設内での過ごし方について指導する。	3. 個人活動中・見守り	—	児童へ遊びなどの指導を行うとともに、健康状態の情報を職員全員が共有するように努めた。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、元気な様子であった。	4. 対象児のきていた	事故当時見ていた職員がいた人が、対象児童の見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童守りを行っており、対象時の見ていなかった。	—	頭部の怪我につながることをしないよう、児童への注意等働きかけをし、職員もより注意して観察するよう心がけている。	
3924	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	21							21	2	1	20. 8歳	2. 女児	特に無し	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折、顔面擦過傷、歯の打撲	1. 遊具から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	—	1. 基準以上配置	—	遊具を使う外遊びをする時には支援員が付きい、見守る上で、必要であれば支援員等の応援を要請する。							—	児童が遊具等で遊ぶ際は、正しい使い方を徹底する。	1. 集団活動中・見守り	—	—	3. いつもどおりの様子で活動であった(理由を記載)	すべり台途中よりから降りとして転倒した。	2. 対象児の近で対象児を見た	遊具の近くで見守していた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	多くの児童が運動場で遊んでおり、全体を見守るがあった。	—	外遊び時の児童の安全指導に努める。	
3925	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	40							40	6	1	19. 7歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	8	2. 基準配置	なし	職員会議等で、話し合い意見を出し合う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12回以上	館庭の砂が、少なおり、滑りやすくなっていた。	滑りやすことを子どもに周知し、注意する伝える。	3. 個人活動中・見守り	なし	戸外遊びの際には安全な遊び方について再確認しあう(児童・職員)	1. いつもどおりの様子であった	普段通りに、戸外遊行った。足を滑らせ、転倒。	2. 対象児の近で対象児を見た	状況を見ていた員が、擦傷の対応。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内にいた職員が、本児が傷むという部位を冷やす。保護者に、連絡。	なし	運動量の多い遊びを行うときは、滑りやすいことを伝え、一人ひとり気をつけていくよう固知す	
3926	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	16							16	2	1	21. 9歳	1. 男児	—	8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右頭骨骨患部骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	—	1. 基準以上配置	—	児童への遊び方(遊具の使い方等)指導の再確認職員への事故防止対策再確認	1. 定期的に実施	週１回	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	週１回	—	引き続き定期的な安全点検を実施し、安全確保に努める。	3. 個人活動中・見守り	—	遊具使用の際には安全な遊び方について再確認しあう(児童・職員)	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児のきていた	自由来館だったため、いつきたのかしき把握しれていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由来館だったため、いつきたのかしき把握しれていなかった	—	土曜日は自由来館者が平日に比べると多いので、自由来館者対応職員配置の必要性	
3927	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	30							30	4	2	21. 9歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	5. 他児危から加害をられたもの	1. あり	3. 未実施	—	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	開所日ごと	3. 未実施	—	3. 未実施	—	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	体育館で遊ぶこと可能な時間となため、も体育館へ遊びに行った。	4. 対象児のきを見ていなかった	体育館に遊びに行った20人の児童を3人の支援員で見守っていたが、児童ごっこや縄跳び等複数の遊びに興じていた男児へのそれた事故がこってしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館に遊びに行った20人の児童を3人の支援員で見守っていたが、児童ごっこや縄跳び等複数の遊びに興じていた男児へのそれた事故がこってしまった。	支援員意が特定の児童に向いていたため、全体を見渡せず事故がこってしまった。	児童を見守る際に、特定の児童に偏ることなく、全体を見渡し事故防止につなげる必要がある。また、役割分担を決めて、必ず全体を見ている支援員が一人はいるようにしていく必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
																											マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策											
3928	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	51							51		5	3	23.11歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突		2.基準配置	特記事項なし	けがをしないよう、事前の注意の徹底	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	特記事項なし	設備等が原因できではため、改善策はなし。	1.集団活動中・見守り	特記事項なし	けがをしないよう、事前の注意の徹底	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボールを合う発を取り中で自足を捻ったため、一瞬の一ことで対応れなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	サッカーしている場所から少し離れた遊具で遊んでいる子のサッカーをしたらに近くにいた。事故に気づき、室内に入るよう促した	特記事項なし	サッカーをしている最中の出来事であるため、改善策はなし。	
3929	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	9							9		3	1	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指第二関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.不定期実施	2.基準配置	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こっ	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
3930	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	78							78		6	3	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨顆上骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突	2.不定期実施	2.基準配置	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こっ	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
3931	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		7	5	19.7歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突	2.不定期実施	1.基準以上配置	特になし	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故が発生しての後は一層の注意喚起や見守りに努めていく	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	3.未実施	—	今回の事故については、遊具の不明原因がある遊ものでは不態なでした思測の重こと生もわれる。	遊具等は点検検校で行っていることから、使用していなくれる学園保育所職員から学校へ報告・相談等連携を取っていく。	3.個人活動中・見守り	特になし	児童の様子を見て、注意喚起や見守り等を今後も適切に行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	当該の児童も、周囲の児童も、学園保育所でのルールの範囲でお遊び、事故発生前に注意すべき言動はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は当該児童を集団該児童含めを見り、適切支援を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員は同じ児童の様子を見ていたが、事故防ぐことはなかった。	児童は大きなトラブルを起こしたり、職員から注意を受けることなく、他の児童もしくんだ飲み休憩ため道近にしにが本児も他の児	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故が発生してしまうので、今後は一層の注意喚起や見守りに努めていく	
3932	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		2	2	19.7歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕部橈骨骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	特になし	配置基準についてはクリしているため、改善点なし。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	改善点なし。児童がいヤについては、学校で生徒しもているのでり、施設にもの点検いつ上記のとおり適正にて当日イヤは適正に行われおり、タ不具合はなかった。	1.集団活動中・見守り	特になし	特にないが、原則、これまでどおり怪我の危険性の高い利用がある場合はその附近に支援員を配置し、遊具の適正なしかの使用をしている(不適正な使用がないか)、他の児童にも注意しながら見守りを行	1.いつもどおりの様子であった	対象児童の様子は普段と変わりなし。児童が地面に埋め込んだタイヤを飛んだタイヤを足がかりに引っ躓いたため転倒したもの。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員は、本児少し離れたところにおりほかの児童を含めを見守りていたと、本児童が転倒した声を聞きつけ児童に駆け寄った。(転倒の瞬間は、未確認)	2.担当者・対象児の動きを見なかった	支援員は当日二人だったため、当支援児童が離れた場所付近に児童のいるのをり、本児童は見ていなかった。	特になし	本件は、タイヤを飛ぶ際に足がかかれ倒れかり倒れたもので、突発的なものであるため、改善策を講じられるものではない。	
3933	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		2	2	20.8歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	特になし。	配置基準についてはクリしているため、改善点なし。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	改善点なし。児童が使用していた鉄棒は、学校で生徒使用いるもの使用あり、施設の点検についてもとの適正にて当日おり正に行おれ、当日も鉄棒の不具合はなかった。	3.個人活動中・見守り	特になし	特にないが、原則、これまでどおり怪我の危険性の高い遊具の利用がある場合はその附近に支援員を配置し、遊具の適正なしかの使用をしているか(不適正な使用がないか)、他の児童にも注意しながら見守りを行	1.いつもどおりの様子であった	対象児童の様子は普段と変わりなし。4・5名の友達と鉄棒で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員は、本児少し離れたところでほかの児童を含めを見守りていたと、本児童が際転倒した声を聞きつけ児童に駆け寄った。(転倒の瞬間は、未確認)	2.担当者・対象児の動きを見なかった	支援員は当日二人だったため、当支援児童が離れた場所付近に児童のいるのを見守りをし、本児童は見ていなかった。	特になし	改善点なし、本件は突発的に起きたものであり、本児童を押した児童の直前の様子に特段変わった様子はなかった。	
3934	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	63							63		9	9	21.9歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手骨折	8.その他	2.なし	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	特になし	子どもの見守りを徹底する。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	今後も、見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段とわらだっ様子。友人とドッジボールを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で、6人体制で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	事故発生後、すみやかに対応を行った。	特になし	今後も、事故に対応できるようにによる支援員による見守りを行う	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
									発生時の体制								教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面												
										異年齢構成の場合の内訳																																																
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	学童		教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3935	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		9	3	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもお様でもり子であった	—	2.対象児の至で対象児を見ていた	児童の側で見守っていをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こった	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
3936	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	14							14		5	5	20.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指の先の剥離骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	夕方の児童が少ない時間帯だったため、支援員の油断が生じてしまった。	人数が少ない場合も、全体配を意識を身につける。	3.未実施	—	3.未実施	—	1.定期的に実施	50	今回の指を挟んだドアは少し立て付けがよくなりとき	子どもが利用する時間帯は、ドアが完全にまらないよう、上部に指はささみ防止マットを取り付ける。	3.個人活動中・見守りあり	夕方になると児童も疲れてきおり、個々に支援員のかかわりを求める傾向が強い。また、片付けや掃除にも人員が割かれる。	子どもが少なくなった時間帯は片付けもしていたが、それは児童が時間いなくしにするに、全体を見る支援員を一人おく	1.いつもお様でもり子であった	いつもど友おり、友活だらと遊んでいた。	4.対象児の見ていきなかった	別の児童に関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ、児童に対応したケガ場を面見ていなかった。	児童の要求にこたえるため、支援員が下を向いていること多い。	ひとりの児童に対応していても、他の児童にも気を配る。	
3937	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	90							90		14	12	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小指基節骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	—	2.基準配置	特になし	子どものケガに対してこり事項を職員間で共有し、意見を識し守っく。	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	特になし	今回、ボールや校庭に異物は見られなかったが、後、ボールや校庭の確認ようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもお様でもり子であった	おやつ後遊の自由時間、仲の良い同学年の友達とドッチボールをした。	4.対象児の見ていきなかった	本児の近で一緒に遊んでいた他の児童の様子を見て、たった瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で各々好き遊びをしているため、他場所の見ていた。	仲い友達でのドッチボールで、盛り上がり、近距離で投げボールがたったが当ってしまった。寒くなってきた時期	球技等の遊びの前、特に寒い時期には準備運動をするよう指導をしていく。	
3938	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	7							7		4	1	21.9歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骶骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	支援員数、配置大きなこ	今後も起こる事故・ケガの正しい対応や環境設定、整及び備・未然防止を行えるよう、こった正しい起時の対応についての会社等の研修に参加する。	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	ぶつかってしまったコーナーガードがなく、木材ののカーだった。	コーナーガードが破損いる箇所の修復を行う。危険箇所再度確認する	3.個人活動中・見守りあり	カラーマットをの付近に敷いた為、今回の事故の起とられる	保育前や宅後に棚や児童帰び出ら後に飛び出た遊具がないか、その他危険箇所がないか室内の点検を行い、安全に配慮した環境設定に努める	1.いつもお様でもり子であった	普段どおり、静かに本を読んでいる様子だった。(普段も食休みの際は集中して読んでいる)	4.対象児の見ていなかった	付近に支援員がいたものの、尾骶骨をぶつけた様子や痛がる様子も見受けられなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ぶつけても痛がる様子もなく、後、母が迎えに来た際に、ぶつけた言かった。当日には発見事は出来ず、後日(25日)にクラブに来た際に報告を受けた。	支援員数、配置に大きな問題なし。	棚や遊具等、踏んで怪我をする可能性がないか、周囲を確認して座るよう児童に向け、注意喚起を行う	
3939	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22							22		3	2	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	校外活動時のマニュアルがない。	校外活動時の人員配置を確認し、活動内容の見直しを行う。	3.未実施	—	3.未実施	—		—	職員全員個で危険箇所の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	人数に対して、コート面積がせまかった。普段は足場(空生)であったため、バランスとりづらかった。	人数とコート面積のバランスを考える。遊びの内容を厳選し、職員守り手の見制を厚くする	1.いつもお様でもり子であった	いつも通子でりであった、普段と違う環境であった為気持ちがたかぶる要素はあった。	4.対象児の見ていきなかった	全体の様子を見ており、転倒する見て面いたかった。倒れた直後に気づきかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の動きを見ており、動て対象児童は見ていなかった。近くにいが職員の保冷剤のすんなど補助をおこなった。	—	校外では、普段以上に人員にゆとりをもてるよう配置を考慮する。	
3940	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	3	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	1.遊具から転等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	マニュアルを基に受傷時の対応方法を再確認し、引き続き研修等で応急手当の技術の向上を図る。	1.定期的に実施	292	3.未実施	—	1.定期的に実施	292	—	学校でもクラブも1，2年生の高鉄棒使用は禁止されているが、1，2年生でも体育の時間は手が登る事が出来ため、見守りが必要。	1.集団活動中・見守りあり	職員の人数に対し子ども遊ぶ場が広範囲に及ぶが、目が届きくなる可能性がある。	外での活動について再検討し、安全面を児童の沿い、かつルールを守った活動ができるように希望する。	1.いつもお様でもり子であった	いつも一緒に遊んでいない女子とんでいた。	4.対象児の見ていきなかった	校庭全体せるる様位置ていた。砂場に他の児童が集まっており、そちらを注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭全体が様位置し、サッカー重視した。	—	職員数、児童数により遊ぶ範囲の限定、繰り返しのルールの説明、児童同士の危険な遊び方の禁止の説明を徹底する。	
3941	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		5	3	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から転等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	鉄棒に腰おけて、自らしたよ落下ることによる負傷。	遊具の使用方法の事前確認や注意喚起を丁寧に実施する。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	—	—	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒にお腰かけり、自らしたよ落下ることによる負傷。	遊具の使用方法の事前確認や注意喚起を丁寧に実施する。	1.いつもお様でもり子であった	他の児童と一緒に鉄棒に座ろうとしていた。	4.対象児の見ていなかった	鉄棒付近にいたが、落下の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の見ていた。	鉄棒にけ腰かけて、自ら落下こと	遊具付近には必ず支援員を配置する。	
3942	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		8	3	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から転等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	—	職員会議での見守りポイントの確認と周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	—	滑り台での鬼ごっこ禁止し、職員の見守り方法の再確認	1.いつもお様でもり子であった	屋外活動をしている最中に発生した。	4.対象児の見ていなかった	通常の活動ったの、特別な見守りなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動ったので、特別な見守りはしていなかった。	—	職員会議を開き、児童の見守りをする際どのような点に注意をするのか再度確認・周知徹	
3943	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		4	2	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指亀裂骨折	3.子ども同士突もの衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもお様でもり子であった	—	2.対象至児の近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こった	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面				ハード面								環境面		人的面											
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3944	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	65							65	11	5	21. 9歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	—	2. 基準配置	事故が起きたため、事故防止マニュアルの整備ができた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	随時	—	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもどおり様子であった	—	2. 児童が近く至近距離にいた	児童の側で見守りをしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こった	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
3945	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	11							11	4	3	19. 7歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	職員配置正適正だったと思うが、屋外活動中の見過ごしや、事故後の処置や経過観察・職員間で共有されていかったことが要因と考える。	支援員が油断せずに子どもたちの見を守りをする。をした際、引率支援員も情報共有し、複数の目線で経過の観察・対応をする。	2. 不定期に実施	—	3. 未実施	—	2. 不定期に実施	—	—	施設内・玩具等は日常的に同様掃除を行う。日清時に点検をするようにしている。ため特に整備・玩具の事故の無い。日常的な点検を継続する。	1. 集団活動中・見守りあり	事故に繋がる子どもたちの動きが見られ兆候があったが、事故当日は高多率で引き支援員の立ち位置に配慮し、どのき見た様子ちんと見る。また事故が起きまった際には、他員は情報にも共有し複数の目該児童を複線で当該児童を見る。	人数が少ない、高多学年が学年、等にわらず、支援員の立ち位置に配慮し、どのき見た様子ちんと見る。また事故が起きまった際には、他員は情報にも共有し複数の目該児童を複線で当該児童を見る。	1. いつもどおりの様子であった	11名中10名がつなぎで手つなぎして鬼をしていた。当該児童も参加。鬼役の3名(当該児童・1年男・5年男)が手を繋いで鬼役を追いかけていた。当該児童は3名の鬼にいて、右側に男児2名がいた。男児右方向へ走った際に、当該児童は左方向へと走って中央に立って全て鬼に捕まえられず鬼役の男児がヒートアップし、手を繋いでいた1年生を引っ張るような危険な場面もあった。	2. 対象児の動きを見ていた	引率は2名。事故当日は出席人数も少なく、高学年が多かったことから支援員の気持ちに油断があった。支援員同士で話をしていて児童らの支援活動状態を見ていかった。4. 対象児の動きを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	事故当日は他に2名の支援員が勤務、1名は施設内に残り、新年度の食器棚等の移動作業をしていた。(児童がいない人数が少ない日、かつ児童が屋外保育で不在中に作業をすることにしていた為)他1名は休憩時間だった。そのため、事故の状況を見ていなかった。	事故直後、引率支援員は当該児童のケガの状況を確認。左腕の動作確認を左肩が赤くなっていた為、湿布を貼り処置したが、事故の状況、及び当該児童の経過観察が必要なことを、現場にいなかった支援員に報告	人数・学年に関わらず、支援員は油断せずに育成支援にあたること。また、事故が起きた際は支援員全員に状況の報告を徹底し、(軽度・重度を問わず)複数の視点で当該児童を経過観察したり、どのような状態なのかケガの可能性を探ること。心配な要素がある際には迷わず病院を受診すること。	
3946	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	110							##	11	4	20. 8歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	右足くるぶしの靭帯の損傷と軽度の骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし	引き続き研修を通して事故の予防に努める。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	特になし	引き続き安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし。	改善策なし。理由 今回は怪我は環境面が原因でないため。	1. いつもどおりの様子であった	元気にサッカーをした。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	他の職員は、他の児童の遊びを見ていた。	特になし	サッカーあそびをしていて、ボールをめぐって競い合う状態になることは、必然であり、防ぎようが	
3947	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	30							30	3	2	23. 11歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	—	2. 基準配置	—	支援員等の配置は基準をみていたものの、見守りの手薄になる時間帯の外遊びの内容や見守りの実施方法について、検討する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	—	当該事故において、ハード面に問題がないため、改善策なし。	1. 集団活動中・見守りあり	—	見守りの手薄になる時間帯の外遊びの見守り内容や見実施方法について、検討する。	3. いつもより発活動的であったを(理由)記載)	事故のあった童は走庭を走って回った。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	当日は2名で外遊守り見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の児童の対応を実施していた。	事故発生当日は、1日保育であったため、午前、午後ともに人員必要であり、午外の遊びの際の見守り体制が通	見守りの職員が手薄になる時間帯の外遊びの内容や見守りの実施方法について、検討する。	
3948	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	34							34	7	7	19. 7歳	2. 女児	遊戯室内には、児童が10名程で、一輪車は広さは十分あったが、一輪車に乗っているうちに児童同士の距離が近くなる事があった。	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨頭部骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	11	1. 基準以上配置	事故予防マニュアル及び研修は整備されており、職員が必ず各部屋に配置されているがといたが、いかなる状況でも事故が発生しうることへの意識が十分でなかった。	今後の事故防止策及び、より高度な対応について、全職員で共有し、複数の目線で経過の観察・対応をする。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	遊戯室は児童集が密集するが、広さは十分であった。しかし、職員の声かけや、児童の状況が不十分であった。	児童の人数や、遊戯室のスペースに応じて周囲の確認をしながら一輪車を乗る。一輪車を行う際は、各児童の技術や応じて、児童同士の距離を十分に取る配慮をする。	1. 集団活動中・見守りあり	一輪車検査を受けて児童の遊戯室では十分なスペースを確保した状況であったが、児童同士の距離が確保した状況ではなかった。	一輪車検査実施十分なスペースの確保、児童同士の距離が児童に適切ることに確認し、一輪車検査を常に確認しながらする。	1. いつもどおりの様子であった	高度な一輪車の技術練習をしていた	3. 対象からの児童から児童と対象児を見ていた	転倒の恐れがある危険な祭り声を知らせるが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の技術向上のための指導を行った。	一輪車で児童数の児童も少なく、十分に職員が見守り出来る状況であったが、各児童の技術レベルに合わせた指導や、声かけが不十分であっ	職員は、児童の見守りを上で児童の周囲の児童に対する配慮や、安全に対する配慮事項を再確認し、怠らないように徹底する。	
3949	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	31							31	3	2	20. 8歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上顎両側中切歯の亜脱臼・上顎左側中切歯歯冠破折・上顎歯槽骨骨折	8. その他	2. なし	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	—	—	—	2. 不定期に実施	10～12	2. 不定期に実施	10～12	2. 不定期に実施	10～12	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	—	—	1. いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	1. 対象児とマンマン状態(対象児に接していた)	室内遊び中、当該児童が職員の腰に手を回し、ぶらぶら旋回下がり回旋していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の集団はまた人を見守っていた。	—	—	
3950	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	47							47	4	1	19. 7歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置	新1年生への注力、とその年への他学童掛け声足りていた	一斉に保育室へ動きとなり、集まってから集団での室内保育への移行	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	4	2. 不定期に実施	12	雨天後の運動場の凹凸等あれば、学校へ要相談	運動場における障害物の目視徹底	3. 個人活動中・見守りあり	児童声掛童、特性把握の向上を図る	勉強会等における資質改善を図って行く	3. いつもより発活動的であったを(理由)記載)	鬼ごっこ中に最中だったこともあり、本児も高揚しており、駆け足で保育室へと戻ろうとした	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	運動場の角付近から見渡して支援していた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他支援員は内で手洗等の就いていた	自己研鑽を図り、児童の質の向上、児童特性の把握(適切な支援)	活動的な児童に対する声掛けの支援を徹底する(落ち着かせる動きを図る)	
3951	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	46							46	4	4	24. 12歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児童のトラブルの対処をしていた事時児の対象の様子を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童のトラブルの対処をしていたため、事時児の対象発生時児の対象の様子を見ていなかった。	特になし	トラブル発生時でも満遍なく児童の見守りができるよう、役割分担等見守り体制を改めた。	

No	概要					発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3952	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32						32		4		2	20.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	特になし	職員間で、安全に安心な状況下で遊びができるよう事故防止マニュアルを整備し、館内研修の実施によりていく	特に施設原因ないが、ボール遊びで児童の高揚もあった事故につながった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	防ぎきれない事故も発生するが、故そのようる忘れ事前に事後の指導にに努める。	1.集団活動中・見守り	特になし	日常にはこうは怪我ある今しを目すく目努める。	1.いつもお様で子あった	児童につ普段と変わらず遊でいた。	2.対象児の近で対象児見ていた	活動には名程度児童が参加し、担当職員は全体判がらを見ていた。	2.担当者・象児の動きを見なかった	他児童も施設内にいるため、他児対応をした。	体育室と他活室と他室と職員がかれ遊びを展開した妥当な配置だったか再度検討する	職員配置を再度確認し、職員共通認識のもと運営していく。	
3953	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11						11		2		2	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	支援員は必ず死角のないように全体を見れる場所にするべきだった。	少人数保育であっても必ず育ち子の配置場所や子どもの動き等を意識常にしておくべきであった。	1.定期的に実施	複数	3.未実施	—	2.不定期に実施	複数	事故発生場所は廊下等ごっこする際に、子どもも遊びが入りや垣根で侵入いや掛けるの場所を徹底していなかった。	1.集団活動中・守り	危険個所には日頃から伝えていただいるが、慣れない児童はどう危険なの詳しく見ながらをきた。また常に声掛けすべきだった。	戸外に出る前の児童への事の確認や注意喚起びかけを行う。入所して危険個所の確認や約束事、家庭に戻る際、戸外へ出て、ひとつひとつ目ひとつ目でがせなら行う。何より日頃から声掛け	3.いつも発で的あった(理由を記載)	ごっこ遊びの場のギリギリのところで、ごっこ故意に走ってきた、勢いあまって転落し、鬼ごっこ中、現場に戻れず落れ下。	3.対象児の近で対象児見ていた	戸外で2つのに分かれていたため、中庭付近で中、ごっこ鬼をたどりがらを見ていた。	2.当対象児の動きを見なかった	人数の年が来少上に以上帰ると、生徒が帰ってきて、集団遊びの枠にはなかなか入れない児童1名を併設にゴに捨てに行く。	危険箇所を一度、子ども共知し指導掛声けをすべきであった	遊ぶ環境のところ、気とをしと児童ところを付けるこ確認し、ともに落ち着いて確認する必要があった。	
3954	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		4		1	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等への転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2～3年に1回	2.基準配置	ジャングジムの事故あったのはが、児童や支援員がすべて把握ていなかった。	ジャングジムの事故防止のため、児童や支援員にジャングルの使い方について話した。支援員、ともに	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	ジャングルの手持ち滑りやすいなっり倒れた。	1.集団活動中・見守り	複数の児童がジャングルを使用していた童がンムをしてため、屈なっていた。	児童には使用ら指導する。	1.いつもお様で子あった	児童がジャングルが好きとも、外遊びの時間になったら、すぐにジャングルに向かいた	3.対象児の近で対象児見ていた	離れ児童を少した見ていたため、すぐに出来なかった。発見後、他の指導員と確認し、病院に連れて行きました	2.当対象児の動きを見なかった	足の日だったあり、疲れが出てきたが。	足の日のあり、疲労がたまっていた可能性がある。	児童とのコミュニケーションを、確認をとる。	
3955	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37						37		5		2	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	—	—	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもお様で子あった	午前中は室内で過ごし、昼食も食べ、元気に外遊びに行く	2.対象至対象児の近で象児見た	対象児とで数人サッをたくで守った	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離に	対象児のそばで見守る	—	—	
3956	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22						22		3		2	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩鎖骨骨折	1.遊具等への転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	その日の室内の人数が多かったため	外遊びは重点を置き、2人で見守る	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	保育所用のため、小学生は高学年が合わかったりする通信しやすい	保育所の遊園庭ばらばらで難しい	3.個人活動中・見守り	普段は1人でも注意はするが、入学したばかりの時期は2人で見守るべきだった	事故後2人で見守っている	1.いつもお様で子あった	活発な子です	2.対象至対象児の近で象児見た	鉄棒をしていることとしていたが、いつも通り出来ていたので、子に後を向いた	2.担当者・象児の動きを見なかった	その時は1人でした	1人で見守ると確信しない	外に出ると2人きは、2人で見守る体制で見る	
3957	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43						43		5		4	19.7歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	見守りをしていなかったり、今より注意喚起や適正な見守りに努めていく	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	1.定期的に実施	毎日	今回の事故については、遊具の不明な原因もなく、測の事態が重なったことでの思われる。	3.個人活動中・見守り	特になし	児童の様子を見て、注意喚起や見守り等を今後も適切に行っていく。	1.いつもお様で子あった	当該の児童も、周囲の児童も、学童保育所でのルールの範囲内で遊び、事故発生前に注意すべき言動はなかった。	3.対象児の近で象児見ていた	職員は当該児童を含め集団保育を行う、適切に援を行っていた。	2.担当者・象児の動きを見なかった	他の職員中は同じ児童の庭にいて、他を見ながら当該の児童の様子を目に入れていた、事故が防ぐことをとなった。	児童は大きなトラブルを起こしたり、職員から注意受けることなく、穏やかに遊んでいたが、立上がった時に体バランスを崩し事故発生したとの	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故が発生してしまうので、今後は一層の注意喚起や見守りに努めていく	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3958	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	34						34		4		3	18. 6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	モンテジア骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	2～3回	1. 基準以上配置	—	見守りの際は、危険に持ち、危険とる意識を感じた注意を常に促す指導を行う。	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	数回	2. 不定期に実施	数回	—	正しい用方法職員理解し、教育をしく。遊びなどま童を行い	3. 個人活動中・見守り	4月から好きな遊びで、よく遊んだ。ゆっくり慎重に遊んでいたが、毎日遊ぶことに慣れてきたと考える。	1. いつもお様などの子であった	—	2. 対象児の近で対象児を見た	—	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の児童の見守り・活動し支援をしていた。	—	危険個所には職員を配置し、危険と思われる行動に注意をしていく。	
3959	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	6						6		3		2	19. 7歳	2. 女児	特になし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	左頬の裂傷	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	数回	2. 基準配置	業式の児童始ため気持ちが高揚していた中、児童会館まで道のりを歩行することになった。だちに友だちなせ隣りいるとあり気持ちが、小走のりとなった。	下校時は交通ルールを遵守して、かなる徒歩場合は児童まで会館に行った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	クールを点検し、場所を事前に周知するなど安全方法を指導する。	防ぎないもあるそのうぎされ事故ものこりといる認識を忘れず事後指導に努める。	3. 個人活動中・見守り	下校時に、友だちをかけるかしていた状況が発生すると想定せず、急にするバランスを崩すことが児童に当話していなかった。	危険な講ついて確認し、下校際に員互意がを注意するに促す。	3. いつも活活動でたを	午前の事業を実施し、職員が平素よりもだしい状況の中で受けをしていた。3、4年生一部のクラス児童のみ学年が先に下校め、普段よりも楽にしそうて歩行いた。始業式後で気持ちが浮ついて様子だった	4. 対象児の見ていた	来館途中の事故だった、事故者の動きをとはでなった。会館到着後、対ガで手当てとしての手当をとも安全指導も行った。日頃から来館時には注意して	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	各部屋で児童や幼児親子の対応をしていた、スクールゾーンでの事故はいなかった。	特になし	児童が来館時交通ルールを守ることを遵守するように指導をする	
3960	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	35						35		5		2	19. 7歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	数回	2. 基準配置	概ねいつもと変わらない様子であったが、行後少浮ら子たが事で多少始めつき始めた状態があった可能性がある。職員配置は適切であったと考えるが、死角ができた一瞬の出来事であった。	行事終了後も落ち着いて遊べるよう、声掛けを行う。死角がなくできるよう、更に範囲を広げ見渡せる位置に立ち、指導ちを心がける。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	突発的なれ防ぎ事故ない事故も発生すが、事故のりいるを故のもこと認識れず事前・事後の指導に努める。	1. 集団活動中・見守り	スペースの確保が分で可不十あったがある。	スペースを行確保し、周囲でいる遊んで子どもたちもも周知して、更に安全管理を行う。	1. いつもお様りの子であった	行事終了後で、子ども運営委員会参加申し込み後であったが、いつもと概ねな変わった状態であった。可能性としては、気持ちが遊びたい気持ちに切り替わり、多少浮つき始めた点はある。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	同遊戯室内で低学年数名が大型ブロック遊びを行っており、低学年の身長ほどに高さに達し、子どもたちが倒れないようブロックから落下しないよう安全管理を行っていた。同時に、対象集団児の動きを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋で他の児童やお迎え者の保護者対応に分担して行っていたため、事故の現場は見ていなかった。	特になし	行事後やもごとの切り替わりの際には起こりうる注意点を配慮した声掛けを行ってから、遊びに移行させるよう指導をする。	
3961	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	80						80		9		5	18. 6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3. 子ども同士突かるもの衝によるにもの	2. なし	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	室内を走っていたことが児童が原因	・各部屋出入口の扉のめる。・廊下中央にテープのの区別をつけた。・ミーティング迅速に行った。	2. 不定期に実施	1	3. 未実施	—	2. 不定期に実施	—	—	—	3. 個人活動中・見守り	園庭がなえいゆ施設の活動がなる。ダイきがコントロールできなかった。	限ナミックでうにる時間を増加させた。	1. いつもお様りの子であった	廊下を移動中であ動り、事故に結びつくような意図はなし	4. 対象児の見ていた	事故が起きてから職員も気づく。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生後、保護者に連絡	—	予算が許す限り人員の増員	
3962	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	26						26		3		1	18. 6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節骨折	3. 子ども同士突かるもの衝によるにもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	1年生の慣れなに慣れての不足不外対し配慮	支援員間役割と連携を取る	1. 定期的に実施	日常的に点検	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	鬼ごっこなど範囲を決めて走スピードを事スが軽減される。	遊び前に大きな拾い撤く安全確認をで認する徹底する	1. 集団活動中・見守り	鬼ごっこ児童に鬼に他のとおりをしていた。	鬼ごっこた入った支援員がこの場で他離れて遊びをするように促す。	1. いつもお様りの子であった	周りを気にせず、べてしゃをしていた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	象至対象児を声をかけながら鬼ごっこで一緒に遊んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	室内外の全子ども体の遊守を見る。	児童には注意を促しが伝わらなかった。	予測される危険について、解かりやすく丁寧に何度も話し続ける。	
3963	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	45						45		10		9	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折、顔面擦傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	当該児は鉄棒に自信があり、自分過の力の信していた。	戸外遊びの際は、固定遊具を見守る決遊具を職員を決定する。危険遊び方なるようなどをしよう子供ちに徹底する。	2. 不定期に実施	—	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	ほぼ毎日	着地面は地面固い地面で安全等マットかった。	着地面に安全マットマッ等を敷く。	1. 集団活動中・見守り	暑い日で汗を手に汗をかき手すかやすかった。	鉄棒などは、汗で滑りやすいから注意する。	1. いつもお様りの子であった	鉄棒が上手なことに友達を周りをいるにかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところ少し、鉄棒たとをしている様子で、駆け下後に寄って体の状態をチェックし、トランシーバーで学童に連絡をいれた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童だと遊んだり、見守りをしていた。	—	特になし	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面									ハード面							環境面			人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修																										
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
3964	令和5年31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	18						18		4	2	23. 11歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	数回	2. 基準配置	特になし	外遊び等広範囲にわたり見守りを実施する状況下においては、転倒等の可能性を予見し、児童に対し注意する指導する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	見守りの配置や声掛け等、安全面が不十分だった	時や遊びを外遊びする際は、転倒等の性をし、児童に対し注意を促す。	1. いつもどおり子であった	他の児童やおとなしくもとべるくもわらめあった。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	外遊びの見守りを該当童ではなく、児近辺ためを止めることがなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた為、見ていなかった。	外遊び見守りをしていたが、他児童とぶつかる、鬼ごっこする児士合、鬼ごっこを際、童同士の衝突や転倒	外遊びをする際は、転倒等の予見し、児童に対し声掛けをし注意を促す。	
3965	令和5年31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	41						41		3	3	23. 11歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	第5中足骨基部亀裂骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1	2. 基準配置	—	全体を見る際、活動的なやいつもと違う遊びに加わっる子どもがいる動のに、より向けなどより応じ危険予知能力を高める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	感じれ山で草ていけるあり日々崩れ中ところ、凹凸ことり、ところもあることもある	活動の都度	草ないな設けるり、草を踏まうを草長手を成時期を設け点検凹凸と滑しするしてのころからたり	1. 集団活動中・見守り	斜面や段差と遊ぶ際は、特に走ったり迫いたりと、ずり滑りがるので理解うと動と	段あるころで際ったり迫った際は段上がっで危険プし自力の極めらとるなるお話しく	走ったりいかけるは、普もより入ることで危険アッ分見ながこ怪我が回避することにしたり	3. いつもも活発であった	室内で遊ぶことの多いお子さんなので、今日は知れ達ので、外に出て遊んでいるなと思ってみた	4. 対象児のきなかった	遊んで把そうと楽しいる提全体を見守る	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	左記と同様	—	遊びに夢中になっている際、中断させない程度に気をつけてお等の声がけをし、注意喚起を促す	
3966	令和5年31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	44						44		3	3	21. 9歳	1. 男児	—	8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第1関節骨折	5. 他児危から加害を受けられたもの	1. あり	2. 不定期実施	1	2. 基準配置	—	職員が活動場所にもれいように配置き、活動をできるように職員間を掛け適切な配置場所とにる事故防止に関する研修を積極的に受講する。 ヒヤリ・ハット事例の収集を行い、必要な対策を職員間で話し、職員間で、安心な状況で安全が実施できるよう事故防止マニュアルを整備し、館内研修により進めていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	— ドッジボールのボールが当たるこ	ドッジボール用ボールは硬めであった。	今後も継続して検を行う	1. 集団活動中・見守り	部員職に職員が不在だったため、行動を阻止することなどを出来なかった	場合ていたこと切けは適なかった	その見かったとなる声ができなかった	1. 定期的に実施	活動の都度	遊具、玩具の正しい使方会い使いを、機会を捉えて児童にいくことも、まちがえると怪なることにまちがえると怪なることにまちがえると怪なることにま

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者											ソフト面					ハード面									環境面			人的面							
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他												実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
3972	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	122						##		17	13	19.7歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手小指の骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	「クラブそのやく」を再確認し、指導の徹底を図る。お迎え時間についても、事故予防についての見直しを図る	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	保育時間における見守りの注意は、繰り返して確認していたが、保護者による引き渡しの際や、しつけの引き渡し後については検討が不十分であった										お落ち欠けの遠因ら日常における子どもの着替と考えられる	7.その他	保育環境の見直しを行い、一人一人が保育課題を共有する支援員の支援が浸透する、環境づくりを図る	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	保護者の迎えがあり、はしゃいだ様子が見られた	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した状況を引き渡した状況を、保護者の様子を伝えていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場を見り、児童を対応していた	保護者に引き渡した児童の対応をする支援員の配置は困難である	引き渡し後の児童管理を、保護者に啓発していく	
3973	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26						26		3	1	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	当該児童が特性があるためも、教師に引き送りこの室講師に申すべきとはなかった。	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	—	校庭でも石ばかりなく面ハードには問題なし。	危険と感じる箇所があれば教育委員会に報告する。	3.未実施	—	3.未実施	—	3.未実施	—	1.集団活動中・見守り	ボールに取られて転倒。	ボールにらられることのないよう、小ちな声掛けを行う。	1.いつもお様でもり子であった	当該児童はいつもどおりの様子。サッカー教室のなかで、二人一組でドリブル練習を行った、参加人数が奇数であったため、当該児童のみ一人でボールを遊び中に受け転倒した。	3.児童が離れたところで対象児を見ていた	講師2名、教育委員会当番1名、児童支援員1名クラブ支援員1名で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童保育室に他の児童がいた。	怪我に対する注意喚起は行っていたが、より具体的な注意が必要であった。	ボールに足を取られないことのないよう、小ちめな声掛けを行う。	
3974	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10						10		2	2	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨頭部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	研修以外にも定期的にも、常に巡回し、危機管理の意識をもたせる。	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	遊具の故障で大きな事故を招きかねないので、ネジのゆるみやなどの緩みやバンクでの事故も想定して細部までの点検をする。	1.定期的に実施	開所日ごと	1.定期的に実施	開所日ごと	1.定期的に実施	開所日ごと	—	1.集団活動中・見守り	—	何かもあっすぐてにできる、支援員の届く範囲内で遊ばせる。	1.いつもお様でもり子であった	サッカー中、ゴール前でキーパーをした。ボールを蹴ろうとした足元に飛び込み、足が掛かって子のにみ、引っ転んでしまった。	2.対象児を見ていた	1年生の一輪車の補助をしながら屋外を見守っていた。気付いたは倒れて何があったのか確認をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設内でいても遊ぶ子の様子をみていた。	—	サッカーに限らず、「気をつけて」と声をかける、子どもが何か症状を訴えている時には軽く判断せず、より重い状態を想定して確認する。	
3975	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	77						77		5	3	22.10歳	1.男児	バスケットボールクラブに所属しており、何度か突き指の経験がある。指が細くて長い。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・指)	右小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝によるもの	今回の事故を開催することにも、子どもに周知し、注意を促す。	1.あり	3.未実施	—	1.基準以上配置	いつもの子ども達で子の行動であったが、たまたまいつもの当たが思われる。	1.定期的に実施	288	3.未実施	—	1.定期的に実施	288	—	今後も毎日の安全点検を欠かさず行う。	3.個人活動中・見守り	—	今後も環境に配慮した保育を行う。	1.いつもお様でもり子であった	自由時間のいつもの何気ない行動であった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	子ども達の様子の観察が、問題があるように行動は見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くの子の達の観ども様子を見ていた。	一日保育時で、比較的落ちあいる時間帯のため、職員全配置	どの時間帯にも同じ職員数を配置できるようにしたい。	
3976	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37						37		4	2	21.9歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右ひじは離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	注意喚起の徹底	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	—	注意喚起の徹底	1.集団活動中・見守り	—	注意喚起の徹底	1.いつもお様でもり子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童と関わっていたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と関わっていたため	—	注意喚起の徹底	
3977	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11						11		3	1	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手首骨折	8.その他	事故防止マニュアル直し、補助支援員との連携の再確認。	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	1.定期的に実施	12	3.未実施	—	1.定期的に実施	12	—	イスの撤廃	1.集団活動中・見守り	—	物の上にのは乗り、飛び降り、大人の話を聞く、お話しする。児童一人一人へのを見守り強化し、口だけでなく行動にて注意を促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段の1日8時台に比べ児童が多く、全体的に落ち着かない様子であった。お母さんのお迎えが来ていたこともあり、普段べると比べると活発であった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	同室内で、当該児童から、ほど離れたこと当ろ、2メートルはれたり、該児童の保護者と打ち合わせを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員Aは洗濯をしており同室内にいたかった。支援員Bは同室内の他の児童たちと遊んでいた。	—	児童が落ち着きのない状況では、洗濯・片付け等の作業はやめ、保育に専念する。常に室内の全体が見える位置に補助支援員を配置する。	
3978	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40								4	2	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	活動の具体的な状況（施設、活動内容、子どもの状況や人数等）を踏まえた上り有効な研修等を行い、職員意識のさらなる向上を図る。	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故防止について職員に適宜話しをしているが、支援員等各自の事故予防についての認識を一層高めるが必要がある。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	棒状のつい滑りやすくなっていた可能性が考えられる。	砂が付いていないので遊び前に確認し、付いれば拭き取りを行う。	1.集団活動中・見守り	自身が怖がって、手を放してしまった児童がいる。放した児童が転落する可能性がある。	事前に児童の経験を見極め、常に手を差べられるようにする。	1.いつもお様でもり子であった	はじめは縄跳びを遊んでいたが、約25分後に雲梯遊びに移行していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員それぞれが各所で子どもの様子を全体的に見ていた。事故当時は雲梯に目を届かなかった。その後、支援員が対象児を見ていた時には雲梯から落ちた後だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	様々な遊び場所を支援員が協力して見ていた。遊び支援を合っていたが、雲梯付近の見守り薄になっていた。	危険度の高い遊具の守りを担当を決めていなかった。	雲梯付近で見守る支援員を必ずひとり付けるようにする。	
3979	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	70								6	5	19.7歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	外傷性陥入	1.遊具等からの転落・落下	安全管理マニュアル実施のと徹底を図ったことに、事故防止対策の充実、合わせての周知徹底を行った。	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故後、抜けた歯科医院に持っていく際の保存方法について、歯科医師から指導を受けた。			1.定期的に実施	16			特になし	遊具は適点検を行いるハード面での改善点はない。	3.個人活動中・見守り	特になし	適切な個人見守りの状況であった改善点はない。	1.いつもお様でもり子であった	屋外での個人活動をり、ブランコに乗った。	2.対象児の近で対象児を見ていた	ブランコで遊ぶ児童、周辺で遊ぶ児童、他の遊具児様で遊ぶ様子を童供の様子をブランコ見るためから2m程度のところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の児童の様子を見る、屋外の児童は担当職員に任せていた。	事故後、抜けた歯科医院に持っていく際の保存方法について、歯科医師から指導を受け	事故発生時の対応について、支援員の知識を共に、支援員・補助員の間での知識の共有が図れるような体制を整えていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
3980	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	76									7		3	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭蓋骨陥没骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	遊び場所の危険個所の見落とし。	事故予防・危機管理マニュアルの再度確認、支援員間での情報共有徹底。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	300	事故の場所は、前面の中庭に草が生えて段差と凸凹があり、端の方に植木などがある。事故が起きた中庭では植木の剪定で切り落とされた切り株に気づかず、転倒してしまったと考える。	切り株の撤去。中庭は凸凹が多く、隣接している中庭にピロティという場所は大変滑りやすい材質の安全な安全で安心して遊びランドとする。	1.集団活動中・見守り	中庭はピロティとして隣接している段差があり、凸凹があり、足元が不安定な中庭ごっこは、多くの鬼ごっこまりない広いのグランドへ移動するように声掛けが必要だったと思われる。	安全面から遊びランドとグランドは、支援員間で再確認し、声掛徹底をする。	1.いつもお様のどもり子であった	1年生から5年生の男女10名程度で鬼ごっこ（増やして、対象児童が鬼になり、他児を追い捕まえかけてまえとした。	2.対象児の近で対象児を見てい	おやつの時間の後、室内は3名、中庭には4名配置。全体の見守り。	1.担当者・対象児の動きを見てい(至近距離にいた)	安全面に注意して、声掛守り、け。	事故当日の支援員の援配置は問題なと思われる。遊び中楽しかったびのでさが遊び夢中なエスカレートしてまったと思われる。また4月から小学校学校入した1年生の体力と学年力体力高の中で、異学年の交	室内遊び、外遊びでの危険個所、遊び方について全学年児童に注意、指導する。中庭では遊ばないように注意、指導する。	
3981	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	87									14		4	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨(上部)骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	道中のバスや出発前にKYTを行い、楽しいところ危険が潜いる事を事前に伝える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	18	1.定期的に実施	毎日	—	初めて行く施設の場合は安全表示を行った、ロープを張りたり遊ぶ範囲を付けた。	1.集団活動中・見守り	見守り体制に偏りがあった。転落するような高所にいる事を把握していなかった。	今後は見しがと、高所がある場所を避け行動を活しよう。	1.いつもお様のどもり子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象動見ていなかった	近くにはいたが、その時は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食後の子どもたちの他のもちかかわっていた。	見守り体制に偏りがあった、転落するような高所にいかせるべきではな	バランスよく指導員を配置し、事前の声掛け等の注意をおこなう。	
3982	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	91									6		3	18.6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	階段の上り下りは歩いて行くように指導し、見守る。	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	—	特になし。ハード面は事故でも事故はない為。	1.集団活動中・見守り	—	特になし。	1.いつもお様のどもり子であった	友達と向き合って楽しそうに遊んでいた。	1.対象児とマンマンの状態（対象児に接していた）	子どもの横で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くには居たが他の子どもと遊んでいた。	—	子どもの不注意、突発的な突破の事故の特記になし。	
3983	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15									2		2	18.6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	特記事項なし	転倒しない注意喚起	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	特記事項なし	設備等が起因原因でもない改善策はなし。	1.集団活動中・見守り	特記事項なし	転倒しない注意喚起	1.いつもお様のどもり子であった	普段と変わらず遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普通に歩いていただいた、一番近くにいた職員（担当制ではない）も、こと一瞬のことで対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	次の活動始の準備をしまとめるころで、室内には見ていたがいなかった。	特記事項なし	普通に歩いていて転んだため、改善策はなし。	
3984	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	84									5		4	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	今回の件は、日頃起こる怪我であるため、個人意するほどもあまり強いボールを投げないなど注意喚起を促す。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	とにかく児童加入が多いため、雨には室ごっしているので、それを解消ために宵館を体使用いたが、結果として負傷者が出た。安全を確保できる定員でありたい	1.集団活動中・見守り	個人個人の運動能力にもよるので、この種の怪我をこの怪我を防止するのはなかなか難しいと思う。	日頃から、遊びは怪我は合わないと隣りだとい合わせる言い聞かせを行う。	1.いつもお様のどもり子であった	普段となんら変わりはありませんでした。	4.対象児動きを見ていなかった	低学年と高学年がことなる交わって遊ぶは危険なので、体育館を2つに分けて遊ばせるようにし、支援員は対象児童とはどもたちのグループの中で一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は低学年のコートを見た。	—	子どもたちの遊びの相手をしたからの監視になるので、危険がある場合は、監視に徹する。	
3985	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10									5		2	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨・尺骨 遠位端骨折（右腕）	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	異学年が同じ室内で過ごすことを念頭にそれぞれの発達段階に応じた支援の体制を検討する。	2.不定期に実施	—					—	室内遊び時の見守り方法を改めて確認。	3.個人活動中・見守り	—	—	1.いつもお様のどもり子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の児童を見守る必要があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来た保護者の対応等をする必要があった。	—	子どもの関係をよく観察し、突発的な事故が発生しそうな場合は別の場所で過ごさす等の対応が必要と支援員間で共通認識	
3986	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40									3		1	18.6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	外傷性鼓膜穿孔左	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	子ども達の特性に応じた見守りを徹底する。	2.不定期に実施	—					—	室内遊び時の見守り方法を改めて確認。	3.個人活動中・見守り	—	—	1.いつもお様のどもり子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の児童を見守る必要があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来た保護者の対応等を必要があった。	—	子どもの関係をよく観察し、突発的な事故が発生しそうな場合は別の場所で過ごさす等の対応が必要と支援員間で共通認識	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事			発生時状況							ソフト面							ハード面							環境面			人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
3987	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	20								7	1	22. 10歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足首靭帯断裂	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置	特になし	外遊び時など、広範囲の見守りを必要とする下に、状況下において、児童の転倒・衝突等の事故発生の可能性を予見し、児童に対し安全の指導を徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	特になし	施設、遊具等の安全点検については、定期的に実施しており、今後も継続して実施し、必要に応じて改修等を行う。	1. 集団活動中・見守り	見守り時の声かけなど、安全面への配慮は十分であった。	外遊びをする際は、転倒等の予見性を、事故を未然に防止できるように注意を促す。	1. いつもお様子であった	外遊び中、他の児童とおしゃべりなどをしたりするいつもとかわらぬ様子だった	4. 対象児の動きを見ていなかった	外遊びの見守りをしていたが、他の児童の対応等、対象児童から目を離していた。対象児が泣きながら、膝を左右に広げた状態で座っているのを発見	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の児童をしていた為、見ていなかった。	特になし	職員の配置を工夫し、広範囲の見守りを実施する際は、児童一人ひとりの行動に注意し、事故発生の可能性を予見し、未然に防ぐための呼びかけを行う。	
3988	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	52								7	7	21. 9歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具から転落・落下等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	—	2. 基準配置	温暖で疲れやすい日が続いたこと、気温が低くなったこと、手足が冷えやすいと考えられる。	金曜日は一週間の疲れがたまっていることを念頭置いて外遊びの安全特に注意し、見守りを行う。	1. 定期的に実施	250	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	固定遊具の高さ（うんていの下は地面つまづいたり足がつかない）	濡れていたりすると滑りやすいため、常に点検を怠らない。	1. 集団活動中・見守り	気温が低かく寒くなったこと、気温が寒くなったことへの注意喚起が足りなかった。	気温が低く寒い日が続いたため、又着ぶくれで体が動かしづらいこともあるため注意喚起を促す。	1. いつもお様子であった	普段と変わらず元気で遊んでいた。	3. 対象児の動きを見ていた	本児が落下し地面に横たわっているところにかけつけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていたが見ていなかった。	特になし	遊具が設置されている場所を中心に、見守りの見落としが無いよう、校庭での人員配置を適正に行っていく。	
3989	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	197								12	8	19. 7歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1. 遊具から転落・落下等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	—	グループ保育と職員配置と見守りの強化	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	6	—	児童クラブ回りの遊び場の危険個所の再確認（特にプール、階段下など）	1. 集団活動中・見守り	3. 個人活動中・見守り	遊び道具の現場を今回の事故現場に近いことに置いておりもしく、集中やすく、スロープに入りやすくなっていた。	スロープ立ち入らないというルールの再確認を行い、児童が集中しすぎない道具の配置も変更する。	1. いつもお様子であった	体調につ特段事項はなく、安定の持ち方をお背後にあるスロープに子どもが立っていることに気づかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジム、滑り台等高所で遊ぶ遊具の方を向いており、背後にあるスロープに子どもが立っていることに気づかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ケガや、トラブル起きやサッカーやすいカードッジボールで遊ぶ子どもの見守りのため運動場奥など四方向に向いている時で、現場のスロープに背を向けた	—	—	
3990	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	34								5	5	19. 7歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	—	2. 基準配置	高さが84cmの鉄棒だったが、棒のが油断していたと思われる。	ヒヤリハットの危険を予測し、ゆるく迅速に対応するようにする。	3. 未実施	—	3. 未実施	—	1. 定期的に実施	週1回	学校において普段、使い慣れているもしれない。	遊具等の安全点検は、学校校報告し、改善してもらいます。	1. 集団活動中・見守り	普段遊んでいる遊具であり、支援員も注意をしていたが、声かけをしたものの認識が十分でなかったと考えられる。	普段遊び道具の安全点検については、支援員が十分の認識をしていたが、声かけをしたものの認識が十分でなかったと考えられる。	1. いつもお様子であった	普段と変わらず、児童が集中しすぎない道具の配置も変更する。	2. 対象児の動きを見ていた	適時、児童に安全に遊ぶ声掛けをしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にほかの児童がいた。	本人がつらいと痛がっていたため、湿布対応になった。	目に見えない怪我の時には保護者に連絡する。	
3991	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	19								5	4	20. 8歳	2. 女児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手の甲の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不期定に実施	1	2. 基準配置	降室時の見守りは1名体制となっている。	施設から前に状況や地域防犯等を見い確認し、必要じて応じ2名体制にしてのポイントで見守る。	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	帰宅時の喚起足し注意が不足していた。	帰宅経路の認識や交通等の危険個所や交通ルールを児童と再確認する。	7. その他	一緒に帰る予定のなかった仲の児童にテンションがあり「いつもの遊びから帰ってきた」と発言していた。	帰宅のテンションがいつもとは違ったため、児童の心理状況をよく見て落ち着かせて帰宅させる。	3. いつもと活動のあった(理由を記載)	当日欠席であった仲の児童が帰宅時で特に良い会いと一緒に帰れるとテンションがあっていた。「いつもグでコをしながら帰ってい2人でのりなら帰る」と遊びながら帰ろうとしたにいたため送り出す支援員が普通に帰ようと保護	4. 対象児の動きを見ていなかった	支援員と後道した援場別の帰り支援現場で起きて対応した。ため員が目撃することが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員と後道した後別の帰りで起きた対応した。援員場をすることが出来なかった。	児童のテンションが上がっている状態で施設をでおり、走って遊びながら帰宅をしていた。	帰宅時には落ち着いて、歩いて日掛帰ることるようと声掛けをするとともに、施設を出る前の児童の状態を確認してから帰宅させる。	
3992	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	15								2	1	19. 7歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手親指第一関節骨折（顔面（左目付近）挫傷	1. 遊具から転落・落下等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	6	2. 基準配置	—	研修で学んだ日頃の合わせや打ちでの個々の役割し、「何かが起きるという危機感をもって保育をする	1. 定期的に実施	2	3. 未実施	0	1. 定期的に実施	48	公共の設備利用を安全で過ごしてた。	公共の設備利用（児童）が利用するうえで、破損等、児童の仕方に問題がないか、危険な物（大石やきき枝などなどなない心の注意をする。	1. 集団活動中・見守り	遊んでいたことから、事故座んこと、事故を予測しきれなかったこと。	ヒヤリハットを改め底し、測される行動パターンを増やしていく。	1. いつもお様子であった	普段と変わらない様子で登室気にし戸外遊びをしびしびとる。	2. 対象児の動きを見ていた	対象児童は座っていたこと、周囲の児童の見保育をしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児童は座っていたこと、担当もと主遊んでいた支援員から、すぐ近にすぐくの遊具で児童ていたを見た。	一	全体の把握と担当する範囲のバランスを改めて確認し、徹底をしていく。	
3993	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	15								5	2	18. 6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	上顎骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	数回	2. 基準配置	活動の切り替えのタイミで、補助員2名が活動を守っていた。	会館職員会で、今ったことを周知し、ことを周知し、わぬが怪我にがるうつなったことを認識する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	履いた活動靴下をまるとで滑りやすい。	活動室内ご物って際のつて持ち動危険して周知する。	3. 個人活動中・見守り	活動しいの楽動りが大きかった。	活動室で過ごせるよう職員が配慮し、安全ごうがし、都度かけ声をていくようにする。	1. いつもお様子であった	勉強タイム終了後、遊びとしようとした。	2. 対象児の動きを見ていた	補助員2名が、活動が切り替わるタイミングだったため、替えイミングの全体見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員3名は児童対応、保護者対応、作業を行った。	遊びを見守る際には、その学年や、その児童の特性を十分配慮し、対	活動が切り替わるタイミングに突発的な怪我や事故が起きる可能性があることを職員らと認識したうえで、児童への声掛	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面									ハード面							環境面			人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
3994	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41									5	2	20.8歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	屋外活動中の見守り方法を改めて確認。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—			—	—	1.集団活動中・見まもり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	—	1.対象児はマンツーマンの状態（対象児としていた）	—	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	—	支援員は見守りの十分であったが、中学年と高学年児童との安全の違いを	児童への安全指導に努める。	
3995	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	12									5	3	22.10歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故防止のいて修伝重要性を研修を容などをのには、ご内容が違うから、日ごろから確認しているあっ中事故ででの事故であった。	毎日の支援前の打ち合わせにおいて、ケガが発生しないように意識を高めていくようにする。	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	2.不定期に実施	6	室内でのできる遊びを実施している。人数を限り、人数を制限し、準備を行事運動など故防止をしが、発生しる事故配慮まった。	活動できる範囲を制限し、ロッ壁や等へ突カーを衝突しないように防配慮する。	1.集団活動中・見まもり	マットで出来る遊び上ドッ遊び内でのマットジでは、マットは除去済み。	2.不定期に実施	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。ドッジボールに参加し、熱心に取り組んでいた。	2.対象児の近で対象児をていた	対象児の対象児を見ていた。他の参加児童も含め、マットドッジボールを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	至近で・担当者・対象児をていた担当様、側からドッジボールを見守っていた。	子どもたちの動きを見ながら、安全面意子どもの安全のをよろでは、子どもたち見、声かけを徹底させていく。	子どもたちの動きを見ながら、安全の確認をしていく。	
3996	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	38									8	5	20.8歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	2.自転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	基準よりも職員を多く3名配置	—	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	1.定期的に実施	2	—	—	4.個人活動中・子どもの	荷物の金曜日に、両物を下して持ってに荷物を持ってる子が校を多かった。	・できる手荷物なるとまとだけ少なくなるとうくなるめられる方を知ら・終礼時期せる・終礼には下校に的に下校する時の注意事項を伝えるこ	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の見ていなかった	下校中だった	下校中だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	
3997	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	153									20	17	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首ひび挫	2.自転倒・衝によるもの突	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	校庭が区切られていることで、いつもの配置といってもで、違ったのそれぞれに注意できていなかった。	いつもと違う状況を適切に把握し、児童の遊び方に応じて、ケガの予見をしたりを見守を徹底する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施			運動会直前で、普段は置かれていないコーンやバーが設置されていた。	校庭が狭くなっている場合、注意だけでなく、遊び場所の制限をして、活動場所を指導徹底していく。	外遊びのルールや危険な遊びの周知が十分であった。	1.集団活動中・見まもり	外遊びのやや遊事前に危険な遊不び十分であった。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこしてて、鬼が逃げたにいたバーを越えてしまった。	4.対象児の見ていなかった	全体を見守り、児の児童が跳び越え直接見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	自分の担当箇所を見ており、当日については見ていなかった。	ごっこをしていて、鬼ごっこでの行動が鬼ごっこにのりがあった。	日常的に、落ち着いた行動の徹底に心がける。	
3998	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14									3	2	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻右側骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	危険な可能性がある場合を想定した研修等を強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	—	—	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	3.個人活動中・守りり	—	慣れていない遊具遊び等で時により深く行きすぎるような環境にする。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の近で対象児見た	対象児等を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童守りしていた。		慣れていない遊具等で遊ぶ時には、支援員は適切な補助をする。	
3999	令和5年3月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	8									2	2	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘付近の骨の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	遊びのルールの再確認	遊具の使い方は小学校まじにいる。外遊びのルールはクラ児童プ下の板に高鉄棒は上からという記した。生には休み遊びのルが説明をしたが、子今ての確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	高鉄棒の方は長の型になっ形場ではかったが、砂場はりくけ鴛鴦ッンに状なるに崩校地面ンスを高下砂校庭ランの際に落下ョンに柔砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況い下す砂ばら場がが、着ッ柔砂ある地に況	学校設備なので、クラとして児童クラブとの対応はできない。	3.個人活動中・守りり	高鉄棒でいるこ遊ぶ気が多かったコ高鉄棒にのいるこ段階で気が付かなかった。	児童がどこでいるこしのか、こまめに周囲の確認をし、危ないしとたちに行き意また、危険行為仕掛けている事に気づいた際、急な声掛けは児童が自身の安全を可能性があるので、させないように	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１０ｍくらい離れたところで見ていたが、高鉄棒に下がっているのに気づき、慌てないようにゆっくり近づいて「まだ（やれる）早いでしょ。降りよう」と落ち着いた声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2人体制で保育を行い、事故当時に全員が遊びをしていた。もう1名は室の休憩内にた。また、当日は休みの職員が1名、発生時にクラブ事務作業をした。	今回の事故は少し逃れるが、仮に児童が1人でもいれば、1名が室内に残り、外に職員は1名しか行けないので、この児童数に対して1名の職員外遊びを見守るとは今後も有り得る。が、今回は休憩時間と外遊び重	職員の休憩時間は、配置人数が少なくならないよう、外遊びの時間と重ならないようにし、1名ずつ休憩する。遊ぶ範囲は1階保育室一部屋に限定する。また、外遊びの際に室内に複数の児童が残る場合も、遊ぶ部屋は1階保育室一部屋に限定する。室内では静かな遊びをするように指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4000	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	52								5	3	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自転車倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置等に問題はないが改善策はない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	校庭の遊具については、常に学校と連携を取り情報を共有している。施設周りは日常的にて点検している。	時の迎えガの母親にして報告をいた時に、当該転ぶという話がおいすいて初めてあった。	1.集団活動中・見あり守り	転びやすい、怪我しやすい児童に対し開に感じては、職員全体で共有し、注意しながら見守る体制を整える。	1.いつもお様り子であった	ドッジボールに参加し、当自らったし外野にボールができていなかった場所が、を変えようと動きた時に転んでしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員も一緒にドッジボールに参加していた。当該児童が転んだ直後、上級生がことづき、声を掛け、手が動かを確認した。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	校庭にいた他の3名は固定遊具（プランコ・ターザンロープ・イヤ・ジャングルジム）にそれぞれ分かれ見守っていた。部屋の中では、1名、おやつの片づけをしながら、屋の児童を見守っていた。	特になし	対象児の動きや職員の動きに特に問題はないため改善策はない。	
4001	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22								3	1	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	右下顎骨骨折、右耳道出血	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	2.基準配置	—	外遊びは２名以上で行ったが、発生時は児童が迎えお遊戯室にあった教室にてていまったので、今後は公園に保護者が迎えるようにする。			1.定期的に実施	6					一	該当事故は遊具に問題がない改善策はない。	1.集団活動中・見あり守り	—	児童と話している際にも、他のお子さんから目を離さないように連携を取るべき。	1.いつもお様り子であった	転落する直前に、児童が他の滑り台に飛び降りたのを見て恐ろく飛びたくなった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	直前に、他の児童が飛び降りたのを注意した為、台に上がって滑りたいたのは気づいて落ちた瞬間は反応出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は室内で、遊んでいる児童に対応、１名はお迎え来た児童に来た教室届けた。	—	お迎えに来た児童を教室に送るのではなく、保護者に公園にお迎えに来てもらう。	
4002	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	72								4	2	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足指骨折	2.自転車倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	—	マニュアの該当の事故部分に今回の事故対応ようよ内容にるる記載修正に容をした。	1.定期的に実施	2年に1回	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	毎日	今回の事故は、児童がボールに窓に枠に接触したことにより発生した。	窓の木枠角や鋭ど鋭所には、クッション材こを貼るとや、テープを貼ることを検討する。	1.集団活動中・見あり守り	今回の事故は、児童がボール中に窓枠に接触したことによ発生した。	施設内の危険箇所について、改めて職員間で共有を行い、児童クラブにも注意するように呼びかけた。また、事故発生場所については特にて注意し見守りを行う。	1.いつもお様り子であった	対象児に普段わっは変わった様子はなかった。	2.対象至対象児を近で見ていた	1階室内でボールし遊戯場ており、放課後児童支援員1名が見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1階には、放課後児童支援員1名にも補助員が見守りをていた。	—	職員に事故の経緯を周知し多くの児童が遊んでいるときの目の届かない場所を再確認した。また、特に室内遊戯場でのボール遊びについては注意して見守るようにするとともに、児童クラブ員にもケガのない	
4003	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21								2	1	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓（ひのぞう）裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	—	マニュアに沿って行動でき、外部研修にも積極的に参加している。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	流水園は、設置当初、自然観察用であったことから、遊び場の利用は想定していなかった。	流水園でことし遊ぶを中止した。	1.集団活動中・見あり守り	—	学校の休み時間などでも、流水園を遊びとして長年遊び場として利用していたこと、今回の事故は想定できなかった。	1.いつもお様り子であった	他の児童や放課後児童支援員と一緒にかくれんぼをした。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児と一緒にかくれんぼをしていたが、岩上から落下する瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	室内で遊ぶ児童の見守りをしていたため、見ていなかった。	—	学校の休み時間などでも、流水園を長年遊び場として利用していたことから、今回の事故は想定できなかった。	
4004	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10								2	2	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	—	事故予防マニュアルの作成	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—			座ったまま飛びつこと。飛び目標がと。つの位置の遠くこと。	うんていをお下にマットを敷いてく。	1.集団活動中・見あり守り	うんていで遊ぶ子ボールを遊びと遊ぶる子を2方向で見守った。	1.いつもお様り子であった	—	2.対象児の近で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	担当支援員が他の子どもに手がかかっている場合は、突発的な事故に対応できるよう他の支援員がカバーするなど支援員間	
4005	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47								6	4	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指亀裂骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	1～2	事故事束約束束が曖昧なってこと。決まり及び事がになったと。	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	ほぼ毎日	1.定期的に実施	毎日	本来、籠てに入れておくべき水筒をロッカーに入れしまいたに、指導員が気付いなかった。	児童一人ひとり目を配り、指導を徹底する。	1.集団活動中・見あり守り	各児童のロッカーの収納状態に目を配れていなかった。	2.不定期に実施	定期的に各児童のロッカーの収納場を観察し、収納状態の悪い児童は整理整頓するように指導する。	1.いつもお様り子であった	児童は帰支度をせて済ませ、保護者が迎えに来る時までの過ごし方を模索している状況でロッカー付近にいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内全体を注視しており、対象児童が事故に事故が発生した時、至急対応たが出来た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他に室内遊びをしている児童がいたため、室内に続き育て当に協力して当た。	日頃の児童への指導が不足していたため、約束事が曖昧なってしまった。	再び同様の事故が発生しないように指導員によるミーティングを行う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4006	令和5年3月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	16								4	2	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	クラブの子供達はサッカー教室にい通っる子が多く、ルールは知っている。場には支援サッカーに詳しくなかった。児童の健康状態を十分把握ていできなかった。（股関節炎の情報）	児童の健康状態について共有できるよう保護者との連携を密にする。更に、支援員も知識を身に着けると共に声掛け、見守りを心がける。	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	利用の都度	2. 不定期に実施	利用の都度	外遊びにする公園のサッカーコートはサイズで芝である為、子供達の高揚感も普段より元気のいいレーるある。	あくまで全を怪にならない安全に、ことを指導する。	連休明けもいつものサッカー遊びが嬉しかったようで、当日のテンションは上がっていた。	1. 集団活動中・見守り	ス取りは一に生なりがいよ安ポーツ組一命にちけるだが、しなとに楽ことを遊ぶを指導する。	1. いつもお様の子であった	最寄りの支援員は、3人でサッカー遊びをするグループを見守っていた。該児はキーパーをした。たまたま支援員の所にボールを他の子が「こっちってと言うので、いう時に蹴った時にスライディングたを見	2. 対象児の近で対象児見ていた	3人でサッカー遊びをするグループを見って守った。足をとめた思われた直後に、足の具合を見たが、痛みや腫れや症状などは見受けられなかった。しばらく当元サッカーを再開め、見守りを継続した。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	公園内でいた他のグループ児童の見守り名、用事で離れた該児は位置に。	この児童は以前に股関節炎があり、医師から運動を止めてた解ですが、しばらくは激しい動きをないよう注意してべった。	「こっちに蹴ってください」と言われたときに、すぐに蹴るのは本当にそっかなどの声掛けが必要であった。見守りの中で、児童が激しい動きをしないよう、注意や声掛けをして、安全にスポーツができるようにしていく。	
4007	令和5年3月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	42								4	2	19. 7歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	低学年なので、遊びたいという気持ちが先に立ち周り判断ができていなかった。	見守りを強化する。児童のルールは守るよう徹底指導をする。	1. 定期的に実施	—	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	ランコでいたの急ブをいで、はこさ	プランコでボーの中にとケガがの入るガが児童に話し、また、具の方を見直す。	1. 集団活動中・見守り	公園が広く、隅々まで目が届きにくい。	支援員の人数を増やし行きようとしたいので、支援員の募集をかけている。	1. いつもお様の子であった	ブランコって乗ると、遊びてのボールを遊びの中に走ってしまった。	4. 対象児見ていた	他の児童ごと鬼ごこにとに対象目した。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の児童の保育のしてした。	近見ても目を離すもあ児童に対応	危険行為にたいしては徹底した指導をしていく。	
4008	令和5年3月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	11								2	1	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	リスクマネジメントの検証不足。	事故防止のためのリスクを見直し職員間で確認する。	1. 定期的に実施	数回	2. 基準配置	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	なし	1. 集団活動中・見守り	走る際の項目について注意事項で確認していなかった	会館以外の場所での活動の際、遊び前に必ず注意事項の確認をする。	3. いつもより活発であった(理由を記載)	一鬼ごっこにな児童全体の様子を見守り、声がけをしたが、他の児童が転倒する場面の声掛けの声は遅れてしまった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	児童全体の様子を見守り、声かけをしていたが、他の児童が転倒する場面での事前の声掛けは遅れしまった。	走ると中に、そしたため、ったこと	こ夢なよを走ったり、そうにをこ気がいかった	児童の行動を注意深くみる目視しながら注意を促すようにする。	
4009	令和5年3月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	40								5	4	18. 6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	入会初日の環境児童の理解の対応が不十分だった。	それぞれの遊具の危険性と正しい遊び方を細かく伝え、危険性はないかなど全体的に全児の危険性は全員職員と確認けをしている。	1. 定期的に実施	4	2. 不定期に実施	12	1. 定期的に実施	4	遊具の点検は問題はないが、遊具で起こり事故の想定認識が甘かった。	安全点検だけく、遊具こり事故にて職員間で再確認っを行った。	3. 個人活動中・見守り	遊びの正しい遊び方・危険性についての説明・声がけが不十分だった。	新入児童に対して、より具体的に安全についての説明を行い細やかな見守りと対応を実施した。新入所に場所に繋ぎ張しい来ている入園児童の心理状況について職員間で話し合い、安全・安心に努めるように連携した	1. いつもお様の子であった	入会初日という分析に基づいて、日に関する内容を当てはめ、入会初日こと項目が分かっ入会初日こと繋ぎ張いとして。	4. 対象児の見なった	サッカーして遊ぶ児童トラブルのをくるトルのをした。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	少し離れたところで縄跳びをして遊び対応をしていた。	緊張している児童に対して新入児童の理解と細やかな状況把握が必要だった。	支援員は定位置からだけで全体を見ていると、児童の様子が細かく把握できないので、歩きまわる時間を持ち児童（特に新入児童）の様子の把握と対応に努めている。	
4010	令和5年3月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	51								4	2	18. 6歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	—	指導員同士で遊ぶ際の点を再確認し、子どもにも注意徹底にをした。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	遊具に問題はありません。学校でも低学年には使わている施設で梯子当もんでいるが、注意ようべくかけ守るすなる声てろ。	1. 集団活動中・見守り	今回は広い範囲で子供たちが遊んでいた。支援員は見ていた。	ランドでのとこ雲梯の遊び、ほとんどたグラ子供たちがグラ出ていた。遊びを守る際は見守りなるべくなく外遊び2名の支援員は近いなか足りないなか足で、努力します。	1. いつもお様の子であった	いつもは上手く雲梯で遊んでいる。またまたまた手がべったと思われます。一瞬のことにいたとしても受けめる難しい	4. 対象児の見なった	当日、グランドに支援員をしました対象児の見えいがのいて接した為気づかなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の支援員も対象児からの訴えも静かに座たのでうち出しかけ	支援員を配置しながら別の場所で子供たちと接していて泣き声も気づかなかった。	遊具の至近距離でなるべく見守るようにした。また、子供達にも事故がおれすぐ知らせるよう話をする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4018	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	61								5		2	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首脱臼骨折（全治2か月～3か月）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	安全に保育体制の工夫や遊びの制限に関する知識が充足していた。また、経験が少ない支援員の事故予防が意識されていたことも考えられる要因と考え	無理のない保育、児童の行動をコントロールするノウハウについて通じて、支援員会で共有する。					本来使用する目的で登り、転落してしまった事が原因。	本来の目的以外で使用することの危険さを話し、禁止する。	1.集団活動中・見守り	室内で4～5名の児童を支援員一人が保育し、室外では55～56名を4名が保育しており、校庭では低い鉄棒付近には支援員がついていなかった。	全体が見渡せる場所に支援員が移動し、行動を注視し、予測しながら支援員同士がお互いを意識し、保育にあたる。	1.いつもどおりの様子であった	学童では南小低学年の児童と鉄棒で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	バスケットゴール一付近で一人の員が見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他3名は、タイヤ飛び付近、朝礼台付近、ジャングルジム近でそれぞれの児童について保育していた。	鉄棒付近に支援員がついておらず、危ない行為をくぎめるときがなかった。禁止行為であり、日頃から注意していたが、なぜ禁止	その日の児童数、児童の体調、支援員の体制により、外遊びを始める前に打合せをして配置場所、制限を明確にして、支援員同士で共有する。	
4019	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50								6		2	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	—	児童の安全を守る仕事として、指導員同志で話し合いをした。	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	ほぼ毎日	1.定期的に実施	毎日	—	遊具の使い方や遊ぶ時のルールを確認する。	1.集団活動中・見守り	見守る指導員の人数に問題は無かったか、死角になる様な箇所は無かったか。	外遊びをする児童に人数に応じて、指導員を適切に配置する。指導員の目に届く範囲で遊ぶよう児童とのルール等作成する。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び時間中、小学校校庭内に設置されている遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びをしている全員が児童を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯から落ちた対象児童に気素早く気づき、駆け付けた。	外遊びにおける指導員の人数の配置や態勢。	外遊びの指導員の態勢や立ち位置や緊急時の指導員の動き方と児童の搬送方法の確認をする。	
4020	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24								8		3	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	外遊びの人員の配置が適切だったか。	館内と外遊びの状況を見て、可能な限り人員の見守りを多くする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	開所の都度	設備そのものに問題はない。	遊具の故障ではないので、定期的に目視チェック施工を実し、年1回の点検の結果を把握する。	1.集団活動中・見守り	遊具で遊ぶのに適した学年や運動の不能力の不足。遊具に対する不慣れ。	普段の観察により、該当の遊具で遊ぶ際に、児童の学年や運動能力を把握し、まだ無理だと思ったと思き声をかけて事故を未然に防ぐ。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象至対象児の近で象見た	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	外遊びの際の見守位置。	全体を見渡せる位置をとり、遊具での遊びの際、危険な兆候がないかどうかを観察する。	
4021	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25								5		4	19.7歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの						来所途中の事故。																						来所途中の事故。	
4022	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21								2		1	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	マニュアル修正の研修だけでなく実施研修が必要	定期的に実施地研修を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	児童が足を引っかけた遊具を引っかけた配置が悪かった。(据え置きタイプ)	遊具の配置を変更し、移動させた。	1.集団活動中・見守り	予測される行動の行動分析を行い見守り支援を行う。	予想される児童の行動分析を行う。	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	自分が転こんなどしたりや職員に報告し、テンションが高かった。	2.対象至対象児の近で象見た	すぐそばいたが、児童が早くすの走ったので注意すると聞もなかった。本児は大阪への転校が決まってお落ち着かない状況だった。母から聞く	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園舎に居る児童を見ていた。	転校のため精神的に落ち着けなかった。	転校のため精神的に落ち着けなかった。	
4023	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	84								9		4	20.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	—	職員会議での見守りポイントと周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	1.集団活動中・見守り	—	見守り方再確認	1.いつもどおりの様子であった	校庭の雲梯で遊ぶ最中に発生した。	1.対象児とマンマンの状態（対象児にした）	マンマンで付いて添っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一瞬の出来事で、落下し、手を瞬間は未確認であった。	—	遊び中の怪我であるが、状況をよく確認し、他の部位にもけががないか確認して応急措置をするよう職員間	
4024	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36								5		2	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	危険があるという欠測に欠けていた	職員体制を整え、危険予測を行う。事故発生時の対応方法を再確認する。	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	安全点検以外に遊具前に点検する	タイヤを一定期間禁止使用禁止にした	1.集団活動中・見守り	自分でも予測を予測し、ルールは守る。	危険な危険ある体験を予測し、色々なことを予測して、何度も伝える	1.いつもどおりの様子であった	普段からイヤのところでいタイヤと遊んでいた	2.対象児から離れたところで対象児を見ていた	危険があることの声かけはしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ほかの児童を見ていた	子ども遊び場に必ず複数の指導員を配置すること	天候によっては滑りやすいなど、遊具の危険性が日々変わることを指導員ミーティングで確認し、日々意識す	
4025	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	57								5		5	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひび（亀裂骨折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	ボールの取り方についての必要説明があった。	キャッチボールで怪我が起こらないよう注意喚起をする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	リスクに基づいて、安全点検を全点徹底する。	1.集団活動中・見守り	—	児童を体力の支援の不足や制限の援配置の検討、見守りを改善していく。	1.いつもどおりの様子であった	キャッチボールをしていたケガ手とやボールは使わず、相手ンラブルなく、通常通りの投起ボールを投げ合ったことがあった。	2.対象至対象児の近で象見た	児童同士でキャッチボールをしている様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の様子に入れながらも、それぞれの位置で、遊びを見守っていた。	—	遊ばせる環境の中で、適切な支援員の配置を行うことも大事だが、どの位置に配置するか予測と検証を繰り返し行うこととする。	
4026	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	56								5		3	20.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨頭部骨折	3.子ども同士突衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故に防ぐため、支援員（補助員）全員、毎日事故に防ぐため、支援員（補助員）全員、毎日の清掃後、全体ミーティング等で再確認	支援員（補助員）全員、今一度室内遊びのルールを話し合った	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	2.定期的に実施	12	連休明けで、全体的に児童が興奮した様子があった思われる	児童全員で、児童室内遊びのルールを話し合った	1.集団活動中・見守り	児童は遊中に夢ってびびになっていた	狭い室内を遊ぶ児童で事故が起こりやすいため、見守りを強化する	1.いつもどおりの様子であった	本児は、走りまわっていた男人の子7～8中に、一緒に遊んでいた	2.対象至対象児の近で象見た	支援員（補助員）全員、走らないよう声をかけていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	連休明けの興奮した様子、送迎時間の重なり	送迎の時間が重なり、児童を見ていた	今後も、走り回る児童へ、ふざけている児童への声かけを強化し、危機管理を徹底する	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4027	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6									2	2	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	常に職員に事故予防するために繰返し研修の参加やマニュアルを確認させる必要がある。	3.未実施	—	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	遊具自体等はなくウレタン製のブロックで遊び方のルールに破損等ウレタン製のブロックで遊び方に起因している。	ウレタンブロックを飛び出す際に大きいように隙間なら支援員が事前指導する必要があるので、危険予知トレーニングで実践よりできるようにする。	1.集団活動中・守り	—	ハード面の同様に、遊び中で転倒等の予測ができる支援員が指導する必要がある。	1.いつもお子様でのお子様であった	特に目立った動きはなかった。	2.対象至近で対象児を見ていた	近くにいたがウレタンブロックの間が広いブロックの認識はなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びを見ていたので、対象児は見ていなかった。	—	当時、遊戯室にいる児童が少なくなっていたので、複数の遊びを展開していた。支援員がもうかしこ注意ができるよう、指導する必要がある。	
4028	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48									7	3	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等の落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	・支援員が1名しかいない中で1部の児童の対応なく、無理なく渡るように声掛けが出来なかった。・うんていの両端に支援員を配置すべきであった。	うんていの両端に支援員を配置する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・守り	順番を守ってうんていを渡るが前の児童との間隔をあけるように声掛けをした。	うんていの渡り方のルールを決めて、児童同士の接触を防ぐ	1.いつもお子様であった	いつも通りの様子で外遊びからうんていで遊ぶことを楽しみにしていた。	2.対象至近で対象児を見ていた	うんていのはじめに支援員が立って並んでいるが、でいても掛けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ遊びの見ており、うんていを見る支援員はいなかった。	1年生は学校の遠足に行って疲れている様子だったため、遊び時間を短縮したが外遊びの遊戯類も限定すべきだった。	・体調や学校行事に合わせて遊び類を限定する。・うんていの両端に支援員を配置する。	
4029	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46									6	5	22.10歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎歯肉部裂傷、前歯脱臼、上下唇顔面上部打撲、開閉障害	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故が発生しているので、今より注意喚起や一層の見守りに努めていく	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	3.未実施	—	今回の事故については、遊具のそばで不適切な遊び方をしていた児童が重なり、事故が発生したものと思われる。	遊具の点検等は学校で行っているが、使用する前に必ず保育所から学園に報告・相談等連携を取っていく。	3.個人活動中・守り	—	児童の様子をよく見て、注意喚起や守り等を適切に行っていく。	1.いつもお子様であった	同じ建物にあるひとつの学童保育所の児童も同時に外遊びを始め、大勢で各々遊んでいた。当該の児童も、周囲の児童も、保育所でのルールの範囲でおお遊んでおり、事故発生前に注意すべき言動はなかった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	職員は当該児童の集団を見守り、適切な育成支援を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は同じ校舎にいて児童を見守りながら、当該児童の様子も目に入れていたが、事故をとめることができなかった。	児童は大トルこ特になブルを起こしたり、職員から注意を受けることなく、他の児童と楽しくでいたが、遊び夢なりの中で、元に注意を払う危機意識が少な	適正な見守りをしていてもわずかな隙に事故が発生してしまうので、今後はより一層の注意喚起や見守りに努めていく	
4030	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29									4	2	20.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア骨折(左)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	児童の動線を意識した見守りを心がける。	2.不定期に実施	—					—	児童が登ることが来る場出所がよう管理する。	3.個人活動中・守り	—	—	1.いつもお様であった	—	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体の児童を見守る必要があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学習の準備を必要があった。	—	学習の準備中であったが、児童の発達や特性に応じた見守りが必要。	
4031	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25									6	3	22.10歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	マニュアルの再確認、周知、合同保育時の児童数・職員の配置・1日の流れなどを指導員全員で確認をし、シミュレーションをおこな	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度	—	校庭の地面のすべりやすさなどを確認する。集団遊び など、職員の配置バランスの見直しを行う。	1.集団活動中・守り	—	集団活動中の見守り強化。集団遊びの際は特の複数の職員を指導して配置して見守る。	1.いつもお様であった	1.いつもお様であった	登所のころから通常通り、特に支援を要する児童ではない。	2.対象至近で対象児を見ていた	ボール鬼をしていた児童のそばでみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児童の外遊び様子を見守っていたので、見ていなかった。	—	外遊び時は特に集団を複数の支援員で見守るようにする。複数の子どもたちが一斉に校庭に出るので、集団遊びをする場所も考え、ケガがないように配慮する。	
4032	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	119									3	2	20.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	腸間膜血腫・顎、膝の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	体育室は職員2名配置だったが、事故時は職員1名は器具庫で児童対応した。	会館で今回の件を現場で確認し、常時体育室の活動の見守りは2名配置とする事を再度確認した。（器具庫でのはしない）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	一輪車を乗れる児童が増えたため、体育室で台乗車多の数が かった。	時間を3分割に分け、職員が十分に見守れるよう台数変更した。(15台→8～10台)	1.集団活動中・守り	学校が早終わったため、当該児童の気持ちは高揚していた。	安全に過ごせるよう職員が声ごう都度かけていく。	3.いつもより発活で活動的であった(理由を記載)	当該児童が得意な一輪車で活動であり、運動能力も長けているため、動きが活動的だった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	補助員1名は広く見守り、もう1人の補助員は一輪車の調整などで器具庫内にいるようにタイミングだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員11名は各児童の対応をしていた。	遊びを見守る際には、その学年やその児童の特性を十分に配慮する。	突発的な怪我や事故が起きる可能性があることを十分に認識したうえで、児童への声かけ等を行う。	
4033	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40									5	1	22.10歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	事故予防マニュアル作成、研修を行う。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	—	今回の事故と直接的な関係はない	3.個人活動中・守り	—	事前に児童を集め、準備体操を行う。	1.いつもお様であった	普段と変わらず、元気にサッカーをしていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	見守っていた支援員がすぐ駆けつけ、対応にあたった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の見守りをしていた。	サッカーの技（トラップ）が難易度が高	見守りだけでなく、危険なプレーの時に声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面						環境面				人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4034	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	58									16	8	20.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	患部を冷やして見るのつ反が(甲だったと子を手の方対下)ことき逆向きに体重がかかってしまったよが怪我がかったと思いりどかった	子ども達に階段は慎て上り下りするとや、友達と話しながらや遊びながら歩くのは危ないことを伝える。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	内側には手すりがついていますが壁側手すりがついないので検討していく。	階段にじゅうたんが貼られているため、大勢が上りしてのり滑り止め滑り止めを検討していく。	3.個人活動中・守り	建物の面積に比べ児童数が多い為、移動には並んで動くなどで屋内に行き着いてきた児童に期待し、意識させていく。	階段の上り下りは慎重にすることを底しく。	1.いつもどおり様子であった	終業式でいつもより開放感があった。友達と話したり、友だちがたった斜めに傾いた状態で上っていた。	2.対象至対象児の近で見た	1階ホール、階段、トイレの辺りを走ったり、危険な動きをしかねない状況の見ている職員が気づく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当場所の部分の児童ブの達を応。階段からは1階の遊戯室、図書室および2階の集会室は角になっており見にくい。	複数の職員で怪我の状態を確認するようにしているが、あぶ等がかったため安易に判断してしまったのは良くなかった。	今後は、こまめに注意深く患部の観察を行うようにつけていく。	
4035	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37									3	1	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯冠破折	3.子ども同士衝突などのにもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	途中から参加人数が増えたこと、参加者が年でこどもの子が高あってこの動きがが大きくなったことでやすくこと突しいあった。	今後は職員の立ち位置や子どもの予想や思すから注意点すべき点や危険察知を意識し、対応する心掛け。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子ども達も増えたことや、子どもの動きが大きくなったことで、スペースが狭くなったことや、衝突しやすい環境となった。	1.集団活動中・守り	途中で人数も増えて、子どもの動きが大きくなったことで、スペースが狭くなったことや、衝突しやすい環境となった。	人数の考え方、子どもの動きから予測し、人数に限られたときは、人数の制限をしてスペースを広くして善を図る。	1.いつもどおり様子であった	ドッジボールが好きで、積極的にボールを取ろうと周りを見ていない。	2.対象至対象児の近で見た	ボールが方の児の向かったことで、受けだ容易と考えて取れろう易え、傍でっていただけで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	内人数は多い感じがしたが、ボールに外れていて当野一方の衝突が起こらないと判断しまった。	参加児童が中途から増えたことで、高学年増えることで動力の合が大きくなったことが大きくこと要因なっ	児童の参加人数が増えたところで、一旦遊びを止め、人数の制限や職員の体制を増加してぐ事故を防ぐようにする。	
4036	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6									2	1	22.10歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	児童が支援員の声掛けを聞かない状態だった。	危険であるから注意していることを、担当者が利用児童に話をし、保護者に啓発のお便りを利用家庭に配布した。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施	1	施設や遊具関係の事故ではない。	—	1.集団活動中・守り	—	—	3.いつもより発で動的であった(理由を記載)	友達が少なく、活発なり、動きが多くなく間帯だった。	2.対象至対象児の近で見た	おんぶはないこと、近くで危ないと危なくくで3回注意をしていたが、対象児はやめなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2人で声かけていた。	—	—	
4037	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	151									14	9	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	日中学校から利用する児童に小学校のグランドを遊び場所として、遊具でも慣れることで危険性を意識していたが、つい目を離してしまったことに危険性を意識していなかった。台、ランドの滑り台、雲梯ではつい前方に見守りは配置しているが危険と考えていなかった。	グランドの遊び方、遊具の使い方について、危険性について危険の検討を行う。年齢(学年)に応じ遊び方の危険度を共有する。基にマニュアル化、ルール化を行う。	2.不定期に実施	数回	2.不定期に実施	数回	2.不定期に実施	数回	小学校に設置してある遊具については特に検査は全行っていなかった。冬期間は使用禁止により、新学期校でのルール説明があり、使用ルールについた。ランドセルを背負ってブランコ立ちしないこと等学校ルールに従った。	今回の事故について小学校に情報を共有した。危険な遊び方や使用ルールについて再確認を行った。	1.集団活動中・守り	遊具で遊ぶ際の危険性を解説していなかった。	それぞれ遊具遊び方などについて危険性を分析し、職員全員が意識的に見守りを強化をする。	1.いつもどおり様子であった	普段から遊ぶことが、得意にしてのでは、1段飛ばしで移動しているが、雲梯ぶつかり、遊びとなったときにも特に禁止をしなかった。	3.対象児の動きを見ていた	グランドには職員が4人配置されていた、遊具付近1人、他は1人で、職員はいて、職員はたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当場所のグランドにおいて、サッカーなどの遊び方や、グラウンドの砂端遊びでは、児童がそれぞれ、見守り1人が全体を見ていた。	職員クランド体で全4人配置され、遊付近には1守に人を見を行っていた事故前にブランコに近くて、雲梯かれていたため、ぐ出ないと来なかった。1段飛ば	遊び方には十分観察が必要で危険性について、職員全員が同じ意識できるようヒヤリハットの報告を徹底する。	
4038	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	75									9	4	21.9歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の指のひび	5.他児から危加害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	クラブ室へ続く階段部分(今回の扉含む)は、職員が配置できなかった。現状の人数では、職員をはるのずかしい。	クラブ室へ続く階段部分(今回の扉含む)は、支援員の目が届きき危険が伴うことを児童に伝え、引き注意喚起を行う。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	—	1.定期的に実施	24	扉が重くて小さな隙間があったこと。	児童は扉を開けて、下の隙間にやわらかいスポンジをつけるお。	7.その他	クラブ室へ続く階段部分(今回の扉含む)は、職員が目が届きにくいため、扉をおず、目が行き届かなかった。	クラブ室へ続く階段部分(今回の扉含む)は、職員が目が届きにくいため、扉を開けるとき、引き注意を行う。	1.いつもどおり様子であった	扉を開け閉る時の距離が近すぎてしまった。また、他児童が扉を開けに扉をしまった。	4.対象動児の見ていなかった	階段でのことだったので事故はたの員は発生後にか確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	階段でのことだったので職員は事故後にの発生かかった。	他児が開いたドアに当該児童の足巻きまれてしまった。	クラブ室へ続く階段部分(今回の扉含む)は、支援員のきらず危険ことが伴うことを児童らに伝え、引き続き注意喚起を行う。	
4039	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58									7	4	18.6歳	1.男児	骨形成不全症の頃から大学病院で継続治療を行っていた。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	下顎骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	—	骨形成不全症のある子どもの、担当者の程度運動に供させて良保護者と相談方向性を確認する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	—	1.集団活動中・守り	—	—	1.いつもどおり様子であった	いつも遊んでいる子が気に入りの運動で、特にこわがりをさはなかった。	3.対象児の見ていた	全体の安全を見守っていた。当該児童については、既往症の骨形成不全があるので特に注意して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	基本的に一か所一名で見守を行う。他の別所で職員は場所の見守を行っていた。	—	運動するときには子供に注意喚起の声掛けをしていかなければならない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制													発生状況	事故の転帰						ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							発生時状況	死因	傷状況	傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】											具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4040	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	92								9	3	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置	—	児童の見守りと事故防止の児童への注意意する	1.定期的に実施	44	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	44	—	安全点検に努め危険個所を見し、修繕を行っていく	3.個人活動中・見守り	—	職員による児童守りと、事故防止のための大型遊具の遊び方を児童に徹底した。	1.いつもお様子であった	庭にある大型遊具で遊んだり、円状のとこころから降りようと手をして滑り台を滑せ、体をかばおうとして右肘を地面に打ちつけ、肘の骨骨折をした	2.対象児を見ていた	庭で見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館ホールやクラブでの児童守りで他の児童を見ていたかった。。庭にいた職員も児童守りをしていたため事故を目撃できなかった	—	突然の危ない行動による事故を防止するため日頃からの注意を徹底する。	
4041	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25								3	1	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	職員の研修を半期ごに１回ずつ増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	担当のリスク職員のならず、その他も安全を実施し、意識を高めるようにする。	3.個人活動中・見守り	—	子供の遊びの状況、特に外で児童遊ぶ場合は、職員の立ちなど配慮する。	1.いつもお様子であった	鬼ごっこしていて、逃げることに鬼をして、こ夢中でジャンプした際、バランスを崩して手をついた。	4.対象者見ていなかった	2名の職員がもを子ども見守っていたが、それぞれ児童他に話した。数名が児童がこの鬼ごっこをしていることを把握していたが、当該児童の見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にお名は連絡帳等の記名、１名は室内で遊んでいる児童を見守っていた。	—	子供の遊びの状況や室内室外で遊ぶ子どもの人数のバランス等を見て、職員の内外の配置を配慮する。	
4042	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	88								5	4	19.7歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	夏休みが始まり、気分が高ていた。	子どもの注意意行動を注見深くく必要がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	数回	1.定期的に実施	数回	玄関前の遊びのスペースは人工芝をはって間もない。人工芝の状態が雨水を流す鉄のグレーチングがあった。	人工芝の状態を確認すと。縄跳びの検討。	1.集団活動中・見守り	一列に並び順番で飛んでいたが、当該児童は列に並べない一人ら抜けた状態でいた。他の児童が飛んでいる時に一緒に入ったりもしていた。	大縄を飛ぶ縄を上順に飛ぶ、しっかり番よく指導するべきだった。	3.いつもより活発で活動的であったを記載	夏休みが始まった、大縄が飛べる喜びで気持ちが高揚したと考えられる	2.対象児を見ていた	縄を回していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童見守りをしていたため、見ていなかった。	職員がすべてを周りを注意深く見守ることができていなかった。	職員が縄を回すと周りを見れなくなってしまうので、回す職員と見守る職員が必要だった。	
4043	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	62								11	7	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小児上腕骨外顆骨折（右肘）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	２スペース２人スタッフが見守りをするスタッフの体制を見直す	上記の内容を１スペース１人ずつとい人ずつという体制とする	1.定期的に実施	8	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	50	—	遊具等ハード面事による故ではない。	1.集団活動中・見守り	—	各スペースにスタッフが１人ずつを見守り行う体制に強化する。	1.いつもお様子であった	体のバランスが悪い傾向がある	3.対象児から離れたところ対象児で見ていた	ホールに隣接した部屋と間を来しながら保育中	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当ポジションにて保育中	—	—	
4044	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	81								7	6	20.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	誕生日会あり、対応おやつおやおやの対応、2階畳の格子が外れその対応をする支援員などで、にいた員は2名だった。	外を見る数を増やす。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	うんは高あるるとなりすい。	3.個人活動中・見守り	うんていに近く支援員はいかった。	うんていの遊びの近くできるだけ支援員がいるようにする。	1.いつもお様子であった	誕生会でバブのプラン作り家組んで、一緒に遊んだ。	4.対象者見ていなかった	全体で特に児だけ見ていたので全体を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特に対象児だけ見ていること、全体を見ること、室内で他児の対応をしていた。	児はうんがるとなって、本ういきるなっき少しいに挑戦し、２飛をうとして落ちて	出来るようになってたとき故が起きすい。子どもたちのもたい気持ちを尊重しつつ、注意喚起を行う。	ときに事どのや持ちし、難ばしと
4045	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	20								3	2	19.7歳	2.女児	—	6.水遊び・プール活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷（全治２か月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	—	事故予防マニュアルを作成する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12			1.集団活動中・見守り	更衣室の床が濡れており、滑倒に歩かなければけがをする恐れがあっ	更衣室の滑り止めマットを敷き、事故が起こりにくい環境をつくる	3.いつもより発で的活動であったを記載)	テンションが上っている様子で、更衣室を出たり入ったりしていた	4.対象者見ていなかった	着替を終えて外へ出ようとした時、児童が入ったのは気付いたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。他の児童からの呼び事態を把握する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外で水泳中の指導中だった	—	更衣室内外の様子を把握できるよう、人員の増員を検討する	
4046	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	13								4	1	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	子どもたちの見守りをしながら、子どもたちの出欠の況の確認を行っていた。事故発生場所は死角となっていた。	危機管理意識を高め、死角がない状態ものりを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	階段や建築時に備え付けの棚があり、子どもたちの場となることがある。	施設内の場危険所を徹底する。	1.集団活動中・見守り	児童がやりたいと思うことが遊びになることはありやっていないことを理解できていないところがあった。	子どもたちの怪我や事故にならない行為を止める指導する。	1.いつもお様子であった	遊びの一環として棚の上に登ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	プレイルームで遊ぶ児童全守り見届と来子ども受けるもの入れていた。児童が棚の上に登ることは気づいていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員４名が勤務。図書室に１名、体育室に１名、対事務室に１名がいた。	児童の状況を考慮し、職員を配置する。	会館での遊び方、ルールなどを職員及び利用者の両方に徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面								ハード面								環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4047	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	60								4	1	22.10歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右親指の関節の捻挫	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	子どもたちの見守りしたが、ちのはいた怪我に発展する状況を見極めることができかった。	危機管理の意識を高め、子どもたちが激しくなったら、子たちがしくてきたどもの要望がありてもあっても止めさせる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	発ぶ遊び遊具、子どもたちが自由な遊びであり、自分で考えたルールで遊んでいた。	遊具を使用しての遊びに発展し想定しない怪我や事故が起こる場合の対処方法等を検討する。	1.集団活動中・見守り	遊んでいる状況の中から、怪我や事故に繋がるような遊びがないかを見極める。	子供たちの自由な発想を尊重して受け入れるのではなく、危険にならないかを考慮し児童の指導を行う。	1.いつお様子もり子ども	数名で遊ぶ遊び、今回のゲームに発展した。	3.対象児童が離れたところで対象児を見ていた。	プレイルームで遊ぶ児童が見守りしていた。対象児童がマットで遊ぶことは把握したが、怪我につながるような行動までは把握できかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	職員4名が勤務。体育室、図書室に各1名、プレイルーム2名応じ、1名は退館する児童対応をしていた。	学年や子どもの特性を十分に考慮し、対応を配置する。	会館での遊び方、ルールなどを職員及び利用者の両方に徹底する。	
4048	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30								3	2	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数回	1.基準以上配置	竹馬のとき、裸足が乗っていることで竹馬を許すこと。	裸足の場合、ケガする危険性が高いと認識したため、その危険性の共通認識をとる。また、他によ事象しないか、確認をする。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	数回	2.不定期に実施	数回	—	ハード面における問題はない	1.集団活動中・見守り	裸足で竹馬をしていたため。	竹馬のときは、履くすき靴をはく	1.いつお様子もり子ども	複数人でお遊び、勢になる様子はなかった	2.対象至児の近で対象児見た	竹馬をしている状況を把握していた。竹馬転倒が、様子はなかったので骨折にかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	竹馬のスタッフ対応は、1人でしていた。他2名のスタッフは児童室内の対応をした。	転倒しが、本人らかえくガこかった。その、保護者にも伝えることが出来なかった。	転倒後、ケガをしていないか確認する。帰りの会などで今日の様子を確認するようにする。	
4049	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34								4	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	外遊びの時間帯で、遊びとの担当支援員がしていた。複数の遊びをする工夫や保育の制限に関した知識を深めなければならない。	支援員の体制に応じて、遊単位びが明らかに多く、目が行きない場合の無理のない保育、児童の行動に制限をかけない保育のノウハウについて実践を通じて、支援員会で共有する。	1.定期的に実施								1.集団活動中・見守り	梅雨の時期、雨のあがりのあがりグランドでは砂が状態の浮いた場所があった。	雨の日が多く、なかなか外で遊べないことが続いたので、雨上がりの中に出たが、グランドの状況の確認をして、安全を確かめるようにする。	1.いつお様子もり子ども	普段通りの様子だった。	4.対象児の動きを見ていかった。	校庭南側のサッカーゴール近でどが8名の児童がサッカーで遊んでいた。	2.当者・対象児の動きを見なかった	支援員4名内、1名は体育館と北学童間取りて児童を見ていた。1名は校庭の側に置場で児童を見ていた。他、ジドッボール、野バスケットボール、球、ストサッカーをしている児童が少し離れたところ庭野で少し中央で球（キャッチボール）をしている児童バスケットボールを練習している児童を見ていた。	遊びの単位ごとに1年生がいる遊び支援員には引き続き、児童全体へ話をする。	
4050	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23								3	1	22.10歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		1	2.基準配置	—	研修で学んだことをパート・アルバイト支援員にも伝える。	1.定期的に実施		1	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	—	壁に衝撃吸収材をつけ検素りよう討する。	1.集団活動中・見守り	—	1人の児童が広場に気ていたため、幅守を持ることを見野っ心掛ける。室内では外と壁が違いたあるため、外と勢いが同じ走ると衝突の可能性が高いこどもに話し、都度声掛けをしている。	1.いつお様子もり子ども	新しい遊びでテンションが高くなった。もとの辺で躍くくあり、少しおっとしょっちょいこいろがある。	4.対象児の動きを見ていかった。	他児がふざけてを注意したところ、児童が衝突してしまった。当該児童が壁に頭をぶつけていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	別の部屋の児童の見守りをしていた。	—	1人の児童を注意しているときは一度遊びを止めさせる。	
4051	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40								5	3	21.9歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	ケガの危険性がある遊びを目撃したので、日常に注意しているが、今後はさらに、児童にも、対策として日頃から事故発生防止の意識付けをおこなっく。	2.不定期に実施		1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	—	—	3.個人活動中・見守り	—	—	1.いつお様子もり子ども	大型ブロックを使った遊びは、対象児が日常的に遊んでいた。	2.対象至対を児の近で対象児見た	ブロック製作しているため、ブロックで作った車にって乗ったり、転倒すると転倒それを喚起のおあと注意声をかけた。転倒時に手にはしたのにさいても間に合わ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児を含む複数が屋で同じ部屋のなかで、ブロックや玩具を遊んでいた全守いたので、児童の体をした。	—	—	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4052	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17								2	2	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の粉砕骨折および脱臼	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	年齢に応じた声かけや見守り援助の位置、方法について配慮する。	配置基準に合わせた人員をした配置ていくため、特になし。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	24	—	遊ぶ前に不具合や危険箇所が確認を行う。	1.集団活動中・守り	見あ	—	遊具での遊び方を改めて知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象至児の近で見てた	他も含め遊ぶ様子を見守っていた。	2.担当者・象児動きなかった	他の遊びをしていたおりを守った。	児童が様子遊ぶ遊ぶ子をみたが、対象児が遊具つかとし際まかとがずにち落ちまい、さっうつこできにてい、と	できるだけ近くにいて見守り、適宜遊び方について声かけや援助ができるようにする。	
4053	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41								5	3	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	—	今回の児童は危険な遊びをしていたわけでなく、棒を掴ねた振れ落ちた際の場所が悪かったことから、起事遊具因した故ではない、遊具のに関わらず事故回しとる	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	—	2.定期的に実施	—	—	児童会で使用具いて用前に点検する	1.集団活動中・守り	見あ	—	支援員は目のり、見守りあったあも考え後続き児童あっき	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった。	3.対象児童児童と児童児童と児童児童児童

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4059	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24									3	2	20.8歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	今回の事故は、放課後児童クラブ到下校途中に起こったものであり、職員の見守りかつのはなかった。毎月集団下校の際学校まで迎えに行き、入所児童に対しどのように気を付けるのかの指導を行っている。重いランドセルを背負い坂道の下校～登所なので、改めて走らない等指導を行った。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	—	今回は、施設路上で転倒したことが原因であり、施設道路の問題はなかった。今後も施設設備の点検を行い、安全な利用できるように努める。	7.その他	—	利用児童が毎日通る通路での事故のため、事故直後に児童が入所するまでの間、同じような怪我をしないよう下校～登校までの間、具体的にどのように気を付けて来るのかを指導を行った。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	放課後児童クラブに到着した際には、ひざが擦れたり、転んだ際にひじを地面に打ったりしたとおひじの痛みがあるようだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	放課後児童クラブへ登所途中に起こった事故のため、事故発生時、職員の見守りがない状態だった。登所後、傷の手当等応急処置をし、保護者迎えの際に、経過の説明を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	小学校から放課後児童クラブへ登所途中に起こった事故であり、職員の見守り状態だった。職員間で事故について情報共有し、対象児への支援等行った。	—	登所前の事故であり、普段、支援員の管理の行き届かない箇所が、集団下校の際に支援員が児童を迎えに行く機会などを利用して、事故箇所について児童への注意喚起を行っていく。	
4060	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35									7	4	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩骨折	3.子どもどもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回	1.基準以上配置	事故発生日は、クラブ保護者会の事当日、職員が児童懇談会を行っていた。準備等のため、職員が流動的であった。	児童の様子についい情報共有を行い、さらなる職員連携を強める。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	—	床に肩を打ちつけ、床カーペットを敷いており、対策はできている。	1.集団活動中・見守りあり	静的活動の場所にも関わらず、騒がしい状況であったこと。	静的活動の場所であることを周知徹底する。	1.いつどおりの様子であった	静的活動の場所であることを周知徹底する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	図書室の中心に配置し、全体を見渡しながら対象児童のことも見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	職員部屋に配置していたため、事故が起きた時には、対象児の動きは見ていなかった。	職員は、対象者がれにいった時、事故が発生することを予測できかった。第三者がでしまったとは、しなっ押しまいえ、しなっ騒がくく時に	職員は部屋の一部だけでなく、今まで以上に部屋全体の状況を把握するよう努める。	
4061	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	68									5	2	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	遊びに夢中になり、状況の判断が足りなかったこと	毎日の児童の見守りを通じ、それぞれの遊びの危険とについて事故防止にて支援していく。集団全体指導を行っていくべき	2.不定期に実施	3～4	1.定期的に実施	1～2	2.不定期に実施	—	—	日常的な点検活動を繰り返し、合点が発生した場合は、担当職員と連携し、役課を取り早期な改善を図ることとする。	1.集団活動中・守りあり	—	危険なことには児童に知らせ、児童自らが事故を未然に防ぐための判断力を培っていく。	1.いつもどおりの子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	マンツーマンでは支援が見ていない外マンマンでは支援員が見守った。屋外で見守っていた支援員は3人。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で活動している児童を見守ったり、障がいのあるへ児童として対応していた。	—	屋外で活動する児童数を時間帯で制限するなど、配慮された支援員の目が児童一人ひとりに届くよう工夫を行っていく。	
4062	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	4.昼食時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9									7	7	23.11歳	1.男児	1種1級障害者手帳認定あり。歩行・起立・座位不能。通常はミキサー食を摂取しており、嚥下はスムーズではない。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	1.意識不明	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	誤嚥	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	クラブは、特別支援学校小学部を本児童を対象としたのクラブである。	医療ケアが必要な児童について、成長にとも体調の変化があるため、看護師をとし中心ミーティングを行った。また、緊急時をとっした時を想定訓練を行うことが必要。	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	1.定期的に実施	開所時は毎日	—	緊急時になるAED医療機器や器具について、看護師を中心に保管場所の確認と点検を継続する。	6.食事(おやつ)中	保護者からの食事の介助の要望により、児童を仰臥位で食べさせたが、調嚥をしやすい姿勢であった。また、時間をかけても、保持弁当を少なくする、看護者の参加でも食べようとしていた	保護者と協議の上、食事方助の変更を決定した。食事の時間を1時間とし、児童が食べられるだけ食べさせる。	2.いつもより元気なかった(理由記載)	食事の一日目から咳込みがあり、通常時よ嚥液の少通常時は戻りないに感じた。	1.対象マンツーマンの状態(対象児にしてした)	1対1での食事介助。ペースト状の食事弁当を食べさせた。食べ方に判断した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一斉に食事をする時間であり、他の職員はそれぞれ他の食事児の介助をしていた。	事故発生前日の日（8月7日）、医療機関で緊急の伝達訓練を行った。本児は痰が出やすい状態であると保護者へ注意があったが、その情報は児童クラブへ伝達	医療措置が必要になる可能性がある場合は、看護師による食事介助を徹底する。	
4063	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40									3	1	19.7歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折、眼窩壁の骨折	3.子どもどもの衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	—	室内での方導過ごし指導	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	外遊びの都度	2.不定期に実施	1	—	危険性を想定し支援員間で共有	3.個人活動中・守りあり	—	危険性を想定し声掛けしていく	1.いつどおりもり子であった	迎え時、保護者にかけよるお	2.対象児で対近で象児見てた	保護者の児で児ぶ近く童を呼ぶ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離で	全体を見各児童の子と関つで児童様子わる	—	支援員同士ですぐに声を掛けられ、見守りがしっかりできる環境を作る。	
4064	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	21									2	1	20.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指剥離骨折	3.子どもどもの衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	プロレスごっこになるじゃれいの状況ですぐに止めるよう支援を行う。	2.不定期に実施						—	支援室内では安全過ごよう支援にる切を行う。	1.集団活動中・守りあり	—	支援員体正であり、改善策は特段の改ない。	1.いつどおりもり子であった	活発的で落ち着きがないたづら、いも多く、されることも注意する多い。	4.対象動見ていなかった	支援員室内で他の様児童子見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランウンドにて児童守りて他のの見守りを行った。	—	プロレスごっこになるる前のじゃれあいの状況ですぐに止められるように、また支援室内では安全に過ごせるよ	
4065	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	77									9	6	18.6歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の動揺	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	登館中に児童がをした場合の対応について、職員間で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	通学路に段差やでこがあって、児童が転ぶことが多いと学校に情報提供する。	7.その他	—	学校からの登館も、走っふざりたりないようにに声がする。	1.いつどおりもり子であった	—	4.対象動見ていなかった	児童館で受け入れ先準備や先した児童への対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館で受け入れ先準備に登館への対応。	—	職員間での情報共有を密にし、すぐに怪我に対応できるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4066	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	80									6	2	20.8歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	—	地域の危険箇所の見回り、確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	通学路および帰宅経路の安全確認をする必要がある。	定期的に見回りを行い、危険な要因がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りり	7.その他	1人帰り時に安全に気をつけるよう声かけを毎日行う。	1人帰り時に気をつけるよう声かけを毎日行う。	1.いつもどおりの様子であった	週1回の来館で、来館してすぐ退館時間となった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた。	退館時に敷地内を出るところまで見送りを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館内にいる児童の対応をしていた。	退館する児童に対し、気を付け帰るよう声	退館する児童に対する声かけを徹底する。	
4067	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41									5	2	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	—	—	1.集団活動中・見守りり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	昼食後は雨の為室内で過ごし、おやつを食べると、雨がふがあがり気に外遊びに行く。	2.対象児の近で対象児を見た	対象児と数十名でドッジボールを行う。支援員2名配置。ドッジボールの中に一名、近く	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児と同じチームにいたが、動きは見ていなかった。	—	—	
4068	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33									5	3	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	対象児は特に激しい遊びをしているのではなく、こどもたちが滑って骨折する可能性・危機管理・事故防止を想定できていなかった。	子どもたちへもフロア事故・骨折の可能性があるみんなの靴下でフロアが磨かれやすくなる説明事事をしたので滑ってすく事をしたので、フロアを滑かす遊びをする時は靴下を脱ぐルールを周知。また新しくなったらその都度早急にクスをかけることにした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	子どもたちの靴下が床面がかなりやって磨滑りなった。	故後早ワックを塗急にクスを直した。その後も不定期に添付。	1.集団活動中・見守りり	全体を見守りを支援していたため、当該児童の事故発生目撃の生目撃した支援員がいなかった。	風船遊びは室面のしないこととした。	1.いつもどおりの様子であった	仲良い友達が降所し、自身もっと迎認しており、いつもの時間はしっかりしっかり遊ぶよう時間ことをとる多くの日もそうだった。	4.対象動見ていなかった	事故発生時は見れていなかったが、事故前は全体1人として対象児の動きを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りを支援をし、事故発生時の児は見ていなかった。	また事故発生時、他児童に話しかけられ、たまたま対象児目視出来ていなかった。	床フロア、畳部分を広域で目視する担当支援員の配置を徹底。	
4069	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	63									7	4	22.10歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上1番外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	—	1スペース2名以上配置という体制をとる。	1.定期的に実施	8	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	50	—	遊具等ハード面による事故ではない。	1.集団活動中・見守りり	—	各スペースにスタッフが2人ずつを見守りを行う体制を強化する。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着きがなく、衝動的な言動・行動有。	2.対象児の近で対象児を見た	共に長なびに参加し、あなわを回していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	それぞれの担当、配置中。	—	それぞれの担当、配置中。	
4070	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29									4	3	20.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	ドッジボールの最中のケガだったため、突き指だと判断した。	骨折等が少しでも疑われる場合は、保護者に連絡し、病院の受診を促す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ドッジボールに使用していたボールの硬度等	今後、使用するボールについては、柔らかいものを使用する。	1.集団活動中・見守りり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	いつもとわらない様子で変いドッジボールをしていた。	2.対象児の近で対象児を見た	審判などを、至近距離で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外の職員のうち、1名は審判をしていたが、もう1名は他児童の見守りをしていた。	—	安易に怪我の状況を判断しない。	
4071	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60									4	4	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘の骨折・頭部打撲	1.遊具から転落等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	4	2.基準配置	児童数に対して職員の数が少ない	職員の数を増やしたいが、経営的に成り立たない	1.定期的に実施	40	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	40	—	—	1.集団活動中・見守りり	—	改善できることが、合い話しが、現在のできるのしの精一杯をしている。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な男子児童であった。	4.対象児の動見ていなかった	外遊び時2名で対応していた当時は他児童の対応にあたっていたが事故に気付くのが遅れた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員クラブ内に児童の対応をした	職員が目瞬一瞬を離したすきに起こった突発的な事故だった	全体を監視する職員を配置する	
4072	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35									6	5	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	裂傷（左頭部）	3.子ども士突同もの衝によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	児童が多すぎた。遊び方の声掛けが遅れた。	児童数を制限する。遊び方を注視して適切な声掛けを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	テーブルを出しっぱしていた。	事務作業に使用するテーブルを使用付け後片付ける	1.集団活動中・見守りり	狭い室内で騒いでいた。	2階での過ごし方ども子ども全員がたち全員で共有。で再確認した。	3.いつもより発活動的であった(理由を記載)	高学年生と一緒に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故が起こってからこら気づき対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の業務を行っていた。(1名は外遊びの片づけ、1名は台	支援員の位置が適切なではかった。	子どもの遊び方と学年の組み合わせなどを把握しておく。	
4073	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	6									2	1	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指付け根骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特記事項なし	なし	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	2	特記事項なし	なし	3.個人活動中・見守りり	特記事項なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	野外活動のため、対象児の動きを注視した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当する児童を注視した。	特にな し	滑走前の注意の内容を更に充実させる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面						環境面			人的面							
			施設・事業所種別	認可・認可外	月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4074	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ		7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28							6	5	20.8歳	1.男児	身長・体重共に大きい児童である。本年5月中旬、学校への登校時、同じ部位を骨折している。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足くるぶし刺離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	特記事項なし	引き続き毎日のミーティングで危険な出来事は対応検討し、注意点を職員が共有するように努める。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	遊具の設置なし	2.不定期に実施	24	担当者が整備・補修を実施。玩具の定期的な点検はなし。	今回事故が起きた際に使用していたペットの安全確認お掃除は、損傷等はなかったが、これも継続して配慮等をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	各部屋に1名ずつお職員が、映画場の部屋は、学童職員1名、児童館職員1名の2名が見ていた。	床がフローリングのため、座る場所にマットを敷き、長時間過ごしやすいように配慮していた。これも安全に配慮をした。環境を行いながら全体的に安定するようにしていく。	1.いつもお様子であった	活発に動き回る児童ではなく、レゴブロックや工作などを好む児童で、静かな児童も楽しそうに遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	映画会場の部屋にいた学童クラブ職員は、映画終了後、学年ごとに呼びかけ、学童ごとに促し、学童室に戻るようにしていた。2年生で、対象児が立ち上がったときに「痛い」と言って泣き出したので、声をかけ対応した。児童館職員は一般児童が部屋に戻るよう声かけをした。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	当対児の担当職員は、子を当て守り行った対象児の動きは見ていなかった。	特になし	特になし	
4075	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ		3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	109							9	7	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	職員配置など事前に地図を用いた職員間で確認したが、滑り台での安全な注意事項を、子どもと確認しきれていなかった。	遊びだす前に、職員同士、子ども達にも危険に関して、安全な遊びなどを一度確認をする。	1.定期的に実施	2.不定期に実施	–	2.不定期に実施	–	3.未実施	–	アスレチックの遊具は伴うため、危険性があった。	特に重大事故ではなかったが、遊び場の安全確認などの配慮を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	各々が好きなアスレチックで遊んでいたが、一つの遊具に集中しすぎたりも数名いた。	一つの遊具に集中しすぎないよう、子どもの固執を見ていまりすぎないよう、声をかけていくようにする。	2.いつもと元気なかったを(記載)	普段よりも高さがある遊具が怖がいた友達が滑っているのを見てやりたがった。	2.対象児の対象児を近で見た	本児に呼びかけ、指導し、別の三人で遊具(滑り台)から滑ろうとしていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	見守りの部屋を全体的に見ていた。	一緒に遊ぼうという児童に、危険性を伴う遊びの際、子どもが遊ぶ範囲を見守っていた。	危険性も伝えて、安全に滑る遊び方を説明して、滑り出せるようにしたほうがよかった。また、指導員も安全に配慮した滑り方を見せたほうがよかった。	直接的に危険性も伝えた上で、安全に滑る遊び方を説明しなかった。また、指導員も安全に配慮した滑り方を見せたほうがよかった。	
4076	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ		6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	73							7	7	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部両骨遠位端骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	年度当初1年生の身体能力に関する危険認識が、不十分であった。	年度当初1年生の身体能力を踏まえたヒヤリハットの学習を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	特になし	–	1.集団活動中・見守りあり	特になし	–	1.いつもお様子であった	本児は1年生で、6月始めのこの時期にはまだ学校の遊具の大慣れきされず、本人はできないと思いと飛び移ろうとん飛び移ろうとし、手届かず落下した。	4.対象児の見ていた	うんていの鉄棒付近で遊んでいる児童を見守っていたが、落ちた瞬間は見ていなかった。本児が泣いていると児童が呼びに来たため、本児を育成室に連れ帰った。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	当対児の担当職員は、子を当て守り行った対象児の動きは見ていなかった。	連れ帰った支援員がいなくなった遊び近に具付け気を配もり見守った。	うんていで遊んでいる児童がいたが、うんていの前に支援員がいなかった。	うんていで遊んでいる児童の場合には、支援員が近くで見守る。	
4077	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ		4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10							2	2	18.6歳	1.男児	–	2.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折(後日診断が変わり、骨がついてくっついているとの報告あり)	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	曜日での子ども人数は少なかったが、外の職員も限られていた。	遊ぶ場所、遊具の使いかたについて職員間で確認し、子どもたちに周知してく。子どもの疲労や感染等を把握し、外遊びの判断をしていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1年生にとって登校には高いハードルはあった。	登校するときは大人が近くより対応できるようにする。	3.個人見守り	疲れもあり、遊具の場所で遊ばせていた。	なるべくクラブの場所近い場所で疲れに配慮しながら保育していく。	1.いつもお様子であった	午前中野球体験に参加し、自由遊びで遊んだ。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	鉄棒の傍で対象児と他の児童を見ていたが、対象児が落下する瞬間に駆け寄る間に合わなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	当対児の担当職員は、子を当て守り行った。	室内で室内遊びの見守りを行った。	室内外分かれ保育を行っていたため、外遊びの見守り職員が少なかった。	外遊びの職員体制を子どもの人数によるが、より多くの見守りや安全確保をできるようにしていく。また、定期的に遊具の使い方や注意喚起の周知を行っていく。	
4078	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ		7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							3	1	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	5.他児危から加られ害を受けたもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	3年児童へ通級のコールができない面あり)。また家までもは、ケンカが始まると激しいといわれていた。	兄弟ケンカ発端はあるが、コールが難しい児童である。早めに早期に入る心掛けは、家庭との面談も再度支援予定。	2.不定期に実施	–	2.不定期に実施	–	1.定期的に実施	4	特になし	部屋を遊部屋スペースにはいるが、必要であればスペースのしも部屋直検討。	良い仲良し日頃は話しはクーダウンする方法を弟の先生に相談し、通級の先生と話し合い、良い提案をしより環境を提供できるように努める。	1.集団活動中・見守りあり	兄弟くすぐるよりの遊具を使って、一つの遊具に集中しすぎないよう、遊び方を工夫する。	学童クラブの上級生に、ルールを伝えるよう、お願いする。	1.いつもお様子であった	普段と変わりなく登所した。準備、おやつ後勉強の時間であったが、写し絵をしないで勉強せず、自分のまま行動する動向あり。	4.対象児の見ていた	(具体的内容記載欄)3年生児童に写し絵をやめるように言われぬ絵を取られたため、鉛筆で3年生児童の腕に刺しの、3年生児童の怪我の処理をし終わって片付けていた先、3年生児童が仕返しに行き、あっという間に転	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	早期に対応の児童の様子を予測し、予防策をとり、該当児童の様子を共に観察し、より加配の必要性を伝えるように職員に意識を持つ。	そばにいたが、2年女児の勉強を見て、気付いて2年女児へ行くと言葉をかけ、女児の様子を見て、安全なように仲裁に入ろうとしたときすぐに入ったが、2年女児へ行くと言葉をかけ、女児の様子を見て、安全なように仲裁に入ろうとしたときには倒。	支援員は全体を見ながら視野を広げ、トラブルやけんかにいち早く対応できるように研修や講習などに参加しスキルアップしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況									事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4079	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	47								3		3	20. 8歳	1. 男児	-	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	左音響外傷疑い	5. 他児から加害を加えられたもの	1. あり	3. 未実施	-	2. 基準配置	-	おやつのごちそうごまかさら、外遊びのゆとりを持たよう、保育の時間帯の見直しを行った。具体的には、おやつの時間を10分前倒しした。	1. 定期的に実施		12	2. 不定期に実施		30	2. 不定期に実施		100	なし	施設や遊具に関して定期的な点検を加え、日々の保育の中で注意お必要あれば理等をいて修理する。また、子どもも使つこそ指度指話しの場合いの場を設いる。後もしていく	3. 個人動活中・守り	今回のケースは例外だが、外遊びに行くことが興奮状態になり、整列しいるに、些細な事で苛立ちが起こり、事が増しめきやすい状況ではあった。	外遊び準備中は、子ども達は興奮気味で揉め事が起きやすい状況になる。今後は必ず、外遊びに行く為に支援員が玄関に立ち、児童を整列させると外に出て靴を履き、玄関で座って並んでお茶を飲み、お喋りをしながら待った。	1. いつもどおりの様子であった	当該児童は、朝の学習後、外遊びに行くお茶を飲み、前に座って並んで待った。	4. 対象の動きを見ていなかった	室内にて遊び残って児童が30名程度いたため、保育室内の子ども達を中心に見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象発生、外に行く準備中遊びだった。1名は玄関先が駐車場の児童が外に出ため待機、1名は準備中で事務出とできたところ。	今回は当児童が対し、Aさんが突然近寄り、大耳を声元でている。前後に当該児童との事等はなかったので、我々も特に注意して見ていなかった。	気になる児童の情報を支援員間で共有し、声かけ合って、見守っていくために、適宜ミーティングを行っていく。	
4080	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	28								4		3	21. 9歳	1. 男児	-	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足第二指骨折(ヒビ)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	-	骨折等が少しでも疑われる場合は、保護者に連絡し、病院の受診を促す。	1. 定期的に実施		12	1. 定期的に実施		12	1. 定期的に実施		12	-	-	1. 集団活動中・守り	見あ	-	-	1. いつもどおりもり子であった	いつもとわらでこっていて変い様子で鬼ごっを鬼をした。	2. 対象至児の近で対象児ていた	近距離で見守りを実施していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外の見守り施したも名は他の見守りをした。	実いて1職員守り1職員守りていて	骨折等が少しでも疑われる場合は、保護者に連絡し、病院の受診を促す。	
4081	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	40								3		3	19. 7歳	1. 男児	-	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転・落下	1. あり	3. 未実施	-	2. 基準配置	特記事項なし	落下しない注意喚起	1. 定期的に実施		1	1. 定期的に実施		1	2. 不定期に実施		-	特記事項なし	遊具は学校管理だが、改善策は特になし。	1. 集団活動中・守り	見あ	特記事項なし	落下しない注意喚起	1. いつもどおりもり子であった	普段と変わった	2. 変登所した	3. 対象から児の離れたところで対象児ていた	遊んでいて落下した一番近くにいた職員(担当制ではないが)も、こ一瞬のことでとでできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当制ではないため、全体を見守っていた。	特記事項なし	遊んでいた遊具からの落下のため、人的面の改善策はなし。	
4082	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	103								5		3	20. 8歳	2. 女児	-	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	3. 子どもどし突よるもの同士衝によるもの	1. あり	3. 未実施	-	1. 基準以上配置	本来の使い方と使用方法でかつ、びになりてしまったことが、近くを歩く児童を予測することができなかった。	正しい遊具の使用法に対する指導の実施。	1. 定期的に実施		12	1. 定期的に実施		49	2. 不定期に実施		48	安全点検は定期的に実施しているが、今後も可能な限り正確な点検を心がけていきたい。	遊具、玩具の配置が適切かつ、他の遊具との関係性も再検討含めて度確認を行った。	1. 集団活動中・守り	見あ	児童同士が、他の児童の動きを確認しなかった。	館内で遊ぶ児童一人ひとりの行動を意識し、気をつけ守り行う。	1. いつもどおりもり子であった	普段と変わらず元気であるが、いつもと変わらずあった。	3. 対象から児の離れたところで対象児ていた	他の児童もおり、全体の見ていた全体を守った対象行動に対かった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設の内外を分担して見守りを行った。対象行動を確認することができなかった。	児童同士の触れ合いであり、児童の様子変わったところ無いもしくは、普通であったため、前に事予	危険な遊び方をしていないか、全体を見回したり声かけなどを行うなど注意喚起を行った。また、見守る職員の配置について再検討を行った。	
4083	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	28								3		1	21. 9歳	2. 女児	-	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1. 遊具等からの転・落下	1. あり	2. 不期定に実施	-	1. 基準以上配置	「安全・危機管理マニュアル」を作成し、備えるが、別遊具性等危険に事例ついては記述していない。	「安全・危機管理マニュアル」に遊び方によって危険な遊具、危険な遊びの事例を蓄積する。	3. 未実施	-	3. 未実施	-	3. 未実施	-		比較的運動能力高く、得意な児童だった。児童が身自信た。	当面、遊具で遊んでいる児童場合、支配人数に遊び方よって危険の予測がつかない。	1. 集団活動中・守り	見あ	児童は嫌がって豆ができ、何度もけずにすでまでもンジ破ってすることは性格。一部ありて当ってでこれも痛がっ。初、震たつにはなにべきし。	支援員は保育室内(室内)と保育室(ぴ)ラウンド(外遊び)に分かれて保育をしている。それぞれ目届かれて行きるそれすべて目を行きるが、児童をかせる同時に、皆でいっしょるる工夫必要。	1. いつもどおりもり子であった	ジャングルジムぼり棒・雲梯遊んだ後、遊びに遊ぶ後ろ、と支援員ろと童の場所ろう時に	グング・ぼり棒・雲梯り通だ他の雲梯かとした一人一ンを支援員児梯場所ト一緒をした。もう一度雲梯まった。	4. 対象の動きを見ていなかった	遊びうろ他と一人で児童ーカー方歩きた時始めに移ろ児童へ向へ落ちら他がくれた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名の支援員は北東庭側で中央庭の状況をする困難だった。その他1名の支援員は学保育室内で保育をしていた。	当該児童が雲梯をしようとしていることに支援員が気づかず、その場を離れてしまった。当児童が雲梯意を得ようとして、遊び切りの時に保	遊びを変える、遊びの場所を移動する際には、すべての児童が移動した後に移動支援員が移動するよう指導する。また、児童の性格から予測し、目を離さないことに注意する。	
4084	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	40								5		3	20. 8歳	2. 女児	-	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足小指粉砕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	-	1. 基準以上配置	１７：１５以降職員が室内清掃を始め（３０分程度）、子どもたち守りへの見手薄がなった。室内清掃子どもは机たちは机の所に畳の所で静かに遊ぶ事になっている。１５時以降発熱に、事務室で横より、事務室で横になっていたもいた児童ため、見ていたもしも支援育をし、支保育が付きもしも添いもしていた。	保護者対応・清掃しない職員が必ず子どもたちの入り見守り事。清掃時間変更帯をする。	2. 不定期に実施	-	2. 不定期に実施	-	2. 不定期に実施	-		夏休み中、期間登録児童に伴増加し、備品増い等しているで、状況つは況が収納工意ていや払っ注意ているが、十分に収納ていかった状況。	ロッカー整理整理で当日は、該当しないが、室内では生徒が必ず使でもいるこれまでに遊ぶ。	1. 集団活動中・守り	見あ	-	・目の前だけの作業でなく、全体のプラスアルファの目で見ることが必要。子どもが考え、子どもたちが楽しく遊べる環境を作ろうでも職員が入り一緒みんなで作ることを員が込みになって全確認し安をく。	1. いつもどおりもり子であった	夏休みに、退所した友達入所していて、元気でいる。当日は年生を面倒なんだ。	4. 対象の動きを見ていなかった	生徒が1年生男子弟と一人で遊ん、支援員は清掃と保護者対応の全体を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2年生が1年生男子弟と一人で遊ん、支援員は清掃と保護者対応の全体を見守っていた。	夏休み入期に短期入所の友達と増加し、遊び方も発展えて、活発になったと職員でも話をしていた矢だったので、人的な気持ちが大きくなっていたもしれない。足をつけた時、職員に故伝なかったと保護者が確認	・保護者対応・清掃しない職員が必ず子どもたちの入り見守る事。 ・何か起こった時に支援員に助けを求められるような環境を整える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4085	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15									3	3	18.6歳	2.女児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	1	1.基準以上配置	帰宅時であり、児童や児童等でになったいた部分があった。	見守りを徹底する。	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	12	-	-	1.集団活動中・見守り	-	-	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった。(活発に児童)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別業務のため、少し離れた個所で見守りを実施した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰宅時の送迎のため、屋外他児守施にて童りをしていた。	-	見守りを徹底する。	
4086	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39									6	5	20.8歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手上腕部骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	-	2.基準配置	ブロックは一段（２０㎝）までっかけしかはいことしてないの徹底ができていなかった。	支援員に見守りについて、今一度確認。統一理解の確認をするブロックの方に使いて徹底する。	1.定期的に実施	100	3.未実施	-	2.不定期に実施	24	今回事故起こったブロックには問題と考えている。	安全な使い方について指導する。	3.個人活動中・見守り	ブロックを2段積んだ上に上がった。発きた故。	ブロック方の使いについて直し、安全な使い方を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	熱中症指数計に、計測していたが外で遊びをたが、廊下・中庭で遊んでいた。近くか同じ遊びをしていた。	-	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	-	-	マニュアルを作成ところに掲示し、徹底を図る。	
4087	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	84									4	4	21.9歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指中節骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	-	1.基準以上配置	-	-	1.定期的に実施	学校にて実施	1.定期的に実施	学校にて実施	1.定期的に実施	学校にて実施	-	-	1.集団活動中・見守り	-	-	3.いつも活活でいる	児童らの好きなドッジボールたため、普段の活動より活発であった。	2.対象室で対象児を見ていた	-	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	ドッジボールの最中だったため、コートで見守りを行っていた。	１５名対援員、補助員２名で見守りであったが、児童のとっの行動に対し、抑	運動については、事前にルールをきちんと説明し、それを守る重要性も説明する。	
4088	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	3.施設敷地外保育先・公園等)	8.学童	22									2	2	20.8歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	-	今回は単見学もりなるのつで、直前に2名配置にしまったが、だけ人増やるの員をしたい。(但し規定通りである)	3.未実施	訪問先の美術館のため	3.未実施	訪問先の美術館のため	3.未実施	訪問先の美術館のため	子どもの遊ぶ物とは遊びが度しとる。(注意書にあっ意くにあっという話ら聞した)	製作物に登っての遊び方は禁止方が良かっに思えうる。	1.集団活動中・見守り	-	安全と思われていた施設で出来事であった。施設側にも人員配置の人員配置を、私たち側にもよって児童に注意喚起が必要かと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	美術館でありながら、思わぬ遊ぶ事場があり気持ちが高揚していたかも知れない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見渡せる範囲であったが、対象物が多かったことも事実である。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名はまだ受付で手続入館きをいた。かしントスで全体的に危険を感じさせる感じとがなかった。	-	安全と思われていた施設での出来であったが、児童そのものへの注意喚起をさらにきちんと行う。	
4089	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36									5	1	19.7歳	1.男児	生まれつき左足が右足より短く、厚底の装具を着用して生活することが多い。事故当時は装具の着用をせずに外遊びをしていた。また、今回の事故より1か月前に学校の階段から落ちて左手を骨折しギプスをしていた。最近ギプスが取れたばかりで、同じ個所を骨折したもの	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2～3年に1回	1.基準以上配置	-	今後は児童の体調のケガがいる場合は、臨機応変遊び外可能な範囲を変更するようにする。	2.不定期に実施	10～12	2.不定期に実施	10～12	2.不定期に実施	10～12	-	事故との関連なし	1.集団活動中・見守り	-	近ケをしてこと直ガをいたをてクリ部近くとこ	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	2.対象室で対象児を見ていた	外遊び中に子供たちが各箇所遊び中に守った。本のも近くで見ていたが、転ぶのを止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の集団または個人を見ていた。	-	事故との関連なし	
4090	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	68									9	9	22.10歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	3	2.基準配置	作見配がる角をの心がいるが、対象の動きに合わせた見守りに困難さがあった。	子どもの意見を見て工ていの動きした工ていの動識守りを支しく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	通常のドッジボールよりかいルをしていたが、対応していると安心していた。	柔らかいボールの使用や、準備運動の徹底をする。	2.個人活動中・子ども達のみ	児童が、遊びの変更をすることで、支援員の支援注意が散漫になっていたことも考えられる。	遊びの変更する際に、支援員に報告すること、変更に変こと一層の定着を図りすることの	1.いつもどおりの様子であった	友達と仲良く遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守り対象の児童を、巡視をする状態で、固定的に見守をしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の対象児童の見守りをしていた。	毎日の遊びの中で、児童及び支援ケ員のケガ防止の意識が希薄となっていたことが	ドッジボールにおけるつき指が、起こりやすいケガとして、児童への未然防止の啓発、予防のための準備運動に徹底を図る。	
4091	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	64									6	4	22.10歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	-	2.基準配置	-	安全管理マニュアルの予防の部対策の復習分の復習を行う。	1.定期的に実施	12	3.未実施	遊具なし	1.定期的に実施	毎日	-	玩具を常に点検する。	3.個人活動中・見守り	-	見守り時間も共にと化ども子に配れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象室で対象児を見ていた	対象児と他に共も数人児童ジェイボートをしていたので、全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	小学校のグランドでのため、職員場を割りで、場所でたサッカーをしていた児童のいた。	担当と現守る二分形れ、離れて守しるものをした。	-	職員の動きや配置に子見や工夫をとりいれるため、支援員の研修をしていく。	
4092	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29									4	3	20.8歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	-	1.基準以上配置	-	児童の動線を意識した見守りを心がける。	3.未実施	-	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	児童が滑りやすい場所がないよう管理する。	3.個人活動中・見守り	-	全体的に見守りをしていたが、個々の児童にも配る。	1.いつもどおりの様子であった	-	4.対象室で対象児を見ていなかった	全体だけでなく、個々の児童に配るがあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	目の前の見守りをしていた。	-	落ち着いて遊びを行っていたが、個々の児童の動向に気を配る。	
4093	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30									3	3	18.6歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折 踝	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	-	地面の凹凸にも注意を払う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	-	特になし。	1.集団活動中・見守り	地面が平らではなくてこと足をられた能性がある。	走ったり遊ぶ比較的ならグラウンドとす央る。	1.いつもどおりの様子であった	活発に走り回っていた。	2.対象室で対象児を見ていた	対象児童を含めた多数童り。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	サッカー棒ボ遊ぶ棒ボ遊ぶ	出時を気をしにつけるべきだった。	今以上に、細やかな声掛け。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4094	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45								8	6	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指付け根骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	子どもの起こりケガの起り得る想定の見直し。	研修強化。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	–	特になし。	1.集団活動中・見守り	マットの上で遊んでいた時、友達が寄りかかって来て、左手の甲を踏まれた	マット上での遊び方を見直し指導する。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象至対象児の近で象児見た	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	マット上での遊び方を見直し指導する。	
4095	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31								3	2	21.9歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	–	1.基準以上配置	支援員の事故に対する対応つのばらつき	経験豊富な支援員が手薄な曜日の見直し	2.不定期に実施	–	1.定期的に実施	–	1.定期的に実施	–	遊びの種類によって、参加人数の制限をする	グループ分けにしたり、個人戦にしたりする	1.集団活動中・見守り	他の支援員が声をかけ、見変ってもらう	動きが激しい遊びに関しては、可能日の限り目の離さない	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、カードゲームなどをしていた	4.対象動きを見ていなかった	子どもの叫び声で事故に気づく	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもの叫び声で気づき、一斉に近づく	危険を伴う遊びをしそうなときは、ルール自体を見直しさせる	
4096	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	46								3	1	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	職員配置は基準配置だが、適切な配慮が欠けていた。	研修に参加し、研修内容を共有する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	今回、壁にぶつけての骨折だが、壁は出来ており通常ではにくい怪我。	ドッジボールを行う時は、マットを立てかける。	1.集団活動中・見守り	職員配置に関しては適切であったが、学年ごと、学年ごとに低学年、高学年に分けての方の配置に欠けた。ドッジボールの様子がわかるよう、子ども座らせる配慮などの必要性	人数、学年など別での集団を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの活動様子であったが、ボールをよけようとしてよけきれずに足をぶつけた。	2.対象至対象児の近で象児見た	集団の中で全体を見ていたので、そのことだけを見ると言うことは出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2チームに分かれ活動したための中だったため、残りの子どもも達を見ていた。職員どもが前におり、事故の様子が見えなかった。	児童へ指導不足。児童への適切な配慮が欠けていた。	職員の配置を考え、子どもの様子がよく見えるようする。又、危険をキャッチし職員一人一人が考え行動する。	
4097	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6								3	3	24.12歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左手首創傷	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	2	2.基準配置	事故防止のための、児童へのさらなる注意喚起が必要。	ガラス戸を割れにくい素材に交換する。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	事故防止のための、児童へのさらなる注意喚起が必要。	ガラス戸を割れにくい素材に交換する。	1.集団活動中・見守り	建物の建築年数がっていると、耐用が落ちた可能性が考えられる。	事故防止のための、児童へのさらなる注意喚起が必要。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象至児の児対象児離れたところ見ていた	全児童をまんべんなく見るためより見回りを行いながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていたため、別の部屋にいた支援員は対象児を見ていない。	–	切れ目のない人的支援体制に力を入れる。	
4098	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18								4	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	外に出て遊びたいことで、話は聞いて外にでたのだが気持ちが浮かれていたため	遊びたい気持ちは理解しても、その様子をもう一度確認してから行動する	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	3	外に出て遊びたい気持ちがいっぱいで、話は外の気持ちが浮いたため出て気持ちもいっぱいで、聞いて出たが気持ちも使っているボードのなどで足りた	遊具に対して危機管理と管理の如	3.個人活動中・見守り	児童自身が様ボードの操作をいつもの利きにでしなかっため	如何なる時も危機感を持ってと出る前に理解しておこうと	3.いつもどおりの様子であった	受傷児童が利きでないボードにでをキックして走り回った	1.対象児とンマンの状態(対象児に接していた)	すぐそばで対象児すぐ後ろとキッからボードにクに乗ってくるのをた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	8名の児童の遊具で遊んでいた児童の見守りをしていた	児童は運動神経もよく、転んでもあまり怪我をしなかったので危機感が足りなかった	常に遊具に関しては、危機感を持ち、怪我の想定も視野に入れる	
4099	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	49								4	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左腕骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	室内と屋外の配置備れない。しかし、室内と屋外で児童が分かれて活動の際の切な配置について、明確な基準がないことにより、場合によって人員配置にばらつきが生じる可能性がある	室内と人員不足外遊びで児童が活動の際の人員配置について、常に適切な配置ができるよう、配置基準を作成する。	1.定期的に実施	1	3.未実施	–	1.定期的に実施	80	施設設備による考えられない。	ハード面での改善策はない。	3.個人活動中・見守り	天候は晴れており、地面はぬかるもいなかった。遊ぶ環境での要因は考えられない。	環境面での改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は後も事故後遊んで	2.対象至対象児の近で象児見た	転んだ後の状態をの見がすぐに立ち、遊び再開をしていたため、特に状態等の確認はしなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒の所で一輪車で遊んでいた子についていた見ていなかった。	故発の後応は、職事生対は員に委ねお、今回は切な断ができなかった。	事故発生後の対応について、適切な判断ができるように研修を実施するとともに、判断基準を設ける。また、事故後、児童自身が問題ないと判断した場合においても、事故の情報を職員間で共有及び児童の様子を注視し、異常が認められた場合、適切な対応がとれる環境と	
4100	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	47								8	8	20.8歳	2.女児	・リハビリ等で通院が必要、完治者からはではないとの話が保護ではなかったものの、現段階で通院はしていない。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	10	1.基準以上配置	特になし	事故防止についての情報共有等を更にに密にしていく。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	–	2.不定期に実施	–	特になし	これまで定期に実施して安全お不実施いた検いて点を定期実施していく。	3.個人活動中・見守り	特になし	日常で、遊具の使方やその他の遊び方について児童含め話も寸機会を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗っている時に友人に呼ばれ、身体を右に振ひねり向いた際、バランスを崩し落下した	2.対象至対象児の近で象児見た	手を差しのべるもなく、間髪下した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	育成室内、戸外に分かれ子ども見守りをしていたため、遠くにいた支援員は対象児を見ていなかった。	になし	特にし	これまで以上に注意深く見守り、必要な支援を怠らないようにしていく。	
4101	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	35								5	3	24.12歳	1.男児	マイペースでひょうひょうとした性格で、痛みをあまり顔に出さない。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	–	1.基準以上配置	–	次回、スケートに行く際は骨折の危険性があるる点も含めて注意喚起。転び方の指導確認。	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	–	今回の骨折も含め、転倒なるべく安全にしする全に服装など十分に準備する。	1.集団活動中・見守り	–	指導員の子も分てなく配置お散るく捉えく。	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象動見ていなかった	大きなリンクを滑っていることは把握していたが、転んだ瞬間は目にしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大きなリンクを滑っていることは把握していたが、転んだ瞬間は目にしていなかった。	–	–	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面								ハード面								環境面				人的面						
				事故発生時				人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き				
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4102	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51								6	5	22.10歳	1.男児	先天性左目失明	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	3.子どもの衝突によるもの	2.なし	3.未実施	–	2.基準配置	–	市内児童クラブで統一した事故対応マニュアルを作成する。(現在各児童クラブで個々に作成しているところもあり、)	3.未実施	–	3.未実施	–	3.未実施	–	–	学校体育館内で設備には問題はなかった。	3.未実施	–	学校体育館内で設備には問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象動児の動きを見ていなかった	転倒時の音により振り返った状況であり、衝突の瞬間は見ていない指導員はいない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	–	全体の活動を見守る際にも、個々の人的特性や動向にも注意して見守りを行う。	
4103	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25								2	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	前日の雨でグランドが湿っや滑りやすかった。声掛け不足	支援員全員でグランド状況の確認・声掛けの徹底を実施	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	グランド、コンクリート部分の滑りやすさの確認	危ない箇所については、学校の用務員さんと改善	1.集団活動中・見守り	滑りやすい声掛けが無かった	支援員全員が状況声掛けの徹底	1.いつもどおりの様子であった	走ることが好きな児童の為、全力で走ってしまった。勝ち負けにこだわる格	1.対象マンの児童ツーマン状態(対象児としていた)	リレーの実施中、支援員が見守り実施中、ずっと見守りをしていたが、毎日やっているため児童も支援員も慣れていて声掛け不足でした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	残りの1名全員が0でのレーだった為、他の支援員は見守り。	声掛け不足が要因		保育前にミーティングをしグランド状況など全員で共有、外遊びの前にもミーティングし、声掛けの徹底を実施	
4104	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25								6	6	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	–	遊び始め前に注意を行う	3.未実施	–	3.未実施	–	3.未実施	–	学校の設備でも、遊びぶ前にはチェックを行う	学校の遊具や校具で遊んでいる際に気づいたことがあれば報告する	1.集団活動中・見守り	児童は、通常の遊び方から逸った遊具の方に興味を示すことがある	学校の遊具や校具で遊んでいる際に気づいたことがあれば報告する	1.いつもどおりの様子であった	特別危険な遊びはしていなかった	2.対象児の近で対象児を見た	近くで見守りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童にも目をむけていた	–	特に、鉄棒には必ず見守り、注意する職員を配置する	
4105	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20								5	2	24.12歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首若木骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	–	職員の研修参加回数を増やし、振り返りを定期的に行う	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	2	–	定期的な検査実施と、チェック表の作成。	3.個人活動中・見守り	–	準備運動の確認。キーパーバーグの使用の徹底。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の近で対象児を見た	ボールを止めた際、児童に室内に戻るように促し、一緒に戻る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落とし物、忘れ物の確認をしていた	–	職員間の連絡。情報共有。	
4106	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33								4	4	20.8歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	–	今後も帰宅時に行き安全な帰宅を促す。	1.定期的に実施	–	1.定期的に実施	–	1.定期的に実施	12	–	–	1.集団活動中・見守り	–	–	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない子だった様子。	4.対象児の動きを見ていなかった	敷地内ではあるが、保護者に引き渡した後であり、またクラブから離れてまたクラブ場所れで発生した事故であったため指導員の位置からは確認すできなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	敷地内ではあるが、保護者に引き渡した後であり、またクラブから離れてまたクラブ場所で発生した事故であったため指導員の位置からは確認すでき事ができなかった	–	今後も帰宅時に声かけを行い、安全な帰宅を促す。	
4107	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4								2	2	18.6歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	急に走りだしたの援離から出て、員がれた。	だれぞれ児童に対できるようにしてできるそれの児童に対ければいの近くて、対ければいの応よたい。	1.定期的に実施	12	3.未実施	–	1.定期的に実施	12	段差がある場所。	児童がそに場所に近づく時には、より一層注意を見守りを見守る。	1.集団活動中・見守り	いつもは行とっしない動きた。	児童の心に動きも注意を払う。	3.いつもより活発で的動であった(理由を記載)	母親がお迎えに来たとわかってすぐ、見つけると走った。	2.対象児の近で対象児を見た	部屋の中走だし、こけて怪我をするかもしれないと、かけ声をかけている途中で中ずいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	故の場所少し離れていたが、ようかとと事をきかから同じに声をけした。	だ前動きす直ぐ走りを制止できかった。	部屋の中で走ると危険なので、日頃から歩くように話している。今回はとっさで声掛けが間に合わなかった。以後、子どもの動	
4108	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24								2	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	児童に対して立入を禁止している事生し、を禁止して箇所で発生故した。	児童に対して、再り入り止し箇知度を立入止し禁止している周知所の徹底をする。	1.定期的に実施	毎週	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	3	–	–	1.集団活動中・見守り	児童に対して立入を禁止している事児童して箇所で発生故した。	児童に対して、再り入り止し知度を禁止している周知所の徹底をする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になっており、周囲の状況があまり見えない様子だった。	2.対象児の近で対象児を見た	外遊びの児童全体の見守りを実施していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名配置であり、1名は室内の児童の見守りを実施していた。	–	–	
4109	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9								4	2	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子どもの衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	支援員の館な一人にいい状況で、残っもり子見守りをうのにすか、児館スタッフもの童がを含めて連携をおくってきた。	支援員はもの体ども子どもの見守りどか、子見制する状況にて判断きにきた児童館スタッフ協力を報連絡をとるにすることをしっかりとる。	2.不定期に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施	12	–	–	1.集団活動中・見守り	支援員が子ども見守りずつこと然のが、支援員外いるは、館スタッフをの立ちの置にて、館子見行。(雷のための派は必要考える)自由来館の児童と留守家庭クラブの	1.いつもどおりの様子であった	対象児童に問題はなし	3.対象児からの児童を見ていた	児童館スタッフは自由来館の児童のトラブルに気づき、走りと寄ったに、遅れて目の前で児童が手を出して、相手の胸を押して倒した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は他留守家庭クラブの児童の帰宅の付き添いでの庭の児童の外にいたもう一人の支援員が家庭クラブの部屋の中で子どもの見守りしていたため、対象児童をみていなかった。(事故は別の部屋で起きた)	–	–	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事												ソフト面									ハード面									環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4118	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19								2	1	21.9歳	2.女児	事故発生時の1ヶ月前から右膝の痛みがあり、湿布やサポーターをしてくる日もあった。つけの今井整形では成長痛ではと診断を受けていたが、事故後の国立病院の診断で大腿骨頃滑り症が発見され	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右大腿骨のずれによる膝の痛み	2.自転倒・衝によるもの	2.不定期に実施	3	2.基準配置	マニュアルはあり、状況の確認、報告、応急処置の手順をふまえ保護者にはたらみにした	救急車を呼ぶ具体的マニュアル化	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	階段については滑りやすいので、頭から落下しないための考え方を置している	滑り止め塗装を検討し、安全性の確認を行う	1.集団活動中・守り	夏休み初日から階段下の上り口に注意喚起を行っていた	子どもたち自身が気をつけられるような声掛けを行う	1.いつもお様で子もり子であった	普段通りにすごしていた。支援員と2人が2階の子に声をかけて間に下の1階に下りた	4.対象動児はいなかった	2階にいる子が見て上がっていき、子どもたちに声をかけていた	2.担当者・対象児の動きを見てなかった	2階にいる子の様をみていた	-	当日も複数での対応をしていたが、今後も職員体制の充実を図っていく	
4119	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39								5	4	18.6歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折、右橈(とう)骨脱臼	1.遊具から転落等の転落・落下	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	低学年の使用には高所となる遊具があり、その遊び方の具体的な確認はしていない	遊具の使用にあたっては事前に使用方法の確認を行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	7	1.定期的に実施	12	-	引き続き定期的な安全点検を実施する	1.集団活動中・守り		引き続き安全に配慮して支援を行う	1.いつもお様で子もり子であった	いつもと同様、外遊びの時間に元気に遊んでいた	2.対象児の近で対象児を見てた	外遊びの全体の気持ちを配り、対象児の対応した	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他援対応にあたっていたため、対象児の対応はしていない	室内外に児童が分散しており、支援員それぞれ数名ずつ分担して対応し	細かな声掛け、安全への配慮への心がけを行う	
4120	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17								5	3	21.9歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	2.自転倒・衝によるもの	1.あり	1	2.基準配置	活発であり児童が館内を走ることは想定される	特に危険な行為は思われなかった	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	-	館内を走って足を骨折することは想定なかった	怪我をすなよう行為や行為には注意する	1.集団活動中・見守り	館内において足をつけるような物はぶつかるような行為はなかった	ホール内は走らない注意喚起	1.いつもお様で子もり子であった	普段と変わらず登所した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	-	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当制ではないため、全体を見守っていた。	-	-	
4121	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30								4	2	19.7歳	2.女児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝によるもの	2.なし	3	2.基準配置	児童数に職が対し員の数が少ない	職員の数を増やしたいが、経営的に成り立たない	1.定期的に実施	50	2.不定期に実施	4	1.定期的に実施	50	-	改善できることがない、合いをしたが、現在話しをしている。	1.集団活動中・守り	-	改善できることがない、合いをしたが、現在話しをしている。	1.いつもお様で子もり子であった	体育館で児童と交互に自由にボールを投げそれるを受けて遊びをしていた。相手児童がバスケットボールのゴールにボールを入れた又は自分がボールを持つと思い番だと思い、ゴールから落ちてくるボールちボールを、キャッチとしようとしたつ、転倒しもした際左手をついた。	2.対象児で対象児の近で見てた	転倒した時見ていたが、特に激しく転んだ様子でなかったので普通の判断で、転倒と判断し、児童が痛がるため教室に連れてきて室内の員に手当てを頼み、再館に戻った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	痛がるものそれほど激しい痛みではない様子なので、冷やして様子を見たが、腕に力が入らないが気になり一応診木をしてしばらく様子を見た。20分後、支援員で判断が難しいと思い、母親に病院で診てもらうよう要請の電話をした。	-	痛がるものそれほど激しい痛みではない様子なので、冷やして様子を見たが、腕に力が入らないが気になり一応診木をして、しばらく様子を見た。20分後、支援員で判断が難しいと思い、母親に病院で診てもらうよう要請の電話をした。	
4122	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9								4	4	19.7歳	2.女児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾基節骨折	2.自転倒・衝によるもの	1.あり	1	2.基準配置	-	怪我をした状況や原因等に全共有し、再防止に努める。子ども達にも改めて注意喚起を促す。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	-	1.定期的に実施	毎週	ベッドで寝きまるはあるが、床が硬い。	ベッドに躓く損傷は無かったが、安全せにより続き、施設備に異常か確認し、施設に無認しく。	1.集団活動中・守り	方の延長時間は、気見ても、元にそうえて1日の疲れがあっかれたと考えられる。	延長保育時間中は静かな遊ごびする。	1.いつもお様で子もり子であった	時いの全員でもこの子ども一緒に遊加に元気にボールびしした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ている。部屋の中央付近で中守りを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	目、各担務で業当を行いた。昼はでっかっているが、お互いに死角からになる。児の動きは見ていなかった。	延長保育時間は利用者数が減るため、それに見合った職員を配置している。	延長利用時間帯の4名の職員でも十分な安全性確保できるよう、遊びの内容を精査する。	
4123	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	75								7	3	21.9歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自転倒・衝によるもの	1.あり	6	1.基準以上配置	カーロッカーに足を乗せる児童が多数いる。	危険なことを児童に伝え、禁止する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	-	設備の不備ではない。	3.個人活動中・守り	カーロッカーに作成済プロックを乗せて保管を取る児童が多数いる。	作成済ブロックを時は頼まれて取る職員む。カーを乗せない。	1.いつもお様で子もり子であった	いつもりはでカーに置いておいたブロックを為カーの上に掛けた。	2.対象児の近で対象児を見た	見守りはしていた掛足をかけて落ちる動作が一瞬だったので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は数人の児童にかけて付かなかった。	児童の話しかけに応じ気がなかった。	該児童きの動きを事前に予測してもし声掛け早く対応ができた。	児童の特徴、動作を予測しながら見守る必要がある。	
4124	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	46								3	3	19.7歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折、右肘頭骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の全上のにもよるの不	2.なし	3	2.基準配置	事故発生報告の報告は事に意時が遅れると、故発生に対する低対策が成かった。	事故の発生防止策や事故発生時の対応等、職員に指導する。	2.不定期に実施	12	3.未実施	-	2.不定期に実施	12	施設に破損箇所、特に問題は見なかった。	事故の発生防止のため今後内の施設内点検を行う。指導した。	1.集団活動中・守り	畳んだ紙畳おいた。畳を置いてた。	不要な物は取り除く。	1.いつもお様で子もり子であった	体調も良好でいつもと変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホール内での中であり、対象児が1人で横歩きをしていた様子を職員が離れたところから守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員について対象児れこと見ておから離れたこから守り、事故発生時には近くにもいなかった。	活動を見守っている起きたあ事、環境整備の配慮が欠けていた。	環境整備を行い、不要なものは取り除くよう指導した。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																					ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者の内訳												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4125	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	146								20	17	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつきによる神経損傷の疑い	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		5	1.基準以上配置	–	ヒヤリハットを常に意識し事故発生に心がける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	–	固定箇所にもぶつかる可能性を考慮し、常に注意喚起を行う。	1.集団活動中・見あり守り	ひとつのことに集中しすぎ、前方に不注意による衝突。	日頃からどこが危険箇所についてもに注意喚起を行う。	1.いつもお様もり子であった	1.通気も良く、体調不良はないつもられなかった。	3.対象児の離れたところで対象児をていた	対象児を含めグループ全体を見守っていたが、ゲーム最中で、まさかボール拾いで子供定椅子が見えつかにぶつかるとは思っていなかった為、注意なを払えた	2.担当対象児の者・対象児動きをていかつなかった	対象児が遊んでいるコミュニティセンターホール別館でクラブ室とは離れているので児の動きは把握できない。	–	離れた位置の場所で遊ぶ子どもも、できるだけ見守りができるように心掛ける。	
4126	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23								4	3	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		12	1.基準以上配置	職員が入口付近にいたため、遊戯室全体を把握しているもあった。	ブロックを並べた安全に渡ることができるようにくすどうもたちと一緒に確認ようる。職員の立つ位置を再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	三角ブロックの方に使いて確認が分だった。	ブロックの安全方に子たちと遊びつけども一緒に確認する。	1.集団活動中・見あり守り	–	職員が見守りはしていたが、死角があって全体を見える見位置を守りようする。	1.いつもお様もり子であった	子ども発だちが、ブロックを渡り歩き、ロッカーにけてにいるに見えた。	3.対象児の近で対象児をていた	ロッカーの端に身の上半身をつけ身をつけていたが、ちょうど死角になる部分に三角ブロックが並べられた。、	2.担当対象児の者・対象児動きをていかつなかった	職員1名図書室、見守り1名は他2名関前外見守りをしていた。	これまで三角ブロックを使用して、同じようにアスレチックとしてブロックを渡り遊びをしたが、上学年児童のが渡ることができるようにしてブロックを歩くことができるようにする。	今後は、まず安全に渡れるかどうかを子どもたちと一緒に確認するようにする。	
4127	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	44								4	3	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折(左足)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施		1	2.基準配置	事故発生時は、最の教の体制職員があった。	職員が整わない場合は、運動遊びを見合わせる、支援など、を厚くする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	ボールを使用する安全な遊びで児童と確認する。	1.集団活動中・見あり守り	・「バラジ」という近距離でボールを投げる遊びで、目まぐるしく展開するため、機敏さが求められた。	メンバーに配慮するだけではなく、遊びの内容についても構成していく。	1.いつもお様もり子であった	運動遊びが好きな児童ではあったが、当日は、朝一番の遊びであったせいか、普段より動きが悪かった。	3.対象児から離れたところで対象児をていた	運動遊びでは、全体を見渡せるよう見守りを行った。	2.担当対象児の者・対象児動きをていかつなかった	児童クラブの出欠や事確認や作業などが立てい込んだ。また、他の部屋にも、職員を配置しなければならず、遊戯室での遊びは一人のみの見守りとなってしまった。	準備体操をせずに、運動遊びを行った。	午前中の運動遊びでは、心身面からの準備ができるようにする。	
4128	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60								12	7	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施		1	1.基準以上配置	–	職員配置基準以上の人数を整えていた。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本件の使用遊具は、ドッジボールだが、メーカーによって素材の違いがあり、使用したボールは他のボールと比べて、硬い素材であった。ボールの空気が抜けている為、空気が満たされていたボールがかったもとしてはじけられる。	柔らかめのドッジボールを使用すると、空気も入れ過ぎないようにする。	3.個人活動中守り	–	遊ぶ内容やルール等に改善はなく、使用する遊具を事前に変えることで予防する。	1.いつもお様もり子であった	ドッジボールに積極的に遊んでいた	2.対象児の近で対象児をていた	ドッジボールで子ども遊ぶも遠を見て近で守っていた。	2.担当対象児の者・対象児動きをていかつなかった	サッカーランドなど、それぞれ場で遊ぶ場の所近で見守っており、対象児童に対する動きについては、見ていない。	–	事前に使用するボールの空気圧を確認する。	
4129	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	108								12	10	23.11歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基位節骨近位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1	2.基準配置	外ときと同じように遊ぶ方で遊び方ていなった。	外と室内方の遊び方の違の説明ルールを再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	材質がゴムであり、室内で投げては硬いボールなので遊ぶ少しのだった。	転がして遊んだり、スポンジ製になるなど、狭いでも安全に遊ぶ範囲べるようにする。	1.集団活動中守り	付近で遊びをしているお遊び児童も、気がついり、散った。	周囲の状況をきちんと確認し、その場に適した遊び方ができるように指導する。	1.いつもお様もり子であった	遊んでいた児童の学年が近いため加減しなくても、いいと感じていたそう。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	日頃から高学年はトラブルが少ないため、学年を重点的に見ていった。	2.担当対象児の者・対象児動きをていかつなかった	保護者対応やその他の児童の保育にあたった。	当該児も熟もしるあまり、周囲の状況を確認できていかつ	高学年だからと油断せず、児童の様子をもつとよく観察して指導にあたるようにする。	
4130	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33								3	3	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第四指骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	3.未実施	–	2.基準配置	–	市内児童クラブで統一した事故対応マニュアルを作成した。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	–	児童館内で設備に問題はなかった。	1.集団活動中・見あり守り	–	児童館内で設備に問題はなかった。	1.いつもお様もり子であった	–	4.対象児の見ていなかった	—	2.担当対象児の者・対象児動きをていかつなかった	—	–	全体の活動を見守る際にも、個々の人的特性や動向にも注意して見守りを行	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4131	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27									2	2.施設外活動	19.7歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		3.基準配置	-	事故予防マニュアル策定	2.不定期に実施	-	3.未実施	遊具なし	3.未実施	-	施設の特徴上裏庭ということもあり施設内から届くこともあるが施設の窓から目を離すことはないが、隣のほうで砂遊びを行っている子どもの動きに注意しつつ、目の届く範囲で遊ぶようにし、地面に掘ることのないよう指導している。また、校務員に草刈り作業を依頼していたが、草刈り作業の時間帯に職員が不在になることがあった。	草刈り等環境整備の徹底	4.個人活動中・子どもの遊び	-	おやつ後に食べ終わった先から自由に活動する	1.いつもお様子であった	児童は通常通りであった。転んだりすることもなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故発生時、早いお迎えの保護者対応と、高学年下校時刻の対応（おやつ）とが重なり、事故発生を目撃できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	高学年下校時刻と早いお迎えの児童の対応で玄関付近にいた	-	指導員の目届くように時間帯によって遊ぶ場所の配慮を行う	
4132	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36									4	2.施設外活動	21.9歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		7.基準配置	-	職員の配置については問題はなかった。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	250	1.定期的に実施	12	-	設備・遊具備は不備なかった。	1.集団活動中・見守り	17：00頃は保護者の迎えの多く時間帯であり、保護者対応にあたる職員が手薄になることがあった。	職員が保護者対応にあたる際には、職員が他の声掛けを行い、保育が手薄にならないようにする。また、日没時間が早くなり暗くなり始めた頃には、児童クラブ内の様子をいち早く対応し、天候等の状況に応じ、普段と異なる時間帯であっても、児童クラブへ児童が入室する時間帯を見計らって、職員が保護者へ児童の様子を伝えるなど、連絡を密にする。	1.いつもお様子であった	来所して普段通りの生活をしており、いつもと変わらぬ様子であった。いつも通自由時間を過ごし、クラブ室内へ戻ろうとしているときに。雲梯付近にいる良い童見つけ、駆け寄った。その際、かなりの速さで雲梯から離れ少し場所にあるクラブ室へ戻ろうと飛びつ	2.対象児の室内で対象児を見ていた	広場には児童が雲梯付近に、その他に４名程度の計８名程度がいた。それに対し、職員２人がクラブ室へ戻る声掛けをしていた。雲梯付近の児童に保護者が迎えにきたので、職員一人は保護者の方を向いた。その際に背後を勢いよく走ったが、振り返った児童が、すでに	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周囲には職員が１人いたが、外遊びをしている児童にクラブ室内へ戻るよう声掛、誘導しており、対象児の動きを見ていなかった。	広場内で、各々に対する児童の活動を全体把握するは難しい部分がある。	日頃から職員の配置位置については、出来るだけ死角ができないよう努めているが、本件事故については、発生前に児童の動きに気付くことができなかった。今後はより一層児童一人一人の動きには注意を向け、職員間での声掛け等連携を図り、見守りに抜け落ちがないよう事故防止に努める。	
4133	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33									7	5.施設外活動	19.7歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首橈骨骨折、骨端線骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	子どもの動きに注意できていなかった。	職員が担当箇所を注視するように徹底する。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	10	2.不定期に実施	6	校庭での点検を職員に行う。	校庭の点検を職員が全員で行い、どの危険があるかを認識する。	1.集団活動中・見守り	子ども、職員共に危険な認識が低かった。	子ども、職員共に方、遊具の危険を再確認し、伝え固定遊びをしる。	1.いつもお様子であった	いつもと変わらぬ様子で、同学年の子ども人とも棒遊びをんでいた。	2.象児の近で対象児を見ていた	棒のぼりをしている子どもは全体的に見ていたが、対象児以外のもにかけていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている子見ていたり、鉄棒をしていても守った。	職員が付いたものの、子どもへの意が欠けていかった。	職員全体に遊具の危険性を把握し、危険行前に出る動に注意喚起をする。	
4134	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	56									7	7.施設外活動	24.12歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第一足趾骨端線骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		0.基準配置	ケガ直後は、本児もひどく痛がる様子れず、足右親指の爪から血がにじみられ、がみたので処置後冷やも見られず、そのまま見る。後のはンの練習ことで、迎えに来た際、状況を様子を見て病院の受診を伝える。事故直後の保護者への連絡	患部を見ただけでは、ケガの状況がわからなかった。また、児童によっては痛がるのケガやケガの状況はしっかりと把握し、保護者へ受診を促した。また、状況により、事故直後の保護者への連絡、病院への搬送を早期に行う。しっかりと見守り行い、行を危険な行為に	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	室内で、マット相撲を敷き取ってマットを境に、室内は環境整備をし、ケガ直後の児童の様子を見ていた。	室内では、暴れたり、泣いたった児童に迷惑をかけ行為や、文字かりく表示を行う。また、マットの使用は運動にはない。	1.集団活動中・見守り	室内で、しじっくりとすが、かること、にシ上トレ感況なった能性もえる。	計テンションレスを状ったもの、余りしると、可考られる。	児がなその行動をのか、落ちるどのようなのたけをうなど、本ずに、支援を整え、他の員と力、室で着かなどの対応を行っていく。落ちまでの児関り動を守る。	3.いつもお話題も記載)	学校より登所し、友だちとの会話が大きく、なかなか落ち着かず周囲の児童りに組ん中ウロウロしている児童に、自分の下の子に声かけ、自分が合った。相手の児童は前日から合い続きあった。	2.象児の近で対象児を見ていた	対象マンの状態（対象接児してた）	声掛けを行うが、なかなか落ち着けず、他の児童に絡み、周りにテーブルもあったため、相撲を促進し、環境を整え、5年生の男児と相撲をの見守る。一度が児は出され、終ったかわれと思った後に、すぐさまにかくが、かかえられ下におろされ、右足	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員に、同様に声掛けをしながら、おや片付行い、児童ちとつのけを、の見て相撲を取っているはいるガケ見ていた。	本児は、友一緒に相手をして児に声を掛けを行い、注意促しもなかき寝ずにいるで、そのは、テーブルの児童が、ブランケットを敷き場所を作って相撲を提案したが、テンションが	個々に応じてしっかり寝ずに落ち着けるよう環境を設定に努める。本児だけでなく周囲の子にも、ケガにつながる危険性があることをしっかりと伝える。また、別室にしっかりとクールダウンを行ったり、その後に話をする。相撲は今後室内ではしない。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者			発生時状況	事故の転帰		負傷						ソフト面					ハード面						環境面			人的面							
								人数	異												死亡						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4135	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38								4		2	21.9歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	達面学校が違う子ども内には放感が、言わるが一緒あり、校でルールにくいことも考えられる。	これまで、室内での重いの遊びの指導をしていたので、外で遊ぶ様子を見て危ないなどを児童がいたら、注意するとともに、前もって集団で遊びの時間をお迎えする児童がいたら、お知らせしておくなどの一緒に過ごせるよう会を	3.未実施	-	3.未実施	-	1.定期的に実施	毎日	長年、保育園でイヤであり、塗装分がすくなった。装の摩耗が剥げ滑りやすくなっていた恐れがある。	委員会で上、直接、運営協議の上、ある撤去や取り外しは撤去する。	1.集団活動中・見守り	新しい場所に移って、様々な遊具の安全な使い方が理解できていないことも、一緒に考えられる。	子どもたちを集めて、正しい遊び方や使いどころを、再度徹底させる。	3.いつも活発的であった	日曜日は、故障利用者が多いため、3日目は、利用者が多いため、「ぶり」で、しばらくは、「いやいや」と言われていた。	2.対象児の近で見た	側で、すぐに危険を注意する等声を掛けていたが、転倒の瞬間は、児童がいたため、他の目いっぱいで見ていなかった。	2.担当者・他の職員が動き見てなかった	児童の外遊び他の児童を見た。	転倒の予見性はありながら、厳しい指導をしたり、注意喚起ができていなかった。	怪我に繋がる行為をしている児童に対しては、全ての職員が厳しい指導をしため、注意喚起し、正しい使用方法を伝え理解させる。	
4136	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18								2		2	20.8歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士突き衝突によるものによるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	-	ボールゲームを始めると子どもたちに子どもたちに子どもたちに

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4154	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83									7	2	19.7歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをも、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守り	-	特になし	1.いつもどおり子であった	-	2.対象至対象児の近く象見た児見た	児童の側で見守していをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守り行い、注意を配っていたが事故が	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
4155	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83									8	4	19.7歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	上前歯損傷	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをも、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守り	-	特になし	1.いつもどおり子であった	-	2.対象至対象児の近く象見た児見た	児童の側で見守していをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守り行い、注意を配っていたが事故が	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
4156	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34									5	3	23.11歳	1.男児	怪我をした児童は、過去にも活動中に鬼ごっこ等をして足を捻ってしまう怪我を繰り返していた。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折・靭帯損傷(右足首)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準以上配置	表面に通ていたり、怪我をして児あっをした。鬼ごっこをしていくに繰り返ていく近くの輪車がて足を一置にあった。	子どもたちの活動にて、職員見守りを強化する。鬼ごっこ始める時は、近くものに注意し、どかせる危ものなくところに片付けるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	-	遊び場所につい安全対策、確認を強化する。	1.集団活動中・見守り	怪我をした児童は、急ごっこに参加することなった。鬼ごっこに加すると、一輪車があった。	鬼ごっこすることは、ものにあるものに注意し、どかせる危ないところに片付けて行うようにする。	1.いつもどおり子であった	鬼ごっこ遊びをする所づくり、一年生やきごっこ参加することなった。	2.対象至対象児の近く象見た	担当職員(補助員)は一緒にごっこをしていたが、鬼(怪我をした児童)逃げてしまったので、怪我をした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我発生庭他に職員2名いたが、それぞれ別のところで別の児童と活動していた。	-	鬼ごっこ等するときには、周りにいるものは注意し、どかせるものは危なくないところに片付けてから行うようにする。	
4157	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45									6	6	20.8歳	2.女児	当該児童はもともと捻挫しやすい体質。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		3.基準以上配置	毎年4月月の遊具の使い方について説明するが、守らないなかった。	当該すべり台で遊ぶ時の決まりを、再度徹底する。	3.未実施	-	3.未実施	-	1.定期的に実施	毎日	すべり台はロープ、網等使ったアスレチックのチェックを含まれている。	当該すべり台で遊ぶ時の事まりを、再度徹底する。	1.集団活動中・見守り	外遊びの場合は運動場を使うので、個々の児童に目配りが行き届かないことがある。	遊具での遊びのシーンに、特に目配りをする。	1.いつもどおり子であった	いつもと変わった様子はなかった。	3.対象児の児童たちで対象見た児童たちで見た	鉄棒とすべり台のブランコグループ全体を見て守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	サッカー、吊りブランコグループを担当して見守っていた。	外遊び場合は運動場を使う、個々の児童に目配りが行き	遊具での遊びのシーンに、特に目配りをする。	
4158	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32									5	3	19.7歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	運動会前に全体的に子どもの落ちが無きかった。	けがの注意なども後も行っていく。危険性や状況をな早くべく発見し、けが前できるように職員が広い視野を持つようにする。	1.定期的に実施	複数回	1.定期的に実施	校庭開放のたび	1.定期的に実施	毎日	ケガ防止マットが分をおり、本来の衝撃吸収効果が無かったの可能性がある。	遊具だけなく、今回で付属品、今後付け止マットの状態を確認する。	1.集団活動中・見守り	運動会前に全体的に子どもの落ちが無きかった。	校庭開放前に全体に事前注意ていたが、状況に応じて個別声掛けも行っていく。	1.いつもどおり子であった	校庭開放が始まっすぐ、雲梯へ先に向かっていた。	4.対象児の児童たちで見ていた	校庭全体を見ようとしていたが、対象児の見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	校庭スタッフ(臨時職員)下がっていた。	全体で前に子どもの落ちが着き無いとの有はできなかった。	学童クラブだけでなく、全体で子どもの様子の把握を行う。今回は、校庭へ出た直後の事故だった。より先に校庭スタッフが発見することもあり、校庭に出る際には、支援員がまず校庭	
4159	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	80									5	3	20.8歳	2.女児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指骨折	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	-	遊びコーナーを適切に分け、コーナーごとに適切な指導員の配置。	1.定期的に実施	12	3.未実施	-	1.定期的に実施	12	-	定期的に点検を行うため継続していく。	1.集団活動中・見守り	-	遊びの種類によって遊ぶ場所(コーナー)が適切に使われているか常に見守りをする。	1.いつもどおり子であった	普段通りであった。	2.対象至対象児の近く象見た児見た	動き回るすき遊びをする配置された指導員が見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の員も全員がふつうならないように常時関心をもって見ていた。	指導ふつうないよう注意深く見守っているが、船ゲームをしていた子の動	今回のような場面も想定して見守りをする。	
4160	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27									4	3	20.8歳	2.女児	ADHDとの診断あり	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	肋骨骨折(ヒビ)、頚椎打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	1.基準以上配置	-	他の児童の活動状況を把握し、見守しる。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	-	遊具で児童が遊ぶ場面を定し、遊童に遊際な想定び際のルールを周知する。	1.集団活動中・見守り	んでいる遊具等の遊びについて、遊ぶ方向を決めていなかったため、事故が発生した。	遊ぶ方向を定め、順番に遊ぶよう促す。	1.いつもどおり子であった	-	2.対象至対象児の近く象見た児見た	対象児のそばにいたが、児童との衝突に間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児・担当職員距離あったため、間に合わなかった。	-	他の児童の活動状況を把握し、見守る。	
4161	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	102									14	14	21.9歳	1.男児	空気が乾燥していたため、校庭の細かい砂が滑りやすい状況であった。ボールの表面もほこり(砂)が付着していた。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		2.基準配置	激しいサッカーゲームの見守りのため、児童全体を守る位置になり、人数の見守りとなった。	もう少し、児童にに位置にたの見守りを行う。早めの声掛けなど留意する。	2.不定期に実施	3	3.未実施	-	2.不定期に実施	6	校庭の細砂が、空気の乾燥も相まって滑りやすくなった。	天候状況を把握し、配慮すべき事を検討していく。	1.集団活動中・見守り	起こりやすい怪我や、怪我になりやすいなどの事前指導が不十分だったことを考える。	準備運動だけでなく、起こりやすい怪我や、怪我になりやすい動きについて指導の徹底を図る。	1.いつもどおり子であった	いつもとなら変わらずいサッカー教室に参加した。	3.対象児の児童たちで対象見た児童たちで見た	グループを見ていて全体を守った。該当児童が転倒したことに気が付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のグループの自分担当している児童を見ていて、児童ていなかった。	他のグループの児童の数が多く、人数に差があったので、支援員の配置人数に軽重をも	児童の活動量も加味した配置人数の工夫を図る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4162	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39									4	3	19.7歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上膊部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定に実施	10	1.基準以上配置	突発的な事故に関してはあっという間で、防ぐのが難しい。それ以前の注意喚起やチェックが必要。	たんこぶ捻挫等のケガは、屋外遊技場(倉庫)内で主に発生するので、支援員の人数をそちらの方に多く振り分ける。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	屋外遊技場はスペースも広く、子供たちも一杯遊び回れるため、怪我が発生しやすい。絨毯が滑りやすいものであった可能性がある。	絨毯を滑りにくいものに替える。	1.集団活動中・見守り	-	靴下は脱ぐというルールを徹底する。いつも靴下を脱いでいる子だという思い込みを持たず、必ずチェックする。学年によって使用時間を決めたり、男子と女子の時間を使用決めている。ドッチボールの時は、他の遊びをしない	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	いつも元気で、活発な子。走らないと注意しても中々守れない傾向があり、静かに遊ぶのが苦手で、1年生同士でかくれんぼやリレー、鬼ごっこをするのが好き。	3.対象児からは離れたところで対象児を見ていた。	広いスペースの中央で見守っていたが、突発的に事故が発生。他の職員と協力し、その後外科へ付き添い。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	母親への電話、他の児童への状況確認等の対処を行う。	-	終わりの会指導に力を入れる。	
4163	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	51									6	4	22.10歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定に実施	-	2.基準配置	-	安全管理マニュアル「予防対策」の防内の「子どもへの指導」部分の復習を行う。	1.定期的に実施	12	3.未実施	当所に備え付けられている遊具はありません。	1.定期的に実施	毎日	-	玩具を常に点検する。	3.個人活動中・見守り	-	見守り中間にも時間と共に変化する子どもの様子に気を配る	1.いつもどりの子であった	-	3.対象児からは離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールをしている子どもの他に、サッカーしているそちらのほうの見守りもしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の鬼ごっこをしている子どもたちの見守中であった。	-	職員の配置に予見を取り入れる。	
4164	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	73									4	1	20.8歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定に実施	2～3年に1回	1.基準以上配置	-	事故との関連無し	2.不定期に実施	10～12	2.不定期に実施	10～12	2.不定期に実施	10～12	-	事故との関連無し	1.集団活動中・見守り	-	築山を走ることが事なががっているので、今後は鬼ごっこの際に範囲を決めるなど、築山を走ることがないようにする	1.いつもどりの子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった。	外遊び中に子供たちが各箇所にてて見ていた。本児でも見守っていたが、転ぶ場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの集団または個人を見ていた	-	築山を走ることがないように注意して見守る。	
4165	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	7									3	1	20.8歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首関節骨折、靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定に実施	-	2.基準配置	放課後児童クラブの開所以来、大きな事故発生はなかったが、危機管理マニュアルが理解不十分でなかった。	危機管理マニュアルを研修による実施に職員のよりに周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	経年劣化により、遊具等の十分な管理がでなかった。	定期的に状況確認を化している発見した場合には、修繕等の対応を行う。	1.集団活動中・見守り	気象状況(天気等)による安全確認での確認の不十分であった。	特に雨が降った後は、遊具が濡れることにより発生しやすい状況になるかどうかの確認こかの行うようにする	1.いつもどりの子であった	-	2.対象児の近で対象児を見ていた	-	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	-	外遊びの際、放課後児童支援員による守り十分はなかった。	放課後児童支援委員が外遊びの際の危険性を再認識し、見守りを怠らないように配慮する。	
4166	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26									2	1	18.6歳	1.男児	-	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	支援員等者や保護者が見ていない時間がないに児童がに怪我をしている。	支援員等者ていや保護者が見ていない時間がないに児童がに怪我をしている。

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4169	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	50								7	1	19. 7歳	1. 男児	–	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	腓骨剥離骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	年数回	2. 基準配置	–	事故発生に既に来館していた児童数は50名ほどであり、体育室での開始時間帯であっ事故を開始する帯たため、職員配置には問題はなかったと考える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	–	当該事故に施設・遊具・玩具の要因は見受けられない改善点はない。	1. 集団活動中・見守り	–	先を急ぐように来館する児童が混在し、館全体が落ち着く時間まで時間を要する環境であった。自由遊びを始める前に落ち着く時間を設けることを検討する。	1. いつもどおりの様子であった	プレイルームで他児に強引に誘われ、他児に捕まえられ、警察ごっこに参加し、ぼうや役となった。警察役児童に捕まり、足首を捻った。ただし、本人は乗り気ではなかった。	2. 対象至近で対象児を見ていた	すぐそばにいた他児童への対応をしていたため、事故発生時の瞬間は見ていないが、痛みで動けない児童にすぐに気付き、抱えて事務室前へ運んだ。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時は他児童応、児童クラブ受入を行っていたため、見ていなかった。	–	当該児童が強引に誘われ、乗り気ではないまま始まったごっこ遊びだったことも要因だと考えられる。遊び方や当該児童の精神状態まで観察すべきであり、状況に応じて指導が必要であった。	
4170	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	6								3	2	20. 8歳	1. 男児	–	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左くるぶし はく離骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	年数回	2. 基準配置	–	適正な職員配置であるため改善策なし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	–	小学校内体育館を許可を得て使用していたため改善策なし。	1. 集団活動中・見守り	本児の目の前で友の人児童2名がぶつかってしまったことが要因ら考えられる。	周りの状況を見ながら行動するよう、普段から注意を促す声掛けをする。	1. いつもどおりの様子であった	本児は、運動神経もよく活発なため、鬼役勢いよく走った。目の前でぶつった友人児童2名との衝突を避けるために、そのままの勢いで思い切り体を乗せて止まったため、左足首をひねった	4. 対象児の動きを見ていた	ぶつかった児童2名が先に入ったため、その児童の対応をしていたところ、泣いている本児に気付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていなかった。	まっていたが走ったこと児童2名がぶつかったため、連鎖的に起こった事故であると考えられる。	子どもの動きは予測が難しいので、常に緊張感を持って、子どもたちの動きを把握する必要がある。	
4171	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	67								4	2	19. 7歳	1. 男児	–	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外側上顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	年数回	2. 基準配置	–	帰宅経路上で起きた事故の改善策なし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	–	帰宅経路上で起きた事故の改善策なし。	7. その他	–	帰宅経路上で起き事故の改善策なし。	1. いつもどおりの様子であった	日頃から帰宅途中に遊んだ走ったこ注意するとされるこ多り当日は純上一緒に退館し、姉の速さ歩く遅かっ手引いてたを走っ走めた転倒した	4. 対象児の動きを見ていなかった	職員は、小学校の児童玄関で児童を見送った。退館以降の行動は把握できない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動室での他児童の対応を行っていた。	児童が途中に、走った遊んだりしていたことも要因考えられる。	児童の交通安全意識を高め、道路の歩きかについて指導を行う。	
4172	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	99								8	2	20. 8歳	1. 男児	–	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	右外傷性鼓膜穿孔	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	年数回	2. 基準配置	–	活動前にはよく動き回りをよく動きまわるよう話をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	–	–	1. 集団活動中・見守り	–	子どもたちに目を向けてとさしてし	1. いつもどおりの様子であった	相手が動かないと思走っていたので、ぶつ	2. 対象至近で対象児を見ていた	全体を見ていた時に、ぶつかって転んだので駆け寄って話を聞いた。	3. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の職員は活動室にいなかった。	–	子どもたちの行動の特徴と危険性について再度職員間で共通認識をする。	
4173	令和5年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	76								6	4	21. 9歳	1. 男児	–	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	–	2. 基準配置	本児童は、事故当日は、バスケットボール少年団のケガをした練習をしていたプランあっ達にケガをなるべくとも友人ンターにとっ一緒ぶ気持ち高まり、気持ちと動きのコーいがトルがつかでいず、支援員判断の状況よりたため、起こった事故	支援員等相互が、判断力や身の回り状況や自分の力を高める方法について、関わりの事例研究を行って、支援方を究めていて、支援力を高める。	1. 定期的に実施	開館日	1. 定期的に実施	開館日	2. 不定期に実施	–	屋外での活動は、石などのつまづきやすいし、屋外活動前に屋外のた石や、地面に凹凸がること。	1. 集団活動中・見守り	運動にブランクがあった児童に対し、声かけが不十分であった。	普段から、児童の様子や観察し、運動の状態や観察し、運動にブランクがある児童や、来館する児童には一層の声かけを対して一層注意のよう徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子は なく、遊び加わっていた。	2. 対象至近で対象児を見ていた	屋外を見位置配置し、活動を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内で、見ていた活動守った。	運動にブランクがあった児童に対し、声かけが十分あった。	普段から、児童の様子や状態を観察し、運動にブランクがある児童や、来館する児童に対しては より一層注意の声かけをするよう徹底する。	
4174	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	14								3	3	19. 7歳	2. 女児	–	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨末端骨折	1. 遊具から転落・落下等の	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	–	遊具の使用方法について入所児童に説明。	1. 定期的に実施	毎日	3. 未実施	–	1. 定期的に実施	毎日	–	遊具の使用方法について入所児童に説明。	1. 集団活動中・見守り	–	遊具使用児童への声かけを密にする。	1. いつもどおりの様子であった	–	2. 対象至近で対象児を見ていた	対象時の目の前におり、危険がないように、ようかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	–	遊具使用の際に児童へ声かけを密にする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																																					掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																																																													
			施設・事業所種別					人数	異年齢構成の場合の内訳																																																												
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面						ソフト面																											
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4175	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	97								7	4	21.9歳	2.女児	日光に当たらないように室内遊びをおこなう。激しい運動は避ける。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯2本破折、仙骨骨折、脳振とう	8.その他	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	特になし。	一人一人が視野を広げて保育する必要がある。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	特になし。	特になし。	1.いつもお様でもり子であった	対象児童は行ってはいけない所でいた。	4.対象児の見ていなかった	体育館付近にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児を含め5名の児童が体育館付近で遊んでいることを認識していなかった。	特になし。	視野を広げて保育すること。補助員は見ているだけでなく児童へ寄り添う保育をするよう指導。	
4176	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40								4	2	19.7歳	2.女児	–	6.水遊び・プール活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	–	途中で声掛けをする。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	–	1.定期的に実施	毎日	–	毎日点検をしていることから、改善策はないと考える。	3.個人活動中・見守り	–	できるかぎり間隔をとり遊ばせる。	1.いつもお様でもり子であった	プール中(水中)で他の子たちとビート板で遊んでいた。	2.対象至対の近で象見た	職員4名で監視、プール監視員1名、計5名で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	水中の出来事であって、見えなかった。	–	途中で注意を促す。	
4177	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	64								5	5	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手橈骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	–	一輪車の使い方、一輪車をしていない子どもがいる時の配置について、職員間で確認する。また、子どもたちにも注意喚起を継続する。	1.定期的に実施	随時遊びの前に実施	1.定期的に実施	随時遊びの前に実施	1.定期的に実施	随時遊びの前に実施	棒ころ車のぼりと一輪車の練習をしていたが、大勢を見ながら、一輪車専用の練習はなく、子どもたちが一輪車の練習をしている中で練習する共通認識はあるが、職員がそばで見守り、棒ころ車をしたり、棒で遊んでいる子もいた。	特になし。	3.個人活動中・見守り	支援員の数は基準であっあが、他の子どもも遊ぶ人数準たのが、たんんのため離れたため職員場所で守りのとなった。	すぐに手を付けて位置で助ける見守りが必要だった。	1.いつもお様でもり子であった	一輪車にはまだ乗れず、習中であった。	4.対象児の見ていなかった	校庭には数名の支援員が見守っていたが、転倒時は他対応していて見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にはいたが、離れた位置で、他児の見守りをしていた。	他児の対応があったため、いつも配置している場所に職員がいなかった。	外遊びの職員体制をで多きる限り多くして、見守りや安全確保ができるようにしていく。また、定期的に遊具の使い方や注意喚起の周知を行っていく。	
4178	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24								3	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	3.基準以下	–	人員不足の解消が急務。本人に応募がくるよう、処遇の改善について検討していく。	1.定期的に実施	1	3.未実施	–	2.不定期に実施	常時	–	施設、設備が高えられない為、なし。	1.集団活動中・見守り	–	集団の人数も少なく、集団を視れる状況であっため、改善点なし。	1.いつもお様でもり子であった	特段、体調不良や気持ちが昂ることもなく、いつも通りの様子。	2.対象至対の近で象見た	対象児の動きを見ていたが、手が届く距離ではなく、転倒時に支えることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じく校庭にいた他の児童の集団を見ていた。	–	児童の運動能力に合わせ、縄を回す速度を変えたりといった個々への対応をしていく。	
4179	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41								5	2	23.11歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	–	子どもの様子や動きが活発になったら早めに声掛けをする	1.定期的に実施	6	3.未実施	–	2.不定期に実施	毎日	–	畳の状態をチェックをする	1.集団活動中・見守り	–	支援員同士で、他の支援員場所も気に声掛けを行う	1.いつもお様でもり子であった	数名でボールを取り合って遊べていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子を見られる場所に居て注意しながら見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の部屋で手作りを行う子どものアドバイスをした。	–	1人に任せず、他の支援員ももっと周りを気にする	
4180	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40								8	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左ひじ)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	–	子どもたちの活動に対して、職員の見守りを強化する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	–	遊び場所について安全点検、確認を強化する。	1.集団活動中・見守り	鉄棒下に敷いてあったマットがなかった。(学校で用ていたもの)	遊具を使用する際には気をつけるよう声掛けを強化する。	1.いつもお様でもり子であった	他児と鉄棒で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員(補助員)は鉄棒の近くで鬼ごっこをしながら、鉄棒あそびの見守りを行っていた。怪我をした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我発生時、校庭には他に4名の職員がいたが、それ別の場所で別の児童の見守りを行っていた。	–	広い校庭を見る際の職員配置場所の確認、見守り強化の確認を行う。	
4181	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55								6	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折(右くるぶし)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	–	今回の事故があった学校の階段付近は注意が必要であるこの場所であるということを頭に保にあたる。入れて育に	学校側から伝えられている危険箇所なし異所で故で、支援員の注意意識がなまった能性あ	2.不定期に実施	–	2.不定期に実施	–	2.不定期に実施	–	今後は学校側から聞いた危険箇所だけでなく、クラブ独自に子ども達が怪我をしやすい場所を再認確認していく。	1.集団活動中・見守り	–	支援員はいたので、怪我をしてからの早かった。同じように対応をしていきたい。	1.いつもお様でもり子であった	自分では程度べ跳判断そうだが、思っても衝への撃が強くてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラブの中に連れてこられた児童の状況、急手当施足の応でもしえる保護者へお願いする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	事故の一部始終目撃しており、事情を職員確に伝える。	–	階段は一段ずつ歩くようにと怪我をした児童に伝える。他の子ども達にも同じことが起こりうるので、全体にも周知をした。	
4182	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36								5	3	21.9歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	–	1.基準以上配置	職員配置は充足数は充だが、児童が夢中びになりたため。	事故予防のマニュアルがないので早急に、作成し、研修を行う。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	ケガの予想はできなかった。	床に障害物があったり滑りやすいだけでなく、児童靴もきちんとはいていなかった。	1.集団活動中・見守り	いつもの活動(ドッチボール)なのでただ見守っているだけになっていた。	いつ、何が起こるかが分からないという気持ちを持って、しっかりと担当するようにする。	1.いつもお様でもり子であった	1～4年生の児童10名ほどのいつものようにチーム分かれにムとドッチボールをして遊んでいた。	2.対象至対の近で象見た	審判も兼ねて両チームの間に立ったが、時にいけなかったため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対ホール反対の側で蹴ボールをまわしていたため、見ていなかった。	いつも活動(ドッチボール)で、審判をしながらただ見守っているだけになって	いつ、何が分からないという気持ちを持って、しっかり担当する。児童の心理状態も考慮する。	
4183	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56								5	2	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	下肢　脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具に設置されているのぼり棒は、通常は遊具の下から上にかけて昇ってあり、棒をのぼりから飛び移りされないし遊び方が徹底されなかった為、遊具の上の柵を越えのぼり棒へ移ったり、棒飛びをしたり、手を滑らせ	遊びを始める前に、正しい遊具の遊び方を説明する。危険な遊びをしないよう、できる遊具を見守りを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	–	今回事故発生したのは棒で、遊具の柵を越えない整備を行う。	1.集団活動中・見守り	部屋へ戻る時間がる迫り、部屋へ戻ろうきき上げており、部屋へ戻ろうとした。	慌てずにゆっくり安全な行動を促す言葉かけを行う。	3.いつもよ活活でのあ(理由を記載)	鬼ごっこなく降りて遊びでもあった。急いでが、降りてしまっていた。	4.対象児の見ていなかった	近くで見守り行ったが、他の児童お見てり、瞬間のみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎えの時帯となり、対応並び児童を行っていた。	–	2人の職員が横並びで、同じ方向を向いていたことから、近くに職員同士で連携し、極力死角となる場所がないように気を付ける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
4184	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51								3	5	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中手骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備よるもの	2.なし	3.未実施	0	2.基準配置	事故発生時の対応等が遅れなど、故発生に対する意識が低かった。	事故の発生防止策や事故発生時の対応等、職員に指導する。	2.不定期に実施	12	3.未実施	0	2.不定期に実施	12	施設に破損箇所等はなく、特には見当たらなかった。	事故の発生防止のため今後内容検を行う指導した。	1.集団活動中・守り	畳だ統いた畳を置いておいた。	不要な物は取り除く	1.いつもお様りの子であった	体調も良好でいつもと変わった様子はなかった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	ホール内活動での中であり、対象児が1人で横歩きをしていた様子が離れたところから見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員について対象児が離れたことを見ていたからてろ守り、事故時に近くにいなかった。	環境整備を行い、不要なものは取り除くよう指導した。	
4185	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46								6	3	20.8歳	1.男児	対象児童は、協調運動能力（身体の複数の部位を協調させて行う運動）に不安定さが見られる。（奉頃にもはしごから外足を踏み外したことあり）	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭蓋骨損傷	2.自ら転倒・衝によるもの突による	2.なし	3.未実施	–	2.基準配置	職員が、該児童能運動能達が発達であ不安怪当該児童の力段階り、定さや恐れがあるこ定期とへの認不十識分た。	怪我や事故起こすいポイントについて、職員確認書にまとめる。遊具や保育中に起こり危険性やの定期的な点検を定期的に実施する。	2.定期的に実施	52	3.未実施	–	3.未実施	–	設置されている台の高さに低い。少し滑り高さがあるバラランスンスで転落の危険性が高くなる。	遊具の定期点検は小学校でしてるが、職員が定期的に安全検査を実施していく。室内・玩具についても、定期的に安全点検を定期的に実施していく。	3.個人活動中・守り	遊具は各々に注意守ること。しかし、校庭内にあるグラウンドで遊ぶ児童も遊ぶ児童もいるため、職員は児童の動きを見守りとおるこ必要なるが、職員体制的に児童の動きを全て全善意を注ぐことは困難である。	安全な使いについて、児童へ繰り返し、指導を行う。遊具使用方法について職員間で確認し、定期的に研修を実施する。	1.いつもお様りの子であった	登館時は、普段わら子始めと変ないで遊び始め、事後、母親より日は、朝日は起き早くたため、睡眠もの話あり。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	前日、ブランコで怪我発生したため、ブランコ点検守り導した。対落下する瞬間に気づき、声をかけ寄ったが間に合わなかった。	2.当対象児の動きを見ていた	ウンドで児童の1グラ遊ぶ児守り1名、支援担当者、他児応にあ対象児の対名ておりたり、ブランコ対象児ブランコを見ていなかった。	支援が必要な児童複数おり、個別の対応が必要なことから、人員不足も否めない。各の児童特性を踏まえ、起こりる危険性を見守ることが必要。	職員配置を含め、児童を安全に見守る体制について検討を重ねる。ひとりの発達段階、特性について職員間で理解を深め、保育における注意点についての共通認識を高める。	
4186	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50								6	1	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕亀裂骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	–	日々の中でのヒヤリハットについて、共有すぐ自身のスキルについてとを心がけること	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	–	活動前の大きなもの事とに、子ども活動を想定し、配置範囲を等を行う。	1.集団活動中・守り	–	空間には1名以上の職員を配置し、安心して活動が行なえる環境を作る。	1.いつもお様りの子であった	以前にも怪我をしたことのあった児童であれば、声をかけることもあってもよかった	2.対象至児の近で対象児を見た	声かけを するなど、興味が感じたときには、注意を促す声を行なう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	–	児童やその他の児童に対し、その競技の正しい遊び方や体の使い方を知らせ、安全に遊ぶことの必要性を、時々話をし根付かせ自覚させていく。	
4187	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	178								20	18	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈遠位端骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	–	ヒヤリを常に意識発生の予防に心がける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	–	鉄棒のような特殊使用具を使用は、スタッフの補助を増やす。	1.集団活動中・守り	鉄棒をする補助の仕方が甘かった。	時間を制限し子どもの集中力の短時間だけ遊ばせるする。	1.いつもお様りの子であった	いつも通り元気良く、体調不良はなかった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	鉄棒から下りるまでの補助はした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が遊んでいたコミュニティセンターのホールで児バスケ等のもしたは他の童遊びスタッフは鉄棒をあまりしなかった	–	離れた位置遊の場所で遊ぶ子ども達もでるだけ見守りができるよう心掛ける	
4188	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	62								5	4	18.6歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	登館時の行動いつ児童と、ことの認識の不十分さ。	集会での児童への注意喚起・指導。登館時での路上の実地指導。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	–	7.その他	高齢化による育成支援の人材の不足。	小学校と児童館の協力による街児童の指導。	1.いつもお様りの子であった	いつも通りであった。	4.対象児が見ていなかった	小学校下校直後に発路上で発生したため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	小学校下校直後に発路上で発生したため見ていなかった。	–	集会で、事故防止について子どもに説明し、事故防止を意識させる。小学校と児童館との協力による街	
4189	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	68								7	6	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右足）	3.子ども同士の衝突るものによるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	児童から発生した遊びで、準備・進行等児童さ主導にさせたた、安全対面応にが不足なってしまう部分あった。	児童の遊び方に応じて、職員の配置を柔軟に配置し適切に配置する。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	–	遊具・玩具を遊び中に使用の切するもの遊具を使用とと危ないこに、ないようにチェックしていく。	1.集団活動中・守り	–	楽しみながら安全が確保しよう、児童主体の活動でもあっても、事前に確認していくようにする。	1.いつもお様りの子であった	お化け屋敷遊びをしてみお楽しもうと、順番がくると、すぐに室内に入っていった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	お化け役の児童と、お客役の児童の様子を見ながら、危険を感じる場合には、声をかけ、そばに行き注意しながら遊びを見守っていたが、事故の際には、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋にも別の遊びをしている児童があり、そちらの守りをいた。	職員の関わり、声がけが不十分であった。	遊びの場の事前の危険の確認、遊びのルールの確認をしっかりし、児童もそれに従って遊べ声が遊びていく。	
4190	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49								9	3	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	3.子ども同士の衝突るものによるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	新聞野球をする時を入数・ルールの確認すの。	遊戯室で野球をするスライディングしない事もしないを子ども確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	施設・部屋の大きさに合った遊びを考える。	利用人数に応じた工夫をする。	1.集団活動中・守り	児童館の活毎日の動を上守りが必要。	宿題を終えはなる程度のの人数が宿題わった点で移動するする。	1.いつもお様りの子であった	同級生との野球で、は下級生が相手とで、もも分かりディングをいう行動につなった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	遊戯室には複数の職員が見守り、野球は1人の職員がっかりていた。しかし、スライディングすることは予測できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐに複数の職員で怪我の状態を確認し、残った子ども達の見守りはいった。	利用者の年齢に応じた遊び工夫を指導する。	利用者の年齢に応じたことで事故防止を防ぐ。見守り体制を工夫する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	有無	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
4191	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	117								11	10	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期実施	12	2.基準配置	子どもが見からだを動かしていて遊んでいるケガようなかった部分もある。	遊びの中での事故の発生の予見、事故防止マニュアルや危険個所の再確認等を全て行い職員いまで以上に危機感に危機感を持って遊びの見守りを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	晴天で地面が乾き、滑りやすい状態だった。	小学校校庭のため、学校と情報共有しながら、再発防止を図る。	1.集団活動中・見守りり	事故当日は全校4時限であり、児童ご館で過ごす時間や遊ぶ時間や普段より長時間となった。	児童館で過ごす時間が長いため、ゆったりと過ごすことが出来るよう配慮し、体力や体調に合わせて無理のないようにすることが出来る。	1.いつもお様でもりあった	登館しては、ブランコ、ジャングルジムの周辺で、ボールを使ったり、ドッジボールをしたりして遊んでいた。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールの危険がないか見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	台ブランコ、ジャングルジム等の遊具の周辺、岩や樹木があるすべり台やすべり台で遊んでいる場所で見守っていた。また、館内とサテライト室でも児童がおり、そのお対応をしていた。	外遊びをしている子ども数に対して、外を見守る職員数が十分ではなかった。	館内とサテライト室での子どもの様子にも注意が必要な状態だが、外遊びの見守りも可能な限り職員が多くつけるよう意識する。	
4192	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	88								10	6	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	–	・担当者は、常に一人一人の動きを注視し安全確保に努める。 ・どんなことでも気軽に話せるをつくる。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	–	事前に遊具の使い方のルールを徹底する。	1.集団活動中・見守りり	–	見守りの図徹底を図り、危険な行為が見られた場合には即座に対応する。	1.いつもお様でもりあった	良好で、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒と一輪車の両方を見守っていたが、対象児が落下したときには子方の一輪車の子方どものに目がいっており、手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当場所が決まっていたため、対象児の遊び見守ることはできなかった。	–	担当者が一人一人の動きをしっかり把握すると同時に、他の担当者にも目を配りながら有事の際には複数で迅速に動けるようにする。また、配置人数にも配慮する。	
4193	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16								2	2	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	2.自らの転倒・衝によるもの突による	2.なし	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	–	床が滑るの箇所がないか確認する。	1.定期的に実施	体育館を使用する前	1.定期的に実施	体育館の施設を使用しているので、遊具はない。	1.定期的に実施	日々、点検を行っている。	–	特になし。	1.集団活動中・見守りり	–	体育館シューズを履いて、事故防止に努める	1.いつもお様でもりあった	普段と変わらない人数子だった様子だった。	2.対象至対象児の近で見ていた	全体を見る指導員と児童の遊びの中で遊ぶ入っている指導員に分かれていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	–	今後は、施設の安全点検の徹底を図り事故の防止に努める。	
4194	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62								5	3	18.6歳	2.女児	転倒した状況に対し怪我の程度が重く、今般検査を行ったところ骨形成不全症と診断された。	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左　大腿部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	2.なし	3.未実施	–	1.基準以上配置	–	—	2.不定期実施	安全上問題があるので、事故現場付近には段差やおうとつが多数見られた。	2.不定期実施	安全上問題があるので、玩具はそれの破棄している。	2.不定期実施	外灯等の設置の無が歩いて行った。事故現場の発生付近には段差やおうとつが多数見られた。	外灯が設置されている箇所を歩く保護者に呼びかけを行う。	7.その他	–	–	1.いつもお様でもりあった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	児童が退所し、迎えに来た保護者と駐車場にて向かっている際に転倒したものであり、支援員は現場に居合わせていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が退所し、迎えに来た保護者と駐車場にて向かっている際に転倒したものであり、支援員は現場に居合わせていない。	–	児童を保護者に引き渡してからの事故であり、支援員が今回の事故の発生を防ぐのは難しい。	
4195	令和5年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36								5	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左足腕骨折（全治2か月）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	危険予測ができていなかった。	今後、事例研究等の研修を実施する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	–	–	点検は行っており、ハード面での問題は考いにくく、改善点はない。	1.集団活動中・見守りり	–	支援員の見守りの方について考える。	1.いつもお様でもりあった	いつもと変わった様子はなかった。他児をハンモックに載せる端にかけたために体重をしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が遊んでいたハンモックで、児童はは他がいたシンでプラ付近守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具とは離れた場所で他の児童の見守りを行った。	–	里山に遊びに行く際の支援員の数を増やし、遊具で遊ぶ児童の見守りを行う。	
4196	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35								4	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下 2.自らの転倒・衝によるもの突による	2.なし	3.未実施	–	1.基準以上配置	グラウンドで遊ん子たち、1人1人の行動を把握するのは難しい。	グラウンドから室内に戻る時、急がないように子供たちに度言う。	3.未実施	学校施設の為、童保育所では判りません。	3.未実施	学校施設の為、童保育所では判りません。	3.未実施	学校施設の為、童保育所では判りません。	タイヤと砂場は、砂ばれてこぼれしてこと凸凹いるもあった為。	足元に注意に話足意くし児童に足す。	1.集団活動中・見守りり	1人1人の児童の行動を全て把握できなかった。	1人1人の行動力と体力把握し全て把握は非常に難しい。児童を全て把握することが努力する。	1.いつもお様でもりあった	自、好びしている遊び、終笛を吹いたが、各きをたが、了の笛を聞き時に蹴いまって戻った。	4.対象児の動きを見ていなかった	グラウンド残っている児童がいか、確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった。部屋への引き上げ時だった。他の誘導をした。	児童が部屋に戻り間も母親がお迎えに来たので、児童が我に気づかなかったが、駐車場に向かう	外遊びから帰った後は、異常がないか児童に確かめる。	
4197	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11								3	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	–	固定器具の使い方の再確認と支援員立ち位置の確認	1.定期的に実施		2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	–	日頃から活動について、遊具の使い方の約束り返り掛けるとに、支援員もヒヤハットの意識を常に念頭に入れておくにする。	1.集団活動中・見守りり	一緒に活動するもあるが、利用人数には全渡すなるこるトラブルが発生すると、目を離すもあることを間もる。	児童への遊び方の確認の使い方の再活動での約束をしっかりとも支援員の見守りのりのしたことに、支援員の見守りを再確認し、共通理解の下、子どもたちの見守りを行う。	1.いつもお様でもりあった	–	2.対象至対象児の近で見ていた	遊び方がかっ危なかった。再三声掛けを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特になし。	特になし。	三角ジムの使い方を再度、子ども一緒に考えてみる。	
4198	令和5年5月31日	1.認可	11.一時預かり事業	12	午前中	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	4	0名	3名	0名	1名	0名	0名	0名	2	2	1歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	上肢(腕・手・手指)	右手第二指関節内側部座創	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(6回/年)	基準配置	気もちのなに隙間をないように一人の職員が自責任の持つ。	職員同士が危機管理意識をもち保育に携わる。	定期的に実施	実施頻度(12回/年	定期的に実施	実施頻度(12回/年	定期的に実施	実施頻度(12回/年	慣れや油断を排す職員ように間で掛ける。	日頃から発生危険が状況ないか意識を持ち安全か意識を見る目を高める。	集団活動中・見守りあり	園児によるエサやりは行わず、今後のあげるのであれば職員がエサを子どもから目離さ職員がやり行う。子どもから心も目離さ、緊張感を持ちに見守る。	職員同士が危機管理意識に携わる。	いつもどおりの様子であった	動物が好きで怖がなきでサギウサギに近づく。	対象児の至近で対象児を見ていた	真横ろから見守る。	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)後方から見守る。	職員の公立の位置の備職員同士のコミュニケーション不足	職員同士が危機管理意識をもち保育に携わる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									人数	異年齢構成の内訳							教育・保育等従事者											ソフト面								ハード面								環境面						人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4199	令和3年5月31日	1.認可	11.一時預かり事業	12	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	14	3名	5名	6名	名	名	名	名	8名	7名	1歳	男児	寒い日という事で、児童館のファンヒーターがついていた。ファンヒーターに柵は無かった。保育者同士確認が出来ていなかった。	室内活動中	負傷	—	火傷	上肢(腕・手・手指)	左手 人指し・中・薬指熱傷Ⅱ度	玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	会議を通じ、安全重要性を保育者間で確認する。	未実施	実施頻度()回/年	未実施	実施頻度()回/年	未実施	実施頻度()回/年	ファンヒーターに柵が無かった。ファンヒーターが付いている事への保育者間の情報共有が無かった。	ファンヒーターの柵設置依頼。保育室の児童館での活動中は、ファンヒーターは使用しない。	集団活動中・見守り	児童館、室内という安心感もあり、安全確認が不十分だった。	保育者間で声がけが必要。保育者が安全を確認した後に、子ども入室させる。	—	(具体的内容記載欄)一時預かりの初日であったため、通常時との比較分析不能。	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	(具体的内容記載欄)1対1での保育時、他の遊具に気をとられ一瞬目を離してしまった。	担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体を見る保育者の配置が出来ていなかった。	一時預かり、初日で児童館での動れ出したは、無理があった。	0、1歳児のお子さんは、園や保育者に慣れるまでは、室内・園庭で過ごす。保育室の活動全体を見る保育者を置く。	
4200	令和3年5月31日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69	33	36						21	21	13.1歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	1.定期的に実施	—	1.基準以上配置	—	AED操作方法の研修時に幼児安全法についても研修を行う。	1.定期的に実施	4	3.未実施	前年6月に遊具を新しいものと交換した。	2.不定期に実施	随時、消毒と同時に実施	—	遊具(丸太)点検を安全点検時に行うようにする。	1.集団活動中・見守り	—	活動時子供から目を離さないように注意喚起を行う。	1.いつもお様子であった	体勢は安定した。	2.対象児の近で見守っていた	初めての遊びではなかったこと、その子供の時の体勢が安定していたこともあり、危険な状況ではないと考え近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子供見ていた。	—	・丸太付近には必ず保育士が両側に分かれて2名つき、丸太に上がった子供から目を離さないようにし、素早に対応が取れるようにする。・職員一人ひとりが危険予知能力	
4201	令和3年5月31日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	12	8	3	1					7	6	14.2歳	1.男児	遠足のため、日頃行かない公園を訪れた。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	右前歯骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	1.定期的に実施	—	1.基準以上配置	—	防寒のための上着も、素材によって鉄節ではすべり滑りやすいことを周知し、幼児が遊具に触れている時は側に付き、目を離さない。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	室内で使用する大型遊具は、使用前に必ず点検している。	1.定期的に実施	毎日の消毒の際に、留めほつれ・ひび割れなどを確認している。	—	滑りやすい素材の着ていることを危険を認識する。遊具の対象年齢を守る。	1.集団活動中・見守り	—	遊具使用時に起こりうる状況を考え、職員間で周知する。	1.いつもお様子であった	特になし	2.対象児の近で見守っていた	遊具の両端に職員がついていたが、対象児の行動が瞬間的だったため、手が届かなった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	シーソーの遊具だったので、両端に他の両児がいるとき、職員が補助していた。	—	・児の居るところには必ず職員が付き声掛けをする。・危険と思われないような状況でも、児の行動の様子は職員間で声掛けをしかっり行う。遊具の対象年齢を	
4202	令和3年5月31日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	11		5	6					4	4	14.2歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	—	遊びはじめは楽しいジャングルジムだったが、慣れてくるとわざとりすけた姿を見た。気づいた時点で危険を察知し止めるようにする。	1.定期的に実施	12	3.未実施	遊具なし	1.定期的に実施	24	—	遊ぶ前にがな検破損がないか点検する。危険な遊び方になっていないかしっかりと見る。	1.集団活動中・見守り	—	見守りながら、遊び方が激しくなっていると感じたときは落ち着いて遊べるような言葉をかける。	1.いつもお様子であった	普段から本活発な子ども。トランポリン上でと転倒することが多かった。	2.対象児の近で見守っていた	共にトランポリン上で遊んでいたが他の子どもに目を配った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場担当者、担当者などに分かれていた為、見ていなかった。	—	楽しんで遊んでいる時でも遊び方が激しくなったり事故につながりそうだと感じたときは、その場で声をかけて落ち着いて遊べるようにする。職員は視野を広げ全体を常に見るようにし、危	
4203	令和5月31日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		2		2		1		2	1	15.3歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	—	てんかん≧迷走神経反射>不整脈	8.その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	再発防止要因分析は該当しないが、その他要因による事例を想定し、施設・玩具の安全確認、各マニュアルをより太字で印字し直し、室内が見渡せる場	
4204	令和3年5月31日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17			5	10	1	1		2	1	15.3歳	1.男児	事故当日、●●外科に行ったが、捕がりレントゲンがうまく取れなかったため、翌日、●●整形外科に行きレントゲンを撮ると、左ひじと左手首の骨折を確認した。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折(肘)、左手関節骨折(手首)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	—	外に出る際は、必ず、一人以上のスタッフが見体全体を見える位置に配置する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	—	柵を新たに追加し、転倒すを予防する。	1.集団活動中・見守り	—	移動の際は、英語教師に協力してもらい、必ず複数人で移動を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	予定にない園庭への移動で、気持ちが高ぶったように感じた。	4.対象児の動きを見ていた	他児の靴を履くこを手助けをしていて、目をしていて、離まった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児と一緒に鬼ごっこをしていて、資格となる場所に移動した。	—	園庭へ出る場合は、必ずもう一人、スタッフを配置するようにする。園児との遊びの中でも、死角に園児がいないか気を配り、エリアを区切るなどして、確実に動き	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4205	令和3年5月31日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11									3	3	14. 2歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	剥離骨折(右手小指)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	—	2. 基準配置	—	—	1. 定期的に実施	都度実施 危険箇所の共有を行っている。	1. 定期的に実施	都度実施 ゆキのみ・剥離ネジれ・破損等がないか使用前に確認をしている。	1. 定期的に実施	都度実施 玩具提供にその年齢に合った玩具か確認をしている。	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	午後のお迎え時間帯であり、保護者の出入りが多いため、本児ちが落ち着き集中力がけてしまったことが考えられる。	お子様の興味、関心がある遊びもの、遊んでいる様子を見極め、活動の切り替えを行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	普段から動きが活発なお子様であったが、受傷する前の遊びでは落ち着いていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	3名の保育士のうち、保育士Aは勤務終了にて退勤するため、残る保育士Bに引継ぎを行っていた。保育士A, Bは本児の姿が見える位置で引継ぎており、本児が立ち上がる際も目視している。保育士Cは本児から少し離れた位置で膝の上に他児1名を座らせ、近くにいた他児2名と会話を	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	保育士A, B, Cは担任であり、上記の通りの動きがあり、他保育士は各クラスのお子様の対応を行い、見ていなかった。	紐通しでの遊びを長時間行っていたが、遊びの中で遊び	発達年齢やお子様の様子に応じた活動や遊び方の提供を行う。発達状況を危険予測を把握をし、保育士の位置を確認し合い配慮する。お子様の発達段階を再確認にし、保育士間で情報共有をする。	
4206	令和3年5月31日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	4	2	1	1						3	3	13. 1歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	—	1. 意識不明	1. 頭部	脳震盪	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置		—	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	新聞遊び後の片付け時間、本児が小走りで走ったため転倒する。	部屋は走らないよう伝える。	—	皆で新聞紙の片付けを行っていたので、本児も意欲的に片付けをしようと小走りで走ることにより転倒する。	—	1名はごみ袋を持ち子ども達新聞紙を持ってくるのを待っていた。2名は子供たちと一緒に片づけを行っていた。	—	—	—	—	
4207	令和3年5月31日	2. 認可外	17. 地方単独保育施設	12	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	8	名	名	名	名	5名	3名	名		2名	2名	5歳	女児	特に無し	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・指)	上腕骨顆上骨折	遊具等の転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	水分補給の声を掛けた事によって水のけよって水分補給を掛けた事に本児が滑りはじめた。また職員が遊びの子どもが何人ていけない等の声が無くまた職員が同士で行った。落下が残る掛けが本児の近くなどの落下なくて無くて行くのでが、を防げを防げった。	保育士が子どもの目を離れる時は、必ず職員が1人、必ず職員を掛けるとく固定遊具に固定遊具に残っている場合は全員が下りを確認する。	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(回)/年	定期的に実施	実施頻度(回)/年	公園の固定遊具について使用年齢の確認を行ったが、過ぎた時間帯とも5歳児クラスは使用できるようになり合同保育中で、5歳クラスも使用することになっていた。	慣れもあり使用年齢でも遊べるようになる遊具に掲示されている年齢を使用する。	集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいる遊具であっても遊具は6歳児クラスに対象だった5歳児クラスは大きい4歳児クラスには無理があったと思われる。	同じクラスの下の合同保育にあった遊具を遊んでいぶ。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)朝保護者と離れたいあったが、特に後わっ元気んでいた。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)水分補給の為に子ども達声をかけ、本児離れてベンチに移動していた。	担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)水分補給掛け固定遊具の声を聞き、本児が滑りはじめ、また滑りはじめ、本児が滑りはじめ、本児が滑りはじめ、本児が

No	初掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																																															
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																													
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転倒	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4210	令和5年5月31日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	2	名	名	2名	1名	名	名	名		2名	2名	2歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	—	—	定期的に実施	不定期	定期的に実施	不定期	定期的に実施	不定期	—	集団活動中・見守りあり	走り回るスペースがあるから追われるスペースが狭く、行動範囲を狭くし遊ばせる。若い絵本等の体をさいびを勧める。後ろからの追いかけることを楽しんでいたが、早い直ぐに追いつかれていた	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)楽しんでいた	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)何度か声かけしながら替えをら見守った	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)何度か声かけしながら替えをら見守った	何度も声かけしながら見ていたが供がバランスを崩してしまった。	子供の動線を考え上に注視する	
4211	令和5年5月31日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	1	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	異年齢構成	21	6名	8名	7名	名	0	0	10名	8名	1歳	男児	入園時より乳・卵のアレルギーがあり入園時の医師の診断書に基づいて乳の除去食対応をしている。(当園では卵は初めから献立で使用していない)。アトピー性皮膚炎の症状があり、園でも毎日軟膏をを塗布している。	食事中(おやつ含む)	負傷	—	その他	食物アレルギー牛乳によるアナフィラキシー	アナフィラキシーによるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	混入・誤食を予防する配膳の仕方で園のマニュアルに足りないところがあった。	施設が所在する都道府県担当部局の「食物アレルギー対応ガイドブック」とに、以下のとおりに、以来ていなかったところを改善する・除去食はアレルギー児用のピンクのお盆に載せて提供。除去食は無しの時は他児と一緒に運んでいた一アレルギー児の食事はどの食事の場合も色を変えた長盆に載せる。コーナーとしし場所が狭かった。混入・誤食を防ぐに十分な距離をとってアレルギー児の配置ときかった。食事をすの際は、誤防ぐ十分な距離を取って食事をアレルギー児の配置よにする。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	食事(おやつ)中	当該児とA児が机は別とはいえ横に並んで座っていて手が伸ばせる距離だった。担当保育士が当該児についてはいたがアレルギー児と児両方食事をしていた。	アレルギー児の場所と机の配置は、横に園児が並ばず、手が届いたり、こぼれたものが飛び散っていない場所にする。アレルギー児の喫食中は常に保育士一人が付き、目をさないよう体制とする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)当該児は1歳7か月を過ぎ、動きも興味も活発食欲も旺盛になってきて、近くに置かれた他児の牛乳コップに興味を示し手を伸ばせる危険性も考えられる。当該児を待たせるような時間ができまった。	対象児至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担当保育士は当一人で当該児と、普通児2名(A,が座っている机を担当している。Bが食べ終わりとした。担当保育士はBの手を拭くなどをその体が当該児が視線に入らない勢になった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)もう一人の常勤保育士は見ていなかった。3人非常士が寝る側に空間にそこの子を見ていた。	担当保育士が複数の子を世話する役割になっていて、担当保育士が当該児の行動から目をさないように注意していたが目を離してしまった。子も同手く横なのに並ぶ方してっこに座にしまった。	アレルギー児の座る位置、保育士が座る位置を変え、混食を入・誤食をようにする。アレルギー児が食べている間は常に1対1で対応する等、保育士が目を離さない体制を取る。日頃から園長・主任の管理指導を徹底する。	
4212	令和5年5月31日	認可外	18.その他の認可外保育施設	2	午前中	施設外(園外保育先・公園等)	異年齢構成	17	0名	6名	0名	0名	0名	11名	0名	一時預かり	3名	2名	6歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左薬指複雑骨折及び開放骨折	玩具・遊具等施設・設備の安全不備よるのにもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	運営会社全作成の共通のマニュアルは備え付け、読み合わせ等行っていた。園の実態に即した内容は込めとしない。園に詳細な容落めて。	職員と運営会社の担当マネージャーがミーティングを行い自園にあった安全チェック表を作成。職員ミーティングで全に周知する。また活動以外のチェック表も見直し行う。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	自園の管理用の安全チェックが必要	園児を公園に入れる前に、園児園にる作成した戸外活動用のチェック表を作成し、安全確認を行い、安全できてから公園に園に公園から入り活動を行う。	集団活動中・見守りあり	職員数は適正。園児との関わりを行っていたため、全体的に視野を広げ見守りができていなかった。	公園使用は予め職員の人数及び公園内での立ち居地を確認共有する。	いつもより発・動あった	(具体的内容記載欄)戸外活動ということもあり、保育室内で過ごすよりは活動的になっていた。	対象児動きを見ていなかった。	(具体的内容記載欄)職員数は適正。園児との関わりを行っていたため、全体的に視野を広げ見守りができていなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)担当職員とは別の職員との関係で行っていたため、全体的に視野を広げて見守りができていなかった。	戸外活動時の各職員の立ち居地、注視すべき場所や範囲の確認が不徹底であった。	環境面同様に、公園使用時は予め職員の人数及び公園内での立ち居地を確認共有する。	
4213	令和5年5月31日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	名	7名	8名	名	名	名	名		5名	3名	1歳	1.男児	事故と因子関係なし。天候：晴れ	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	配置基準以上の制外保育のため該なし	上記の通り要因は該当する事項がないため特になし	3.未実施	実施頻度()回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	園外のにて、園に園児要は該当する事項は特になし	上記の通り要因は該当する事項がないため特になし	環境面おいては要因にて考えられるものは特にし	上記の通り該当事項がないため特になし	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)天気もよく子供たちスクの子供と合いながら遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)見ながら至近で守りから全体の様子を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)それぞれ人ずつの子供守りを全体を見ていた。	常に職の手届く範囲内での保育を行うべきだった。	本案件の全職員におけるミーティングを実施の上で共有。園児の手の届く範囲内の保育を徹底できるようにするための定期的な教育研	
4214	令和5年5月31日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28	名	名	4名	8名	10名	6名	名		6名	3名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	自分の番をと待っなかった。広い視野で観察できなかった。	鉄棒では必ず保育士の指示のもと子ども達が組めるようにとを取りるきちんルールを話すことを保育者に職員MTGにて話し、共有、指導を実施。	1.定期的に実施	実施頻度(常時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(常時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(常時)回/年	異物や動物のフンなどもよられるなどくるる必ず保育者が入っの遊びに入るに徹底。	少しでも見常がられる場合は必ずスタッフ、園長へし、使用を中止	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒には問題なし、整列後のもの子足	クラスも含め、公園での見守り方を再度見直し、共有する。子ども達には、保育士の合図を待って鉄棒に乗るというルールを再確認した。	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)公園の鉄棒にかけ回りの練習の為鉄棒にて整列、1人ずつ順番に練習していた。本児は嬉そうに自分の番を待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)該当園児の前のアドバイスをかけていた為、そばにいながらも視界にお入ってはいらず、転落の直前きに気付きとっさに助けに入るも止めることが出来な	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)広く園児の動きを観察し、少しでも危険が予測されたら速やかに注意喚起	園児が自分判断で行動移しまうかもと予測ていなかった。	年長クラスは鉄棒には必ず保育士の指示を待ってから上がるという約束を話すと共にそれでもまだ鉄棒ではより広い視野で危険予測をしながら取り組むこと。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面							ハード面							環境面			人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯												うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4215	令和5年3月31日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	28	4名	7名	4名	6名	6名	5名	名		3名	2名	2歳	2. 女児	—	8. その他	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左中指環指開放骨折	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	保護者A仕事の都合で、慣らし保育に十分な時間が取れないことを了承の預かりを上お預かりしていた。	慣らし保育期間を子どもが安心できる状態になるまでと十分にとること。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故の机は出したりしまったりしたが、事故当日は出したままになっていた。	事故の机は廃棄。子どもが力を加えて動かせるものであるは、使用時以外片付ける。	7. その他	机の下や部屋の隅、狭い場所が好きである。	常に目の届く範囲で見守る出届くことが出来るよう、死角がないように室内の点検をした。	1. いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)入園１２日目で、まだ園に慣れていない、大きい集団での活動はまだまだ難しく、安心してもらえるようにご対応として、園長の側で過ごすことが多かった。	4. 対象動児の見ていなかった	(具体的内容記載欄)おやつを食べた部屋には、隣室でのお帰りの会が終わると園児が入室してくるお帰りの会が終わるまでの間におお園長やお後の室内清掃を行いた。清掃しながら対象児には声掛けを行っていたが、事故の瞬間には見ていなかった。	1. 担当児の者・対象児動きをていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)おやつを食べた部屋には、隣室でのお帰りの会が終わると園児が入室してくるお帰りの会が終わるまでの間におお園長やお後の室内清掃を行いた。清掃しながら対象児には声掛けを行っていたが、事故の瞬間には見ていなかった。	慣らし完全終了までの期間には個人差がある。安心した態で活できるようになるまでは目を離してはならない。	室内清掃は全園児降園後に行う。職員は常に子どもから目を離さない。	
4216	令和5年3月31日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	11	0名	0名	0名	3名	2名	6名	0名		3名	2名	3歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足脛骨折	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	—	今一度、しっかりマニアルを確認し再発防止に努める。	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	玩具や遊具の事故ではなかったが、危機感が軽薄であり、今後は、起きるかもしれないという危機感が必要である。	再度、遊びのルールを毎時園児、職員と話し合い保育をする	1. 集団活動中・見あり守り	—	再度、遊びのルールを毎時園児、職員と話し合い繰り返していく。	1. いつもどおりの様子であった	ここに走ったりしたりどうしたかはわからないが、気付いたはずが時にはすでに転倒していた。	4. 対象動児の見ていなかった	全体を見位置せる子ども園庭で起きた事故だった為見ていなかった。	1. 当児の者・対象児動きをていなかった	2. 担当者・対象児動きをていなかった	園児ボックスと遊んでいるとポツ見ていた為見ていなかった。	職員全体を把握できるように各位置にはいけば個々の関合結すべてをとりこれていない。	職員同士、常に声を掛け合いの動きをとしっかりと把握する努めていく。	
4217	令和3年9月30日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	18									5	5	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足親指にひび	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	—	子どもの活動環境配置等に問題なかったため、特になし。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	—	今回の事故に関しては、施設・設備の影響は無く、改善なし。	—	—	人員は十分、見守り体制にも問題なかったが、特になし。	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象至児の近で象児を見ていた	1. 歩様子がすぐに見られたが、痛がる様子があった為、看護師にも連携。看護師と様子を確認し、腫れ等見られなかったが、念の為に10分程冷却対応。	1. 担当児の者・対象児動きをていた(至近距離にいた)	保育教諭は、対象児が遊ぶスペースを気にかけながら、子どももしばらくは、特に気付いた。ミルクを飲ませる教諭は、そのペースを全体的に含め見渡せる位置にいた	—	見守り体制を取り、マットを敷く等環境配慮が出来ていたため特になし。	
4218	令和9年9月30日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	27									5	5	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. あり	3. 未実施	0	2. 基準配置	プール事故等に関する予防のための園内研修は毎年定期的に行ったが、室内での怪我等に関する予防のための研修は定期的に行われていなかった。	事故予防関する毎定期修を毎年度に行う改善する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	畳上で転倒したが、原因になるような障害物や畳は当ならなかった	1. 集団活動中・見あり守り	対象児は通常おとなしいタイプで、その発達に対応してタイプを走ることもしたが、その事態がしばらくなかったため、対応に遅れまったと考える。	日常的におもちゃを児童に対して、突発的に走りやすいことがあることを職員間で共通ところ。	3. いつもどおりの様子であった	活発で動的な活動(理由を記載)	クラスでの活動が走ってしまったり、飛び出しまった	2. 対象至児の近で象児を見た	複数のこどもと一緒に対象児童と遊ぶが、急に転倒した児童に合わなかった	1. 担当児の者・対象児動きをていた(至近距離にいた)	他児童も含めと一緒に遊ぶ。その様子を見ていた転倒が間なくなったためわかる	対象児童は通常おとなしいタイプで、突発的に走りだすことがあるため、その突発的な事態に対応が遅れたことがあった。	日常的に突発的な出来事や転倒することを職員間で共通の意識として持つ。	
4219	令和3年9月30日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	19									2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折部骨折	2. なし	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	—	事故防止マニアを作成する。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	—	特になし	1. 集団活動中・見あり守り	—	遊園内外園児が危険なところを出ふ園児が保育員全できるように書き士が捉えるする。	1. いつもどおりの様子であった	その時刻でこの遊ぶが多いが、天気が良かったので散歩には出かけた。	2. 対象至児の近で象児を見た	２列になって手をつないだ園児をはさん、列の前後に担当がついて見守り歩いた。	1. 担当児の者・対象児動きをていた(至近距離にいた)		園児と環境下で事故が遊び場内で、園の児の持ち揚げ高いた。担当保育士が	出かける前に落ち着いた状況の時、散歩の安全な途中での行動の仕方を話し、注意喚起を行う。	
4220	令和3年9月30日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	26									2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折	2. なし	2. 不定期に実施	6	2. 基準配置	廊下を走っていろいろ子がその意ればそれ注意よとしてはいけるようにしたが、その時は他児に関わって声掛けをしていなかった。	廊下では走ってはいけないということを知らせるようにかりやすく。	1. 定期的に実施	25	1. 定期的に実施	25	1. 定期的に実施	24	廊下の直線距離が長く、非常に走りたいという思いがあり。	走りだせないような廊下の環境を工夫する。	1. 集団活動中・見あり守り	—	遊び時間の使いは、子ども自身が通行する方法や仕方を、自身で気付くように伝えよう。	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児の場所から離れたところで見ていた	保育室の様子から見ていた。	2. 担当児の者・対象児動きをていなかった	他のクラスの保育を行っていた。	—	廊下は、他のクラスと共有するところであるので、4歳児学年も幼児学年は異年齢で職員の連携をしっかりとしる。	
4221	令和3年9月30日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42				15	11	16			2	2	15. 3歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折上骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. 定期的に実施	6	2. 基準配置	鉄棒の近くに保育士がおらず、事故の瞬間を見ていた者がいなかった	鉄棒等、危険な遊具の傍には、職員は、職員を配置する。遊具の使い方について今一度園児と確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	鉄棒の高さも適正で、にもがあり、元マットで敷いるため、設備面では問題なかった。	見守り職員の強化	1. 集団活動中・見あり守り	職員の目届かかった	戸外での配置増や全体見守りく職員を園全でいた	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一鉄棒まりていた	4. 対象児の見ていなかった	砂場で他児と“ここそび”して遊んでいた	2. 担当児の者・対象児動きをていなかった	園庭にあ山でもどもとんで	—	配置する職員を増やし、各所に届目が行きくようにする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
4222	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（骨のずれ）	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	ここ中に危なくなるあぞ夢は危険ことの周囲のもの人やもにのぶつかるがなどして危険かも注意環え、声賭けろ。	鍛えるあぞびを取り入れ、自分をよくらけが防げうにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもお様子であった	・活発である	3.対象児から離れたところ児を見ていた	運動場で全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・支援対象の遊びをしていた	特になし	特になし
4223	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	1									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	—	事故に関する予防研修会へ参加し保育教諭を積極的に参加させる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	1	—	事故として園庭にラバー面施行し、事故防止、怪我の軽減を図っている。環境面ては対応策はは出来ないと考えている。	1.集団活動中・見守り	—	活動内容に説明を充分に説明、事故防止の観点からなる注意を促す指導をする。	1.いつもお様子であった	対象児童の健康は良好であり、保育指導の通り、教諭の通り元気にフープを追いかけて走った。園庭中央付近の児童でバランスを崩して転倒。	2.対象児の近で見ていた	児童がフープを追いかけて走って行くのを見守っていたが、何もないところでバランスを崩した。倒した。手を差し伸べたかったが、どうしても出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任１人クラスをていま他のクラスは活ていたた、クラス園庭で動しなかった為、他の保育教諭はいなかった。	—	保育教諭による見守りを強化する。	
4224	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	198	7	20	39	48	34	50			28	27	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	朝の一斉活動は外に於ける活動（遊び）内容ルについてのルールは有った年長児等の体力のある児童の活動内容に対する配慮があると考えられる。	異年齢に依る一斉戸外活動であるので年長児等のある他の児童が思の児童に衝突しない様、走り回ることを禁止する。更に「思いやりタイム」を設け、時間帯は児童全て対象に対し、走り回ることを禁止する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	1	園庭に於ける全児童が一斉に走り事を勢いて余裕が出ないたられる。	事故として園庭にラバー面施行し、怪我を軽減しており、今回の様な事故を防止するは園児が活動する安全できる余裕空間の確保が必要である。その学年外時間に時差を設け、安全空間の確保を図る。	1.集団活動中・見守り	—	一斉活動（遊び）内容を園児に充分に説明する。また、事故防止のため、他の児童と衝突しない様にも周り児童に注意をうに指導する。	1.いつもお様子であった	対象児童の健康は良好であった。台形ジムで遊んでいたが、水分補給をとるよう茶の間場にてかって走っていたところ園庭中央付近の児童と衝突した。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいた見ていた園児守ったのでいた突ところは見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児の動（遊び）で衝突ていたことは見ていなかった。	活動（遊び）に危険ないか見守る担当配置保育教諭と園児共に活動（遊ぶ）するフリー配置保育教諭に役割が分担されているが、事故の瞬間を目撃する保育教諭はいなかった。保	保育教諭の危険予知に対する意識の向上を図り、園児の見守りを強化し、園児の危険と思われる活動に注意、指導を行う。	
4225	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	—	特になし	1.集団活動中・守り	何度もしなった遊びのできない細心注意ことができなかった。	鉄棒遊びをするもの育すが必ずが付きうこと徹底する。	1.いつもお様子であった	園庭での自由遊び時に、鉄棒を掛けらうとして足を掛けていた。足を掛けたことを損ねこと手滑ったことがこのまま落下する。	2.対象児の近で見ていた	園庭で周辺の子どもの様子を守り、声を掛けて子ども応へ応えていた。対象児の鉄棒から離れた際に声を掛けず、手を伸ばすに届かずに対象児が落下する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・園庭全体が見渡せるので、子ども一人ひとりの様子を保育者1名、声をかけて子ども応えていた。・子ども一緒に遊ぶ対象児が少し離れた場所で鬼ごっこをしていた。（対象児は、鬼から隠れるために、保育者が必ず一緒に遊ぶ。）	園庭で自由遊びの時に、鉄棒に足掛けらうとしていたことが、足を掛けたことが損ねこと手滑ったことにより、このまま落下する。	鉄棒遊びをする子どもの傍に、保育者が必ず付き添うことを徹底する。	
4226	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29			7	5	7	10			4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕（肘）骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	園児の遊びで、けがにつながる遊具扱い方の等、予測できるようにする。	事前に安全な遊び方の指導（確認）を行うようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	特になし。	園庭も広い地面ら平らで今期検ある。定期的に点検、安全な環後も遊ぶ安全で整備ことできるよこのようにする。	1.集団活動中・守り	自園より園庭広い園動で、活動的に遊んでいた。	活動場所に合わせて職員配置を行い、遊びの様子を見守り、注意の声かけや援助ができるようにする。	3.いつも発動的活で活発である。（理由は記載）	園庭にあるいろいろな遊具で活動的に遊ぶ。途中上り、兄が輪ここ車の上に、乗りこ三後ろ立ちして遊びが楽しい。遊びがなしり、「もっとやくはいで」話した	2.対象児の近で見ていた	対象児が一緒に遊ぶ様子を近くで見守っていた。危険は対象児と子どもなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊びに参加した、見たり守っていた。	特になし。（職員は、遊んでいるこの園児様子見れるようにするように配置した）	今後も活動場所に合わせて職員配置を行い、遊びの様子を見守りながら、注意の声かけや援助できるようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4227	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26			10	7	9			2	2	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子どもの衝突による	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故は、過去の事故や、ヒヤリハット等の起こった事ここには関しては注意を促せるが、そのことに対して危険予知の危険予知能力を経験年数に応じて高める様な研修を行う。	元からあるマニュアルばかりでなく、職員一人一人が思う危険個所、回避の方法を出し合う様にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	今回は、遊具での事故ではなかったが、遊具や施設の安全点検や使用法や約束事確認を、職員と共に繰り返し行いたい。	1.集団活動中・見守り	遊びに対して配慮する必要がある。	いくつかの遊びを提供しての人数や空間のバランスに偏りがない様に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもマイペースな給食も早く食べ終わる位だった。午後の預かりの時間は友達と追いかけっこをしていた。	2.対象至児の近で対象見た	本児とぶつかってしまったボールで遊んでいた。	2.担当者・対象の動きを見ていなかった	ボール、アスレチック以外にも型積みでも遊んでいた。大木を遊んでいる為、そちらについていた。	児一人ひとりの動きをよく見る必要がある。	自分の周りの児のみではなく、視野を広げ全体や他の担当職員の近くの児の動きも見る必要がある。異年齢で過ごす際は、年齢により活動の仕方が変わる事や、預かりでは担当が週ごとに代わる為、クラス単位で過ごす午前中の児の姿、性格や感情面、友達との関わり等を毎日	
4228	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	6	19						8	6	13.1歳	1.男児	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足大腿骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	—	マニュアルを保育室に貼っておく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	つまづきやすいものは、取り除くコーナーを設もしまづきも取り除く一置し、子が散べて遊び環境を作った	1.集団活動中・見守り	—	当事者クラスで、事故のつい場は、今後、事故ないようにしただけでなく、全体で怪我について合い設け、全体で怪我・怪きが起きに	1.いつもどおりの様子であった	保育教諭に抱っこされた	1.対象児とマンツーマン状態（対象児にしてた）	前向きで、抱っこして手洗まで移動していた	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	抱っこを移動場面としてる見た	—	抱っこをして移動するときには、特に気を付けて足元をしっかり見て移動する各コーナーに保育教諭がつく。少人数グループで保育をする。副園長・主幹保育教諭などが危険な	
4229	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自転車・衝突による倒れ	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	5歳児は、10月中旬から午睡がなく、生活リズに変化があった。事故発生時は、園児が落ち着きに体力が疲れやすい時期での戸外の遊びであったとされる。園では、『遊具園庭での約束』を職員全体で共有しているが、平成27年度から使用することなった別館（5歳	午睡がなくなってからの園でのし方を園児の様子に合わせて見直していく。別館（5歳前）園庭の遊び方について園内で検討を行った。スペースとなども含め4、5歳児が走る活動やボールを使用する活動には適さない為、園庭や裏園庭で行うことを『遊具・園約束』に加えてい	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	別館（5歳前）園庭は、砂・畑・植木もあり児が遊び適さない危ない。	事故後、緊急リスクマネジメント委員会をもち別館（5歳前）園庭の遊び方について検討を行った。幼児が走る活動は環境で適していない。別館（5歳前）園庭の遊びについて検討をし職員全体の共通認識とする。	1.集団活動中・見守り	事故が起こった場所は、地面の凹凸や障害物はなかったが砂が多い状態だった。	定期的に計画し園庭にまった砂を運び行く。	1.いつもどおりの様子であった	体調も良く、普段給食後室内で休息をとり、戸外遊り給食友だちと一緒に〔本児を含め4名〕で、ボール〔サッカー〕をしていた。片付けの時、本児が室内に入りたいと気持ちかんしゃくを起こすことがあった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	『砂場』、『園庭真ん中のボール遊び』、『畑近く遊び場』、『砂場』をしていたので全体が場見ていて守った。	1.担当者・対象の動きを見ていた(至近距離にいた)	応援者のフリー保育教諭は特別支援1対1で遊んでいた。	就学前健診のため、園児が普段より少なかった。本児は普段より、活発な動きが多く、他児より先に事を進める傾向にある。いつもクラスの園児数が少なく、環境が違ってきたことに児の落ち着	園児数に関係なく、気を緩めず業務にあたる。環境の変化により、園児の気持ちの高ぶり、園児が普段できていることができなくなることを理解して、園児の見守りを行う。年度途中から勤務する保育教諭に対して、『遊具・園庭での約束』を丁寧に説明し、遊具や園庭で遊ぶときには、保育教諭同士で約束をその都度確認し、その日の集団の様子や遊びの	
4230	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40								2	2	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨端軟骨損傷及び成長線部剥離	2.自転車・衝突による倒れ	1.あり	2.不期定に実施	3	1.基準以上配置	外部コーチの指導の際には、コーチが指導もと、補助が必要な時は、コーチから指示を受けて補助を行っていた。	活動を行う際には、コーチ担任間都度その頭で話し合って進めていたが、コーチを交えて操指導のマニュアルを作成し園内研修を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	—	施設、設備に原因となるはなかった。	施設、設備に原因となるはなかった。	1.集団活動中・見守り	定期的に園庭にまった砂の処理を必要の行う性をしつつ行いなかった。	1人1人の動き心の得意・苦手など、個別配慮をもっと大にして事いく。	1.いつもどおりの様子であった	4段目の1回目を跳んだ際、手の付く位置より先になり、着地でバランスを崩し、倒れ顔を打つ。泣いた為、離れた所で休ませたが、列に戻り2回目を跳んだ。1回目よりも先の位置になる分に手をついた為、身体を支えきれずに跳び箱の向こう側のマットの上に手か	2.対象至児の近で対象見た	1回目の失敗時、ケガがないことを確認。落ち着く横で休声掛け、ゆくむをしばらく本児が列に戻ろうとしていたので、意思確認と、手の付く正しい位置を再度口頭で伝えた。	2.担当者・対象の動きを見ていなかった	1名は他箱につき、体操コーチは全体の跳び箱を見た。	11月から勤務職員は、まだ園児や安全確認の要点を理解しきれていなかった。	1回目と同じことがころかもしれないと予測した付き方、危険回避ような補助が必要だった。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4231	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								2	1	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	基節骨骨折（左手第5指）	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	５０～６０	1.基準以上配置	風船バレーボールを行う際、保育職員に係る時間において、危険に留意した事項に徹底されていかった。	風船バレーボールを行う際、児童は夢中になり、他児との接触する危険性が高まることを保育に職員を係る確認し、今後、実施する際、環境設定を徹底していく。また、クラス担任は事前に危険を回避するよう、言葉をかけ合う	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	一	遊戯室の安全な使用方法を職員で確認し、再発防止に努める。	1.集団活動中・見守り	風船バレーボール等、体を動かす実施を予定しているが、スペースが狭かった。	運動をするには時間はあらゆる事故を予想し、適当な広さを確保するなど環境を整える。	1.いつもお様子であった	友達と楽しく遊んでいた。	4.対象児のいるところを見ていなかった	隣接する保育室で他児と別の活動をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童と一緒に遊んでいた。	風船バレーボールの具体的な遊び方を確認していかった。	今後は、保育に係る職員間で遊ぶ素材及び保育内容等を事前に打合せし、想定される危険性について、確認を行っていく。	
4232	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	75								7	7	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左の橈骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施		3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	年中組男女とも一列に並びスタートした。スタート後転倒した子どもを考えると、スタート位置の並びに問題があったのではないかと考える。	人数でスタートするのが少スタートする良かった。借用している校庭が1学期の間できず、走ることに慣れていなかった。校庭を普段の遊びにも使用したい。	1.いつもお様子であった	競って前に出たいとしたが思うようにスタートできず、転倒してついた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタートラインに職員がついた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の幼児にも応援していた	特になし	特になし	
4233	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22			7	8	8			2	2	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足足首骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	通常1人保育している時帯で、注意する場所が配慮だっの必要た。	注意する場所を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本棚の位置を少し動かす。	3.個人活動中・見守り	保護者棒代わりに鉄棒に遊んだ。	子どもとの考え話し場所を考える。	3.いつも発的で活活活動を	通常から行動が激しく、落ち着きがない。室内で危険な行為を繰り返し、再度の注意で開かった為、普段より厳しく注意すく注意すよりも、その下にあった棚と足が本棚に本ろし、もつれ転倒した側面で打足を。たった本棚であった。他の蹴物を蹴ったが、物をまたいでもしまった。	1.対象マンの児ンマの状態（対象児に接していた）	数回注意したが、開かった為集団と離して話をしたが、集団に入り、部屋の入口に近で。後、集団に振り返って、本児向態に、背を状後に、けた直後に起こり、瞬間その確認ではいない。	2.担当者・対象児の動きを見ていかった	給食の下ごしらえ、フの職員も部屋を出た後任で、担だっ1人た。	本児の動きを知りながら、意後、ども気を著ろろ行ていかった。	注意した子どもの持ち落ち持かせることまでてい	子ども一人ひとりの性格を踏まえた保育を行っていく。	
4234	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	50								5	4	17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	・リットしが場ことった場合、都度、職員報告共有を防止策徹底す	職員間の共有情報しっかりされるよう、研修の記録には職員押印をもらう。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	—	個の能力・発達を踏まえ遊びの危険性を定して想おく。	1.集団活動中・見守り	—	・活動中の園児の人数に人数し、十分なスペースを確保する。	1.いつもお様子であった	いつも通って、いつりて変あった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	前から友達を見ないを走ったごろ特別に見られた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	全体を把握する職員が、児の人になった。	活動全体が見えるよう、少し離れた位置から活動を進めていくべきであった。	
4235	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	53		18	15	20				8	8	13.1歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折／左環指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		6	1.基準以上配置	子どもの人数に子ども対し、の配置は問題無かった。	事故内容を全職員知事をで周し、再発ないよう話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室の広さは充分があった。広さは問題無たアに怪我防止の物す設置する。	1.集団活動中・見守り	ドアの開け閉めした子ドアの側をてがめくもに戸いた。	ドアの側に必ずドアの子遊びに青教論がけなにつくよ子が開しにしどもようにびで閉めいた見守る。	1.いつもお様子であった	登園時にプレイルームで保護者から入り教論元へ行こうとする。	2.対象児の児の近で対象児を見た	登園時に泣いた児が泣いていたため、抱っこで本ろ受けた。本児取扱を受け前に泣いた子どもるの側ないか確認した。受けの最中だったことのめられた	2.担当者・対象児の動きを見ていかった	全体を見ながら、同ながら子士の仲立ちをし、一緒に遊んでいた。	扉の側危険でも無いが、ドアは見ていたが、嘔吐対応が合わなかった。	十分危険のないように注意し、子ども達に再度しっかり伝えていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面								ハード面							環境面				人的面							
			施設・事業所種別	認可・認可外	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4243	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80				38	42		9	9	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	鉄棒の使いつ子どもいてもたバラ解るがンスを崩リスクを予なこ等の保育者が測できかったが原因	鉄棒の危険性を再度確認し、再発防止策を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具の点検はしっかり実施していたが、園児の使い方についての認識が甘かった。	鉄棒の使い方、何という時間の管理をする。	1.集団活動中・見守り	保育教諭の見守りが声掛けなかった。	鉄棒を使うには必ずお保育者が側につき安全管理を行う。	1.いつもお様でもり子であった	鉄棒付近で遊びた。	3.対象児から見て離れたところで対象児を見ていた	5歳児担当職員は児と当番他関わり持っており、近くでのりが見守りが欠けていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の職員が近くで遊ども守りをしていたが、すぐに駆けり距離ではなかった。	子ども守り体制が不十分だった。	戸外遊びには危険が多いということで、遊具、遊び方によって場所場所での担当制をとる必要がある。	
4244	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	5	14					6	5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右くるぶし上部骨折	2.自転倒・衝よる突のもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	思いがけこと が起きる	関連の記事を読むなど研修をを重ね、職員間で未然によう徹底をはかる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	都度	夕方の自由遊び中、床に小型ブロックがあった	なるべくブロックは部屋の周囲に置くし、中央部を開けて動線を確保する	1.集団活動中・見守り	物を踏む	床に物がときり回よ走りはならう園児指導する	1.いつもお様でもり子であった	ブロックつなげで遊いたが立ってをしてい歩きはじめた	2.対象児の近で対象児を見た	目の前で尻もちをつい児が、自力で立ちあがろうとしなかったためすぐにかけよった	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	目の前で尻もちをつい児が、自力で立ちあがろうとしなかったため	動き回児を制止しなかった	職員同士で声を掛け合い園児を見守っていく	
4245	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27							3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯槽骨骨折 右上B～左上B亜脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	—	職員間で今後も研修を重ね情報検討し共ものを注意深くり見守りもに集るする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	今後も点検を継続していく	1.集団活動中・見守り	—	職員間で連携と分担ともに有効な共ようにする。	1.いつもお様でもり子であった	鬼ごっこ面から鬼の面から面登りるとり橋の側降りる。自分に来た場合れと飛び降りる。	2.対象児の近で対象児を見た	対象児から10mほど離れたところで、対象児が吊り橋の側面から登っている姿ついに気付いたのをみたことが、直後児飛び降りたためすぐに駆けつけることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児とは少し離れたところで他児子をつい見守っていた、飛び降りる前寄がすぐに駆けることができなかった。	—	子どもが活動している時の保育者の立ち位置や連携の取り方について、園全体で検討するとともに遊具の使い方によっては事故につながることを意識して見守っていくようにする。	
4246	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22			8	6	8		3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕ねん挫	3.子どもの同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	2	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	絵本コーナーのスペースが狭かった。	絵本コーナーはそれぞれ遊びのスペースを考える。	1.いつもお様でもり子であった	落ち着てとでい。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子どもを守った。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	あびなが児を対象動きを見た。	子どもたちの様子を遊いる子を、危ない行動をしている子どもに声をかけていく。	あそびのスペースや遊んでいる場所、子どもの行動に危険がないか見ていき、危険がある場合は声をかけていく。	
4247	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28			8	11	9		5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝よる突のもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	本児のヒヤリハットのからよう立てたらかのがはなった。	0～5歳児の運動能力を考慮し、どのように保育をしていけばよいか保育者がきちと行動を論んと分析していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	個々のヒヤリハットの状況からどのような手立てをしていけばよいかきち分析え子育を行っていく。	3.個人活動中・見守り	担任とかけつけこを遊んで夢中になっていて、勢い走った子どもが共に遊び様子が側に合わせ危険クを察し、いろいろ心を配っていく。	1.いつもお様でもり子であった	担任とのこけっこ楽しく、園庭を走り回った。	4.対象児から見て動きをいた	共にかけっこをして走り前方で園児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	当対児の遊び戸外で遊ぶ子ども達と共に遊んだ。登園受けする時の入れる職員もいた。	自分で遊ぶ子ども達と共だ園受けする時の入れる職員もいた。	朝の遊ぶよく見守り、日頃からヒヤリハットにつながるような行動が見られた時は、その都度声をかけて注意していく。	冷込みある登園後なかっこと行こいに、体軟な柔がなかった。	本児の様子を観察し、ヒヤリハットにつながるような行動が見られた時は、その都度声をかけて注意していく。	
4248	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園		1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	68				57			10	9	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘部顆上骨折	1.遊具から転落・落下等の	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	新人研修中で、作の園内で資料成した基づき、新入職員へ運動や指導をり教えた、園内マニュアルとしてが共ができなかった。今回の補助者は、事前に資料のは、事前に内容を把握したが、本は漏れはないよう、体系的にすべきすあった。足また、着地からもっかするを、と	事故発生の翌日に、その状況について、朝礼で情報共有を行った。また、補助のポイントとして、今回のケースの対策を園内マニュアルに反映し、2月21日の職員全体会議にてマニュアルの徹底を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	使用する跳び箱や、マット等の異はなかが、安全マットでもあり、事故の可能性を低くできる。	体育の専門家と相談し、相談先に出向き、受注生産のため3月下旬に入荷予定。入荷までは、補助者を経験の長い者に限定し、十分注意しながら習う	1.集団活動中・見守り	—	事故発生後、子どもが異なることもあるため、今後は、補助者へ報告を行った。	1.いつもお様でもり子であった	跳び箱補助者として、10年以上の補助経験があり補助を行った。通常の補助を行い、補助に関して特に大きな失敗はなかったと思われる。	1.対象児ソーマン状態(対象児としてた)	1.対象マンの児ソーマン状態(対象接児としてた)	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	事前に打ち合わせた配置に従って、ポイントに補助員として、園児に係ついた。補助員の配置は添付した写真参照。	—	まずは、正しく補助ができるよう、適正な補助者の職員教育と研修・本番で配置を行うことは当然必要である。それに加え、ソフト面で述べた園児への指導法、ハード面で述べたより安全なマットを用いることなど、対策を複合的な行う事故の可能性を限なく排除し、再発防止に努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事者	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4249	令和9年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33			4	8	8	13		1	1	16.4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A|B LUX	4.玩具・遊具等設・設備の安全上の不備によるの	1.あり	2.不定期実施	1～2	2.基準配置	事故予防について研修の不足	事故予防研修への参加と園内積極的参加と園内研修。実際事故がおきた場合のシュミレーション研修。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	巧技台をホールの常時隅に置まにいた。巧技台は所定の場所にしま所に。現場なを離れても円員がよ滑な連絡ができるに無線間連絡等の導機入。	1.集団活動中・見あ守りり	巧技台を置く場所が本来あそぶを場所していが適なかた。	巧技台本来のあそびる様あそびの環境を整える。	1.いつもりどおの様子であった	友達と事故の前から巧技台の所でいそあそんでた。あそびは、問題はなかった。	4.対象児の見ていなきかった	事故の前はホールに2名の担当者がいて、1名は鉄棒の辺り、もう1名ごっては鬼ごこをしている様子ていを見た。バスの出発時間が近づいたため、1名の担当者は2台あった鉄棒を1台ずつ片付けてバスに乗る園児と一緒に、ホールを出た。ホールにに残った担当者は鉄棒の所についた。あそぶ子メ ども の	2.担当対象児の動きを見ていなかった	事故の現場にはいなかった。	休憩から戻る際保護者対応時間で戻れなかったバス添乗ホールから出る際、交替の保育教諭がいないことを認識でいた出なかり見守り人の不足になった。そのメンバーがあることあ、あぶものメンバー変ここで	ホールから出る際、何名の保育教諭がいるか確認し、不足の場合は、担当外の保育教諭の応援を頼む。休憩時間が終わり時間までに戻れない時は連絡をする。午睡状況を見て、担当者の配置を考える。バスで降園する子ども達が抜けることで、あそびの内容が変わる時は、様子を見て環境を整える。	
4250	令和9年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7			4		3			7	7	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	顔面骨折	1.遊具等からの転・落下	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	園庭での遊具の使い方に慣れてきたころ故れとの事故だった思う。もう一度遊具の使い方や遊び子ども伝を子ども方を達していくことと、職員の方も気を引き締めて対応していきたい。	遊具の使い方や遊び方につい子ども安全指導と職員への研修の強化	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	滑り台に構造上の問題がなかった。構造上の問題はなかったが、固定使用安全教育を遊具の安全教育を充実させる必要がある。	1.集団活動中・見あ守りり	職員が何由で抜ける時の職員間のコミュニケーション不足があった	職員が何由で抜ける時には、必ずかけて職員の補充を対策をはかる。	1.いつもどおの様子であった	—	4.対象児の見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	職員の配置される場所に不合があった	配置の場所の見直しが必要。	
4251	令和9年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	69						58		10	9	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨急性塑性変形	1.遊具等からの転・落下	1.あり	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	新入研修の中で、作園の園成料にき、職動やり教た内アアてきた。今の補助は、資容に内提た来は、本ニュアルと系的管理で足か	翌日の事故発生事故とそ発生に再発の状況に再発の状況、注意点に注意ついて朝礼の報告情報をした。のポイントして回のスを園内ニュアル「つばさ園マニュアル3.2.2運動指導やり」に反映し、2月21日の全体会議にマニュアルの徹底を行った。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	3	使用する箱跳び箱や、マット等の器具に異常はなかったが、よりマット安全で事故の可能性ができる。	1.集団活動中・見あ守りり	発達が本児が本番で、保護者の前で、いつもより持ち入ってしまい、練習時よりも前のめりの形で跳躍を行った。発表では、園児が盛り上がり、練習時とは異なることを、保護者が十分理解し、対応する必要があった。	本番では、子どもが練習とは異なる動きをすることを園内マニュアル記に追記し、あらかじめ準備しておく、補助者への報告を行った。	3.いつもより発活活動であった(理由を記載)	参観で保来者がいた段ていめ、普通より張り切って跳び箱に取り組んでいた。	1.対象児とンマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱補助者として、10年以上の補助経験がある職員が補助を行った。通常の通りの行助、補助に特に大きな失敗はなかったと思われる。	1.担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事前に打合わせ配置に従っていた。ボインに補助に、園児、園児係とについた。補助員の配置は添付し写真参照。	職員全5日が5日同様の前故に承して、補助も直事前の故の省まえ、油断なくもいていた。かし一勢すと、無理に園児の片手を上引きてもって抱って肩を痛める可能性があるため、頭	まずは、正しく補助ができるよう、適正な職員教育と練習・本番で補助者の配置を行うことは当然必要である。それに加え、ソフト面で述べた園児への指導法、ハード面で述べたよりマットを用いることなど、複合的な対策を行うことで、事故の可能性を限りなく排除し、再発防止に努める。	
4252	令和9年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								2	2	17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自転車・衝突による倒れもの	2.なし	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	特になし	遊びを充実させる	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	保育者からの死角ができないようにロッカーの設置をする	1.集団活動中・見あ守りり	特になし	遊び方、遊具の使い方をクラス全体で話し合う	1.いつもどおの様子であった	手に粘土の塊を持って、自分肘をトントン打ちながら机に打付ていた	4.対象児の見ていなかった	全体を見ながらの子ども子と遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ながら子ども遊んでいた	特になし	子どもの様子を把握し、早期に異変に気づき対処する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況			事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ハード面							人的面															
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
4253	令和3年9月30日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20				5	5	10			2		2	17. 5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	鬼に夢中にいつもごっこ中になってた。	年長児にもなり体も大きくなり、激しくなってもなる保育教諭が置を確認しながら安全意育しく故予防するマニュアル園内研修・職員等で共通理解していく。	1. 定期的に実施	15	1. 定期的に実施	15	1. 定期的に実施	毎日	体を存分に動くように遊べるようにホールつくしてが、ホールは動いている環境をいろいろいつもの出入口付近、気付いたら出入り口付近に、ホールの遊び等に十分を付けられないと思った。	部屋の出入り口付近分に、保育室内の環境を守るに園内修・職員等で共通理解していく。	1. 集団活動中・見守り	3歳以上児の自分の好きな遊びを、好きな場所で楽しんでいる為、保育教諭がの子の遊びに目を向けて、長児に体もなり活発になっていて、長児も体もなり活発になっていて、鬼ごっこ遊びもっと目や必ず配り掛け要だった。	子どもとかかわる職員と、必ずもとる職員と、必ずできる職員とそれ全体を見届け職員それぞれの役割を割しながら、目をさないように離れるようにすると。子どもたちも動き成長し動が活発なってことまえ、遊びの内容や活動の仕方にの合わせたつく環境やを全ベるように遊べるように職員全体マニュアル等を再確認し共通	1. いつもお様子でもりあった	入学を控えの様子、体の動きも活発になっていて毎日の友達とごっこやかけっこ、ボール遊びでいっぱいの日、本びんで、本ごっこの男の子たちも鬼ごっこを追いかけ、ごっこ遊んでいる。	3. 対象から離れて子ども対象児を見ていた	積み木遊びをしていたところで、子どもたちが一緒に木のブロックを使って遊んでいる様子を見ていて、男の子たちが鬼ごっこをしていて、ホールを走り回ったり、ホールの遊ぶ中で、ホールを掛けて下ないように注意した。	1. 担当者・衆児動きを見ていた(至近距離にいた)	5歳児保育室内で制作遊びコーナーで子どもたちの活動を見守った。職員2名がホールの見守っていた。	子どもの活動に沿いながら見守る職員と、必ず全体を見届けできる職員が安全を優先しての声掛けやことの声掛けが大切なので、今後はこどもから目を離さないように職員全体で共通理解していく。また子どもたちも成長し動きが活発になっていることを踏まえて、遊びの内容や活動に留意し合わせた声掛けを心して安全に遊べるように職員全体で気をつけてい	保育教諭名2名ホールでもの様子見てが、コーナーの遊び活動でもの様子見てが、コーナーの遊び活動でもの様子見てが、コーナーの遊び活動で

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
4261	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～日前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				5		10		1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3.基準配置	職員の危険予測の低さ	その他の職員も、ホールのにクラスのある先生やホールを行き来する際に園児と関わり、安全確認をまた危険を感じた際は声を掛ける。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	—	特になし	1.集団活動中・見守り	大型積木をホールいっぱいに広げて遊ぶので、他の移動する路が必要であった。	木ホールいっぱいに広げて遊ぶので、他の移動する路が必要であった。	3.いつも活発的であった	いつもなら、小さいクラス(満3歳児クラス)に行き、お話をするのが日課だが、その日はカレンダー片付けにおいて大型積木で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任はバスが当番わり、クラスの終わり様子を見に行ったが、担当の先生とのいることをいう安心してホールの様子は見ていなかった。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていて、担当は声をかけるなど、介入ではなく、遊び方に介入するような危険があった時は声を掛けるが、見守り姿勢でいるとった。	積木を超えて遊び飛びつ捉え、お飲み食べ行時、積木を飛び越してしまってしまった。	園児の遊びに参加し、その中で危険なことを一つ一つ具体的に取り上げ、確認する時間を設ける。	
4262	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24								1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児から見ていた。	対象児が離れたところで対象児から見ていた。	2.担当者・対象児動きていなかった	各自保育	—	特になし	
4263	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5.基準以上配置	運動会が近いということあり中の量がとられる。	降園後、園庭で遊ぶ子どもいる。1日の疲れも時間で出る帯むやみに遊ばない、降園を促す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	隣接する公園に行く際、公園に扉があるが、柵を越えて飛び越えるかは、乗り越えるかは、乗りれるかは思ったのではないか。	柵を乗りの越えるのは危険であることを伝えていく。	7.その他	隣接する公園に行く際に扉があるが、柵を越え飛び越えるかは、乗り越えるかは思ったのではない。	柵を乗りの越えるのは危険であることを伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	降園後、母親の見守り、園庭で遊んでいた。	4.対象児動きていなかった	降園後のことで、まだに来ていないので、迎えに子どもを保育していた。	2.担当者・対象児動きていなかった	降園後は、保護者の園庭でお子さんがどんなことをしているか、どんなことをしているか認識していなかった。	日中、柵を超えることはないが、方になると小学生が柵から出ている姿が見られた。	園児が真似をすることもあるので、小学生には柵を乗越えたり、危険なことをしないよう伝える。降園後の園庭の使い方を再確認する。	
4264	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	—	複数配置の場合は、それぞれ、全体わたせる位置で見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	靴下で遊ぶため滑りやすい状況だった。	床で遊ぶときは上履いて靴を遊ぶ。だったお散乱でおもちゃを自由に出べるので、ちゃんとのため、状況であった。	1.集団活動中・見ありり	おもちゃを自由に出べるので、靴下で遊んでいるため、滑りやすい状況であった。	床で遊ぶときは上履いて靴を遊ぶ。だったお散乱でおもちゃを自由に出べるので、靴下で遊んでいるため、滑りやすい状況であった。	1.いつもどおりの様子であった	グーゲルのおもちゃが散乱したので、てみたり、ビー玉をすのにおもちゃを取り転した。	4.対象児動きていなかった	近くには保育教諭2名が、2名で他のこどもの様子や物をしているのを見守り、援助をたり助ら保育をしていた。	2.担当者・対象児動きていなかった	—	職員同身場にいる近所にて、全子どもの動きを見ていた。	室内で各コーナーに分かれて遊ぶ場合、保育教諭は全体を見ながら分担して見守るようにする。	
4265	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	30								4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3.基準以上配置	園児への使用方等の遊具に注意を毎週1回行っているネルている。	園児に遊具の使い方等を毎年度伝えるとともに、職員約再度全体に内で事故会議を開き職等を員配置直しを行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	ブランコの周りにいるの囲いい。	ブランコの囲設置周りいをする。	1.集団活動中・見ありり	子どもが出ないように園ですだ。職員の配置が足りない場所があった。	職員の配置を確認からを出ようにこどもを出ようにこの園庭にすする。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗っている最中に男児から遊びにくく男児から誘われ、嫌がそれで男児に触れないようにに体にじて抵抗した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れた場所で他児の中で対応あったり、お子の準備をしたこと、偏りこと、いつこれ嫌がっているに気付く、事前に防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児動きていなかった(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていて、担当は声をかけるなど、介入ではなく、遊び方に乗っている児に意なかった。	至近距離にいたが、木登りをする名ていて、ブランコに乗っている児に意なかった。	活動の始まり、保育教諭の配置がなかった。	ブランコや滑り台等危険予測のつく遊具には常に一名が見守そばで見守るようにする。	
4266	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	35					35	1		4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	—	予測できたあれ落下安落ができなかったとしてマットを下に敷くも選択でが、はいきマットいなかった。	小学校の中遊具にも、幼使用物児ができるはあるが、雲梯は高さ、ボール、太さ幅、棒などれも等園児合っていないので、今後は使用を控える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	3.未実施	—	近隣の市町の木休診く、保護者に受診手間取った。	園医以外院のをしておく。（病院名・診療科・休診日・時間等）	1.集団活動中・見ありり	園長は不在だが、副園長が冷静に対応し、担当課に適切な指示を出すことができたが、担当課への報告が出来なかった。	担当課へ報告は、園長不在でも日のに伝えるこのちに確認が不のちえることがあっそうえをした。	1.いつもどおりの様子であった	一度いからは怖やいからないと言って降りたが、がいい見ってりをしてばりと友だちやるのやっていると言ってやる言度挑戦してしまってた。	1.対象児とのマンの様子（対象児してた）	落下すると危ないと思い、怪ないように、と手を添えたがに結果的に落下することはできなかった。	2.担当者・対象児動きていなかった	小学校の校庭は広い為、遊具の使用を決めて園児育ったの他の教諭は対象児ていかった。	小学校の校庭を使用てう良さ思いとが、事故を防止するために遊使用について安全な使用方法や職員配置や	小学校の校庭や遊具の使用について、安全な使用方法や人的配置について十分検討し、園児の年齢等によって使用禁止もやむを得ない。	
4267	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32								3	3	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨、左尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	手の着きがバラバラになってしまいまい、腕かかるかが集中にかかる左腕中しまった。	手の付き方、手の向きをも向う一度確認する。	1.定期的に実施	5～6	数回	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	—	マットのさらにスポーツ84枚（厚さ2ｃｍ90ｃｍ四方のクション機能のある）を敷き詰めた。	1.集団活動中・見ありり	—	当該園児については、体操時間は柔軟の内容体操等に限定する。	1.いつもどおりの様子であった	側転の練習習中にしていた。	2.対象児の児の近で象児見た	側転をする園児を目ていから横ら見る人、順を待つ園児を見ていて園児を目ていて園児視した。	1.担当者・対象児動きていた(至近距離にいた)	—	側転時のの向きのをしっかり確認すべだった。何も練習度習ねたのできているとと	できるようになっていたので、できていると思い一人ずつの確認をせずに始めた。それもいけなかったと思う。いつでも必ず始める前に手の向きの確認	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																	
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4268	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50			10	20	20			6	6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	朝のコーナー遊びの設定に問題はなかった	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	所持品整理をした後に着替えルールにしたがってホールに集まりフリーの巡回教諭が声かけることを強化した。事故発生が一番奥の部屋をコーナー保育室とし、一人の保育者が無防備な状態にしないようにした。	3.いつもお活発的であった(理由を記載)	発表会に向けて側転をできるようにむけて組んでいるがより、発表することを楽しみにし毎日練習していた。児がさいと本ら走りに挑戦したい意欲がまっていた。	4.対象児の動きをいつかった	登園し所持品整理を終わらせた子はすぐに隣接するホールにくるくる、保育室の巡回のみとした。泣いて訴えで本児が応。	2.担当対象児の者・動きを見ていなかった	他の担当エリアにいて、ホールでいた。巡回職員は別の場所にいた。	一定のレベルに達した年齢の児がでいる側転のできるようにきき側転ができる場所や時間、職員のいないところはかい	縦割りのコーナー保育の際には側転ができる場所や職員がいる場所で行うように周知徹底。	
4269	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17								2	2	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	幼児が友だちと遊んでいる中で、一人の子どもが、ブランコの鎖を強く握りしめ、ブランコの揺れに合わせて足を前に出したり、ブランコの揺れを利用して飛び降りようとしていた。保育者は、ブランコの揺れが大きくなる前に、ブランコの揺れを調整しようと、ブランコの鎖を持ち、揺れを調整しようとしていた。その時、ブランコの揺れが大きくなり、子どもが、ブランコの鎖を持ったまま、ブランコの揺れに合わせて、ブランコから飛び降りようとしていた。保育者は、ブランコの

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面								環境面			人的面												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4274	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17				12	5			1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	1人でも転倒した場合には活動から様子を見る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	9	1.定期的に実施	12	—	物につま訳ないこと良善策ありまご指導のほどよろしくお願いします。	1.集団活動中・見守り	—	出来る限り見守りたいと思います。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	運動会が終わり、疲れによる、テンションが高くなっていた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	クラス全員にけっこさせていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	1人でも転倒した場合には活動から外して様子を見る。	
4275	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	自由時間にホールで遊ぶ際の監視体制の徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊具、玩具等についてき続き引き安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	—	監視体制が整わない場合はホールの自由遊びを控える。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	活発な男の子同士、追いかけっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見ていたが、転倒を防ぐことができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の排泄や歯磨等の対応をしていた。	—	同じ空間内における監視体制を整える。	
4276	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指末節骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	職員会で検証し、共通理解を再度し、共通して安全への意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	竹馬に乗って歩ける十分のある、物のない場所で行う。	1.集団活動中・見守り	竹馬が通るコースとの台とのスペースが十分でなかった。	竹馬の長さを考慮し、万が一、転倒してもからない十分なスペースを確保する。	1.いつもどおりの様子であった	子どもが順番に竹馬を披露しているので、見ていることでの緊張が少しあった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	子どもの動きだけでなく、周囲にも注意を向けて、障害物等がないか、竹馬で通るのに安全なコースか、気を配	
4277	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				7	7	6		1	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	園児に折り返し点事故までにこれ以上に気をつけるよう指導する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	走路の幅に応じて走る人数を減など、工一る人らが配慮・工夫する。	1.集団活動中・見守り	—	子ども同士のパーソナルスペースを確保する	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の近くで対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	—	—	折り返した後、前方から来る他児に気を付けて前方をみて走るように指導する	
4278	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	30								1	1	15.3歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	玄関番の保育者が部屋まで来ることとし、常に部屋よにいるにした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室・廊下・遊戯室などのフローリング床との接触で起きた事故であり、床自体による起因事故ではないものと判断します。	日々、施設の安全点検を行う。	2.集団活動中・子達のみ	登園後カバンの片付けが終わったら読み絵本をいっしょにむことしていた。部屋の中を走わってまった。	お部屋の中、廊下でも走らないようにお約束をしたり、片付けがお終わったお友達から好きな遊びを出すようにした。	1.いつもどおりの様子であった	いつも他児とともに遊びを色々とくて伝えれる。	4.対象児の動きをていなかった	泣いて登園した子を迎えに玄関にいるっていて行ったので、直接ぶつかったころは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各保育室も保育者一人だけだった。	保育者が部屋居なくなったこと。	玄関番の保育者が部屋まで連れてこれる、常に部屋にいるようにした。	
4279	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	35								5	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	保育や、子ども姿を未満児や以上児に研修しているが、員での不足が生じている。	保育士以外の職員を交えた、研修を増やしく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	点検の結果は、全職員が確認をしているが、個々ため、周囲の全員できるのか判断できない。	全体での設け、人数で会議の人伝えの少しの合ったりする時間を設ける。	3.個人活動中・見守り	子どもたちが、テーブルを使用するに横に寄せたり、テーブルを横に寄しに配置たり用したりしていた。	使用しないテーブルの置く場所や、いろいろな場所にいるが、ある等、安全面に配慮不足があった。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う子と、通ども、普段一緒ごっこしを楽しいをで子だ。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	数人で走りながら遊んでいる様子は、把握していた。側で子どもが、他のもと関わり、遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対の所持品の始末を他の児のをたりかけりをしていた。	保育士、保育補助、職種が違うが子ども見守る場合安全について、見守り方、関わり方について共通理解の	子どもの活動に関し、見守り方、声かけのタイミングや声を周知徹底。関わり方についてレクンスや研修を定期的に行う。	
4280	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	23								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	僅で足ず下に下ろ上靴くよどに履く子たちにもせた。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	—	—	床が滑りやすいところ、滑りのは止めマットを敷く。	1.集団活動中・見守り	—	今回、上靴入れが離れたところ少したことがあったため、コーナーの近くにこの置くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに進加参し、付け張りを切って行った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児はと離れたところ、子どもと付けながら対象含めたまとコーナーの様子を見た	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の片付けの様子見たをり、対応をしていて、対象児の動きを見ることができなかった。	—	連携を図りながら、混雑して危険なところに職員がつくようにする。	
4281	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	1	9						4	4	12.11か月	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右頭蓋骨骨折の疑い　右鎖骨骨骨幹部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	マニュアル内の紐おんぶ使用や紐に関を整える。今後研修資料として使用していく。→現在も調整中	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	—	紐ンウ使ッこ専ッパ専ッパ合わ使用をにすウ法を保育士に導入する。→午睡中付けが子せる寝ない過ごしスペースを整備した。	3.個人活動中・見守り	—	抱っこ紐ンウ使ッパ専ッパ合わ使用をにすウ法を保育士に導入する。→午睡中付けが子せる寝ない過ごしスペースを整備した。	1.いつもどおりの様子であった	入園してないまもない、ほどのとんと時間を抱っこ過ごした。立ってまっこ抱っこをされることを好き、保育士が抱っこ教諭も応じた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	他の子どもをおんぶ紐でおんぶを、本人は抱っこをやしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対の玄関やしていたが、ずっと見ていない。	玄関であることは知ったが、ずっと見訳なかった。	—	これまでの配置基準を満たした上で、一人の職員に過度な負担がかからないようにする。→職員間で再発予防についての話し合いを行った。	
4282	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25								1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1	2.基準配置	園庭を1のクラスみでしていたため、子ども勢いとされる。	園庭で遊ぶ前に遊び方を子ども達とおく。	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	決定周りの範囲を、固定遊具りでこっこ走るなどの遊び周りをしたり、鬼ごっこなど遊びた。	1.集団活動中・見守り	ごっこする範囲を決め、危険箇所や方に注意したり、鬼ごっこを囲を決めて子ども達が安全ついて確認をしていなかった。	遊ぶ前にと子ども達に子遊びについて話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	5歳児クラスのみ園庭を使用し、開放のにしていたため、逃げる時間がかかったため、鬼ごっこ勢いがついた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普段は好集団遊びに入れない児が、当日は楽しんでいたことで嬉しさを感じた。突然の方向転換に動きをとめられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは室内に入ったため、園庭にいる担当者のみだった。	担任が休みで、子どものことをよく知っている職員がこの保育を担当していた。	慣れている職員でも、担任以外の職員が入っている時は、園長はじめ他の職員も普段よりも気をつけて見るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面										ハード面										環境面			人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4283	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	3.子ども同士衝突するものにも	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	フリーの職員が1人場合は見守り、いろいろを繰り返しどもの伝えいく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	コンクリートの転ぶ所で危険でとあるを、も共通して理解ていく	1.集団活動中・守り	複数の児童が出ようとした	玄関から出ないように走り指導	1.いつもお様り子であった	先に出ていた待っる園児いため、追いつこうと走った	4.対象動児の児をていなかった	担当職員は至近距離にはいたが、先に出ていた児と話をしていたため、転んだ瞬間は視界に入らず。	2.担当者・対象児をていの動き見なかった	それぞれが担当の保園児育中だったため	職員の位置	園児の動きにすぐ対応できる見守りの位置に保育教諭がいるようにする	
4284	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50			17	18	15				6	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第四指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	本児が痛がらなかったため、事故にすぐくことができなかった。遊びついがかったの方でなかどうか。	三輪車の遊び方を含め、年齢に合った遊び方で危険な扱いをしているか確認し、ないか、マニュアルの及び再確認。子どもの多方面から目を離さないようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	車輪にはがいついていたカバーのに引っかかったのに引っかかったとられる考える。	本来座るべきない場所ては座にしまって、子どもに目を配っ使いているどもに注意を促す。	1.集団活動中・守り	プールの準備等で、見守りが行うできたか。	いつもと中育ち育ち方が落ちて保育が、着いるよう改善策を話し合う。	1.いつもお様り子であった	大きいクラスの遊びまね。	3.対象児の児から離れて対象見ていた	本児が痛がらなかったため、事故がつかることができなかった。	2.担当者・対象児をていの動き見なかった	他の、園きいの児の動きをした。	本児がらなかったため、すぐに事故がつかることができなかった。	異年齢児3クラスで遊んでいるので、連絡や報告を密に行う。	
4285	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	補助の方法に問題はなかったか、定した地がマットの固さを分析する	安全に跳ぶことが出来るように、跳び箱の補助を配置するほか、着地の安全を見守るための補助をマットの配置する。マットは柔らかすぎない物、マットを重ねて使用する場合は、滑り止めを使用しマットがずれないようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全に跳ぶことが出来るように、跳び箱の補助を配置するほか、地の安全を見守るための補助をマットの配置する。マットは柔らかすぎない物、マットを重ねて使用する場合は、滑り止めを使用しマットがずれないようにする	1.集団活動中・守り	担任1名の配置で補助を行った。マットの着れを補助する配置が必要であった	跳び腰を補助する補助職員、着地員をする配置する	1.いつもお様り子であった	特に変化はなく活子元気に参加した。活動中は、給水や休憩を行いながら動で参加していた。	2.対象児の至近で対象見た	本児の横で補助で行ったが、跳び越えることができていた過信ンスした。バラを崩際に出し手を転倒防がかったとなるこ	1.担当者・対象児をていの動き見た(至近距離にいた)	近くで見ていた職員が、児の異常に気付き	本の腕の気動し活制止した	普段から行っていた活動で、本児も跳びこと出ていたに信が、時に確助けたと、着地の安全を保する為の補助配置していなかったことが要因と考え	全職員で事故の状況を検証・分析を行い、補助の配置を見直し、跳び箱の横と着地の際の安全確保の補助職員の配置をする	
4286	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	0	0	7	11	8	9	0		5	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不期に実施	1，2	1.基準以上配置	・ヒヤリハット報告の共有や、研修は行い、毎朝のミーティングで、すべての保育者が行っている日々の保育の中でさらなる「仕組み」の注意点を共有化」ができていなかった。	・配置、担当分け。 ・チェックリスト化。（ガイドラインにある、年齢別チェックリスト作成） ・子どもへの注意喚起、問いかけ（子どもが認識できる方法で） ・定期ブリーフィング、ミーティング（日々の変化、天候に応じた注意点等） ・ヒヤリ・ハット事例の提	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	—	現状の点検体制を継続して行う	1.集団活動中・守り	—	見守りの中、雲梯●●を常に配置する	1.いつもお様り子であった	本児は普段活発で活動好きな性格であり、事故発生時も雲梯で遊んでいる最中の事故であった。	2.対象児の対象児を近で見ていた	本児の近くで見ていた。	1.担当者・対象児をていの動き見た(至近距離にいた)	本児の近で保育守りで見守っていた。	—	・雲梯の下に教師を常に配置する。 ・園庭に出る際、園児に注意喚起をする。 ・運動能力の長けた児童にも注意をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4287	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				5	10	10			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マットの方や状況遊び配置きに遊び足にでも気付けなかったことと要ある。	マニュアルを見直しを行なこと、今回の事故報告を受け職員で把握し日常的全故全めて園生活の中でもここよ起こ通認の同とのない共識をするる。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	日常的に運動用のマット8枚(1枚厚さ5cm)を一箇所に積み重ねて置いてあり、内容は自由に使用してあり、その日はマットを使用して遊び遊びをすることが出来るかたこと、本が人友達とでもマットんでお上でお遊びでいる遊んでいる一番上にのマットがはみ出ていた。片付けの時間になったら、日常的に運動用のマット8枚(1枚厚さ5cm)を一箇所に積み重ねて置いてあり、内容は自由に使用してあり、その日はマットを使用して遊び遊びをすることが出来るかたこと、本が人友達とでもマットんでお上でお遊びでいる遊んでいる一番上にのマットがはみ出ていた。片付けの時間になったら、	日すマッ置き変故当事故からにの場ぞえ、4枚つ並べよし事にの場ぞえ、4枚つ並べよし事にの場ぞえ、4枚つ並べよし事に

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				ハード面						人的面						環境面												
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4293	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30			10	13	7			2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	遊具の裏の出来る為職員の目が行き届かなかった。	遊具の裏配置の職員配置の検討を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	環境面、人的要因と思われる。	1.集団活動中・見守り	園庭全体にだがいに遊んだ為職員場所を変たり人数を増えて分ける。	3.いつも発で活動のあった(理由記載)	他児と遊んでいて手が降り本人前で手降りたた人を子。	4.対象児のを見ていなかった	遊具の裏で職目視で出来なかったが、カメラに映っていた為判明した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰りの時間だった為、他の保護者への引継ぎ等で確認できなかった。	—	見守り体制の検討と職員配置考慮	
4294	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19								3	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	足で回ながらジャンプ片足でジャンプできるようになっ嬉しくていた、出来るようになったばかりで、体勢変転んでしまったなしのではないか。	ふざけたり、油断しないように、注意喚起をべきであった。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	片付けを一緒に取り組む中全体意識でも把握ら。	気になりしとは、注意を促すきるようにする。	1.集団活動中・見守り	クラスのながみん片付けて遊んプルジャンプして遊んでいた	片付けを最後まで一緒にするよう促す	3.いつも発で活動のあった(理由記載)	片足で回ながらジャンプできるようになっ嬉しくて調ってくにいた	4.対象児のを見ていなかった	近くにはいて、それまでにってンプブ遊ぶ見てが、こる瞬間は見ていなかった。泣いてすぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任や本人から、故のをきりの確認を行った。	集団活動する中、個別に関わる中でも全体に意識を向ける	全体把握を行い、子どもが不注意なときは、注意喚起を行う	
4295	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32								3	3	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	4	2.基準配置	子どもの身体につ認識が弱識が、怪我やすくしない部分ついて知識が甘かった。	怪我のしやすい場所、咀嚼の対応についての研修を予定している。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	鉄棒に体位化はなかったものの、どもの数が多い中で子人数内に鉄棒をいたリスクがあった。	鉄棒等、危険の伴う遊具は、子ども数に子によって、遊戯室や園庭広い場所で遊ぶようにする。	3.個人活動中・見守り	本児が目分が棒をしていたが、児は体本重く、腕だけで体を支えることができないと思った。	鉄棒は、複数の保育者が時に、しく置く。	1.いもりの子であった	他にをるおい一児童の園児の対応をした。	鉄棒から1m程の場所にいたが、他の園児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関で子どもへの受けれをお保育室内にいなかった。	鉄棒を環境して用意する際は、鉄棒で遊び担当見てことできる職員を配置	鉄棒等、危険が伴う遊具の近くには必ず保育者が付き添い、目を離さないようにすることもに、適切な補助等を行う。	
4296	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	1	1	4	6	3	6		3	3	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第一末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	トイレに時行く時、土曜からもと楽いつもて起だからのではないかと思われる。	トイレに時行く時、「扉に、気を付けて必ず声かけを行い、扉の近くに保育者がつくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	元々扉はなって、挟まりやすいる後力加減わ閉め結果と思われる。	活動前に使部屋い明よってみる。	1.集団活動中・見守り	普段使わおもちゃで遊んで、早く遊びたかったのではないかと思われる。	トイレをしているときは扉を開けたにし、べての使用済み確認して職員が扉を閉めるようにする。	1.いもどお様り子であった	土曜日は普段使わおもちゃで、人数でじっくり遊べる環境のため、喜友達ばかりでいると思われる。	2.対象至対象児の近で見た	5歳児の見と一緒にトイレに行き、本児は3歳児でしっかりしているので、一緒に行かなくても近くで見ていれば安心できると思われたための動	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同上	見と一緒に行ったため、中でとにた性がある。	一緒にトイレに行き、本児はクラス別にトイレにしてほしいと思ったので、使用中はトイレの扉を開けておくことも考えて保育室にあたるようにしている。	
4297	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3							3	1	1	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	数回	1.基準以上配置	例年の事で、今まで重大な事故も起こらなかったため、危機意識が低かった。	来年度よりプでは白線に切り替えます。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	来年度よりプでは白線に切り替えます。	7.その他	例年の事で、今まで重大な事故も起こらなかったため危機意識が低く、大人の考え方や行動を中心としてしまった。	運動会の前準備は当日朝行えばよかった。	1.いもどお様り子であった	母がお迎えに来たが、園庭が翌日の運動会の準備がおりテンションがあっていたと思われる。	3.対象児からは離れたところで対象児を見ていた	お迎えに来た母項連絡事項を伝えなど、保護者と会話をしていた。		職員室入り、対象児が友達と走って行き転倒を見た。	注意喚起はしていたが、子ども注意されてをしまうと翌日の運動会の準備がされている園庭	注意喚起を行ったが、子どもの安全に配慮した準備を行う。安全第一。	
4298	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	17								2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	BAIA外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	自由遊び遊び所ていた、各ため、職員の目にくく員の届きにくかった。	自由遊び時の職員配置を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いもどお様り子であった	体調面の問題はなかったように思う。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子の対応に怪我応をしていたが、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂のまわりで遊んでいたが、特に危険性を感じなかった。		事前に見知で事なかった。	マニュアルだけでなく、状況に応じて職員配置を考える。	
4299	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24								1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足甲部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	4	2.基準配置	—	園児の体力、能力認識等を認識し、無理な活動にならないよう注意	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	室内遊具の重量や形状、配置等に留意し、整理を心がける	室内遊具の重量や形状、配置等に留意し、整理を心がける	1.集団活動中・見守り	—	室内遊具の重量や形状、配置等に留意し、整理を心がける	1.いもどお様り子であった	—	2.対象児の近で見た	至近距離で声掛け等は行っていたが、他の児童の片付けを伝った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールにおいて、担当者と児の担ら才みの活動。		—	室内遊具の配置等に留意し、整理を心がける。園児の体力を把握する。	
4300	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19					3	16		1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	—	事故記録を取り、どこがかったかの見直し、他の職員今回の状況は周知今回の事故を今後の保育に生かす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	安全点検に内容に内容改善に行う。これ引き行う。	1.集団活動中・見守り	このメットマット練習いるもこ入ニュ入だかとり見なった。	でしている安心感、あり、さ、まか、もし、危機感欠けた。場合の両手位置にカーテープを目こよってそく貼ってにくい線もにいるようにしたのテープ端に手をつけて体重が加わったことで圧がこのような結果になってしまった。	1.いもどお様り子であった	ストレッチくニュあるあるある

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4301	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				3	12				8	8	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨骨幹部骨折	1.遊具から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	ヒヤリハットを通して、危険だと思う遊具の使用方法、遊び方が周知底されていなかったため、検討会を行い周知徹底したが、その場で適正な補助が遂行されていなかった。	遊具で危険箇所がないか職員が検討会を開き、危険箇所に防止策を徹底的に改善する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	脚分全体を覆うクッション性のあるカバーを取り付けていなかった。	鉄棒の脚三角部分全体を覆えるクッション性の高いカバーを取り付ける。	1.集団活動中・見守り	鉄棒の遊具を使うときのケガ防止策が不十分であった。	鉄棒の脚部全体にクッションカバーをつける。鉄棒時の補助の方、援助位置を職員全員で検討を行い、周知徹底した。	1.いつもどおり様子であった	鉄棒が得意意識して離してまった。	2.対象至近で対象児を見ていた	対象児が鉄棒をする際に側に付いていたが、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に向かう園児を対応をしていた。	鉄棒時の援助の仕方、援助する位置と介助の仕方が不十分だった。	鉄棒時の援助を位置と介助の仕方を職員全員で検討を行い、周知徹底した。	
4302	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	骨折の既往歴がある。	子どもが訴えてきた、痛みがあるとの確認をすぐに看護師をみてもらうように徹底する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	通路が狭いテーブル配置だった。	通路を広く取り、ぶつからないように、イスをしまう。	1.集団活動中・見守り	既往歴があったにもかかわらず、骨折を防ぐために内履きをはかずにすごした。	内履きを過ごし、骨折を防ぐために内履きを過ごしない取り返さない対策を取る。	1.いつもどおりの様子であった	５歳の保育室にて遊びの外準備をしていた。	4.対象動き見ていなかった	対象児は５歳保育室にあり、担任は外遊びにて、園庭にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に向かう園児の対応をしていた。	職員の援助の位置が十分だった。	職員の配置、その後の対応を、の再度検討し、全員に周知徹底した。	
4303	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	12									4	4	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期実施	3	2.基準配置	危機管理などのそれ訓練で、都度話しを合っている。当日は遊戯室全部を使った保育教育論の配置が広がってしまった。	保育教諭届いた子どもが遊ぶ範囲を仕切りをようにする。声掛合い。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	０歳児のにはあるスは高さのステージで	子どもがステージ上時には複数の保育教諭でみる。	1.集団活動中・見守り	子どもの分かれてそれぞれの子興味がまま、遊ぶ所に付く。	月も人数で遊ばせ方工も考えしていも夫しく。	1.いつもどおりの様子であった	ステージで踊っていた曲りがそうだったようとした。	3.対象から離れたところ児が離れとこで対象児を見ていた	付けの声をかけるため横を向いたときに出入り方がかったが見えたので、保育教諭に行く声を掛けた。ステージを見ると対象児がしゃがんでしまったのでてういたあわてて近づいたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	出入り口、ソフト積木、台すべり近くにいた。片付けていた保育教諭もいた。	ステージ上に人のどもが集まれる思っが、目をしてまったこと対象児から離れていること気づいが間に合わなかった。	ステージ上に子どもが2人以上上がったら複数の保育教諭でみる。	
4304	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65	0	0	0	17	17	29			4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折		右手上腕骨小頭の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	—	園庭における子どもの活動場所や職員の立ちの位置等に問題なかったため、特になし。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	園庭の広さは十分であり、危険な配置も	1.集団活動中・見守り	—	人員は十守分、見守り体制にも問題なかったため、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で全体を見守っていた。	—	本児は雲梯でぶら下がり、雲梯に職員を1人配置していた為、改善策は特になし。	
4305	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17				7	5	5			20	20	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	玉入れの玉につまずくもあるため注意するように声かけをする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊びの場を広くし、重ならないようにする。	1.集団活動中・見守り	—	遊びの場を広くし、重なないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	)側にはいたが、ぐねった瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	玉入れの玉につまずく危険もあるため注意するように声かけをし、保育者を配置する。	
4306	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	44	0	6	7	7	9	15			10	9	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫 右下腿部打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	けがに注意するよう、遊び前に声をかける	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	—	着地すると想定されるマットに等をあらじめ敷いておく	1.集団活動中・見守り	—	ロッククライミングをする園児に注意を呼びかける	1.いつもどおりの様子であった。	いつもどおりの様子であった。	2.対象児の動きを見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	そばで一緒に遊んでいた。着地後痛がる姿を見てすぐに処置をする。	—	ロッククライミングのピスの配置を、安全性を考慮した場所へ配置換えする。	
4307	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									2	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻の亀裂骨折	1.遊具から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1，2	2.基準配置	職員の指示に従わない子がいる中、時はとりで対応を全体を発生ひと全体を応じた。	他職員と連携をとり、ひとり別行動をとる子への配慮をする。職員が手をつないで一番先に職員をのところに移動させる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	アルソックの操作盤に×マークを付け、触らないようにする。文字で触れることが解るよう表示する。立て方、場所の検討。	アルソックの操作盤に×マークを付け、触らないようにする。絵と文字で触れることが解るよう表示する。傘置き場所の検討。	1.集団活動中・見守り	日頃から全体移動が時、個別になって子がいる。落着きに欠ける。	その時ではなく、普段の生活の中で全体移動できるよう束ねる。アルソック役割、大切さ、触ってはいけない理由を知らせる。	3.いつもより活発で動的であったを(理由記載)	園庭から2号館へ移動する際、他児は職員について移動をしていたが、対象児は集団から抜けていった。	3.対象から離れたところ児が離れとこで対象児を見ていた	4歳児を園庭から2号館へ先頭に立ち移動をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当のクラスの保育に入っていた。	全体をひとり見ようとしていた。本児の興味や性格を対応していた。	職員が役割を与え、スムーズに行ける雰囲気をつくる。担当職員が手をつないで先頭で移動する。難しい場合は応援の職員をお願いする。	
4308	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18									4	4	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨・尺骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	—	事故の詳細を職員で共有し、要因を分析するマニュアルみ合わせと、園内研修を実施し、具体的な対策について学び、職員の意識の向上につなげていく。	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	18	2.不定期に実施	30	—	施設、設備等が原因ではなく、具体的な改善策なし。	1.集団活動中・見守り	アンコール運動という通常の保育と違い、本児が興奮状態になり活動であった。	通常と違う活動は、興奮しやすい特性の児の本性をしたで、気分が高揚しすぎないよう動内容を考える。	3.いつもより活発で動的であったを(理由記載)	本児は、体を動かすことが好きであり、興奮状態でいった。その動きが大きく注意不足となり他児と軽く接触。バランスを崩した。	2.対象至近で対象児を見ていた	興奮状態の職員が名近くに合わず手が届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他２名は、全体の見守りをしており本児の近くにはいなかった。	—	興奮状態になりそうな活動の時は、職員が本児の近くにつき、興奮状態になる前に声掛けをしたり、身体に優しく触れたりすることで、気持ちを落ち着けていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4309	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								2	2	17.5歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	—	なし	6.食事(おやつ)中	—	出入り口から少し離れた場所に机を配置するなど子どもの動線を考慮した環境を工夫した。	1.いつもどおりの子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児は自分の歯磨きをする為、保育教諭は前に立ちクラス全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配職員の為、加配の児童についていた。	なし	なし	
4310	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21								2	2	17.5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	登降園時の安全に対する項目の具体化	登降園時の具体的なルール、決まりをマニュアル化し周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	建物内外観の点検頻度の適正	日常的に建物内外の点検を実施する。	7.その他	危険（障害物、滑りやすい）に対する予知	受付けの際、いつもと違った様子（靴下・厚着など）がえるなど、注意が必要な時は、掛け等を行い場合によっては、張り紙等で連絡する。	1.いつもどおりの子であった	普段からおとなしい性格の子だので特に目立った様子は伺えなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	基本的に受入れ職員が1名で対応しているが、周囲の様子を思うように把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員がちょうど遭遇したが、防ぐにはできなかった。	登園時の受付の混み合う時間帯は、保護者等との連携がとりずらい。	受付けの際、いつもと違った様子が伺えるなど、注意が必要な時は、声掛け等を行い場合によっては、他の職員に応援を依頼する。	
4311	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51	0	0	0	20	18	8	5	5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	亀裂骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	学童との異年齢交流しる間に事故のきたため、こども園とこどもの学童と協力体制や見守を体制を再考し、こどもの安全管理を徹底していく。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		—	落下した場所が、生ゴムが剥がれているところだったため、亀裂骨折に至る可能性がある。今後、クッション材の配置等を検討していく。	2.集団活動中・子どもたちのみ	—	学童との異年齢交流しる間に起きた事故であったため、学童に並びに園児に対する遊具の安全利用を伝えていく。	1.いつもどおりの子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	一緒にいた学童児が、対象児の兄も含まれていたため、注意が行き届かなかった部分がある。以後、注意していきたい。	
4312	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24				22	2			5	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	初めてのスケートで氷の上に立つ練習であり、不慣れなスケート靴と氷の悪条件だった。職員が各自で滑ることを支援し、転倒した子を個々に助け取り組みもしたが、想定内の怪我になってしまった。	準備運動をしっかりと行い、いつも以上に視野を広げての見守りをすることを、立ちろうとする時不十分に安定の配慮を十分に行い、転倒したとき衝撃でも減ずるようにきるようにする。また、次回からは職員の他役のケーにもて事前に現場に現場ホッ選手協もらしした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	氷の上はやすく滑りやすいに、不慣れなスケート靴を履いた。	氷の上がとことに滑りやすい氷危険性いうを園児にしっかり伝え、一人一人危機感を持っての取り組むようにする。	1.集団活動中・見守り	部分に外傷がある箇所や腫れがないかどうかのチェックをした。	痛がる様子や座り込みなどの様子をみた。	転倒・怪我の悪化方法や、外傷や腫れがないかも早めに病院受診をする。	1.いつもどおりの子であった	初めてのスケート教室で、コーチの教えの通り氷の上に立とうとしていた。	2.対象児を近くで見ていた	本児が転ぶ様子や転び方を見ていて、転倒後に本児が動けない状態になり主幹保育教諭に知らせる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の援助をいて本児の転倒を目撃した。	初めてのスケートということ、慣れない靴で立習をしたことで、児の通り足がずれ本児の動転倒してしまったと考えられる。	転倒しそうになったときに、可能であれば体を支えげる。	
4313	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(給薬～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23						5		1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	母指基節骨骨折（右手）	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	50～60	1.基準以上配置	—	・事故発生の要因を職員間で共通理解し今後の事故防止をする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・縄跳びを固定する遊具ができるという定がくいかなかった。	・遊具の使用法を安全確認し再発防止に努める。	2.集団活動中・子達のみ	—	・子ども一人一人の遊びのルールが定まっていなかったため、ルールを確認し決めてから取り組むようにしていく。	1.いつもどおりの子であった	友達と楽しく遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室、保育室、ウッドデッキを使って幼児を見守っていたが、周囲の環境は適切ではなかった。			・担当者・教育危険の予測・保育論が十分でなかった。	・ポールが倒れたら事故につながることを予測し、転倒防止の方策をとる。	
4314	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	76				13	36	27			4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	そしてこのミスが、子どもとの衝突によるケガであったことが、次の衝突を防ぐ対策として身をタイムリーに受けとめられた。	戸外では子ども達が遊びしているか遊び場所を決め、全体で遊びルールを確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	12	園庭の状況が悪い原因は考えられる。衝突の直接的なことが、やすくい滑り所があるため、見直しが必要である。	定期的に石拾いをしたり、砂や所にまいたりしておく。	1.集団活動中・見守り	登園時に、健康状態はおいて、健康状態は良好であるため、不調事項があるとは限らない。故に体の安全を把握する。	遊びとスペースの遊びのスペースは、外遊びは、以外ペースを確保して近づき時にそれぞれのスペースをできるようにしていく。	1.いつもどおりの子であった	対象児の健康は良好であり、友達と一緒に園庭でごしていたが、友達ごっこをしていたが、友達の衝突をよけ時に、別の遊びをしていた突し子として転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の遊びを見守りながら子の準備を行っていた。対象児がごっことして鬼ごっこを行ったことを聞いていたが、離れていたため、かけられつけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	場所それぞれの見ていた。離れた場所から見ていたが、おかけられなかった。	遊具鉄棒、砂場、複合遊具、棒、ぶらんこ	遊びをしているこどもの突きあるため、遊びでいる子同士衝ぎすぎないかどうか確認すべきと考えられる。	保育教諭による見守りを強化する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4315	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									4	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	—	1.基準以上配置	—	職員1人1人が確実に理解し反映できるよう研修に保育のあり方を検討しているのを		1.定期的に実施		12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室で活動している際の、排泄等は保育補助が対応し、活動には保育教諭が付いたが、子ども達の発達や理解に応じた発達や理解に応じた操縦設定が分でも、また、保育指導、見守り、介助につくための配置もでした。	保育計画の段階で子ども達一人一人の発達や特性を把握し、保育活動のねらいを明確にしたうえで、職員共有する。さらに遊び指導や順番なども理解できるような指導を心掛け日常の繰り返し行く必要。予測できない行動ある子ども達の気持ちを十分に念頭に置き、安全に遊び	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに元気に登園していた。普段から良く動きまわり、楽しむ姿が見られた。	2.対象児の近く象児を見た	遊戯室全体の見守りをしながら、不安定な児に気が付きながら、手のかいころ、届かないところに子ども達の動きに取り組んでいた。	2.担当対象児の動きを見ていかった	遊具のある隅に遊ぶ児を中心に見ることを見守る。本児の遊びに気付かった。	保育士が児の安全を考え、保育者の甘い意識のために子ども達が傷つくことの無いように、さらに子ども達が伸び伸び挑戦し成長した	各個人の資質の向上が必須。保育を行う上での安全管理を含めた計画と実施など事前の準備を改めて意識することが必要。常に子ども達の言動に注目し、変化を把握する努力と最大限に行い、職員間での工夫を図る。保育者の甘い意識を重視していく。	
4316	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	転んでしまう際の付き手の付き方や、受け身の取り方の確認をしていれば良かった	1.基準以上配置	12	紙芝居や絵本を通して時の体験を学ぶ機会を設ける	施設安全点検の際、園庭に傾斜や落ちていないか転ぶ要因がないかも点検する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	転んでしまうことリスク外であったが想定外であった。最ケーも頭に入れながら保育を行うことが大切である。	施設安全点検の際、園庭に傾斜や落ちていないか転ぶ要因がないかも点検する。	1.集団活動中・見守りあり	転んでしまうことも想定に入れ、保育者の配慮を考え全体を見渡し、子どもたちの安全を守る。	配置基準をだけでなく、見守りエリアを決め、保育者の目が行き届くようにする	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊んで	5歳児担当職員は他児の間持っておくり、近く児童でのりが欠けた。	3.対象児の見守り	1.担当対象者・象児動きを見た(至近距離にいた)	他の職員の近くの子ども見ていたが近く遊ぶ見守りをていたが、すぐに駆けり付けられる距離ではなかった。	遊ぶ前に必ず安全に過ごせるための指導を十分に行う	遊ぶ前に必ず安全に過ごせるための指導を十分に行う	
4317	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19			6	10	1	2			3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	なし	1.基準配置	なし	1.定期的に実施		12	2.不定期に実施	使用前	1.定期的に実施	毎日	ステージが常においてあり、ぶつかる可能性があった	ステージを使用し場合は片付ける	1.集団活動中・見守りあり	ステージに近い位置で活動していた	ステージを使用しない場合は片付ける、又は近くで遊ばない	1.いつもどおりの様子であった	ソフトカラー積み木などで使っ楽しく遊ぶ姿があった。	4.対象児の見ていなかった	全体ホールを見ていたが、対象児動きへの注意足り、見ていなかった。お迎えの保護者のも気になっていた	1.担当対象者・象児動きを見ていた(至近距離にいた)	なし	なし	
4318	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10					5				3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	事故防止、対応に対する保育士の知識と意識が低かった	1.基準配置	事故に関する研修に参加し積極的に保育士の知識と意識を向上させる。子ども自身も危険さを回避できるように指導する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	移動式の棚室で保育のしを作っている棚の方ものを置きと重なっていが置と線なることある。	移動式の棚の配置を再検討、あまり物を置かず、保視が広いように育士の野がようする。	1.集団活動中・見守りあり	ジャンパーを着すために床に広げていたが、十分なスペースが確ておらず、ジャンパーを踏んでしまう状況だった。	身支度のスペースを十分に確保するために、保育室の隅にジャンパーを置き通路を確保する。場合によっては排泄を済ませた順にジャンパーを用意する。	1.いつもどおりの様子であった	ジャンパーの周児に一緒を回りと走りていた。	3.対象児から離れたところで象見ていた	走ることるを止めるよう促しながら、身支度をして他児の支援をしていた。	2.担当対象者・象児動きを見ていなかった	身支度をしているも子どもに目を向けつつ、排泄の援助をして保育士1名。身支援助していた保育士1名。	声掛けだけでは、ジャンパーが出ている状況の時は、走らないことを伝えていく。	声掛けだけでは、ジャンパーが出ている状況の時は、走らないことを伝えていく。	
4319	令和3年9月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				10	5	5			1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじのひび	1.遊具から転落・落下等	1.あり	1.定期的に実施	—		怪我につそどもが子子の様子なもの観察するを	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	毎月の安全点検をしっかり行うと危険なところは改善していくようにする	1.集団活動中・見守りあり	—	全体が見える位置で見守る職員の位置を確認する	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで象見ていた	全体の子どもの様子を見て怪いたが我いたきづけた	2.担当対象者・象児動きを見ていなかった	見守りは1人であったが直ぐに看護師が手当した	—	夕方の時間は、一日の活動の疲れがあることなどが考えられるから十分に子どもたちの様子に注意することや職員配置	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																																											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4320	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10					1	10			1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	3人の園児は事故発生までは、室内を走ったり、回ったりしていたため職員が注意していた。注意後、まもなくコーナー(マットでくるいエリア)に3人が移動したため、落ちとそれぞれの不注意の有無の判断の後の場所が分かれていた。	職員1名での体制で、個別の必要ある時は、他の子どもが傍で対応する。等、事態の備えに立ち位置を考え、全体の状況を適切に把握する。個別の対応にて対応する。の内容によっては、他の職員を要請する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	マットを敷いてエリアまで敷き詰めるエリアは、日頃から延長でのお昼寝時に利用している。	コーナーの使いあそび方やあそびの提供を、その子の発達度合にて知り利用するようにする。	1.集団活動中・見守り	抱きかかえたり、走ったりしていた3名に、注意意を促した。コーナーの移動が、そこで遊びの移動は同じ合った。	・注意を後ども子の観察する。・園児は、よりの方に促しの遊び走り、返りに繰り指導する。	3.いつも発で活動的であった(理由記載)	預かり利用の34名の子どもの内、23名が午睡の為へ移動し、室内は11名になり、他児2名とじゃれ合中で、じゃれ合うは興奮した様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	預かり指導員は、指導員の対応をお界には入っていたが、離れた場所で他児のトラブルを対応をお子ども児の様子のものは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	他の預かり指導員2名は、遊戯室で午睡の対応をしていた。	注意し対象児含む3名は、一人走り等で旦回るをやめ、コーナーの一角へ移動し為、行動が着いたと判断しました。	注意した後の子どもの変化や、興奮し状態の気持ちの変化を含め、傍で観察し確認する。また、じゃれ合う遊び以外に5歳児が興味を持てるような遊びの提供をする。	
4321	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	165				55	55	55			17	17	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.なし	3.未実施	2.基準配置			2.不定期に実施	1.定期的に実施		1.定期的に実施		2.不定期に実施		3			3.個人活動中守り						1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	当対象児の動きをていた	子供達が思い思いに遊びをしているため、特別に対象にしなかった。	普段かよくしている遊びのため、職員がく傍で	危険があることを職員間で認識をし、一人一人の動きが把握できる位置に立ち、見守る。	
4322	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	通常は3名の保育であるが、2名で保育体制をしました。長・リー教諭(3名の内1名週休)は、4・5歳児加の参加。世代交流会の間(地域の福祉委員による遊びの交流行事)に参加した。活動名に代わり水遊び前後の対応等で看護補助は入っていた。	保育園入り、ともたち落ちは付いて取り組んだため、特に要応援請すると2名をした。2枚のマットを敷にそれぞれ教諭2名が傍で、周囲待っている子どもの配慮が不十分になったと考える。の状況を適切に把握し、立ち位置を考え、必	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	クラスの活動は定活動でマットの使用は初めてであったため、順番をクラス定ての守り、マットを守り、交代したこいたもいた。	グループの交代時、全体には着いたが、活動待ち、期待感び揺れる移動子どもの子を注意し、子どもの子を注意し、個別に注意すること要で促すことが必要である。	1.集団活動中守り	マット(90×180の長方形)2枚を囲むように、字型でグループ座った。全体はまった隊形で活動。ある当日グループの表終全の戻ら、グループを呼んで移動ピー個人中ろ	移動の指示をときや流れ等を注視し、同士しないに見ることで、突しよう守ま、人的の配慮性の迅速に判断援する応じ要請のを。	3.いつも発で活動的であった(理由記載)	いつもと参加に変い活動に参加した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任教諭は、一方のマットの傍につ子どもの誘導や指導をしていたが、本児を含むグループの際の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	教諭は、一方のマットの傍につ子どもの誘導や指導をしていた。本児グループの際の様子は見ていなかった。	交代仕方を、中2グループ同時移動交代にすることで、注意しながら、ルールが広がり(8名から6名移動が増加)配慮が分かってきた。交代時走るな回ることルールの代の方途ら	・同時に多ども子とくが動くことで、注意や配慮も広がる為、移動の仕方を変更する際は、事態に備え、人員配置の増員を含めた対応をする。・全体の活動を誘導、指導する職員と、子どもを見守る役割も職員と役割を分担し、子どもから離れないようにする。	
4323	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110			5	35	35	35			43	38	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足関節外果骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	起時間が、看護当番6名で各配置場所につき、安全を見守る。	原因が分からない場合、障害部分へかの処置を行う。色々な想定し、対処法をその時に考えておく。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施			子どもたちの自由びの様あそび留意みて、ま、配置間を一層していくとた、配置場所にも配慮。	1.集団活動中守り	適切な言葉かけ子ども心理状況に理解気を配る。	原因がわからない場合、障害部分へかの処置を行う。色々な想定し、対処法をその時に考えておく。	1.いつお様もりの子あった	いつも通発見とり、仲の様に遊んでいた。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	全多の様子を見ていもとず遊変わらず児の変化に変化なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	様児の見ていた	園庭では、他のたち遊んでいる為、各自場の持ち担当箇所を見ていた。	子どもたちの理解に合わせた適切な言葉を掛ける。	重点ポイント中心に看護職員を配置している見ていない状況を作らず、声をかけあっていくこと。	
4324	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	50			4	16	15	15			3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨螺旋骨折	1.遊具から転落等の落下	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置		発達段階に応じた遊具の使用、各クラスの遊びの方指導	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11			3.個人活動中守り			1.いつお様もりの子あった	総合遊具施設の設置して施設部に雲梯がんば	4.対象児の見ていなかった	園庭で遊ども子ども全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ども子ども全体を見ていた		雲梯の遊び方の再始動、自由遊び中の中の見守り者の一層の相互連携	
4325	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	54			5	14	15	20			4	4	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1.遊具から転落等の落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	保育者が傍にいたが他児に気をとられて目を離した間に落下する。2歳児がブランコに乗る場合には常に目を離さないようにさとがある。そのためはもうそこに1名配置する。	子どもの傍らを離れた目を離さないけない時は他の保育者に必ず声をかける。	2.不定期に実施	5	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2歳児のためのブランコも設置してある。今回はきいンコのだった。大ブラから落下	不備があ箇所を出し合ならば複数が再点検する。	1.集団活動中・見守り	昼食後の外遊びは食べ終わった子ども順番に遊び、順番で上っていくと、下者の配置を変えていく。	外遊びを担当した保育園の徹底。	1.いつお様もりの子あった		2.対象児の見ていた	保育者のにいた傍らたため傍ら、とかわっていたため落ちを防ぐ下ことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	他児とかわっていたの落下の瞬間は見ていなかった。	本児の傍らにいただが、他児とかわっていた泣き声で気づく。全体見えるように位置をかかえる。	傍らにいた保育者は他保の職員に声かけしてみてもらう。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				ハード面						人的面												
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡 死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4326	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	40	1	4	11	3	13	2			6	6	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性脱臼外傷性歯肉炎出血	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		児童の日頃の様子を把握し、行動パターンに注意する。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		2.不定期に実施			1.集団活動中・見守り		保育室で移動について走らないように注意喚起する。	1.いつもどおりの子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走らないよう声かけを行う。	2.担当者・対象児の動きをていかった	昼寝の準備をさせるために、他の児童を見ていた。	園児がてしばらく傍で行動したための事故となった。	保育室での移動等については、走らないように注意喚起する。	
4327	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34			3	12	10	8	1		2	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)		8.その他	2.なし	3.未実施		2.基準配置			2.不定期に実施		2.不定期に実施		3.未実施			1.集団活動中・見守り		子ども同士で水道の蛇口で遊んでいるところを見て、ごっこ遊びで下に入ってしまうと入ってくらいなくなるから、狭い隙間に入ってしまうと抜けられなくなるから、注意をしました。	1.いつもどおりの子であった	いつも通りの元気な子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きをていなかった			預かり保育の職員を一人増員した。	
4328	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25			2	9	5	8	1		2	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部		1.遊具等の転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置			2.不定期に実施		2.不定期に実施		3.未実施			1.集団活動中・見守り	手を離したのが何人か目を離したのかわからない故に、人は本を言ったのかあたらくなら	ジャングルジムの下に生徒が遊んでいるのを見て、3歳児の子どもが遊具を使用する場合は必ず職員がそばにいるようにすることとする。	1.いつもどおりの子であった	いつも元気いっぱいで特に異常もなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでいることは見ていたが、他のもものトラブルをた瞬間に落下したその瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他児のトラブルをそっぱ目をそらしたときの出来事だった。			
4329	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス										1	1	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折(ヒビ)	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		階段の上り下りの際は、手すりを掴むよう指導する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		1.集団活動中・見守り		階段での転倒は骨折等の怪我につながるので、日ごろの保育の注意をする。	1.いつもどおりの子であった		2.対象至対象児の近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			当初はひびに気づかなかったので、早めに保護者に連絡し、病院への受診を勧めるようにする。	
4330	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91									12	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		普段からいろんな場所で遊んでいるがつい転倒、下にあったもので今回のことが考えて事故となる。	1.定期的に実施	0.5	1.定期的に実施	0.5	2.不定期に実施	12		1.集団活動中・見守り	行事の際のため、通常の保育では普段とは程遠い行事の日程設定であった。	行事には子どもが普段通りに安全に考慮する。	1.いつもどおりの子であった	登園時から特に変わった子どもは変様かったと思われる。	2.対象至対象児の近で対象児を見ていた	事故当時、対象児と一緒にかかっており、ネル山を駆け下りるトンネル上でいる対象児をトンネル山を見た。転んだ瞬間は手を差のべられる位置にいなかったので、すぐに駆け下り職員室へ行き対応した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の幼児の園庭の場所と遊う場所とのかぶっていた。		トンネル山での安全な遊び方について職員間で検討する。	
4331	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21									1	1	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A左上AB外傷性亜脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		通常はすることはないが、注意をはらう必要がある。	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施			1.集団活動中・見守り	クラスで玄関から外に出る時であった		1.いつもどおりの子であった	2段の階段下でUターンした時、バランスを崩し、階段でこけて口を打った。	4.対象児の動きを見ていなかった	すぐそばで他の子どもを見ていたが、降りる再度時は反対向きに転倒していたに他の員と看護士を呼び応急処置を行った。			2段とはいえ走って降りるこどもがいた。	外遊びの際、いったん階段手前で並んで安全に注意しながら段を降りる。	
4332	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折・左橈骨遠位端線損傷	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置			2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施			1.集団活動中・見守り	雲梯が出るからと言ってきっきと言っても雲梯を張りてくした。	遊具の使い方を子どもたちが安全に遊ぶ方法を考える。	1.いつもどおりの子であった	雲梯をし始めて二本目のバーにかけようとした時に手を滑って落下した。	2.対象至対象児の近で対象児を見ていた	対象児は雲梯が得意なので、支えず30cm距離で補助していたが受け止めることが出来なかった。すぐに園庭から事務所に連絡、連れて行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任に連絡、氷の用意、保護者に連絡、病院の手配。	本児が「できる」と言って聞かないので、は気を持ち直せず、着かせ、挑戦させ	できるという安心感を持って補助に当たらず、つく人は常に意識してあたる。長時間補助はせず交代していく等対応する。また、危険が予測される遊び等に挑戦する時は気持ちを落ち着かせて	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											教育・保育等従事者の体制		事故にあった子どもの			事故状況					事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4333	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	35				9	9	17			3	3	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯歯根部の損傷	3.子どもと同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	園児35名の内3歳と4歳児の一部16名は、午睡から起きリネン類のけ・レ滞・保育室の移動、外遊びの4.5歳児19名は、園庭の片付・園庭内のけ・から室への移動・うがい手洗い、活動の変わりで、子どもの目様々なども動きがあり、3名の職員も子どの合対子ども動きわせて	午睡と外遊びでの子ども様々の遊びでもあるため、場イミでも、見守り時間差をし、適切な対応が出来るように、職員を間でかけ声をあっ、必ずかけた要に応じ他の職員に他をを要請する	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	園庭は芝地面エリアが、発生生とは地面エリアは中で、やほぼ倒すいもの箇所や凹凸等の面エリアはなかった	始業前に園庭整備や環境設定をする際、園庭内でなものはないか、地面の状態等を点検し、状況を続き行う	1.集団活動中・見守り	・片付けの後はおやつの時間であり、子どもも達しの中のある片付けや移動であり、3.4.5歳児が、一斉に動く時間帯であった・当該の2名は特に児で、クラスも同じで一緒に活動していた	見通しがある中でのや片付け移動ある、指示を出すときは、慌てさせないよう、落ちついて声かけし、子どもの動きを、よく見守り切なきなどを、適応を行なう	3.いつも発で活動的であったを	いつもとなく変り活動に参加していた	2.対象至児の近で象見た	園庭遊び名担当2名の預かり保育指導員の内、1名は該当園児に付けの片声をかけ、一緒に動いて、1名は午睡から移動しくるもの子ども対応の為、園庭から室内へ入ろうとしていた（当該園児の近くを通りかかった）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	保午睡の午睡室で睡をしていた3.4歳児16名の対応をして	園児は預かり保育利用で、活発でなタイプ子どもであったため、急がないように声はかけ間になかった・午睡後の子どもの達対応しょうと名の指導員移動しようとしていた為、子どもの注	・子どもから目を離さない、まだ個々の特徴に合わせ対応する・同時に多くの子どもが動くことで、注意や配慮も広がる為、不測の事態に備え、人員配置の増員を含めた対応をする	
4334	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16			5	4	7				5	4	15.3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	1	遊び方によって理解でない時期だったよるである	遊具のところに必ず、職員を配置する	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	遊具の遊び方が、遊び方で確認・徹底が必要である。	マットの見直し（大きさ耐久性）	3.個人活動中・見守り	保育者がそばにいてもケガしたのだ子どもの・子どもの遊び方・危険性の確認が必要である	1.定期的に実施	1.いつもお様で子であった	肋木で遊好よで近くで遊んいた	2.対象至児の近で象見た	ホールに数人の自由に遊んでいたの子どもが自由で、保育者が近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	ホールに数人の自由に遊んでいたの子どもが、保育者が近くで見守っていた。	いつもよりも当前のように遊びでいる場所が、注意が足りなかった	子どもの活動等、目の届く場所に職員配置する。	
4335	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	90			30	30	30				16	16	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置			2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3			1.集団活動中・見守りあり	箱の角がそのまま箱で、衝撃を緩和する工夫がなかった。	箱に近くにプラター等を置き、子どもたちが近寄れないようにした。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象動児の見ていなかった		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子供たち思が野遊びをしたため、特に対象児をしていなかった	職員数人でひら見ているため、全体を見ていな	視野を広くし、一人一人遊びが見えるようにしていく。	
4336	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50			15	15	20				6	6	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置		マニュアルを作り、充実事検討し、研修を充実させ防止に努める	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	運動会準備の運動会の観覧席のロープあった	既存の観覧席を撤去し、安全なものに変更	3.個人活動中・見守り		いつもの環境危険ん環ことを考慮し、事故防止に努める。	3.いつもより発的活動であったを	リレーの選手に選ばれ運動会を楽しみにしていたので、いつもより発活になっていた。	4.対象動児の見ていなかった	水鬼の最中、保育士は本児が運動会の準備のため入りのをした箇所に立ち禁ロープしていた場所に入った箇所は、見て見ないなかった。そのすがを見ることなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	水鬼の最中、保育士は本児が運動会の準備のため入りのをした箇所に立ち禁ロープしていた場所に入った箇所は、見て見ないなかった。そのすがを見ることなかった。	普段楽しんでいる遊びにも危険潜いるとる	危険があることを職員が理解し、一人一人留意する	
4337	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40			15	15	10						17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	3	気分も着い遊び中から落ちた環境の中で“気を付けるいう少ないが遊んだようある。	最低3名の教師は配置されたどもの職員は遊びこまんでの1人は全体を見守る役割で配置することにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	一つの子に遊び具もしてことのある広いで安全声を配慮している。	遊びの中持ち雑で気持ちまでの空間によるで気持ちが高ぶりが見えなるとのでいるが同じにならないようかける。	3名の職員が配置されていたがそれぞれ対応が重なってしまったのではないか。	全体を見守る役割の教師を1人は配置し、早変異知し対処できるようにする。	1.いつもり子お様であった	怪我直前までもいつもどおり気の合ったお友だち一緒に外遊びしんでいた。	3.対象児からの離れたところ対象見ていた	近くの子どもたちと遊んで事故が起きず、事故直後からもいつも通り遊んでいたことあり対応に行きつかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	園舎近くも戸外のびをした。	事故時は落着きもっと遊んだ日ごろ仲良くなり興奮しすぎがくなりやすく、声かけこと多かった。この日は事故時は子どもをてでいが、頃楽しくなる興落きくやくをるもかった。知の知	日頃より落ち着きをもって行動するよう伝えていく。	
4338	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス												17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第4趾基節骨折	3.子どもと同士衝突によるものにも	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	3	主での指導教員1人、補助教員2人が、教員がいた、少なかったのではないか。	補助教員や職員を増やす。がもっと広い視野を意識して関わる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	普段使っている所で、動きが激しくなるこもある。	場所から危険な場所はないか、確認する。	1.集団活動中・見守り	日頃から友だちとの関わりを求めや児の傍に、普段から多すい本児の普段接触の多が並ぶいた。	集団活動の際は、普段の友人関係みて、並び順にも配慮して留意守りい。	1.いつもり子お様であった	組体操の練習に意欲的に取り組んでいた。	3.対象児からの離れたところ対象見ていた	組体操中は、全園児を見渡す位置にいたが、事故の瞬間は別の目を向けて子お様子を捉えられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ対象外の子を見ていた。	活動後の組体操の後、リーやスポーツクなど体を動し、みがしたのでは痛増の	活動後の本児の様子を確認し、普段と違う姿さにないように配慮する。	
4339	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									3	3	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準以上配置		年少時に外遊びの機会提供が少なく、体を動かす体験が少なかった。	外遊び・運動遊びをカリキュラムにいれる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12			1.集団活動中・見守り	日常的に体を動かすことが少ない園児であるため。	保育の中で外遊びの機会を増やす。	1.いつもり子お様であった		3.対象児からの離れたところ対象見ていた	3名で対応し園庭全体に気を配っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にい	配置職員・職員の動きには問題はない	特になし。	特になし。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
																											ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
																											マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因			実施頻度【回/年】	職員配置			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4340	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	68	2	6	23	13	24			13	12	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節の骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	入園式後バスになって2日目であり、子供たちが午後の時間の流れを理解していないため、混乱が生じていた。	混乱を避けるため、一旦一部屋に集め、降園スタイル毎に流れをして説明して園庭に移動するようにした。	1.定期的に実施		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	破損とられた事は見なかった梯子(180センチ)であったことが考えられるのでは？	メーカーに確認をとった。設置時の基準には適合していると答え。後、カにより高さを下げた	新年度始まってもまもなく、発車時刻までの理解もできず、混乱している園児の対応等をしていた	1.集団活動中守り	混乱を避けるため、一旦一部屋に集め、降園スタイル毎に流れを説明して園庭に移動するようにした。	3.いつもの様で活発であった(理由を記載)	朝から「今日はがんばってくださいね。」とはりきっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	5人の職員で、園庭遊びを見守っていたが、お迎えに来られた保護者と園児の対応や、混乱している園児の対応等を行っていた。	2.担当者・他児の動きを見ていなかった	お迎えに来られた保護者・園児の対応や混乱している園児の対応、おもらし等の対応を行っていた。		混乱を避けるため、一旦一部屋に集め、降園スタイル毎に流れを説明して園庭に移動するようにした。	
4341	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	4	6	4	6				2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児危加から害えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	・担当する職員が不足している確認足した。・着座の手を離していて険こういう児の際に出ると危なくなるであるとの注意とて、園への注意が不足していた	・職員が担当園児に対して、安産な座り方を知らせる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12			1.集団活動中・見あり守り	他の園児に着座しなければ寝ている園児の横に連れてくれると良かった。	時間差での寝起きの連絡を園児してくるようにする。	1.いつお様でもり子であった	昼寝起きぼやぼしてややりすんで座っていた。	2.対象児を見ていた近で動児を見ていた	廊下で着替えをしている子見た本っているを見ていた。	2.担当者・他児の動きを見ていなかった	トイレに園児ていると見た。	昼寝起きの園児がすべて支度し終わるまでに先に座らせてしまった。	・着座の際は手を膝の上に置いて待つように園児に伝える。・担当職員は最後まで責任を持って昼寝起きの園児の対応をする。	
4342	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	6	8	17	7				4	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置		事故予防に関する研修を行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6		安全点検の徹底	1.集団活動中・見あり守り		地面を軟らかくする為に1枚1枚マットを地面と境がないように敷き、その枚数に2枚目のマットを敷き、マット2重にしている。	1.いつもどおりの子であった	お友だちと話遊ぶ姿が増えてきた頃だった	1.対象マンの状態(対象児にしていた)	対象児の近くにおり 手を差し伸べたが 間に合わなかった	1.担当者・他児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場で他の園児の対応をしながら見た		事故が起こる可能性を意識し 手の届く距離に配置	
4343	令和3年9月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	126			38	47	41			17	17	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等の転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	事故予防マニュアル作成予防に関する知識や事故発生時等の対応等について職員に徹底する。	落下時の止マットを敷いて鉄棒を敷おり、鉄高さでとるの適切であったわれる思が、出の制限する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		落下時の怪我防止に	3.個人活動中・見あり守り	前回りの練習をしていたが、保育補助なしでていが、教諭の提が十分でなかった。	園児に「しっかり握りを離さない」遊具での安全な遊び方を安全な遊び方を繰り返し、事故を予防するよう注意喚起を促す。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で前回り中離した。	4.対象児の動きを見ていなかった	3台の鉄棒で遊ぶ数人を見ており、事故発生時は園児に付き添いた対象児動きは把握していなった。	2.担当者・他児の動きを見ていなかった	園庭で他園で遊ぶ園児をいたため、園児は見ていた。	見守る教保育論が少ない合出棒をすまた、落防ス全に室くに学乱こ暴言	鉄棒、雲梯、固定遊具等は、職員が必ず傍にに付き安全に遊べるよに繰り返し声を掛け、個々の力に合った遊びができるよう見守り、必要に応じて補助をする。	
4344	令和3年9月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	74			22	29	23			7	6	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	・職員配置数置た必要以上配置して、突発的な園児の行動にも 十分にできるよう対応するに、一人のひとりの職員が事故予防に対する 研鑽を積み更に必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	・体験学習に際し、事前校中学生に打合せを行い、中学生に中学校の先生に側ち合せ行い、園児に接する対応する方の点も話から触れようとした。	・遊具の安全点検・マックの敷などの位置も事前にチェックしていたので、問題点はなかった。	1.集団活動中・見あり守り	・中学生にあそびたいていたもあそこーあきこりあ、びのーがいつもしてくれ以上多くいても一ことはできた原因と考える。	・あそびのコーナーをいつもと同じにし、園児の動確認をを的に捉えることるができるようにする。	3.いつもの様で活発であった(理由を記載)	・中学生とのいを喜び、興味で、気味で、いつもよりあった。	3.対象児の触れ合いを喜び、興味で、気味で、いつもよりあった。	・本児のいる側についた 他児は呼ばれ、その場を離れた。	1.担当者・他児の動きを見た(至近距離にいた)	・ジャンプをして、生タルしてん姿を距離でが、にし児 高ジェをバランスをマット転倒した。 通常はこの時は具からジャンプをしてタッチするはいたの事前に注意	体育授業に行く前に、中学生に学ぶことを至近距離で見ていた。一瞬本当に、ジャンプして、ランスに崩し時の遊びやっかいなので、注意	全体遊戯中生なことを乱暴言を吐こしない、暴言を吐かない、激しくて、他児にかぶつからない等を保育士がしたが、本児の性格を考え、個人的に言葉をかけるべきだった	・危険行為やすがい遊具は、保育士は必ず側から離れず、見守りながらこ遊ばせることを職員で話し合う。・職員の立ち位置等を再度確認し、徹底するようにし事故予防に努めていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面												
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯			人数															死亡	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4345	令和3年9月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	59	1	4	6	11	18	19			17	17	6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝よによる倒・突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	事故予防のための想定十分であった。	事故のリスクを想定しなが対応を考え、職員間で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	子どもの態度や心理状態を推察しての不十分であった。	危険箇所を、職員間で共通理解し、職員者の特性を発し、危険回避ができるようにする。	1.集団活動中・見守り	体育館へは毎日のように行き、競技は行っていた、運動会当日は観客で、いつもと雰囲気は違っていた。	子どもも自分にも、日のことを予想子身当たるようできる働きかけてく。	1.いつもお様りの子であった	体調面は心配なく、運動会に参加でき、オープニングが終わり、競技は種目のこと1かけで、元気スタートはきた。	2.対象至近で対象児をていた見た	かけっこの競技中で、1名は走ってゴールの前の待ち1名は走ってゴールの前の待機の2名はゴールの名所、1名は走り終わった所にいて、多子どもの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	運動会開催に向けて、全体が保育室内で職員は当日配置していた。	運動会開催で、沢山の観客で、緊張と盛り上がりがあった。	会場を解放し、落ち着いて競技に参加できるよう配慮する。	
4346	令和3年9月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9									2	2	2歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝よによる倒・突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	2メートル離れた早くに行きたく、走って行こうとしたてとしため	日々の保育のもあることで、特に他の時なことには怪我なく起こっていなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1才児は手が人を添えるが、2才児は一人で上がり降りできる高さ(7センチ)であると考える。	玄関と靴箱の境目段差があったらふら可あめついた性あったもしれない	7.その他	裸足で走り、母親の所へ走ってしまった。	子どもらない様に、丁寧に知らせていく。	1.いつもお様りの子であった	母と保育者の話しをことが不得意で、自分の思いを伝えることが不得手。	2.対象児の対象児を見た	母親に伝えたいことがあったので、行動を確認ししながら話をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた)	他の子どもたちがいたその保育者が本児の子育ても、本児は視界に入れていた。	特にな し	子ども、保護者との安心できる関係性を深める	
4347	令和3年9月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	47									3	3	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右肘骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	ルールのない遊び、3つの遊びの設定に危険予測できなかった。	危険な遊びの選択をし予測される子どもの行動について職員間で話し合また、2つ以上の遊びを同時に行わない。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5 0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	今回の事例で施設等ハードの問題はないと考える。	事おいや設等によるなと考えられる。	1.集団活動中・見守り	3つの遊びに各コーナー育士がつのに安全べるという思いがあった。	大人数で自由遊び時に起きる危険な遊びに気づけるKYT能力研修園内安全を修や安全対策の報告を聞いて高める。	1.いつもお様りの子であった	自分の思いや感情を伝えることが不得手。	3.対象児の児童とこで対象児をていた	対象児の遊びとは別の場所で遊びコーナーを担当いたため「ゴーン」と音がも場所をこできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	対象児だけ転倒後、自ら立って担任ととの本児分かに任ことだ担任ととの伝えろうとしまった。	ルールのない遊び、3つの遊びの設定に危険予測できなかった。	危険な遊びの選択、予測される子どもの行動について職員間で話し合い、検討する。	
4348	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25				7	8	10			12	11	15.3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)		2.自らの転倒・衝よによる倒・突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	こどもかた保護者と話していた。	保育者の徹底。保護者のお願いの周知。	1.定期的に実施		3	1.定期的に実施		3	1.定期的に実施		3	本児は登段きるがコンクリートであった。	1.個人活動中・見守り	母親と保育者で本児のことに離れた場所にした。	本児についての話題際児は、本児の遊んでいるに近くに行っとすることで、でいる様子を見ながら話をすることができた。	3.いつもも活活動でを記載)	他の保護者にしていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の保護者を話していた。	母親と本児は、母親保育室内に離れ場所をていた。	本児についての話をする際に、遊んでいる児の遊びについて話をすることで、遊んでいる様子を見守りながら話をすることができた。	
4349	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	47									6	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝よによる倒・突によるもの	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置	特になし	絵本を借りに行く際には一斉に、日常的な移動ついては、全員が安全に昇降できるようにする指導した。	1.定期的に実施		11	1.定期的に実施		11	1.定期的に実施		11	特になし	今回の事故に施設の不具合はなかった。	4.個人活動中・子どものみ	子どもの移動での見守りが、近くの見守りが動だったため、近くの見守りが動かなかった。	クラス担任に一緒に行くように絵本を借りようする。	1.いつもお様りの子であった	日頃から登園時間は早く、日目にこの2番目に登園していた。	4.対象児の動きをていた	保育室で登園して幼児を受入れる保育をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各担任はそれぞれの保育室にいた。	この日は4歳児の園外保育室内に職員が通りは少なかった。	2階に教師がいない時は、幼児のみでの1階と2階の移動はしないよう指導した。	
4350	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	60									7	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨折外顆骨折	1.遊具から転落・落等の落・落下	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	教師の立ち位置、経験少なさ	雲梯をしている際には教師が伸ばせるようにするように、声掛けをする際は必ず手を掛けて、場所を決めて、始まり方法を決め、ま終わり方法を決め、決全な遊び方に考え、事故防止に努める。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	雲梯の使い方	雲梯を使っていたので、ありやこもからどこで使ったり、ま遊び場所の場所で始めるとや遊びついて、防ぐ	3.個人活動中・見守り	幼児が様々な場所で遊んでいるので幼児を掛けた	雲梯の傍には必ず教師がいるする	3.いつも活発で的活動であった(理由を記載)	花壇の傍で遊び、手が汚れていた。その手を洗いため傍にある雲梯にぶら下がった。	4.対象児の動きをていた	雲梯の本児を見て、砂児掛声をていた、本の背を後で、幼児掛場にけての児に向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭で他児応していを。	砂場に職員がいたり、他の遊場にも職員がいたりしたが、他の担任もこへ声掛けて、職員の立ち位置が重複していた。	全園児が安全に遊べるように死角がないような立ち位置で職員同士連携する。	
4351	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	若木骨折(左手小指の骨折)	5.他児危から加害を加られもの客えた	2.なし	3.未実施		2.基準配置		担任を持職員、特別支援教育支援員との連携を強化する。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12		今後も細部の見落としなく、定期的に全点検し、有実常の確認を異無をしていく。	2.集団活動中・子ども達のみ	体育座りをして落ち着いて待つ雰囲気がなかった。	幼児が立ち歩かないように、手遊び曲てがうに座ったりして、椅子に気持ちよく向くした、ちち待ちが落ちて、ことが環境を整えつ。	1.いつもお様りの子であった	A児とB児が保育室でを走っていたりとよること止めるきた。	4.対象児の動きをていた	時間のかかる数名の指導にイレ前の廊下にいた。	2.当担者・対象児の動きを見なかった	担任をもたない職員、特別支援教育支援員は、他のクラス幼児の支援を行っていた。	トイレにいる幼児に掛け声をすぐに保育室に戻るようにすべきだった。また、児が歩いない環境を整えておく	担任が保育室を離れる時には、隣のクラスの担任や特別支援教育支援員に声を掛け、見守りの体制ができるような連携に努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
								人数																				マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因				実施頻度【回/年】	職員配置			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
4352	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8									1	1	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員の配置状況：園長1、教諭2、臨時補助員1、特別支援員1、実習生1	安全計画の見直し及び予想いて教職員の意識を高めるような研修を行う。そして「～なもしない」という考えで危険を回避できるように生活の環境作りに努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	梯子の下に下てトが狭いマットの幅がマットから落下したたられる。	梯子に限ら技台のマットに敷いたるすでるるこ	1.集団活動中・見守り	梯子の下に敷くマットの幅を広くすること床に直接当たらないようにする。また、一つずつ渡ることで保育者が確実に幼児の動きを見ることができるようにする。	1.いつもどおりの子あった	喜んで巧技台に参加した。	4.対象児の動きを見ていた	他の幼児が順番を守るように指導していた対象児の動きを見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他に梯子で遊んでいる幼児のしたため対象児の動きに手を差したにし伸べたが間わなかった。		幼児が渡り終えるまで、保育者が見守ることができるように一人ずつ巧技台を渡るようにする。	
4353	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	52									3	2	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨端線損傷、左手関節捻挫	1.遊具から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	行事のため、普段より少ない園児と少ない職員で園庭でいた。	職員が、危険個所や危険性をすい場所を重点的に見ようにする意識し、べべくが堰堤に出て、多くの職員で幼児をみることるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検では、遊具の安全確認での重視していた。	園児が怪我をしや場所を遊び方すい遊び方を予測し安全点行た検をい、職員の配置や注よる意識を高める。	1.集団活動中・見守り	園児が遊び慣れると方の遊び方を忘れがちに遊び束を約れ、怪しやなり我をする。	1.いつもどおりの子あった	複数の友達と一緒に総合遊具の棒や台に登り走り回り来た。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児の遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の園児の遊びを見守っていた。		一つの遊びを見守りながらも、全体の様子に目を配ったり、危険な場面を見逃さず、気を付けて遊ぶように助言したりする。	
4354	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				21	30				8	6	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	20	2.基準配置	職員の配置状況：園長1名・養護教諭1名（3園兼務・事故発生時本園勤務）・担任2名・担任外教諭2名・加配教諭2名	いろいろな想定を広げ	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200		空気乾燥時は、土やすいが滑りやすくなるとされる。水撒き等の対策を行なう。	3.個人活動中・見守り		再度、環境安全確認を徹底する。	1.いつもどおりの子あった	普段と変わらず元気だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室で遊んでいる他の園児の遊びを見ていたが、園庭で鳴き声が聞こえたので、テラスから対象児の様子を見て駆け寄る。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	園児が遊んでいたブランコすぐそばに職員がいた。転倒したので、すぐ駆け寄り、保健室まで付き添っていった。		再度、職員配置などを確認・徹底する。	
4355	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				19	19				4	4	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	職員の配置、事故発生時における対応について職員で見直します。	遊びの場や園庭の地面等の安全が確保されるよう、入念に整備を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施		乾燥により地面がなってのではないか。	怪我のあとのにしたが、学年などと同じくなく、椅子の不あった。	3.個人活動中・見守り	怪我の保育において、安全にしたが、学年などと同じに床に椅子を用意などの配慮で分で	1.いつもどおりの子あった	いつも元気に遊ぶ、踊り、鬼ごっこなどを動いて遊ぶ様子があった。	4.対象児の動きを見ていた	保育室にいる幼児にかかわった本児の様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が園庭の幼児の様子を見守っていたが、別の園児とかかわっていた。対象児が「足がキッとなったとのせを受け、ながら健室に	遊びの場に職員は配置されていたが、事故発生時に、ほか園児とかかわっていた。怪我をした場面をおらず、対応が分なった。	好きな遊びの時の職員配置を明確にする。職員間の連携をとり、安全確保と迅速かつ適切な対応に努める。	
4356	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス										9	9	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	年長児が固定遊具（滑り台・ブランコ・シーソーなど）で遊ぶ時に職員がついていなかった。	固定遊具には職員がつくようにする。また、幼児の怪けがの状態を見て異常を感じた時には救急車を手配するようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	滑り台を終えた後に、滑りバランスを崩して転倒し、右腕を強打した。	1回点検を実施し、危険は無いように安全にする。	3.個人活動中・見守り	昼食後に戻り、園庭で外遊びをしていた。	1.いつもどおりの子あった	友達と一緒に遊び台で遊んだ。	4.対象児の動きを見ていた	本児の遊びていた、滑り台にはついていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の滑り台以外の場所での遊んだ。	台を乗り終えるまで、ランスを崩して予測がつかなかった。	幼児の怪我は予測がつかないため、危険な時にすぐに手が出せるように必ず近くに職員がつくようにする。	
4357	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1									1	1	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	階段の一番目までくとは予想していなかったため、子援助ものが出来なかった。	普段、園児が慣れている環境でも危険があるという事を留意して対応していきたい。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		点検の時でなく、的確に所の個所を握する。	1.集団活動中・見守り	保育者一人だけで落ち着いて見ることは、しっかりと心配される。	1.いつもどおりの子あった	危険な障害物がいと思われた子動は予測がつかない多くの、尚一層の注意と配慮が必要だと思われる。	2.対象児の対で見ていた近で対象児を見た	そばで見ていたが、回避できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	泣き声に気付いて、職員が駆け付け、複数で対応した。	転んでから自分で危険を回避するなど身付けることも必要だと思った。	危険を回避することができるように、日頃より体を動かしたり体力をつける等の働きかけが大切だと考える。	
4358	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24				12	12				2	2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨若木骨折	1.遊具から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		事故が起きた時間は預かり保育時で、4・5歳児が園庭に出ていた。子ども数は少なかったが、保育者の立ち位置の工夫が必要である。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24		遊具は危ではなかったが、今後も安点検を継続したい。	1.集団活動中・見守り		預かり保育中。4・5歳名児24名で戸外遊びを行っていた。	1.いつもどおりの子あった	いつも通りを体をこしゃ動くとみ、レンジしている最中だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れた場所から本児が遊具から落ちるを見ており、すぐ駆けつけたのの、手伸ばしを差しべるには至らなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子どもたちと遊んでいた、本児の様子に気付かなかった。	若手保育者経験足りないため、どもたちとの対応の甘さがあった。	担当保育者同士の立ち位置の改善、意思疎通・声かけを意識して行う。様々な経験年数の職員集団としてどうチームワークを取り、子どもたちを見守っていくか話し合いの場を	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4359	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙の脱臼、外傷による歯の半脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	要因・特記事項なし	園庭の遊具使用について再度、具体的に指導を行い、事故をなくする。また園児の行動の特性を理解した上での適切な援助ができるように職員間で共通理解した。	固定遊具箇所を再確認するとともに、幼児の身体能力や行動の特危険を予測し、教職員で理解をする。また、幼児に震梯の使いに正しい方いて周知する。	12	3.個人活動中守り	12	安全管理には配慮していたが、危険予測が十分ではなかった。	12	見守りなど保育がしてが、十分ではなかった。	教師同士の連携の再確認を行う。	1.いつもお様り子あった	いつも通り遊び慣れている遊具で、危険意識という識が薄れ始めていた。	3.対象から離れたところ児が離れて対象児を見ていた。	園庭全体の様子に気を配りながら、テラスで他児の怪我のてをしていた。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で遊びを展開して危険が想定される所において、園児の遊びの様子を見守ったが、本人は離れた場所にいた。	固定遊具に挑戦した気持ちが大きくなり、いろいろな動きを試そうとする姿が出てきた。	固定遊具の使い方について園児、職員共に再確認し、使い慣れた遊具も危険を伴っていることを職員も常に念頭において、事故防止について見守るようにする。	
4360	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15				6	7	2		3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	いつもよりも大きな油断ことで断があった。	大人が多くいるときは危機意識を持っているように職員間で共有した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	大型遊具(ジャングラグ)につは特にいては特になし。	大型遊具(ジャングラグ)に繋がるようなことはなかった。	保護者(父親)がいることで、いつもよりダイナミックな遊びになる。	1.集団活動中守り	保護者にも安全に遊べるように声をかける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由記載)	一ジャングラミングに登ったり活発に活動した。	父親と緒に	2.対象至対象児の近で対象児見た	ジャングラミングには必ず職員1名がつくことになっている。	1.当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で当該園児が滑りの降りを見た。	当該園児が登る棒を降りる保護者(父親)も見ても至近距離で当該園児が意図的滑りるを保護者(父親)見ても	いつもより気持ちが高まっている時に、落ち着くように声をかける。	
4361	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28								2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	1.定期的に実施	11	2.基準配置		不意の事故はあるが、職員全員が安全教育の重要性を認識し、協力な環境しし合いながらの配慮や指導に努める。	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	3	今回の事故は施設、設備に問題があるわけではないが、園庭なの整備などを見直しをく。	1.集団活動中守り	石などの園の異物や状庭態。	安全に遊べるように、石などあったは取り除く園庭の状態を保つ。	1.いつもお様り子あった	ボールをとった。	2.対象至対象児の近で対象児見た	集団でサッカーを行ったサッカを行いため、審判しながを見ていた。	1.当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任ととも子に集団見守った。		常に見守り、異変があれば複数で対応するなど職員も最善のの方法をとるようにする。	
4362	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21										16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子どもの転倒によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		引き続き、職員事故予防等に関するマニュアルの周知徹底を図るとともに、定期的な研修をを実施するなど、事故防止対策に講ろ	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	引き続き、定期的な施設全点の安全点検を行い、事故防止を図る。	1.集団活動中守り	本児は直ぐに転倒する癖がある。	何をしても、くて一日に何回も転倒するので、常に声掛けをしている	3.いつもより発動的であった(理由記載)		4.対象児の見ていた	見ておらず、部屋で他のどもたちに対応していた	1.当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離で対処した		本児が部屋に戻る時は、ゆっくりと歩いて戻るよう指導し、園児が全員部屋に戻るまで見守る。	
4363	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	52								3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨端線損傷、左手関節捻挫	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	行事のため、普段より園児より園児で園庭で出た。	怪我が場所方や遊び方を予測し危険な安全点検を行い、職員や注意する意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検では、遊具の安全確認の重視した。	1.集団活動中守り	園児が遊れると慣れてくる方の忘れがちで、怪我をしやすい。	遊び方の振り返る遊び方を束を設けるようにし、園全体で安全な遊びの確認をする。	3.いつもより発動的であった(理由記載)	複数の友達と一緒に総合遊具の棒や滑り台を走り来た。	4.対象動見ていた児の動きをていた。	他の園児の遊びを見守っていた。	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊びを見守っていた。	一緒に遊んで友達に急いでいたため、手離したのではないか。	一つの遊びを見守りながらも、全体の様子にも目を配った、危険な場面を見逃さず、気を付けて遊ぶように助言をする。	
4364	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31				13	8	10		6	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	全職員が安全管理安全意識をもつ。	職員が安全教育性全安全の重要を認識し、協力ながら安全管理のと、環境配慮の指導に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	子供の発達、動きに適した施設環境を整える。	子供や生活において、常に安全面に配慮し、危険個所あれば対処する。	1.集団活動中守り	園児が転倒しないように、石異などの物がないかを点検する。	子供が安全に遊ぶことができるように、園庭などにがあった際にすぐ取り除く。	1.いつもり子あった	普段通りの戸外での遊びをした後、玩具を片付け、保育室に戻り歩いて、床面ところどころでバランス崩し転倒した。	3.対象児の見ていた児離れたところ象見た対象児で対象児見ていた	担任は、園庭全体を見渡し、年長全体の把握に、見動きを把握した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた他の職員は、それぞれのクラスの子供の状況を見て対応しており、象者のとは把握していなかった。	園児の想定外の事故や怪我が起得ることを、全職員が認識し、対処に努める。	園児が怪我をした時には、複数の職員で対応し、必ず保護者に伝え経過を見守ったりするなど、最善を尽くす。	
4365	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	36				18	18			7	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	自分でできんぶっ、と自手で進がず、ていて下ていりに着地でとまで進なかっ考えとまるとき。	遊具で子遊どもんでいる時には、必ず職員よがつくにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	年児の身長に対して、少しうんて高しがいい。	1.集団活動中守り	常設のゴムマットの上に、もうの上ず枚一トを敷くく。	子どもが落下ことを想定にマットを敷く。	3.いつもより活発で活動的であった(理由記載)	登り棒に挑戦した後、一人でいた。	3.対象児の見ていた児離れたところ象見た対象児で対象児見ていた	登り棒にいて、見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登り棒にいて、見ていた。	園児の遊ぶ位置と状況を確認し、必ず職員がつくようにする。		
4366	令和9年9月30日	1.認可	5.幼稚園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	4								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	落ちる着のない注意動の動や足。	落ち着き行動が怪我になるかもしれない予測されるので、具体的にかけ声をかけるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室とにあテラス段差がある。(17㎝)	3.個人活動中守り	落ち着き行の動や注意不足。	昼食後は落ち着いて過ごすように指導する。	3.いつもより発動的であった(理由記載)	楽しい行事がありうきうきしていた。	3.対象児の見ていた児離れたところ象見た対象児で対象児見ていた	食後の片付け・片付け指導をしていた	2.当者・対象児の動きを見ていなかった	食後の片付けの園児給食をした	目にはね日にて歩く傾向にある。	落ち着いた歩き方について本児を含め、全体に具体的に指導する。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
																												ソフト面									ハード面									環境面				人的面						
																												マニュアルの有無	事故予防研修								施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因					職員配置																					
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
4367	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12								23	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕前腕部骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1	2.基準配置	普段の保育室とは環境が違う場所で、幼児が高さ1メートルの椅子に腰掛けて待っていた。保育者が写真撮ったため細部まで配慮することができていなかった。	幼児の特性を把握し、どんな状況でも目を離すことないよう気を配っていきたい。	1.集団活動中・見守り	幼児の特性を把握し、室内にあるベンチに腰掛けて待つように促した。	12	1.定期的に実施	255	1.定期的に実施	50	何もない転倒床でしたため、設備には問題はないと思われる。	静かに座って待つような呼びかけが必要だった。	1.集団活動中・見守り	幼児の特性を把握し、室内にあるベンチに腰掛けて待つように促した。	室内にあるベンチに腰を掛けて待つように促すなど、静かに座って待つような呼びかけが必要だった。	3.いつもと活活でした(理由を記載)	普段の保育室とは環境が違ったっていたっまった。	4.対象動児の児のきをていたかった	他児の写真を撮影していたため、対象児の動揺を把握していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	撮影を終えた子とかわっていたが、転んだ瞬間はいなかった。		幼児の特性を把握し、目を離すことないようにしたかった。	写真を撮る担当、幼児の様子を見る担当と職員間で役割をはっきりとさせる。	
4368	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	142			45	38	59			14	14	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫、左足関節外顆骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2	2.基準配置	無し	マニュアル、職員配置に問題はなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	無し	テラスには、園児の通行を物かなの妨げは置いに危険個所があれば直ちに報告、修繕等の対応をする。	3.個人活動中・見守り	一緒に走ってくださいと一緒に走ってバランス崩れ倒れをくく。	食後の自由遊び中は異年齢で遊ぶ多いため、職員は特に園児の動きに注意する。	1.いつもお様でもり子あった	無し	3.対象児の児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で、他児同様子を見ていた。「足が痛い」と言った負傷個所を確認し職員室に連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	他児の遊ぶ様子を見守っていたため、対象児はいなかった。		無し	全職員に、子どもが戸外で走っている時は、前方に注意しながら走るなどの注意を促すことを共通理解した。	
4369	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21			7	7	7			2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折右肘頭骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施			1.基準以上配置	積木の上を歩くとの危険性。	職員の研修や会議で積木の上を歩くことの危険性について取り上げる。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	小さい積木や軽い積木はひっくり返りすいので注意が必要。	幼児の年齢や様子に応じて安定感のある別の積木ブロックまたは平均台を使用する。	1.集団活動中・見守り	幼児が興奮したりふざけたりしないよう観察し確認する。	積木の上を歩く場合は、バランスを崩すと危険であることを園児に伝えしっかりと見え、注意して観察し、すぐに止めたり、介添えしたりできるようにお手伝いする。	1.いつもどおり子であった	いつも通り元気バランスにいっぱいに挑戦していた。	3.対象児の児から離れたところで対象児を見ていた	同じ遊戯室内にいたが、ずっと注視していてはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	同じ遊戯室内にいたが、ずっと注視していたわけではなかった。		無し	幼児の人数や遊びの内容次第では担当の教員の増員も考慮する。	
4370	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	0	0	20	18	0	0		6	6	4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	5.他児危から加えられたもの客をかたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(回/年数)		2.基準配置		2クラスが合同で戸外遊びをしていたので、保育士の配置、役割分担を明確にするとともに声をかけ合い臨機応変に対応する。職員会議時に報告し、要因分析、再発防止策を話し合い、職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		子どもの目線に立って安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	子どもの主体的な遊びを尊重しつつ、異年齢の子どもで合同で育っている場合は、その遊びが可能か判断し、別の誘びに遊う事も選択肢として考えておく。	子どもの特性を把握し、突発的な行動に対処できる注意を怠らないようにする。また、遊びの様子や接し方などの点から達成状況や子どもしっかり伝え、安全に過ごせる環境づくりをする。	1.いつもどおり子であった	対象児と遊ぶ子どもの様子にも注意を払う。	3.対象児の児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見守っていたが、鬼ごっこになると周りが状況を夢中になってしまい、鬼ごっこを楽しむ中で、子が一人になってしまうことを想定し、減じ加力難しい子に注意ども等に特に意ないよう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	配置、役割分担を明確にし、また、職員声掛けをして保育士にも連携を持って保育する。	対象児と加害児は日頃からぶつかり合う傾向があったので、とっさの時にすぐに対応するようにする。	戸外遊びをする上での注意点、約束事を事前に伝え、保育士の立ち位置や声掛けを工夫し、職員間も役割分担をするなど連携を持って保育する。ケース検討会議において話し合い、職員全員で共通理解を図った。	
4371	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	10								2	2	2歳	2.女児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年		2.基準配置	なし	塗装が剥がれている箇所等の安全確認修繕、改善	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	危険箇所となる場所や場合は補修、改善を都度行う	1.集団活動中・見守り	なし	ヤリハットなどを用いて、会議で意見交換をしていく	1.いつもどおり子であった	台すべり階段をすべりのぼってすべりすべりすべり

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面				人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4373	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	4								3	3	3歳	2.女児	1.遊具等からの転落・落下	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位骨折	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.基準以上配置		ヒヤリハットの検証を職員間で周知し、必要な改善を即行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		鉄棒の下に衝撃吸収マットを敷き、ポールにクッション材を巻いている。	1.集団活動中・見守りあり	片付けが終了し、入室する段階で鉄棒には職員の見守りはなかった。園庭から戻り、靴箱まで入室する際は集合し全員で移動するが、今回は場所が近いため、鉄棒へ寄りあった。	片づけから入室までの時間は職員も流れの中でばたばたしている多い。実際の時間は変わらずケガもので安全を確保するために確認する。	1.いつもどおりの様子であった	集合ついでに鉄棒で遊んでしまうおり、本児は戸外遊び中砂場で遊んでおり鉄棒には全く触れていなかった。しかし最近鉄棒に興味を持ち、自分の丸がようなことを喜んでいやり気持ち合いもったのせぎの合あっては、集合	2.対象児対象児の近く見た	席。2人担任で1名が鉄棒の近くで集合の呼びかけをして確認をしたが、鉄棒で遊ぶ子への注意喚起をかけるものは1名担任は、片付けの最終確認で集合子へ掛けていない声かけをした。子どもたちも色々な動きに、見ていた職員も切れていなかった事は反省点である。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玩具の片付けは、一緒に遊んでいた年中児や一時預かり職員が引き続き年少児の担当の遊んでいた本児に対して、その学年は、1人ずつ、それぞれ担当の年齢を見ていた。	本児は鉄棒出来ないが、親のお迎えに来ることになるので、丸をもらえるように鉄棒の逆上がりを頑張っていた。当日は鉄棒で遊んでいたお母さんたちとの信頼関係ができていたので、鉄棒に対する不安や恐怖心を取り除くことが出来ていた。	保育者が鉄棒について、いる時以外やはらないといのルールの近くで徹底。遊具での集合をしない。	
4374	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	49	3	5	8	10	11	12		3	3	4歳	1.男児	2.自転倒・衝突によるもの	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼、鼻打撲	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保護者の時迎え時間帯で保護者が対応していた職員の目が届かなかった	園児の移動や保護者の対応で、職員が必要な時間帯は職員を増員できるように体制を整える	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	なし	設備面では不備はなかった	1.集団活動中・見守りあり	描画活動をするための部屋にあった机が必要であるが、用紙以外の出し入れは机と椅子の位置を適切に整える。	長時間保育帯のため、必要な時間は机が利用が途切れないように椅子の配置を適切に整える。	1.いつもどおりの様子であった	たくさんの園児が集まった時、子どもたちが落ちがあったが、特に普段からの状態と変わってはいなかった。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	机に座っている時点で、止めるように声をかけていたが、その後他の園児の保護者の迎えに対応した子どもとのやりとをしていた。対象児の動きは視野にいるが入りもらず、シャツに足を入れることを止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対象児への対応を意識できなかった。	対象児の危険を伴う行動は阻止できなかった。	職員が、危険予測の力を養えるように、ヒヤリハット研修や危機管理について学ぶ機会を持つ	
4375	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								1	1	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		死角がないように立ち位置に気を配る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年		ﾄﾞｱにスポンジを付ける	1.集団活動中・見守りあり		部屋の中では、落ちも着いて過ごす	1.いつもどおりの様子であった	トイレから戻って歩いてきた	2.対象児対象児の近く見た	室内にて子供たちの遊んでいる様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各ｸﾗｽに保育中の様子を見守っていた)		ﾄﾞｱを閉める時は、周りにお友達が居ないか確認して閉める事等を子ども達と話し合う機会を作り再確認を行う。また、けががないように職員が見	
4376	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15								3	3	3歳	1.男児	1.遊具等からの転落・落下	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員の配置、遊具の高さなど危険を要因がなかった。定為、想ないできた。	想定していなかった怪我の事例を職員間で共有し事故防止に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用前後)	特になし	施設の状況としては問題のない広さ、遊具子人の量、もの数だった。	1.集団活動中・見守りあり	普段からジャンプしてジャンプなどをして遊んでいる19cmほどの積み木の高さだが、子どもたちが始めた位置の列だった為、壁と積み木の間隔が50cmだった。	ホール中央に設置する際は、壁との間隔を十分にとる。また、壁に積み木を固定し足場をジャンプする方向を限定していく。	1.いつもどおりの様子であった	大好きな友戦隊になりきりだちとごっこ遊びを楽しみ方でジャンプしていた。積み木の上ごっこ戦いごっこをするうちにバランスを崩し積み木から転倒。壁にぶつかり床に足を打つ。	2.対象児対象児の近く見た	大型積み木の近くに保育士が2人、1人が本児の見守り、1人が周辺を遊びていた。遊びとしてセンとの19チほどの高さからジャンプだった。危険を感じていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くには遊びついていたが、他の児の遊びを見ていない。	保育士が交代より代わり担当が入っていた。	夕方は全保育士が交代で入るため、行動の把握が出来るよう、環境の設定など配慮していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
																											ソフト面								ハード面								環境面				人的面												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・子育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4377	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	81	3	11	14	16	17	20			17	17	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	脳震盪、頭蓋底骨折、髄液漏（右耳）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	固定遊具の下にマットが敷かれて部分敷かれていもあった。	マットを購入し、固定遊具の下には敷く。	1.集団活動中・見守り	朝の気温が低いこともあった。	寒い中での遊具の使用の仕方を考えていく。	1.いつもお様子りのであった	２歳児の妹が散歩に出かける時で、のぼりを登りがらを離して手を振っていたので、少し、テンションが高かったかもしれない。	4.対象児の動きを見ていなかった	４・５歳担当合流で担任保育士が１人だった。対象児のはいずれも全体が様子を見ていた。落ち着いた所を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ、他の遊具、こどもたちの見なこそぐれ分かるこどもたちが保育をしていた。落ち着いた所を見ていなかった。	このは預かり保育初めての受入れでこの児がこれと、時差勤務や休暇、本日の前の件の歯ぶらつきの他の受診ぶたの付き添いなどで正規の保育士が少なかったため、ぼりの棒は使わないなど、保育の活動をえ	子どもの状態、体制などの考え方を考え活動をする。確認をお互いに合いながら連携をとっていく。	
4378	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	34	0	0	0	11	5	18			2	2	5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折顆上骨折	2.自の転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（２）回/年	2.基準配置		園児から目を離さず、声を掛けていくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年			1.集団活動中守り			1.いつもお様子りのであった	帽子を鞄に掛け後、返って片付けに戻って自転車を漕ぎながら椅子に座ってずいて倒しまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた。帽子を外して片付けに掛け様子を見て、帽子を片付ける様子を見て戻る守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	合同のクラス移行から他の支援で動いた他児支援のどもの世話をした。		慌てず行う一人一人への声掛けをしていく。全体的に目を向けながら援助になる。	
4379	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20									20	17	5歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折か外	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		定期的な事故予防に関する研修を行い、事故に対する意識を深める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		転落時の衝撃緩和のため、工芝を人張り替える。	1.集団活動中・見守り		遊具を使用する際は、職員が側につく。	1.いつもお様子りのであった	順番待ちをしている児童が、他児交代すると、ためるとる急ぎ、ンスしてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の動きを見ればきけばならず、遊具の側についていることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の動なばならず、遊具の側についていることができなかった。		遊具を使用する際は、職員がつく。	
4380	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				11	12				1	1	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手関節橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	動くの行動がよくない児がいるので、５歳児の担任がなかった	担任がいない場合は、事前に職員間の連携を密にし、保育にあたるマニュアルの確認や学習、園庭のハザードマップの作成	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守り	なし	なし	3.いつもより発で活動的あった(理由を記載)	前回りができるようになったことがうれしくて外へ出すくたらに鉄棒をしていた。いつもは一番低い鉄棒でしていたが、もう一段高い鉄棒で前回りをした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士が１名だったので、少人数で見ながら児し離れたところ全体を守りら保育していた。		なし	なし	遊具の使い方、遊び方の確認固定遊具を使用する時は、必ず保育士が付き添う	
4381	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指の第三指の骨前骨折(ひび)	2.自の転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.基準以上配置	運動器具に特化した事故防止マニュアルを作成し、箱を使用する決めた配置図がなかった。	運動器具に対する事故防止マニュアルを作成し周知する。子ども達に前に話し合い、安全な使いに方について確認する。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	老などの化に配慮して、安全今後も考いれて、常に点検を行う。	いつもどうい危険でいるか潜んでいるのか、子育て保育識を、子どもも認識も土も認識し防止する。	1.集団活動中・守り	これまで跳び箱を跳び練習を毎日行っており、自身の跳び箱を越すことに成功児自身の何度もしっかり支えて、手をしっかりとしていることから、手を大きく広げる安全認識が薄くなってしまった。	跳び箱にまでくるまで、箱に至るまでたくさん支えた体を支えるびをいい、遊び行っきっしっ身のさ毎日のさ我等が起きる毎回事前に子と注意もと事項について話し合い準備運動も加えて注意喚起をする。	いつもお様子りのであった	友だちと順番に３段の跳び箱を跳んでいた。	2.対象児の至近の対象児を見た	子どもの様子ながらのつきへの見ながら手を指導が足りなかった。勢い走り越せるので、マットずれになり１人はマットの気を押きえ言葉をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう１人は遊戯室の別のコーナーの安全確保、及び指導を行った。	他のクラスの保育士主任にも対保育士にも動して相談し、安全確保の手を伝いてもらえばよかった。	跳び箱の横に必ず保育士がつき、ないように危険が支えサポートし、加わってもらい安全確保に努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
			施設・事業所種別			発生場所			異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者																																						
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
4382	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中		5.4歳児クラス	18								2		2	5歳	1.男児	以前にスキーで下肢骨折。普段よりやケガをしてもおかしくない護者が言う。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左上腕骨骨折顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	前日は雨が降った。事故が故障発生した。地面の遊具は屋根の下も状態で太鼓橋を滑り登りもしようと太鼓橋を降りる際に滑ってしまった。児童が横向きで降りた際に前方見ていなかった。	雨後は滑りやすい為、遊具に使い方を言葉で伝えるとも緒に回り認める。遊び都度かけ。滑いした遊具を限定する。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(基本毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(基本毎日)	基本的には設備面、遊具、子どもに繋がる危険性のあるものは点検し、モノは事前に防ぐよう全職員に周知している。	1.集団活動中・見守り	色々と行事が重なる時期。また金曜日で週末で疲れが出ることも考える。また、前日は前日雨で冬型の低気圧。気温は１度前後で寒さは強いが体のわばり多少動作がぎこちなくなりやすい事も考える。	冬場は血行が悪くなり寒さで手足がいつまでも冷えやすい。外遊びの際は防寒準備をしっかりと動きやすい服装を心がける	1.いつもどおりの様子であった	普段から足取りがおぼつかない時があり、転ぶことが多いが、自ら立ち上がる姿を聞いていることもあり、聞いても聞いてもわからない様子である	3.対象児から離れた	太鼓橋の縄の近くで遊具を片付けながら、対象児がスクールに気付きにくい場所に走っていたにもかかわらず、その間にそのことを見て見ぬふりをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	奥にある遊具で見て他で遊んでいた児を見ていた	遊具の状態を確認せずに子どもたちを遊ばせていた。本事例の事実確認の時に聞いていなかった	遊びに入る前に前日の状態や天気を確認し、濡れて滑りやすくなっていないかの確認をする。必ず全員が約束事を顔に入れているかを確認をする	
4383	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26								2		2	5歳	1.男児	発生時の天候：薄暗くなり始める時間帯に戸外遊び（追いかけっこ）をしていた。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右上AB歯の破折	3.子も士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（　随時　）回/年	2.基準配置	遊びの中で起こる危険を予測しきれなかった。	職員間で、危険ポイントや情報共有をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度（　随時　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（　随時　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（　随時　）回/年	薄暗くなり始めて十分な明るいスペースを確保したが、隅のあっても考える。	1.集団活動中・見守り	薄暗くなる時間帯であった。	周囲が明るいうちに室内へ戻る。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ（警ロ）を行っていた。本児が牢屋から出て逃げる助けにくようとした他突し衝突した。	2.対象至児の児を見ていた	鬼ごっこのルールをしっかり理解していない子もいた。近くで遊びがスムーズに行くように守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配対象児のクラスに付きレに添った。	園児の注意力が散漫になりやすい時間帯であり、保育士は通常よりさらに危険予測する必要があった。	子どもの動きを注意深く見て、場合によって遊びの種類を検討する。	
4384	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8								2		2	6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左示指中節骨骨折（左手人差し指）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（　1　）回/年	2.基準配置	マニュアルガイドライン上記やだけでなく遊具の点検に関する研修が観点要と考えるあらかじめ必ず考える。	保健衛生マニュアル・教育保育施設等における事故及び発生時の止対応故のためのガイドライン・職員配置に問題ないする関連研修を受講する。	1.定期的に実施	実施頻度（　1　）回/日	2.不定期に実施	実施頻度（　200　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（　ほぼ毎日）	なし	1.集団活動中・見守り	なし	一人ひとりに合わせた箱やマット・テーブル位置に配慮し、ひとわとびの高さ・ロイの配置に配慮し、テーブル活動など活動の妨げになるものなどの物を部屋の広さも考慮しながら、置かない十分考慮しながら、置かないようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	登園時は普段通り、体調共に良機嫌、好な状態であった。今まで3段のとび箱を跳んでいた時には手を揃えて遠くについて遠くに着地して行っていた。事故発生時は着手した状態で着手を状態するとすぐに離しまう場面れた。	対象児とマンツーマンの状態（対象児に接した）	4月より体幹を鍛える毎週金曜日に体操の日を設けて体の動かし方を前屈・伸前屈・伸・手首をほぐす・足首をほぐすの場でジャンプ・ストレッチなどの準備運動を通して行って運動をしてきた。当日もとび箱を始める前に準備運動を行った。正規担任が3段の跳び箱の左側に立ち	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	副担任は支援児の対応を行っていた。見ていなかった。	児が跳ぶ3回目終えるまでは副担任も支援含むを守っていたが、4回目は支援児の動きにしたため児場面ていなかった。	活動における目頃より導入をしっかりと行い、既に跳べる児童に関心せず必ず付いている職員を配置する。	
4385	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48				24	24			3		3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	左腓骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突による転の	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（　2　）回/年	2.基準配置	時間帯ところ方のと児童は1日のうちで疲れてきたのでは、本人の特性、遊びの中で、本人の特性、遊びの中で、遊びの中で、遊びの中で

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4386	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50			18	19	13			4	3	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左第2中手骨骨折	2. 不定期に実施	実施頻度(1回/年)	2. 基準配置	対象児は、ピアノのリズムテンポず遅れて動いており、対象児の保育士は至近距離で見ていて守ったにもかかわらず、拾ったかわるきを援助できないほどの一瞬の出来事だった。しかし、側転も4回目なので、それまでの動きの中でそのきの衣服がずれた袖が下がりやす	側転の危険性を知らせ、正しい手のつき方、身体の動きを繰り返し徹底する。加えて、くるくるとまるを徹底する。毎回確認する。個別観察を徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(日々)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	３人で側転をしていたが、対象児はピアノのリズムから半テンポずつ遅れる傾向にあり、他の２人が終わったことが入り気に目にあせる作持ちも用したもしれない。	気持ちを落ち着かせるよう、大丈夫だよ、しっかり着いてね、はーい、などタイミングとる言葉かけを工夫して。	1. いつもお様子であった	いつもゆとりある服で着用している傾向にある。	2. 対象至で対児の近象児を見た	対象児の至近距離で、対象児人の一部始終を見かった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス担任は、それぞれの子どものアノ児の保育士に注視した。	他のクラスの担任は、それぞれの子どものピアノ位置から対象児に注視した。	側転の危険性を知らせ、正しい手のつき方、身体の動きを繰り返し徹底する。加えて、くるくるとまるを徹底する。毎回確認する。個別観察を徹底する。	
4387	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	71	0	0	16	19	19	17		10	10	5歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右第５指基節骨折	2. 不定期に実施	実施頻度(1回/年)	1. 基準以上配置	行事時にどのような危険があるか職員周知に不足があった。	行事時保育士の体制確認とともに事前に故防止の関周知も必要だった。	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室床滑るこ本足なく裸足。コーナーも範囲に幅は十分とっていた。	なし	1. 集団活動中・見守り	保育士もリレーに集中していた。	様子を全職員周知し、本児の様子を全職員再度周知を確認していく。	3. いつもお様子であった	運動会練習だったので意欲も高揚があった。	2. 対象至で対児の近象児を見た	リレーで必要なコーナーも保育士の配置をした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リレー以外の子どもも違の所にもそれぞれ担当がつき子と同様に保育士が応援した。	運動会練習持ち高で気に揃いる様子があったので、個別に声をかけ配慮した。	リレーが始まる直前にも言葉などかける必要があった。	
4388	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	68		14	21		23	10			16	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	歯牙脱臼	5. 他児から害加えられたの	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 基準以上配置	T児他緒トル事いT児掛るもがでる制をしくがが対して思る。は庭される衝動なる親いる。S児はいるトラブルなるくは仕ていS児会生ていS児はないS児に積るあ児家制とに母聞いもるS近でもると最動的と聞ていS児の児の邪魔れた具れたる側た。事取られ物合きたはの心でSされとだと取で事こ為に う、玩ら玩らすだっ回故は取のり起とくなる問題のある。制こ嫌たくるこみのじ起ない心添も安環ご	1. 定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年			1. 集団活動中・見守り			1. いつもお様子であった	2. 対象至で対児の近象児を見た		1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			S児の担当職員は常に児から目を離さない様子も十分見守り行う。	T児とS児の関係性も含めの今後のかかわりの中でトラブルが起こらない様子を見る。	
4389	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16	2	1	6	4	2	1			3	3歳	1. 男児	食物アレルギー（卵）	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右肘頭骨折	2. 自の転倒・衝突よるの	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　５　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年			1. 集団活動中・見守り	靴を履き、転倒した。	室内では、上靴を履き用し靴下ではぬいでを過ごと徹底し、着ごと落ち遊環境べる整え、一人一人の様子の把握し、危険のないようにしていく。	1. いつもお様子であった	片付けを終了し、移動することが分かり、高まってた。	3. 対象児から離れたで対象児で児ていた	片付けが終わって子ないにかけをし、声かけが対象児を見ていた。転倒した際の泣きとと、すぐに駆けつけ痛がる部位の確認をした。の確認をした。		保育室保育士が同に他に2の名ども育士が名で、1名で対名で対象児のあった。職員室に保育士が遅番保育士がいたので、すぐに報告し、症状を確認した。	片付け終了ていない子への応をしたため、片付け了子が配で不十分であった。保育室はなること事確認したり、片付け了後の行動知る等の配慮必要	保育室ではこと理由を含めて子ども確認をすると人一人の様子を常に把握し保育士と連携していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事																																									
									人数	異年齢構成の場合の内訳																																																
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面					ハード面								環境面		人的面											
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4390	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス											4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度【2回/年】	2.基準配置		マニュアルを職員全体で再確認する。また、今後も研修等に積極的に受け、資質向上に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度【13回/年】	1.定期的に実施	実施頻度【週6回/年】	1.定期的に実施	実施頻度【毎回/年】		安全な環境で、子どもたちが安全に過ごせるように、溜まっている砂場のこまめな清掃や、駐車場に砂が出てしまったりしないように、安全な環境を整えていたが、駐車場に砂が出てしまった。	7.その他	日頃から、安全な環境に過ごせるよう、溜まっている砂場等が溜まらないように除去するなど、こまめな点検等、環境面の配慮を徹底する。	1.いつお様もり子であった	自家用車で来て、車に乗って乗ってきた者が小走りした。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後、駐車場内で発生した事故の動きを把握することが困難であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後、駐車場内で発生した事故の児童の動きを把握することが困難であった。		駐車場内は、保護者と手をつないで等安全に降所するための周知はしていただいたが、再度園だより等を通じて啓発していく。	
4391	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									2	2	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		安全な遊び環境の環境について、再度全確認する。	1.定期的に実施	実施頻度【14】回/年	1.定期的に実施	実施頻度【14】回/年	1.定期的に実施	実施頻度【12】回/年		施設、遊具、玩具、子どもの遊、活動に合わせ用方法の再確認をする。	3.個人活動中・見守り	まままごと玩具とボールが出ていたが室内にいて、転び状況になりやすい。	子ども達に玩具の人数に合わせ量を調整し、必要のないものは片づけるようにする。	1.いつお様もり子であった	ボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任Aは対象児全体が見えるところにいい転ぶたんだは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任Bはままごとコーナーにいて、ちょと迎え保護者と話しているために、来た対象児を見ていなかった。	迎時間は人入多帯はのりく、保育室内ちかな雰囲が着い気にくいやすかった。	担任2名の立ち位置を考え、常にで見届けができる配慮する。人、園児の動きに気を配り、確保をする。	
4392	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	1.男児	骨折は幸いしなかった。手術、入院等は必要ないが、再度の脱臼を防ぐために6週間のギプス固定。	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節の脱臼と尺骨の外力による腕曲の整復	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			1.集団活動中・見守り	他児を飛び越えようとした。	他児を飛べる跳び越え等、危険のないように声掛けをし見守る。		チャンピオンになりたかったので必死で逃げた為に、スピードもあって転倒した。		年長児ということもあり、何回もやっているそびなので、全体を見守っていたが、飛び越えに際転倒してしまった。						
4393	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16				16					12	12	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	充分な職員配置がされている中で、子ども同士の事故となった。	子どもたち一人一人の動きを観察する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	遊びなれた、走り回れる場所での関し育ていえば、問題はなかった。	特に動きが激しかった場合には、かけに声をするようにしていく	1.集団活動中・見守り	芝と、砂地の園庭なので、転んでも大きくなく怪我がないのに関しては、今回の転び方が原因だった。	走り回って遊んでいる子どもがいるが、特にしっかりと見ていて走りすぎないように守っていくようにする	1.いつお様もり子であった	追いかけっこが好きな本児であった。もの遊びで楽しんでいた。	2.対象至児で対象児見ていた	近くではたていた転ぶみが、瞬間にはあ瞬間なかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	園庭にしっかりと全体を見る職員配置など、完璧であったが、転んだ瞬間には間にはあわなかった。	友だちの関わり方、遊びについては普段から職員同士で話し合っていたが、起きてしまった事故。	もう一度、本児の動きを検証し、園庭での遊び方について、共通理解を図る。	
4394	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9				1	4	4			5	5	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	2.不期実定に施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	引き続き、土曜日の体制に配ることにしていく。	事故防止のための研修を定期的にする。	1.定期的に実施	実施頻度(12+1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12+1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	全安ごる日に庭日ま日ま日ま

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面					ハード面									環境面			人的面								
									異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修				施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
4395	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第４手指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　2～　)回/(　3　)年	1.基準以上配置	室内活動にのケガに対する認識不足の可能性あり	1.定期的に実施	マニュアル見直しと職員への周知（体を動かす遊びの前の準備運動、屋外のみならず室内運動実施後のケガの確認等）	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	活動時のスペースの確保が不足していた可能性あり	室内スペースの確保（隣の教室との境を開放レスペースを広げる）、又は人数を分施設などは半分に分けて実施する予測されるケガ等を考慮し保育の工夫をする	1.いつもお様りの子であった	体調も良日頃と変わりなく活動に参加していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任がクラス全体の園児の動き見ながら、声かけとピアノの曲のテンポや音を出す・止め調す・調整の等の整をいた。加配園児対応も加配園児が必要な園児が活園に参加していたため、クラス全体の安全に配慮する形で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常のクラス内での活動の一環であったため、他のクラス担任、園長や主任はその場にはいなかった。	全体のと人動きと個々の動きの両方を見る必要があった	集団活動の際には個々にも目を配り安全に配慮する	
4396	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43			20	23					6	6	3歳	2.女児	やりたいという気持ちやできたという満足感という運動面の発達が重なり合い、本児のスキップを見せたいという行動となった事が、運動発達の経験的にはまだ未熟な部分も多く、子どもと職員の行動の中で小さな状況の積み重ねで今回の事故の発生となってしまった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右側鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/(　)年	1.基準以上配置	マニュアルでは細かく現状を見ないや行動から生まれる事案である。	1.定期的に実施	子どもや職員が活動する中で小さな重ねから偶発的な事故がつもってこと報告書を作成し会議等で情報共有し様々な場面で危険とわる合を認識し再行動する周知よう ていく。	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	可動式ボールプコ保育用ッと保育園の間隔が狭く、そのスキップとしようとした間隔を確認しなすべての物の位置を子どもの活動ども周りの環境（密集度等）に配慮しながら対応をしていくようにする。	園庭にあるや用具、人遊具を含むすべての物の位置を確認しなどもの活動ども周りの環境（密集度等）に配慮しながら対応をしていくようにする。	1.いつもお様りの子であった	子どもの健康状態等は普段とかわりなかった。スキップが出来るようになったことにしくスキップでのとにいころ見せて、キップ雲梯のところ職員に見せてわり、次に倉庫前にいる保育士の方へと移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２０名の２歳児が雲梯や鉄棒、ボールあそび等園庭全体に広がって自由に遊びしんでいた。本児がスキップ向かって来るのを把握したが、2歳児クラスの子どもが多くボールあそびの方へと移動しようと身体の向きを変えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には2、3歳合計で４３児が、雲名の園児が6名おり、鉄梯、ボール、ままごとあそびなど、あそびごとに保育士が側で見守りをしていた。	保育者が行動する際には周りの状況を確認して行動するべきである。	子どもは突然走りたり、しがみついたり等想像しない行動をとることがあるので、保育士はそれぞれに子どもはいないかな状況をよく確認してから行動に移すよう普段から心掛けていく。	
4397	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92	0	0	0	29	33	30	0		7	7	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	3.子も士衝にるのど同の突よも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(隔)回/年	2.基準配置	ヒヤリハット報告の後の振り返りが深くできていない。	1.定期的に実施	怪我、事故等起こったときはもちろん、普段から職員間でヒヤハヤリのし機を危意識を持って保育にあたる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭の広しでど対外子ど戸外ぶ子もの多かった。	子どもの人数により使検遊びや方を園庭の園庭の使い方を検討する。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこ中に見ると鬼ごっこになりなってこ周りなってこ遊び夢中なるとがくしまうあがくしとる。	遊びに応じて周りをてめた見始り、場所を調節ていくしてしく。	1.いつもお様りの子であった	友達とつな手をで小走りして移動した。	4.対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びで、子どもで、遊び中も、遊ぶ様子を見ながら、登園した子どもの保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ子どもたちが大縄をみんなで大縄を回し、一緒にプラコを揺らし、子どもたちも鬼ごっこをした。	園庭にいる職員同士の連携	一人ひとりの職員が子どもの動きを把握し、お互い声を掛け合って危険の回避に心掛ける。	
4398	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43				21	22				2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	挫創（右顔面部）皮膚炎	3.子も士衝にるのど同の突よも	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	滑り台から飛びおりたり、滑り台本来のして、遊びをしないため。	1.定期的に実施	滑り台の遊び方（飛びおりたり）との徹底を計る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	小さい子ども遊具で、乗ることは想定されていない。	滑り台の乗り方上にきたり上にとどまったりしない滑りをしない止めを張る。	1.集団活動中・見守り	発達段階に応じた遊具の配置が考慮されていない。	見守りがしやすくなるような配置を考える。	1.いつもお様りの子であった	通常通り、朝から登園している。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が離れたところから見守りをしていた。事故が発生に防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任とは角度の見方が違ったことで気づくことができなかった。	保育者が見守りの担当をしていなかった。	保育者が見守りを分担して、見守りに死角がないようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
						発生時の体制																						ソフト面								ハード面								環境面			人的面											
							人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	育・保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
4399	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17					17			2	2	6歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	2. 基準配置	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(４)回/年	職員１名がピアノを弾いており、人の子どもが目にきになった。	園児の活動内容に応じて、手が空いている職員に入ってもらうなどの対応をするようにする。	1. 不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	必要に応じてマッケットなどの敷を用意する。	1. 集団活動中・見守りあり	週末の夕方で疲れ時に、卒園式のリハーサルをしたり、リズムカルな歌を持ち帰ってきた	その時の子どもたちの姿を見極めると共に、気持ちがクールダウンできるように、話したり歌の曲目を考える	1. いつもお様子で見ていりあった	いつも通り登園し、活動的であった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちが楽しく歌を歌っている時に、一人一人が動じてしまっていたおお思いとかと足りないと感じたくと痛いうのすぐ聞が言うで、事務室に事務室に連れてきた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１名はピアノを弾き、１名は全体がにたった	子どもたちの様子を見ながら、曲を選んでうにすべきだった	夕方の活動の見直しと子どもたちの様子の見極めをする必要性を周知した	
4400	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	9								2	2	3歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙の亜脱臼	2. 基準以上配置	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置		・ヒヤリハット報告を細かく行い、職員間で共有し、管理意識を高める。 ・転倒や危機感を持ってもらるつような運動遊びを、日頃から意識して取り入れる。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(24)回/年		点検を確実に行い、異常があれば速やかに対応する。	1. 集団活動中・見守りあり		転倒しやすい年齢であることを常に考え、遊びを見守り、子どもの様子を配りの目を配り、瞬時に対応できるよう体制作にきなりる。	1. いつもお様子で見ていりあった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	2歳児全体の様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			・怪我につながるような危険箇所、行動などの共通理解を図り、事故防止に努める。 ・報告を速やかに行い、複数で確認する。 ・子どもの言葉を鵜呑みにせず、痛いところ以外も丁寧に確認する。	
4401	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20				10	10			2	2	5歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	打撲（上下前歯右側）	2. 基準配置	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(２)回/年	2. 基準配置	安全に関する研修を定期的に施する。全に関する研修を定期的に施する。安全に関する研修を定期的に施する。安全に関する研修を定期的に施する。安

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
4404	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			36	24				5	4	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	園児人数に対して人員の基準を満たしていた。職員は、園児が遊んでいる場所に職員を各々が配置した。	必要な人数を保育できていた。園児が遊んでいる場所に職員がとどまっていた。また、園児が遊んでいる場所にくくりつけていた。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回以上/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回以上/年	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/2～3日	毎朝、園庭の掃除と遊具の点検を行っている。遊具には問題はなかった。雲梯や周囲や下は掃除しており、事故がなかったものはなかった。	安全に遊ぶ出来ることは安全に安全に安全に

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4409	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21				11	10			2	2	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘関節周辺の骨折・脱臼	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	児童が遊具を頭から滑るとの想定が薄かった	遊具の使い方、危険性を職員間で再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具に異常はなかったが、遊びり方を誤り落下すると高さある為に怪我がる	遊具の使い方をしっかり伝え、見守りを徹底する	1.集団活動中・見守り	遊具を頭からすべり、遊び誤った為	遊具の遊び方をしっかりと児童に伝える	1.いつもどおりの様子であった	元気な様子で登園等は体調良好であった	2.対象児の近で見ていた	本児の遊具をすべる様子を見て危険を感じ静止するもすべり落下する。本児が倒れているとこへ駆けつけ対応する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士が本児の様子を見て対応する場へ駆けつけた	遊具の近くに保育者が配置されていなかった	保育者の配置場所に留意する	
4410	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	8					6			6	6	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		研修も受け、職員配置も基準をしており、1人補助もいた。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年		チェックシートを用いて行ったり、遊具は施設ではない。	3.個人活動中・見守り		担任保育士は、すぐ見守っておりを離れるわけではない。	1.いつもどおりの様子であった	畑にボールが入ったことを取りできた成感を走った。	3.対象児の近で見ていた	1名は トイレ内で状態をたところ、特に足の状態を確認したが、念のため、怪我はなかったので、のやす。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の時間だった為、室内で保育中だった		チェックシートに「園庭全体水を含んでおり滑る」と記載されていたので、必ず事前に子ども達に周知していなかったので、必ずと伝えるようにする。	
4411	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	35				18	17			2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ上(右肘頭)骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	園外活動ついて保育士それぞれの認識がある。	園内研修において事故に対する認識を職員間で統一する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			1.集団活動中・守り	公園内での活動内容について詳細まで欠けていた。	公園内での過ごし方や保育士間での取り方につ連携の取りて今回以上に計画を密に立てる。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、活動的な遊びを好み、雲梯をとに自信をもっていた。	2.対象児の近で対象児見た	対象児は、見ていた児を対象児が落下に合わせがって間に、ずに至った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内のあ場所以外で遊ぶ子どでいる対応をしていた。	雲梯か落下した場合どうなることなるか、雲梯を使用するようにすべきか事前に確認する。	雲梯を使用どこする場合注意すべきか事前に確認する。	
4412	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	85	0	0	20	21	23	21		7	7	3歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折外顆骨折	2.自の転倒・突よもの衝によるの	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(4～5)回/年	1.基準以上配置	園内研修季節ごとの遊び(散歩・遊具・水遊び・園庭の遊び・冬の遊び)が始まるまるファイルにまとめたにた注意すべき点について確認する。	自由遊び時の職員の配置・片付け方を再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年			1.集団活動中・守り	片付け後、やぶらないように達え、土も	動並走組様ども様は子に伝その声をし保育士も都度、掛けている。	片付けをしながら全体の様子を把握することを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	部屋・廊下・ホール片付け時、移動は い様 話・声掛けをいる走動	4.対象児の動きていた	片付けがらコーナ近やの子ども様子をしていた対応ていみしが、対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付けを職員や危険がないように2歳児の集まりを員がいた。	子ども突発的な動きを想定し、対応様子が出ると子ども応ができたよかった。	職員1人1人の意識を高め、事故の起きない設定・配慮をしていく。打合せや個々に再度確認・話し合いをし再発防止に務める。	
4413	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	6歳	1.男児	母親からの遺伝で骨形成不全(軽度)の既往症がある。前の保育所で鎖骨を骨折したことがある。	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(右足の甲)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	排せつを済ませ、トイレから部屋に移動した。	4.対象児の動きていた	1名はトイレ内で見守りに従事。もう1名は給食準備を他の児童と一緒に行う室内にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任2名で保育をしたため、他はいない職員の見ていない。	こども見守りをしっかり行っていたが、回事故が起こった。	今後も2名体制をとりながら注意深く見ていく。	
4414	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43				14	15	14		3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ上部骨折	3.子も士衝同の突よもの	1.あり	1.定期的に実施	3回	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12回	1.定期的に実施	12回	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	元気よく登園。朝9時半園庭で鉄棒遊びをしていた。	3.対象児の離れたところで対象児見ていた	園庭全体の子ども児の状況をしな確認ながら他児と遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と遊んで当該児童の児童は見ていなかった。	以前かに鉄棒上に行ったあり、気の座為はをつけて見守っていた。	鉄棒の上に座ることを禁止し再発防止に努める。職員一人一人が危ない遊びを目視したら見逃さず禁止し注意を促し、持ち場を離れる時は他の保育士に声をかけ安全確保の体制を図る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面		人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																										
4415	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									2		1	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	基節骨折	3.子ども士衝にるの突よもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守りあり	走る場所は安全のため確保できていたか。	走る場所を広くとるために子どもの移動場所を見直し、同じも子どもの移動場所を見直し、子ども同士が十分な間隔をとり、安全に体を動かせる環境を設定する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体を動かすことが楽しくて楽しい仕方がないという様子が見られた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	他児との隔ゆとりがあるようにかけ、間を狭くるとしつつ、走ってウントをとりながら走ってカを注意し一緒にカを定ースるこ取りのがよう保ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスのはそれぞれのクラスでしていた。	指導員と保育士は、ニングのルールを理解できるよう子ども目的に伝え、子どもは理解えスタートしていかた。ま想定で危険も伝えていかた。	運動の目的を明確にし理解していることができてスタートする。想定できる危険を予測することによって、ルールを身につけることが大切であるという指導をすることとしている。	
4416	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	0	0	0	5	5	4	0		2		1	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右上腕顆骨上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　12　)回/年	2.基準配置	事故が発生した17：30～18：00の時間帯は保護者の多い時間帯である。事故当日のその時点その保護者に常動が保育士が対応立って応した。事故が発生した場所(舞台)には背を向けており、子どもの状況に変化に気の瞬時づかず、舞台下に落ちた	17時15分から18時までの遅番保育の職員体制を見直す。常勤保育士と保育士資格のある保育士の配置を徹底する。保育補助者は役割(遊具・玩具・荷物・テーブルなど整理整頓し、保育室の安全を保つ等)を明確にし、認識をする。保護者の迎えの時の対応は、保	1.定期的に実施	実施頻度(　18　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遅番の時間帯は使用する育室とも安全な活面は、15時から18時までの3時間の経過のなかで、遅ぶの工夫ができていなかった。おやあとつの工夫に机上での活動も終わり、机のみが部屋に、舞台前の空い	おやつから遅番の時間帯に使用する育室の環境いて、安全な環境を設定できる子どもの動線に応じた遊びの場と、時間の流れと共にマンネリ化し遊びの内容の工夫、保護者の迎えから降園がスムーズにできる工夫を検討した。	7.その他	高さ40センチある舞台を使った活動や行き来しやすい作り動に行き来しやすい環境をならないようにする。	舞台の上活動は基本的に行わない。舞台の上は絵本を読むとしてスペースで切り、舞台上の際には本の仕切りで遊ぶことにとする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	一日を通して落ち着いて過ごせることが当日は気持ちが高揚し、舞台の上がったり、友だちと上がったり、身体をくつんでいる様子が見られた。	4.対象児の動きていなかった	保育士は対象児や保護者中でもどもの動きに応じた視線がけいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育補助者は、子どもの中に入っていた。保護者応をしている状況を全体の子ども子どもの様子を見ることができなかった。	保育補助者以外の育士配置はしてなかった。	保育士の基準配置以上配置が必要な場合があるため、保育士1名と保育補助1名の配置ではなく保育士2名の配置をできるだけ行う。	
4417	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)								19			2		1	6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右上腕骨骨折顆上骨折	2.自の転倒・衝によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	マンネリ化での意識の低下。	常に保育士が危険を予測して動く。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	床が滑りやすくなっていたもある。	複数の目で環境整備、細かく点検を行う。	1.集団活動中・守りあり	通路が狭かった。(足元、原周り因になる物はない)	子どもが通る通路の確保。	1.いつもどおりの様子であった	テーブルとテーブルの間(1～2m)を歩いていた。	2.対象至近で対象児を見ていた	子ども見えて、全体が場所に見えるとって、立ち転倒する瞬間を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至	片付けの確認及び援助。	保育士の立ち位置。	通路、テーブル周りの環境の確認、保育士が危険を予測して動く。	
4418	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49						21	28		3		3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右橈骨骨折	1.遊具等から転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	特になし。	今回の怪我については、遊具の不備や遊び方のまずさがその原因ではなく、また他児が関わってわけでなくもうっかり手を離しまったことにるなので善策しいと感じる。	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	特になし。	これまで安に以上に全は配慮す	1.集団活動中・守りあり	普段から運動遊びも得意な児だったので、梯子を離れる不安かもしれないという予測が出来なかったこと。	いろんな想定して保育する。	1.いつもお様子であった		3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	園庭遊び全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		雲梯の近くに保育士がいなかったこと。	特になし。	
4419	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									3		3	2歳	2.女児		8.その他	1.負傷		6.その他	顔面(口腔内含む)	右目尻挫滅創	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　3　)回/年	2.基準配置		職員全員周知し事故の防止にて再発に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ベランダを点検し、柵にが壊れたので、ペンキを塗りなおした。	1.集団活動中・守りあり	絵本を見ている時に絵本にぶつかったり、立ち上がって窓にぶつけた	ベランダを再点検する危険と思われる箇所は見つからず。絵本箱もベランダルに布を貼ったもので危険な箇所は見つからず。	1.いつもお様子であった	ベランダを見ている時に、絵本が振り向きざまに出て、右目尻から出血していることに気が付く。	2.対象至近で対象児を見ていた	1人目はベランダで対象児の横の全体を守れる位置にいた。2人は、1～2m離れたところで、部屋で掃除機をかけながら、子ども達の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所務主事の休みにより、洗濯当番だったため、部屋の前の洗濯室と部屋を行きて来た。	事補以保育士の基準配置はしてなかった。	２人で子どもを見守り、もう１人が掃除機・洗濯を行うべきだった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的に何をしていたか				具体的に何をしていたか			
4420	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	55								4	4	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕の骨折	2.自の転倒・突よも衝によるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	研修等は実施していたが、変わる日常の状況や環境であった危機が不でた。	常に危機管理意識をもち、事故やケガへの対応を共通にできるようにしたい。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	床に水があり汚れると滑りやすく、転倒の可能性がある。	日頃から清掃や点検を確実に行い、必要に応じて修繕していく。	日頃の環境や保育内容と状況や子どもにも立ち動はなかったため、特にケガ所を意識していなかった。	職員同士で常にかけあい、危険が予測される園では近くで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとの話をしながら、園庭に出ていた。	園内の注意を、本児の自身の意力が欠けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員は近くに配置していた。本児が特に動き回っていたわけではなく、いつも通りに座っていたにも不意に起こった事故であった。本児の泣き声で異変に気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ていた子どもと一緒に出た子ども外、対象児の事故を見ていなかった。	近くで見守っていたが、私語が多く注意や集中力がけるこの指導が不十分であった。	危機管理意識を常に持ち、日常の些細な動きや行動でも、時には事故やケガにつながることを常に念頭におく。	
4421	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15								1	1	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指薬指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.基準配置	ビスで固定されているが、にのみ作用のできなかった。	棚のクを固定し、固定していくたをテーブルで固定していく。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	設置されている棚によって位置が変わる。	棚は固定していたため、入った中板などされる中にも落ちが状態していく。	3.個人活動中・見守り	通常収納である避難リュックと防災頭巾が、中板が動く状態だった。	全体の棚の高さ98cmに対し、中板を24cmに設置してあったものを下げ、固定していく。	1.いつもどおりの様子であった	避難訓練から戻った際、話をしたが落ち着かない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め、3名が棚の後ろに行ったことは目視で確認していた。その後、他の園児に1~2分話をしたから、避難リュックと防災頭巾を棚に戻くと、対象児が手を押さえていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任一名だった、他のので、職員はいない状況だった。	棚の中に荷物が入っていない状況で、その中に園児が入りこむまで予測されなかった。園児が中入り中板を押し、垂直に落ちるとまで予測できていなかった。	棚がいつもと違う状況の中で起こる可能性があることをすべて想定し、環境面を整える。保育の中でこどもたちとも室内の危険な場所について確認していく。	
4422	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室内(室庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	3.子ども士衝同の突よも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		複数担任とずず子動あるとず心せに常にもにに注意ときにする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/月		安全な場所であると過ずず、子動きから信せに常にもの気ようにする。	1.集団活動中・見守り	昼上での経験を十分行い、慣れるようにして必要あった。	1.いつもどおり子であった	運動には消極的である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていな		遊びを始めたばかりで、まだに慣れていなかった。	約束や安全確認を十分にし、遊び始めには十分注意を払う。	全分にし、遊び始めには十分注意を払う。	
4423	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室内(室庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自の転倒・突よも衝によるの	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	常設されている掲ボールなの園児もいるので、慣れて過ぎるこれと言うあった。	遊で走り、ボールをとるこかをは、ボールを共に、園児とも遊び、園児とも遊んでいた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	遊で走り、ボールを多く、掲ボールを多く設ボールを常設ボールは幅はないため、園児とも遊んでいた。	遊庭だりこっ際周りを共育児園掛けすると行く様、園児にを共育児園の園目なにけるは、周りを見て行く様、園児にを共育児園の園目なにけるは、周りを見て行く様、園児にを共育児園の園目なにけるは、周りを見て

No	概要 初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
4425	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	27									2	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足ふくらはぎ) 左足のヒ	2.自らの転倒・突よもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	対象児のクラス員で一斉に走り始めた。	動き始めは注意するように伝える。また、日々の運動を行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		1.集団活動中・見守り	屋外で寒くく、体があったまっていなかった。	準備体操を行う。	1.いつどのお様もり子であった	普段の生活から静かで、体を動かすことが得意ではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児のクラス一斉にいる様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていな	対象児のクラス一斉に走る様子を見ていた。	集団の後ろから走ってつい行っていた	遅れていることを気にせずに、自分のペースでも走るように指導した。	
4426	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17	0	0	0	0	0	0			2	2	4歳	2.女児	身長104.4cm 体重17.2kg 当日の天候は晴れ。既往歴、持病なし。たまごアレルギーあり(生たまご、うずらのたまご、マヨネーズ、親子丼、たまごとじ等除去食提供)。発育、発達状況問題なし。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・突よもの	2.なし	2.不期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	クに2保育者を配置した児クラスの児童が1人トイレに行く際、保育者がトイレに行かなかった事が要因と考える。	複数の保育者で保育する際は、トイレ等に行く園児の移動する際、保育者が付きそうことにより、保育者がそうにけてい。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	廊下にテーブルを配置しているが、少しテーブルをよけておくことがあった。	1.集団活動中・守り	本児がトイレに行く際に、保育者がトイレに行いなかった。	今後同様のケースでは、保育者が出来る限り行う。今後も、廊下では走らない事を園児の皆さんに伝えていく。	1.いつどのお様もり子であった	普段と変わらない様子で、園庭で元気に遊んでいた。本児がトイレに行く為、園舎に戻り、トイレに行く途中で転倒し我をしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、園庭にて本児以外の園児と一緒に過ごしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が近くすぐに居た児のために担任が転倒を防げなかった。	本児が転倒してしまった際、本児のすぐ近くに担任以外の職員は居たが、転倒を防ぐことは出来なかった。トイレに同行している状態であれば防げたかもしれないので、今後は、出だれ同行する	園児のトイレには、出来るだけ同行するようにする。「廊下を走らない」を、今後もしっかりと伝えていく。	
4427	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22				16	6				2	1	4歳	2.女児	特記なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む) 右1・2外傷性歯牙の脱臼 右1外傷性歯牙破折	3.子も士の衝にるのど同の突よも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	子どもと保育者が一緒になって繰り返し約束していたが、子どもたちが室内部屋にいるお時間ということで迎えに行くお迎時間という人のはずのこと出入りあった。	職員配置を1名増をやし、それぞれの役割分担を明確にしたマニュアルを作成し、保育者の死角をなくす。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	対象児はトイレにいくために出たのではなく、延長保育室にはトイレがあるが、延長保育室はトイレがなかったために出たトイレに行くために保育室から出る必要があった。	延長保育も遊び面で安全も生活面もできる環境で生活面もできるように、トイレがある保育室を延長保育でも利用する。	1.集団活動中・守り	対象児はトイレにいくために出たのではなく、延長保育室にはトイレがあるが、延長保育室はトイレがなかったために出たトイレに行くために保育室から出る必要があった。	延長保育室で安全も生活面もできる環境で生活面もできるように、トイレがある保育室を延長保育でも利用する。	1.いつどのお様もり子であった	普段通りでいい、特段遊んだが、特に理由はなく何も言わずに部屋から出てしまう。それを見て児が何も言わずに出ていったので、呼び戻すために、あとを追いかけて行った。	4.対象児の動きを見ていなかった	2名で保育をしていたが、保育室内でそれぞれが他の子どもと関わっていたため部屋から出て行ったっと気がかなかった。				職員の役割分担が明確にはなかった。	保育士を1名増員し、それぞれがどの位置でどんな役割をしながら安全に保育するのか職員全員で共通理解をはかる。	
4428	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18		14							5	5	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指) 脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	日頃からこどもたちは気に入り遊んでいるが、子どもたちの見守りを繰り返した。時間を育てただけ	遊び危険を予知し、最小限に抑えられるように、今回の事故を共有し、今後の全職員の事故防止の整備を	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	慣れたコンテナを重ねたところ、及び着地点は土・砂だった。	着地点にはマットを敷く。	1.集団活動中・守り	子どもの身心の発達、運動力の発達、思考力の発達、伸ばしていき能力を守っていきたい。	怪我があったこの遊びはやめる、と短絡的に結論は出さず、危険予知や子どもの不測の行動を念頭に置き、子どものを伸ばしていきたい。	1.いつどのお様もり子であった	健康で精神的にも通常通り	2.対象至対象児の児近で対象児を見ていた	対象児から1m離れていた所にいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者は対象児の見ていた動きを守ったが、他の職員はクラスの子どもたちを見守っていた。	特になし	保育者が子どもの発達の特徴を再認識し、見守りを怠らないよう配慮する。	
4429	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	2									1	1	4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む) 診断名なし	2.自らの転倒・突よもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	なし	今後も適正な職員配置や事故予防研修の実施に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	今後も安全点検を実施し、安全な環境を保ち。	1.集団活動中・守り	なし	保育状況に問題はなかった。今後も安全に遊べる環境を保ていく。	1.いつどのお様もり子であった	前日まで、トラブルより、友達を引いまうことが続いたため、数で活動した。当日は特になかった。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	本児の様子を見ながら、本児のストップに使ったCDを片付けた。			本児は保育時間が長く、夕方は疲れが出てくる時間帯であったことが考える。	児童の保育時間や疲れ具合などを確認し、保育内容を整えていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面								ハード面								環境面		人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4430	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	23									2	2	6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右小指基節骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(7　)回/年	1. 基準以上配置		今後も継続してマニュアルの確認を行い、職員全員が内容を共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(その都度)		施設、設備等が原因の事故を防止するため、今後も継続して点検を実施する。	1. 集団活動中・見守りあり	他児と一緒の行動を嫌がり教室内で机の上などの行動をとっていた児童1名に対して、保育士2名のうち1名が対応をしていた。玄関前に22名の児童と1名で対応することとなった。	保育士1名が個別対応にまわっていたため、整列した22名の児童の動きでの対応できる事務所に対し、保育士の応援を要請するなど見守りの取れる体制にする。	1. いつもどおりの様子であった	園庭活動へ向かうため5歳児クラスの児童が整列していた際、被災児と児童Aがふざけ合っていた。	2. 対象児で対象児を見ていた	被災児と児童Aにふざけるのをやめるよう注意した。児童の列が園庭へ向かって始めることを全体へ呼びかけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒の行動を嫌がり、机の乗る行動などの行動をとっていた個別対応児童（1名）の対応をしていた。	被災児童Aにふざけるやめるように声を掛けたが、被災児童Aにてちょっかいがあったので切り替えができるのか直接確認せずに出発した。	被災児と児童Aにふざけるやめるように声を掛けるだけでなく、被災児と児童Aの側に行って切り替えができるのか直接確認し出発するように。	
4431	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	33				13	11	9			3	3	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右中指基節骨骨折	5. 他から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		ヒヤリハット会議にて、職員の立ち位置、合同保育ご時の過ごし方を再確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		狭いスペースな大勢で子どもがいるときは、別に遊びに誘うようにする。	3. 個人活動中・見守りあり	対象児が寝転がっていた場所が約1．5㎡と狭かった。	合同保育ご時の過ごし方を職員間で話し合う。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児で対象児を見ていた	対象児と他児がじゃれ合って遊ぶ中で対象児のグループに向けて遊ぶ中で対象児のグループに向けて遊ぶ中で対象児のグループに向けて

No	概要					発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4435	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									2	2	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	顔面(口腔内含む)	鼻骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	安全に認識しすが不足していた	現在ヒヤリハットを含め事故の報告をその都度終結れていが、毎月の月例会や週案会議で必要な事例について現場検証を行い、職員周知確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具には、なっていて不備はない	遊具の不備はかったが、今後も安全点検を実施する	3.個人活動中・見守り	滑り台で、遊んでいる間に興奮してふざけてしまった	・子どもたちに遊具の安全な遊び方を再度伝える ・遊びの状況に応じて、随時声をかけたり、クラスで話し合い遊具の安全な使い方への意識を高める	3.いつもより発動的も活活であった(理記載)	・滑り台を友達と一緒に繰り返し滑っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	・週休保育士1名は倉庫の遊具を出し入れした。 ・加配保育士1名は、部屋に残っていた2名と園庭に出てきただった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・年長担任保育士5名と1名ずつ遅番対応保育士1名は、散歩に行くために、園庭を通ってとりすぎていたところだった。	・各保育士が園庭で園遊ぶ園児全体を把握することができず、自分のクラスの安全配慮に集中したため。 ・保育士間で声をかけ安全への配慮ができなかった。 ・滑り遊びで、2人が園庭で	・戸外遊び時、園庭の子どもたち全員の様子を把握できるよう、各保育士で連携し、危険のないように声をかけたり、遊具の側についたりとで安全に遊ぶことができるようにする。 ・遊具の準備、片付けをするときは、他クラス士とスの保育士と連携を取り合い、安全に対応できる状況になるように声をかけあう。1クラスの際は、	
4436	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12			5	7					3	3	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指の創傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	けがなど対処の法については看護師を中心に研修しているが、予防に関しては不十分だった。	研修内容を検討を行い、予防を重く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	押し入れ引き戸が重くて、2歳児でも簡単に開けることができる。入れる勢いで閉まる。	保育室の押し入れ子が開ないように閉まるようにかけ鍵をする。	7.その他	押し入れの中に入って遊ぶ様子を見られ、扉によるリスクを想定いなかった。	日常生活として危険所を再認し、職員間で確認してる共通認識にするように。	1.いつもの子であった	設定保育でかくれんぼをしたので、続きをするようにその子を入れて遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	3人の保育士は、それぞれ、トイレ、手洗い、着替えの援助をしていた。着替えの援助をしていた保育士が近い場所にいて、所の子は見ていた。扉が閉まる瞬間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄援助はトイレで手洗い援助はトイレに向かった後のはきにくいため、着替え援助の様子を見ていた。	排泄・手洗いなどの順番待ちの時に待っていると、トイレにトラブルなども意見していたが、保育室でくで子は遊び楽しいども個別の対応はせず、見守っていた。	安全に思わず楽しく遊んで友だちも危険なことが起れる可能性なこと常に意識して保育する。	
4437	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28									2	1	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節前外果剥離骨折　右足関節距腓靭帯損傷　右足挫傷	2.自らの転倒・突よるもの衝によるの	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	転がしドッチボール中になり、いちボールが夢中とり思にがたいと他児れな滑よれるいう取いようにしてりに込むにして取り行った。	ボールを取りに行く、慌てず滑り込んでいないかをこのクラスの子たちに伝えた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年			1.集団活動中・見守り			1.いつもの様子であった		2.対象児の至近距離で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			いつもと違う状況の時は特に、転びやすいなど、特徴のある子に対して配慮する。	
4438	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23						23			3	2	6歳	1.男児	特になし	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	A」外傷性歯の亜脱臼	3.子ども士の衝ども同の突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	子どもの行動に伴う危険を行う予測することが不十分だった。	事故内容を職員会議において報告し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故は、子どもが自ぶつかったことによる事故であり、ハード面における改善策は特になし。	1.集団活動中・見守り	体を動かすあったにもかかわらず、危険のないように遊ぶためのかけがなかった。	体を動かして前に遊び起を唤し、子どもたちに対して安全に意識を持たせる。	1.いつもの様子であった	登園後、保育室で過ごし、いつもと同じように片づけをした後、遊戯室でサッカー教室に参加した。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体の子どもたちの様子を見ながら一緒にサッカー教室に参加していた。対象児の動きも視界に入れていたが、対象児がぶつかる瞬間は防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の様子を見ながら、対象児の動きも視界に入れていたが、対象児がぶつかる瞬間は防ぐことができなかった。		園児の人数に対して職員の配置人数は適切であるため、改善点はない。	
4439	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			12	6	12				4	4	4歳	1.男児	特記事項無し	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折、右足関節炎	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	2.基準配置	雲梯の近くに職員はいたが、いつも挑戦しているため、落ちるかもしれないという危機意識が足りなかった	遊びの危険性についてさらに細かく場面設定した研修をおこなう。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	落下場所であるが、寒い時期の土が硬いため上が	着地面にはマットを敷く	3.個人活動中・見守り	特記事項無し	見守りを保育する注意士のすべき点を細分化し、チェック体制を強化する。	1.いつもの様子であった	雲梯が人でできるようなったしさかきになった嬉しさが積極的一組んでいたが、特別に取り気持ちが高揚しているようなことはなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由保育のため近くにはいる雲梯のことが、個おらず、落下児の対象状況に気が付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士は園庭で他児のしたことを対応をしていたため、雲梯にはついていなかった。	一人でできること安心としきっていた	ヒヤリハット、職員の危機意識を高める	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
4440	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	0	4	1	0	1	2			3	3	3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	右足親指第1関節	けが当日は右足親指捻挫と診断されるが、1月20日骨折が判明	寄床によるよう有歩方側をにる特なき	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	床面などに段差や突起物なく、特にハード面での要因はなし。	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおり様子であった	兄や友達と動物玩具を用いて遊んでいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	全体を見位渡せる位置、且つ何かあればすぐに手を出すことができる位置にいて、子どもとして過ごしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内入口付近で迎えに来た保護者への対応をしつつ、視線は全体を把握していた。	本児の方歩き特徴があり、母指を巻き込んだのだろうと推測する。	身体の育ちの見直し、観察が必要。3歳半健診までの間に、保護者と本児の骨格や動かし方などの情報を交換し、必要ならば医療機関との連携を図っていく。	
4441	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	53									13	13	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	内履きズックを着用しているが、普段から踏み潰しあり付けて踏んでいた。当時はかかとはいなかったが足にかかる。	内履きズックはしっかり履いるかを確認するとかかとが踏んだりするとの使用。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	室内で走ることの速度についても周知する。	特になし	3.個人活動中・見守り	1つの風船を追いかけたこと心がけとの、ものではいか。	子ども同士の身体の距離を考慮し遊び、活動を行う。	1.いつもどおり様子であった	いつもとわらず変過ごしていた。塗りえたた遊戯室出で1つの風船を使って下から打ってようにいた。そこへ他児(1人)も風船をひとつ持って遊ぶ。互いにあそんでいるうちに1つの風船を使って一緒に遊ぶようになった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室の中も見える位置で、遊戯室にある上においてある風船の整理をしながら児と1人ずつ対象児もうを見ていた。対象児が転倒、痛み肘をさえながら舞台に腰掛ける様子を側で見る。痛みの感じ方やけが部分を目視で確認するが腫れや変色などの変化がな	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当の保育室内にいたため、けが には気づいていなかった。	特になし	
4442	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		22									19	19	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年			1.集団活動中・見守り			1.いつもどおり様子であった	前日、雪遊びで雪山へ行ったが、元気に登園してきてくれたもなくつも通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見渡せる場所にはいたが、他の子どもとをして、転んだ場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具の裏で走っていたので、見えなかったが、に駆けけ距離にはいた。		すぐ付られるには	
4443	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	21									22	22	1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指末節骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	特になし	子どもとの遊びなども、子どもの危険な行動を予測していく	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	2.不定期に実施	実施頻度(6～12)回/年	引き戸が高い木製でありさも大きく重たい。	子どもが引き戸を閉めないようにする。引き戸に安全装具(ストッパー)を設置した。	1.集団活動中・見守り	出入り口に近く育士はいなかった。	出入り口付近で遊ばないように、子どもたちへどもを室内への遊びの場へ誘っていく。	1.いつもどおり様子であった	いつも通り自分好きな遊びをしたが、友達へのに関心もあり、他児と一緒にいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内の別の遊びのコーナーに遊び児と遊ぶことで他児に一緒ついて、本児が出入り口に行ったことに気づいていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で子どもとと遊んだり、トレレーニングの交換をしたりして、子どもたちの見てたきをいなかった。	どの職員も目前のどもの子だけでなく、保育室内くまを見ることができていなかった。	遊びの場から移動したり出入りの近づくに様子に早く気づき、職員同士が声かけ合って安全を見守るようにしていく。	
4444	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4				17	22				4	4	3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性脱臼	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	角を曲がる時、外が小さい子になっていた。	異年齢を繋手を繋ぐ際は、曲がり角を時外側大きくなるように子よりし、小回りよりになるようにして転倒を防ぐ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	通行する廊下幅等(曲がり角)が予想される対動きして狭かった。	点検を実施し、結果を職員に周知し共通理解を図る。	7.その他	異年齢保育園で、廊下を通行する中で、いつも以上に気持ちが高ぶっていた。	廊下の障害物をなくし、安全に歩行できるようにする。	1.いつもどおり様子であった	友達と手を繋ぎ前を向いて歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大人数での移動だった、全体が見ているを見ながら見ても見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	後方の子どもたちを見ていたため、児を見ていなかった。	職員間で連携がとれていなかった。	大人数、手を繋いでの移動時の危険性を再認識し、十分注意して見守るようにと気を配ると同時に、落ち着いて行動するように声かけ等の指導を行う。　曲がり角にフリー職員がつくようにする。	
4445	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18	0	0	0	0	0	18	0		2	2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		左足関節捻挫　左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	ヒヤリハットに記入し、職員会議で改善策を話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし		1.集団活動中・見守り	戸外に出かけて気分て高揚していた為	戸外に出る前は、ルールを確認することを徹底する。	1.いつもどおり様子であった	戸外で友達と鬼ごっこしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこの様子を見守っていたが、児が転本だ時、本人が間近にいた為、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見守っていた為	特になし		

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面							ハード面							人的面								
				事故発生時			教育・保育等従事																				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面		改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】				教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因																							
4446	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8									2	2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	裂創(顔)挫創(顔)擦過創(顔)	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6回/年	2.基準配置	対象児の動きをを予測できず事故をなかった。、	対象児の普段の行動を理解した上で、環境や関わり方を考える。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	子どもがすぐ触りやすい手を置くやすい棚の高さである。	棚の角及をびへりにガードクッションでカクッションバーする。	3.個人活動中・見守り	夕方で1日の疲れが出て時間帯がるる時間であった。	子どもの姿を予想し、職員間の連携を十分行う。	3.いつも活発で動的であった(理由記載)	普段からよく動き回り、落着きない、当ち着きない、児が絵本を片付けた終えた際、児の行こうとした時に事故が起こる。	2.対象児の近く見た	絵本コーナーに絵本を返した対象児を目で追いながら、他児と関わっていた。対象児が絵本を片付けた終えた際、対象児の元へ行こうとその時に事故が起こる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のお むつの替えをしていたため対象児はいなかった	目で対象児を追っていたが、咀嚼の行動に対応できなかった。長時間保育室へ移動するために保育士の気持ちに焦りがあったのではないか。	常に子ども児の行動を把握し、安全に活動できるよう環境を整える。保育室移動の際は、時間に余裕を持ち行動するように心がける。	
4447	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	20									5	2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(1回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1回/日	—	—	1.集団活動中・守り	園庭にクラスの園児がいて、他クラスも楽しそうにしていた(少しかれたが)が、重たい出っ張り手が強いたのでは	日常の中だ体の大きさやスピード等で倒れさうで、全体で状況の把握をしっかり行う。安全対策を再確認した。	3.いつも活発で動的であった(理由記載)	運動会前のクラスで、当日も保育室を走り回ることが多かった。	2.対象児の近く見た	対象児のいい動作で、移動友達とうかぶ、ひっくり返り走り、倒れ足をかけ転倒した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各々、クラスの子ども達とあちこちにいた。他の職員も転倒時の様子を見ていた	子ども達には気にはねは回っている。	予想もしない所で転ぶ事もあるる。その後の様子も見て軽くもしっかり判断しないようにしよう	
4448	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	48	0	0	0	16	16	16	0		6	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右中足骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2回/年	1.基準以上配置	怪我のリスクが高い固定遊具への職員配置が不徹底	職員配置の確認・保育士の危険予測能力の向上	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年	2.不定期に実施	実施頻度(回/年		年齢や発達に合わせた遊具の選定と援助方法の確認	1.集団活動中・守り	滑り台から登りリスク多方面から予測できなかった	3～5歳児どもたちが遊ぶ様子や動きの変化のあるを予測しながら、保育・援助を行う	1.いつもお子様であった	固定遊具を好み、ぶこと多く、日も台を返し繰り滑る様子があった	3.児童が遊ぶ場所で、当日、滑り台を繰り返し滑る様子があった	本児が見位置で、他児のけんかを対応していた。対象児が落下する瞬間には間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園に戻る準備をはじめる。園児ごとに内のもたち声をかけ集め、お子様の職員たり、対象児を意識的には見ていなかった	遊ぶ前や遊んでいる際に、靴をきちんと履いているかの確認が不十分	靴をきちんと履いているか、子どもの様子・変化に気を配り、必要なときには言葉をかけ・援助を行う	
4449	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				18	16				2	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	園庭で遊ぶ場所を仕切るために、ケイヤを置いていたもので、子どもより視界にくかった能性もある。	園庭であそぶ時には、柵で仕切りを遊ぶ場所がわかりやすいようにする。	3.いつも活発で動的であった(理由記載)	いつもよりあった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	楽しそうに走っている姿を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を見ていなかった。	気持ちが高揚して、注意力が散漫していた可能性があった。	鬼ごっこをする前に、子どもたちとあそびのルールの確認や注意事項などを全体で約束すること。危ない場面があった場合はあそびを止めて再度注意を促す。	
4450	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				15	20	20			5	6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕若木骨折	1.遊具等から転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	ミーティング、研修等によ職員が事故予防に対する心構えをし、全職員が事故を習おく知識を習おく得してく。	死角となる場所ないように、職員の配置を考える。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	子どもがよしようとする気持ちを尊重しながら、危険を察知出来る側で見守る。	保育者同士連携を取り、危険のないよう注意する。	1.いつもお子様であった	雲梯で一ぶしていた。	2.対象児の近く見た	園児が遊ぶ補助道具等で補助した、見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児の見守り、補助	事故・怪我が起こるなにこうなに早付よ気いち気付くよう、職員配置を考える。	危険度が高い遊具周辺は特に配置を厚くする。	
4451	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	コーナーにコーンを置き、水をまいて滑りやすくく等安全策をいたが、転倒してしまった	定期的に所庭の地を行う	1.いつもお子様であった	運動会の予行練習中にリレーで走ろ時、コーナーでバランスを崩して転倒	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	トラック内でリレーの様子を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	トラック内で子どもの並ぶ列でいるものを見守っていた	運動会日行目で、本人自身が普段以上に張り切る姿があった	リレーをする前に子どもたちに声をかけて気持ちを落ち着かせてから開始する	
4452	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				13	17				2	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	コンクリート地面の少し面の隙間でバランスをくずした可能性がある。	平らに見地面てあっても、段差がないか確認する。	1.いつもお子様であった	いつもと変わらない様子であった	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児が声をかけた担当保育士の方に向かって来ていることを確認していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を見ていなかった。	子ども集めに走る時に保育士掛けに配慮が必要であった。	クラスをわけて集めるる，ゆっくり歩いて保育士のところに集まるようにするなどその場に応じた声のかけ方を考える。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4453	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	27								6	6	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	前額部裂創、右前額部の醜状瘢痕	2.自らの転倒・突よるの衝による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	用水路の歩いまっ横を転してしまった。	散歩のルートの変更を行う。		実施頻度()回/年		実施頻度()回/年		実施頻度()回/年			1.集団活動中・見守りあ	予定していたコースではないところを歩いたため。	散歩コースの確認を行う。	1.いつもりお様の子であった	最初は、職員と手を繋いでいる歩いたが、後のメートルは自分で歩い張り、職員の手を払いけた。	2.対象児の近で対象児を見た	本児の様子がら他児を行った。。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先頭、中間、尾と配置し、それぞれ子どもたちを見守り、誘導した。	5対1で歩いていたため、一人が職員付けはよかった。	職員配置の確認を行う。	
4454	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	眼底骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	毎日シデンやインを記入して提出し、返り議でもしていた。ただ、どれ自ものが、くらい分としての捉えていたかのらがあった。	他のクラスのこと、自分のクラスのことは関係ないという意識なので、何かが起こるからかわかない、危機感を持って保育に当たれるように、研修の仕方や改善をしていかないといけない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	公共の遊具のめ、やは遊びしっ方かりを伝えていく。	1.集団活動中・見守りあ	鉄棒等で遊ぶ機会が少なく、安全な握りや遊び方が握りや遊び方がいつもいない。遊び始めの正しい握り方や約束等をしっかりと子どもにしていなかった。	鉄棒や跳び箱等の運動器具を使った遊びを増やし、体の使い方や安全な遊び方を身につけられるようにする。遊具前で遊ぶ方は、必ず正しい握り約束をしっかりと伝えた。正しい遊び方、危険な遊び方を実際に見て、子どもたちに知らせ、気をつけることができるようにする。	1.いつもりお様の子であった		2.対象児の近で対象児を見た	保育士はそばについていたが、鉄棒にはまさ放がとはなかすことがあると予想した。アッと思った瞬間に落下してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んで子を見ていた。遊具で散策して別の子の子どもたちの策を見ていた	職員会議を開き、どんな夫だろうではなく、もしかしたら○○かもしれない。だろうではなく、もしかもしれないという意識を持って保育にあたること等確認をする	
4455	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55			12	11	15	17		6	6	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・突よるの衝による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		事故が起きたは、時に職員で情報共有し危険のないように、職員で有し危ないように保育をていくく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	階段に落ちている砂が転倒の原因につながったかもしれない。	外砂が残っている合は、階段に場そぎにすの都れいる。	1.集団活動中・見守りあ		夕方の合同保育時間帯は子ども気が土が時間も引き帯のので、危ないに保育をめてのうしく。	1.いつもりお様の子であった	手すりにつかまって階段下りるのみ、踏み外し倒する。	2.対象児の近で対象児を見た	対象児童のすぐ後にいた、一瞬のことにいろが、こと出すことなかの手をきた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、園庭近など、それぞれ遊具くなくそれの配置場所にいた	遊びの階段ども気もてとの階段ども気もてとの階段ども気もてと

No	初掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制																			ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
									人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】													
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																													
4458	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	49				19	30			7	7	6歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2. 基準配置	職員も参加していたため、安全配慮が不十分であった。	個々の体調を把握しながら、活動を考えていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(6回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(8回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	周囲で職員6名見守りとなっていたことで、周囲の子どもは興味を示すことよりしえられる。	安全で楽しい環境作りの徹底をする。体調が優れない子がいる場合は個別の対応を心掛ける。	2. いつも元気なかった(理由を記載)	登園時より疲れが感じられ、自由遊びでも集中力や落着きの無い姿が見られた。	2. 対象児の近く児を見た	年長児30名でドッジボールを実施。他保育教諭5名と共に外野となりボールを転がしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任と共に他5名の保育者が外野ラインを担当し、年長児教諭1名(支援員)と共に見学していた。	30名でのドッジボールは、数が多く危険性がある。	ゲームに参加する人数を半分程度にして行うと衝突は減るのではないか。	
4459	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	21				12	9			3	3	4歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	3. 子も士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1回/年	1. 基準以上配置	保育士の子どもへの理解、潜在危険への理解が不十分だった。	保育のチェックを活用し、日々の保育の振り返りや評価反省しながら保育を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12回/年	遊具の配置や遊び場の構図から職員の配置を考える必要があった。	場所移動する時は職員同士掛け合い、見守りのなかで声を掛け、死角をなくす。	1. 集団活動中・守り	遊具の使い方は保育だけでなく、その始めの方は伝えることを必ずできる立場で見守る必要があった。	子どもへの的確な対応、指示や迅速な指導ができる立場を確保する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りに登園し、園外保育に出かけた。児童公園で滑り台を腹ばいで滑り下りた際に怪我をした。	3. 対象児の近くで対象児を見ていた	対象からはずれたところ外野台と1人の保育士が滑り台とぶらんぐり拾いの両方が見える場所で遊びを見守っていた。どんぐり拾いの子ども達に声をかけている間に腹ばいで遊	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具・ブランコのところに1人づつ位置し、遊びを見守っていた。	ぐい遊具遊び分をどんぐり拾いとでひけて遊び育ることでもっと丁寧見がた。	子どもの動きを想像して、保育の流れを組み立てる。	
4460	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13								1	1	5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左第5指骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2回/年	2. 基準配置	ボールをとろうとしてボール軌道取れたいよ手をがかれたのが、ためのもたいにキャッチがなったうにキャッチできた。	ボールキャッチ経験を多く取れるボール、取れないボールを知る。	1. 定期的に実施	実施頻度(53回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(53)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(52)回/年		園庭の状況等、問題はないと思われる。	1. 集団活動中・守り		園庭に5歳児13名のみでの活動であり、保育審判としてもその場にいた。改善点としては無いと思われる。	1. いつもどおりの様子ので	いつも通りに飛んだ中にできたボールを腹に対極的に出した。	3. 対象児の近くで対象児を見ていた	対象からはずれたところ外野と上ドッジボールのコートの中央にいて、クラスの全体を見渡せる場所で、指示を出した。クラスの全体を見渡せるので、指示を痛めた様子もして確認した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはクラスはいなかったので、誰もいなかった。		5歳児13名であるため、保育士1名で保育することには無理はないと思われるが、緊急時を考えると園庭には複数の職員の見守りができるようにしたい。	
4461	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13	3	1	0	3	3	3		7	4	6歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	5. 下肢(足・足指)	アキレス腱断裂	3. 子も士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/年	2. 基準配置	子どもの人数が少ないので遊び方が楽しくなった。混合保育の際、園庭に出ることが出来ない子どもが時はと混合保育の際、園庭にいる(屋内)職員配置のお本をこなった。	混合保育の基本をマニュアル化し職員全体のものにする。保育リーダーが、現場で指導援助する。事故の対応を職員へ周知徹底する。救急法の研修を重視する。	1. 定期的に実施	実施頻度(2回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/週	本来の遊び方なる方(ごとお盆)お板の遊具使いまま用の一にすると使ってこしまった。	ままごと用の板を撤去する	4. 個人活動中・子ものみ	遊具の遊び方について約束いて守った使用ができていなかった。	遊具の遊び方について改善して職員子どもへ周知する	1. いつもどおりの様子であった	遊具の所で、ふたで遊んでいた	3. 対象児の近くで対象児を見ていた	対象からはずれたところで対象児を見ていた	3～5才児の子どもの9人内、4・5才児が、4・5才児が、62分遊んだ夫ていかれていた大きいので、児のものが大きいので、才ども用意室かんがとったので3才子帰る際に入ってしまった内にてた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	0・1才児4人をみていたため、見ていなかった。	職員連携をとってこと園庭にいるかったこと子どもの案内でのやっては、子どもいないびけそ(物に乗遊具をすべらない)を気付けない職員の量不足。	子どもの予想できない動きがあるから、園庭遊びの際は、連携をとってしっかり子どもを見守る。保育リーダーは、職員の動きを確認する。	
4462	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	30								2	2	4歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	顔面(口含む)	右前歯のぐらつき	3. 子も士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1. 基準以上配置	異なる他児と遊びあった空間的あっても環境が整っていなかった。	周囲を確認し、危険のない遊びを伝える。	1. 定期的に実施	実施頻度1回/日	1. 定期的に実施	実施頻度1回/日	1. 定期的に実施	実施頻度1回/日	施設的には問題ないと思われる。	全定期的に行い、保育園が危険が引き続き、安全点検を点検が見ないか見ない場所も危険が中な場所ないかる。	1. 集団活動中・守り	3歳児の年齢にあった遊びをしていたが、周囲の確認が必要であった。	周囲を確認し、危険のない遊びを伝える。	1. いつもどおりの様子であった	戸外で自由遊びをしていた。	2. 対象児の近くで対象児を見ていた	他児の頭児の本口元ぶつかり、つかり、唇から血が出られたすぐに口元、口腔内の確認を行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外で遊んでいる子を見ていた。	死角になる箇所については、目を配り、子ども達の遊び守りを見ながら、怪我を未然に防ぐよう努める。	怪我に繋がる箇所を常に確認し、迅速な対応が出来るように努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4463	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	10	12	0	0	0			4	4	3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置	保育士は、配慮が必要な子と関わり、事故付近の固定遊具に配置職員が不在になった。	保育士が連携し、事故付近の固定遊具に職員が配置する体制をとる。	1.定期的に実施	実施頻度(2回/年)	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年)	3.未実施	実施頻度(回/年)	1.集団活動中守りあり	保育士が連携し、全体の子どもが見渡えるを考える。	固定遊具の場所には、職員の見守りが必要	1.いつもどおりの様子であった	本児の行動は安定していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の動きが視野に入った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とトラブルに関わり本児に入った。	保育士連携、全体子どもが見える配置を考える。	保育士は他児と関わりながら子どもの遊びに配慮が必要	
4464	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成										2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨遠位端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		４歳児の年齢で鉄棒の遊びが、適切であったのか。手を放すということが想定の中にあったのか、また他クラスの職員と連携はされていたのか、以上の事を再度会議で見直していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒は、大人が必ずいるが、動きで予測できなかった。	遊びが場散する合、一度鉄棒に掛かった児の目を離した。	1.集団活動中・守りあり	自由遊びの中で、鉄棒中出来ている時は、職員が目を離した。	職員届で、掛け目るいまで、他の遊びに名ていきの職員が、鉄棒から離れた。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもなく、いつも来て鉄棒の回り抜きもにやってしまった。	2.対象至児の近象児を見た	他の鉄棒をいた子ども達が、縄跳びをいと始めて、本児を含む名がふらがっていた目で確認しなが縄を取りに向かおうとした。その為よじ登ろうとした時点で、すぐに手を出せる場所にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	出席児名で、1名は、他の児で遊んでいたも他に目を向けていた。	4のうち2名は、棒や場所で子ども達に注意が届かない。	女児は来る過信で自分は来ると思っていたことがあった。	固定遊具で遊ぶ場合は、必ず保育士がつくことになっていてで、目を離す場合は他の職員に声をかけ、しっかり鉄棒からことを確認する。また再度子どもに鉄棒の指導を行う。	
4465	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ボールが硬く少しかったのではないか。	少しなったもうソフトボール使用いく	1.集団活動中守りあり	冬場だったため少しえてくいえる。	体冷硬で考となられる。	1.いつもどおりの様子であった	クラスでドッジボールをる時に野を守っていて、地面にボールを取り指にがる。	2.対象至児の近象児を見た	ドッジボールの審判をしていた職員が1名。他2名はコートの両側で見守っていた。ボールがたった当たった後、痛みを訴えを為流水で冷やす。その後も痛みが引かなかったため事務室にて保冷材で冷やす。			ボールに取りくろまでボールをにとを追いたが、ぶつかっそうとしてめをとかった。	ぶらつかったことを周ざるよ骨折とすることもも子ども達骨折ともあることも周ざるよ骨折ともあることも周ざるよ骨折という職員にも子ども達骨折という職員にも子ども達骨折知しもよくに確認した。	ボールにぶつかったことを周ざるよ骨折ともあることも周ざるよ骨折という職員にも子ども達骨折知しもよくに確認した。	
4466	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	88			24	24	20	20			8	8	3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　1　)回/年	1.基準以上配置	大型遊具には、保育士2名ついたり棒の対応ってしまったりは、下の対応に目を向けてしまったらは離れた場所にいた。	保育士の役割守り見守りと援助をしっかり声掛けをして意しながら保育士の役割守り見守りと援助をしっかり声掛けをして意しながら保育士の役割守り見守りと援助をしっかり声掛けをして意しながら

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面								ハード面								環境面			人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4467	令和9年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	67				24	22	21			4	4歳	2.女児	なし	食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯の陥没 上唇つき 唇小帯裂傷	2.自の転倒・突よるら衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度【回/年】(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	6.食事(おやつ)中	普段上履きたからはき履きかないままにしてしまった。靴下を履いて行った。	靴下を履いて過ごすまと可能性が高く、足を滑りやすくなる。足の指に怪我をつける、倒れる危険性を考える。上履きを履いてようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午睡明けはすぐにホールに移動することはなく、マイペースに他児よりおそく遅れてやつを食べ始めた。	2.対象児を見ていた 2.児の至近距離で見た	3歳児クラスの食事テーブル付近で他児の食事援助をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他保育士象児は、対象児は、児の食事援助をした。	幼児組担当6名の保育士のうち、当初3名がホールで保育にあたり、子どもの動きに合わせて後から保育士1名がホールで保育にあたった。残り2名は清掃にあたっていた。	子どもの動きに合わせてホールで保育にあたる人数を増やす。全体的に保育室を見渡す保育士と園児を援助する保育士との役割をしっかり声を掛け合ってしっかりあたる。	
4468	令和9年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105				38	33	34			6	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折 顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	鉄棒の上に座ることの危険性について、保育士の中で共通認識が不足していた。	鉄棒の上には座らないことを徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(17)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の高さが100cmあった。	年齢等によって、鉄棒に使う高さをつけていく。	3.個人活動中・見守り	園庭遊びの約束にが曖昧なところがあった。	約束事について、見直し、改めて改善し、直した。職員周知する。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒でいろいろ技ができるようになり、意になって遊んでいた。	2.対象児を見ていた 2.児の至近距離で見た	対象児くにはさに近くいたが、とっさに手が出る手が距離ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにいた保育士に相談したが、気付いた。	鉄棒には保育士は付いていたが、固定遊具に保育士が定に、育必ずずつこ徹ずつこが底されていないことがあった。	固定遊具には必ずこと全員知る。	
4469	令和9年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	85	0	0	0	33	17	35			9	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折 内側上顆	2.自の転倒・突よるら衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	なし	基準配置は守られていたため、ソフト面で問題はなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ウレタン積み木は、上に乗って遊ぶと、形や配置によりバランスを崩しやすい。	年齢や経験によって、配置の仕方（間隔、距離）や遊び方を考える。	1.集団活動中・見守り	ウレタン積み木のコーナーを設定したのは年中児だったため、ウレタンの間隔が空いていたり、三角や円柱など形型など様々な形木の積みべらしの積みで並べられたりしていた。	ウレタン積み木のコーナーでは、年中児が遊んでいたが、事故発生当時は年少児も参加していたため、ウレタンの間隔や数、形を年少児に合わせ、構成し直す必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	お絵描きコーナーで機嫌よく遊んでいたが、ウレタン積み木のコーナーに興味を示し、自参加した。	4.対象児を見ていなかった 4.動児のきを見ていなかった	担任保育士は、園庭で保育を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児担任保育士は、1.5メートルと他児の補助で離れたところで本バラを崩壊間ない、問なを行っており、瞬間は見ていたが、合わなかった。	園定員は16名（年少児7名、年中9名）だったが、乳児担当保育士が休暇よって1週間と3日だったため、一人保育士を配置するか、園長や主査が室内の子を見に行く必要があった。	園長か主査が室内の遊戯室の様子を確認しに行くようにする。	
4470	令和9年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20						20			2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折 顆上骨折	2.自の転倒・突よるら衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		全職員が事故が起こったところを、実際に見ながら立ち位置の確認し、何か気付きがないかなど共有し再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	芝生の長さは適切であった。芝生の長さは適切であったか。絡んだりこけたりしてのではないか。	芝生の管理が十分で行えるかを確認すること。	1.集団活動中・見守り	事故に対する予測がなかった。事故が足りなかった。また、降園する子どもがおぼつかなくて時間帯が慌ただしくなる時間帯だった。体があたたまらないまま園庭に出たため、思うように体が動かず転んでしまった。	再度職員の位置を確立し、遊び方の検討の配置を確認、遊び方の検討をする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとごっこ遊びをしてお鬼ごっこ転倒をしてしまった。	3.対象児を見ていた 3.児の離児のところで対象児を見ていた	園庭全体を見ることで、入口を位置で、部屋に入るようにかけるようをいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園児の保護者対応をした。	降園児の対応をした。			

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
									異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
4471	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	69			24	30	25			6	6	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左頸骨遠位端骨折	2.自の転倒・突よるの衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度1回/年	1.基準以上配置		職員全員で危機管理意識を高めより る。	1.定期的に実施	実施頻度２４回/年	1.定期的に実施	実施頻度１回/年	2.不定期に実施	実施頻度５０回/年		日頃から遊具施設や遊具、玩具に関し障がや不備がなどを確認するをうる。	1.集団活動中・見守り	あ	子ども達の動線を考慮して遊具の配置を考え、遊スペースを確保する意識から持つ。また、年齢や運動能力に合わせて、遊具の高さを調節する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室で遊び始めて直後だったため、気分が高揚し活発に好きな遊び(巧技台からのジャンプ)を楽しんでいた。	2.対象児の近で対象児見た	他にも同じ遊びをしている児童もいたため、遊具の傍で対象児も含めて様子を守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内遊の他の具で遊ん児童をそれぞれ守り、対象児は見ていなかった。		巧技台からジャンプする際には、慌てずに跳ぶ姿勢をしっかり整えてからジャンプするように、常に傍で見守り声を掛ける。必要な時には手を持って補助する。	
4472	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13		8	5					3	3	2歳	2.女児	保護者とは連絡がとれており、A病院では診れないのでB病院へ職員とともに向かう。診察の結果、手術室の関係で手術ができないのでC病院を紹介された。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘外果骨折	3.子も士衝にるもの同の突よも	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(０～１)回/年	2.基準配置		ども移動ときは子と職員との離に注意に保育をう努める。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年		職員によが点検れて遊設で事備ない。	3.個人活動中・見守り	園庭がにて活くぎわって動く子ども中は多くが離れる職員が生じた。	子どもが移動するときの子ども職員との距離に注意を保育をする努める。	1.いつもお様り子であった	砂場に友いるのを見つけて迎えに行こうとプランコ側から移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	保育室に入室する際に玄関前に集まるよう対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育にあたった。	お友達迎えにこうと、子ども職員が離れる状況が生じた。	子どもが不意に職員から離れる状況が生じないように努める。	
4473	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7		1	4	2				3	3	3歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨患部骨折	4.玩具・遊具施設・設備の安全の不備によるも	1.あり	2.不期に実施	実施頻度回(1)/年	2.基準配置	母親が迎えに来た保育士の気が緩んだ。	園にいる安全ごせ、過ごよう、必ず担任が園長・主任が見ていく	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	柵は子どもの力で外れて予想ないも上げすと予想なかった。	柵が外れない様修理し、出だけ挟むなゴムを挟がなこ来ることで固定する	7.その他	特になし	担任はお迎えに来る子を、延長保育士は延長児を、お迎えに来た園長・主任が、お迎えに来た子は、主見る保育士が保育共有した。	1.いつもお様り子であった	母親が迎えに来て、一人で廊下に出て、出し柵そうとした	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	保育室に入室する児童が保育のけをしようとして保育室に歩きながらを見た	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	延長保育士は児を見て、本児に引き渡した		特になし	園にいる間は安全に過ごせるよう、必ず担任か園長・主任が見守っていく	
4474	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	2	0	0	0	13	6		2	2	4歳	1.男児	2月8日（土）降園時、上前歯ある変色がことを保護者と居残り保育職員が確認し、10日（月）登園時園長と担任保育者及び保護者が確認、歯科医を受診してもらうよう提案していたところだった。	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯根破折・外傷性上口唇挫傷、切創	2.自の転倒・突よるの衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	保育環境の意識。	室内環境及び戸外環境を見直し、整備する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年		特になし	1.集団活動中・見守り	担任職員間で保育や時間構成についての確認を作業等をこと行うことの様子から一瞬目が離れてしまっていた。	職員間で保育や時間構成の確認を日々丁寧に行い、合ことで作業場で作業をしない。	1.いつもお様り子であった	遊んでいた場所（円テーブルの く）から出し移動戸外に出だしよう動した。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	出入り口で、近くの歳児のた子どもに移動ちに伝えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に近い)	5歳児の活動の準備に入ったところ。	室内環境への配慮が足り、活動が動前に危険が考られる遊具(該当遊具は、端に体重をかけると倒れやすい)を片付けていなかった。	活動が変わる時や子どもの遊ぶ様子によって、子どもの怪我性のは危険意識を誘導したり（子どもに意識させることで危険な状況を避ることが出来るようにするため）、保育者自身が片付けかりする。	
4475	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	56			4	16	18	18		3	3	5歳	1.男児	約一週間後に再受診を行った。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右橈骨尺骨骨折・右橈骨湾曲）	2.自の転倒・突よるの衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもは、友達だと一緒だと気持ちが高揚してしまうと要素がある。	マニュアに朝の受け入れもの動きの時の子どを予測するポイントを加筆	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/12年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	室内では走らない家具を配置していた。	家具の配置直していく。	1.集団活動中・見守り	転倒した際に腕が付きやすく、腕が体のに入りしまった。	転倒した際の手の付き方を教えるとも転ばないよう運動で基礎体力をつけていく	1.いつもお様り子であった	いつも遊んでいる他児が登園し嬉なっていた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	全体を見ていて、ここ見えがあるところは転ぶとこれいた距離がめることが難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の受け入れを見て、他の子どもと関わっていた。	担任がクラス全体の動きをていみた。	机やマットのコーナーで充分遊び込めるよう友達との関わりを広げていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4476	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	16									4		4	3歳	1.男児	特にありません	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿腓骨骨折	2.自らの転倒・突よるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	保育士が見ては近くでは、ジャンプ遊び台は高さ他使など確認し合い。使いや遊び方法の仕方の着地の方な仕方）を考えて、子どもたちにとって伝えいく。事故後、乳児クラスについては怪我につながった台からジャンプしないようにして、ジャンプを楽しむ台際は、台より低い所高さの所・誰がどんどんをしている担当全員が把握する。・危険を伴うよう方法遊び方なった場合中断する。・年齢にしたがわしいびな遊びか、園庭での方をクラス内で話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(約１９０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約１９０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約１９０)回/年	台の高さのその具合方を改めて確認する。子どもたちが好きなあそびなので、危険のない遊び（ジャンプや仕方）を考えて、子どもたちにも伝えく。事故後、乳児クラスについては怪我につながった台からジャンプしないようにして、ジャンプを楽しむ際は、台より低い所高さの所方が適切だったか。	1.集団活動中・見守り	数名の子どもたちが台からジャンプをして遊んでいたが、その際、遊び方が適切だったか。	1.いつもどおりの様子であった	台の上からジャンプを楽しんでいた。	2.対象至対象児の近で見た	台の近くに子どもが集まったため、そぐにそばに寄りたすばって見守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れた場所からはあるが、子どもたちが上からジャンプしているや、場にもも台からブレんことこの保育士がいることを把握していた。	子どもたちの方ダイミックになってきたが、遊びを子たち遊びが継続してしまった。	クラス担任は自分の傍にいない子どもたちの把握はしないように、危険を伴う場合はあ声をかけ知らせていく。また、活動がすわ散らばりしまわないよう、工夫していく。	
4477	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	2		4						2		2	2歳	1.男児	-	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口含む)	歯茎の裂傷　前歯をつけた	2.自らの転倒・突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	静と動の環境作り、時間帯に応じ環境検討すとの設定をするこが必要	環境設定等を話し合う時間を設けて	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	玩具の素材が年齢に合っていないかと考えるミルクに布カバーをかけたことが事故に至ったまった。床は木になり、靴下は履いていない状態だった。おもちゃは遊ちゃんで児のみあった。	事故の原因となった玩具の控遊具の玩具を使用える。玩具の素材対する。	1.集団活動中・見守り	対象児がその玩具好きがその場になった事と、その出ていた玩具に魅力が無かったと考える。	玩具に飽きて出ているきが、子どもたちきで、子どもたちの時々にの合わせた提供われを行っていく。同じ空間で遊び方する際は遊び時間パーテーション等で空間を仕切るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段とは変わりなく、他児との関わりを楽しみ、一緒に走る姿が見られた。	2.対象至対象児の近で見た	対象児が遊んでいた無理なく走ってことに止めることにしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児とわりから、関わる対象子の様子を見てた。	対象児走っていることを、口頭注意を行ったが気持ちを抑えることが出来なかった。	口頭で気持ち切り替えを行うのではなく、対象児の様子に応じて違うちゃでおもに遊んでみなど、興味を違う方向に誘導していく。	
4478	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				12	7	14			4		4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	声かけや目足かけが児の足がなかった。	職員で声をし、周りの状況に目配るの常にできるような配置とする。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	ボールが転がってきたタイミングで上げしまっては避けなかったけられなと考えるが、ボール遊びの時間を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	友達と走っていたときに転がってボールに乗り上げる。	2.対象至対象児の近で見た	見守り職員は門付近でのそばにいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員人も付近安全の見守りだった。	見守り3遊び等で見中	—	特になし	
4479	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	88				29	29	30			5		5	5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	顔面(口含む)	歯槽骨骨折	3.子も士衝による同の突よるもの	1.あり	2.不期定実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	危機管理の研修が行き届いておらず、怪我にことを未然ことなく防ぐできがかった	怪我をしたしっかり状況を加味し、起こよ合後合いを行い今ならう話し危機管理能力を高めていく	1.定期的に実施	実施頻度(584)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(584)回/年	天井の飾りがあり、近くに机がされたまだった	保育室の環境、子ども性状態など格態で保育室飾置の機や位置のなど考え、危険な箇所が確認する	1.集団活動中・見守り	レッスンを終え、遊べる時間になり早く遊びたち気持ちが強く子どもに落ち着きがない状況であった	子どもの状態を考え、危険のないよう今はどべるうするであるうきでか、きちんと子ども達に伝えるうえも達えたで、室内でのを行いを見直す	1.いつもどおりの様子であった	天井に興味をひく飾り下げられており、触りたいという気持ちがあった	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	対象児のみみ行動もみ、よおりおるか声ともかめるが、子どもを集めることにて子どもを集めることにて従事しそおり、そばには行かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他グループの園児の英語レッスンや補助や他の活動についての場所、事故発生場所にはいなかった	子どもは遊び意識があり、保育士はどもたちを子たちを集めることに従事していて危機予知がおそかあった	保育士は１つのことに集中せず常に全体をみて、危険なことあれば、ときに大きな声を出し注意して危険を未然に防ぐ	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4480	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	1								1	1	4歳	1.男児	病歴としてダウン症候群との因果関係があるかは不明であるが、BCG予防接種後右大腿骨骨髄炎による手術を２回受けており転ぶと骨が折れやすいと母親から連絡を受けているが、運動面での規制はなく運動をさせて欲しいと言われていた。また、日々の活動や運動会など走る事など運動することについては、事前に活動することを伝え保護者に	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨幹部骨折	2.転倒・突き飛ばしによるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置		職員間で研修後の重ね合わせ情報を共有し、子どもの行動を注意深く見守り安全に活動できるように支援する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今後も点検を継続し、気になる箇所は対応検討し、報告し合い検討する。	1.集団活動中・見守り			職員間で連携し、子どものを予測し保育士が遊具等につくように園庭にこぼこ無い日々確認する。	1.いつもりの子お様であった	園庭には本児と担任のみが居た。保育室に入る事を嫌がるため、担任が「よーいどんしてから入ろう」と言葉かけ、本児が走り出した際に転んだ。	対象児マンマーの状態(対象児に接した)	よーいどんと走ったり、歩いたり、転ぶことは以前からあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は給食間であったため、保育室やテラスにいた。	子どもが活動時の保育者の位置関係や連携について、園全体で検討するとともに、今後の本児の行動をみんなで意識して見守っていくようにする。	
4481	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	9	3	0	0	0	0	1	3	3	1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	左前歯脱落	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		遊んでいる途中で出た子どもたちが、全体を見ることが出来なかった。子ども一人一人の行動が予測出来ていなかった。遊びの展開がものすごく速くお子ども達と興味・集中力が薄れていた。	事故の再発防止の為、改善策をクラス内で話し合い、全職員で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(　48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　毎日)回/年	室内にある本棚は、中に本が棚の下にしてかっこうをしており、子どもたちが上から覗き込まれてしまった。	全体を見ながら、子どもが危険な行動をしそうになったり、危険をまいた場所に必ずヒヤリハットを、個人ごとに全職員で共有する。	1.集団活動中・見守り	新聞紙以外の物に興味がいってしまい、子どものが広がった。行動範囲が広がったり動作が床や棚にぶつかったり、新聞紙が棚から散らかった。	遊びを変えると子どもの興味が引くすぐ遊ぶ。泣いても対応を遊ぶ。子どものの対応を外の職員に頼むもの室員になるべく。	1.いつもりの子お様であった	新聞紙遊びを楽しんで、興味の向くままに遊び様子をじっくりだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊びの中から途中で泣いた。抱きかかえと泣きいと止まったため、こどもを抱っこした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	新聞紙遊びをしていない子どもいるとそれぞれが気付いたが、次の動きに移せなかった。職員同士で声かけ、保育の相談がなかった。	子どもの状況に合わせて保育の内容を変化させる。職員同士で声を掛け合い、情報を共有する。一時子どもは、落ち着いて活動いに保育する場合は別に体制を整える。	
4482	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28								3	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	2.基準配置	危険予知トレーニングが活かされていなかった。	子どもが行動を起こすことを予測し、どんな事故が起こるかを予測してもの行動を見ていく。	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	雲梯下のマットが坂になっていやすくなった。	雲梯下のマットを地面に平らにしを敷く。	1.集団活動中・見守り	固定遊具の遊び方、約束などが徹底されていなかった。	保育士の見守りの下で遊ぶようにさせる。	1.いつもりの子お様であった	片づけをしていないつもりで雲梯近くを歩いていた。	2.対象児の片づけを歩いているのを見た。	対象児が片づけを雲梯近くを歩いているのを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片づけを行うことを並び子供たちは、片付けたちを並べて集めてはせていた。	落ち着きのない子に対する行動観察と配慮の不足	落ち着きの子に対し行動から離さないようにしまめたりこまに言葉をかけたりする。	
4483	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	9								2	2	4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　2　)回/年	1.基準以上配置	側についていた職員が、常に落ちる下に想定で見ていなかったと思われる。	年齢・発達にあった遊具の遊び方の確認。補助のつき方。想定される事故の確認。事故を職員で確認。指導していく。	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	散歩時毎回必ず行う	1.定期的に実施	実施頻度(　240)回/年	該当遊具の対象年齢は6歳～１２歳の記載のあり	公園の遊び方の園内の遊具の園内を行う研修・補助の確認年齢・発達に見た補助・介助の必要性の確認	3.個人活動中・見守り	保育士が側についていたが、対象外の遊具で年齢以外の遊ばせていた。（該当遊具の対象年齢は6歳～１２歳との記載あり）	園外保育での職員の連携、立ち位置の確認。遊具の対象年齢について検討する。	1.いつもりの子お様であった	お弁当のとしてみでも楽しいた。友だちが、ちん挑戦のの自分もやりたいと主張	2.対象至で対児の近で見た	すぐそばで見ていた。3人の子どもが遊具で順番を待っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の子どもたち7名の見守っていた。	担当保育士にして対の園の指導がなかったため。年齢にあった補助しかった。遊具のばせなどわっていなかった。	職員同士で立ち位置や安全を掛けあう。あった遊具の遊びの考える。職員同士確認し合い、安全の徹底をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																																											
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4484	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									2		1	6歳	2.女児	ホールにて、体育講師による体育課外教室中だった	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第5趾中節骨骨折・左足第5趾基節骨のひび	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	・体育課外教室では全園児が参加していた。 ・通常通りだが、列の間隔が1.5m程とれていなかった。 ・裸足で時は通常通るよりも、走っている時に踏まれる方が重症化しやすく、体育室では危険性が高いので上履きを履いて参加していく事を園長・体育講師と検討中。 ・ホールの横方向のに列を作り、また列数を減らし、接触しにくいように間隔を広げる	1.いつもお様りで子あった	本児はボールをドリブル列して、列上を走っていたが、隣の園児のボールが本児の進む方向にボールをかけて隣の園児の本児触。本児も隣の園児もボールだけを見ていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育講師が全体に対し指示なしをがら、ホールの折り返しの位置から全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	スタートから見位置から全体を、ながら、あっていたが、ケガ指導にあたった。の瞬間は、他園児の児の渡しを見ていた。	ボールをおっかけての児の突発的な動きを制止できなかった。	・ホールが逸れてしまっても慌てずにまって取りに行くのではなく、周囲を見てから行くことを指導していく。 ・体育講師と職員は対角に位置するように、全体を見れる位置に立ち、監視視や指導にあたる。 ・接触や怪我があれば、体育講師の視診・判断のみをなく、すぐに常任看護師に報告・看護師や園長の判断を仰ぐように	
4485	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	1.0歳児クラス	6									2		2	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折、硬膜外血腫	2.自の転倒・突よもら衝にるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	・今回使用した公園では、これまで特段の事故がなかったとスクがはなかった。 ・危険な箇所や月齢に適さない遊具などの確認を行うための認を「公園チェックリスト」を新たに作成する。 ・月齢や発達の基本的状況や、発達に応じた興味関心の対象、遊ぶ公園で遊ぶ際に想定される遊び、その際の職員の声掛けや関わり方について全員で意見交換	1.定期的に実施	①実施頻度(１)回/年 ②当該公園での実施時／毎回	2.不定期に実施	①実施頻度(１)回/年 ②当該公園での実施時／毎回	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	・2月21日付で、公和市公園管理課砂場まコーク部去を撤請。⇒撤去ついて検討面の作成したチェリに確認施	1.集団活動中・見守り	砂場のベンチ部分に階段がついているため、0歳児クラスの児童でもベンチに登ることが可能だった。	安全性が確認するまで、当該砂場の使用を停止。	1.いつもお様りで子あった	普段からこころやマットの上を歩行を好む児童でもあった。当日も自ら木製ベンチに登り出し、進んだところで、側頭部後方を縁のコンクリート部分にぶつけた。	2.対象者至児の近で対象児見た	・園児の後ろすぐ後ろ守った。 ・転落後、本児に抱き起こしたとされる部分に異常はなかったが、すぐに全員で帰園した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場の中央砂場をた児童名を全体を見ていた。	日頃よく遊んでいる公園を使用するにたて、これまで特段の事故がなかったから、園児が高さある場の回りを歩いて事ついて危険性のリスク評価では十分なかった。	・ソフト面で作成した「指針」「公園チェックリスト」について、職員全員で意見交換、共有する。 ・遊びを禁止することから考えるのではなく、安全に遊ぶ為に遊ぶように使ったらよいか、どんな声かけや見守りが有効かを職員全員で話し合い、安全な状況で遊ぶことができるよう職員の意識向上に努める。	
4486	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	35									5		2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　１　)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報共有するとともに、事故の状況に分析をし、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		今回の事故に関して、施設・設備は改善の必要はない。	1.集団活動中・見守り		職員の配置を決め、全体が見渡せる位置に立つ。職員が他クラスと同じ場所で多人数の保育をする時は、事故の危険性について意識を持っておく。	1.いつもお様りで子あった	元気に登園していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭でクラスの動きを見ていた。児は見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていた対象児は守っていなかった。		子どもの動きを確認し、怪我に気を付けるように子どもに伝えながら保育を実施していく。危険を感じた時は、その都度子どもへ声かけし、遊び方について伝える。	
4487	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									2		2	5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折(けいこつ)骨折	2.自の転倒・突よもら衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　１　)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(　１　)回/週	道路の絵のあるトシート（横１０８㎝縦５６㎝）を設置し、滑り止めが付いていた。	込まれたのと遊びくなっていた破棄する。	1.集団活動中・見守り	保育室（５２，５平米）は、２つのコーナー（積み車）を設置し、定遊べるようにしたみ山でした。	玩具（積み木）の遊びが数はみなら調整する。	1.いつもお様りで子あった	普段も機調整で登園する。登園後も変わらず車で過ごして遊びがいた。遊びの好きで普段よく遊んでいた。遊びの間も好きな遊び落ちを着る。片付けも落ちて着いて行った。	4.対象者児が動きを見ていた	保育者は、他の子ども多数の一人ども一緒に積み木を使ったが見ていた。児は本人なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	障がい児は、絵本コーナー（ジュータン）で読み絵本を囲む。障がい児が位置を積みいえるに他のもとに、木を他の子ども一緒に片付けていたが、本児のが姿がなかった。	いつも使っている遊具で子どもが付けて遊ぶ。	保育者は全体をみながら片付けをし、子ども一人一人に目が行き届くようを取る。いつも使っている遊具だが、怪我につながる危険は予測する力をつける。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面		人的面									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4488	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								3	3	6歳	1.男児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置	特になし。	子供の視野より事故はよく起こりやすいことを踏まえて保育を行う、研修等で繰り返し伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	設備や空きがあっても問題がなく事故はありえること周知する。	1.集団活動中・見守り	特になし。	使用後玩具は速やかに片付ける。	1.いつもどおり子もの様子であった	他児と追いかけっこをした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児の数人と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいた。	園庭に使っていない玩具が転がっていないように保育者も留意しつつ供達にも使ったものは元の場所に片付けるように働きかけていく。	本児自身が遊び夢中になっており足元にルールがあることに気付いていなかった。	自遊び夢に中になって、元にルールがあることに気付いていなかった。	
4489	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	36			16	20				4	4	2歳	2.女児	2歳児と3歳児が一緒にお迎えを待っていた時間帯のけがである。	8.その他	1.負傷		2.骨折		右環指基節骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	子ども達が集中すると接触・転倒等によりけがをする可能性がある。子どもの変化、訴えには保育士の対応が重要となる。	子ども達の密集を避け子ども達が訴えやすい情報の職員間で共有、報告すること	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	保育室内椅机や棚は室内に移動している障害物がないところ。	室内を仕切り、着いた環境を設定する	7.その他	座ってテレビを見ていたが、3歳児と一緒に過ごしていた時間帯であった。	座ってテレビを見ていた。3歳一緒ごしの踏まえた能性。	密集を避けるこどもの動線を把握できるよう。	1.いつもどおり子もの様子であった	座ってテレビを見ていた時間、泣いた。	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	泣き出しの、泣き出した。それ以外は通常の様子。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他児子の様子ていた。	2歳児・3歳児を一緒にいた。迎える時間帯ごこのしの見直し	一人一人に目が行き届くように留意すること。子どもが訴えてきた時は報告を他の職員とも共有すること。また、保護者に伝える	
4490	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10			10					1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	A」歯牙破折 上唇小帯裂創	3.子ども士の衝突によるもの同	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	こどもの行動に伴う危険を予測することが不十分だった	事故を職員に報告し、再発防止に努める。	事故内容をおいて報告を議論し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故は同じつたためのハードは改善特にし。	1.集団活動中・見守り	一斉にげる夢なこどもの危険予測働きをしなかった。	遊びに夢中になって、遊戯室で１０人のこどもと実習生１担任で子実習生１人、１人行った。ペースは十分あった。子どもたちは実習生に気を使ってしまったもた実鬼役をとれ、他のに注意散漫になっていた。	2.対象者で対象児の近く見た	担任は鬼ごっこの見ながら、スーズ危険ご様子守りら、ムーズに、遊びの無いようが展開できる指示をだしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス動でのが活担任て担任1人で保育した。	実習生一緒に鬼ごこ加い子もたちへの危険回避と安定のためのを声がけをする必要があった。	普段の保育以上にこどもたちへの危険回避と安定のためのを声がけをする必要があった。	
4491	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18			6	6	6			6	6	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	上前歯動揺	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員の危険予測力を磨く	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険な場所・物の周知、確実な伝達	1.集団活動中守り		体の使い方を日々の活動の中で教えていく	1.いつもどおり子もの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見			少人数に分けて子どもの動きをみていく	
4492	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23			5	6	6	6		2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯牙破折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		遊具の使い方などを子どもにも伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険な場所・物の周知、確実な伝達	1.集団活動中・見守り		体の使い方を日々の活動の中で教えていく	1.いつもどおり子もの様子であった		対象児とマンツーマンの態(対象児に接していた)		2.担当者・対象児の動きを見ていた			子どもの意欲をみとめつつ、能力にあった補助を行う	
4493	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	3	2	2	2	1	1	0	11	10	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		事故予防に関しての研修の実施	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		体操用品の使い方などの見直しを行う	1.集団活動中・見守り		体操中の視野や注意意識に有ると感じた。安全問題が全の研修を行う	1.いつもどおり子もの様子であった	特にがなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	基本的には見ようにに配置るる人に目をる有取られることも有	2.担当者・対象児の動きを見ていなかっ	基本的に配置ているが、個人に目を取ることも有		自分の視野の中に園児が入るよう立ち位置などの見直し	
4494	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23	0	0	0	7	7	9		6	5	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第3指骨折	5.他児から害を加えられたもの			実施頻度(1)回/年			外部研修に積極的に参加。鬼の役をした職員は配置を考え、トイレに行かないように配置する大人と動きのある大人で分担していく		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年		実施頻度(常)回/年		トイレや狭い所に入りこまないように柵を置いているが、子どもでも動かせてしまったので、行事の間だけなどのタンスを設置するをきにする。			今後も広いスペースを確保しつつ、端によせた家具で怪我をすることがないように職員を配置していく				危険のないようにかけるこども子がを把握するようにしていた。	な声な全体		1名は子どもを見ながら、写真や動画のそれにをゆっくりかけた。		鬼役をする4名は全員が子どもを追うのではなく、子どもの動きを把握する役割やトイレへ行かないように設置した柵が動かないように柵の前に立つなど配置の役割分担する	
4495	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾てい骨亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	落下場所がコンクリートただ、大きな怪我につながってしまったと思われる	コンクリートの場所では竹馬に乗ないらうたちえるもに、員間でも共通理解を図る	1.いつもどおり子もの様子であった	竹馬に乗れるようになったことに自信をもち、さらに高いものに挑戦しようと意欲的に取り組んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の様子を見守りながら、他の竹馬、園児の援助をし、遊び守りを見守りていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援が必要な園児を対応をしていたことがなかったため見ることができた	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制														発生時状況	事故の転帰						ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置	因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	因・分析、特記事項	改善策	育・保育・育成支援の状況	因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		因・分析、特記事項	改善策	
4496	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2	夜間・早朝(泊まり保育)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	3				2	1			2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第2趾基節骨骨折	2. 突よるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度【回/年】(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度【回/年】(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度【回/年】(毎日)回/年			1. 集団活動中・見守り	園児3名、段ボール製の家と他の遊具を組み合わせて遊んでいて、ボールの家の中で寄り掛かった。	遊具、玩具の入れ替えや見直し、着いてご整える。家を壁付けにしたり、中へ家に入るそばに	1. いつもお様子であった		2. 対象児で対象児の近くで見た	遊び守った。倒れた時すぐ声をかけた。痛みの訴えなく遊び始め、様子をみた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	掃除をしていた。	声はかけたが、負傷箇所に気付かなかった。	けがの可能性がある場合は必ず確認する。	
4497	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	14				3				3	3	3歳	1. 男児	ギブスで固定のため、血流に注意する。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置			1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/日	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/週	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/週			1. 集団活動中・見守り	ひとりでいるときは、友だちと遊びたいと夢中になったことが考えられる。	高い遊具のそばには、必ず保育者がついて、安心した環境のもと子どもたちが遊べるよう。遊べる遊具を、子どもたちと話をして決めておき、遊べるを決めておく。	3. いつもお話発で活動的であった(理由を記載)	「外で遊ぶ」と園庭に出る前に登所して外遊びみんにたあり、遊びもとも以上テンが高く、活発的であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他で遊んでいるときは、その遊具で遊ぶ子どもたちの様子を見た。本児が、児童になが並びながら、当該遊具にいりよりつも勢いよく、急ろう姿で登りとするが見えた。橋のほうを登っていたこともあり、対象児が落下	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他で遊んでいるや、かっこいるどで一緒に遊び、見ていた。	保育者バラよ配置がンスくされておらず、立位置ちが重ってもなっと子ども関わっていまったり、体を全見把握できる範囲をたび超えた遊び展開していたし。	保育者全員で子どもの様子が把握できるよう、環境に合わせ、立位置を考えて死角がよできないよに保育を展開する。	
4498	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	28				2				2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2. 自ら転倒・衝突よるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	特になし。	特になし。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	階段に修繕が必要な箇所はなかった。	4. 個人活動中・子どものみ	特になし	階段を使う際はゆっくり付け気を事ども達に伝え、当番活動の際も必ず保育士が付き添う事にした。	1. いつもお様子であった	事故発生時、本児は当番活動中で、4歳児だけで階段を下りていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は保育室にお児にいていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任以外の対象児も職員も見ていなかった。	事故発生時、本児は当番活動中で、4歳児2人だけで階段を下りていた。	階段を使う際はゆっくり気を付ける事を子ども達に伝え、当番活動の際も必ず保育士が付き添う事にした。	
4499	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	70				24	23	23		4	4	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節脛骨外路剥離骨折	8. その他の	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	保育士で連携をとり子どもの動きを全ての当番の保育士が全ての子ども目を向けるようにする。居残り保育中であった当番の保育士が当番の職員が職員育した。		1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	所庭の整備されており、特善は改善に必要なし。	1. 集団活動中・見守り	特になし。	サッカーゴールができる場所は確保していた。	1. いつもお様子であった	特に変わった動きをしているわけでなく、ボールを蹴って遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	当番が全体を見ていた職員が、対象児童の動きは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当番ではない職員は業務にあたり、対象児童の動きを見ていない。	居残り保育中であった当番の担当職員は以外の職員育していた。	当番の保育士で連携をとり全ての子どもの動きに確認する。	
4500	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20				9	5	6		1	1	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	前歯の神経断裂	3. 子ども士同の衝突よるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		朝の預かり時間の職員配置の見直し	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日		現状の点検を統け	1. 集団活動中・見守り		朝の預かり時間の内容・環境設定の見直し	1. いつもお様子であった	室内に立っていて、振り向いた瞬間に、走ってき他児の胸と接触した	2. 対象児で対象児を見ていた	即座に、園看護師にみせ、保冷剤でし冷やしたがらを止血をしてもらう。その間に保護者(当園職員)を呼び状況説明する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ぶつかった他児の様子をチェックする		朝の預かり時の遊び内容や遊び方、職員の見守り方等を見直す	
4501	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	1. 0歳児クラス	5								2	2	1歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	誤嚥性肺炎	8. その他の	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	周囲に危険な物がないので安心していた	危険な物や危険物になる物になることを研修の中で修の確認していく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	屋外で遊ぶ時は、何でも危険物という認識が足りていた	全ての物が危険物になり得るという持つ意識を	1. 集団活動中・見守り	地面に何も敷かせた	座らせる場合は、シート等を敷いて座らせる	4. 具合悪かった(熱発・腹痛・頭風邪気味等を記載)	痰がらみの咳は出たが、平熱で機嫌も元気良くあったので大丈夫きな散歩に出かけた	2. 対象児で対象児を見ていた	2人の子が移動した為、他の職員がそのつい子に行ったの対象で行って、児を含の子前で、移動して3人の目の子が気で見てになり、目を離した	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	歩いて移動する子の所を回避する為、本児から離れた	本児は特性の配慮が足りなかった(よく口に入れようとする)	園児全体をも見ながら分担を役割明確にする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況									事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																					ソフト面																ハード面								環境面			人的面							
				事故発生時			発生時の体制									教育・保育等従事者						発生時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	学童	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
4502	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				14	15	18		3		3	3歳	1.男児	身長101.4cm、体重17.5kg	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	子どもの年齢によって用できる遊具をつかんでいる。	遊具の使用方法について再度確認する	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	園庭に最初にクラスだったに、対子ども人数がなかった	外で遊ぶ際の事の確認などを時間を広として調整する	1.集団活動中・見守り	大型のスピードが出やすい三輪車だった。	がるとは走りきるスピードを落とすよう掛ける。	1.いつもお様りの子であった	お気に入りの三輪車に乗り、決まった場所で正しい方向で遊んだ。	3.対象児から離れたところで対象児をていた	他職員の死角を補う位置に立った	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距	他職員の補に死角が位置にっていう立った	遊びはじめの時間で、体力が有余っている状態だった。	子どもの遊びを邪魔しないに、注意喚起の声掛けを行う	
4503	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12								2		2	2歳	2.女児	身長93.7cm、体重15.1kg	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆間骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	子どもたちは同じ子が触れ合える位置にいた。	子どもたちを並ばせるときは子ども同士の間隔を同隔をとる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	小さい子座りやすいように丸み帯びた椅子だった。	年長児用の座面がなのように丸みをデインのすっぽりとし椅子をした。	1.集団活動中・見守り	子ども同士が触れ合える位置にいた。	椅子と椅子の間を離して並べる。	1.いつもお様りの子であった	椅子の上に立ち、両手を後ろに組んで歌っていた。	2.対象児で至近で対象児を見ていた	並んだ子ども前に立っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていな	他の職員はそのにいなかった。	子ども大好きな歌だったので嬉しかったのかもしれない。	子どもたちを並べるときは子ども同士の間隔を開ける。	
4504	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58	0	0	0	19	18	21		9		9	4歳	2.女児	・自閉症スペクトラムの診断があり、2：1対応で保育している。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	打撲による抜歯	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	興味関心を持ったことに突発的に動くことがあり、個別の対応が必要な場面がある。	今回の該当場所で転倒することが予想されたが、ンス等の面しなら、ある中の背面に留意する。	1.定期的に実施	実施頻度：毎日	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度：毎日は幼児は週1回程度	転にんだ先ンプラターがあった態だった。	限られたスペースの園庭で、子どもの遊ぶ場所を配慮したブランターの置き方、遊びのエリアの工夫等、環境を見直す。	1.集団活動中・見守り	平日の幼児クラス、3が園庭にいて遊ぶもの状況の中の事故だった。	子どもの遊び育ちや遊びの様子を見てなくく、動きの予測をし、保育をしている職員で共有する。	1.いつもお様りの子であった	園庭内のお気に入りの場所があり、その経路をよくを行きするがその機嫌が小走りでい走った際、測ない箇所で転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児をていた	自分で好きなじっきをり楽しことを切にしているで、少し離れたころから見守った。本児との距離があった為、怪我を未然に防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びを一緒に楽しむ人、全体を見渡せる人等担当を分担して見ているが、本児では、担任が見り、他の職員はあるもの、意識して見ていなかった。	会議やミーティング等で個別ケースの共有を図っているが、現場において、一人と全体を意識が必要である。	園内研修等において、具体的な事故事例を各自園に照らし合わせてシミュレーションし、即したできるようにする。	
4505	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								1		1	6歳	2.女児	-	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	発表会2日前で、当日午前中にリハーサルをおこない行ってもう少し「もう少し練習したい」という部分があった。サ思いリハーサルでは「直前出来ないのでは前分はまでいないのでいるということはとした。	行事に向けての練習は計画的に行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	-	園児用椅子の発表会の練習であったことから、椅子の使用方法で慣れないための方法で分付けきた。ずくりし伝え	1.集団活動中・見守り	一日の疲れでる方であった。一日も夕方あると。	ゆる立ちとり計画をこ前に間にあればでもこと前合わなければ伝えたらに余裕を持つ。	1.いつもお様りの子であった	降りようとした足をとが、滑らしまった。	2.対象児で対象児の近で対象児見た		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人担任を保育した内担任不のとしてしたためには室内は以外であった。	危険の予測はしてはいた。ゆっくりと下りないだ危険ということをかえ伝えていこうとしてよする。	子どもの動きを見て、予測されることを声かけ。子どもは、「どうしらか」と考えるとこ分たちに気よ付けようにすかけよう。	
4506	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	8	15	0	15	0	0	0	8		8	4歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園長不在であったが、職員が看護師・主任が対応で体制がすぐに対応できるだったはよかった	もし園長は看護師でも在不在の時状況の見極めに実ことができるようにすることが	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特に、2019/9/26に園庭の砂などの除去を行っておいた	予想外の怪我に備えて、常に園庭のおくに整備をしておくことである	3.個人活動中・見守り	本児の気持ちとしてすぐに遊びたいと体を動かすことが遅く、一緒に遊ぶ友達より、体力的に弱く、走ってついていた	栄養、運動など、力の向上を図っていく	1.いつもお様りの子であった	室内から外に出て、園庭にて友だちと二名が走っていんでいると倒れ痛みを訴えていた。	2.対象児で対象児を見ていた	担任で二名園庭にいたもを見守って、転倒した児の後に本児へ駆け寄り状況を確認し、抱いてテラスへ移動する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢が遊ぶ園庭で本クラスが、基本的には看護師が呼び保育園であっても別の手当てもらいクラスも他の職員の3歳児のフォローをした。	2019/9/26に園庭の砂なら石をし、など除去を行い、走りやすいように整備した関にもわらず転倒しまった	転倒については、防げない部分があり、事などで子どもの動きを制約することは適切ではない。日頃から、散歩や戸外、身体能力の向上を心掛けたい。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面							ハード面									環境面				人的面								
			施設・事業所種別					人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4507	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	103	9	15	18	20	20	21			16	15	4歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	「遊びの約束マニュアル」に子どもの動線と配慮が混在しており、職員への周知徹底や研修が十分でない部分が毎月の時に活かされている。	保育中の安全管理について、ガイドラインの記載を、より具体的な安全管理事項として、「遊びの約束」マニュアルを更新、改版する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	園庭、園舎老朽化して危険箇所の修繕が必要な部分は順次行っていく。日々全点検を継続実施する。	1. 集団活動中・見守り	日常保育の中でも子どもへの教育と安全教育を行ったが、定期的な徹底が実施されなかった。	こどもの発達や能力に応じた方法で、子ども自身が安全を認識する力を培え、安全教育を定期的に行っていく。	1. いつもお様子であった	4歳児5、6人で鬼ごっこを園庭でしていた。鬼から逃げるために、一人の友達に園庭を走っていたが、前方より1歳クラスの子が来たためよけようと走った、一緒に走っていた女児と接触し転倒した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任1名台は滑り台付近で遊んでいる子を見守っていた。もう一人の担任は必要な子に配慮の付いていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員16名で園庭全体の見守りを行っており、担任が対象児のすぐそばで保育士が見守った。転倒の様子を見ておりすぐにそばにより対応を始めた。	職員16名（規定数）で園庭全体を見守っている状態であり、組織的に対応する周知徹底が今後も必要。	職員の園庭遊び時の見守り方を「遊びの約束」を元に、組織的に対応できる体制につき、マニュアルを整備し周知徹底する。	
4508	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58			18	17	23				6	6	4歳	1. 男児	母が11月より就労したばかりで生活リズムが変わり、本児に空腹や疲労感や集中力の欠如や落ち着きのなさなどの変化がみられていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指指骨の付け根骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	2. 基準配置	—	朝のお受入れをしながらだったので、園庭での配置や園児全体の把握がよにするよう。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	本児を含めて、子どもたちは慣れ遊び方が定まるまで、職員も遊びもっと見守りが近くで見守った方がよかったと思われる。	1. 集団活動中・見守り	異年齢でも関わっても遊ぶ子も居ており、担任が自分の子ども全てを把握しているわけではなかった。	園庭に出ている職員が他クラスの子どもも含ら見られる配置をを考える。	1. いつもお様子であった	母が11月より就労し、生活リズムが変わり、空腹感や疲労感、集中力のなさなどが見られるようになった。この特にいつもと変様子は見らなかったの日頃より大きく変化した。また、日頃より困った保育士には言わない。	4. 対象児の動きを見ていなかった	幼児3クラスが外でいて受しそれが出て朝の入れながられぞれがクラスの全クラスの状況であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児3クラスが外でいて受しそれが出て朝の入れながられぞれがクラスの全クラスの状況であった。	—	激しく転倒したり、本児が泣いたりしなかったので、その瞬間でその場にいた職員は気付かなかった。全体把握の強化に取り組ひと共に本児にも、困ったことがあったらすぐに教えるよう声掛けしていく。	
4509	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	1	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13									2	2	4歳	1. 男児		食事中(おやつ含む)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指指腱損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 基準以上配置	食器の片付方について、慣れから指導することが少なくなったかもしれない。	もう一度、上手な食器の片付け方を子ども達に指導する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(25)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年		きちんと点検を行っている。改善策は特に考えられない。	6. 食事(おやつ)中	机の間隔が狭くかったり、机の少しかもしれない。	机の並べ方を工夫する。子ども達が歩くための間隔を十分取る。	1. いつもお様子であった	いつも、クラスの中では早く食べ終わる方で、いつも通り食べ終わる。食器を食べ食べ食付けとしたいんだが、いつも手に子で、さ握ったまに着とい。転倒時は地面に手を着けるとっんの食べ方を見ていた。	2. 対象至児で対児の近象見た	全体が見える位置に座り、子どもが見守りながら一緒に給食を食べた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食中だったので、自分の担当クラスで子対応した。未満児クラス午睡中で、子対応に追われた。	給食後、自分が食べた食器を片付けることは、9ヶ月近く毎日行っているので、心見守っていたため、もしかして倒すかもしれないという意識が弱かったかもしれない。	いつどこでなにが起きるかわからないことを常に頭において、子ども達の動きを見たり、環境を整備する。	
4510	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	40									33	30	5歳	2. 女児		2. 室内活動中					熱性けいれん（インフルエンザBによる）	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	熱性けいれん既往歴がある症状発生時の保護者への連絡・痙攣止めの投与の確認・救急車要請をマニュアルに添って対応できた。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし		1. 集団活動中・見守り		事前に熱性けいれんの既往歴を把握していたため対応できた。	1. いつもお様子であった	登園時に母親の報告を受けており、対象児は通常の活動をした。	2. 対象児の至児で近象見た	登園時に母親の報告を受けており、熱性けいれんの既往歴がある子対応をする体調の変化に気をつけて見た。（検温：9:00 36.7℃ 10:00 36.7℃）	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当児一人グループを指導した対象児の状況を見ることはできなかった。	他の担当者は園児の状況を見ることはできなかった。	特になし	熱性けいれんを起こして意識のない状態をすぐに発見し、看護師や主任に報告し救急車要請をした。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	発生時 月	発生時 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
4511	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	12	0	0	0	12	0	0			3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腎部)	左鎖骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	午前中、いつも決まった時間帯であんで遊びている場所である。危険な遊びはしておらず、予測できなかった怪我であった。事故防止に関する研修を行い、怪我になるような遊びはないか意識的に見るようにしていきたい。	事故防止に関する研修の取り組み	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週土曜日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	施設設備等のハード面は特になし	今回の事故は、施設設備ハード面が関係なかったと思う	1.集団活動中・見守り	幼児の環境として問題はない	今回を含め、怪我などが起きた場所を再度確認し事故が起きやすい場所の把握をする。	1.いつもお様子の子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で子どもを見ていた。子どもが転倒しても瞬間などを見て、子の様子ともに気付きもする。対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士は、他の児童を見ていた。	どもがていると思う安心感もあったのではないか。	事故防止に関する人的配慮の研修	
4512	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	5歳	1.男児	身長１２４．１cm 体重２８．７Kg（令和２年２月計測）　体格が良く，転倒が多い。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　５　)回/年	2.基準配置	○新人～3年目保育士への事故防止に関する不足の研修の不足	○黄色信号に気づく場面観察の仕方・危険予測トレーニングの実施	1.定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	○地面にあがが凹凸る場所が多い。	○小石が埋ていて土多くまつてめ入れるとし、きだけて、き回なくなるを凸す。	1.集団活動中・見守り	○子どもの体幹を鍛えることにつながる遊びとの体幹を鍛えることにつながる遊びとの不足。○子ども の安全意識の低さ（想像力の乏しさ）	○体幹を鍛えることにつながる遊び を意図的に増やしていく。○年齢にあった安全教育を逃さず実施する。	1.いつもお様子の子であった	○体格が良く，身のこなしが鈍い。衝動的な一面が見られる。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	○対象児に危ない童が急に縄跳びを持って回りながら走り出し，遠ざかってしまった。注意が届かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	○園庭で児童ではなく他のとあった。	○子どもとぶこと熱中してしまった。	○遊びを進行する職員と，全体を観察する職員の役割分担を明確にする。持ち場を離れるときには声をかけ合う。	
4513	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足の踝剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(０～１)回/年	2.基準配置		講師を呼んでの傷害予防に研修関する検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年		職員によ点検がて行われおり、遊具や施設の不備の起きた故ではいと考えられる。	3.個人活動中・見守り	友だちが動きまんでいる様子て、入りい思い膨らませ、びの続けれなかった可能性がある。	反対側の骨折（患足）の有無によって傷害発生が防げたかは断言できないが、患足をかばって可能性も考えられるので、骨折等がある場合は状況によっては事務室でるようにすご過ごせるなど環境を整えるよう努める。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・邪気等を記載)	左足にたが、我をいた外遊びた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	数グループに分かれて活動が行われており、本児からは離れたところにおり、事故発生の瞬間は見ていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいた不明だが、対象児の動きを見ていた。職員が声掛けがあった。	継続し痛みえた訴はかが、調の化を保育をした。	幼稚園頃の足首に痛みを訴えた場合は骨折の可能性が高いことのことだった。積極的に受診をする。	
4514	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	119	8	16	21	19	21	31			19	19	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折 顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　２　)回/年	2.基準配置	縄跳びの結んだ縄を結んでいが、子どもの膝下のくらいの高さで、遊んでおり、危険じた性は感じなかったが、見守りを続けていた。	子どもた遊ん様子ちでいる様守を見り、異常を感じた早を、素通院等をらく行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　４８　)回/年	縄を、ピっとはいるでも状態く、緩やかに垂れて態がっ状あっかに下いるであった。	危険性はなかったが、ひもムひも等を用意する方法もあった。	1.集団活動中・見守り	10分ほど、交代で跳び、ようで遊んだ本児あったが、午前は、中の職員の話の中のに、眠り聞くこと、集中力にこなるもあり、集中けることもあ欠ける。	それほどの子どもの中のどな個中ないそのもさんそれぞれの子ども、で、別れ子遊ん配慮をしていく。	1.いつもお様子の子であった	特別、変様わった子はみらかなかった。仲の良い友だちふたりと一緒に、仲良くく遊んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2本の木に縄跳びを結んでいたので、小さい子で危ないと、職員がそばに見守りながらいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ状況も見ていたが、すぐに立ち上がり、「大丈夫」と声をかけたが、「大丈夫」とテラスへ歩いった。その際、テラスに座り、手と足が痛いというのを、そばにいた保育士が続き、すぐに、事務所へ連絡報告をする。	乳児か年長児で、園庭にいたので、子ども保育も、園庭におおいおり、遊んでいる状況であった。	職員同士の連携のよう、見守る場所・子ども等にいるべき場所・子どもの掛け合ついての、連携を声の掛け合い、連携を密にしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面						環境面			人的面																
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯			人数															死亡	負傷状況	受傷部位	診断名							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4515	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23	5	6	5	3	2	2	0		2	2	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折 上部骨折	2.自らの転倒・突よも衝にるの	1.あり	2.不定に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	子どもたちは体力もたっぷり消耗しているし、遊ぶ内容や場所が夕方の配慮せる十分だった。	台周鬼にてことしここ滑り辺ごっ展いたにていかった為、保育士は子ども子を行動を捉く。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	特になし	21名	園庭であそぶ内容のしっかりできてなかった事で、そのあとそれを良くなしまいた	園庭であそぶ内容が保育士で確認し、何度でどんなルールをするなどを決め、保育士がポジションに立って子どもあそびのを整理する	1.いつもりの様子でお子であった	健康状態等いつもと変わりがなかった為、園庭で自由をしていた	3.対象から離れたところで対象児でいた	対象児は通いつもいそぞろ友だちと楽しそうにでいるため、保育士は全体を見っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離いた)	固定遊具観覧ために全体を見る対象児に近くがいた	・固定遊具での遊び方をしっかりと伝えていなかった ・鬼ごっこに発展していること気づいていなかった	・日中の子どもの活動量などを把握して外遊びの設定の判断をする ・園庭であそぶ前に遊び方の確認をしっかりとしておくことで子どもたちとしっかりとしておく	
4516	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25									3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折、右橈骨骨頭骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準上配置	事故発生時の認識と発防止に向けての話しを行い、危機管理意識を高めていく。園児とも遊びの確認を行う。		1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	園庭での遊び方・遊具の使い方を、職員間で再度確認する。		1.集団活動中・見守り	鬼ごっこの際のルールを職員間で再確認する。	鬼ごっこ遊び約束・ルールを職員間で再確認する。	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	鬼ごっこが楽しくて、普段より活発な印象があった。	4.対象児の動きを見ていた	一緒に遊んでいた職員は、他児がふざけて鉄棒に片手片足で下がり、危険を感じ、他児に注意目した際に、本児も鉄棒に飛び乗ったため、落下する間瞬間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離いた)	別の園児の鉄棒の介助ていたため、咄嗟に助けることができなかった。		園庭の遊び方・遊具の使い方を職員・園児ともに周知する。	
4517	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	3	7							3	1	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	亀裂骨折	2.自らの転倒・突よも衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもりの様子でお子であった	今まで遊んでいたおもちゃをおもちゃを置いて別のちゃを取りに行こうと移動した際、足をひっかけ足をねまい、体がかかり重心を転倒し、亀裂骨折となった。	2.対象児の近で対象児でいた	対象児を目の前で見て、ひねり足を瞬間に伸ばし差べたに手を、間に合わず転倒した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離いた)	他の児の遊び見守った。	職員配置は適正であったが、児童の行動は予測が難しく、対声掛けの必要があった。(足をすっと傾向がある)	一人一人の児童の動きを予測し、事故を事前に回避できるように職員間で話し合う機会をもち、一人の児童の動き、特徴を把握し情報を共有後、本児に足を上げて歩くよう声掛けをしていく。	
4518	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59		4	6	14	19	16			11	11	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙破折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	所庭の土がかなり固くすい状態だった。	所庭に土を入れ整備した。	1.集団活動中・見守り			1.いつもりの様子でお子であった		2.対象児の近で対象児でいた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離い		ごっこ遊びの中で、スピードを抑えたり、周りをよく声をかけるべきだった。	遊びの中でスピードを抑えたり、周囲をよく声をかけるようにしていきたい。	
4519	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	2	4	7	7	5	6			4	4	5歳	1.男児	治療に1か月程度かかる見込みとのこと	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨幹部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　1　)回/年	2.基準配置	遊具から飛び降りる危険は認識はあり、注意の声掛けをしばしば行ったが完全に止めるとしてなかった。	危険なことをしてもいないとして、注意やめない時はやめさせる。	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　1～2　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年			1.集団活動中・見守り			1.いつもりの様子でお子であった	いつも活発にして行動した。	2.対象児の近で対象児でいた	当該児を含む子も数名遊具のそば遊び守った。当該児が降り時、急で駆けに合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児の様子は見ていたが、主として子どもの保護者に見ていて、近くに保育者がいたがすぐに駆けつけることができなかった。	普段から当該児の動きが素早く、ふざけて逃げること多い。	当該児の行動を止めるときは、きちんと止め、なぜいけないのか(危険)を伝える。	
4520	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42	5	3	9	6	6	13			18	17	6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折 幹端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　3　)回/年	1.基準以上配置	降園後の園庭遊びについて注意喚起を、保護者へを見守り依頼していたが、ついていない側で見てなかった。	園庭遊びについて注意喚守りの徹底の起しりをを依頼する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年			7.その他			1.いつもりの様子でお子であった	ごっこ遊びで、追いかけをして、つかまえていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園後で保育士は各部屋で保育、遅番担当保育中。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後であり、保育士は各部屋で保育、遅番担当保育士は遅番保育中。			

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4521	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71	5	10	8	16	16	16	0	18	12	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		事故対応マニュアルでは、事故後の中心で記載しているが、予防の観点からの職員にも事対応についてのつい学びを深めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具事態やは高度はもの通悪職員が高角やすい見の難易低いのしがくのできい遊具あった。	事故発生後、遊具を見通し良くを敷いり、危険予測する場合も保育者と一緒に上って遊びだりするんるした。現学童の園は専用庭へ移設をする。	1.集団活動中・見守り	異年齢で集団活動に帯まる時間帯であり、個別の関わりが増える時間帯である。	より危険度の高い遊具や場所に注意が集中しやすいため、観察場所に一定の場所をしてしまわないよう簡単な役割分担をして観察する。	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	新入園児であっても終わり運動会だんだん慣れ、活発になってきたころの事故だった。遅めの登園から、園庭で遊ぼうと、好きな年長児がいる遊具に上っていた。	事故直前にきた(園庭に出てきて)体調について声掛けし、本答えるが、その児にまに向かって先まで、見ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具の性質上、見通しが悪い場所があり、死角になっていた。また低年齢児も一緒に園庭に出てきたため、子ども同士の衝突の回避やより危険度の高い遊具の観察に注意が向いていた。		危険な箇所(穴、高さ)についての職員の共通理解は行っていたが、低年齢児が中心で観察の意識が薄くなってしまっていた。3歳以上児でも転落の危険性があることを確認しあった。	
4522	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	107	8	15	9	21	17	16	21	15	11	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	・雲梯の上り上にくて、補助具(机等)を持ち出して登って子ども分ってるけいたくて、自れて登りだけよりれいをかいた。児は自由上りできた。	そもそも登って遊ぶ遊具ではないので、正し方で使い方を話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		自由に雲梯の上りできたが、太くかりこのが、しっかりかむことがかったとなった。	3.個人活動中・見守り		・片づけなど慌てることが多いが、危険なところは最後まで見守る	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	・雲梯の上に居て、片付けや声かけて、上手のあわてて降りようとした。	・片付けで部屋に入るはしたが、も上手に降りたの児から見守りはしていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・自分の担当の子ども室の指示、遊具の片づけ等をしていた。		・片づけ時など慌てることが多いが、危険なところは最後まで見守る	
4523	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	7	14	8	20	17	14	0	17	12	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折幹部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		事故対応マニュアルでは、事故後の中心で記載しているが、予防の観点からの職員にも事対応についてのつい学びを深めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具の上テンが支柱にトの部支柱をつかない。遊具部の上面の対面の梅樫の枝が伸びていた。	テントで覆支柱がいるため掴ろ支えなとなるとなるむとなるむとなるテントに隠れ部分は反なるなる。に行くにはなるに上部ほ定なるの部ら上登ようす木の剪った。	3.個人活動中・見守り		より危険度の高い遊具所に注意集中していたため、観察場所に一定してしまわないよう簡単な役割分担をして観察する。	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	直前に注意受けていた、木の取り再び実たくて登ったよ度行うだ	直前には木のとして伸ばす子を注意し、てきたとしてが、登った時は見ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具の性質上、見通しが悪い場所があり、死角になっていた。また低年齢児も一緒に園庭に出てきたため、子ども同士の衝突の回避やより危険度の高い遊具の観察に注意が向いていた。		危険な箇所(高さ、持つところ)についての職員の共通理解は行っていたが、低年齢児が中心で観察の意識が薄くなっていた。同遊具で転落の危険性があることを改めて確認しあった。	
4524	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	143				50	46	47		11	11	4歳	1.男児	令和元年12月11日Aクリニックを受診。令和2年4月から児童発達相談支援事業所Bに通園予定。体の使い方が解りづらい。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ここのいたでてそばでいたが、ことでは高ろにいて確認し、ことを離し高ろにいて確認し、ことを離し高ろにいて確認し、ことを離し

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位																												
4527	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		定期的な研修を継続し、安全への意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		定期的な安全点検を継続し、危険箇所の把握に努める。	3.個人活動中・見守りあり		危険なものが周りにない か、器具位置の設置の点検を強化する。	1.いつもお子でもりの様であった	プールを遊び期待し早く支度を終え、落ちなく着き保育室内回を走る。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者はプールの用意をしながら、保育室内を走らないように声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はそばにいなかった。		保育士は支度を終えた子の待つ時間がないよう、保育を考える。保育室内を走らないなど、園児に日常の約束事を徹底をする。	
4528	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	8	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16								3	3	4歳	2.女児	なし	睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		6.その他	顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		定期的に研修をし安全に関する意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		定期的な安全点検を継続し、危険箇所の把握に努める。	5.睡眠(午睡)中		園児に危険知らせ、布団の上で遊ばないようにする。	1.いつもお子でもりの様であった	いつもど様ご過ごしていた。午睡起きの子おり子でもりとじゃれる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	じゃれつく様子を危険とあまり感じずに見ながら起床を知らせる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他1名は押し入れ前廊下に立ち、子どもが持ってきた布団をしまっていた。		保育士は、より一層、危険を予測し、事故防止のための行動をとる。	
4529	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10			3	3	4			2	2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		定期的な研修を継続し、安全への意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		定期的な安全点検を継続し、危険箇所の把握に努める。	3.個人活動中・見守りあり		年齢、使用遊具、遊びの違いを把握し、必要に応じ、危険がないよう遊具の位置をずらす。	1.いつもお子でもりの様であった	普段通り活発に動いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児は配慮のある必要ではなく子ではなく全体の様子に気をながら、離れた所で他児とかかわりをもっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とかかわりをもっており、対象児の動きを見ていなかった。		保育士は、より一層全体に配慮するようにする。園児に危険がないよう注意して行動するよう声をかける。	
4530	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			6	3	5			3	1	4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘外顆骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもたちも体力も疲れが出る時間帯であり、夕方のことを意識して保育にあたる。	定期的な研修を継続し、安全への意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		定期的な安全点検を継続し、危険箇所の把握に努める。	3.個人活動中・見守りあり		体力的に疲れが出る、夕方であること、異年齢での保育ということをふまえ、必要に応じ、危険がないよう遊びの内容や遊具を変える。	1.いつもお子でもりの様であった	本児は遊びを好み、この日も動的な遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児のしている遊びは把握し、見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児とかかわりながら、本児の遊びは把握していた。		保育士は、より一層全体に動的な遊びをしている園児に配慮するようにする。	
4531	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	86			30	30	26			4	3	4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		定期的な研修を継続し、安全への意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		定期的な安全点検を継続し、危険箇所の把握に努める。	3.個人活動中・見守りあり		遊戯場の広さに合った子人数や遊びの種類を考える	1.いつもお子でもりの様であった	登園後、身支度を終えこれから遊び始めようとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室から遊戯場に来た本児の動きは把握していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒の瞬間は見ていないが至近距離にはいた。		保育士は、,全体に動的な遊びをしている園児に、より一層配慮するようにする。	
4532	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33								2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	2.なし	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	開示等も行い、当日の職員の配置は十分であったが、何かがあったが、起こるからないという危機感をもって保育を保育をする足かっ姿勢がなかった	常に危機管理意識を持ち、事故への対応を確実にしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	築山の傾斜がきついところあり、すが滑りやすくなっていた。	築山には応じて築山を復元と共に、築山の修復と共に、築山での遊び傾斜の方や傾斜のきつところは子に伝えるとともに、危険場のところ走らないようにとの注意を程よく声をかけるなどの注意をしていた。	3.個人活動中・見守りあり	日頃から遊んでいる場であり、保育内容も日常と変わりない内容であるため、注意をするようにかけるうに声をかける程度であった。	築山ではスピードを出しないよう約束をしたりすることに、危険を伴う場合は時にはその指導を行う。	1.いつもお子でもりの様であった	園庭を走りまわって遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見ながら、他児と別の遊びをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員は少しと離れたところで、全子ども体を見ていた。	全体をこで見るとがる職員配置を行っており、日常の遊びをわりなかったため、危険を予測しての声かけや指導が不十分であった。	戸外遊び中の約束、ルールを職員間で話し共通理解をし、子どもにも遊び方につい遊びて等の指導をする。	
4533	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33								2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	会議も行い、当日の職員の配置も十分であったが、何かが起こるからないという危機感をもって保育をする姿勢が足りなかった。	常に危機管理意識を持ち、事故への対応を確実にしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	今回、遊具等のハード面化には劣化や不備はなかったが、細かな点検は必要である。	遊具事故あるかもわからないので、丁寧に確実に行う。	3.個人活動中・見守りあり	日常の保育環境や容は変わりなかったが、遊具使いの時方については、その時々に指導をすることが必要であった。	クラスで遊具の安全な使い方や遊具の安全点検などを決めた。	1.いつもお子でもりの様であった	保育者が部屋に声をかけるとか帰ろうとせず、遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室へ帰る準備をした児を見守りつ、まだ遊ぶ児の様子を伺っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊び場（砂の片付けをしていた。	職員の配置は十分であり、日常と変わり保育内容であることもあり、高のある遊具における危機感を持って保育する姿勢が足りなかった。	全体的な見守りをするとともに、高さ等危険を伴う遊具時のみ、しっかりと見守りと指導を行う。また使用時のルールを徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き		他の職員の動き	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか					
4534	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	11									2		2	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨、右橈骨骨幹部骨折	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(7)回/年	2.基準配置		ソフト面の改善策のはなし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ハード面の改善策のはなし	3.個人活動中・見守り	何回か対象児のお子どもの細かい情報が代替保育士に十分伝わってなかった。	常勤職員だけでなく、代替職員の情報をしっかりと共有していく。	1.いつもお様子であった	他児が鬼ごっこのごっこ遊びを楽しいると見て、保育士(単発職員)と一緒に始め走りた。	3.対象児を離れたところで対象児見ていた	対象児が担任保育士に向かって突然走り出した為、素早く対応できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場で遊んでいた園児と話中、園児が走ったのも走ったのが、差ることができなかった。	対象児担当の保育士が休み代替保育士が担当していたが、しゃべっんなる気づいなかった。	障害物のない安全な場所で走るよう配慮する。必要に応じて手をつないで一緒に走る。代替保育士の時は、状況において職員体制を増やす。	
4535	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54	0	0	0	18	16	20	0		4		2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	3.いつもお様子で、いつよりも発動的であっも活活でした(理由記載)	周りとっていて気れて足元や前方に意識が向いていなかった	2.対象至児を児の近象見た	担任が本方よかに前に他児を向く声をけた。転倒も、そ倒した面にぶつけまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの児童も大勢園庭にいて、全体を把握するために分散保育した	特になし	今後も子ども姿を把握し適切な対応を心がける	
4536	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13				6	3	4			3		3	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右前歯亜脱臼	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	遊びの見守りを危険なしをしようと、遊びをしかけた。そばに行って声をかけたり、安全が確認されるまでそばにいる。		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12～)回/年	靴を履いておらず、靴下で遊んだ。	靴を履く靴下よかも、靴ぐよう促す。	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもお様子であっ	友だちと会話をしながら、ゲームを楽しんだ。	3.対象児を離れたところで対象児見ていた	砂場で穴山を掘っていると、周囲の児童が他と関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人は児童鉄棒をすがびをつきながら遊ぶ守った。1名は鬼ごっこをしていた子ども達がブランコ遊び。	普段からタイヤ渡りを楽しんでいて、様々な方法で渡ったり試していた。	タイヤなどを使って遊ぶときは、滑らないように靴を履くなど、安全に危険につながるのか子どもたちと話す。	
4537	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	109	12	18	12	25	22	20			16		15	5歳	2.女児	身長１０３．５ｃｍ(やや低め)　体重：１８．８ｋｇ（標準）　天候（晴れ）	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準上配置	広い園庭で遊ぶもの子どもを見守りだけでなく、けがのリスク多いが遊具については特に意識が職員に対し付け足した。	鉄棒については時間を必ずいんな子ども一人ずつ見守る。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	児には本人とっては当さ適さが拍子を外しまった。	ハード面で特になし	1.集団活動中・見守り	主体的な遊びを展開中でも、事故になりかねる危険性が不足していたと思われる。	広い園庭で遊ぶもの子ども子どもなくなるが、けがのリスクを遊具を必ずにて、手を伸ばしにくい。	1.いつもお様子であっ	最近前まがようになった嬉しわりきることになってのそう習いた。	2.対象至児の近象見た	鉄棒の傍で見守りもなかった園庭やはの固定の遊具にと向け目ながら全体を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全園児が出ていたので、それぞれ各クラスの子どもを見ていた。	鉄棒で前まわりができるようになった。勢いがあり、危険な場面があった。見守りは落受け止めることは出来なかった。	しっかりと鉄棒の使いを知らせていく。使っては危険である保育で、士くきないが傍につ状況下では鉄棒を中止する必要があると考える。	
4538	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									2		2	6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	戸外遊び意子にし始び型あた追っけて事項をしてが、城型あた追っけて子ども話して遊めた常に遊ぶ城型ても追っけて遊めた常に遊ぶりいかけた危機意識が薄かった。	危機管理マニュアルを見直すとともに、危機管理意識を高め、管理もち、番保判断当番保判断危ち、思わ保育当るる保判断危ち、思わ保育当るる士の際に入る士の際に入る士の際に育断険れる子ども達に促し、制止する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転倒した場所には多くの人が在し、遊具が点在しており、抜けパラパラとなり際スを必要がある。	遊具は自体固定されて動かしてはいるため場所は容易に動かすことは場所夫する。	1.集団活動中・見守り	子ども走る様子が遊具の陰になり、保育者から見えにくい。	保育者は子ども全員が見渡せるように、子ども遊具が見渡せるように、子ども遊具が見渡せるように、子ども遊具

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面																			人的面							
			施設・事業所種別			発生場所			異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面		改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4540	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								2	2	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腰部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	ヒヤリハット事例を出し合い、その都度確認し、改善策を考える	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	日々の点検を確実に行い、その都度問題点を共通理解する	1.集団活動中・見守り	特になし	保育室内の環境の見直し(机・いす・ロッカー等の配置)	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	早く降所を終え準備をわらせて遊びたかったので、急いでいた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	怪我をする前に走らずに歩くように声をかけたが、本児に聞こえていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所の準備をして子どもたちにいるも関わっており、他の子どもに声かけをしたため、本児は準備よう、の動きの確認できていなかった。	特になし	T1、T2の役割確認の徹底	
4541	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16								2		5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防研修など参加し、職員間で事故予防の知識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	玩具の点検を月2回実施する。	1.集団活動中・見守り	職員がすぐ横にいなかった。	戸外遊びでの危険な行為を子どもたちに周知し、遊具などの使い方を伝えた。	1.いつもどおり様子であった	母親が迎えに来た後もよく鉄棒に座って遊んでいた。職員が子どもに危険であることを伝えてはいたのだが、徹底できていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	16名の児が戸外遊びをしていたので、全体の子ども達の様子を見守っていた。本児が鉄棒にはいたのは確認していたが、側にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児も一緒にサポートをした。	長子どもたちと一緒にしてい	子どもたちに鉄棒で遊ぶ時、鉄棒の持ち方や使用方法のルールを徹底し必要があった。	職員の立ち位置を職員間で共有し、危機管理意識を高めた。	
4542	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71			24	21	26			3	3	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	園児の遊び方について指導及び再確認をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	安全点検を怠らい様に皆声をかけあう	1.集団活動中・見守り	特になし	遊び方について指導するあわせて目を離さないよう細心の注意をはらう	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気に登園する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしていたので、職員も一緒になって見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていな	他のエリ園児アの達をみていた		特になし	目を離さない	
4543	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11								2	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準上配置		何度か経験のある遊びで、無理はなく、危険予測もしてえ知らせていたが、遊びのルールを当該児童に理解されず、事故につながってしまった。事前ルールの確認及び、安全な遊びの指導に、これ以上に取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		毎日、及び定期的に点検し、消毒をしている今後も続ける	1.集団活動中・見守り		何度か経験のある遊びで、無理はなく、危険予測もしてえ知らせていたが、遊びのルールを当該児童に理解されず、事故につながってしまった。事前ルールの確認及び、安全な遊びの指導に、これ以上に取り組む。	1.いつもどおり子であった	積極的に参加し、特に変わった様子は認められなかった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	這う遊び守り、バランスを崩したり、同子ども衝突したり、一人に子ども士のないよう、一人にひと手を添えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離で)	もう一方のマット(フラットな状態で敷き、その転がる遊びを至近距離で見ていた)			何度か経験のある遊びで、無理はなく、危険予測もして手を添え知らせていたが、遊びのルールを該児童に理解されず、事故につながってしまった。事前のルールの確認及び、安全な遊び方の指導に、これ以上に取り組む。	
4544	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	0	0	1	4	4	3		5名／事務室5名	10	4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		常日頃の「廊下は歩く」との徹底を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		職員間で意識し、見通かったらかけるにすけた声かける。	7.その他		保護者や子どもにわかるように「廊下は走らない」掲示をする。	1.いつもどおり子であった	迎えに来た母親らジャンパーを渡された右手に抱えたまま廊下を走り、後方の母親の前でジャンパーで滑ってのり転倒となった。	4.対象児の動きを見ていなかった	迎えに来た保護者に本児を渡し、母子が保育室を出て廊下を歩いている時の出来事であり、保育士は保育室で子と絵本を達のタイムごしていた。	2.担当者・対児の動きを見ていなかった	他職員は事務室や他保育室にいた。廊下には同一緒ども子と母親の迎えに来た。		廊下は走らないことを職員間の他、クラス全体で周知する。	
4545	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54			16	18	20			4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	3.子も士衝突による同の突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		ヒヤリハット会議にて事事故の検証を行い、職員間で共有情報し安全意識の向上を図るとともに、合同で遊ぶ時の職員配置や遊び方について検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年		合同で遊ぶ時には、場所が限りあるので、ボール遊び地面でいるか、場所を区切ってのびる。	1.集団活動中・見守り	投げたボールが幹に当たり、ボールが木の予想外の方向に跳ねね返ってきたため。	コートをなどなく書くし、互いの陣地を決めておき、取りなしにいに合らないようにする。3歳児～５歳児の園庭で遊びの園に職員間で話し合う。	1.いつもどおり子であった	通常の様子で元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところボール遊びの様子でいた子どもが、同士がぶつかる瞬間はなかった。転んだものすぐに倒れそばに行き様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のラブルを応えいため、いなかった。	ト対しては、見かった	子ども人数や遊び種類のや子どもに職員の位置やのに職員立ちの遊びをする夫など配慮が不十分であった。	３歳児～５歳児合同で遊園庭での約束ごと方や約束事を再度職員間やもと確認する。職員間で合同保育時における役割分担、配置について再度確認し、一人一人職員が意識をもって子ども見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・子育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	人的面 改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4546	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	16					16				2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	機骨遠位端骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	鬼ごっこは普段から子どもたち気に回ったりするこかも元気に走ってよく見ようとするこの前に走ってよく見ようとするこの遊び周りを見ようとするこの遊びくるくるとあった。	事故を振り返り析し、事故発生に対して再発防止のために、一人ひとりに安全に危機管理をするために徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	子どもたちが狭い園庭を走り回ることが多かった。	特になし	1.集団活動中・見守り	2名の保育士で見ていたが1名はトイレに行っており、実質1名で見ていた。	保育士が場をその離れる時は、他の保育士にもらい保育者が変わりてもなど士間の連携を図ることが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	園庭でクラスの友だち数人と鬼ごっこを楽しんでいた。際一緒に遊んでいたところ、ぶつかり転倒する。	一緒に活動をしており、本児が女児とぶつかる瞬間も目に入っていた。転んだ時に手の方がにのでに駆けつけた。指も動かしい捻挫をしかもしないの幹部却シートで様子をみた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に出ていた他の職員は、トイレに行っており転倒し本児が見ていなかった。	鬼ごっこでもが活発に、中ばしるこの周りが入らった。	遊びに入る前に、周りをよく見てにて走るようにに声掛けして子どもに意識させるように。保育士は、危険な場面を見たら咄嗟に声掛けが出来るようにして事故を未然に防げるようにする。	
4547	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	12								2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	上腕骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	あまり行かない公園の遊具が、目新しく動神経の良い本児なので、できると思いやったのではないか。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	対象児が所属の雲梯のクラスは見ていたが、他児を集めて遊びを始めようとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児はパートの他の職員は、見ていた。	危険予測して、担任のどちらかが近くに行き声をかけて止めさせるべきだった。	慣れない公園・遊具で遊ぶ時には普段以上に気をつけて危険予測をする	
4548	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20								3	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	外傷性亜脱臼	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	今年度懇談会(参観)の怪我は2回目であった。1回目の怪我時は全省けて状況の返り再策で意したどもものには注びをする)。しかし、同じ日に怪我発生した職員が反省を振り、防発予防に十分交換(子様がいう全いと違う安つに以上に意した設定には注びをする)。しかし、同じ日に怪我発生した職員が反省を振り、防発予防に十分交換(子様がいう全いと違う安つに以上に意した設定には注びをする)。懇談会は当日も保護者がおり、しいちから傾向があるのため全ての確保配慮に十分設定を盛し設定のしなければ、ものを確捉え、安全な遊び設定する。	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/2年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	使用していたご台はもの合かっ子ちのき濡れることかった。	特になし	1.集団活動中守り	遊びの易度考えと、ごパート員担当くあった。	・はしご難からはしにはりとなくつ使いでなくりかがつ方の説明をすべきせて遊び始めてしまった。事前に全体に知らせ、注意しようと意識を持たせて、巧低台かったので渡れるとしまったもあ人ことも思まっ一ひとり、ひとり状況危険ないか担当間で声掛け合をうと良	3.いつも活発で動的であった(理由を記載)	懇談会の4名の保護者が観ていた。嬉しい気持ちからは気分高ぶった。	3.対象児離れたところで対象児見ていた	該当なし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	パート職員はしっかりとおり、怪我の発生状況を見ていた。	特になし	子どもの状況を一番良く把握している担当職員が、難易度の高いはずのことに対する声かけや、事故予防の対策がとれたかもしれない。	
4549	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				22	19			2	2	5歳	1.男児	以前、保育中に転倒し上顎左右のAをぶつけ亜脱臼と診断され歯科通院歴(3か月経過観察)があった。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口含腔内含む)	上顎右A亜脱臼	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	該当なし	該当なし	3.個人活動中・見守り	保護者のお迎えの時間帯に対応できない。保護者が迎えに来るまで、ただ保護者が迎えに来るまで、ただ送る時間帯は、遊具の使用時は職員が遊具に付き添い見守りをする。遊具の使用時は職員が遊具に付き添い見守りをする。ルールになっている。保護者の迎えが始まる時間帯で固定の使用は、職員は全て固定の使用は、職員は全て固定の使用は、職員は全て

No	初掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																				ソフト面						ハード面						環境面			人的面							
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事											事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4550	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10	0	0	0	2	7	1		1	1	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足足関節外側靱帯損傷と左母趾中足骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	2.基準配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　1　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　48　)回/年	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守り	ボールでボール、ケンケンパ、フラフープの3種類の遊びを設定した。全体が見守れる立ち位置をしたが、何かの時に手が届く環境ではなかった。	設定遊び数を減らす、異年齢保育ということを考慮した安全性の高い遊びを選択する。	1.いつもどおりの様子であった	本児は自ケンパをンパから択し取りんでいた	2.対象児の近で対象児を見ていた	児童全体が見守れるように位置を立ち位置を考慮して保育していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		発熱児童室に保健室に付き添っていた	異年齢の児童10名を保育するにあたって、子も一とり一人ひとり判断した保育設定がされていなかった。	土曜日保育・異年齢保育では安全性の高い遊びを設定する。	
4551	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16		16							4	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	下歯右A左A外傷性脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	職員が見守る本児が歩行の際、気味で足ずつまや面た。中で転倒した。股自てきるまずい場あっ	移動でバランスを崩しやすいことを留意し、だけ転倒できるだけ転倒防ぎ手がよにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　48　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	子どもが際に十分通幅ではく、歩きにくく考える。	机・椅子を設置時に、子どもがの通い間隔を留意する。	1.集団活動中・見守り	順番に渡して状況の中、先に椅子へ向かうことに気持ちが向いた。	机ごとにいる保育士が一緒に連れて移動しようる。	1.いつもどおりの様子であった	自分ですることやや見せ、椅子へ向かうこと気持ちが向いた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	保育室、タオル等を片付けそれぞれの場所には保育士が付いていたが、一緒にしていたため、バランスを崩した手を伸ばす時に差しることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	椅子に座っている子ども職員が1名付き、移動した。職員が1名、移動の途中にも職員は付いて、3名が子どものそれぞれの至近距離場所で至近距離にいた。	歩行の際、足運び内股しやすい場面を想定し、職員間で共有する。	移動の際バランスを崩しやすい場面を想定し、職員間で共有する。	
4552	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	4							0		4	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足頭椎骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置		事故のリスクやヒヤリハットについて定期的に共通理解し合う	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　50　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年		遊具の設置に関しては特に問題は感じられない	1.集団活動中・見守り		遊ぶ前にもと子ども遊び方を合う遊び方や内容を工夫する	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていな			一人ひとりの遊びの状況を把握できるような体制で遊びを見守る	
4553	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕端骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	初見の保育士の事故対応の判断が遅れた	園内研修を実施する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	日頃からお遊び、危険は遊具とらえづら考えい	引き渡し、安全点検実施	1.集団活動中・見守り	遊び方の再確認と事故防止の保育士の	園児の遊びの再確認と危険な行動を回避する	1.いつもどおりの様子であった	一人で綱を登っており、危険はなくいつものように遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が危険な遊び方をしておらず、他の園児の見守りめ一瞬振り向いたところんでお落ちとんでり、落ちた状態は見ていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊び時間が終わったため、入室する中に誘導	正職員休憩時間中パートが休憩時間でパート職員が見ていた手がしないと言ったため初てくしまった	遊び時間の職員配置を増やすこと。職員休憩人すたの職員休憩の見直し	
4554	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	35				3	10	22			3		3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		適正に配置されていたにも関わらず、突発的にこの事故のような事故が起きてしまったため、今後も一層園児に気を配りながら適正配置を継続していく。	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		適正に対策をしていても関わらず、この事故が起きてしまったため、今後も安全管理を一層徹底していく。	1.集団活動中・見守り		適正な保育環境であったにも関わらず、こういった事故が起きてしまったので、今後も一層園児の動き等に配慮しながら、安全な保育環境を維持・継続していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			環境面に同じ	
4555	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									2	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)		8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　1　)回/年	1.基準以上配置		職員会議に、子どもが机等を運ぶ時事の配慮事項を確認したい。	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年		子どもが運ぶについては、持ってかりるものを用意する。	1.集団活動中・見守り		直接関係はなかったが、机等をしまう場所、おき方についても検討したい。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていな			子どもの動きには常に目を向け、いろんな場合を想定しておきたい。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事																																								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
4556	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	52				27	25		4	4	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	2.自の転倒・突よにるの衝	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(　2　)回/年	1.基準以上配置		混合で保育に当たは互いに声を掛け合い、死角がないよう十分注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　12　)回/年		事故に防止するマニュアル作りや、安全点検を事前に用して故予防に努める。	1.集団活動中・見守り あ	廊下の脇に置いてあったジャンパー掛けの位置が、やや斜めになっていた。	冬場に設置するジャンパー掛け場の配置について、できるだけ廊下の端になるように改善する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとわるい変わった、担任にだと、本人が報告する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室で他児が雑巾がけを様子をする子たちの移動を見ながら、てくる子たちを見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室でてしまった子は受けを登園しくるちの入れていた。	4，5歳児が合同で行う雑巾がけをするため、複数の職員が対応するため、時タンよ間イグリ、落れる面があった。	職員同士が合いながら、子どもの様子をよく見ていき職員の動きを再確認する。	
4557	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	0	0	0	2	3	2	2	2	6歳	1.男児	普段は延長保育をしいため乳児室で遊ぶこんとはほとかった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	2.自の転倒・突よにるの衝	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　3)回/年	2.基準配置	特になし	幼児７名を保育士安保育を１名で長時間全に保育するために長れ等を配慮した遊びを行っていたため	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　　)回/年	柵の高さは55センチ出入口は幅120センチある。身長１２センチに本児とってはなさい高さで飛び越えたいという気持ちが芽生えた。	乳児室の使い方を知らせ、ぼり越えることの危険性を知ること、越えての危険性を知ること。改めて改めるよう。	1.集団活動中・見守り あ	延長保育で使用し保育室ていたに慣れていないため、気持ちが高ままってしまい、普段とは取り扱いようを行動をとってしまった。	普段使用する室以外の保育室の使い方を知ることで改めるよう。	3.いつもより発で動的あった活動であった(理由を記載)	友達と遊ぶことがしくうれて興奮して楽しい味	2.対象児を見ていた近で対象児を見た	他児と一緒にぬりをいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園内戸締りの部屋を開けた。	延長保育をしたことがないため、友長遊ぶ児にとってもしたこと本とてうかっよで、少持ち高ついた。	子ども達一人一人の状態を把握しながら、遊びに誘う	
4558	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	3								2	5歳	1.男児	公園の広さ、地面の状態は、鬼ごっこに適ではなかったが、本児は鬼ごっこの経験がなく、逃げる気持ちと身体の動きが合っていなかった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自の転倒・突よにるの衝	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　１　)回/年	1.基準以上配置	今まで運動遊びをほとんどやろうとなった本児である最近参加するようになり、体の動きが体がぎこちなかった。	鬼遊び等を始める前は準備体操を行い、普段の遊びの中にも色々な動きを取り入れ身体を慣らしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　　)回/年	散歩先の公園の状況は地面がコンクリート状況は若干の傾斜があり、走っているときに傾斜からとも考えられる。	公園の状況は常に把握し、その遊びに適しているか任通認識し、適しをまた遊びする。個別に配慮が必要な子には体操や準備前に危険箇所につい声をかける。	1.集団活動中・見守り あ	よく行くる公園の児が、経験が少なく、持ち方が高くなると身体の動きが合っていなかった。	鬼ごっこからけど単純身体を取れる。	ごっこでなく、ごっこなけど身体を遊び入れ取りいく。	1.いつもどおりの様子であった	今までほとんど鬼ごっこや遊びを参加しようとしたが、最近少しずつ少しやる気がでてきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒に鬼ごっこ、本児そばにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで、本児の子と違うこと他もちと遊びをしていた。			
4559	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0	0	3	3	2	3	0	1	3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右前歯の完全脱臼	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　回/年)	2.基準配置	固定遊具遊ぶ際、定の保育士の配置、見守りの徹底がなかそろそろおろになっまった。	再度周知徹底し、目視見にしよう。守りのみのないようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(　数　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　数　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　数　)回/年	施設設備は問題はなかった。	なし	1.集団活動中・見守り あ	本児がジュニアでジュニアに登っているの目視いた咄嗟に落ちる	ジュニアで遊ぶ際は繋がらないジュニアで危険があるよう工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びが見られなつけ色々ずにつって遊び入った中で、ジュニアジュニアに落ちにき楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジュニアジュムでは遊び何度もんでいたこともあり、転落危険性はほぼ無いという保育士の油断があった。転落後すぐに周囲の保育士に大きな声で応援を頼んで処置をしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ各部屋の子どもの保育士の従事がたち育室内で事したため、故の瞬間は見ていない。	保育士人数基準内で、ホール、保育室内の遊び種類が多様化した結果、目視のみになってしまった。	基準人数内の保育展開において、危険に繋がる多様化を避ける。	
4560	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29				12	17			2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨顆上不全骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	2.基準配置	子どもの伴う動に行う危険測が分だった。	子どもの動き気持ちにおいてこをら話し、子ども視点に合い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　２６　)回/年		安全点検実施、定期確認・徹底への全体知を図る。	1.集団活動中・見守り あ	日頃から声かけをしたり、一人ひとりに目を向け、一緒に遊んでいる。	どもの身の動意に注目し、子ども心きすることを広いで場所で遊ぶ。	一人ひとりに十分に目を向けられるよう職員で声掛け、意思統一を図る。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友達と一緒に鉄棒で遊んでいた。	2.対象児を見ていた近で対象児を見た	鉄棒の脇に立ち、一人ひとりに指示をだしながら、遊びに加わった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体が見えるように位置立ち、必要ながら介助をしていた。	次の行移動ためを止めるが、遊びを中止したその時、鉄棒を行った児のそれとで再びそで遊ぶ子はない思意薄になっていた。	動きの予測が難しいので、必ず、同じ再度、遊びをしていないかしたりしなども即対応できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生の体制																				ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
			施設・事業所種別			発生場所			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者									事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4561	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)		22			22						4	4	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		現在も定期的に行っているヒヤリハット告をし、危険個所は全職員で共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回		上記同様、ヒヤリハット報告等を活用し、危険個所は全職員共有し、至急改善などは必要な物などは対応していく。	3.個人活動中・見守り		見守りの中ではあったが、滑るなどの動きを予測して引き続き、遊具の点検や、遊具が煩雑になったら片づけを行い環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友だちや好きな玩具で自由に遊びを楽しんでいたが、動き回って移動は多かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児には、目が傍にいたが、目で遊ぶ前で遊んでいるお子ども中心に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員1名は受けて入れをして、残り2名の非常勤職員はそれぞれのコーナーにいた。		見守るスキル、見方を習得して保育にあたっていけるようにする。また、子どもの行動を予測し、見方（座る位置、立ち位置）を考え保育にあたるようにする。	
4562	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		2									2	2	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腰部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	一人ずつ交代で行うようこと。保育士の声掛けや立ち位置に気を付ける。バランスを崩した際も手を伸ばしたし防げるようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(50)回/年		今鉄棒にでも多きいの多夢中なっ子たちが大きくなっている。	日常に握腕や腕をつかむ力や運動取りいける運動の取り組みを入て	1.集団活動中・見守り	ボールが転がってきたり、話しかけたりせ中力を集中力なさない	ボール等が鉄棒エリアに入らないように衝突などを置き安全に気を配った	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒が好きで、お友達にあそんでいた	2.対象児が近くで見ていた	そばにて見守っていたが間もなく、手を伸べて差したが合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者以外は外で子ども遊ん他のもが遊ん様でいる子を見守っていた	鉄棒に慣れて油断あった可能性がある	一人ずつ交代で行うようこと。保育士の声掛けや立ち位置に気を付ける。バランスを崩した際も手を伸ばし防げるようにする。	
4563	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15									3	3	4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	事故防止に向けたクラス環境の対策に向上に環境ありる認識の甘さ	職員間のコミュニケーションの中で共有化。ヒヤリハットなど記録に残し分析を行い、事故への認識、危険に対する予知能力の向上を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	狭い部屋で行った。すぐ前に児がいて、保育士のをさえぎるかたちになってはないか。	運動的なあそびのときの環境を、クラスかり合いを整とであ。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもなくなくんた。	対象児マンとツーの態(対象児と接いた)	、対象児をフォローできる位置にもいたにもかかわらず、対象児がバランス崩し、床に瞬間に差し伸べたし、落ちた方向に目がいき、反対の手がビニールにからんでいることに気づけなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	ひとりはビニールを持ち、もう一人の職員は、他児と一緒にあそびをしていた。距離がとれていたこともあり、すぐにフォローできなかったが、落ちたほうに目が向いていた。	とっさの判断とのミス安全に対する配慮不足	予想される子どもの動きをしっかり把握した上で、安全に配慮しながらあそびを展開していく。	
4564	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35	0	0	0	10	11	14			5	1	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折外顆骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	戸外と室内とがいるため外に出ることが分かれ、子どもたちが動いるため、目を離すことが出ることがあるため、配慮が必要な届いとがまう。	一人、クラスに数問、保育士に入ってもらうに、全体を見ての守っても見ていこう。	1.いつもどおりの様子であった	いつも、元気があり、何事も慌てても行動ても子のため、当日は立つもできにしまった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	年長と一緒に戸外に出る職員、中で支持する年少職員、年少かかっていると職員、加害をされたため職員を加えた職員を子を入る職員を子に入る職員がいた、押しされを飛ばされた他児をたすけるため、加害の子を離れたと次の対象児を押し倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間外保育の年中は年少の年中、年少は担当者が、他児の後ろ全体で、全体を見守っていた。先生は、年少支持の前に向かい合わせで座っていた。	加害児の年思いに気づけず、順番に戸外にでて、苛立ってしまった。また対象児は座っててべ待っていると時に、一人立って前に出ていた。	加害児の気持ちにも気づくとともに、対象者にも座るようにも声掛けて促すべきであった。	
4565	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中		4.3歳児クラス	59	0	0	0	0	0	0	0		4	4	4歳	1.男児			1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕肘関節付近骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2.基準配置	子どもの数が多く、保育士の注意が散漫になる。	危険性の高い遊具に保育士が張り付く。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	子どもの子鉄棒を握力が弱い。	業者による点検記録を、すぐに修繕する。	1.集団活動中・見守り	保育士が複数の職員が他の士に意くある。	運動が出て、保育園が働くことが遊具に頼ることが遊具見守り、責任を自覚を自分で各遊具を使ってをどもすうにする。	3.いつもよって活活でた(理記載)	久しぶり天気で、子どもも達れて、もとも発でい。	4.対象児の動きを見ていなかった	大勢の子どもが運動場で遊んでいた、特定の子に目をとめることが無かった。担当はテイのニンの所にいて、鉄棒の所にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大勢の職員が運動場にでていたため、危険な遊具（総合遊具、回転遊具、ブランコ、鉄棒）の監視ができていなかった。	子どもの数が多く、保育士の注意が散漫になっていた。	危険な遊具、例えばジャングルジム・ブランコ・登り棒・雲梯・総合遊具などにはその遊具を見守る保育士を付けて、怪我の無いように観察する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4566	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	11									3	3	2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	遊ぶ場所により遊び状況に具を確認し、職員同士を掛けがいないと、職員が声合を掛け児童の状況を把握して行う。職員会議今回の知を、同じ今年に周り、事故の様が発生しないようにしていく。又、ガイントドライバーのクリを活用した現状の保育がなるべく確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	前日に雨降り、地面が屋上の員が濡れた場所で拭きとったが、雨水が濡れた場所を滑らないよう可能な限り滑り止めを付けられる。	事前に屋上の状態を確認し、濡れている状況も考慮して実施をする。踊り場は、上の場所にモップを直接置くとなるべく常備しておくようにし、二人以上で安全確認を行う。	1.集団活動中・見守り	遊具を利用する子ども多く、人数制限設けていた。のどもの児童が人が達が、何人が遊ぶかの確認を士で遊ぶ職員同士で周知できていなかった。	遊ぶ子どもに遊び確認し、遊ぶ前に遊びたいと慣れるように、各人に遊具を担当者に対して明確に担当を付け、持ち場を離れないよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時は普段通り落ち着いており、受け入れ時も異常はなかった。月齢が低い為、室内では遊び保育付いて事も、保育士と一緒に遊ぶ事が、特に変化はなかった。牛乳や食事も、食完食し、午睡も落ち着いて眠りに入り、午後の活動になる。	3.対象から離れた児を見ていた	事故現場の遊具についた保育士が、一人で事故場所に対して、他児から滑り台を使いと言われる。本児が坂道を上った状態を確認した場所にあり、3m離れた場所に滑り台と移動をする。他児を補助しながら本児を見守っていたが、滑った際に手を出す事が	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他保育士（2名）は、一人は事故現場の滑り台側に鬼ごっこの為、一人は児が遊んでいた担当職員以外は事故を目撃する事は出来なかった。	担当職員が他児から台滑りを使い話されたに、直ぐに台へ移動しなければ、落ちた際に受け止める事が可能だったかもしれない。	別の職員への声掛けや、対象時の安全が確保できるまで待つように他児へ促すべきだった。	
4567	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス										3	3	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右上前歯亜脱臼	2.自の転・衝によるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	全職員にの対応研修・周知ができていなかった。	マニュアヒヤリハットについて理解できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	テーブルの位置では適切なかった。	テーブルら位置変えに子どもの動線にあった配置にする。	3.個人活動中・見守り	布団の傍にテーブルがあ寝起態と保きの状態切なきには保育環境として適ではなかった。	テーブルを減し、位置を変え、子どもの動線にあった配置にする。	3.いつもより発で活動あった(理由記載)	いつも、気分が高いので、揚して動しいの激で、朝から何度も制止した。	児マンマーンの状態(対象児に接した)	いつも児よりよく動くので、何度も制止し、普段より何度も側で見守るようにした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	いつもよりのその出止せた動く、都度制止させ、言葉がけしてした。	特になし	職員間の連携体制を見直し、しっかり覚醒する見守る。	
4568	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25			6	11	8				2	2	4歳	1.男児	特になし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指骨先骨骨折	2.自の転・衝によるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	職員の気の緩み。	マニュアの再度ルの確認。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	ドアの開閉がしにくかったため修繕したが、滑りがよくなり開閉がしやすくなった為。	事故防止チェックの再点検し、徹底直し、徹底	1.集団活動中・見守り	本児の気がうまく分がうく発散できていなかった。	園児の一分の把握日のを把握しておく。	3.いつもより発で活動あった(理由記載)	興奮の様子で、室内で走り、外に出ようとした。	対象至で対象児の児で近で見た	全体の園児を、見つめ、子の何度も邪魔にならないよう、本児に声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	降園児かと、降園児に声をかけ、送りしていた。	いつも本おおが児の迎え遅く、気うもいため、いつも以上に気持ち高ぶっていた為。	園児の特性を把握し、適切な対応をする。	
4569	令和3年9月30日	1.認可	7.小規模保育事業	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	8		3	5						3	2	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自の転・衝によるの	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置			2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年			1.集団活動中・見守り	安全に遊んでいるか注視する	後ろ向きで移動しない様に注視する	1.いつもどおりの子であった	普段より活発な児である	2.対象至で対象児の児で近で見た	躓きそうなときは注意して促している	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同上		玩具を広げないように援助指導する。後ろ向きに歩き回らない事を指導する	
4570	令和3年9月30日	1.認可	7.小規模保育事業	11	2.午前中		7.異年齢構成	18	3	12	3					6	6	2歳	2.女児	なし		1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	4.玩具・遊等設・設備の安全の備によるも	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	不期研修ではなく、定期的に危機的に管理研修が必要であった。	危機管理定研修の定期開催	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	ピアノの完全固定が不可	設置の仕方（出来る限り安全に、職員設置する）安置に設置する。	1.集団活動中・見守り	会終了後、一斉が動き始めた事も要因。	クラス位で動すべきであった。	3.いつもより発で活動あった(理由記載)	保育士のなかなか声にもな応しにくい状況であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士が入っていたが、当クラスは離れたクラスは離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		それぞれ担当クラスについた為、対象クラスの児クラスの保育士いなかった。	クラス責任もつ当保がををしてする担る育士いなかった。	担当職員から全クラス責任担当保護者をみて依頼するようにえるとそれぞれ担当クラスの児クラスの保育士いなかった。他クラスの対象児への配慮が必要であった。	
4571	令和3年9月30日	1.認可	8.家庭的保育事業	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	1									1	1	2歳	2.女児	事故発生時には病院受診はしておらず、保護者も自然に回復に向かっていると思っていたが、傷跡の治りが悪かったため、保護者が心配になり約3か月後に治るかどうか外科を受診。治らないかもしれないと言われ、さらに1か月後の降園時に「年末に受診し、治らないかもしれないと言われた」ということを保護者より初めて園側が聞く	食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)		2.自の転・衝によるの	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	ケガに対するマニュアルは作成しておらず、職員間ではてすず、間できんんとしていた。	ケガ対応マニュアの作成し、職員間で研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			6.食事(おやつ)中	1.いつもどおりの子であった	いつもは17時のお迎えだが、その日は18時のお迎えで、夕刻のおやつを食べることが出来、食べながらはしゃいでいた	対象児マンとツーンの状態(対象児に接した)	対象児の斜め横に座り、食べるを見守っていたが、椅子からずり落ち、助急に椅子から落ちる事が出来なかった。			対象児が机から少し離れて座っていた為、突然落ち、という事で助ける事が出来なかった。	椅子に座る方時は座り方に注意し、机に出来るだけ引っ付いて座ること。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制												発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4572	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	31						31		5	1	19. 7歳	1. 男児	特に見当たらない	2. 自らの転倒・突よころの衝にるの	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	5. 下肢(足・足指)	右膝上部裂傷	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	現在のマップ作成時の児童メンバーが入れ替わっており、今で、今在の児童にとって安全で安心な意識に自分の少たかなという意識が少たかもしれない。	校庭のハザードマップを再作成する。いるとともに危険な場所や危険な方法を分かりやすく導く。	クラブの主要な遊び場所なので、校庭の遊具は必ず定期的に点検し、不具合があれば学校に対応を要請していく。遊具の使い方のルールについて学校まで確認し、クラブの子どもに遊具の使い方を分かりやすく指導していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	校庭の遊具なので、学校に依存している点検は学校が点検しているので、より十分だった。	校庭は広いが、日によって児童の利用が違い、クラブ外の児童が違う。また、高学年の児童がサッカーやバスケットボールで遊んでいて、近くにいると危険な場合もある。その日の時で、遊ぶ場所や決めて遊びをクラブ児童に指示する必要がある。	1. 集団活動中・見守り	児童の使え方の違う。また、高学年の児童がサッカーやバスケットボールで遊んでいて、近くにいると危険な場合もある。その日の時で、遊ぶ場所や決めてクラブ児童に指示する必要がある。	外遊びのルールの確認（校庭のエリア、バスケゴールの遊び後方の部分の通り抜け禁止、集団下校の徹底、集団活動中の児童への見守り強化	1. いつもどおりの様子であった	動きが早く、落ちきがなく、着きがない。職員多くの話を聞いているが、よくていること時々ある。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた。	整列して行進し校庭に行き、遊びの内容（何をするかこの終了時間を決めて、遊び声を決め、と、開始の掛けた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りのエリアの決担当め、1年生15名に対し2名で校庭全体を見ていた。	外遊び対応予定の職員が、6時間授業で後から合流する2年生のお迎えまでは、遊ぶエリアを少なくし、担当職員が十分対応できるようにする。	2年生の下校を待ってから外遊びに出る、又は、2年生が合流するまでは、遊ぶエリアを少なくし、担当職員が十分対応できるようにする。	
4573	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	34						34		6	3	18. 6歳	2. 女児	–	2. 自らの転倒・突よころの衝にるの	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足首外側靭帯損傷	1. あり	1. 定期的に実施	ミーティング等で	1. 基準以上配置	–	–	1. 定期的に実施	毎週月曜日	1. 定期的に実施	毎週月曜日	1. 定期的に実施	毎日	–	–	1. 集団活動中・見守り	–	–	1. いつもどおりの様子であった	階段を降りていた。	2. 対象児で至近距離で見た	屋外で遊ぶ児童が全体的に見えた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	それぞれ間隔を置いた場所で児童を見ていた。	児童が階段を降り、大人数で降りることがある。	階段の利用について、指導・声掛けを徹底する。	
4574	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	57						57		7	4	19. 7歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置			1. 定期的に実施		1. 定期的に実施	掃除などをし合わせ時に同士で認しあっている。時に確認した、打ちの職員確認	2. 不定期に実施	随時	校門を出たすぐのところが、車止めでもあるスペースになっている。車止めは金属製アーチの高さ５センチほどの。その上に小さい子供と座る安定な位となる。	車の侵入が無く、特段危険性が高い場所ではないので、現状で変更する必要性は低い。子供達には車止めに座らないよう注意をしていく。	7. その他			2. いつもより気がかもなった(理由を記載)	学校が終わり学童へ行くひとまで、学童前のひとつとして、めことの座る危険性など考えず過ごした。中で、体のバランスを崩し転倒した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	学童クラブから離れてしまったため。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童クラブ離れてしまったため。	一人下校中で寄り道をしまった。	下校途中にも対応を誤ると危険につながる場所・モノがあることを子どもたちに伝える。危険を避けるため自分のいる場所や行動に十分注意を払う、また下校時等には余計な寄り道をせず下校するよう子どもたちに伝える。	
4575	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	218						##		18	7	20. 8歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上肢骨折（術式：骨折皮質整復経皮的鋼線固定）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置			1. 定期的に実施	毎日2回（朝、夜）	3. 未実施	遊具無し	1. 定期的に実施	週1回			3. 個人活動中守り	遊びの種類として、鉄棒、のぼり棒、ていん、一輪車、サッカー、鬼ごっこがあり員6名を配置。鉄棒、のぼり棒、うんていは場所が隣り設置が合っているため2名で配置をした。	その日の児童数、配置員数により支援の種類や人数の定めるなど、支援制限を設ける目の遊びの道具の提供目の届く範囲内での遊び	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の上に両手を乗せた状態で座っていたところ、友人に後ろから押され、転落してしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	発生時は、のぼり棒の方向に目を向けていた。近くにいた児童から報告を受け対応。「立ちがれる」を聞いた上、「がか」を聞き当該児童が自身で歩けた室で歩いたので、室内へ戻った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自、担当の遊びの見守りがあった室内へ戻る際は、室内にいた支援員に外にて交代した。	事故発生時は、のぼり棒方に児童が遊び多くんでいたため、そちらに気を取られてしまった。	児童数によって、見守りの支援員を増員する。	
4576	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	24						24		5	4	21. 9歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	捻挫	2. 自らの転倒・突よころの衝にるの	2. なし	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	子どもの起こり得る想定の見直し。ケガの	特になし。	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1		特になし。	1. 集団活動中・見守り	外遊び時、ドッジボールをしていた。		1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びの見守りをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていな	分担して外遊びの見守りをしていた。		通常ドッジボールをする時は、1人支援員が付いている。危険な行動等は注意をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面					人的面								
																											マニュアルの有無	事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
4577	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	134							##		10	4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部挫創	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	2.不定に実施		2.基準配置	事故が発生した際に、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時目視により確認している。	-	特になし	1.集団活動中・見守り	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近くで対象児を見た	児童の側で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
4578	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	146							##		10	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	2.不定に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際に、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時目視により確認している。	-	特になし	1.集団活動中・見守り	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近くで対象児を見た	児童の側で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
4579	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	142							##		10	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎裂傷	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	2.不定に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際に、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時目視により確認している。	-	特になし	1.集団活動中・見守り	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近くで対象児を見た	児童の側で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
4580	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	5.おやつ時(学童)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	112							##		8	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯動揺	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	2.不定に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際に、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時目視により確認している。	-	特になし	1.集団活動中・見守り	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近くで対象児を見た	児童の側で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	全体の見守りの中で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引続き支援を行っていく。	
4581	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	80							80		6	4	23.11歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨及び尺骨の骨折(各1カ所)	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	2.不定に実施	4	2.基準配置	特になし	職員ひとりひとり力の注意力の向上のと、それに伴う児童への声掛け化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	児童の動線や行動の傾向を予測しなのに危険なのには事前場所を設置場所を変える。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の状況に合わせ、職員の経験値を考慮し、各室数の配置数を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいたが、落ち着きがなく、職員の注意を聞けなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広い体育館で児童の人数も多かったため、他の児童も含め、少し離れた所で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	体育館は2名の職員で児童対応を行っていた。他の職員も上記と同様に少し離れた所で見ていた。	特になし	研修以外、日常業務の中でも、随時事故の防止について注意を促す。	
4582	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	104							##		6	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭部内骨折(ヒビ)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定に実施	5	2.基準配置		職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守り		見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見てい	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。		外での活動の際は、特に周囲や児童の動きに注意を払い、声を掛け合って見守りを行う	
4583	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		4	3	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定に実施	5	2.基準配置		職員会議での見守りのポイントの確認	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		器具を使用して運動する際は、使用上の注意事項について再確認する。今回のようにトランポリンを使用する場合は、周囲にひくにマットは厚手更のものを使用するよう周知した。	3.個人活動中・見守り		見守り方法の再確認。アドバイザーによる活動の際は事前に打ち合わせを行う。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	アドバイザー活動だったので、通常の見守りとは違っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	アドバイザー活動だったので、通常の見守りとは違っていた。		職員間で見守り方法の再確認と周知を行う。用具を使用して運動する際は注意事項をよく把握し、正しい使い方をすることを指導・監視し、安全に遊べるようにする。	
4584	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	125							##		4	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定に実施	5	2.基準配置		職員会議でのりのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守り		見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていな	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。		できるだけ多くの目で子どもたちの動きを把握し、危険な個所はないか確認しながら見守りを行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4585	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11							11		4	2	21.9歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折2か所、及び左手首の成長骨のズレ	2.自らの転倒・衝突によるの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	マニュアルの不備による事故予防の不徹底。	・事故予防マニュアルの設定、事故予防の所内研修の定期実施。 ・室内で遊ぶ際の安全確認や、ルールの設定。	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	6	床面が固でたい場所があっため。	床面に緩マットを敷く。	3.個人活動中・見守りあり	片遊び帰宅など各々の室内の範囲で過ごすことが広く活動したことにより、連携して支援できた。	児童が付け帰り、準備で、職員が	職員の仕事と、連携の強化。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児と近児の会話等、他児童の見守り。	対象児と対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の見守りと、片付け・清掃。	職員配置の見直し。	職員が会参加者の発表会の練習、清掃、遊び見守りなどそれぞれがおこなって連携がうまくいかなかった。		
4586	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	151							##		9	7	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		事故予防する関修を行っていないので、今後検討する。	1.定期的に実施	毎回	2.不定期に実施		2.不定期に実施	適時		遊ぶ場所でしかに適しているか検討・提案していく。	1.集団活動中・見守りあり	早帰り期間のため、通常より時間が	遊ぶ時間が長かが事を考え、状況の認識や起こるつもり、念入りにあった。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児動きを見ていなかった	職員が同じ遊びの中で隠れた児から出血ていたため、一度患部を洗い流して、ケガの状況を部屋に行き連れて。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員が部屋に連れて行った後、対応した職員に伝況を、交代する。応急処置、ケガを経過を見ていう。	急転倒めに事故ぐこは難かったが、環境面整備等、注意喚起することが来たと考えられる	木の幹が出ている場所であったため、別の安全な場所で遊ぶように担当職員が提案すべきであった。	
4587	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55							55		3	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指の剥離骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		支援員より児童へボールの取り方の指導を行う	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ボールが硬かった。	ボールの少空気減らす。	1.集団活動中・見守りあり	ボールが硬かった。	ボールの少空気を減らす。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近児を見ていた	集団でドッチボールにて手加減投げもった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至	対象が、ボールを取り損ねていることに気が付いていなかった。	児ボールがりすぎて	ボール空気はいすぎていて硬かった。	用具の状態を使う前に確認する。	
4588	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外保育先・公園等)	8.学童	42							42		3	1	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足首)	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		支援員全員の共有事項としての強化	1.定期的に実施	240	3.未実施		2.不定期に実施	片付けや整理時に確認する		支援員全員の共有事項としての強化	1.集団活動中・見守りあり		帰りの会で下校時に階段の飛び降り、その他危険なとり行動をとらないよう声掛けをしていく	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内あそびの見守	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	外遊びや室内遊びの見守りをした		帰りの会で下校時に階段等の飛び降り、その他危険なと行動をとらない声掛けをしていく	
4589	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8							8		3	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	8.その他	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置		事故や怪我した場合の対処について、職員間で把握・確認を行う。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	小学校敷地内施設につき、小学校教員による点検を実施	2.不定期に実施		屋内環境の安全性について点検し、整理整頓に努め、新たな事故を防ぐ。	3.個人活動中・見守りあり		予測できない児童の動きが、事故や怪我にというこを再認識し、注意深く見る。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近児を見ていた	至近距離にはいが、背後から乗りかかってきたため、すぐに対応することができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の活動を童達の守り行った	動する児童を見ていた	予測できない児童の動きが、事故や怪我に繋がるということを再認識し、注意深く見る。	
4590	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6							6		2	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置	土曜日はグランドが使用できないため、部屋巡りで遊んでいたため。	今後は限られた遊びとする。（鬼ごっこは禁止）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	決められたルールのもとに指導する。	1.いつもどおりの様子であった	本人が鬼になり、タッチしようとした際、自分の足につまずく。	2.対象児の近児を見ていた	見守りはしていたが、自分の足ずきだった手を伸べがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊び児童の保育をしていた。	特になし。	今後は声掛けをしながらもっと注意深く見守る。	
4591	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35							35		3	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		過度に勢いのある遊び方をしていないか常に注意を払う。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48		万が一、滑って遊具がずれるなったりすることがないよう、滑り止めをシート敷く。	1.集団活動中・見守りあり		少しでも感じられる危険がある場合は、本人に危険を気づかせられるよう声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室内のなわとびがだったが、本人の興味あるものではなかったため、空いているスペースでダッシュした。	2.対象児の近児を見ていた	他児のなわとびの様子を見つつ、象児が走る様子を確認し、まさかは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	現場から近い場所で、なわとびの様子を見ていたが、対象児の様子は転ばんだ直後からの確認した。		全ての支援員において、目の前の遊びだけでなく広い範囲の視野を持って見守りができるよう、支援員間の声かけを行う。	
4592	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51							51		5	5	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左肘挫創皮膚びらん	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	夏休み終盤にもタップも集中に欠けるの部分があったのではないか。	子供の状況とともに、タップの体調面の認とともに、タップの体調面のない職員配置に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48		ガラスにシー保護トを貼る。ガラスの張り紙。	4.個人活動中・子どもみ	夏休み中で学童以外の児も出入りし、騒音も多くなり、環境が常に不安定となった。（視覚的、聴覚的）	遊びの空間、コーナーの設置など環境を工夫し、落ち着いて遊べる環境づくり	1.いつもどおりの様子であった	自己コントロールと次にとることの不安なため、危険回避ができにくい。	3.対象児の近児離れたところで対象児を見ていた	走り回る行動については、再三注意を呼び掛けるにはいるが、走ってきたため、すぐに対応することができなかった。また、ガラス窓に突っ込む行動を予測していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の対応にたっての場をできなかった。	本来走りする場所ではなくの発的な動きあった。	遊びの空間を繰り返し伝える。（静的な遊びの空間と	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事												ソフト面										ハード面									環境面			人的面							
			施設・事業所種別						異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4593	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ		12	5. おやつ時（学童）	8. 学童	20						20		4	2	19. 7歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右橈骨骨端損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		研修等により支援員の安全意識向上を図ります。	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施			継続的な安全管理に努めます。	6. 食事(おやつ)中		声かけや注意することなどを指導します。	1. いつもどおりの様子であった	普段どおりの状況でした。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児童への対応、おやつの準備などの中での瞬間の出来事だった。	2. 担当者・対象児の動きを見てい	他児童への対応、おやつの準備などを行っていた。		児童の様子を見て声かけを行い注意を促す。	
4594	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭等)	8. 学童	12						12		3	2	19. 7歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	手首の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		1. 基準以上配置		職員間で事故予防について合いの話し合いを行う。	1. 定期的に実施	50	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	50		今後も定期的に遊具の点検を行う。	玄関ポーチに10cmの段差があり、そこにとブラシで出来たボリューム感のある泥除けをいろ。その泥除けの端に躓いたと思われる。	1. 集団活動中・見守り	泥除けをどけると、その下には雨の日に転倒のあるグレーチングがあり、泥除けは撤去できない。そのため、子どもが走りこまないように注意を呼びかけるという対応をとる。	1. いつもどおりの様子であった	15：30に遊戯場遊びが終了したので、支援員が教室に入るよう促し、全員校舎の玄関に向かった。玄関ポーチまであと10メートル位の所で、児童が急に走り出した。なぜ急に走ったのかは後で尋ねたが理由は自分でもわからないとのこと。	2. 対象至児の近で対象児を見た	転倒した際、手首を内側に折りて激しく手をついたた。手首をなるべく動かさないように、教室に連れ帰りすぐに固定してやした。可能性があると思ったので、10分位様子をみた。手首も自由にくし、腫れてきてもいないので、保護者に連	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ケガを目撃した支援員の児童に対応していた。		支援員の児童への声掛け意識の強化を図る。	
4595	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	60						60		8	3	20. 8歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	4. 上肢（腕・手・手指）	左手首橈骨遠位端部のズレ	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		子どもの運動能力を把握し、危険の予防・予知ができるようにする	1. 定期的に実施		1. 定期的に実施		1. 定期的に実施			学校遊具に特に危険はない改見なし善策は当たらない	1. 集団活動中・見守り	限られたスペースのため、遊具の使用頻度が高い。	遊びの範囲（遊びの選択の幅を広げる（要学校との協議）	1. いつもどおりの様子であった	飛び降りることで危険性の理解が不十分	4. 対象児の動きを見ていなかった	3メートル程度の近くで見守りていたが、遊具の除になった	2. 担当者・対象児の動きを見ていな	自分の見守り範囲を役割をになっていた		遊具の使用方法について説明、飛び降りることの危険性について周知	
4596	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	16						16		2	1	20. 8歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右手小指の骨折	4. 玩具・遊具施設等設・設備の安全の備よるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	怪我をしたその時に気付いていれば、すぐに応急処置できた	児童が自体発的に体調の変異を伝えられるよう環境作りがで必要である。	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施			ボールが硬かった。	やわらかいボールに替え、遊ぶ前に指の体操をする工夫する。	3. 個人活動中・見守り	指導員の対人数に対して、ウンを使う範囲をおかったことがあったとれる	子どもの行動、変化をもっと意深く細部まで見る。指導員と共有スリミーティングをしてクメントについて会議を行う	1. いつもどおりの様子であった	事故が起こったとも思事象のあ思わに遊んだ。	1. 対象児とマンの状態（対象児に接した）	指導員とした、室ぴたあそびしていたは変化なが特に、あ訴えくるくるとかくてくるもとかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当の放課後児童支援員をかけながらそのの全体を握した。		児童の四肢の変化に気付くべきだった	細部まで見守る、一人一人の体調への問いかけをすべきであった	
4597	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	140						##		11	4	21. 9歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		事故防止に関する研修を積極的に受講する。ヒヤリ・ハット事例の収集を行い、必要な対策を職員間で話し合い全体で取り組んでいく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	13	2. 不定期に実施				3. 個人活動中・見守り	脱いだ上靴が揃えられているものがあった。	クラブ室内で脱いだ上靴はきちんと揃え、歩行に影響が出ないよう導くことに、十分気を付けて歩くように伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	他教室からクラブ室に移動していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラブ室に入ってくる事に特に行きたくない子どもの出で、危険な為やトラブルがないか見つめなった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応したいた見ていなかった。		歩くときは足をよく周りをよく見て気を付けて歩くよう繰り返し伝え、指導していく。また、自分で異変を感じたら、近くの職員に訴えるよう指導する。	
4598	令和3年9月30日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	144						##		13	5	20. 8歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	上腕骨顆部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		事故防止に関する研修を積極的に受講する。ヒヤリ・ハット事例の収集を行い、必要な対策を職員間で話し合い全体で取り組んでいく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	13	2. 不定期に実施			つまづき所やすいはないか、危険はなかいか施設つまやはなに施設をしっかり更管理を行っていく。	3. 個人活動中・見守り	室内では履物は指定されていない。怪我上靴を履くよう指導した事は当日は無故故障はなかった。	来館直後の合の込み時間帯は、ホールから教室に向かう通路を見渡せるよう職員配置する。また児童には、センターに来ター室に入ったら必ず靴を履く上ことを徹底し、転倒防止に努める。	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	クラブ室にで一斉で帰った児童の視診や出欠確認をした。児童が通路で転倒した場面を見かった。また、ホールからクラブ室に向かう通路は短い距離のため職員は配置しなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関やそれぞれの教室で帰った児童の視診や出欠確認をしていた。		普段から仲の良い友達とじゃれあったり、追いかけっこをして遊ぶ姿があり、こもいかれるといかの追いかけるうがあったのかもしれない。（本児からの取り扱いの思いがあったのしれない。）と友達からの聞き取りをすると、追いかけはいかっしてはなかったし、児童本人も	室内での追いかけっこは危険であることを繰り返し伝え、指導していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面								ハード面								環境面		人的面								
			施設・事業所種別		時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4599	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50						50		8	5	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置	特になし	集団遊びでは，滑り込み等を伴うプレーの禁止徹底させる必要ことも必要だと考えられる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	56	特になし	今後も安全に心がける	1.集団活動中・見守りあり	体のさに合わせて遊び方や遊戯室を使用して児童が自由に体を動かすには広い十分なスペースとは言えないとも考えられる	遊戯室を利用できない運動の種類を，さらに増やすことを考えるべきかあるかどうか検討する	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールをしていて，コート内に転がったボールをとりに行って，お互いが衝突し合う形になり，お互いが取り込む形でぶつかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コートの両側に一人ずつ職員がついて児童を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事務的な仕事や各部屋にいる児童の活動の見守りをしていた	特になし	特になし	
4600	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37						37		6	6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		1.基以上配置	見守り、声がけの強化。外遊びの際の人員増をを考慮する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	学校の大規模改修のため、遊ぶスペースが限られて状態の子ども達に理解させる必要がある。	外遊びの際は遊具は地面なでやすく滑りやすくなく、安全性を確認する。	1.集団活動中守りり		時々休憩を入れ、落ち着いてあるべべるよう見守りする。	1.いつもどおりの様子であった		出て見をしていたが、追いかけてしばらくそばに遊びの守りをしていたはいなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外に出て見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で子どもたちの遊びの見守り		出来るだけ子ども達の見守り近くで見守りをするように気を付ける。	
4601	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	54						54		3	2	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指(ひび)骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置	サテライト室において、児子童への観察が徹底でていなかった。	サテライト室に限らず、児童館においては、職員は児童対応において、きちんと目を配りとりる対応することを徹底する。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施		対象児はけて回ったり長机の角に手をぶつけてしまった。	机の配置等の安全配慮するとともに、突起の防護等を貼りする。	3.個人活動中・見守りあり	対象児はけて回ったり長机の角に手をぶつけてしまった。	長机の配置等の安全配慮するとともに、突起の防護等を貼りする。	1.いつもどおりの様子であった	始めは友達と談笑しており、その後でふざけて走り回った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守りはしていたが、怪我の瞬間までは見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りはしていたが、怪我の瞬間までは見ていなかった。	サテライト室において、児童への観察が徹底できていなかった。	サテライト室に限らず、児童館においては、職員は児童対応において、きちんと目を配りとりる対応することを徹底する。	
4602	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36						36		3	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置	外での活動の際は児童の動きを見守る人数を配置することを確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		施設外での事故の改善なのため必要はし	1.集団活動中守りり		エリアに分かれて様子を見ていたが、危険の声かけや状況把握を早急に行えるには、見守るエリアの縮小などの改善が必要と感じる	1.いつもどおりの様子あった	数回滑った後の事故。同じようなコースを滑ったので、前側に転倒することは想定できなかった様子。また、楽しさも先行し、安全への配慮は少なかったと見える。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が滑る前に公園内の危険地点は確認したが、実際にそれほどの段差感じはなかったのか。しかしながら、各コースの滑りる自り降り、各降り先等、もすべりロとだ。しなら、コースの降り際、滑りる周りに留意すべきだと頭で喚起。事故発生直後は、エリア俯にいた児童にしたが、他児に応じた対応もいた。	4.対象児を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子にも留意しつつ見守っていた、事故後は、周りの子などに二次被害が出ないよう留意していた。		事故を未然に防ぐため、適宜危険を予想して声掛けを行うなど安全に配慮する。児童への注意喚起や、自身での危険察知へつながるような支援、指導を丁寧に行う。	
4603	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48						–		4	1	–	–		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等から転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	事故事例共有など、様々な可能性を考慮し体制づくりに努める。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	1	3.未実施			今後も引き続き安全点検の実施を継続する。	4.個人活動中・子どものみ		児童だけで行動することのないよう環境づくりに努める。	3.いつもの活発で活動的であった(理由を記載)	周囲の児童に煽られたことで、危険な行為をまねしてしまったと考える。	4.対象児から離れたところで対象児を見ていなかった		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			今後は見守りの徹底、子どもへの注意を必要以上に行う。	
4604	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8						8		3	1	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足甲骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	3.未実施		1.基以上配置	激しい動きではなかったが、室内での遊びは控えるべきだと知、注意を促す。	1.定期的に実施	286	1.定期的に実施	286	1.定期的に実施	286	特に問題なし	特に問題なし	3.個人活動中・見守りあり	お迎え前の児童もで気持ち落ち着いていなかった。	お迎え時間に間なら、遊具や片づけ等をに過ごすように心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	自由時間で他児と遊んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	お迎え前時間の自由の間も対応ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	様子をみていた。	子ども同士で仲よく遊んでいたが、タ方であったため、子ども達も疲れていた。	事故の起きやすい時間帯であったため、もっと子ども達をよくみているべきであった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面						環境面			人的面									
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4605	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	55					55		5	4	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	6	1.基準以上配置	マニュアルにない想定外の事故が起こることも意識し合った話しいや研修の場を設ける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具(スキップジャンプ)の素材がすべりやすいもので、靴下のままでの遊びたりやすい状態だった。内履きを滑らないようにして遊ぶ。	1.集団活動中・見守り		人数や遊び内容により、支援員の人数を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの内容が、縄跳び、フープ、スキップジャンプのそのスキップジャンプでの遊びを選んで遊んでいた。	2.対象児が近で対象児を見ていた	対象児のそばにいて対象児を含めた遊びを見守った。対象児が転んだ瞬間は一緒だったため支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	フラフープで遊ぶ児童守りをしていた対象児の見守や対応をしていなかった。	遊び慣れた遊具だったため事故を想定していなかった。	見守りの職員は想定外の事故なども意識して声をかけたり見守りをする。	
4606	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32					32		8	7	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首ねんざ	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1~2	2.基準配置	体育館で方イとサッカーの試合があり、支援員はコート外で児童の様子を見たり、声掛けをしていた。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	日々	1.定期的に実施	日々	床がすべりやすかったり、上履いないにやきをつけると繋がる。	3.個人活動中・守り	コート外では複数の支援員のが支援をしたはいなかった。	倒れ瞬間は撃し支援員	児童一人ひとりの様子を注意深く見る。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとのトラブルはなく、サッカーの試合をとても楽しんでいる子。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていた対で特に対象児をのみ見ていたかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特に対象児を見ていること、全体的に見ていた。	本児はサッカー試合に熱中する場面があった。	児童のやりたい気持ちを尊重しつつ、怪我に繋がらないよう場面に合わせて注意喚起を行う。	
4607	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	43					43		7	7	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨顆上骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	今年度は、外部講師による安全管理研修を年度末に計画していた。当日は遠足で、施設外にて児童43名を支援員7名と保護者5名で引率していた。	遠足実施に向けて、危険箇所等を含む打ちを事前に複数回行っていたが、事故を受けて再支援員に安全管理の研修を行う。	1.定期的に実施	359	1.定期的に実施	359	1.定期的に実施	52	当日は遠足の当日の該当施設外だった。	当該施設外の特にない。	1.集団活動中・守り	支援員が注意をし、一時的に興奮状態はまったが、後もして室内で普段とりした児童の予測ができていなかった。その蓄積遊園において興奮の状態をきっかけ、リスクマネジメントでいなかった。	1.定期的に実施	怪我や事故が予測される場合、遊び中断して興奮まで待機するつ。危険事ある事を伝え、遊び方の促を遊び変更を促す。	3.いつもり活発で活動的であった(理由記載)	遠足・屋内型遊園地ということで、いつも活発に遊んでいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	遊びを至で見ていたが、支援員の支援位置からは死角があり、当該児童の事故時は見れなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が別でいる場所で、そ支援員の遊んでいた為、ちに向いていた。	支援員は見守っていた位置からは死角があり、当該児童が転倒した瞬間は見ていなかった。	行われている遊びが危険と判断されると、他支援員と連携し、遊ぶ範囲や人数を整理して、児童が安全に遊べるよう、安全に遊べるよう。	
4608	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18					18		4	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	5.他児から害を加えられたもの	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	全体の見守りが不十分だった（全体を見守りをする職のが員はいたが、遊びの準備をしたため目の見落とがおきてしまにしてした）	遊び準備など見守り行かなき届いと思われる場合は、子は達に座つようが徹底する。	1.定期的に実施	日常点検・自主点検表のチェック	3.未実施	未所有のため点検未実施	1.定期的に実施	整理整頓時のチェックなど			1.集団活動中・見守り	支援員が事かのしなが守ほかをしらりたなっ見た	支援員の日の係り当の日を決め徹底する	1.いつもり子であった	遊びをし時意学年に、不高学年に技ら、倒されたにかけれた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	次の活動の準備しながらの見守りだった、瞬時だため、の事を見逃してまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童のトイレの付き添いや、保護者からの連絡の対応にかかり、手薄になっていた	なし	常に子どもたちから目を離さないよう心がけ、遊びの準備など職員なると思わる場合は、子ども達に座って待つよう声かけを徹底する。	
4609	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	57					57		6	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙破折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	室内遊びで禁止されている危ない遊び（相撲）をしてしまった。	室内遊びのルールについて、帰りの会等で児童全員に周知しルールの徹底を図る。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	特になし	今回の事故については、ハード面での問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	特になし	今回の事故については、環境面での問題はなかった。	1.いつもり子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	加害児童A及び被害児童Bの動きを見ていない、他児の宿題を見て、童を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	A室からB室に戻る廊下にいた。	特になし	児童ヘルールの徹底が図れるように指導する。支援員が全体を見渡せるように考慮し支援員を配置する。	
4610	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	90					90		8	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置	事故が発生した際の，事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時		特になし	1.集団活動中・守り		特になし	1.いつもり子であった		2.対象児の近で対象児を見ていた	児童で見ていをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離い	全体で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い，注意を配っていたが事故がこってしまった。	見守りが必要な場面では，引続き支援を行っていく。	
4611	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	5.おやつ時（学童）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	134					##		15	7	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左人差し指剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置	事故が発生した際の，事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時		特になし	1.集団活動中・守り		特になし	2.いつもり子であった		3.対象児の近で対象児を見ていた	児童で見ていをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離い	全体で、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い，注意を配っていたが事故がこってしまった。	見守りが必要な場面では，引続き支援を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
4612	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	5.おやつ時（学童）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	107							##	10	5	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	2.不定期実施		2.基準配置	事故が発生した際の，事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時		特になし	1.集団活動中・見守り		特になし	2.いつもどおりの様子であった		3.対象児の至近で対象児を見た	児童の側で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	全体の見守りで，当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い，注意を配っていたが事故がこっそりと起てしまった。	見守りが必要な場面では，引続き支援を行っていく。	
4613	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122							##	9	4	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	2.不定期実施		2.基準配置	事故が発生した際の，事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時		特になし	1.集団活動中・見守り		特になし	2.いつもどおりの様子であった		3.対象児の至近で対象児を見た	児童の側で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	全体の見守りで，当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い，注意を配っていたが事故がこっそりと起てしまった。	見守りが必要な場面では，引続き支援を行っていく。	
4614	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	91							91	8	6	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折、脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時		施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、危険箇所を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守り		引き続き、屋外での遊びは時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員5名（3名はクラブで待機）が土盛りしており小高く、全体を見渡せる場所で見守りをしていた。トンネルについ気ってのに1度登ろる付き1度は注意をしてやめさせたが、全体を見守り中に再びトンネルに登り、気付いた時には遊具から落下してい	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者と場同様の全体所で見守りを行っていた。		見守り体制については適切に実施してた。	
4615	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4							4	6	4	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指横骨折	3.子も士衝突によるも同の	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	マニュアルは随時改正され、職員間で共有されていたが、活かされていなかった。	状況徹底受診病院等、丁寧に行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	今回の事故は下因は、をたし対応ていない。	1.集団活動中・見守り	見守りしが、をてのが充分なかった。	子供達の様子を観察し、必要な声掛け遊び方変更など積極的に働きかけ	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見た	大縄跳び練習をしていた子供達がいつかりになるありとで、達の供見た上り討とた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋でこどもクラブ対応及び児童館利用者対応を行う。	縄跳び入り方を討することはなったが、両側から跳び方を継続してしまった。	保育をする中でとした場面に遭遇したから、職員報子供達が安全に活動できる方法を検討し、改善策を決定し実行に移すことが必要である。	
4616	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25	6	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自の転倒・突よもの転倒衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置			1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	ゲームにボーム使うボール空気の量が適切なものでありやすいものになっているか。このいも点について確認が十分でもあった不十分な可能性がある。	ゲーム等使用前に空気量の過不足を点検すること。ゲーム使用前に職員が検すること。	1.集団活動中・見守り	タスケと一緒に遊ぶ質の性ん飛ばるやくたをるかるが過ごすが瞬時にするがあ言ムの上、ボールを来たな出ないできボールを十分な体勢が来ていかった。取りか判断が必要る。ルール時	ボールの受け方を普段の遊び指導の中で指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃タスケンを好きな当日心辺り仲の児童ケをしてい校庭で、タスクしてり、中で、良いふとでをした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象も含め、全体を見てました。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離ではなく、対象児も、全体をまんなべ見ていた。	児童段バ普段からケをってたが習っているため、ボールに親しみがあり、その持ちがあるが、ボールにくいボールであの易に出してしまった。	自分の力を過信せず、怪我をしないように遊びいぶことを指導する。	
4617	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	75							75	12	3	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自の転倒・突よもの転倒衝によるの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置			1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施	12			2.集団活動中・子どものみ			1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	集団活動は指導員の付きないため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校は指導員の付きないため。	見つけたらそれを、走ってこよ帰りしていると。	下校の際のルールを再度徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数									教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			事故予防研修					施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
4618	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		2	2	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第5指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置		支援員は室内に2人おり、至近で見ていたが、児童の様子に気付くことができなかったので、これまで以上にに注意し、児童の様子に異常があれば、対応する。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		今回の事故に関しては、特になし。	3.個人活動中・見守りあり		今回の事故に関しは、特になし。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近距離で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			これまで以上に支援員同士で、児童の様子に注意する。	
4619	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	63							63		8	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置		職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり		見守り方確認法の再確	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)古牧小学校の校庭で活動している最中に発生した。	4.対象動児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。		見守りをする際に、全体を見るように気を付ける。また、今回の事故は児童が寒いため手袋をしたまま鉄棒を滑らせたことも原因の一つであると思われるので、遊ぶ際の装備についても確認が必要と思われる。	
4620	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置			1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日			1.集団活動中・見守りあり	ドッジビーという遊びは、狭い範囲で瞬発的に動く要素があるため、接触性のものが生じるといった特徴がある。	遊びの形態に即し、適切なスペース確保が必要なるするがある。	3.いつもより活発活動でした(理由記載)	正月休みが終わり、久しぶりの施設利用であった。普段は外遊びは苦手にしているが、冬休みの宿題が終わった解放感からか、嬉々とした様子で外遊びを行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団で遊んだいたため、その周囲で見守っていた。注意喚起したり、直前に声をかけたりが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童遊びの外遊びを見ていた。	普段からドッジビーを実施しており、これまで事故もなかったため、十分な注意喚起ができていなかった。	集団で遊ぶときは、密集せず、他人との距離感保つよう常に見守り、接触がおきないよう注意喚起する。	
4621	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32							32		5	4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		活動を設定しているフリーの時間だったため、自由にすごすことができない状況だった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48		3.個人活動中・見守りあり	普段から走り出す遊びや突発的な遊びが好きな状況。	一定のルールがあるが、時間のクーリングが必要	3.いつもどおりの様子であった(理由記載)	通常と変わらないように感じられなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている外遊びでも、遊戯室で遊んだ本児にも、遊びも始まったため、切れ目なく見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当場所の職員の児童が本児だったことで、見守りが薄いみが状況になった		子どもの遊びの状況に合わせて見守り人数を増やす等、現場の状況に合わせたあり方を柔軟性のある対応を考え、判断していくこと。また、危険(転倒・衝突)予測される場合は違った遊びに転換していく	
4622	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40							40		4	4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯上、永久歯。前歯のぐらつき	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置		１７時以降の一般来館の児童のみ帰宅可能な児童後クラブの遊戯室で許可が、当日は遊戯室を使用する児童の体育で許可のみ運動時間は通常通りの運動多くなった。この該当児童を把握していなかったことが、当日のよかったことができなかった	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	遊戯室の床が板なっており、硬いとおりでもいる。裸足をしていため、での裸足運動なっている。	毎日に適切な休憩時間を入れる合間をこと、連続して運動は児童の様子を検討していくと。軽度な運動を取り入れて行なう。運動は児童の様子を鑑みてこまた準備をかきこと。	1.集団活動中・見守りあり	支援員2名が見守りとなっていた。生徒は、発生時には気づくことができた。しかし数を加人数、遊び含めての発生能力であること。	ヤリハット等の実施の際に、改善案と検討案を検討。様々な遊びについて、予測される発生を、討然とした危機予測ができるようにしたい。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りでとりかけなかったりわりはなかった。運動量も館内で過度なものになってはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室内で「ドッジボール」を10名程度の児童が楽しんでいた。支援員は2名配置。児童を壁両サイドで挟みこむように見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は、遊戯室2名の他に児童室1名・廊下1名・図書室1名・事務室1名と配置されていたため、本児の怪我発生を目撃は出来なかったが、生後事発務対室にてあった。また保護者を取り、帰り歯科に受診を行った。	遊戯室配置へ支援員がドッジボール審判を行ったが、経験量が少なかったため、危機発生予測の見通しをとることが未熟であった点。	今回の件をうけてヤリハット実施。危機発生予測について確認し合う。また集団運動遊びの際、参加人数を一度精査し、多過ぎるなら定員を設定する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事										ソフト面						ハード面						環境面			人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4623	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	58							58		7	6	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定期実施		2.基準配置	安全管理マニュアルの予防対策の部分の徹底	1.定期的に実施	12	備え付けられている遊具はありません。	1.集団活動中・見守り	2.不定期に実施	ボールが経年劣化し、雨のりのインド分を含んで通常よりボールが上グラ水上重なっていた。	当該ボールの廃棄、ソフトバレーボールの導入。	1.集団活動中・見守り	地面がおれてルが水分を含んでいた。濡れており、ボール状況であった。	ビニールのボールを使用製のものを改善しよう	1.いつもお様で子があった		2.対象至児の近対児象見た	対象児童に声をかけ、冷やすように声をかけるが様子を見たいとのことだので、遊びがきりついてから室内にイを行い子をようの指導員に引きぎをする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のグループの児童の見守りをしていた。		職員の動きに配置や予見や工夫を取り入れる。	
4624	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	12							12		2	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	3.未施		2.基準配置	ミーティングを実施し監視体制や注意点を協議し、児童に対して全に乗、かつ楽しく乗るための指導を実施した。	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	12	学校の工夫を用いるため(作業台6・教室の1)角のある物件が多い。	防止図書室のための安全ガラス等を購入し設置。(今後追加の安全フェンスとポールも購入する)	3.個人活動中・見守り		児童に対する指導や見守り、放課後児童支援員のための強化、そして配置の工夫。	1.いつもお様で子があった	一輪車が得意な児童でとりは難しい後進のをひとしてり、後方の障害物に気づかず衝突した。	4.対象児の動きを見ていなかった	一輪車を利用した児童は4人、4人見守り、全体の守りをしていた児童を直視していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋全体の見守りを実施していたため、当該児童を直視していなかった。	この日は学校の冬休みに入り、普段より利用児童が多くなり、通常の体制時に比べて手薄となった。	事故につながる可能性のある遊びについては、支援員の見守りを強化し、職員配置と児童の活動スペースを工夫したい。	
4625	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42							42		5	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的実施		2.基準配置	体育室のボール遊びの中、補助員1名が活動を見守っていた	職員で、今回起こったことを周知し、思わずことが怪我につながることを認識する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12			1.集団活動中・見守り	遊びに集中する子が狭くまった様子が見られた。	体育室で安全に過ごせるように職員が配置し、都度児童の状況に合わせて声をかけるようにする。	1.いつもお様で子があった	いつも通りブロックで楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	補助員1名が、体育室全体を広く守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員1名は児童対応に従事していた。	終業式があり、解放感あった気持ち高揚していた。	気持ちが高揚したまま遊び始めないように、一度集めて危険を周知し、気持ちを落ち着かせてから遊ぶようにする。	
4626	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	42							42		5	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	3.子も士衝にるの突よも同の	1.あり	1.定期的実施		1.基準以上配置	日々、頻度の多い怪我(擦傷、軽傷、打撲微傷等)はもちろん、頻度は低いが大怪我や対確認識はちろん、知ってできる持っを対処をキルを研鑽日し持ち、さ向上ためにけにる定期的に研修等に参加するよう心がけている。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2		放課後児童クラブは、児童にとっては遊びであり、児童の学校の学習の予習・復習や宿題の時間を設けるなど、学校の学習にとっても、玩具の点検や遊具の安全点検を行うなど、遊び方のルールを守ることや、周囲を見て行動することを指導する。	1.集団活動中・見守り		児童の遊び方を見ている人の多い場所で、一人ひとりの時間をとれる、備品の配置や工夫をして、安全な品を使う。	1.いつもお様で子があった	登園時、健康な様子だった。友達とこの児童とぶつかってしまった。	3.対象児の動きを見ていた	屋外での自由遊びであり、複数の児童の見て、児がし、児がとした怪我の処置を行った後、児童に安静にするよう、保護者へ早めに迎えを依頼した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童が転倒した際、他の児童が転倒した場所で児童を見ていた。転倒した様子を確認していない。		児童が怪我をしたときに対応をすぐにできる、放課後クラブの職員で児童の動きを確認する。怪我をしないように、遊び方や過ごし方について指導していく。	
4627	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	44							44		6	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2.自の転倒・衝突によるの	1.あり	3.未施		1.基準以上配置	他のクラブと合同での活動をするため、職員の基準配置は優先されるものの、子ども数も多く、最低限の意味合いも含まれる。	子どもたちにいろいろなことをさせたい面には、ケガの発生を防ぐ。	2.不定期に実施	3	3.未実施		3.未実施		合同実施したクラブの職員は、子どもたちにあとは、事前の視察や当日の視察を過ごしてのみ、職員の視点から、当日は、バタバタな状況になることは経験のない活動を迎えるとしてのみ、職員は、スケートの上で、子ども同士の安全を配慮しながら、スケートを楽しめるように、初めてのスケート靴を履いた子どもたちが、スケートの上で、転倒しないように、手を繋いだり、スケートの上で、転倒しないように、手を繋いだり、スケートの上で、転倒しないように、手を繋いだり

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4628	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43						43		6	6	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	子どもたちの動きが流動的である	支援員間で守りの見守り配置確認	2.不定期に実施		1.定期的に実施		2.不定期に実施		特になし	ごろか庭のこ子つそ所かころ校ごとなどもづな箇がないお気を付ける	1.集団活動中・見守り	子どもは、遊び中に夢中になると時所を忘れる	安全面に配慮しながら見守る	1.いつもお様子のであった	健康状態に普段と変わった点はなく、友だちと遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	声をしかけていた当児童が転んだ瞬間は見守れていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々の担当場所で、帰りの声かけをした、	他に注意が向いてしまっていたか、きちんと足元を見ていなかった	子どもが自由に危険を回避よりよい遊びできるかけを行う	
4629	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	93						93		8	6	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置	情報共有かは日頃からしているが、ティのミーングでの共有ってしまったなっている部分もあ実際にはこったことを想定した危機管理体制や報連相への緩意識の要因と一つも考え点みのしてられるである。	安全管理について検討する機会をより増やし、職員間で連携がスムーズに取れるように改善し、また職員一人一人の危機管理の意識を高めていく研修の機会も増やしていく検討していくことを計し。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		扉製くてるくてた性いッが使すがでう。	館使際扉をッ開くしがってる事館員が支援付よして体育用は、ストパーてようるう事まっる。支援員がが為、員がにいるにいく。	1.集団活動中・見守り	扉付近の見守り徹底出来ていなかった。	扉を開けたままのにしておくようにコーンで挟むようにペビーストッパーを使用するかの検討をしたが、小学校が扉を止めてきた。扉の対策については小学校と連携を取っていく。	1.いつもお様子のであった	いつも通りに登所した。	4.対象児の動きを見ていなかった	配置が確定するはあっては児童では、支援ないを確実に見ることはできない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ別の集団で保育していたため、、本児がいる体育館に来たには把握が出来ていなかった。	移動しくても支援がかかっ子達の子を支援しっと確認ていなかった。	配置の中に担当扉付近担当をしていくことにしたため、今後もそのようにしていく。	
4630	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	8						8		8	7	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置	–	–	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	–	–	7.その他	–	–	1.いつもお様子のであった	いつも通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	小学校校中の路上で発生したため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	小学校校下路上で発生したため見ていなかった。	ランドセルを背負って等倒がランドセルのさを我にきいて面もある。	登下校の約束（走って登下館しなな（歩いて等）を全体に再度周知させるとともに、ランドセルの中身を軽くする等の改善も検討すべき。	
4631	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	75						75		10	4	19.7歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折肘及び左肘関節内骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		1.基準以上配置	小学校で大きなのがあり、前日ひのがあるもの、できだ過ぎるという過大会がのあっ信があった。	遊びに入る際にルールの確認や動作の確認を行い、安全に最新の作の再確認を行う。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	老朽化のため、やや滑りやすい。大縄跳びは、縄式のものの使用は、縄式の公をしていた。	1.集団活動中・見守り	まだ1年生で経験も浅いため、ミ合足を掛け、タイングがわず、引っ子ども子ども合わせて、早さ長整で調の調の必用さがあった。	ひとりのレベルをめたら、バイスいくもにケガ声掛けて行く。	1.いつもお様子のであった	小学校でも大会をおこなうというなり、多くより回数にチャレンジしたいと持ちきった。	2.対象児で対象児を見ていた	児童厚生員と放課後児童クラブ支援員を回って（小職員）職員）ムが職タ員を回って、職タ員を回って、職タ員を回って、

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4634	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40							40		4	1	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども士衝突による同の突よるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	活部分かな各活動を色々な動屋に活動されて活動するめ、ホール活動は1担当する多職員名で場合が多い。	見守りだけでなく、出しっかりと声かけしっかと注意していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	現在は、ホールのワックス掛けを年に3回(委託業者1回、職員2回)実施している。今後月の2ヵ月度のスワックスと現施掛けも実施している毎日の清掃時の点検を継続おこしない、転倒し追突や防止をしていい。	1.集団活動中・見守り	異学年がいたため、能力に差があり、一つの事柄を考える。	学年ごとに分けて、しっかり見守り、指導していく。	1.いつもお様子あった	久しぶりに会う友達とボーツをするのを楽しみにしていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	体育教員資格を持つ男性職員が1名担当していた。コーナーで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の職員配置状況 学習室1 1名 学習室2 1名 読書室・パソコンルーム 1名	上級生のゴリーになるにつれ、体格に差があるボールの取りがしく激しくなる。	職員が事故なように今を再発しに声を以上かけて、指導していく。	
4635	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育・公園先等)	8.学童	28							28		4	3	22.10歳	1.男児	興味を引くものを見つけると、状況を顧みず約束事等お構いなしに、すぐそれに吸い寄せられるように行ってしまうところがある。	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	3.未施		1.基準以上配置	待つ間、おとなしくおとなの待つを守れていない。	待つ間、ピロティなどで待ったでおとなしくこのだけ学童せるなければ、児童先に連れてくる。							学校の遊具ので学童が点検はしない。		3.個人活動中・見守り	高いところからジャンプした。	この高さからジャンプしたら危ないということをわかるとらせる。	1.いつもお様子もりあった	知っている友達のピロティで、遊具に遊び行った。	4.対象児の見ていた	学級からピロティに来ると本児を見つけ、言葉を交わしたが、そのあとは特にみていなかった。		迎えに行くの時なので、ほかの職員の職員は迎えいない。(ひとりがに行く。)	数週間前から、遊具で遊ぶの大目にしたので、見ていたので、本児のうえ見ていた。	ピロティでくくをおとなしくを守らせる。待つことをしっかり	
4636	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		5	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自の転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	子どもの「平気」という言葉で判断してしまった。	そのときも本人のそのままでいいとも、その後の経過観察をする。	3.未実施		3.未実施		2.不定期に実施		今回は施設の合設や学校の不遊具、おもちゃは関係なかった。	今後、クラブのおもちゃや遊ガ学校のケガない保点検をしよう、保育前の点検、確認する。	1.集団活動中・見守り	迎えまでこの痛がるとが無かったので、支援員が気付かなかった。また、ケガをしたことに気付かなかったのがかったで、記録もなかった。	できるだけ、細かく記録をすることに心掛けする。	1.いつもお様子もりあった	いつも通り、宿題が終わった後、運動場に出んで遊びていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	4名のグループが遊び日頃のプロ(フットボーレス)をするためまった一人の支援員がついた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外は2つのグループで遊んでおりそれぞれ1名の支援員がついた。支援員内で宿題を残りする児童の対応や、次に帰ってくる児童のおやつの準備などをしていた。	子ども4人の小さな集団だったので、一人の支援員で見ていた。	フリーの支援員を配置することで、一人でくよくよしないようにする。	
4637	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32							32		3	1	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども士衝突による同の突よるもの	2.なし	3.未施		1.基準以上配置	子どもの様子を行動、職員が行動の配置を確認しつつ、見守る必要があった。	事故予防マニュアルの作成と日頃から職員が危険とされた場面を危険とされたカ所を伝えい、事故予防のルールを職員間で明確にする必要がある。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	今回の事故は、遊具や施設備内の不具合で起こったものではなかった。	毎日の片付け、掃除の際に施設の遊具内については、危険ではないか確認、改善している。	3.個人活動中・見守り	飛びをしている子どもを馬し子どもと宿題をしている子どもの両方を見ることができる位置にいる職員がいなかった。	室内で遊ぶ子どもの様子を見ながら、コミュニケーションをとる支援員間で、ながるよう必要がある。	1.いつもお様子もりあった	通常通り、来所宿題をしたり、他の児童と突発的に行き、割り込んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児は宿題をしていたため、他児の対応童のお飛びをしていた。児の対応に割り込んだ馬び飛び姿を見ていなかった。対象を他の児童が連れてきたため、状況の確認、ケガへの対応をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応を見て見ていなかった。	馬飛びをしている児童も見ているが必要があった。	子どもたちの活動状況に応じて、各所に支援員等を適切に配置し、職員同士の見守り範囲の確認や連携、声掛けに努める。	
4638	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	57							57		4	3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折(右手中指第一関節)	5.他か危害を加えられたの	1.あり	3.未施		2.基準配置	負けず嫌いにこだわり、すぐ相手に至近距離で、強く投げた。	良く見て、周り手の気持ちを持ちなって、公平な態度で取りよう組む話す。	1.定期的に実施	4	3.未実施		2.不定期に実施		運動場の地面の状態は悪くなかった。		1.集団活動中・見守り	叫嗟のことで、直ぐに対応できなかった。	いやり持ちの気持ちを、公平な態度で取り組む話す。	3.いつもお様子活活発でした(理由を記載)	ドッジボールが得意で好きな為、つい力が入ってしまう。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていな	ドッジボール以外の遊びを見ていた。	叫嗟のことで、直ぐに対応できなかった。	本児が勝ち負けにこだわり、力が入っている時は、笛を吹いて切り替える。	
4639	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		5	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手薬指骨折	2.自の転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未施		2.基準配置	ボール等びの遊びの注意が不足ある前の喚起が十分だった	遊ボール等びの遊びの注意が不足ある前の喚起が十分だった	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	特になし	当該事故において、ハード面に問題がなく、改善策なし。	1.集団活動中・見ん	ボール等びの遊びの注意が不足ある前の喚起が十分だった	見守りの職員が手薄になる時間帯の外遊び内容や見守り方法について、検討する。	1.いつもお様子もりあった	特に目立った行動はなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児童の見ている遊びを見守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距に	近くで他児童の遊びを見守った。	ボール遊び等危険あるボール遊びの前の注意喚起が十分だった	ドッジボールのケガが発生しやすい遊びに対して手見守りを厚くすることを検討していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4640	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33	5	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊等具からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置		職員研修の回数や内容を改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	リスク担当職員だけでなく、その職員が交代で他も安全点検を実し、意識を高めるようにする。	園児用のたの遊具め、高さなど再度確認する。	1.集団活動中・見守り	あ	遊具で遊ぶ時のルールや安全に遊ぶために気などを遊具に指導を徹底する。	1.いつもお様子であった	ごっこ中で、鬼に夢中でいたため、他の鬼に慌てた着地の際、バランスを崩した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2名の職員が外で子ども見守っていた。数名の児童ごとに見ていたが鬼ごっこをしていることは把握していたが、当該の児童の見かけがいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内において、1名は連絡帳等の記入、1名は室内で遊ぶ児童を見守っていた。	-	子供の遊び室内室外で遊ぶ子どもの人数のバランス等を見て、職員の配置を配慮する。	
4641	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29							29	3	2	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第５中足骨骨折	3.子も士衝突によるの同の突よも	2.なし	1.定期的に実施	2.基準配置		今回の事故は不慮の事故であった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		今回の事故については、日頃から危険な箇所や支援員が支援時以外にも意識をして確認をするようにする。	1.集団活動中・見守り	あ	児童のすべて動きを監視することは困難な行動環境を整え安全面に配慮するため、児童に対し自ら危険を予防回避できるように話をした。	1.いつもお様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	低学年の近くにいた児童のみ、遠くから見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の部屋にいた児童を見ていたので、時々、対象児童の様子を見ていた。事故当時は見ていなかった。		児童の様子を注意深く観察し、児童夢中になり活発に行動している際には、支援員もより一層の注意意識を持ち見守る。	
4642	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	79							79	8	6	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第三指骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置			1.定期的に実施	20		遊具なし	1.定期的に実施	20			1.集団活動中・見守り	あ	前の児童に並んだ児童のはて、跳ぶようなスピードやリズムなどが動くなっていたが、学校の他の年とは異なっている。学校も異なる学年集団で行っている。	1.いつもお様子であった	普段学校生で同級生で同士で行っているが、体格も異なる異年齢の子どもたちが実施するという状況を考慮し、子どもの個別の取り組みを踏まえ、動くタイミングの調整をしたり危険な際方の回避の指導等を行う。	進級おめでとう会に向けて練習をしたいことで、欠席子定者が出席に変更になった。しかし、宿題が終わらず、練習開始時刻の１７時を過ぎ１７：３０頃からの練習参加となった。	2.対象至児の近で対児を見ていた	大縄を２名の職員をまわしており、至近距離で跳んでいる児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他での場所を担当していた。	本児は学童から帰りであるため、連級で会発表練習発習にも参加できなかった。当日はやっぱり参きた習機会だが、練習開始から遅れての参加もあり、異年齢集	児童のそれまでの経験や当日の状況を踏まえ、参加する際の注意点を的確に伝えるとともに、練習の進行調整をこまめにいく必要がある。	
4643	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27	2	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	遊具での・遊び方の遊び方のべ注意き点	遊び方に対しての（遊具の使い方等）の再指導	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	児童の好奇心をそれぞれ見ており、また加ていた遊びわった	遊びの最遊び方掛中での具使い声掛へのけ	1.集団活動中・見守り	あ	児童の遊びへの配慮が必要	戸外遊び児の際の童への関方へわりの配慮	1.いつもお様子であった	ごっこをした際にとっさに逃げとした動倒れ込んだ際に足重かまった	4.対象児を見ていた	戸外にて児童の遊び他の遊び加、見ていた為見守り行った範囲はいが、鬼ごっこは参加していなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外にて児童の遊びに見守りを行っていた	鬼ごっこ等のアクティブな遊びへの配慮	遊びに一緒に参加する	
4644	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21	3	3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	12.基準以上配置		児童は遊びたい気持ちがはやり過ぎる面があるので、常に一人に声掛けをしていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1		所が平坦なだった。躓いた。	1.集団活動中・見守り	あ		ソフト面に同じ	1.いつもお様子であった	先に行っている児童かけて走って行った。	4.対象児を見ていた	一定の子供たち先に遊び場に、一人指導員は行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかっ	他の2名の指導員は残りの児童の宿題や室内遊びに対応中		ソフト面に同じ	
4645	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	17							17	3	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折、捻挫	1.遊等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	当該児のいた支援員校が小学先生とおりがらく供の付近の間子に関われていなかった。	電話対応が長くなる場合は、可能あれば閉所後に電話をクラブに電話をする、見守りが薄にならないよう配慮していく。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	数回	2.不定期に実施	数回	小雨がっていた芝がらついた易きていた山石のある箇所だったため、バランスを崩しやすいことが考えられる。	公園の遊具、施設について、遊ぶ前の支援員よりの確認を共ありしっかと行い、注意する点があれば児童へ伝えていく。	1.集団活動中・見守り	あ	当該児に気付いて合う子人が遊びにおつって合う二人の一動ていたとのに他ので行動に夢中になり、児童と一緒に行動できなかった。	一人の支援員が電話等対応中の場合には、もう一人が認児を行い人数確認をして童全員引率して行動することを徹底する。	1.いつもお様子であった	健康面では元気で、遊びに夢中なあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	電話対応していたが、児童の「痛い」という声と様子を確認をし、電話を中断して足の確認、移動の合の確認、移動していた児童クラブに支援員を呼び児童クラブへと運び応急室へと応急処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を引率してクラブ室へ移動した。	令和元年度に家庭で遊びを含めて複数回骨折している児童であり、骨折しやすい体質であることが考えられる。	当該児に怪我の防止の呼びかけや遊び方が危険にならないよう注意をするため、頻繁に声掛けを見守っている。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面									ハード面								環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4646	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24							24		4	4	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	外傷性くも膜下出血	5.他から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	11	1.基準以上配置	マニュアル類似の事例はあったが、今回の戸棚にぶつかる事故は、予測できなかった。	日常のミーティングや、支援員会議の中で、多くの事例研修を行う。	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	毎回	戸棚角の部分の保護がなかった。	戸棚角の保護用具を取り付ける。	1.集団活動中・見守り	他の児童が、座っていて児の動を飛び越えて、自席につうとしたために起こった。	他の児童がいる場合は、児童のまたがず、迂回してか、に声をかけるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	学習しようかどうか考えていただ、取り掛からずに座っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見所で渡せる児童を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離い	学習時間であり、個別に対応した。	特になし	個別対応をしている支援員も、常日頃に全体にに配るように心がける。	
4647	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		3	2	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	子供たちが動きにフリーになる活動の「おにごっこ」のため、衝突が遊び起こる中で活動だった。	おにごっこ時の職員の見守り人数を増やす。環境設定の強化。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48		落ち着いて遊べる遊び増加・場所の設定・コーナーの増加等の環境作り。	3.個人活動中・見守り		見守り人数の強化。参加人数の調整。グループ分けをして、少人数で行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	通常と変様わった様子は感じなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	個別では全体守りをしながら活動の見守りを指揮をていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当場所の職員のみが活動を見守る状況だったことで、結果的に見守りが薄い状況になっていた。		おにごっこの活動時は見守り人数を増やす。危険な行動（転倒・衝突）があった場合の家庭への連絡や翌日の確認の徹底。	
4648	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		2	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2~3	1.基準以上配置		事故との関連無し	2.不定期に実施	10~12	2.不定期に実施	10~12	2.不定期に実施	10~12		事故との関連無し	1.集団活動中・見守り		外遊び中に植え込みの除の事故のため、今後は植え込みなどを避けた遊び範囲で遊ばせるなど場所の指定を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊び中に子供たちを各箇所にて見ていた。本児での近くも見守っていたが、転ぶ場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの集団または個人を見ていた		植え込み付近など危険なところで遊ばせないよう注意して見守る。	
4649	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71							71		7	5	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の中指、薬指の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		児童には、平らな場所で一輪車を使用するよう指導し、児童に厚生員にも注意深く児童の様子を見守るよう指導する。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	12			1.集団活動中・見守り		滑り台の周りは段差がある児童には、平らな場所で一輪車を使用するよう指導し、児童厚生員にも段差のない所で一輪車をさせるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車が好きな子もいつもで一輪車を友達と乗んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	館庭に、子どもがら20人くらいたの対象児童を見ていたわけではないが、転倒は分かった。駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気になる子がいたため、その児童の対応をしていた。			
4650	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		5	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩の若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	100	2.基準配置	当該児童が一輪車のアイドリングにバランスを崩した際に、手を掴まれるがなく、転倒を防げなかった。	万が一バランスを崩しても、手を伸ばして転倒を防げるよう、アイドリングを児童の登り棒の近くに置くよう、支援員も見ようにする。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	52	3.未実施	0	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	広範囲の見守りを必要とする状況下において、職員の見守り体制（配置）等を工夫し、児童の転倒等による事故発生の可能性を予見し、児童に対し注意するよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	健康面等、普段と変わった様子は特になく、友達3人と一輪車で遊んでいた。アイドリング習中に、バランスを崩して後ろに転倒したもの。	2.対象児で対象児の近で対象児を見た	支援員の1人すぐ近くで児童を見守っていたが、瞬の間の出来事だったので事故の発生は防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い校庭内で児童の外遊びをしていたため、職員も分全に見渡しながらの児童の見守っていた。	当該児童の近くで見守りをしていながら、当該児童の生げかったので、児童へ声掛けや安全の配慮が分であった。	外遊びの際は、ケガ・事故等が発生する可能性が高いので、職員もその危険性を再認識し、職員の留意しながら、児童に対し注意を促すなどして、児童のケガを未然にに防げるように努める。	
4651	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	5.おやつ時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	66							66		9	8	20.8歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指刺離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置		児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.定期的に実施	44	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	44		安全点検に努め危険箇所を発見し、修繕等を行なっていく。	1.集団活動中・見守り		児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	おやつの時、座ろうとして右手床に中指を突いて負傷した。	2.対象児で対象児の近で対象児を見た	館内で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至	遊戯室やクラブ室児童クでの見守っていた。		偶発的な事故を防止し日頃から注意を徹底する。	
4652	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		3	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	特になし	事故発生時の振り返りを含め、事故予防に関する研修を適宜実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	遊具等の安全点検については定期的に実施しており、今後も継続し、必要に応じて修繕等を行う。	1.集団活動中・見守り	特になし	自由時間に見守りの際の立ち位置、目配り等について再度確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	宿題を終えた後、いつも使っていて遊ぶなどもぬ遊ぶいつもと変わらぬ様子であった。	4.対象児で動きを見ていなかった	事故発生時、外遊びをしていた児童とサッカーをしており、対象児童が落下するところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設内で児童の対応していたが、見ていなかった。	周辺状況を把握し、遊具の使用に注意する際意ようすなどの対応が分でなかった。	自由時間に見守りを実施中、周囲の状況をよく把握し、児童に注視するよう指導を徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要			発生時		発生場所	発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
										異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面			人的面						
			施設・事業所種別	事故発生時				発生の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4653	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	90							90		11	9	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	5	2.基準配置	友話がらて壁は注意がなかった。とだちをしていた。ふざけ歩いた。	児童プ全体廊下らないの周徹底した。角に安全クラに安全を走等ルールの知を壁のカバーを貼った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	提供する時	1.定期的に実施	毎日	他児童が廊下で遊ぶ時に、寝転んだりする。	廊下では遊ばない遊ことを繰り返し伝える。安全カバーをつけてはいるが、更に注意する周知する。	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に登館し、他児と遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	普段と変わらない様子だった。廊下を走った声をかけた角に壁のかつのはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応や他の部屋の守り等で、常時廊下を見ていなかった。	壁を蹴ったり、高い所に上がろうとしたり、他児や上の児童真似しようとして、自分の力ついていないことがある。	他児が、危ないことを時には注意することは真いこと、ことは真いい似しないことを繰り返し伝えていく。	
4654	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	67							67		20	15	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	2.不定期実施	5	1.基準以上配置	—	ヒヤリハットに意識し事故発生に常に防止に心がけ子防にる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	—	児童が怪我をするもしない危険個所を点検する。	1.集団活動中・見守り	—	日頃から危険個所について、子どもに注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気良く、体調不良はなく見られなかった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	館庭のボール遊び、縄跳び等の子どもに加え対象児を含め鬼ごっこ中のグループ全体を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの部屋を見ていた中で、対象児は見ていなかった。	—	走り回る子ども達も、注意喚起しながら見守りができるように心掛ける。	
4655	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		4	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	2.自の転倒・衝突よるの	2.なし	1.定期的に実施	数回	1.基準以上配置		指導員が見て危険性があると思ったことは積極的に注意喚起していく。	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	良く利用させても中庭の地面がさらに固いので、全力疾走や遊び方など気を付ける。	1.集団活動中・見守り		焦らず余裕をもって行動できるよう声掛けしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友達の名前を呼びながら元気に走って学童に戻ろうとしていた。	2.対象児の室近で対象児を見ていた	転び方が危険だったため、対象児すぐに対象児の体をチェック。手首が変形していた。他の子どもが変形していた他の子どもを不安にさせないように冷静に指導員間で連絡を取り、救急車を呼んだ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった				職員配置は足りていると思われる。事故後の行動も迅速に連携できた。	
4656	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		2	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		遊びに入る前に、準備運動や転んだ際のつき方の確認を行う	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2		普段通りの環境で遊びを行っていたため、ハード面における改善点は特に見受けられなかった。	1.集団活動中・見守り		普段通りの環境で遊びを行っていたため、環境面における改善点は特に見受けられなかった。	1.いつもどおりの様子であった	ボールをしていた際に、左肘を強く打ち付けた	2.対象児の室近で対象児を見ていた	こどもたちの動きに注視しながら、密集時等のケガを防止するため、随時声かけを行いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1フロアで1つの遊びを行っていたため、他の職員は別の児童のをしていた		ボールを追いかける際等、声かけを強化していく。	
4657	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	89							89		8	4	22.10歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨骨基節骨折	2.自の転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	16	2.基準配置		スタッフで、見間守りの際はボールの投げ方、受け取り方の指導も行うように合った。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日			1.集団活動中・見守り		準備運動は指先まで入念に行う。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び前に準備運動を行い、対象児は普段通りのだった。	2.対象児の近で対象児を見た	近くにいた支援員がすぐに駆けつけ、患部を確認。対象児は訴えていた痛みをこらえので室内へ戻り患部を冷やした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童全体の動きを、通常の職員配置で見守りをしていた。		全児童集合時に、外遊び前外遊び中に痛みや体調不良を感じた際はスタッフにすぐに知らせるよう注意喚起をした。	
4658	令和3年9月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	3	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	1									1	0	4.3か月	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		職員配置数は充分であったが、当該保育士でなく、子育ての当該園児とのホワイエ空間に乳児し、自分の頭とりとなっていた。対分より高くたかいたかしてしまった。園内の危険個所の確認は頻繁に行っていたが、浅い子育て支援に対	保育士以外は1:1の空間にならないようにする。（現在は保育士のみで対応）各種マニュアルを再整備、研修での読み等合わせ等を実施。毎日ブリーングを実施し、園児の状況等を共有。今回に振り返りの事故に振り返り他園事故例の研修を定期的に実施することした	2.不定期に実施	6回／年	2.不定期に実施	毎日の掃除の確認	1.定期的に実施	毎日のお拭きもちゃの際に確認			4.個人活動中・子どものみ	1対1ではあったが、保育士では職員だった。（子育て支援員）当該職員は、何と泣きが泣き止ませないまと無いた。	子どもがま泣き止ない場合は、保育者は子育てのフォローをより寄ていく。	2.いつもより元気なかった(理由記載)	午前中は普段より寝て普段よりよく多少機嫌悪いに感じた。	1.対象児マンツーマン状態（対象児に接していた）	園内のエントランス（どこの部屋からも通じている）で愚図ったお子様が泣いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で午睡につい入っていた。又、休憩に入っている職員もいた。	・目が離わだ時子どもが泣けるけもくなど、他の保育士に比べ等抱いて感じている様子。他の職員に頼ることができなかった。・当該職員が事故の報告を怠り、延長シの確認にも虚偽の報告を行った	・子育て支援員は1:1の空間にならないようにする。保育士を2名増員。日々、ブリーングを実施し、保育従事者として責任を持ち、お子様の安全第一の対応が取れるようにする。・不自然な音や懸念がのがあった場合は、防犯カメラをすぐ確認し、状況の把握を行うとともに、不用意な動きのはん制とす	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
4659	令和3年9月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	26								8	7	9.8か月	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	軟口蓋裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上不備によるもの	1.あり	3.未施	2.基準配置	事故発生時も玩具の選別や破棄を行っている最中であったが、しかし、すべての取り上げてしまうことで、遊ぶものが少なくなってしまうことを憂慮し、本児が遊んで玩具がいに関しては中で使う安全に関しては中の全ようしが一瞬のゆるみが気のみにつな	・玩具の選別・各クラス、年齢、発達に応じた提供に玩具の徹底	2.不定期に実施	1.定期的に実施	1.定期的に実施	1.2歳児に適した玩具が混在していて形状や玩具も遊ぶ玩具と共有していたが要因として挙げられる。0歳児のお子様は特に注意が必要である。	・危険な棒状、先端が尖ったものの破棄する。・合同保育の際に、使用するスタッフが視覚的に分かるように共有する。	環境的な問題で言えば、0歳児クラスはいい方だが、他児では遊び道具や他児の月齢のかなりあるので、同じ環境内でしかも遊ぶにくいもより一層の注意が必要だった。	環境構成に問題がなかったとしても、さまざまな要因が重なって起こる事故を再発防止のため、一層の環境構成の安全化に務める。	1.いつもりのお子様であった	うつぶせ状態やすい、座位も安定しないまだ安定しないくらい段階。動きは活発で行動的。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児の発達状況を考慮したうえで、保育士の膝元に本児を位置していたが、子どもの見守りを行いながら看護師と玩具についての討議などをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の見守りを行いながら、保育士と玩具について討議などをしていた。	クラス全体の動きを把握するうえで、お互いの位置や向きなどは頃意識していた子、どもを抱い膝に座えていた状態のでのわりなど改意識し必要がある。	見守りと討議の場は分けるべきであった。どうしてもその一瞬の気分の緩みが今回の事故に繋がった要因はいい。そのためにもチェックリストを作成し、定期的な危険な箇所や行動を検討する場を月例の会議として設ける。	
4660	令和3年9月30日	1.2.認可外	17.地方単独保育施設	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)		2								2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	8.その他	1.あり	2.不期に実施	1.基準以上配置	危機管理マニュアルに関する研修が活かされていなかった。	危機管理マニュアルの活用。事故予防に関する研修の施をさらに強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2.不定期に実施	実施頻度(回/年)	2.不定期に実施	実施頻度(回/年)	園外保育の活動内容、用具、備品等の確認。	園外活動における安全を行うために指導する。		個別の状況を把握しきれない所があった。	動作容易に遊びを行う様指導する。	1.いつもりのお子様であった	慎重に作業に取り組んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が順調に作業に取り組んでいた為、他児の指導に当っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった。	本児が順調に作業をした為、範囲を守る。	本児の安全を図るためには、至近で見べき守るきだった。	初期対応が適切に行動出来るよう再度確認し再発防止に取り組む。職員の意識向上に向けて、日頃から意識改善を行う。	
4661	令和3年9月30日	1.2.認可外	18.その他の認可外保育施設	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28	6	7	5	3	3	4		5	3	2歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・突よるもの	1.あり	2.不期に実施	2.基準配置	カラーボールにの対し危険意識が持っていなかった。会社マニュアルは行事に関しての部分は想定ていなかった。	普段何気なく使っている物でも1歩間違えば危険ということを職員に知らせる。クトでは会報告、ボールでの骨折例として伝えた。	1.定期的に実施	実施頻度(その他回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	退治ポーズ用のルが散乱してしまった	・物が落ちており、散乱とするのを片付けながら拾いつけ、足元の安全をする。	1.集団活動中・見守りあり	・節分行事で全園児、職員、保護者が一つの部屋に集まり、室内が狭く人が密集していた。	・参加対象年齢、人数、部屋の広さにあった活動内容にする。・行事や活動の際は、スペースを確保する。	3.いつもも活発で動的であった(理由記載)	普段とは違う様子を見せ、部屋を走ったりしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	節分会に本児の様子を見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児のくにいた際も見た様子を見ていた。(1名)	保護者参加イベントであるが、そわそわしているようにみられた。	行事等、日頃と違う環境の時は子どもたちも高揚するので、個々の状況を把握し、職員同士連携をとり安全に参加できるようにする。	
4662	令和3年9月30日	1.2.認可外	18.その他の認可外保育施設	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11		1	2	3	1	4		3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・突よるもの	1.あり	2.不期に実施	1.基準以上配置		遊具の安全な使いかた方について細検討し、職員に徹底する。子どもにもすく説明し、見守りに声をかけ子どもの注意を促す。保護者にも安全な遊び方を伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(3回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(約200)回/年		子どもが中で怪我をする事故に繋がる原因は都度除去、再発よるその取りのないようにすき。	1.集団活動中・見守りあり		1人で跳ぶとき、複数で跳ぶときの違いを把握して、複数ではお互いを見ながらぶつからないように相手の動きをなどを見ながらしく跳ぶこと、1,2歳児と3～5歳児は一緒に跳ばないこと。必ず保育者が近くで見守ること。	1.いつもりのお子様であった	朝からと元気にて登園し、外で転車や鬼ごっこなどし、自りごとで遊ぶ。昼食弁当もの全部食べる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が友達と2人トランポリンに跳び上り、他のを上の児をおんぶ状態で3メートルぶつかるのぐらいのところを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいたが、その瞬間は見ていなかった。		子どもがトランポリンを跳ぶときは、必ず保育者が傍にいて子どもたちの状態を見ながらすぐに動けるようにしておく。また常に声をかけ、子どもたちの注意を促す。	
4663	令和3年9月30日	1.2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	3								1	1	3歳	1.男児	発育良好、体重17kg、活発	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・突よるもの			1.基準以上配置	研修内容が活用されなかった。	研修以外に職員会議やミーティングなどで常に安全対策を確認する。		実施頻度(1回/年)		実施頻度(12回/年)		実施頻度(12回/年)	部屋の一角に押入れがある構造上の問題	部屋の構造を理解し、壁や離れた空間で常に遊ばせる。	1.集団活動中・見守りあり	ごっこで他びなくはの遊びの誘導すべきだった。	環境に適した遊びを提供の常に行う。	3.いつもも活発で動的であった(理由記載)	保育園近くも当日は雨天で戸外活動ができず、室内で活発に動いた。	2.対象児の近で対象児を見た	担当保育士は近くにいたが、該児童の動きが定できめっなった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の保育室で中だった。	戸外活動がすべて活動できず、体有り余っていると定保育できなかった。	戸外活動が日中できない広い保育室には、央利用しマット遊びや体操など身体を動かし発散できる活動を取り入れる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
			施設・事業所種別	月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																	理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
4664	令和3年9月30日	1.2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	1								1	1	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨、右腓骨の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下				実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年			3.個人活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	普段は食事前の外活動だが、この日は食後に行った。	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	靴が引っ掛からないよう足でガードし、手摺を滑らせながら握ったが、急にストップがかかった為、保育士自身支えきれずバランスを崩してしまった。			滑り降りるスピードが本児のイメージより早くなった可能性がある。	普段出来ていることでも服装やコンディション等で変化することを考慮した保育活動をしていく。	